鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(121)

中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅲ)

上水流遺跡2

古墳時代から近世編

(南さつま市金峰町)

2008年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



上空から見た上水流遺跡（北東から万之瀬川下流方向を見る）

図版2



①３号住居出土



② ①の脚部接合面の状況



③10号住居出土

３・10号住居出土の須恵器



礫積遺構検出状況

図版4



①中国産青花



②ベトナム陶器

中国産青花・ベトナム陶器

序　文

この報告書は，万之瀬川の河川改修事業に伴って，平成12年度及び15年度から17年度にかけて実施した南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する上水流遺跡の発掘調査の記録（古墳時代から近世編）です。上水流遺跡の記録としては２冊目となるものです。

本報告でも多くの成果を紹介していますが，その中で特に古墳時代と中世後半～江戸時代前半において重要な発見がありました。

古墳時代では，11軒もの竪穴住居跡が発見されていますが，特にこの竪穴住居跡の中から発見された把手付鉢・器台などの初期の須恵器は新聞報道もなされるなど注目されています。

また，大型溝状遺構からは，17世紀を中心とした大量の陶器・磁器が出土しています。これらの遺物は，中国・東南アジア産のものと，国内産のものに大別されます。その中でも特に，日置市東市来町美山に所在した堂平窯跡で焼かれたとみられる初期の薩摩焼が注目されています。

これらの資料は，県内でも重要な資料の一つです。今後の県内における調査・研究に大きな役割を果たすものとなるでしょう。

本報告書が，県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心と御理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査にあたりご協力をいただいた鹿児島地域振興局（旧加世田土木事務所），南さつま市教育委員会並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

平成20年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　宮　原　景　信

報　告　書　抄　録

ふりがな	かみづる　いせき
書　　名	上水流遺跡　2
副 書 名	中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅲ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	１２１
編著者名	溝口学・東郷克利・森雄二・抜水茂樹・富山孝一・黒川忠広・上床　真
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番１号　TEL 0995-48-5811
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　緯	調査期間	調査面積	調査起因
かみづるいせき 上水流遺跡	かごしまけんみなみ 鹿児島県南さつ しきんぽうちょうあざかみ ま市金峰町字上 づ　る　あざもりやま 水流・字森山	462209	35-98	31° 25′ 02″	130° 20′ 22″	20000424 ～ 20010329 20030809 ～ 20040319 20040514 ～ 20050204 20050509 ～ 20050928	15,500㎡	中小河川改修 （万之瀬川）

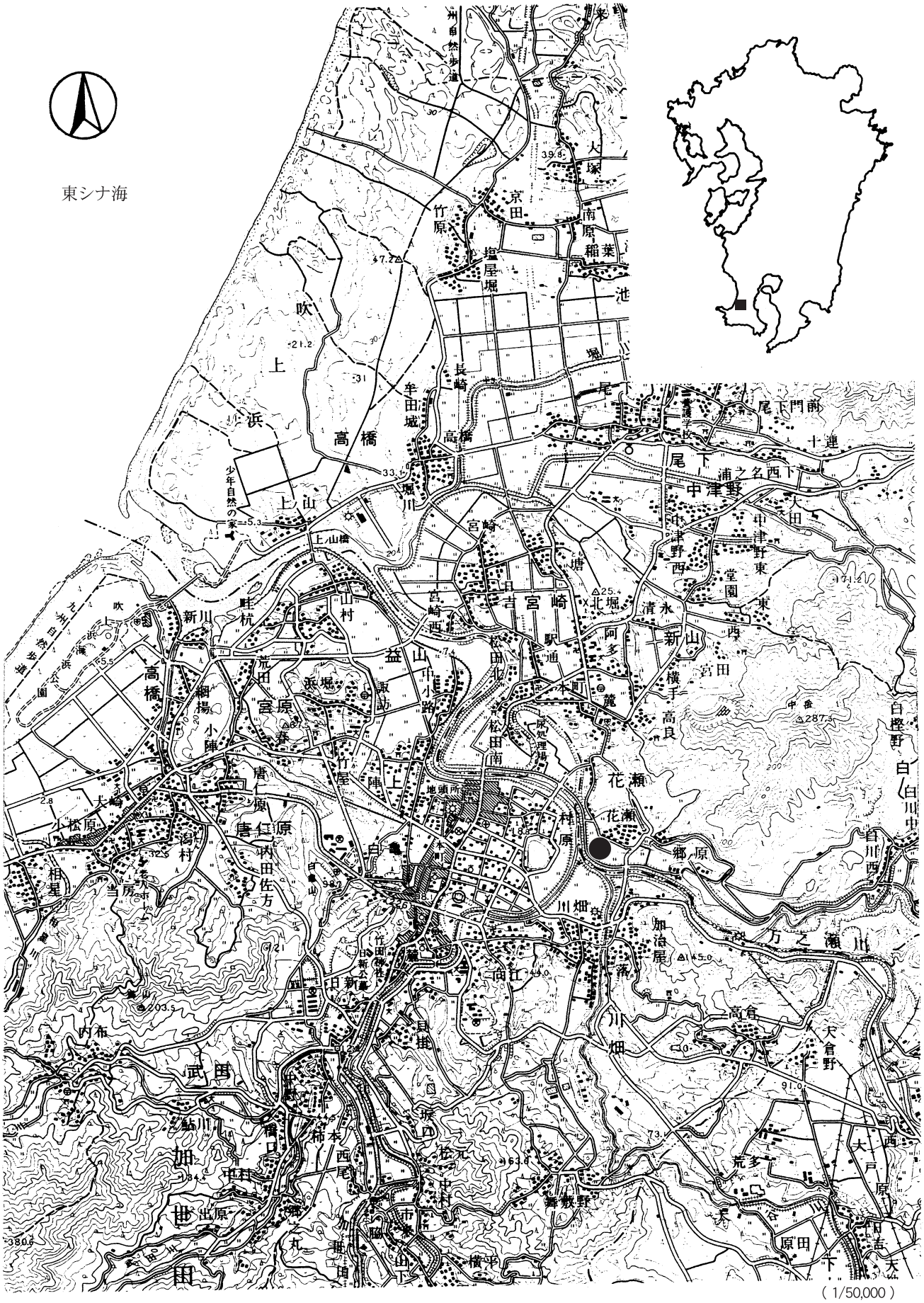
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上水流遺跡	集落遺跡	古墳時代	竪穴住居跡　11軒 土坑　1基 埋納ピット　2基 礫集積　1基 焼土　1基	中津野式土器・辻堂原式土器・笹貫式土器・古式須恵器・ミニチュア土器・土製品・勾玉・管玉・鉄製摘鎌	古式須恵器の把手付鉢・器台が竪穴住居内から出土した。
		古代		土師器・須恵器・緑釉陶器	
		中・近世	掘立柱建物跡　31棟 竪穴建物跡　2棟 大型土坑　6基 大型溝状遺構 1条 溝状遺構　34条 塚状遺構　1基 帯状硬化面　2条 土坑墓　18基 （骨のみを含む） 炉状遺構　20基 土坑　134基 畝間状遺構 畦状遺構 鍛冶炉 土器埋納遺構 礫積遺構　5基	土師器・須恵器・カムィヤキ・瓦質土器・染付・青花・薩摩焼（堂平窯・苗代川系・竜門司系含む）・輸入陶磁器（東南アジア系含む）・土錘・砥石・石硯・鉄器・鉄滓・ガラス玉・軽石製品・石塔・銭貨・人骨・炭化桃核・ヤマトシジミ	大溝から多くの土器・陶磁器が出土した。 ピット内から貝殻（ヤマトシジミ）が出土した。 古銭では永楽通宝の過半数が加治木銭である。

遺跡の概要

上水流遺跡では，縄文時代前期から近世にかけての遺構・遺物が発見されている。今回の報告は，古墳時代から近世について行う。

古墳時代では，11軒の竪穴住居跡が発見された。これに伴って，古式須恵器の器台・把手付鉢・瓶などや，県内では類例の少ない鉄製の摘鎌が発見された。

中・近世では，大溝（大型溝状遺構）から出土した16・17世紀を中心とした大量の陶器・磁器が注目される。これらの遺物は，中国・朝鮮・東南アジア産のものと国内産のものに大別される。国内産のものの中には，初期の薩摩焼窯である堂平窯で生産されたとみられるものも多くあり，この時期の流通を考えるうえで重要である。



上水流遺跡の位置図

例　言

1　本書は，中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う上水流遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は，鹿児島県南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）花瀬に所在する。

3　発掘調査及び報告書作成（整理作業）は，県土木部河川課から鹿児島県教育委員会が依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。

4　発掘調査は，平成12年４月24日～平成13年３月29日，平成15年８月９日～平成16年３月19日，平成16年５月14日～平成17年２月４日，平成17年５月９日～９月28日にかけて実施し，整理作業・報告書作成は平成17年度・平成18年度・平成19年度に実施した。

5　遺物番号は，各遺構や包含層別の通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

6　挿図の縮尺は，各図面に示した。

7　本書で用いたレベル数値は，県土木部が提示した工事計画図面に基づく海抜絶対高である。

8　発掘調査における図面の作成，写真の撮影は，各年度の調査担当者が行った。空中写真撮影は，有限会社ふじた，有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

9　遺構実測図のトレースは，整理作業員の協力を得て黒川忠広・上床真が行った。

10　土器・陶磁器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て溝口学・抜水茂樹・黒川・上床が行った。

11　石器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て溝口・抜水が行い，一部は，株式会社埋蔵文化財サポートシステム，株式会社九州文化財研究所，株式会社アイシン精機に委託し，監修は溝口・上床が行った。

12　自然科学分析は，株式会社パリノ・サーヴェイ，株式会社パレオ・ラボに委託した。

13　遺物の写真撮影は，第３章関連を黒川が，その他を上床が行った。

14　本書の編集は，上床が担当し，執筆の分担は次のとおりである。

第１章・・上床　真
第２章・・上床　真
第３章・・黒川忠広
第４章・・上床　真
第５章　第１節⑴～第３節⑵・第３節⑷～⑻・第３節（10）（11）・・・・・・・上床　真
　　第３節（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・抜水茂樹
　　第３節（９）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・溝口　学
第６章・・・各文頭に記載
第７章・・・各節末に記載
付編・・森村健一・竹中正巳

15　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用する予定である。なお，上水流遺跡の遺物注記の略号は「ＫＭＺ」，「ＫＺ」である。

本文目次

巻頭図版
序文
報告書抄録
例言
目次
第１章　調査の経過 …… 1
第２章　層位と調査の経過 …… 2
第３章　古墳時代の調査 …… 7
　第１節　概要 …… 7
　第２節　遺構 …… 10
　第３節　遺物 …… 63
第４章　古代の調査 …… 81
　第１節　概要 …… 81
　第２節　遺物 …… 81
第５章　中・近世（遺構）の調査 …… 84
　第１節　概要 …… 84
　第２節　出土遺物の分類 …… 85
　第３節　遺構 …… 109
第６章　科学分析 …… 212
第７章　まとめ …… 226
第８章　付編 …… 252
遺物観察表 …… 259
図版 …… 275

挿図目次

第１図　調査範囲 …… 3
第２図　調査終了後の状況 …… 3
第３図　西側土層断面図① …… 4
第４図　西側土層断面図② …… 5
第５図　北側土層断面図 …… 6
第６図　遺構配置図① …… 7
第７図　遺構配置図② …… 8
第８図　１号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 10
第９図　１号竪穴住居跡 …… 11
第10図　１号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 12
第11図　１号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 13
第12図　２号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 14
第13図　２号竪穴住居跡・２号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 15
第14図　３号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 16
第15図　３号竪穴住居跡 …… 17
第16図　３号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 18
第17図　４号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 19
第18図　４号竪穴住居跡 …… 20
第19図　４号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 21
第20図　５号竪穴住居跡内遺物出土状況① …… 22
第21図　５号竪穴住居跡内遺物出土状況② …… 23
第22図　５号竪穴住居跡 …… 24
第23図　５号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 25
第24図　５号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 26
第25図　５号竪穴住居跡内出土遺物実測図③ …… 27
第26図　５号竪穴住居跡内出土遺物実測図④ …… 28
第27図　５号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑤ …… 29
第28図　６号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 31
第29図　６号竪穴住居跡（上の硬化面） …… 32
第30図　６号竪穴住居跡（下の硬化面） …… 33
第31図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 34
第32図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 35
第33図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図③ …… 36
第34図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図④ …… 37
第35図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑤ …… 38
第36図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑥ …… 39
第37図　７号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 40
第38図　７号竪穴住居跡・７号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 41
第39図　７号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 42
第40図　８号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 43
第41図　８号竪穴住居跡 …… 44
第42図　８号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 45
第43図　８号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 46
第44図　８号竪穴住居跡内出土遺物実測図③ …… 47
第45図　９号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 48
第46図　９号竪穴住居跡・９号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 49
第47図　９号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 50
第48図　10号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 52
第49図　10号竪穴住居跡 …… 53
第50図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 54
第51図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図②・住居間接合の状況 …… 55
第52図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図③ …… 56
第53図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図④ …… 57
第54図　11号竪穴住居跡内遺物出土状況・11号竪穴住居跡内出土遺物実測図① …… 58
第55図　11号竪穴住居跡・11号竪穴住居跡内出土遺物実測図② …… 59
第56図　土坑及び土坑内出土遺物実測図 …… 60
第57図　Ｐ１及びＰ１内出土遺物実測図① …… 61
第58図　Ｐ１内出土遺物実測図②・Ｐ２，礫集積遺構及び各遺構内出土遺物実測図 …… 62
第59図　器種別出土状況図①（甕形Ａ・Ｂ左） …… 64
第60図　器種別出土状況図②（甕形Ａ・Ｂ右） …… 65
第61図　器種別出土状況図③（壺形・鉢形左） …… 66
第62図　器種別出土状況図④（壺形・鉢形右） …… 67
第63図　器種別出土状況図⑤（高坏ほか・須恵器ほか左） …… 68
第64図　器種別出土状況図⑥（高坏ほか・須恵器ほか左） …… 69
第65図　包含層出土遺物実測図① …… 70

第66図　包含層出土遺物実測図② ……71
第67図　包含層出土遺物実測図③ ……72
第68図　包含層出土遺物実測図④ ……73
第69図　包含層出土遺物実測図⑤ ……74
第70図　包含層出土遺物実測図⑥ ……75
第71図　包含層出土遺物実測図⑦ ……76
第72図　包含層出土遺物実測図⑧ ……77
第73図　包含層出土遺物実測図⑨ ……78
第74図　包含層出土遺物実測図⑩ ……79
第75図　包含層出土遺物実測図⑪ ……80
第76図　古代の遺物実測図① ……81
第77図　古代の土師器出土分布図 ……82
第78図　古代の須恵器出土分布図 ……82
第79図　古代の遺物実測図② ……83
第80図　古代の遺物実測図③ ……84
第81図　中・近世の遺構全体図・地形図① …… 86
第82図　中・近世の遺構配置図・地形図② …… 87
第83図　中・近世の遺構配置図① ……88
第84図　中・近世の遺構配置図② ……89
第85図　中・近世の遺構配置図③ ……90
第86図　中・近世の遺構配置図④ ……91
第87図　中・近世の遺構配置図⑤ ……92
第88図　中・近世の遺構配置図⑥ ……93
第89図　中・近世の遺構配置図⑦ ……94
第90図　中・近世の遺構配置図⑧ ……95
第91図　中・近世の遺構配置図⑨ ……96
第92図　中・近世の遺構配置図⑩ ……97
第93図　中・近世の遺構配置図⑪ ……98
第94図　中・近世の遺構配置図⑫ ……99
第95図　中・近世の遺構配置図⑬ ……100
第96図　中・近世の遺構配置図⑭ ……101
第97図　中・近世の遺構配置図⑮ ……102
第98図　掘立柱建物跡① ……103
第99図　掘立柱建物跡② ……104
第100図 掘立柱建物跡③ ……105
第101図 掘立柱建物跡④ ……106
第102図 掘立柱建物跡⑤ ……107
第103図 掘立柱建物跡⑥ ……108
第104図 掘立柱建物跡⑦ ……109
第105図 掘立柱建物跡16-1 検出ピット
・各ピット内出土遺物 ……109
第106図 掘立柱建物跡⑧ ……110
第107図 掘立柱建物跡⑨ ……110
第108図 竪穴建物跡 ……114
第109図 竪穴建物跡出土遺物実測図 ……114
第110図 炉状遺構① ……116
第111図 炉状遺構② ……117
第112図 炉状遺構③ ……118
第113図 炉状遺構④ ……119
第114図 炉状遺構⑤ ……120
第115図 炉状遺構⑥ ……122
第116図 土坑墓① ……124
第117図 土坑墓② ……125
第118図 土坑墓③ ……126
第119図 土坑墓出土遺物実測図 ……127
第120図 土坑墓出土古銭① ……128
第121図 土坑墓出土古銭② ……129
第122図 塚状遺構 ……130
第123図 塚状遺構出土遺物実測図 ……131
第124図 大型土坑① ……132
第125図 大型土坑② ……133
第126図 大型土坑出土遺物実測図① ……134
第127図 大型土坑出土遺物実測図② ……135
第128図 大型土坑出土遺物実測図③ ……136
第129図 大型土坑③ ……137
第130図 大型土坑出土遺物実測図④ ……138
第131図 大型土坑出土遺物実測図⑤ ……139
第132図 大型土坑出土遺物実測図⑥ ……140
第133図 大型土坑出土遺物実測図⑦ ……141
第134図 大型土坑④ ……141
第135図 大型土坑出土遺物実測図⑧ ……142
第136図 大型土坑出土遺物実測図⑨ ……143
第137図 土坑① ……144
第138図 土坑② ……145
第139図 土坑出土遺物実測図① ……146
第140図 土坑③ ……147
第141図 土坑出土遺物実測図② ……147
第142図 土坑④ ……148
第143図 土坑⑤ ……149
第144図 土坑⑥ ……150
第145図 土坑⑦ ……151
第146図 土坑⑧ ……152
第147図 土坑⑨ ……153
第148図 土坑出土遺物実測図③およびピッ
ト内出土遺物実測図① ……154
第149図 ピット① ……155
第150図 ピット② ……156
第151図 ピット内出土遺物実測図② ……156
第152図 ピット内出土遺物実測図③ ……157
第153図 大溝出土遺物実測図① ……166
第154図 大溝出土遺物実測図② ……167
第155図 大溝出土遺物実測図③ ……168
第156図 大溝出土遺物実測図④ ……169
第157図 大溝出土遺物実測図⑤ ……170
第158図 大溝出土遺物実測図⑥ ……171
第159図 大溝出土遺物実測図⑦ ……172
第160図 大溝出土遺物実測図⑧ ……173
第161図 大溝出土遺物実測図⑨ ……174
第162図 大溝出土遺物実測図⑩ ……175
第163図 大溝出土遺物実測図⑪ ……176
第164図 大溝出土遺物実測図⑫ ……177
第165図 大溝出土遺物実測図⑬ ……178
第166図 大溝出土遺物実測図⑭ ……179
第167図 大溝出土遺物実測図⑮ ……180

第168図 大溝出土遺物実測図⑯ ……181
第169図 大溝出土遺物実測図⑰ ……182
第170図 大溝出土遺物実測図⑱ ……183
第171図 大溝出土遺物実測図⑲ ……184
第172図 大溝出土遺物実測図⑳ ……185
第173図 大溝出土遺物実測図㉑ ……186
第174図 溝内検出集石① ……187
第175図 溝内出土遺物実測図① ……188
第176図 溝内検出集石② ……189
第177図 溝内出土遺物実測図② ……190
第178図 溝断面図 ……191
第179図 溝内出土遺物実測図③ ……192
第180図 溝内出土遺物実測図④ ……193
第181図 溝内出土遺物実測図⑤ ……194
第182図 溝内出土遺物実測図⑥ ……195
第183図 溝内出土遺物実測図⑦ ……196
第184図 溝内出土遺物実測図⑧ ……197
第185図 溝内出土遺物実測図⑨ ……198
第186図 溝内出土遺物実測図⑩ ……199
第187図 溝内出土遺物実測図⑪ ……200
第188図 溝内出土遺物実測図⑫ ……201
第189図 礫積遺構 ……203
第190図 礫積遺構出土遺物実測図 ……203
第191図 集石遺構 ……204
第192図 集石遺構出土遺物実測図① ……205
第193図 集石遺構出土遺物実測図② ……206
第194図 石塔集積・土師器埋設遺構・遺物実測図‥207
第195図 鍛冶炉・集石と柱痕を伴う土坑 ……208
第196図 焼土 ……209
第197図 焼土出土遺物実測図 ……209
第198図 各遺構出土石製品 ……210
第199図 各遺構出土滑石製品 ……211
第200図 分析結果① ……221
第201図 分析結果② ……222
第202図 包含層出土遺物内訳 ……228
第203図 14の土器実測図 ……232
第204図 ４の土器実測図 ……232
第205図 南九州籾痕分布状況 ……234
第206図 土坑墓b14 ……237
第207図 本遺跡の各組成 ……237
第208図 各遺構出土の重要遺構・遺物 ……237
第209図 各遺跡の炉状遺構 ……239
第210図 絵巻にみる炉状遺構 ……241
第211図 花瀬・美山の位置図 ……243
第212図 本遺跡出土の薩摩焼の分類① ……244
第213図 本遺跡出土の薩摩焼の分類② ……245
第214図 持躰松遺跡の各出土遺物組成① ……247
第215図 遷座前の内野門のモイドン ……249
第216図 持躰松遺跡の各出土遺物組成② ……249
第217図 本遺跡周辺の孫字 ……251
第218図 上水流遺跡出土の鉄関連遺物 ……252
第219図『海東諸国紀』……254
第220図『河盛家所蔵日本地図屏風』……254

表目次

表１　６号竪穴住居跡内出土礫計測表 …… 31
表２　８号竪穴住居跡内出土礫計測表 …… 43
表３　掘立柱建物観察表（１）……112
表４　掘立柱建物観察表（２）……113
表５　炉状遺構観察表 ……123
表６　ピット観察表（１）……158
表７　ピット観察表（２）……159
表８　ピット観察表（３）……160
表９　ピット観察表（４）……161
表10　ピット観察表（５）……162
表11　ピット観察表（６）……163
表12　ピット観察表（７）……164
表13　ピット観察表（８）……165
表14　土坑観察表 ……165
表15　焼土観察表 ……165
表16　上水流遺跡出土古銭一覧 ……211
表17　分析試料一覧 ……212
表18　リン・カルシウム分析結果 ……213
表19　植物珪酸体分析結果 ……213
表20　種実同定結果 ……215
表21　放射性炭素年代測定結果 ……216
表22　放射性炭素年代測定および樹種同定結果 ‥‥218
表23　暦年較正結果 ……218
表24　種実同定結果 ……218
表25　鹿児島県出土土器の分析データ……222
表26　匙形土製品出土遺跡一覧表 ……236
表27　棒状礫出土遺跡一覧表 ……230
表28　古市遺跡２号住居内出土礫 ……231
表29　天草砥石出土遺跡一覧 ……231
表30　籾痕出土報告書一覧表 ……234
表31　県内出土の石臼一覧表 ……236
表32　土坑墓一覧 ……237
表33　本遺跡出土の薩摩焼の出土傾向 ……243
表34　発掘されたウメ・モモ等の核一覧表 ……247
表35　発掘されたモイドン一覧 ……247
表36　発掘された「塚」……247
表37　古墳時代住居内出土遺物観察表（１）……257
表38　古墳時代住居内出土遺物観察表（２）……258
表39　古墳時代住居内出土遺物観察表（３）……259
表40　古墳時代住居内出土遺物観察表（４）……260
表41　古墳時代住居内出土遺物観察表（５）……261
表42　古墳時代遺構内出土遺物観察表……261
表43　古墳時代遺構内出土石器観察表 ……261
表44　遺構内出土石製品観察表 ……261
表45　遺構内出土鉄製品観察表 ……261
表46　古墳時代包含層出土遺物観察表（１）……261

表47　古墳時代包含層出土遺物観察表（2）……262
表48　古墳時代包含層出土遺物観察表（3）……263
表49　古墳時代包含層出土遺物観察表（4）……264
表50　古墳時代包含層出土石製品観察表……264
表51　古代包含層出土遺物観察表……265
表52　中・近世遺構出土遺物観察表（1）……265
表53　中・近世遺構出土遺物観察表（2）……266
表54　中・近世遺構出土遺物観察表（3）……267
表55　中・近世遺構出土遺物観察表（4）……268
表56　中・近世遺構出土遺物観察表（5）……269
表57　中・近世遺構出土遺物観察表（6）……270
表58　中・近世遺構出土遺物観察表（7）……271
表59　中・近世遺構出土遺物観察表（8）……272
表60　中・近世遺構出土遺物観察表（9）……273
表61　中・近世遺構出土石製品観察表（1）……273
表62　中・近世遺構出土石製品観察表（2）……274
表63　中・近世遺構出土土製品・石器・
　　ガラス製品観察表 ……274
表64　中・近世遺構出土金属製品観察表……274

図版目次

図版１　上空から見た上水流遺跡 …… 巻頭１
図版２　３・10号住居出土の須恵器 …… 巻頭２
図版３　礫積遺構検出状況…… 巻頭３
図版４　中国産青花・ベトナム陶器…… 巻頭４
図版５　大溝検出状況…… 2
図版６　竪穴住居跡検出状況（北から南を撮影）…… 7
図版７　１号竪穴住居跡検出状況…… 10
図版８　２号竪穴住居跡検出状況…… 14
図版９　４の籾痕写真…… 15
図版10　３号竪穴住居跡検出状況…… 16
図版11　３号竪穴住居跡検出状況…… 17
図版12　15出土状況 …… 18
図版13　４号竪穴住居跡検出状況（1）…… 19
図版14　４号竪穴住居跡検出状況（2）…… 20
図版15　５号竪穴住居跡検出状況（1）…… 21
図版16　５号竪穴住居跡内遺物出土状況…… 22
図版17　５号竪穴住居跡検出状況（2）…… 23
図版18　６号竪穴住居跡検出状況…… 30
図版19　６号竪穴住居跡内の礫集中…… 31
図版20　６号竪穴住居跡硬化面の状況…… 32
図版21　７号竪穴住居跡検出状況…… 40
図版22　８号竪穴住居跡検出状況（1）…… 42
図版23　８号竪穴住居跡検出状況（2）…… 43
図版24　９号竪穴住居跡検出状況（1）…… 47
図版25　９号竪穴住居跡検出状況（2）…… 48
図版26　６の脚部と皿部の接合状況…… 50
図版27　10号竪穴住居跡検出状況 …… 51
図版28　10号竪穴住居跡内遺物出土状況 …… 52
図版29　14の籾痕写真 …… 55
図版30　11号竪穴住居跡検出状況（1）…… 57
図版31　11号竪穴住居跡検出状況（2）…… 58
図版32　竪穴住居跡検出状況…… 80
図版33　炉状遺構検出状況……123
図版34　大型土坑検出状況……132
図版35　土坑Ａ検出状況……145
図版36　溝内集石１断面（石塔あり）……187
図版37　近世集石遺構検出状況……204
図版38　石塔集積・土器埋設遺構検出状況……207
図版39　鍛冶炉検出状況……208
図版40　ピットＵ８－24出土のヤマトシジミ……211
図版41　植物珪酸体・木材……214
図版42　植物珪酸体・種実遺体……215
図版43　種実遺体……218
図版44　14の圧痕部分拡大写真 ……232
図版45　14のレプリカ電子顕微鏡写真……232
図版46　４の圧痕部分拡大写真……232
図版47　４のレプリカ電子顕微鏡写真……232
図版48　圧痕資料１の圧痕部分拡大写真……233
図版49　圧痕資料１のレプリカ電子顕微鏡写真……233
図版50　圧痕資料２の圧痕部分拡大写真……233
図版51　圧痕資料２のレプリカ電子顕微鏡写真……233
図版52　圧痕資料３の圧痕部分拡大写真……233
図版53　圧痕資料３のレプリカ電子顕微鏡写真……233
図版54　11号土坑墓出土女性壮年人骨 ……255
図版55　15号土坑墓出土男性壮年人骨 ……255
図版56　古墳時代住居跡出土土器①……275
図版57　古墳時代住居跡出土土器②……276
図版58　古墳時代住居跡出土土器③……277
図版59　古墳時代住居跡出土土器④……278
図版60　古墳時代住居跡出土土器⑤……279
図版61　古墳時代住居跡出土土器⑥及び
　　その他の土器①……280
図版62　古墳時代のその他の土器②……281
図版63　竪穴建物１号検出状況……282
図版64　竪穴建物２号検出状況……283
図版65　炉状遺構・大型土坑検出状況……284
図版66　ピット・大溝・土坑墓検出状況……285
図版67　古代包含層遺物・
　　中・近世遺構内出土遺物①……286
図版68　中・近世遺構内出土遺物②……287
図版69　中・近世遺構内出土遺物③……288
図版70　中・近世遺構内出土遺物④……289
図版71　中・近世遺構内出土遺物⑤……290
図版72　中・近世遺構内出土遺物⑥……291
図版73　中・近世遺構内出土遺物⑦・
　　上水流遺跡の整理作業員と担当職員……292

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護と活用を図るため，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて各開発関係機関との間で協議し，諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部河川課（以下，県土木部）は，中小河川改修工事（万之瀬川）の日置郡金峰町内（現南さつま市）における事業計画実施に先立って，対象地内における埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育委員会文化課（現文化財課，以下県文化財課）に照会した。これを受けて県文化財課，金峰町教育委員会が平成５年度に分布調査を実施したところ，事業区域内に万之瀬川川底遺跡，松ヶ鼻遺跡，持躰松遺跡，渡畑遺跡，芝原遺跡，上水流遺跡の６遺跡の所在が判明した。この結果を受けて，県土木部・県文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，県埋文センター）の３者で協議した結果，対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし，上水流遺跡の調査は金峰町教育委員会が担当した。確認調査は，平成７年８月１日から12月15日の期間に実施し，その結果，予定地において約13,000㎡の範囲に遺跡が残存していることが確認された。この成果については，金峰町教育委員会で刊行済みである。

これを受けて，12年度（新築堤防部分）・15年度（旧堤防と新築堤防の間）・16～17年度（新築堤防部分以外の部分・旧堤防部分）の本調査を実施した。

なお，平成16年度には調査対象範囲についての協議を県土木部・県文化財課・県埋文センターの３者で行った。その結果，調査範囲の拡大が判明し，調査期間は平成17年度の上半期までとした。

整理作業は，平成17年度の発掘調査終了後に取りかかり，平成19年度まで実施した。現在までの成果としては，平成19年３月には『上水流遺跡１（縄文時代中期後半～弥生時代編）』を刊行している。残りの時代については，平成20年度以降に継続して実施する計画である。なお，事務所改変に伴い，平成18年度中に起因事業主体者が伊集院土木事務所から加世田土木事務所へと変更された。

第２節　調査の組織

平成１９年度

起因事業主体　鹿児島県土木部河川課
（加世田土木事務所）

整理主体　鹿児島県教育委員会

整理統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　宮原　景信

整理企画　次長兼総務課長　平山　章
次長　新東　晃一
主任文化財主事兼
調査第一課長　池畑　耕一
主任文化財主事兼
調査第一課第二調査係長
中村　耕治

整理担当　文化財主事　溝口　学
文化財主事　東郷　克利
文化財主事　森　雄二
文化財主事　抜水　茂樹
文化財主事　富山　孝一
文化財主事　黒川　忠広
文化財研究員　上床　真

整理事務　総務係長　寄井田正秀

整理指導　堺市教育委員会文化課
主査　森村　健一
早稲田大学理工学研究所
客員准教授　山本　信夫
鹿児島女子短期大学
准教授　竹中　正巳

企画担当者　文化財主事　中村　和美
文化財主事　関　明恵

報告書作成検討委員会
平成19年12月17日　所長ほか14名

報告書作成指導委員会
平成19年12月14日　次長ほか６名

第３節　調査の経過

調査の経過については，昨年度刊行した『上水流遺跡１』に掲載済みであるので，今回は割愛した。

第４節　整理作業の概要

上水流遺跡の整理作業は，平成12年度から平成17年度の発掘調査中に，遺物の水洗・注記作業を並行して行い，本格的な整理作業を平成17年度から実施した。作業は，県埋文センターで，他の万之瀬川流域の遺跡群と同時進行の形で行った。刊行については，当初は３分冊の予定であったが，様々な事情から，縄文時代前期，縄文時代前期末から縄文時代中期前半，縄文時代中期後半から弥生時代，古墳時代から近世の４分冊に計画を組み直して，平成18年度の縄文時代中期後半から弥生時代後期編に続いて平成19年度に古墳時代から近世編を刊行することとした。なお，このうち近世の包含層出土遺物については次年度の縄文時代前期編に組み込んで報告する予定である。

第2章　層位と調査の概要

上水流遺跡は，万之瀬川の中流の川岸近くの自然堤防上に立地する遺跡である。本遺跡でみられる地層は，河川堆積物及びそれらの上に堆積する腐蝕土である。砂質の土壌については，「砂質土」と「砂」に分類した。河川による氾濫堆積層などを含んでいるので，遺跡内において必ずしも安定している状況ではなかった。例えば，Va層では同一包含層の中で黄褐色砂質土層（粘質土）と灰白色砂層とが何層にもわたって互い違いに堆積している様子が観察される地点もみられた。また，他の堆積土（砂）についても，ほとんどが数回にわたるとみられる沖積土（砂）であるので下に示す層位と若干異なる様相を呈する地点もある。火山灰に関しては，Ⅲb層中に開聞岳起源とされる「灰ゴラ」（南九州市頴娃町水成川での^{14}C年代分析結果では3620±140年BP）がみられるほかには，明確な火山灰層はみられない。なお，この灰ゴラに関しては晩期土器の編年に関わる重要な鍵層となる。しかし，本遺跡では安定的には堆積しておらず，土器型式を上下で区別するだけの様相ではなかった。いずれにせよ，灰ゴラが万之瀬川下流域まで降灰していたことが判明した点は今後の調査を考える上で重要な事項となる。

今回の報告書では，Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅲa′層が対象となる。ただし，一部については，Ⅲa層にも入り込んでいる遺物もみられたが，これらの遺物についても今回の報告の対象とした。層位は以下の通りである。

Ⅰ	層	水田耕作土及び近世・近代の盛土	
		（旧堤防の造成盛土も含む）	
Ⅱ	層	暗褐色腐植土	古代～近世
Ⅲa′	層	明黄褐色土	弥生時代～古墳時代
Ⅲa	層	黄褐色土	縄文時代晩期
Ⅲb	層	暗茶褐色土	縄文時代晩期
		（ブロック状の灰ゴラを含む。）	
Ⅳ	層	赤（黄）褐色土	縄文時代中期後半～後期
Va	層	黄褐色砂質土	縄文時代中期前半
		（粘質土～灰色砂との互層となる地点あり）	
Vb	層	黄白色砂質土	縄文時代前期後半
			～縄文時代中期初頭
Ⅵ	層	淡白色砂質土	縄文時代前期


①南側から見た検出途中の状況


②北側から見た検出途中の状況

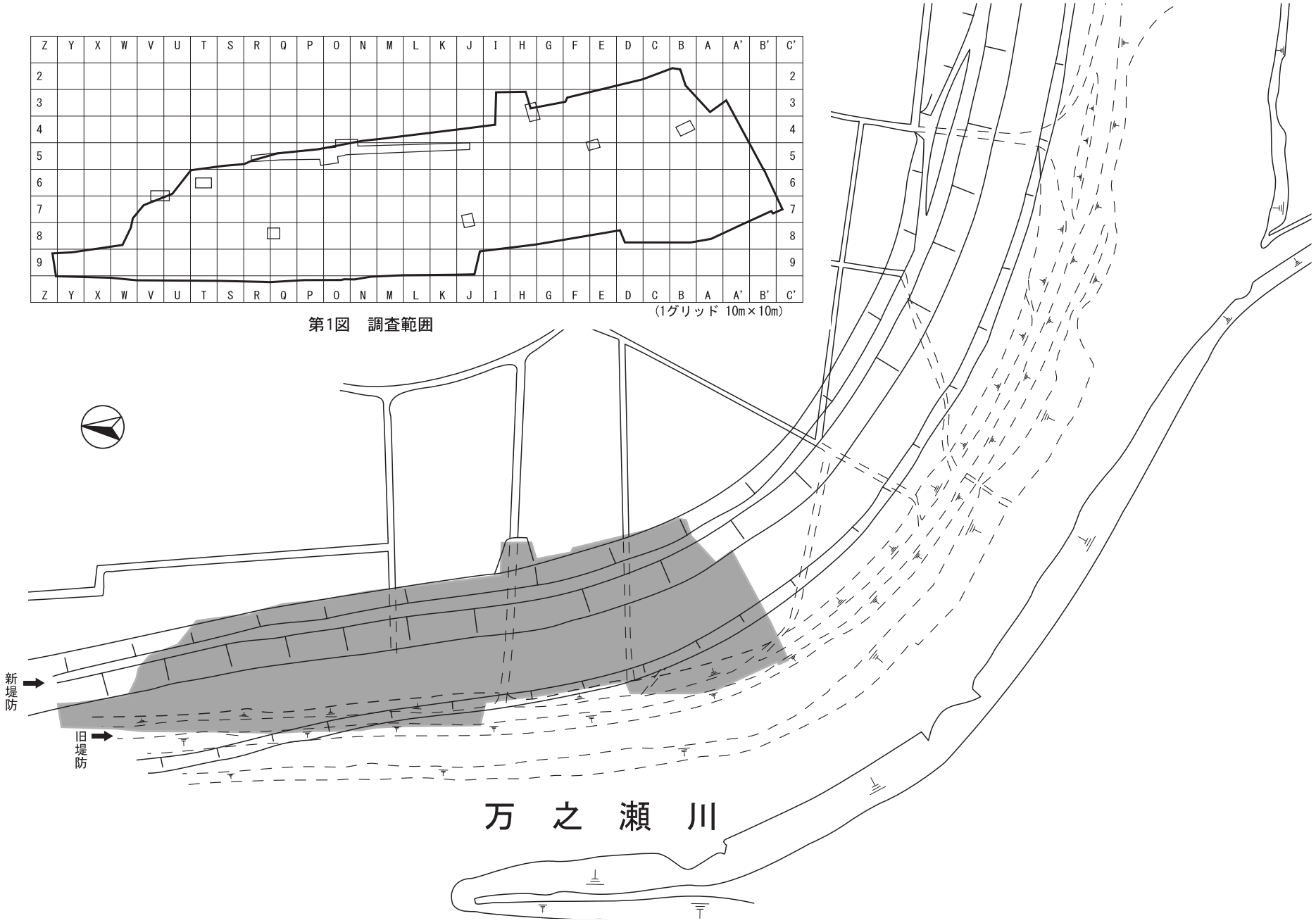

③南側から見た底面の帯状硬化面検出状況


④南東側から見た大溝内石列の検出状況

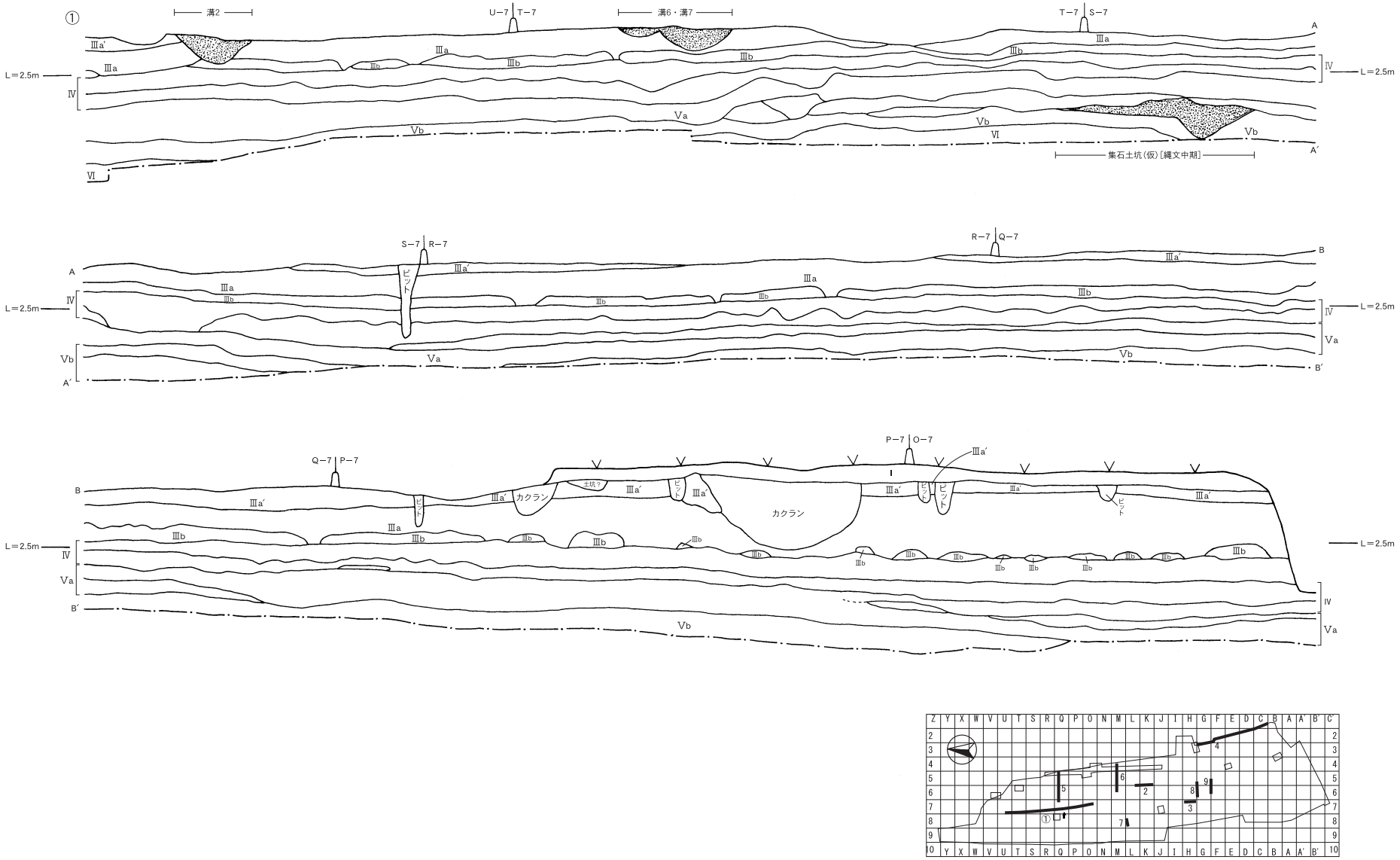
図版5　大溝検出状況

（1グリッド 10m×10m）

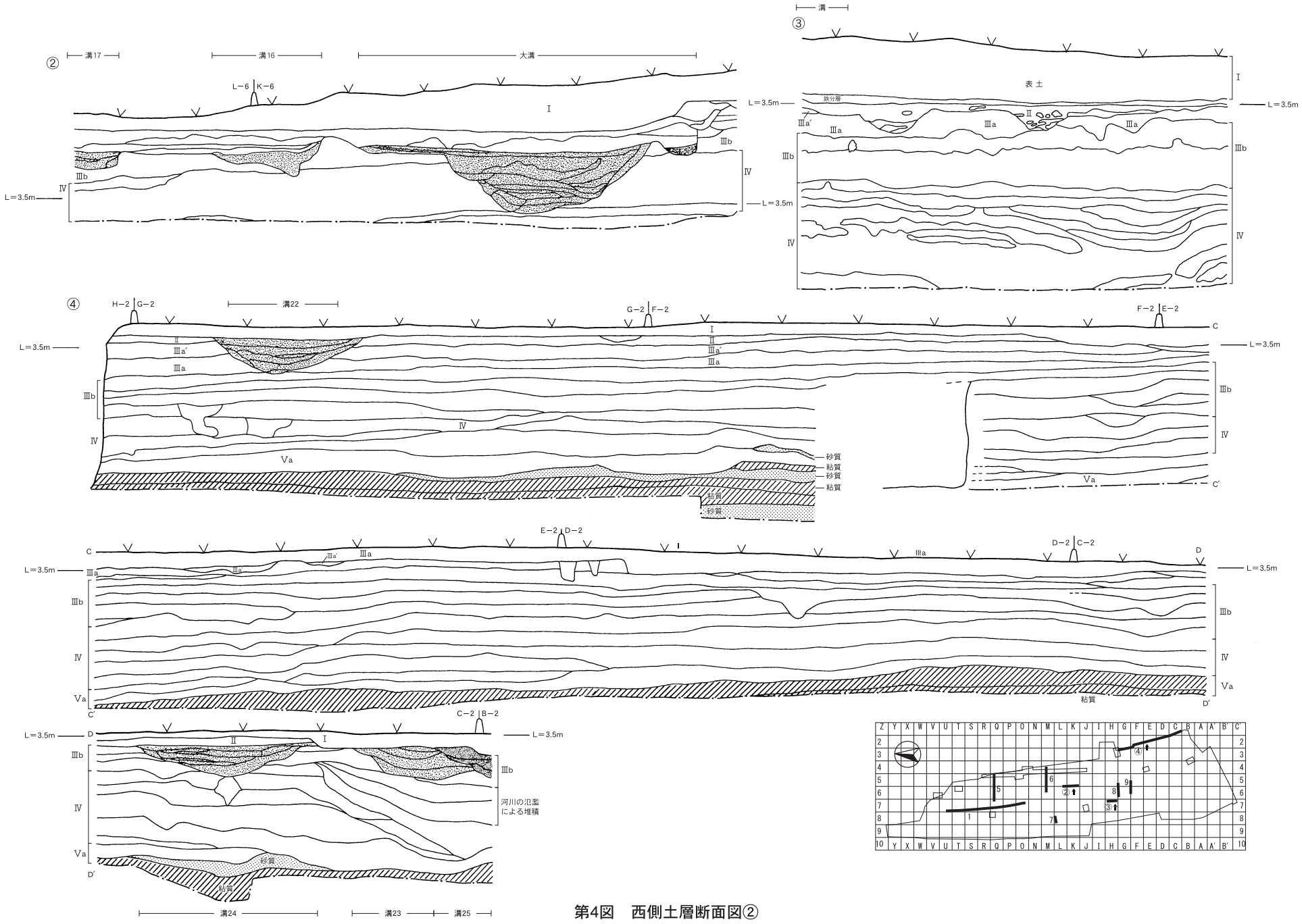
第1図　調査範囲



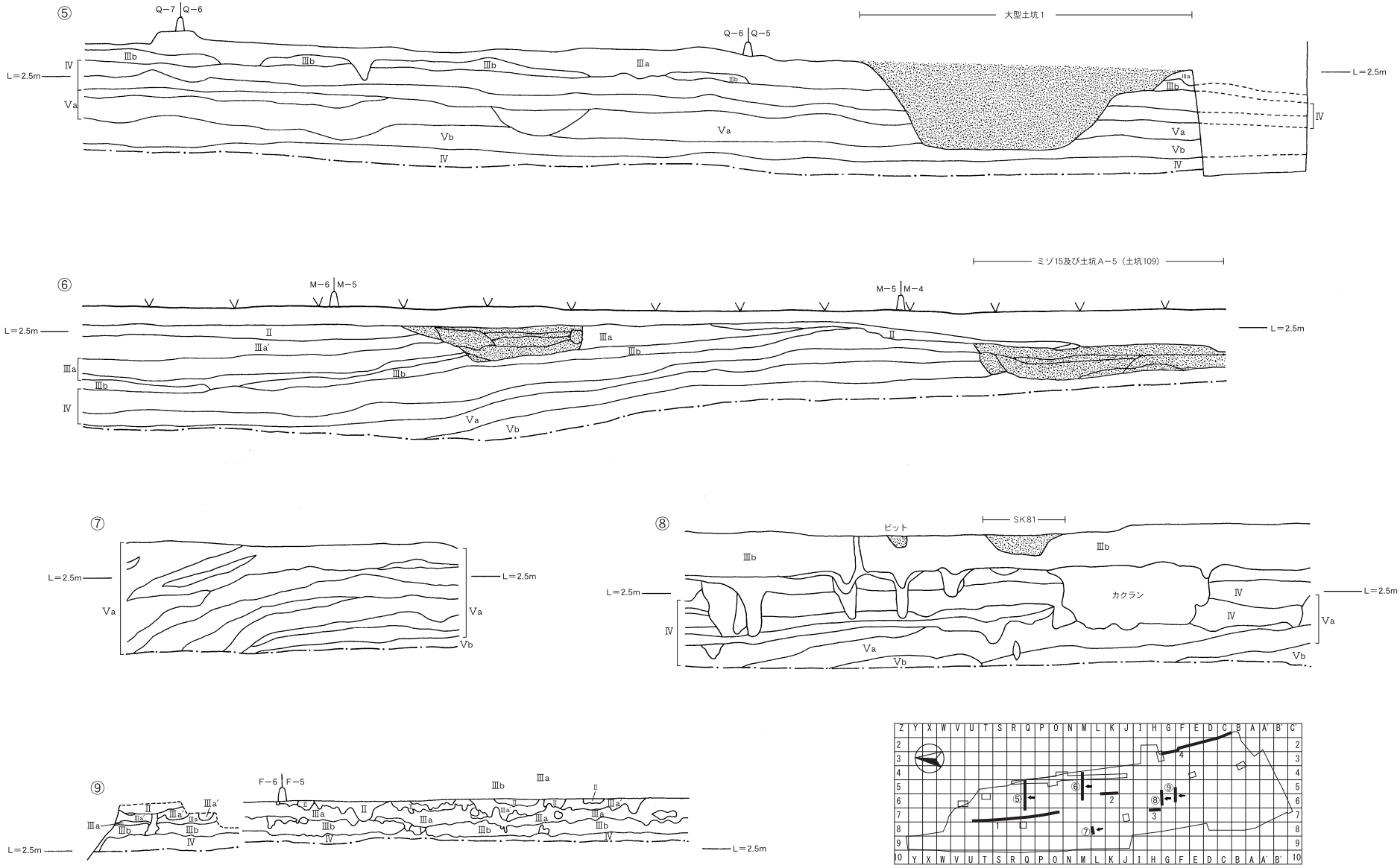
第2図　調査後の状況（破線は調査前の状況）



第3図　西側土層断面図①



第4図　西側土層断面図②


⑤
Q−7
Q−6
Q−6
Q−5
大型土坑1
L=2.5m
L=2.5m
⑥
M−6
M−5
M−5
M−4
ミゾ15及び土坑A−5（土坑109）
L=2.5m
L=2.5m
⑦
L=2.5m
L=2.5m
⑧
ピット
SK81
カクラン
L=2.5m
L=2.5m
⑨
F−6
F−5
L=2.5m
L=2.5m

第5図　北側土層断面図

第３章　古墳時代の調査

第１節　概要

古墳時代の調査対象となる層位は，Ⅲa′層，Ⅲａ層であるが，一部Ⅲｂ層でも出土している。最も遺物量が多いのはⅢａ′層である。

包含層での遺物出土状況は，Ⅲａ′層を中心に遺物の出土が見られた。包含層での状況としては，小破片が多い。これらに関しては，区一括で取り上げを行い，比較的大きめの破片に関しては番号を付けて取り上げを実施した。なお，報告に際しては，弥生時代終末に位置づけられている中津野式土器段階も前後の関連性からここに報告をする。

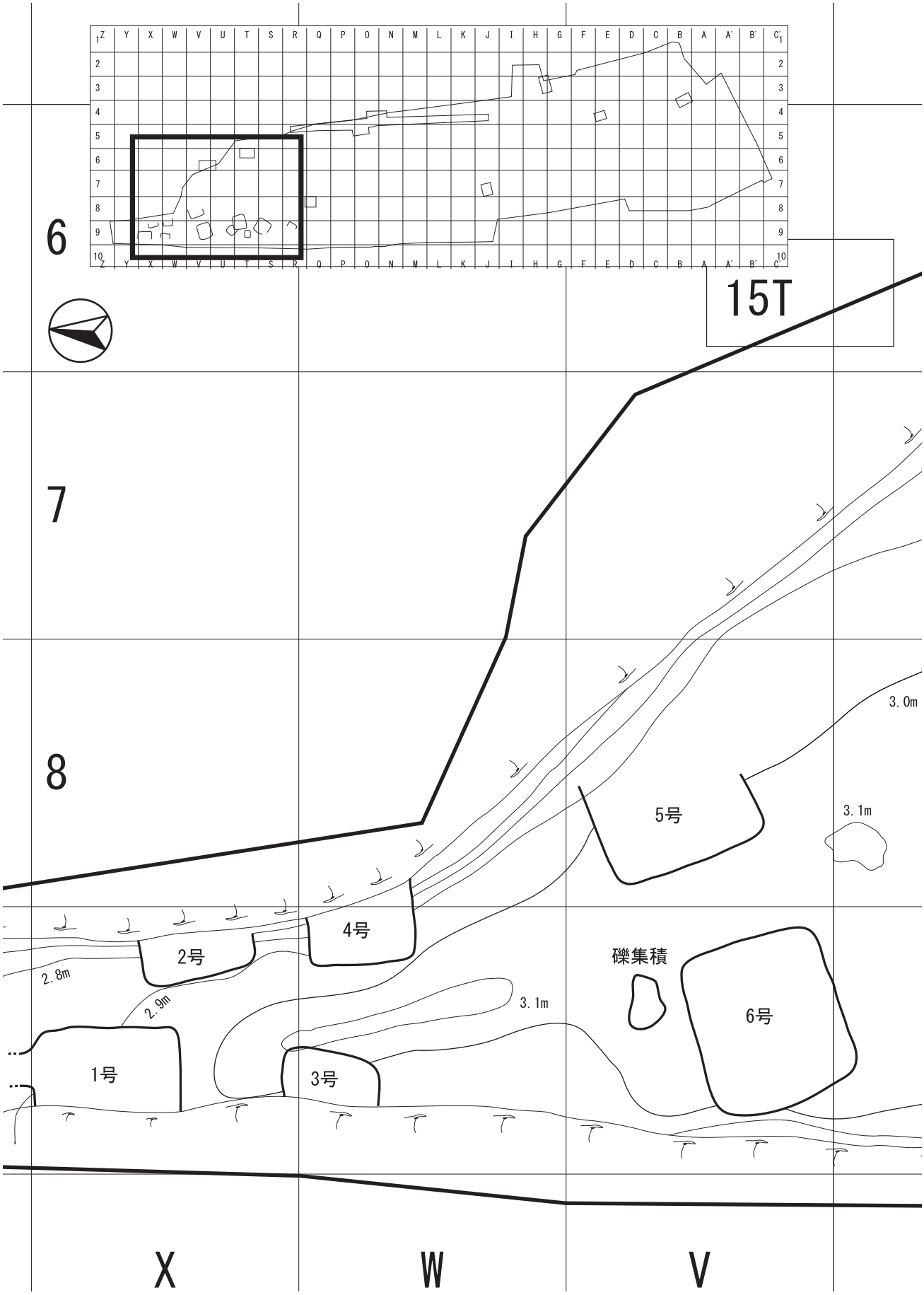
遺構検出は，Ⅲａ層で行った。その結果，竪穴住居跡11軒をはじめとする遺構が検出できた。竪穴住居跡は，調査区でも北側に集中する傾向が見られる。しかし，近現代の河川にかけての落ち込みにより，多くの竪穴住居跡のプランが消失してしまっていた。個別の遺構についての調査方法は，各遺構ごとで紹介するが，基本的に埋土は現地でふるいにかけて微細遺物の検出に努めている。床面及び，ピットの確認については最終的には半裁や断ち割りなどで最終面の確認を行った。ただし，竪穴住居跡周辺で検出されたピットに関しては，中世以降のものと厳密に区別することが出来なかったため，次章以降において一括して掲載している。

この他に，ピット内に廃棄若しくは埋納と思われる状態で土器が集積しているものが見られた。Ｐ１内からは，薄手の甕とともに在地の土器が出土している。詳細は，各遺構・遺物の報告にゆずるが該期の編年に有効な資料となるであろう。

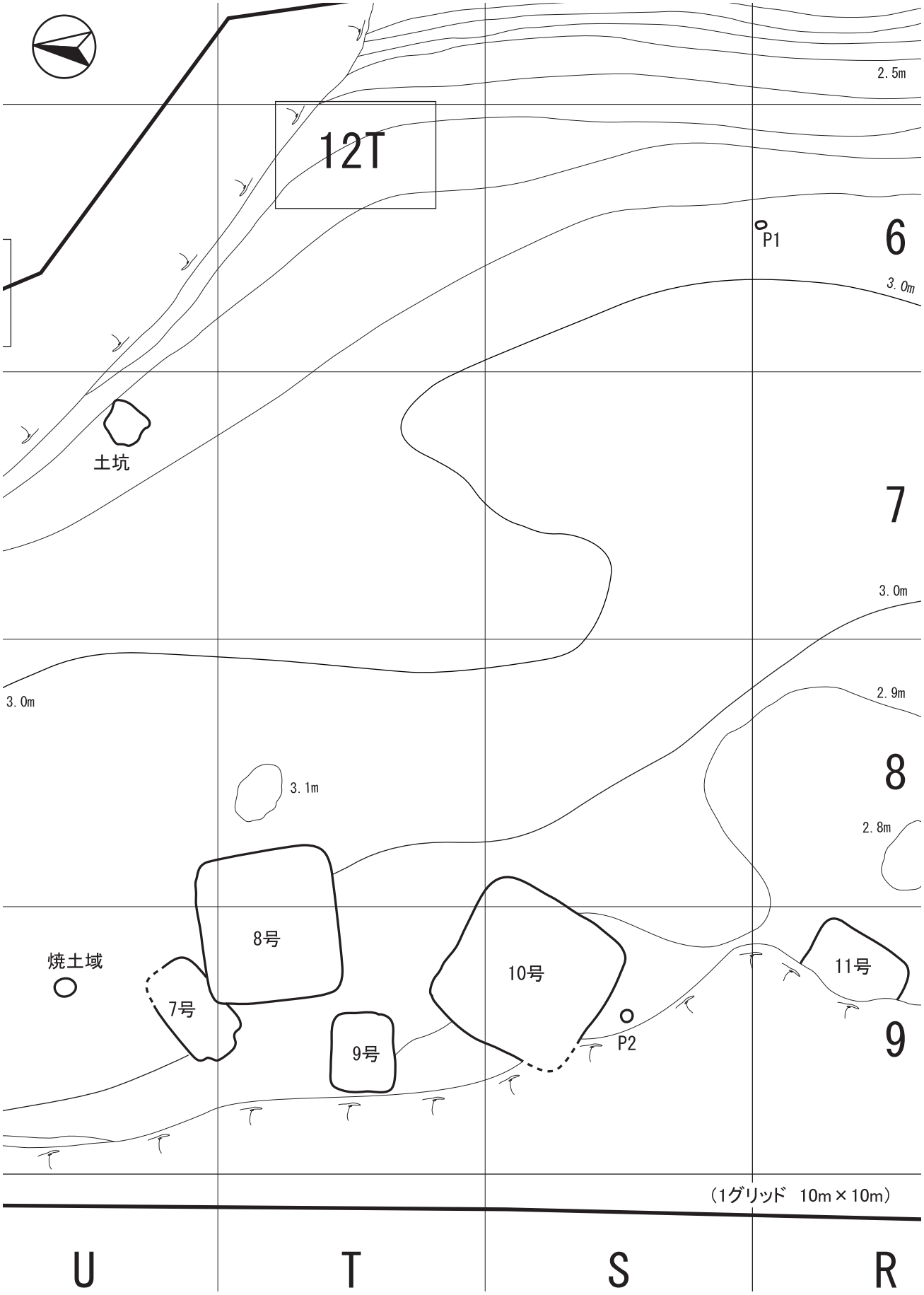
包含層の概要としては，中津野段階から東原段階にかけての資料は少ないが，辻堂原から笹貫段階の遺物がまとまって出土している。平面的な広がりとしては，Ｏ～Ｙ区にかけて集中する。これは，竪穴住居跡の検出された範囲と大部分が重なっている。この重なりは，竪穴住居跡検出前に包含層遺物として取り上げたものも中には含まれようが，やはり竪穴住居周辺に該期の遺物が広がっているものと理解したい。この他に，Ｊ・Ｋ－４区とＢ・Ｃ－４～６区に集中が見られる。この中には，完形品の甕形土器が単体で出土している。これらの多くは，遺構を伴わずに土器単独で出土している。これらの完形品が，Ｏ～Ｙ区の破片密集といった出土状況とどのような関係にあるのか，今回の調査では明らかにすることは出来なかった。また，古墳時代の須恵器はＫ－４区に集中する傾向が見られた。



図版6　竪穴住居跡検出状況（北から南を撮影）



第６図　遺構配置図①


12T
2.5m
P1
6
3.0m
土坑
7
3.0m
3.0m
2.9m
8
3.1m
2.8m
8号
焼土域
7号
10号
11号
9号
P2
9
（1グリッド　10m×10m）
U
T
S
R

第７図　遺構配置図②

第２節　遺構

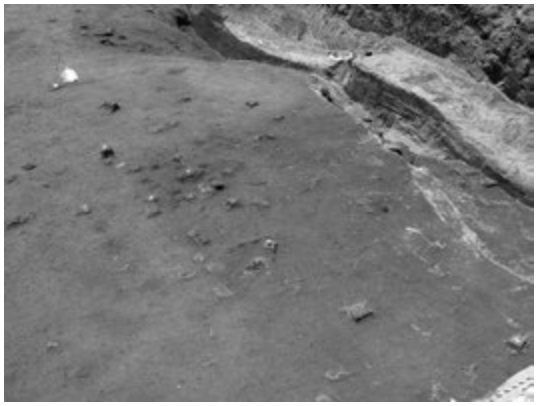
（１）竪穴住居跡

①　１号竪穴住居跡

Ｘ－９区のⅢa′層上面で検出された。当初は，多量の小破片遺物が出土し，これを除去して精査を行った結果，方形のプランが検出された。ただし西側は，近世の落ち込みにより半分程度が崩落しており，最終的なプランは確認できていない。調査は，中央に埋土観察ベルトを設定して中央部分から床面を確認していった。床面を確認していく過程で，掘り下げていくと床面直上に固い土がブロック状に散在しており，その土をさらに掘り下げていくと，床面全体に硬化面が広がっているのが確認できた。硬化面を剥ぎ取っていくと床面約50～60㎝の幅で灰ゴラの層が壁面に残存していることが確認できた。この状況から，住居は床面を造る段階で灰ゴラ層を掘り抜いたと考えられる。最終的に調査終了した段階で，この住居は検出面から灰ゴラの深さ37㎝，検出面から床面までの深さ45㎝と，二段掘りの形状を呈していることが判明した。

また，南側には土坑状のプランも認められた。この土坑からは，小片遺物が折り重なるような状態で出土した。なお，ピットの検出は硬化面を剥ぎ取った段階と，２段掘の掘方を検出した段階との２回行った。その結果，上層で10基，下層で３基が確認出来た。

竪穴住居内から出土した遺物は総点で3,324点あり，接合作業を経てこの内34点を図化した。総点内訳は，甕1,599点，壷180点，高坏199点，坩230点，鉢13点，小破片他1,103点である。また，モモ核が1点出土している。



①検出状況

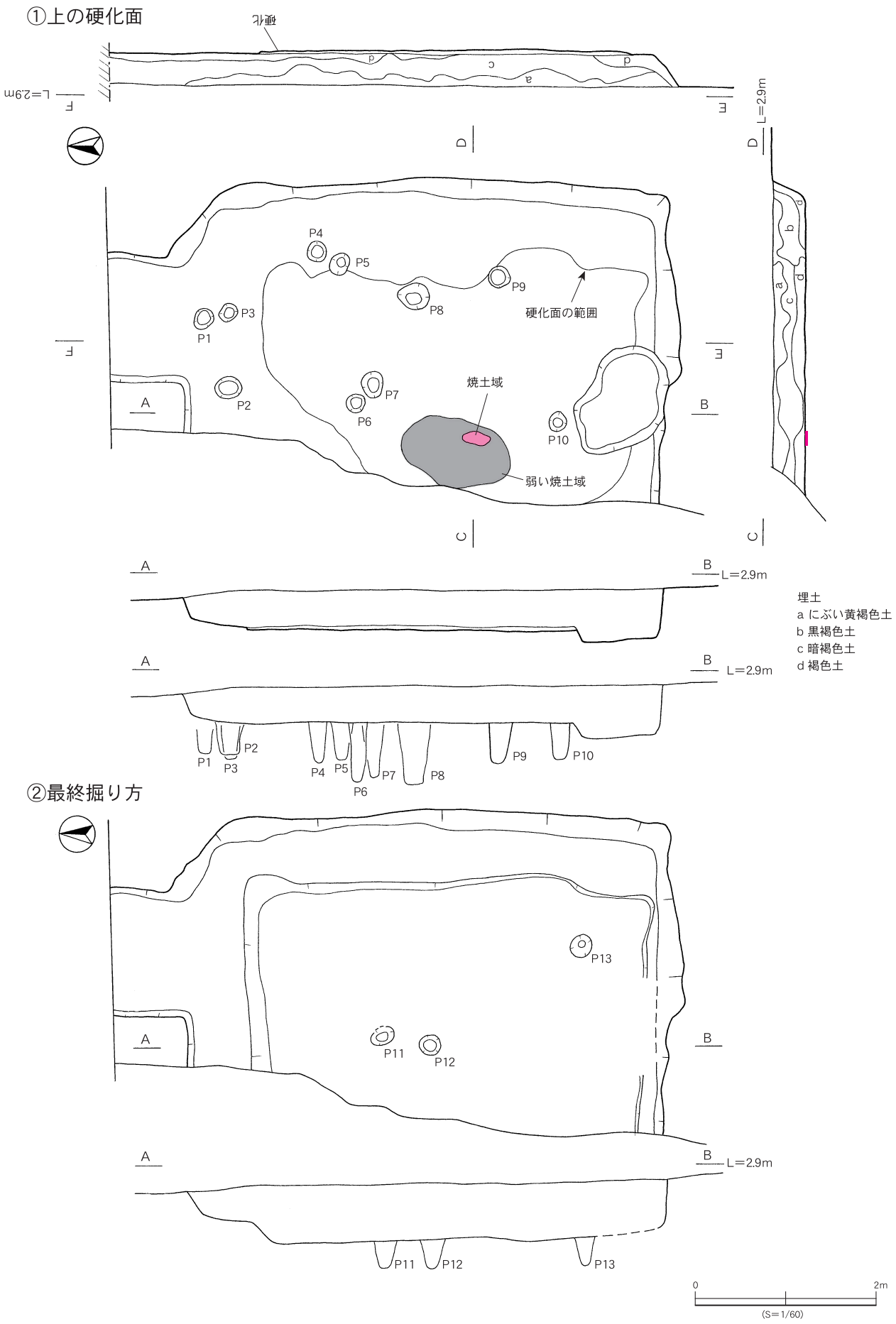


②埋土の状況

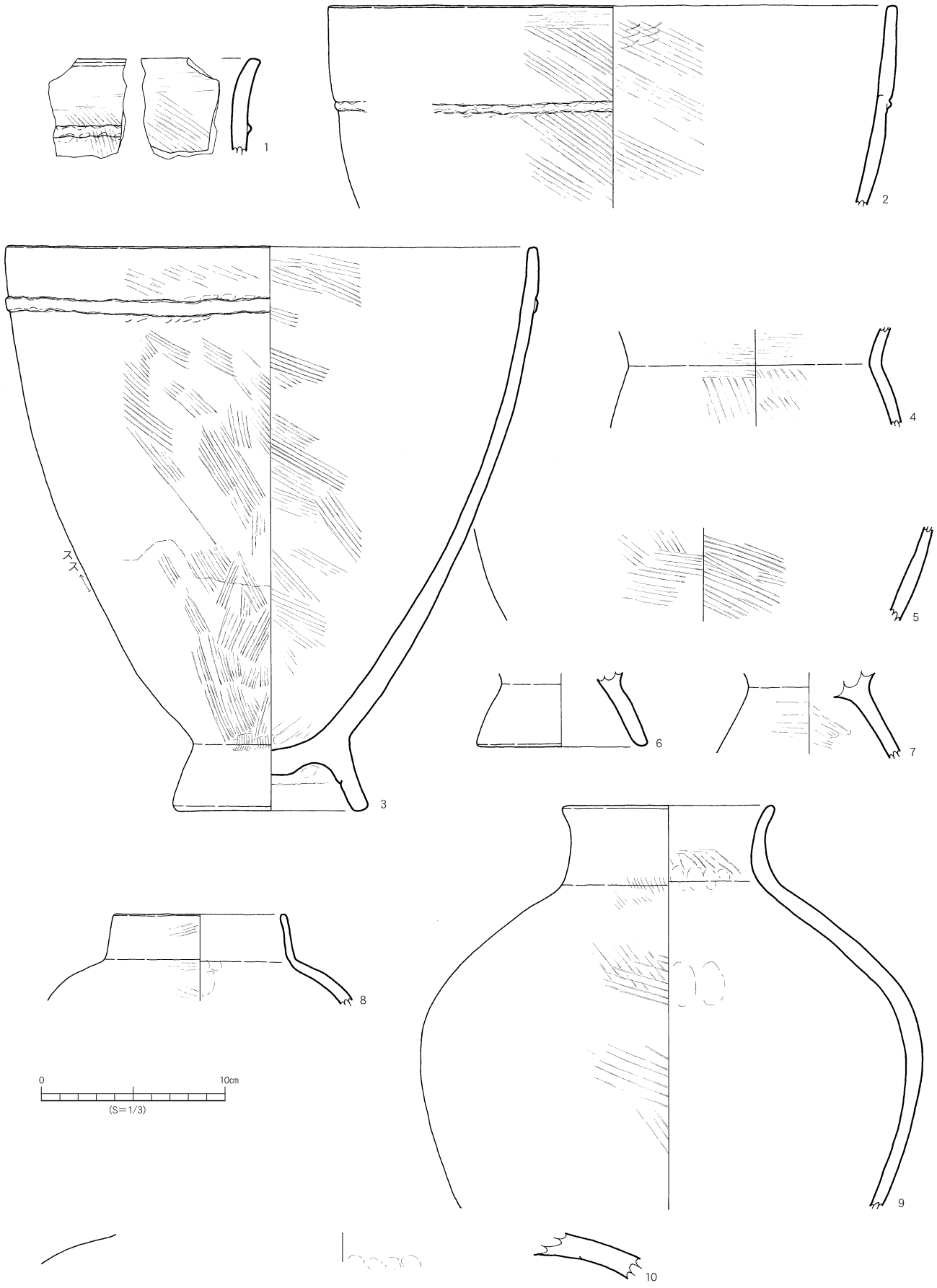
図版7　1号竪穴住居跡検出状況



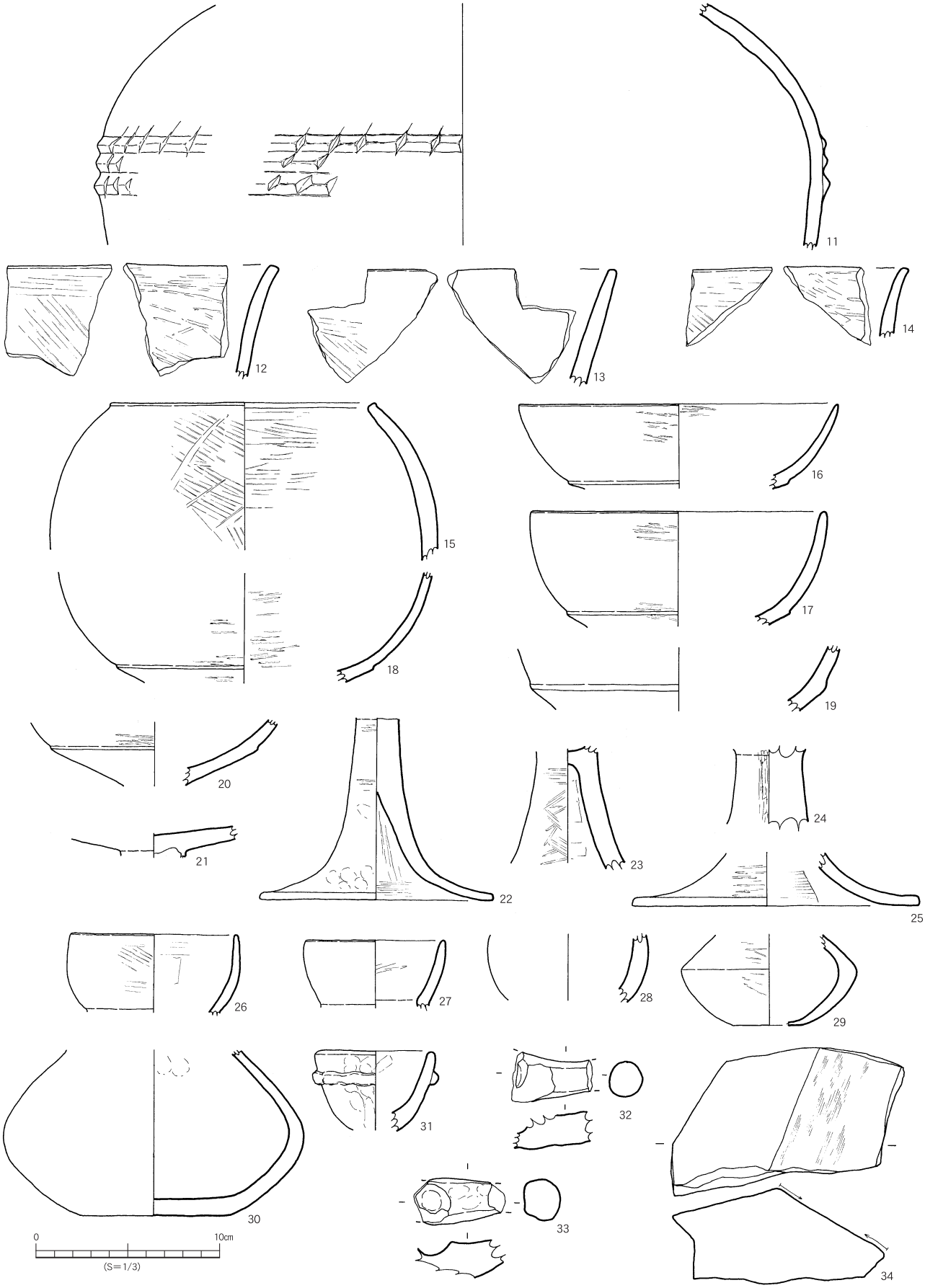
第8図　1号竪穴住居跡内遺物出土状況


①上の硬化面
硬化
L=2.9m
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
硬化面の範囲
焼土域
弱い焼土域
埋土
a にぶい黄褐色土
b 黒褐色土
c 暗褐色土
d 褐色土
②最終掘り方
P11
P12
P13
0
2m
(S=1/60)

第9図　1号竪穴住居跡



第10図　1号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



第11図　1号竪穴住居跡内出土遺物実測図②

② 2号竪穴住居跡

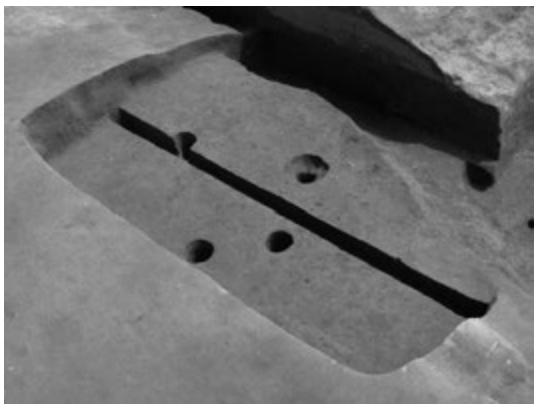
X－9区のⅢａ層上面で検出された。東側を近世の水田耕作により削平を受けている。全体像を検出することは出来なかったが，残された西側の状況などから，最終的なプランは，４ｍ×４ｍ程度のプランを想定した。なお，検出面から床面までの深さは約40㎝であった。

埋土観察ベルトを残しながら掘り下げ，硬化面が検出された段階で埋土の記録を行い，その後全体的に床面を検出した。床は，中央部分が硬化しており，中央付近に２カ所硬化面が赤化している部分があり，周辺の硬化面は炭化物が浸食して硬化面の表面を覆っている。最終的には，ミニトレンチで硬化面の厚さを記録した後に硬化面を剥がして柱穴を検出して調査を終了している。この作業によりＰ１～Ｐ４が検出された。

遺構内遺物は438点で，接合作業を経てこの内の12点を図化した。総点内訳は甕371点，壷7点，高坏54点，小破片その他６点である。なお，埋土中には生粘土も出土している。時期判断が出来る資料は少なく，口縁部が直行するが，口縁部上端がわずかに外反する１のような資料が認められる。12は，手捏ね土器であるが，匙形土製品の匙部である可能性も考えられる。特筆すべき遺物としては，甕外面に籾痕が見られる資料が出土している（第13図４）。甕の胴部下半の資料であろう。



①検出状況

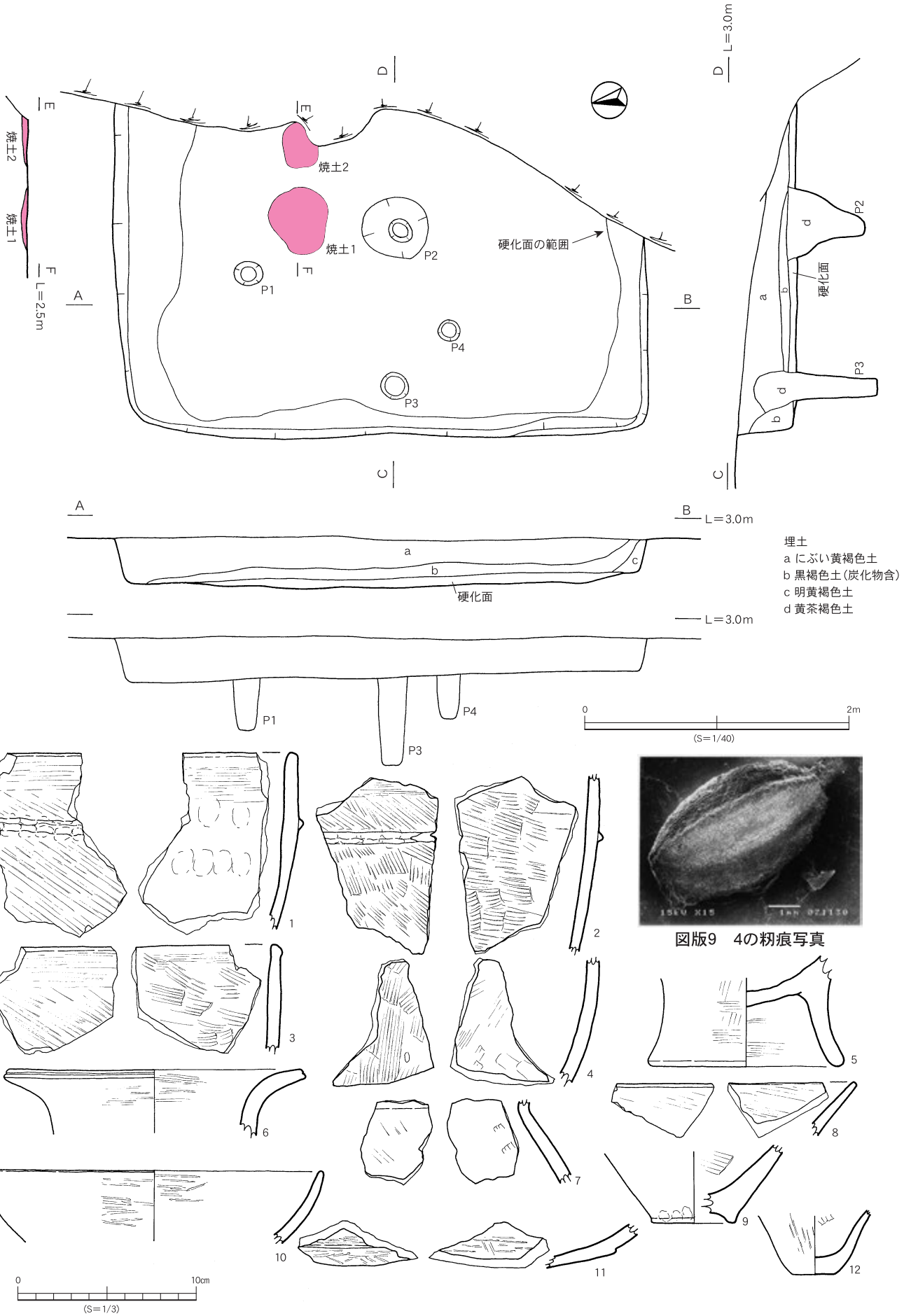


②完掘状況

図版8　2号竪穴住居跡検出状況



第12図　2号竪穴住居跡内遺物出土状況



図版9　4の籾痕写真

第13図　2号竪穴住居跡・2号竪穴住居跡内出土遺物実測図

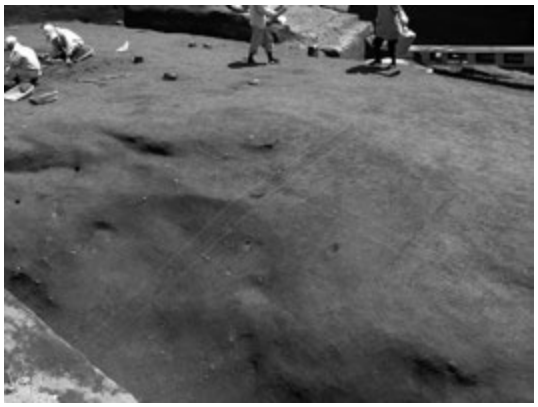
③　３号竪穴住居跡

Ｗ・Ｘ－９区でⅢａ層上面で検出された。西側を近世の崩落により大きく消失している。全体像を検出することは出来なかったが，残された東側の状況などから，最終的なプランは，約４ｍ×４ｍのプランを想定した。なお，検出面から床面までの深さは約30㎝であった。

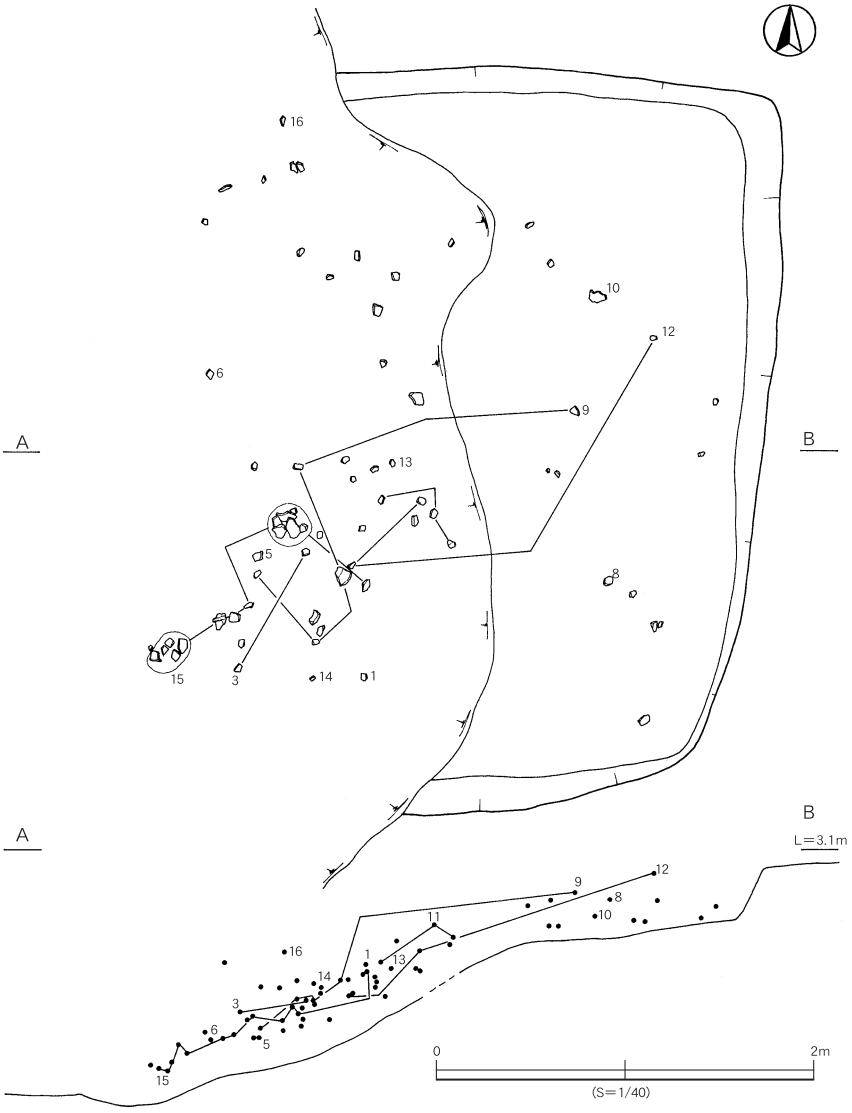
埋土観察ベルトを残しながら掘り下げ，硬化面が検出された段階で埋土の記録を行い，その後全体的に床面を検出した。床は，中央部分が硬化していたが，中央付近にわずかに炭に由来する黒色土が堆積しているが，赤化などは認められない。ミニトレンチで硬化面の厚さを記録した後に硬化面を剥がして柱穴検出を試みたが，明確に柱穴を検出することが出来なかった。なお，竪穴住居跡は近世の崩落により床面が崩落していた。これは，硬化面を含めた埋土全てが同様に落ち込んだ為であり，本来は平坦な床面を有する竪穴住居跡であったことを物語る。つまり，崩落部分であってもこの住居内遺物として判断することが可能であると言うことである。これを前提として，遺物の整理作業を行った。

遺構内遺物は637点で，接合作業を経てこの内の16点を図化した。内訳は甕526点，壷は３点，高坏51点，坩28点，須恵器18点，小破片その他11点である。遺物の接合状況は，９や12などのように平坦部分と崩落部分とが接合している状況が認められる。

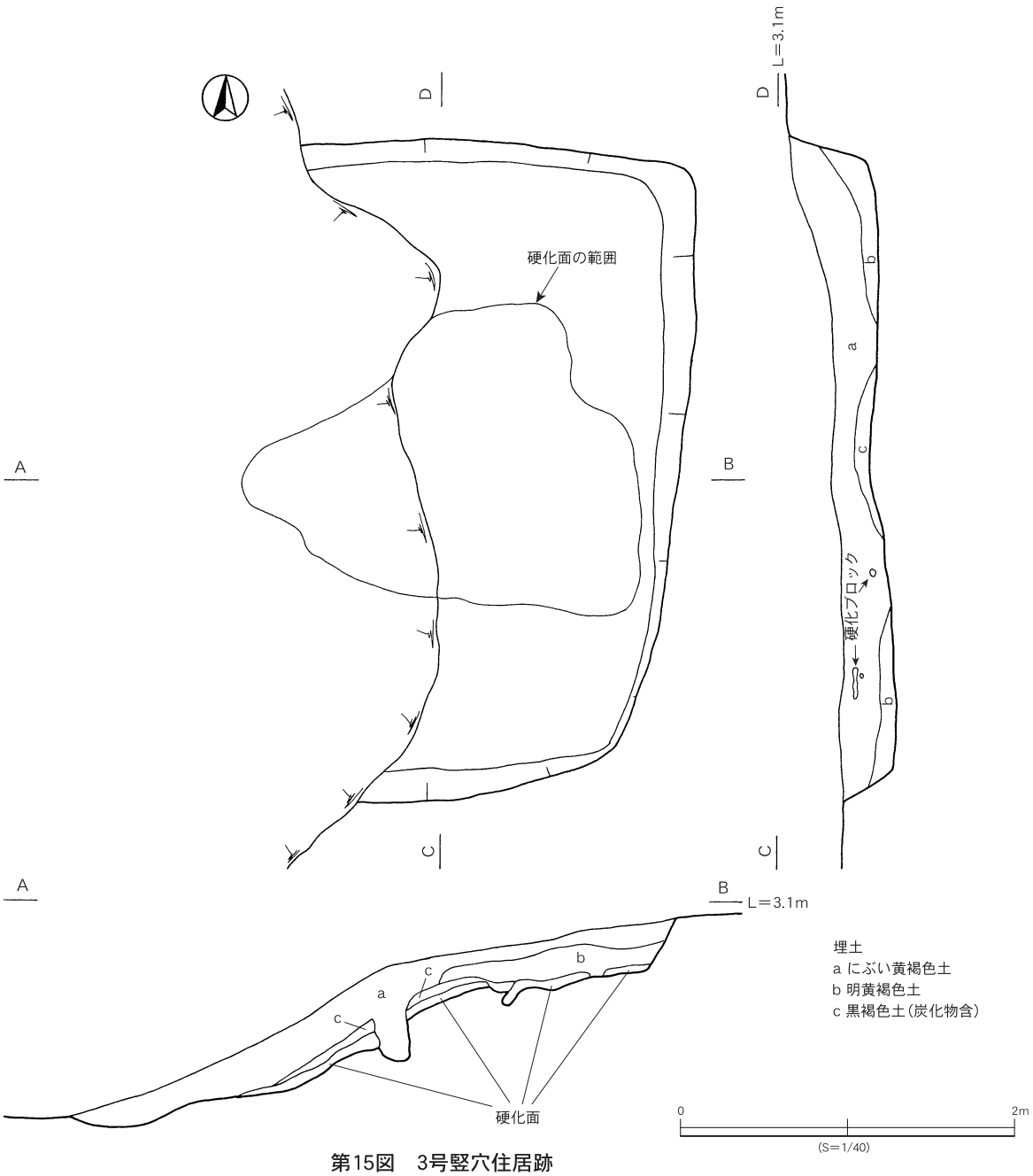
１は，口縁部が直行するが上端部分がわずかに反る。２は，口縁部がわずかに内傾している。15・16は，須恵器である。15は器台で，脚部を欠損する。16は鉢であると考えられる。



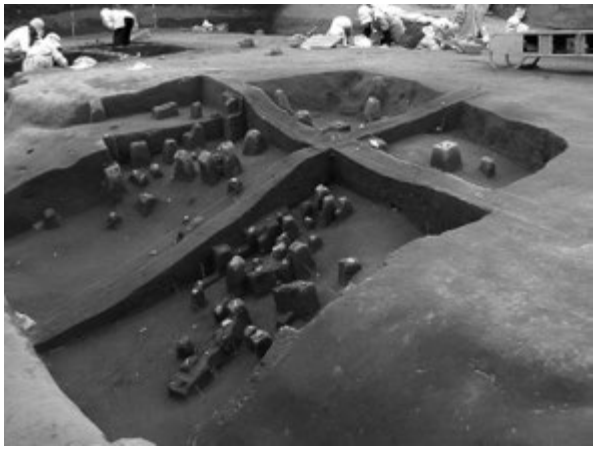
図版10　3号竪穴住居跡検出状況



第14図　3号竪穴住居跡内遺物出土状況



第15図　3号竪穴住居跡

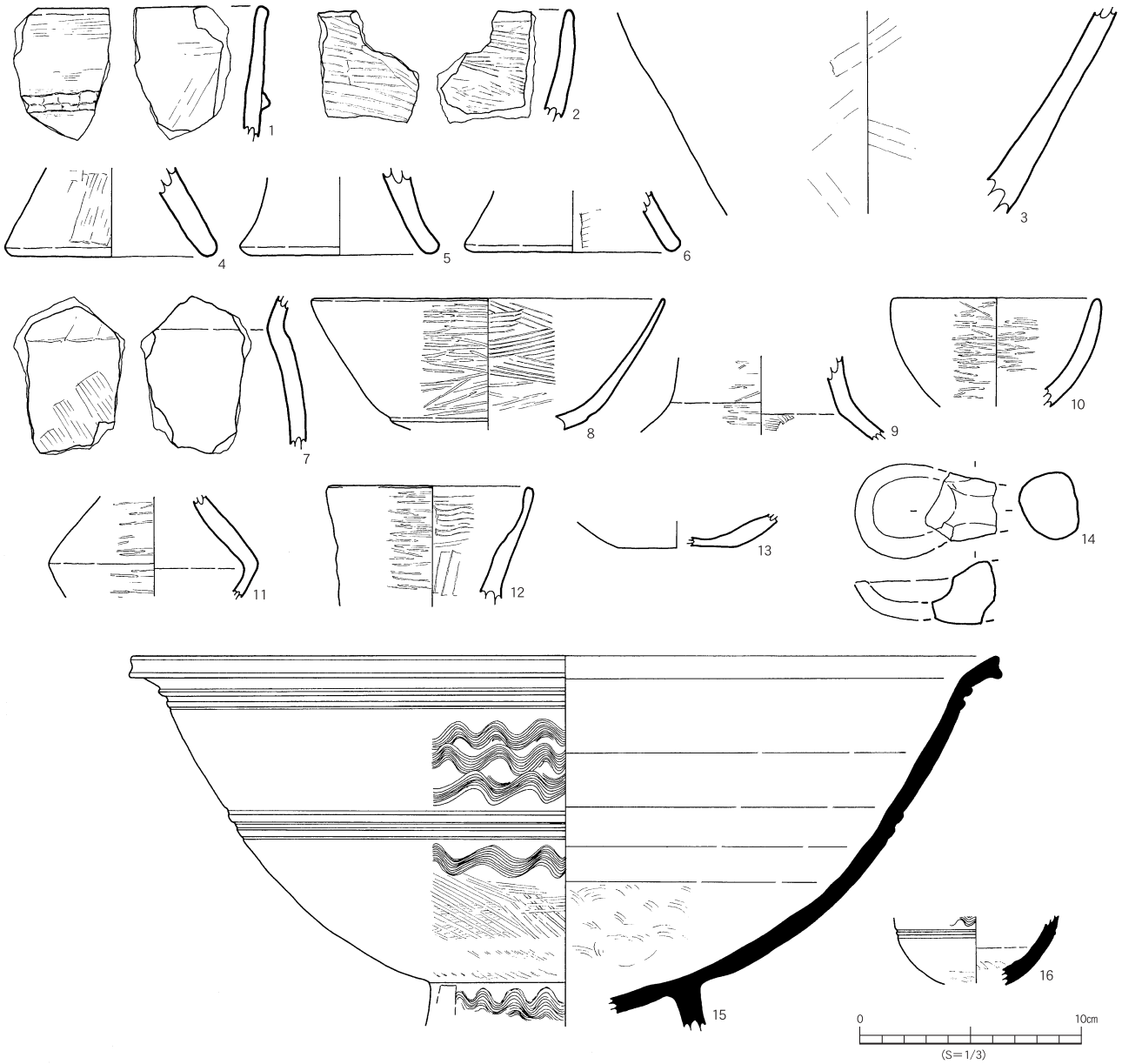


①遺物出土状況



②埋土の状況

図版11　3号竪穴住居跡検出状況



第16図　3号竪穴住居跡内出土遺物実測図



図版12　15出土状況

④　４号竪穴住居跡

Ｗ－８・９区でⅢａ層上面で検出された。東側を近世の水田耕作により削平を受け，全体像を検出することは出来なかった。

埋土観察ベルトを残しながら掘り下げていく過程で，北側の壁面付近に赤色粒子がまとまって検出されている。分析の結果は，第７章に示したとおりで，意図的な散布である可能性が考えられる。埋土の記録は，硬化面が検出された段階で行い，その後全体的に床面を検出した。床は，中央部分が硬化しており，中央付近に１カ所硬化面が赤化している部分があり，周辺の硬化面は炭化物が浸食して硬化面の表面を覆っている。この段階で，南側に浅い土坑が検出された。最終的に，ミニトレンチで硬化面の厚さを記録した後に硬化面を剥がして柱穴を検出して調査を終了している。この作業によりＰ１～Ｐ７が検出されたが，Ｐ４やＰ６は硬化面剥ぎ取り以前にプランを検出している。検出差が時期差なのかははっきりとしない。

遺構内遺物は，732点で接合作業を経てこの内の13点を図化した。総点内訳は甕572点，壷2点，高坏8点，坩17点，小破片その他133点である。なお，埋土中には生粘土も出土している。

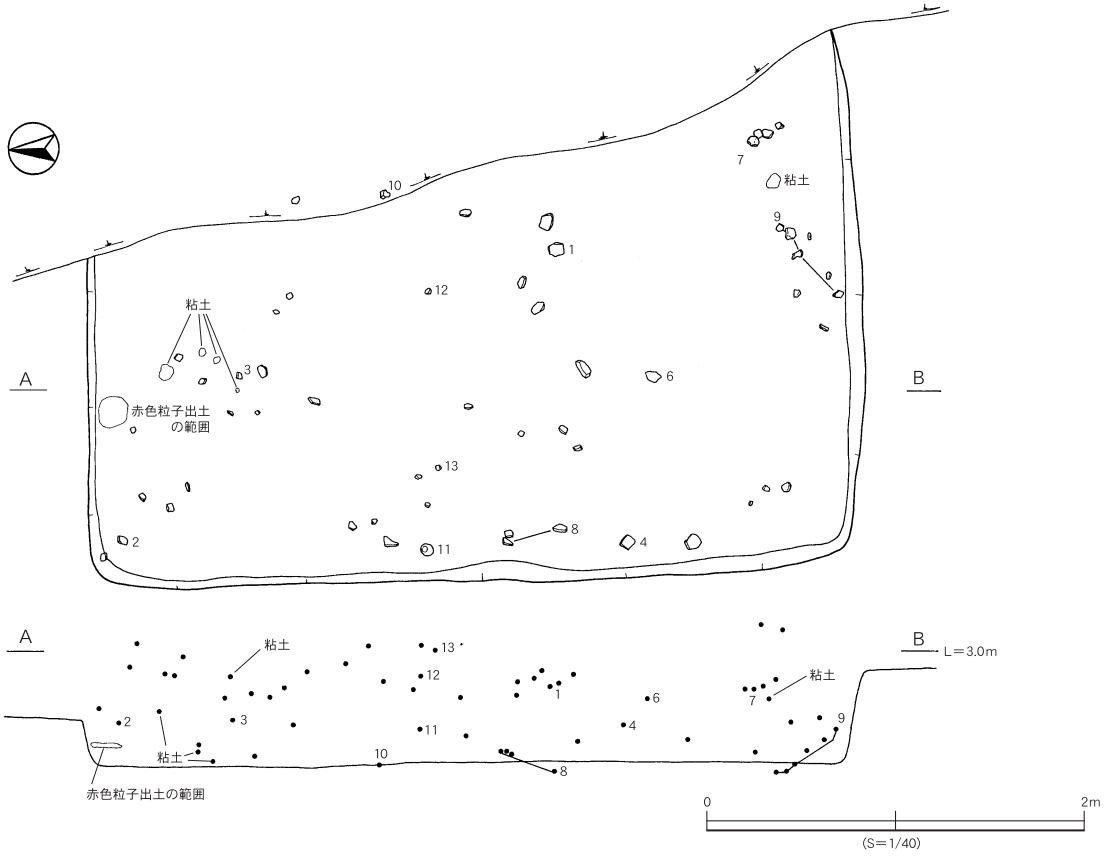


①検出状況

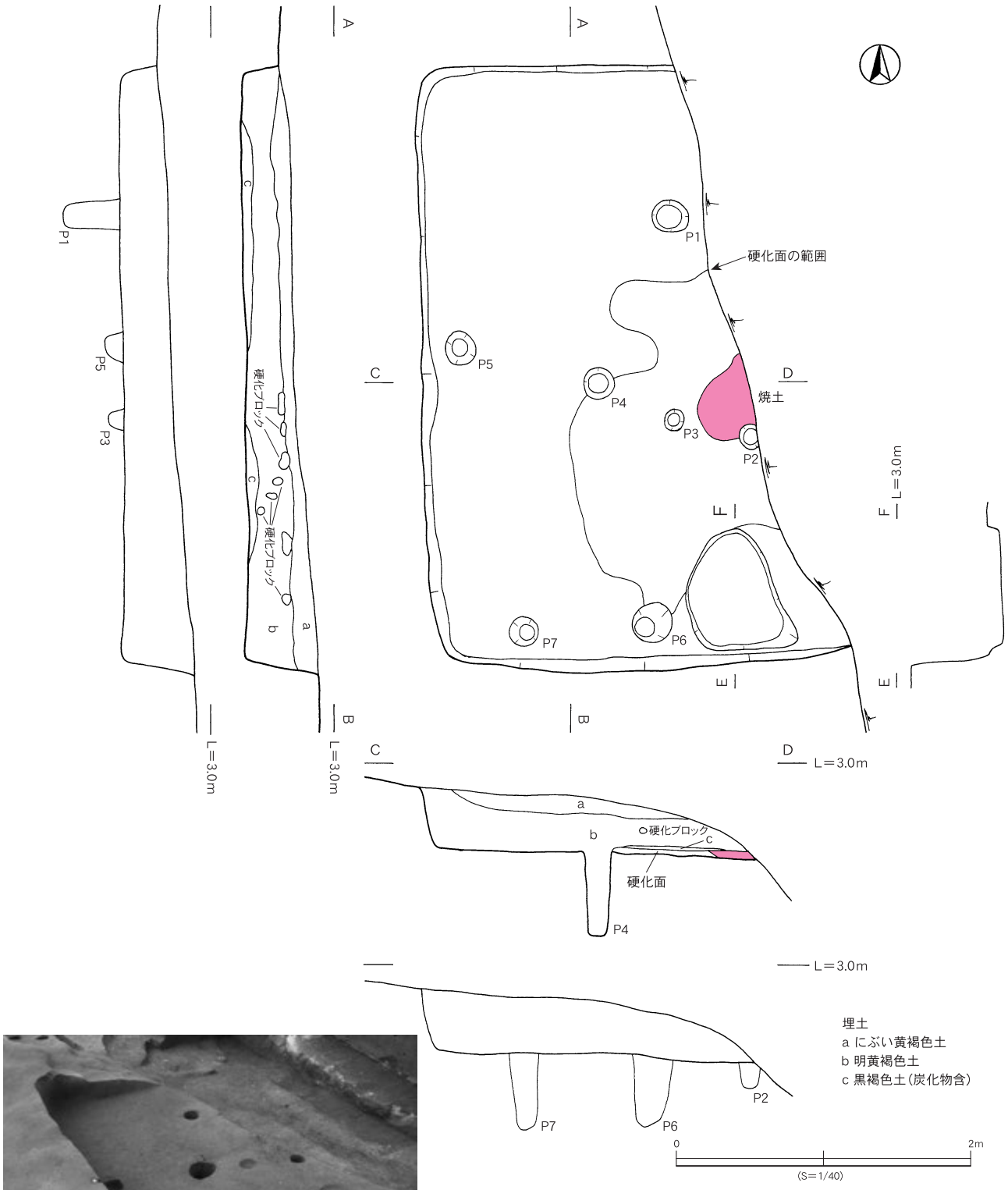


②赤色顔料出土状況

図版13　4号竪穴住居跡検出状況（1）



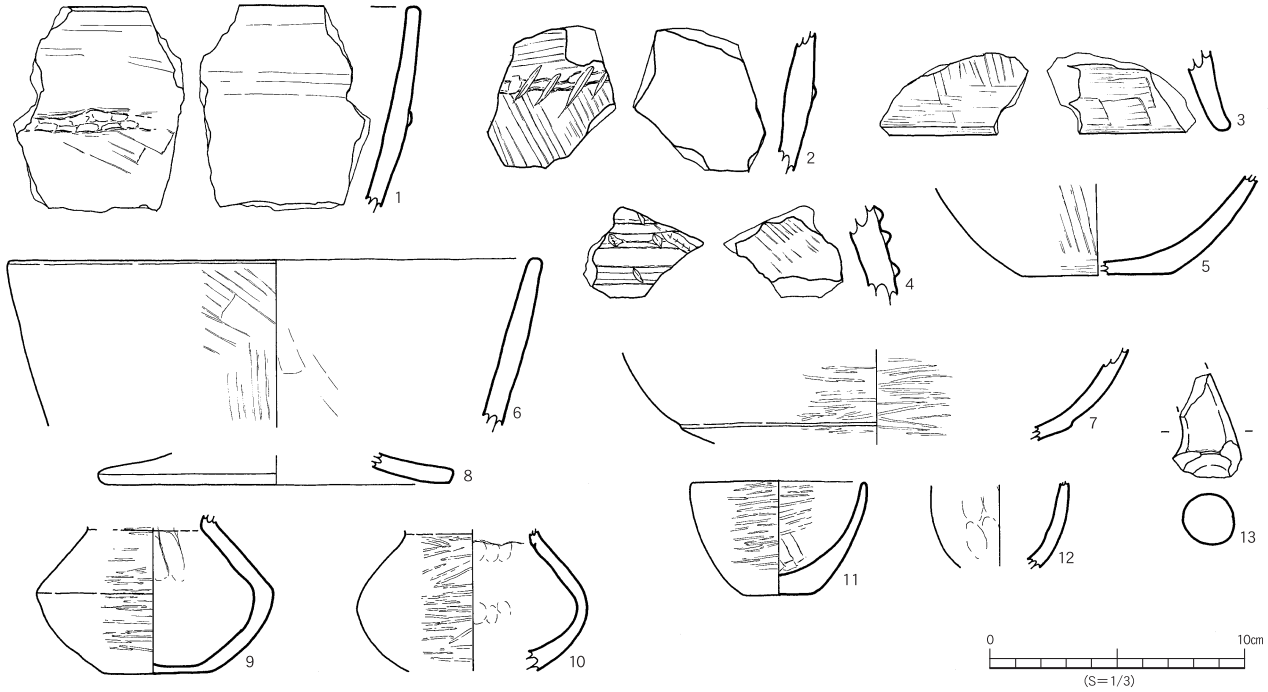
第17図　4号竪穴住居跡内遺物出土状況



第18図　4号竪穴住居跡



図版14　4号竪穴住居跡検出状況（2）



第19図　4号竪穴住居跡内出土遺物実測図

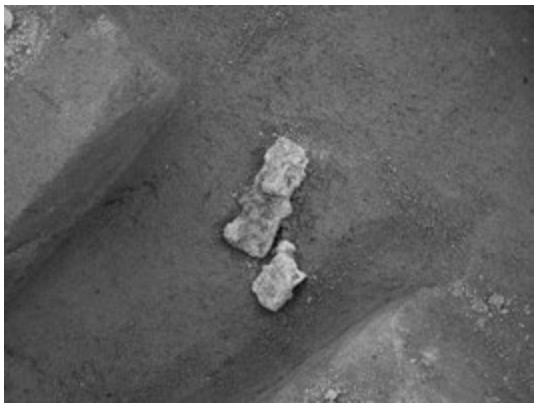
⑤　５号竪穴住居跡

Ｖ－８区でⅢａ層上面で検出された。上面の一部には近世溝状遺構が重なる。また，北側を近世の水田耕作により削平を受け，東側の一部は12年度調査区にかかり，全体像を検出することは出来なかった。当初は，２基の竪穴住居跡の切り合いを想定したため，ベルトと住居跡の軸とにズレが生じている。遺物の取り上げは，小破片についても可能な限り番号を付けてトータルステーションを用いて取り上げを行っている。また，大きめの破片については，別に実測図化に努めた。なお，埋土に関しては現場でふるいにかけて微細遺物の検出などに努めた。床面の検出は，中心部分でミニトレンチなどを設定し，先行して硬化面を探っていった。面的に硬化面が検出された後に，床面精査を行い柱穴と思われる部分を検出した。硬化面の範囲を記録等を行ったあとで，硬化面を剥ぎ取り再度柱穴等の確認作業を行った。その結果，柱穴は８基検出された。この４基の底面には，白色粘土がやや硬化した状態で敷きつめられていた。このことから，柱穴の配置も考慮し，主柱穴はＰ１，２，４，５の計４基を想定した。硬化面は，中央部分が最も厚い。また，住居跡中央部分には炭化物等の広がりが見られる。

５号竪穴住居跡内から出土した遺物は，3,837点で接合作業を経てこの内の62点を図化した。総点内訳は，甕2,121点，壷59点，高坏177点，坩104点，鉄製品１点，小破片その他1,375点である。第20図には，全点出土状況と掲載遺物の出土状況を掲載した。埋土中から満遍なく出土している様子がわかる。また，第21図には接合点数の多かった６点の遺物について出土状況を掲載した。１～20は甕で，口縁部が直行ないしわずかに内湾する資料が多



①遺物出土状況

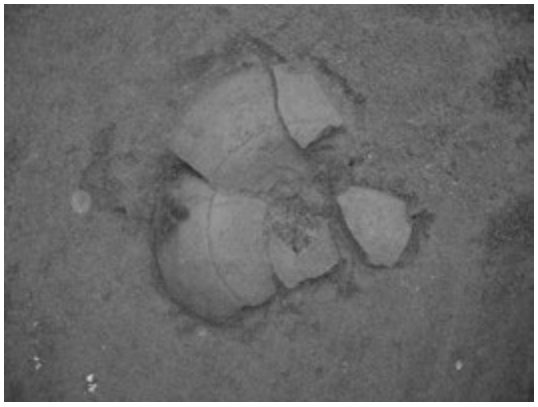


②鉄製品62出土状況

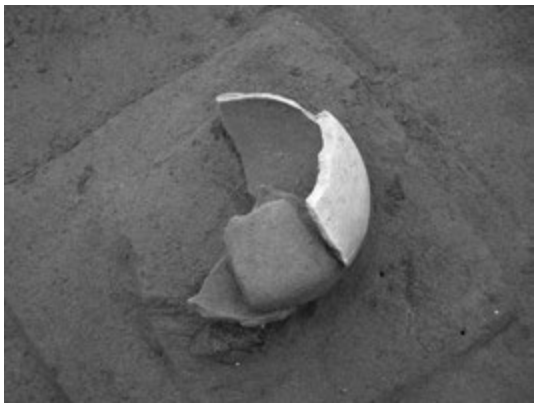
図版15　5号竪穴住居跡検出状況（1）



①29



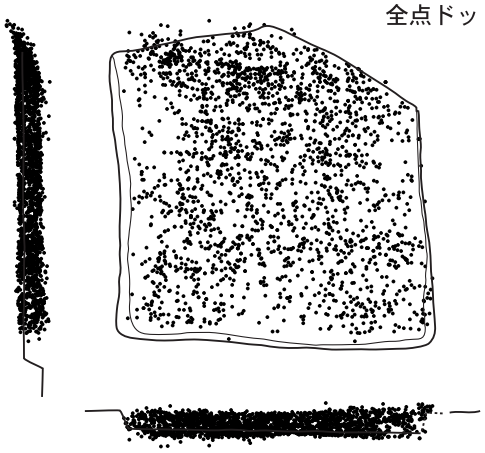
②38



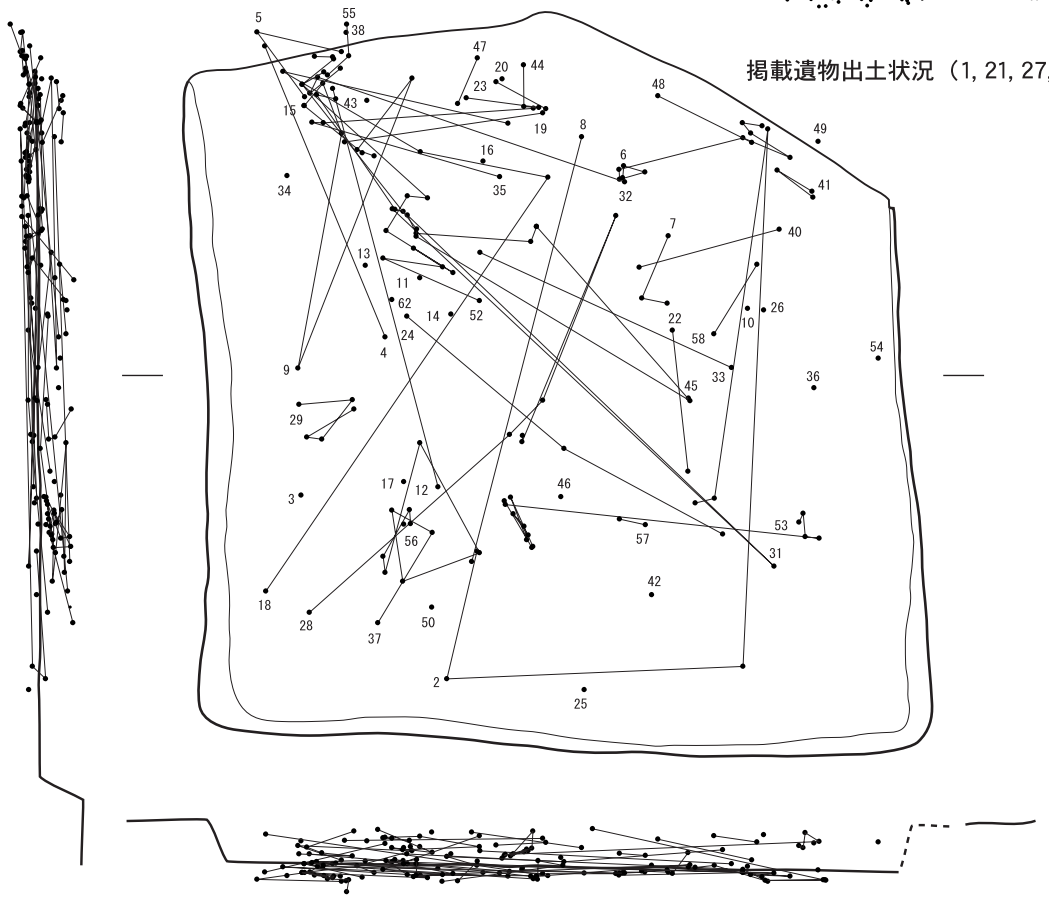
③53

図版16　5号竪穴住居跡内遺物出土状況

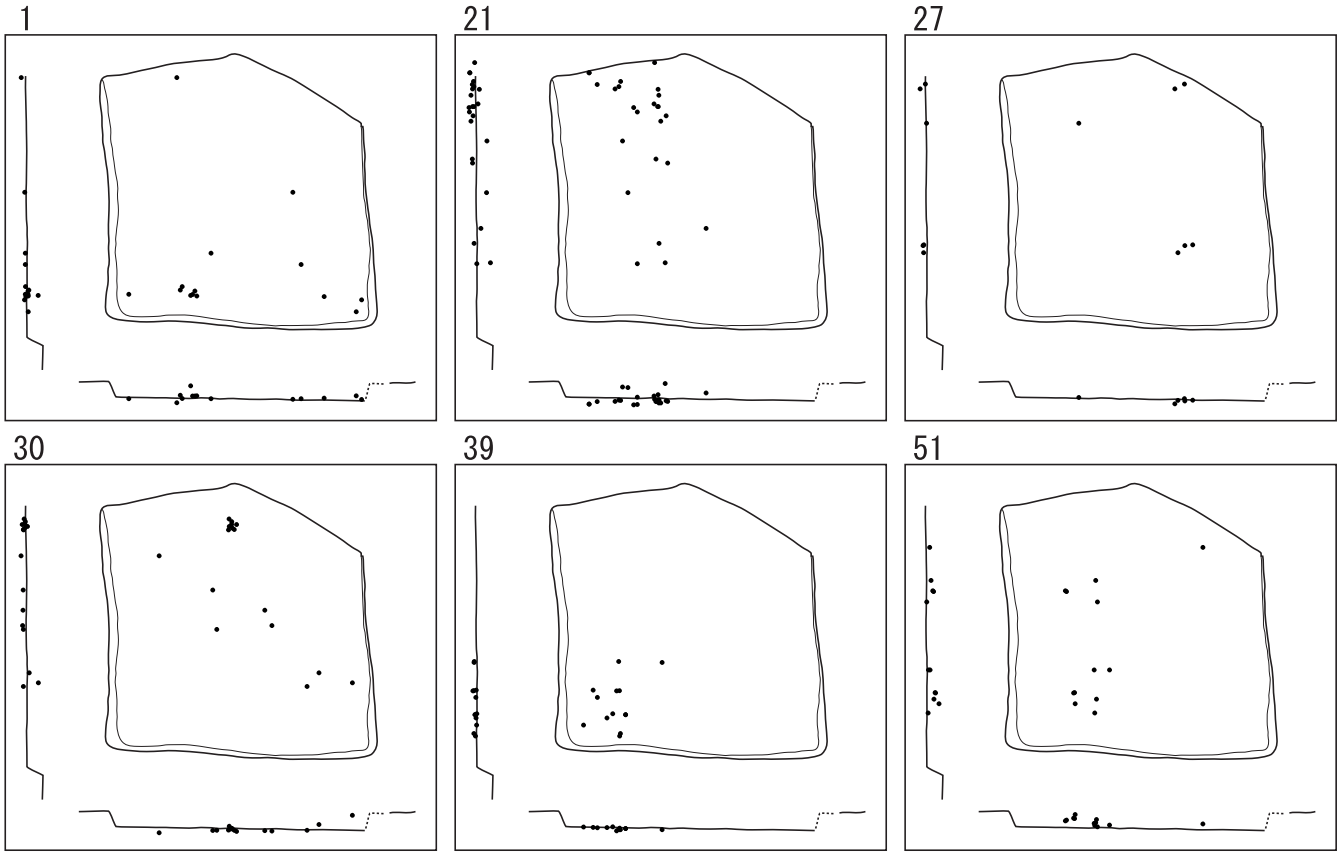
全点ドット



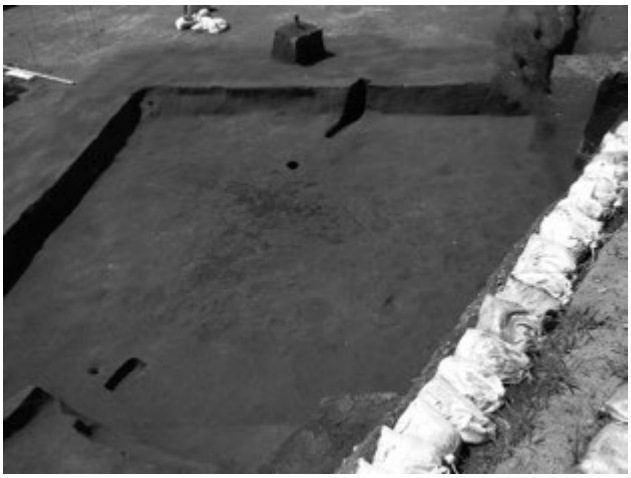
掲載遺物出土状況（1, 21, 27, 30, 39, 51 除く）



第20図　5号竪穴住居跡内遺物出土状況①



第21図　5号竪穴住居跡内遺物出土状況②



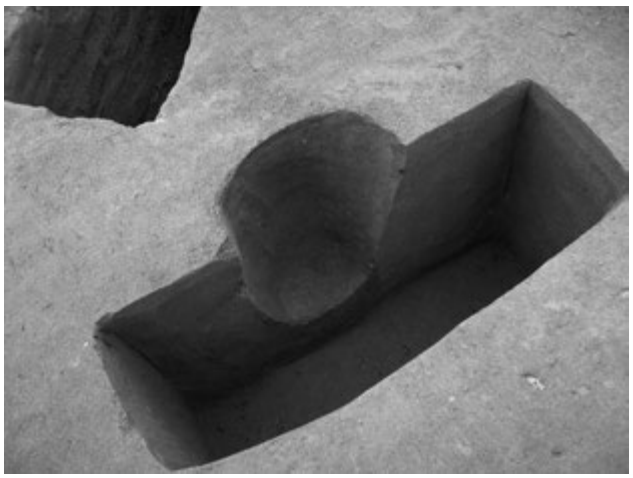
①床面の状況



②柱穴検出状況

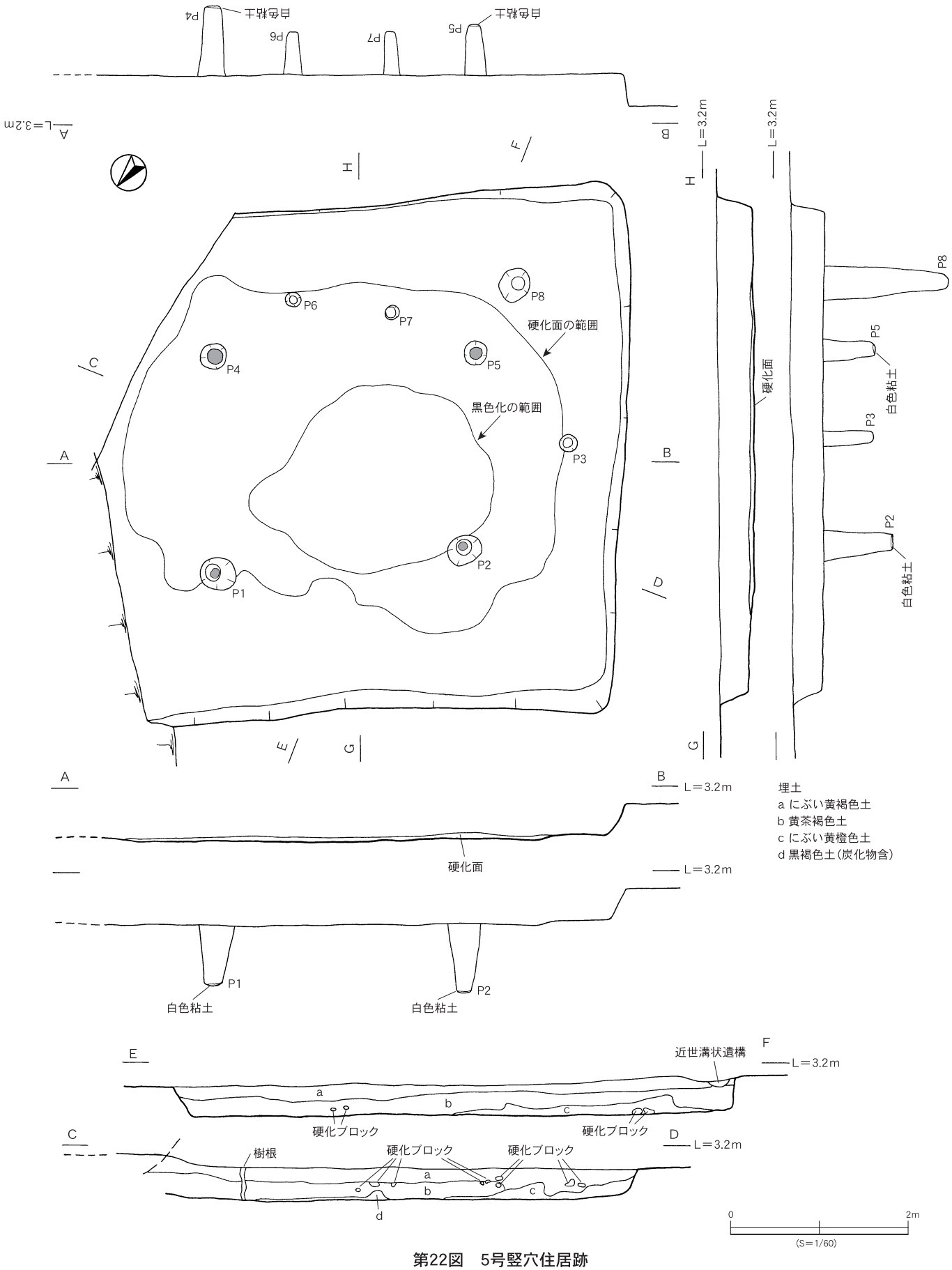


③柱穴半載状況

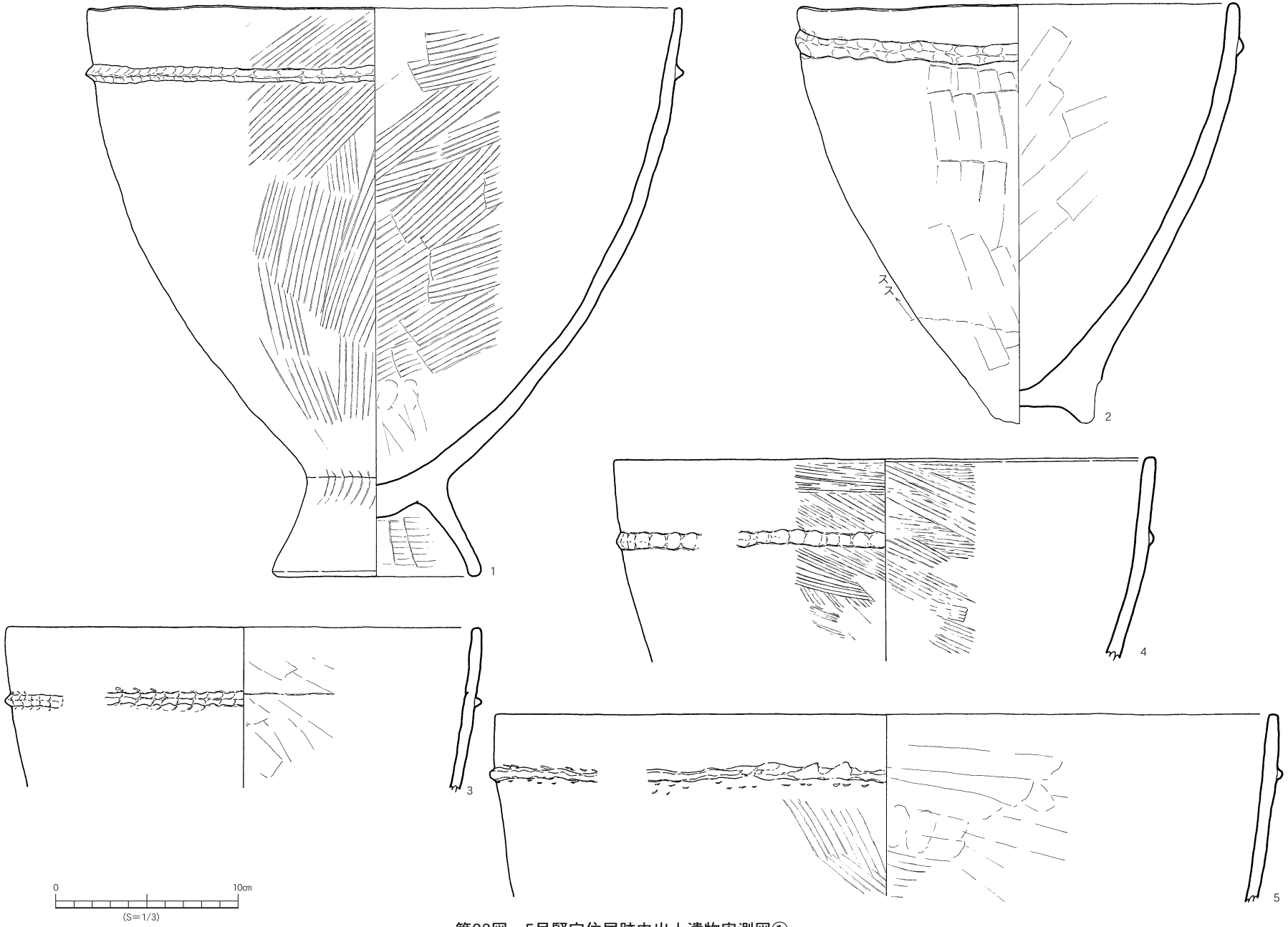


④柱穴完掘状況

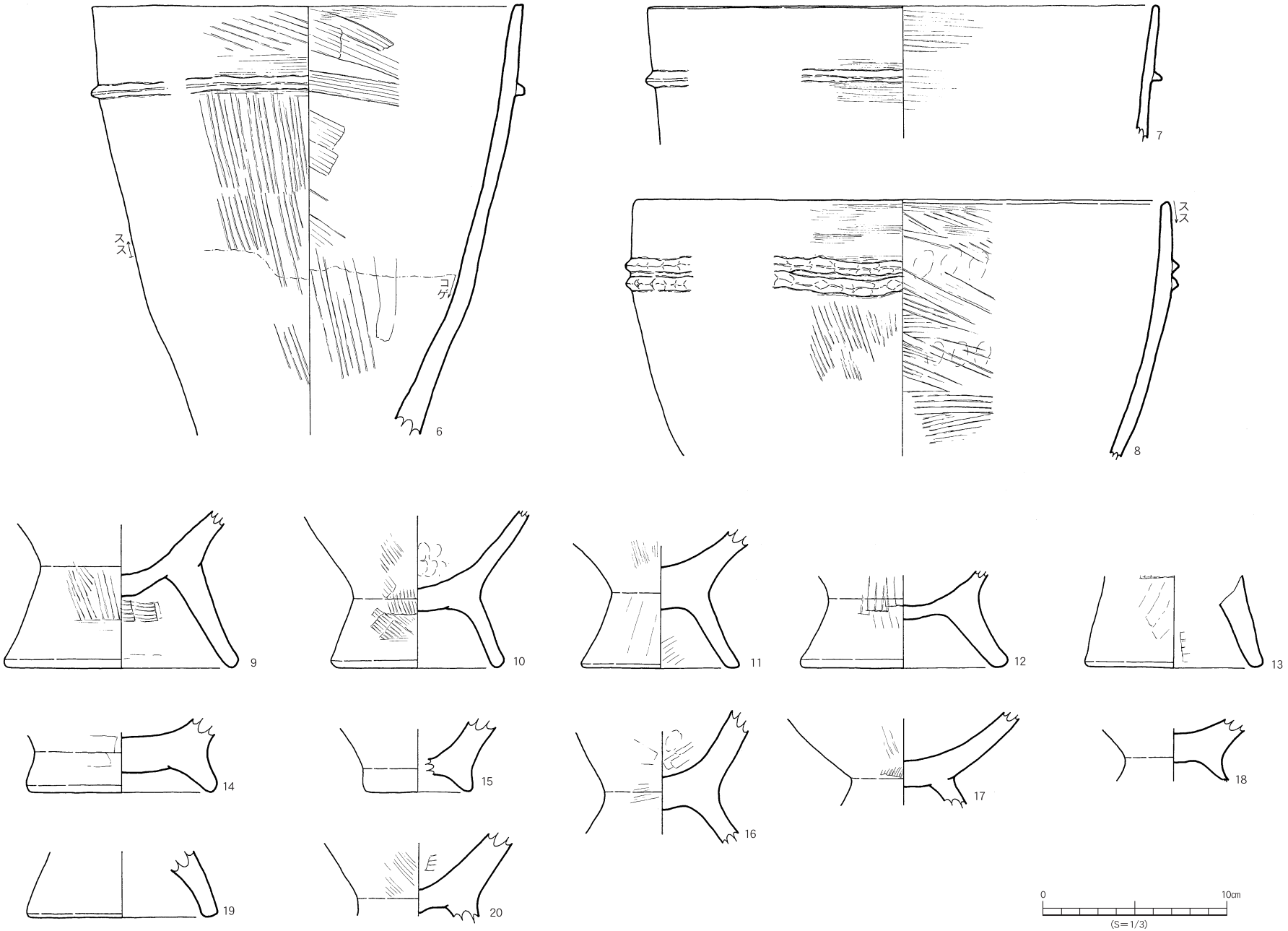
図版17　5号竪穴住居跡検出状況（２）



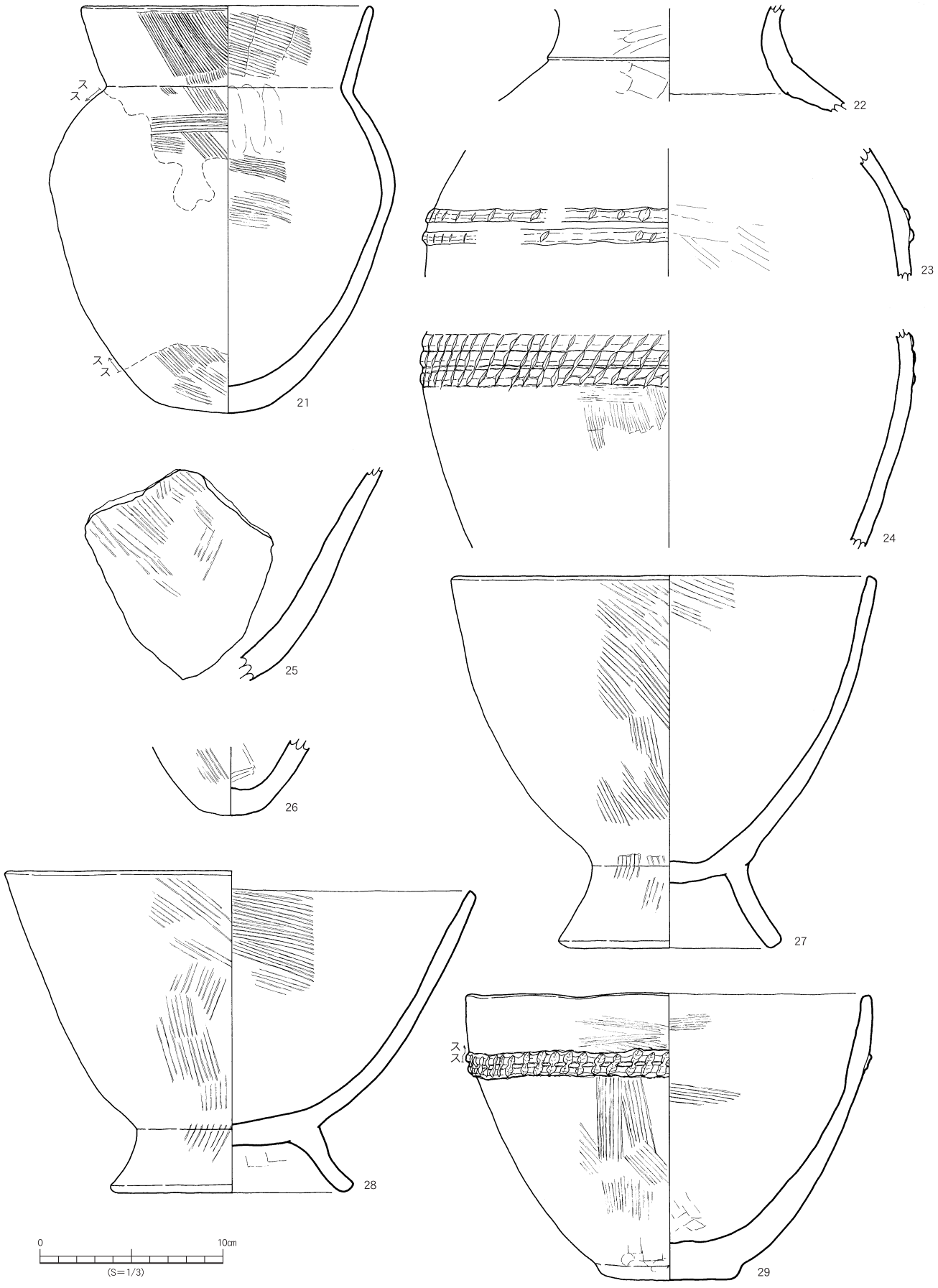
第22図　5号竪穴住居跡



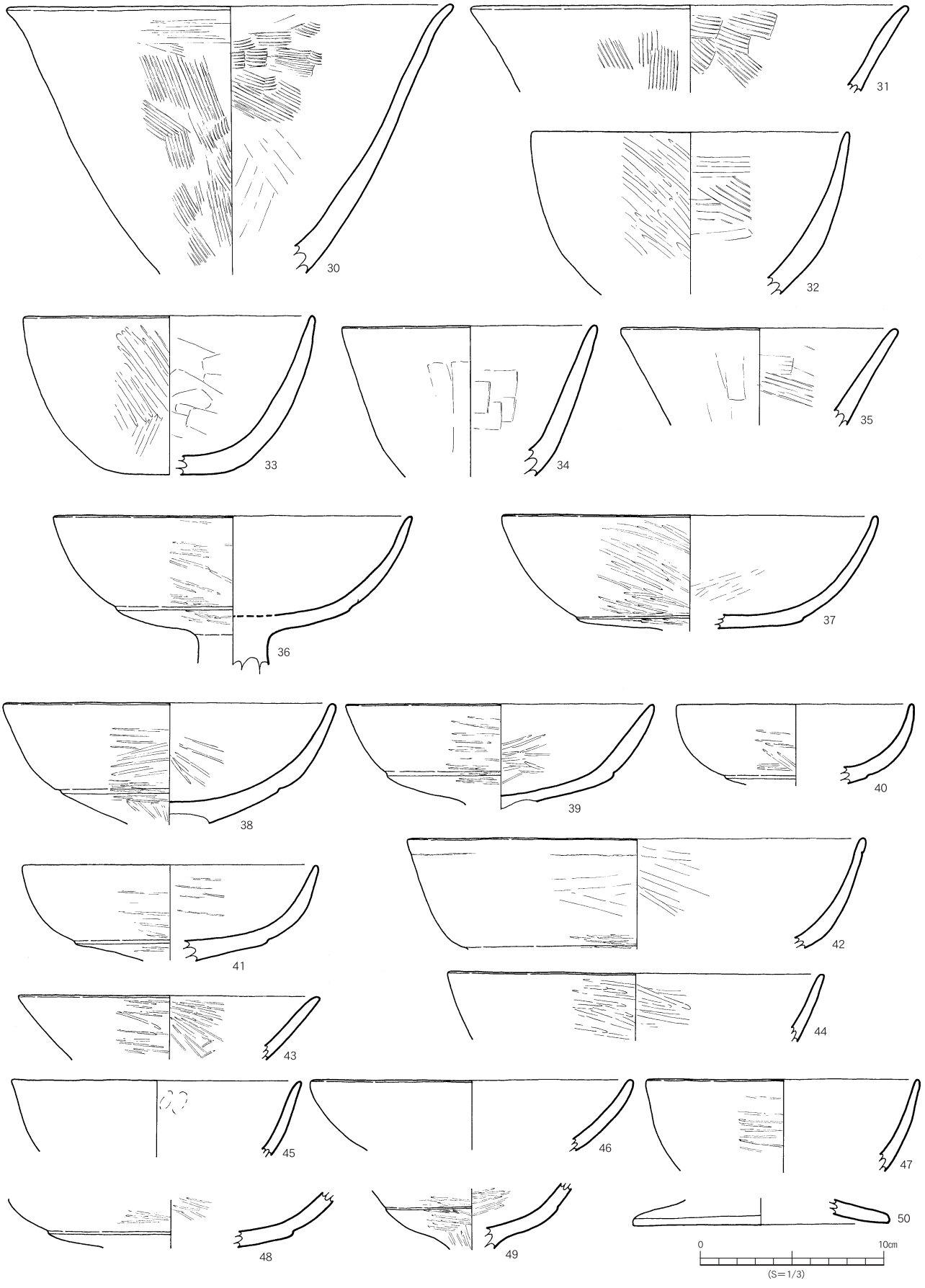
第23図　5号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



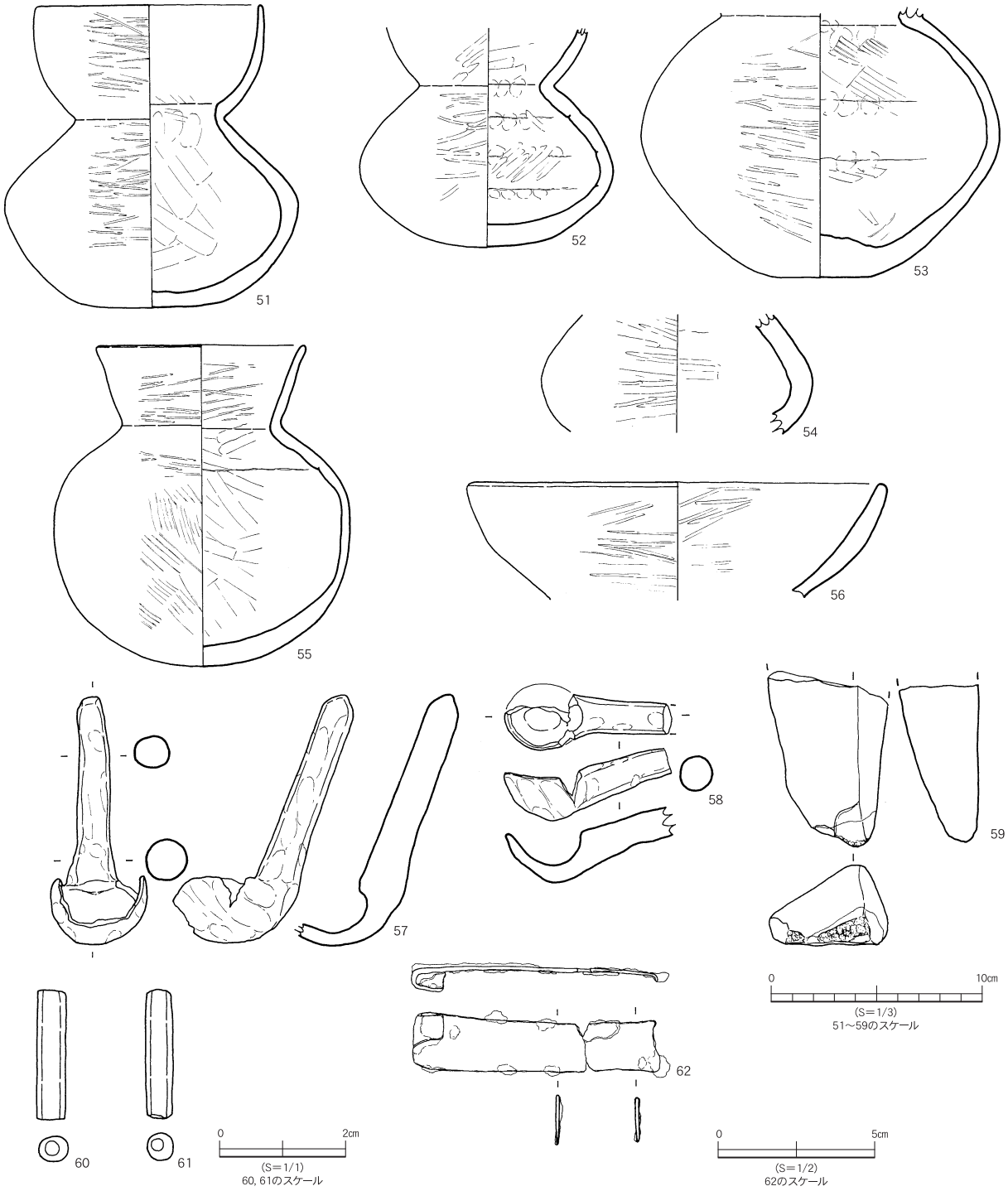
第24図　5号竪穴住居跡内出土遺物実測図②



第25図　5号竪穴住居跡内出土遺物実測図③



第26図　5号竪穴住居跡内出土遺物実測図④



第27図　5号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑤

い。突帯の貼り付けは，指で突帯の上下を挟むように行われ，結果断面形が三角形状を呈している。ただし，摘み痕やその際器面に爪が触れた痕跡などをそのままに残している資料も多い。21は丸底甕である。器面に剥落が目立つ。29は，脚を有しない鉢であるが，器壁が厚く重量感がある。52は，二次焼成を受けているのか，あるいは指宿色なのであろうか，桃色に変色している。粘土紐の積み上げ痕が内面に顕著に残されている。57は匙形土製品である。匙部の先端を欠くがほぼ完形品である。62は，図版15－②の状態で出土した鉄製品である。いわゆる摘鎌で，折り返しの状態を見ると，刃部が比較的長い状況が考えられる。

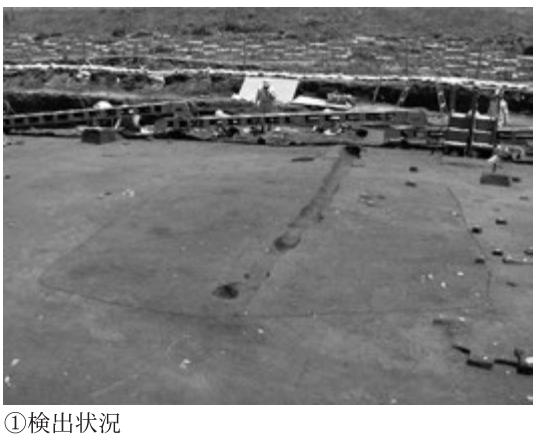
⑥　６号竪穴住居跡

Ｕ・Ｖ―９区のⅢａ′層において検出された。検出上面には，近世溝状遺構が重なる。プランは5.9ｍ×5.4ｍの方形であり，比較的大型である。軸は，ほぼ東西南北と一致しており，平面形は略方形である。特筆すべきは，硬化面と炭化物のシミが２面検出されたことであろう。これは，２時期にわたって生活が営まれていたためと考えたが，上下間で遺物は接合する。このため，極めて短期間の時間差しかないと考えられる。

上の硬化面は，遺構検出面から約20㎝下で検出されている。硬くしまり，酸化鉄斑を見る。土器のほか炭化種子などが出土した。南側の壁に沿うようなかたちで，溝状の掘り込みがみられた。この遺構の底部付近で高坏の破片が多く出土した。

下の硬化面は，上の硬化面より約50㎝下方で検出されている。特徴的なのものは，生粘土塊が４箇所から出土したことである。中央付近は炭化物のしみ込みが特に濃く，擂り鉢状の堆積を見せるとともに焼土も検出されている。また，南側には楕円形を呈した長軸約95㎝深さ約30㎝の土坑がある。遺構内から土器片と生粘土が出土している。また，土坑と隣接する地点で数個の礫が出土している。床面の南側でまとまって出土しているが，被熱の痕跡や敲打痕がわずかに認められる資料等が含まれている。いずれも棒状で表面はスベスベとしている。これらについて，礫の計測は表１に示している。

ピットは９基検出できた。このうちＰ１，３，８の底面には白色砂質土が突き固められるようにして堆積していた。この状況は，隣接する５号竪穴住居跡と同様である。６号竪穴住居跡内から出土した遺物は，5,061点で接合作業を経てこの内の90点を図化した。内訳は甕1,130点，壷30点，高坏140点，坩86点，小破片その他3,675点である。また，モモ核が１点出土している。１から42は甕である。突帯は摘み上げによる断面三角形状を呈する資料が多いが，中には，２のようにヘラ状工具によるキザミ



①検出状況



②遺物出土状況



③床面検出状況1

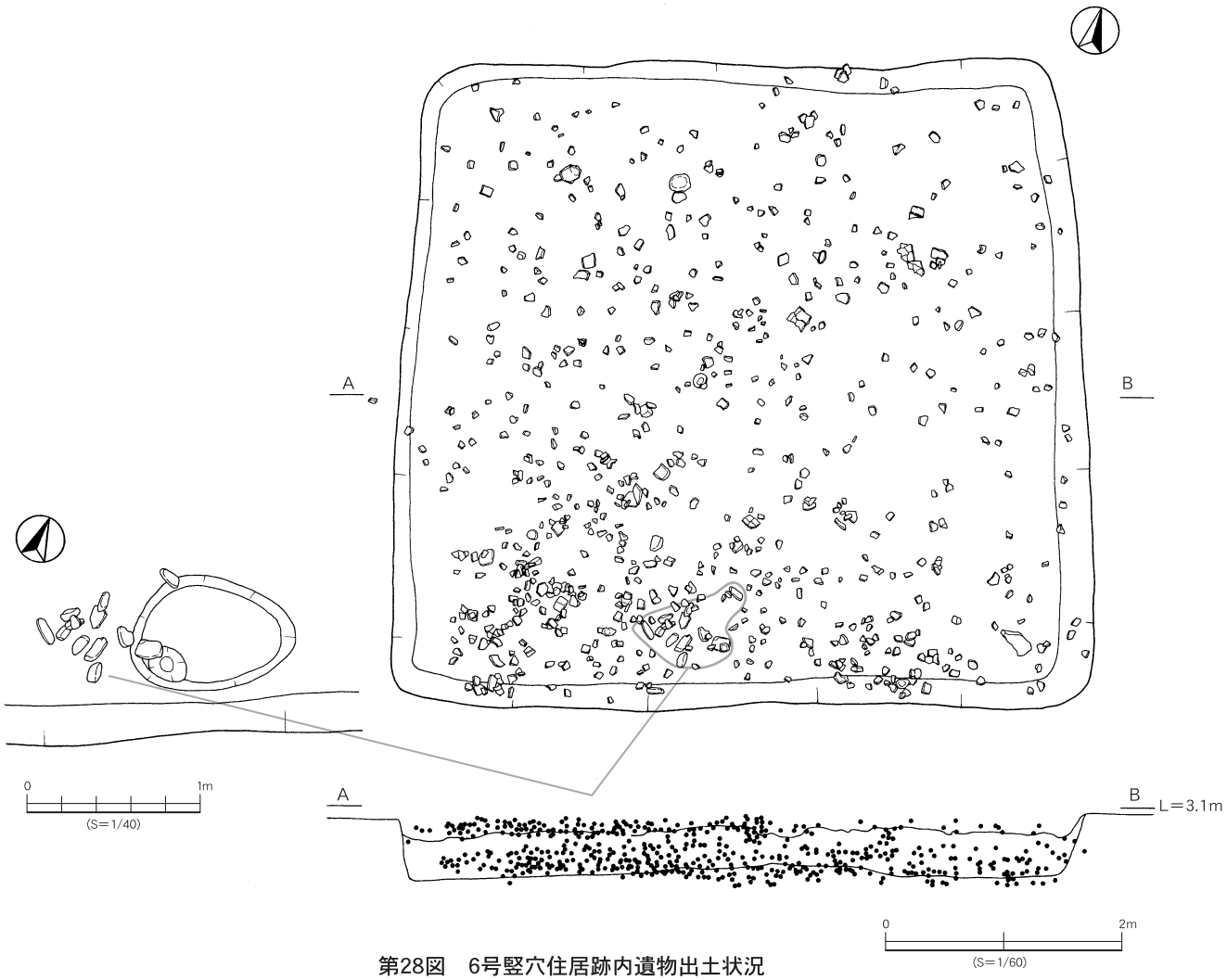


④床面検出状況2



⑤完掘状況

図版18　6号竪穴住居跡検出状況



第28図　6号竪穴住居跡内遺物出土状況

表1　6号竪穴住居跡内出土礫計測表

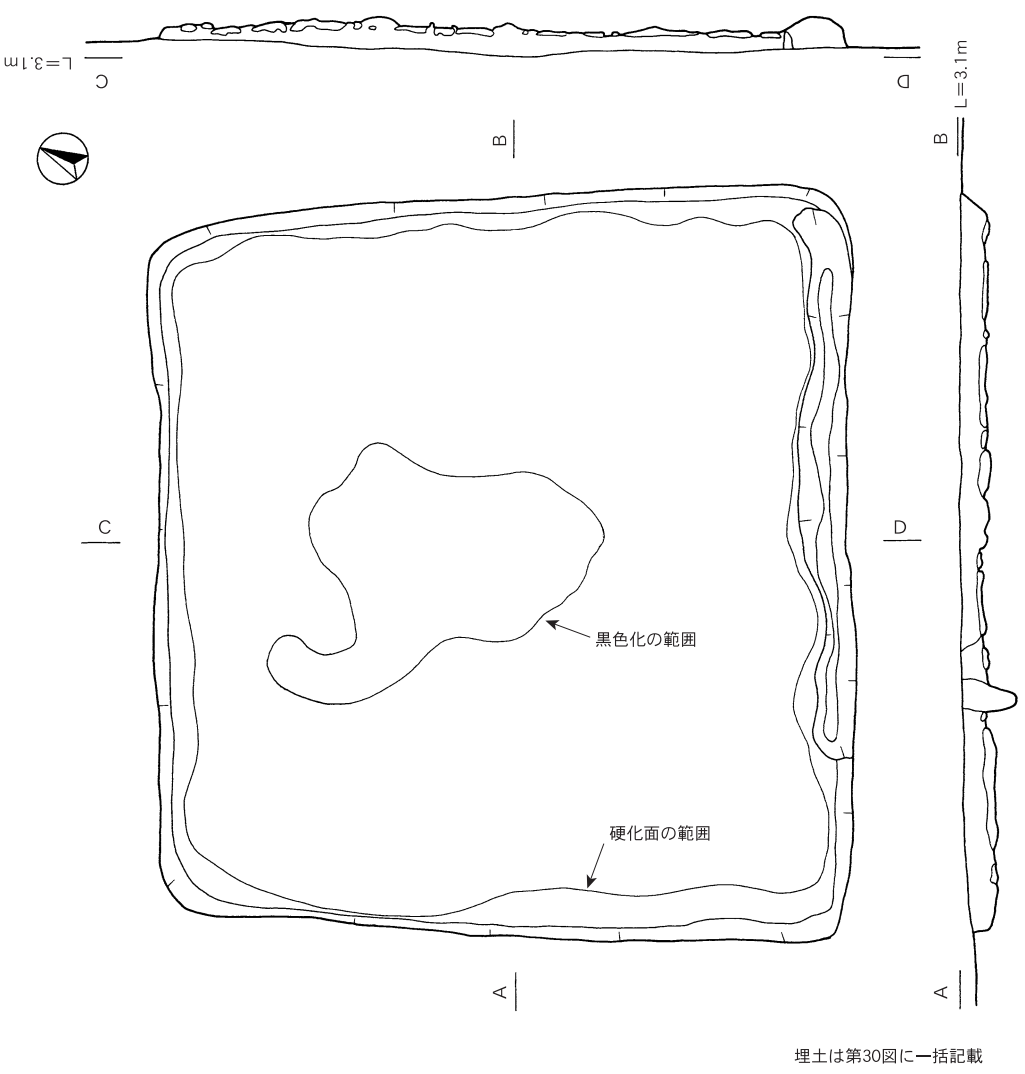
番号	重量(kg)	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	0.36	7.9	6.9	4.4	欠損
2	0.78	13.6	7.6	7.3	欠損
3	0.54	14.8	9.2	4.2	欠損
4	0.06	5.1	4.8	5.0	欠損
5	0.20	12.5	5.0	4.0	
6	0.35	15.7	4.3	3.2	欠損
7	0.50	14.2	6.7	4.0	
8	0.52	16.8	5.3	4.6	敲打痕
9	0.40	13.2	6.1	3.9	
10	0.57	14.0	6.2	4.6	
11	0.40	16.0	5.1	3.7	
12	0.87	15.5	11.7	3.2	敲打痕
13	0.46	14.2	6.4	4.4	敲打痕
14	0.65	18.8	6.5	4.1	
15	0.64	16.3	6.1	4.3	
16	0.57	18.7	6.1	4.9	
17	0.34	15.8	5.4	4.7	



図版19　6号竪穴住居跡内の礫集中

を有する資料もある。１・４は，突帯貼付の始まりと終わりとがわずかにズレている。11は粘土接合部分に突帯を貼り付けている状況が観察出来る。25・26は口縁部から胴部にかけての資料である。形状から丸底を呈するものと思われる。64～66は高坏であるが，皿部下の段が確認出来ない。73～75は坩でも小型の部類に属する。86は，棒状礫で先端部が敲打により平坦面が形成され，被熱により赤化している。88は，全体的に摩滅しており，側面には長軸に直行する擦痕が稜線部分に観察される。89は砂岩製の砥石である。礫の各面に研ぎ面が観察出来る。

①上の硬化面



第29図　6号竪穴住居跡（上の硬化面）



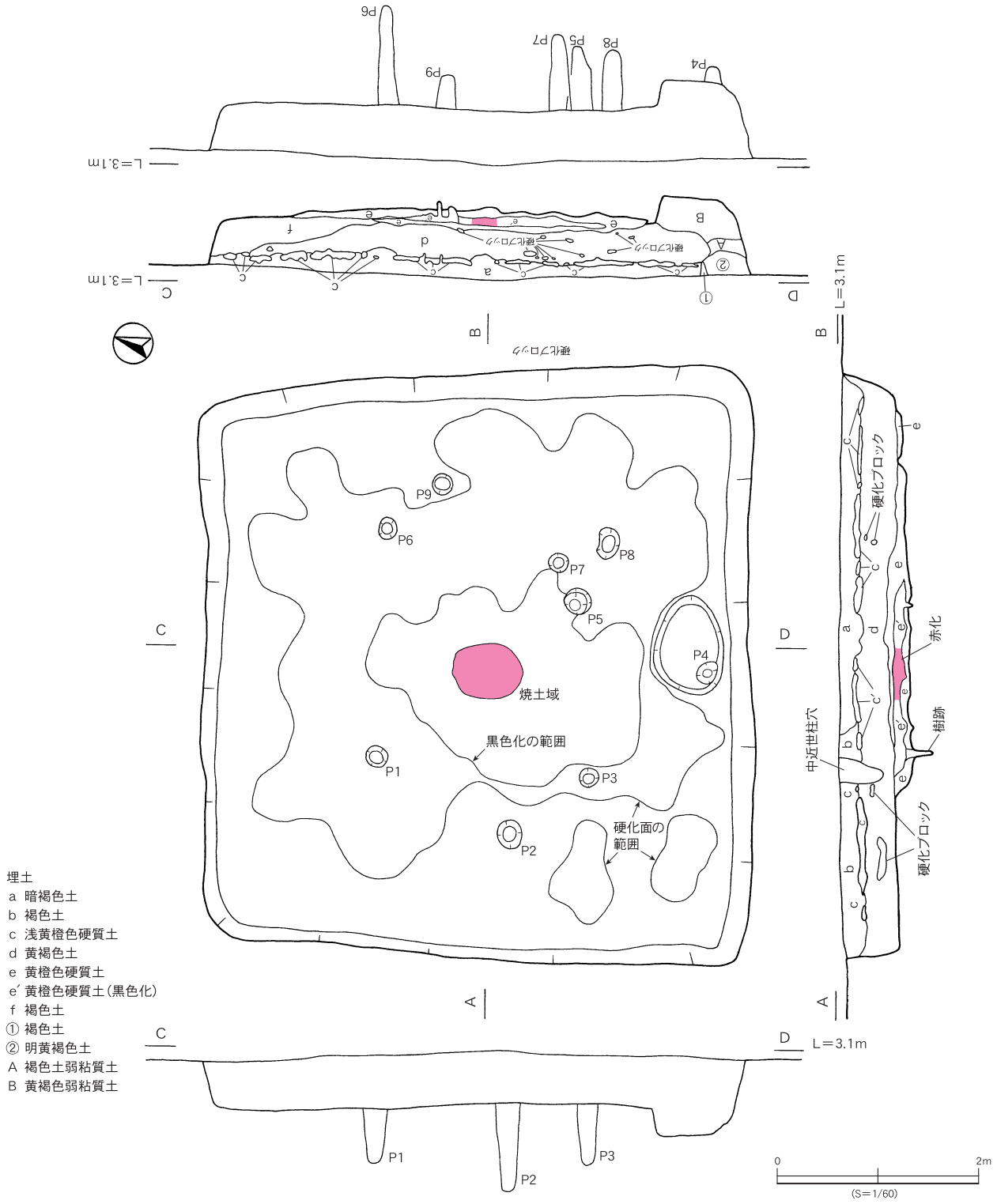
①中央部分



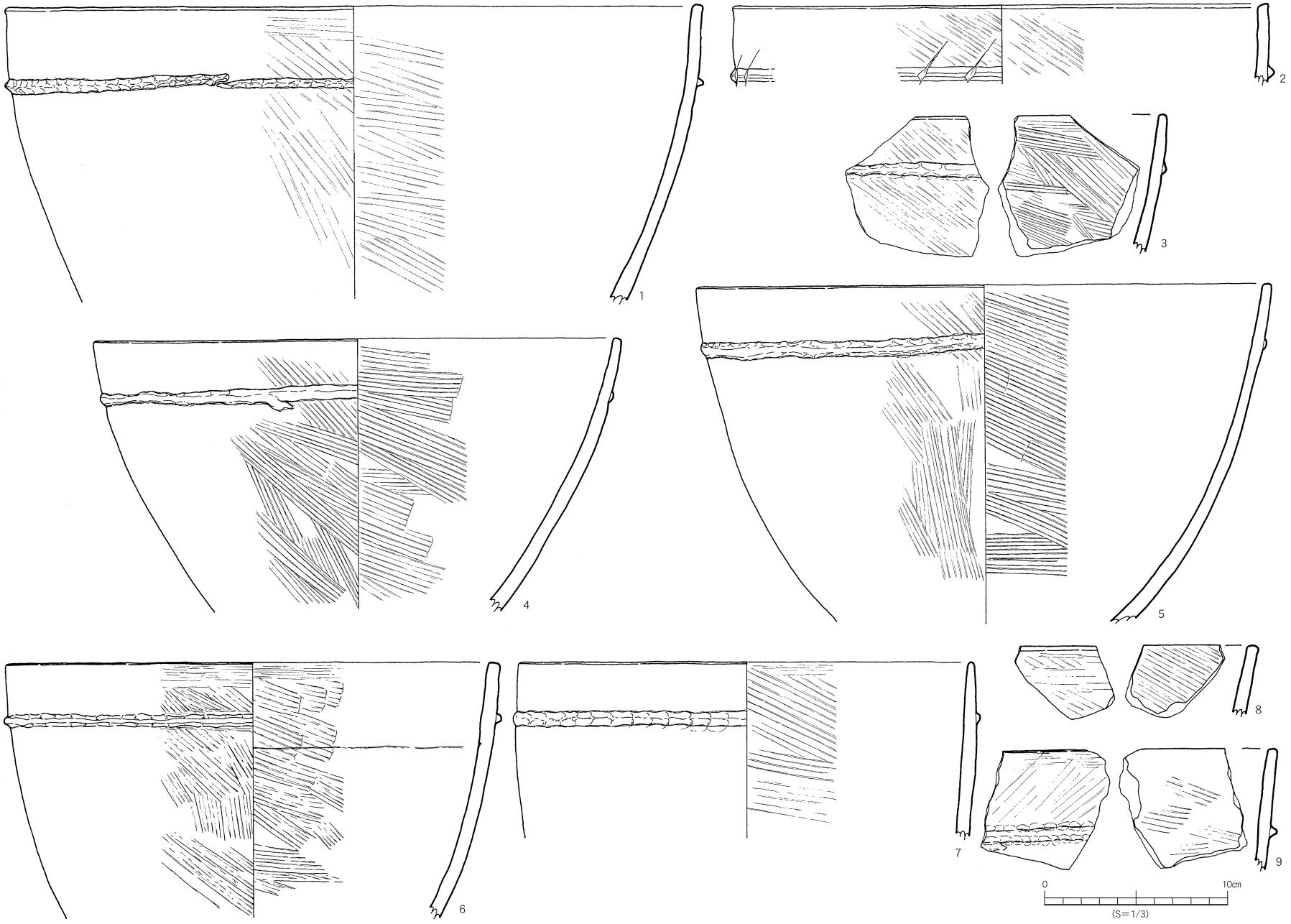
②断面Ａ－Ｂライン

図版20　6号竪穴住居跡硬化面の状況

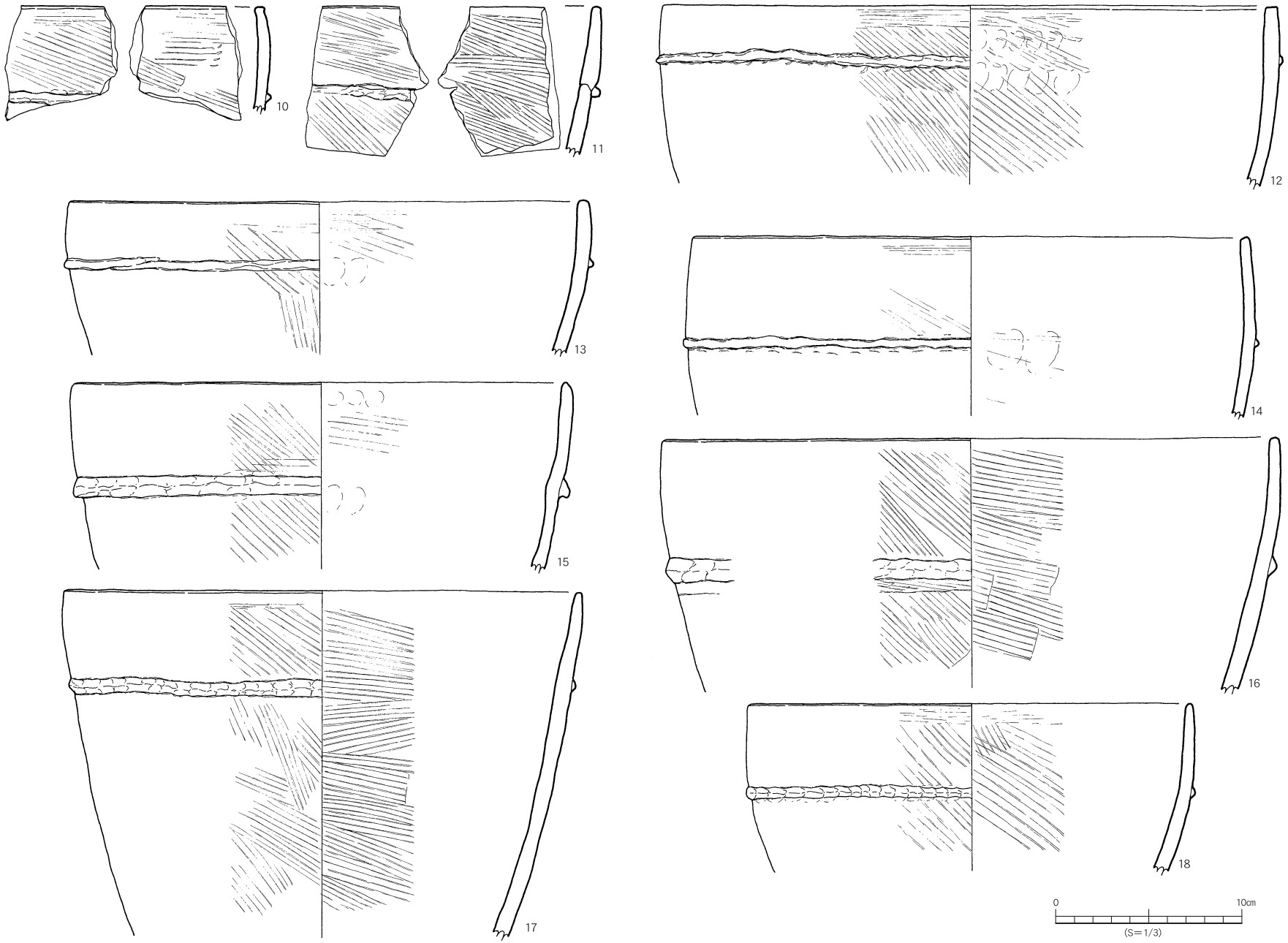
①下の硬化面



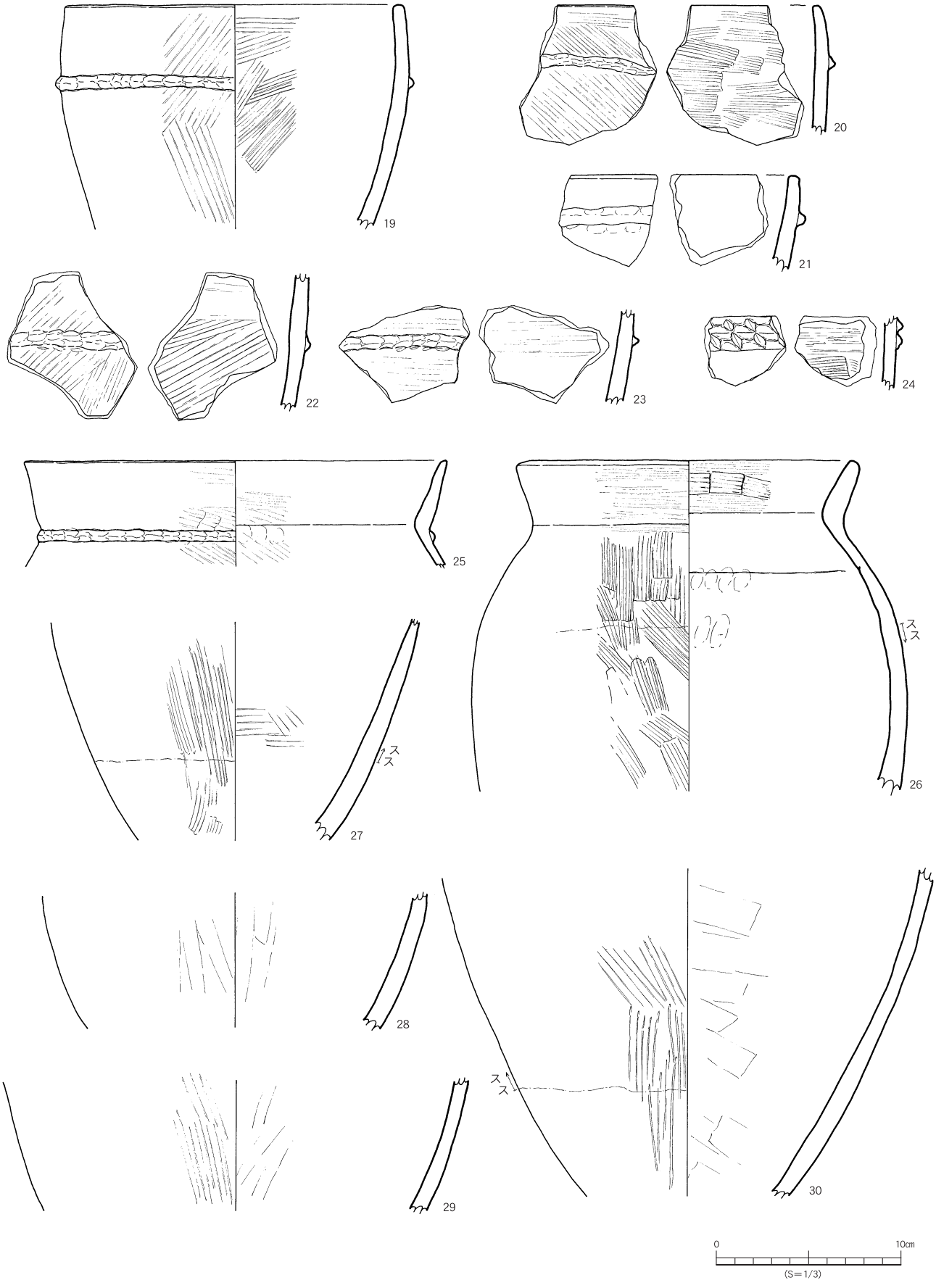
第30図　6号竪穴住居跡（下の硬化面）



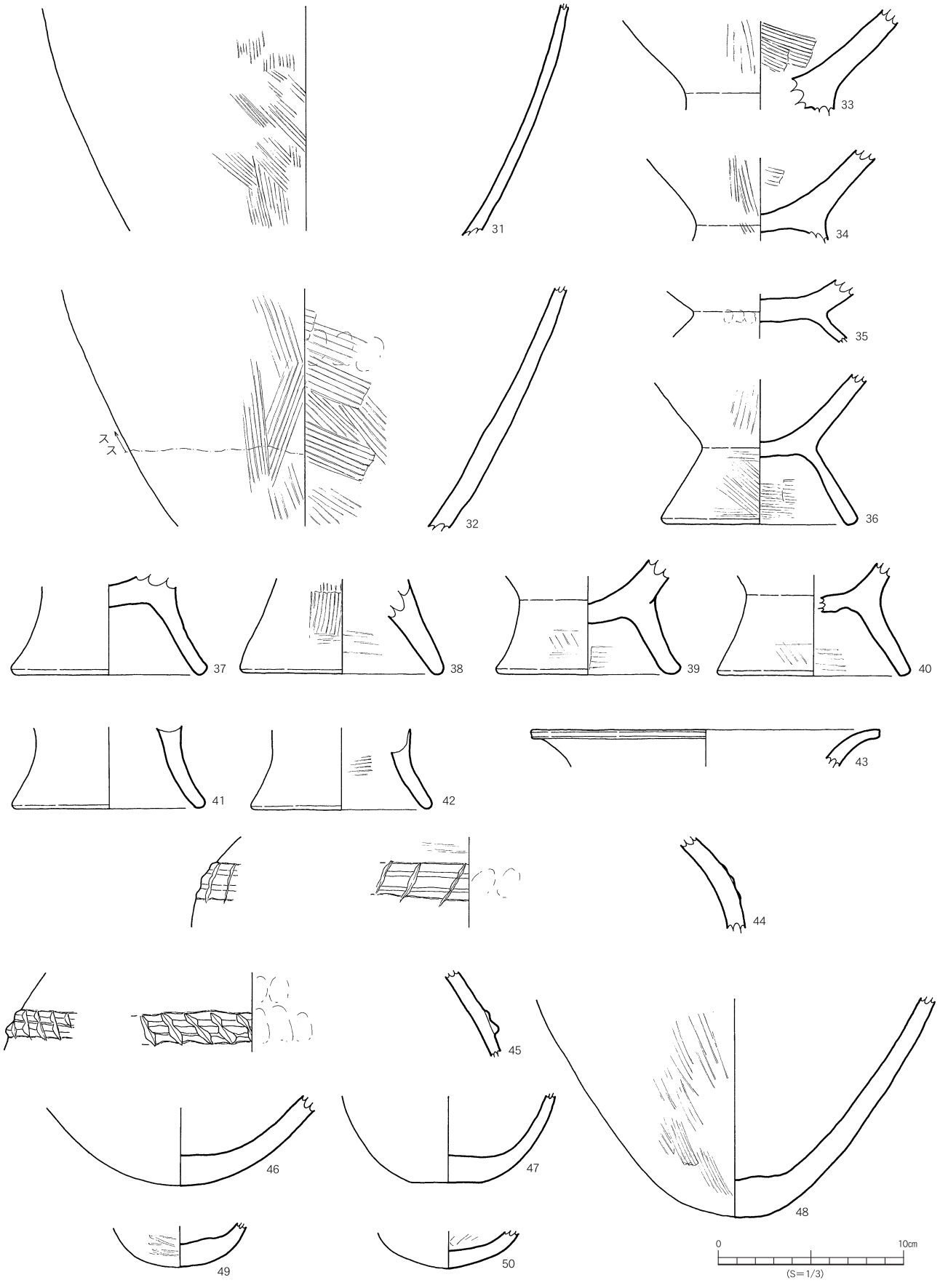
第31図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



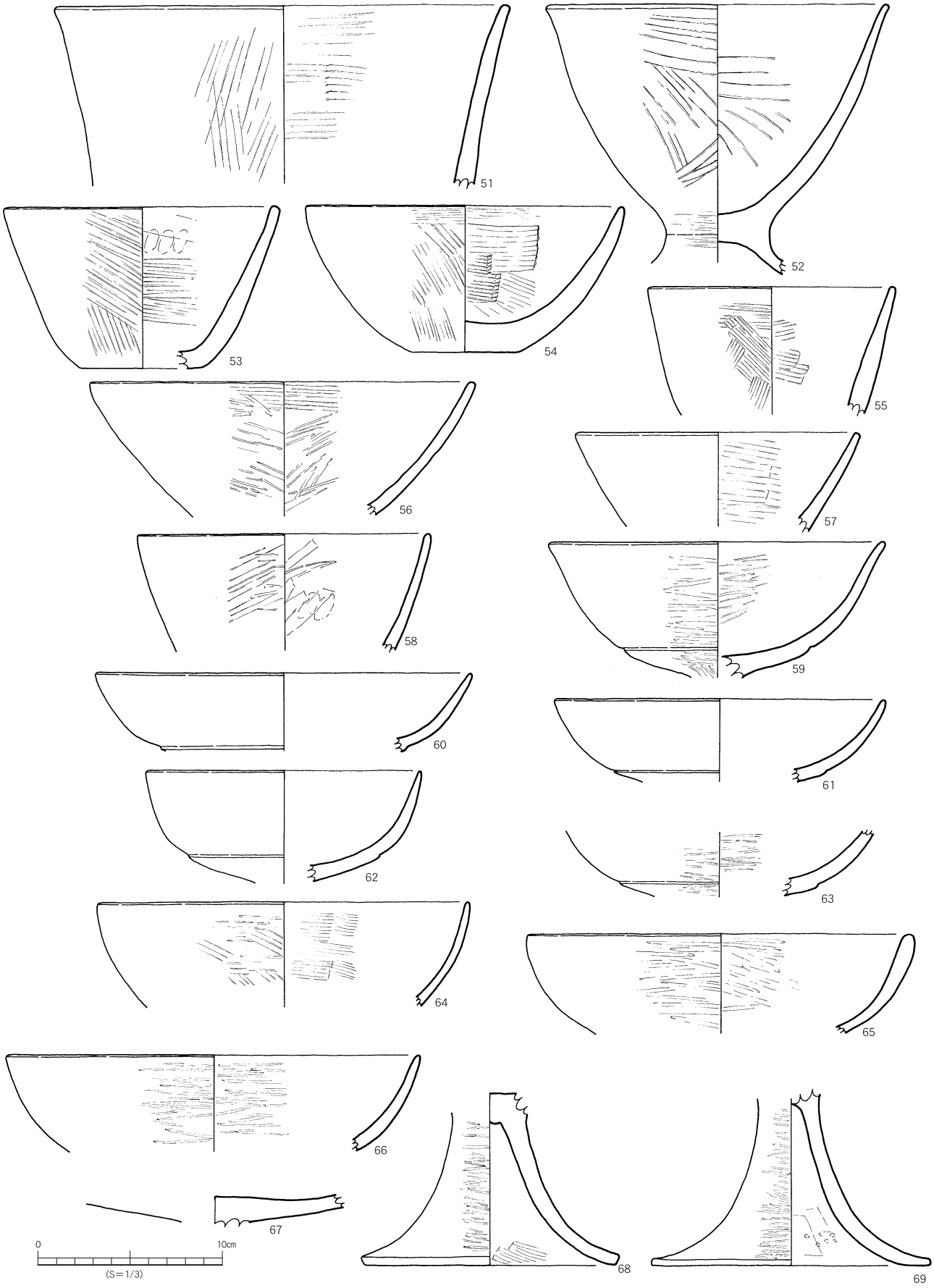
第32図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図②



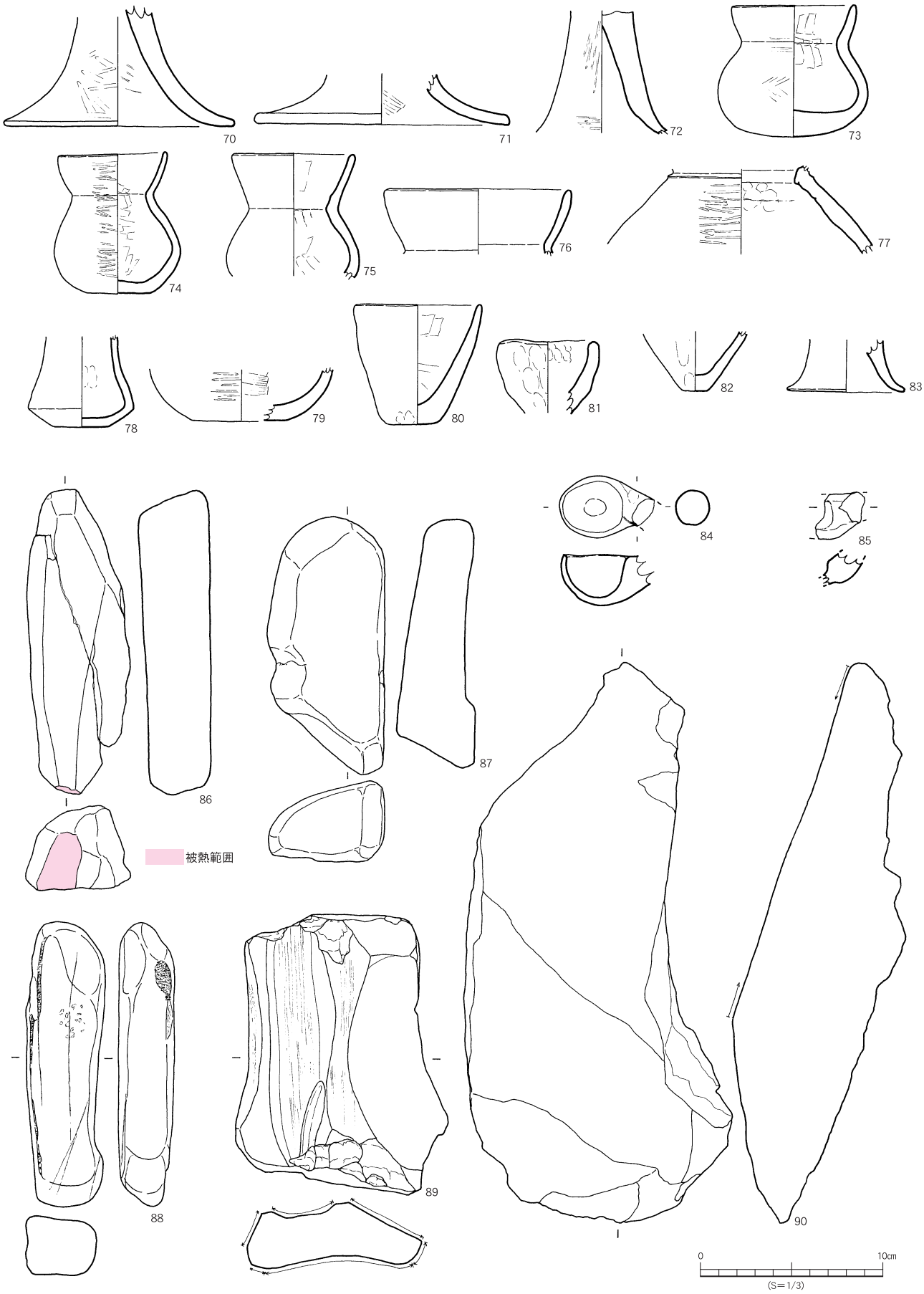
第33図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図③



第34図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図④



第35図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑤



第36図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図⑥

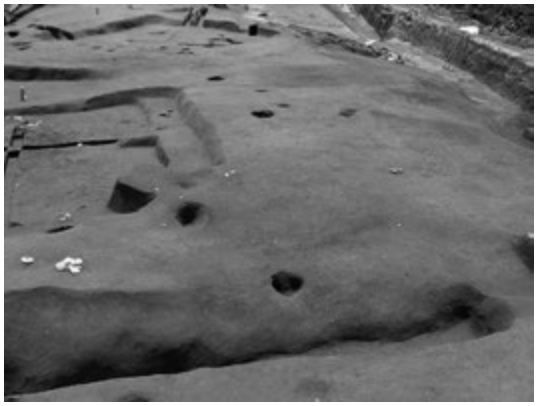
⑦　７号竪穴住居跡

Ｔ・Ｕ－９区でⅢａ′層上面で検出された。北側の一角が近世・近代の溝状遺構に，南東側の一角が８号住居跡に切られているので完全な形では残っていない。最終的なプランは，3m×2.4mで床面の深さは検出面から約20㎝であった。床面は，北東側が堅く締まっている様子が確認されたが，この部分以外ではそれほど硬化していない。そのため，ベルトに沿うかたちでミニトレンチを設定して再度床面の確認を行った。この作業により，下には他の硬化面はないことが判明した。また，住居跡床面東端には埋土中に炭化物がみられる土坑が検出された。この中には，礫が４点入っており，被熱を受け，かつ敲打痕を有していた。

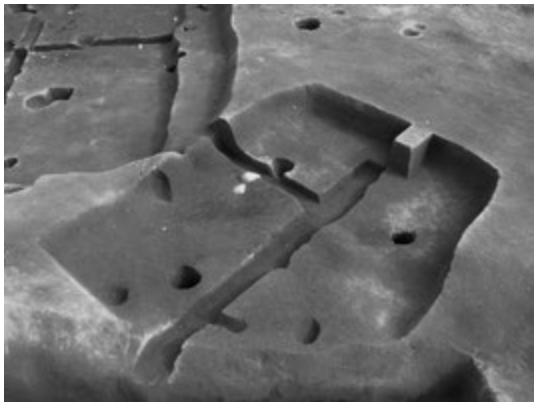
硬化面の範囲の記録を行った後に，硬化面を剥ぎ取り柱穴などの確認作業を行った。その結果，柱穴とみられるピットが４基検出された。竪穴住居跡のプランやピットの配置等から判断して，これらが主柱穴であると考えられる。

遺物は，検出面で小破片の状態で出土した。この遺物については，一括取り上げを実施した。この中には，甕・高坏・坩（小型丸底壺）などの一部も出土している。

７号竪穴住居跡内から出土した遺物は，140点で接合作業を経てこの内の５点を図化した。時期判断が行える資料は少なく，断定出来る状況にはないが，１のように口縁部が外反して，工具痕で外面に稜線を作り出しつつ上方へ掻き上げる特徴から他の住居跡内資料より先行するものと思われる。この点は，８号竪穴住居跡との切り合い関係からも違和感はない。

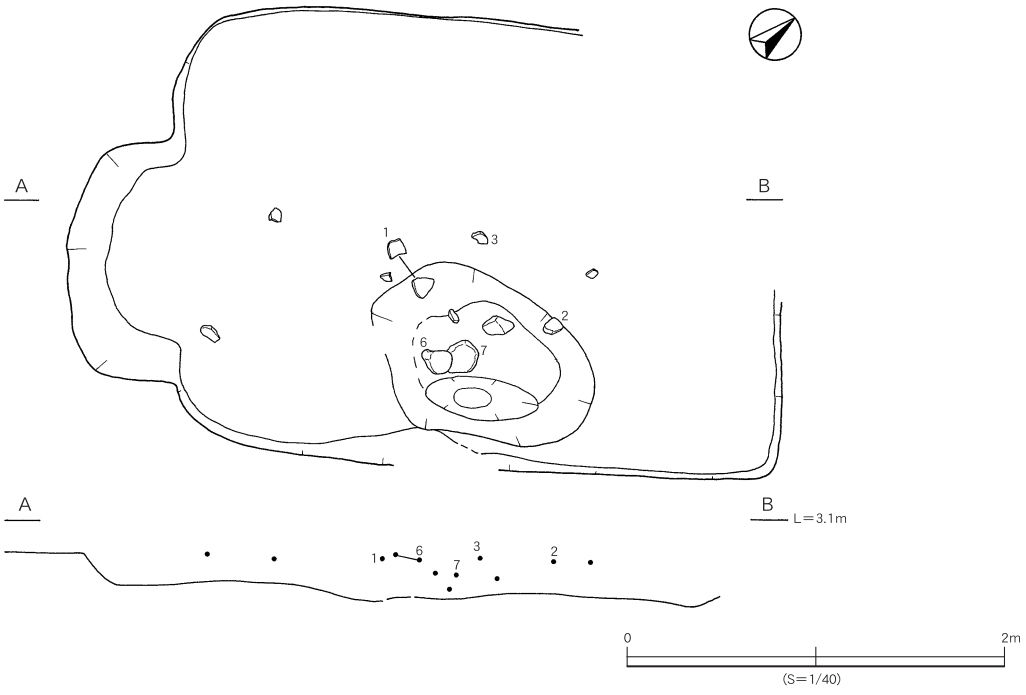


①検出状況

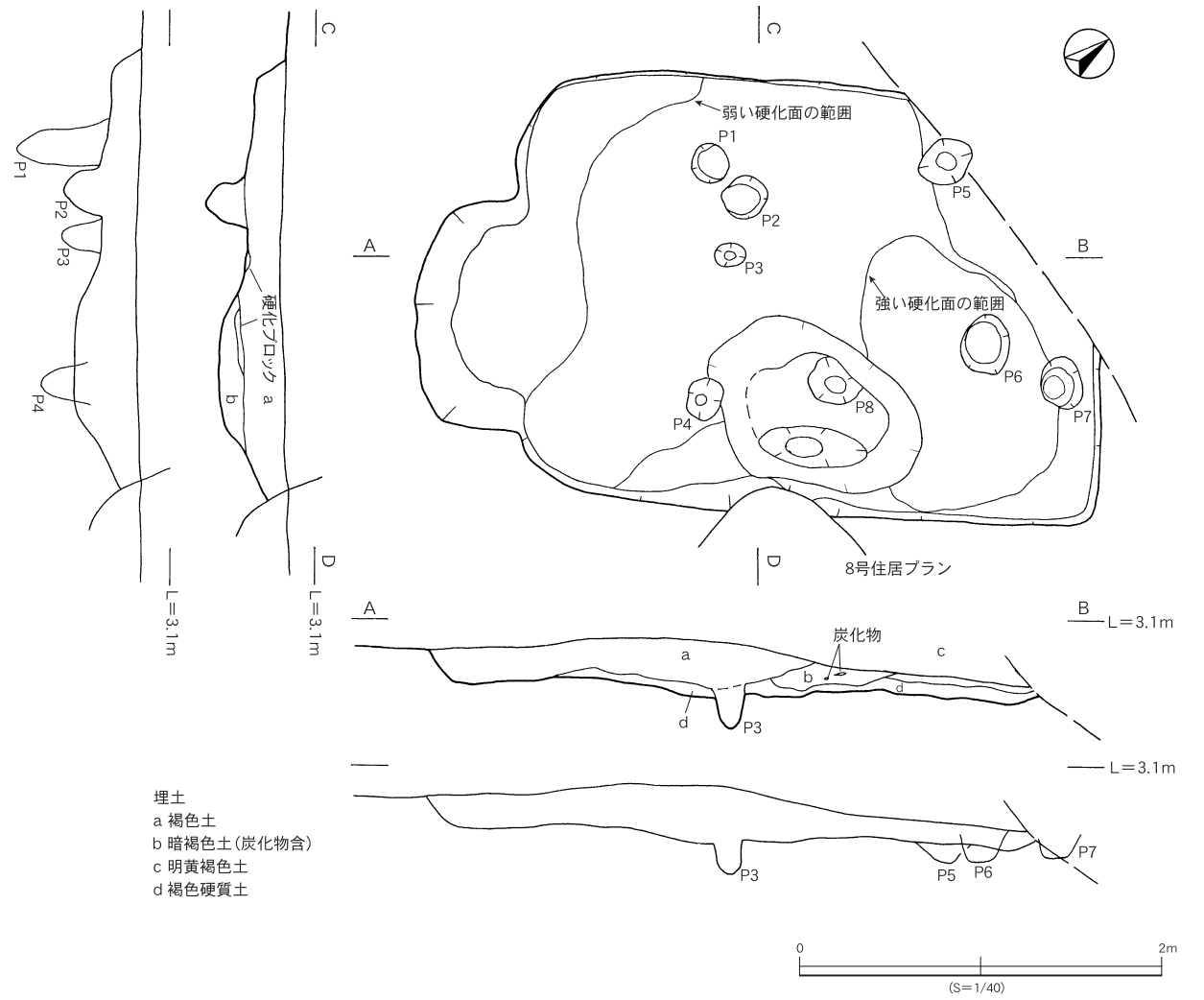


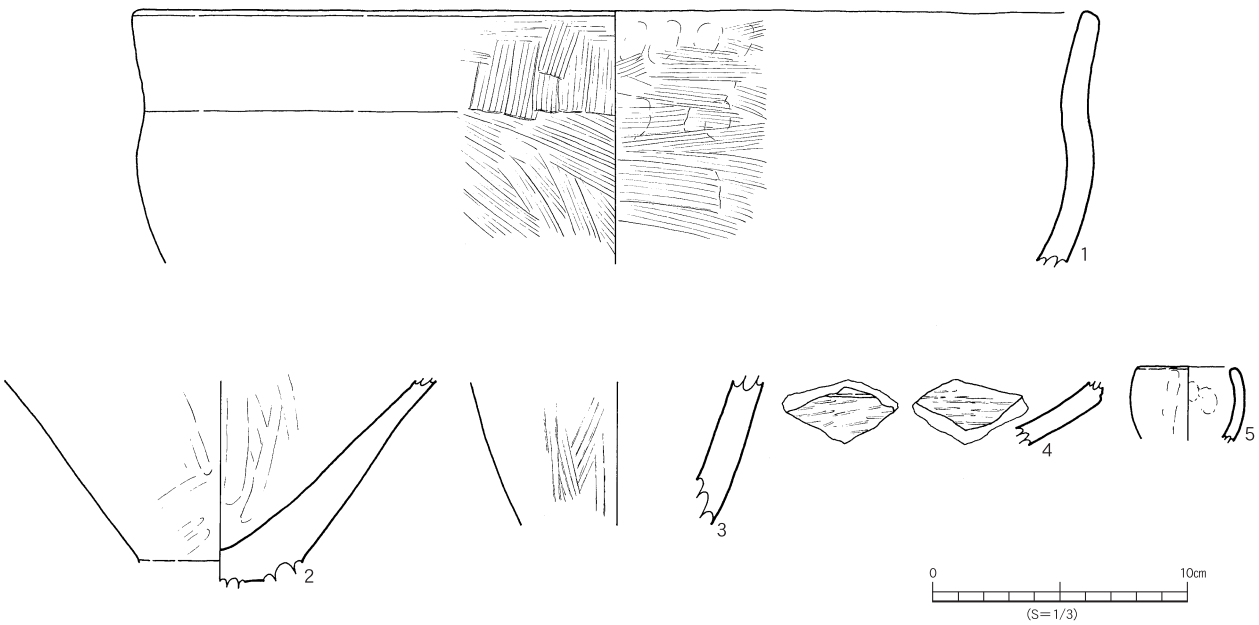
②完掘状況

図版21　7号竪穴住居跡検出状況

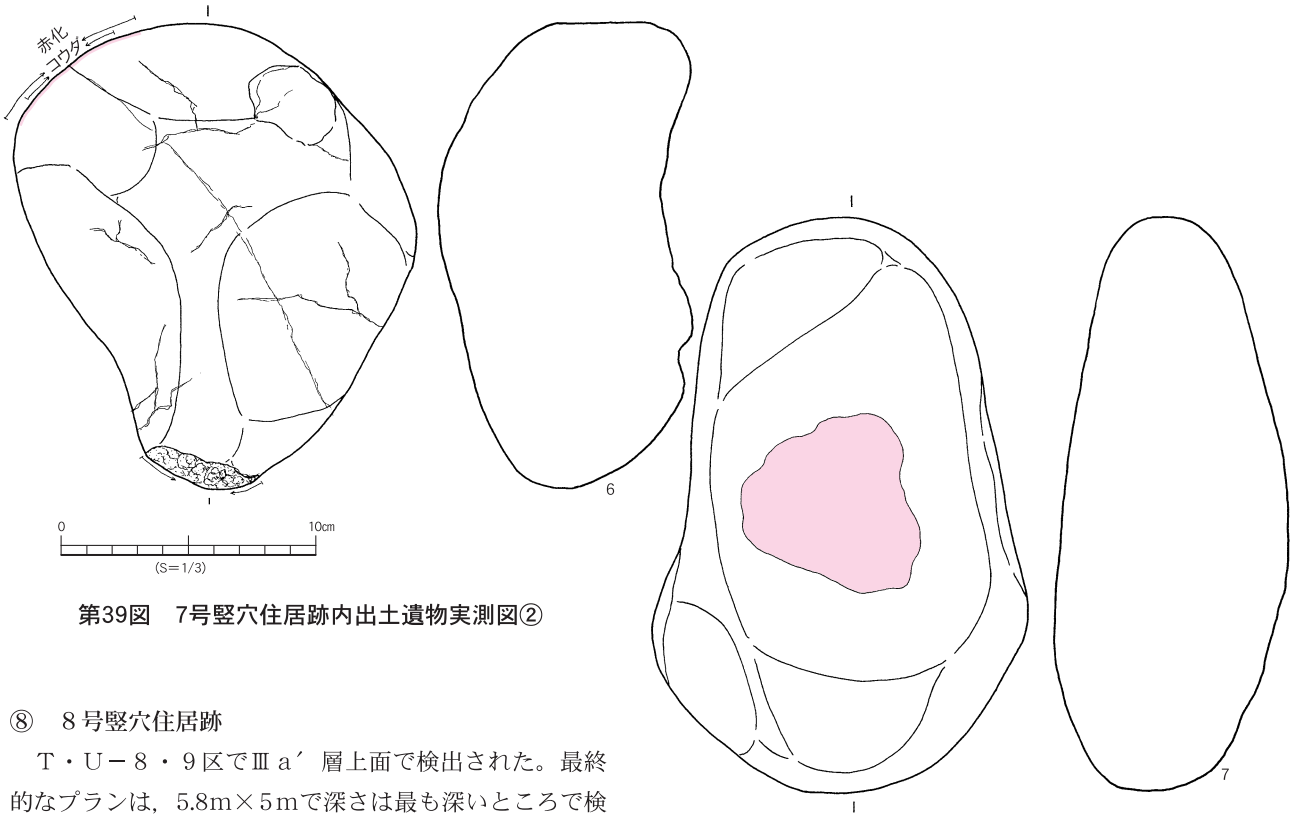


第37図　7号竪穴住居跡内遺物出土状況





第38図　7号竪穴住居跡・7号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



第39図　7号竪穴住居跡内出土遺物実測図②

⑧　８号竪穴住居跡

Ｔ・Ｕ－８・９区でⅢａ′層上面で検出された。最終的なプランは，5.8m×５mで深さは最も深いところで検出面から45㎝であった。また，西側には幅30㎝ほどのやや高い張り出しがある。張り出しと床面の段差は約10㎝であった。

遺物は小破片の状態で多量に出土し，これらは土層ベルトで区画された４つの区画で一括取り上げを実施した。この中には，甕・高坏・坩（小型丸底壺）などの一部もある。床面は，検出面から約20㎝掘り下げた段階では確認できず，ベルトに沿うかたちでミニトレンチを設定して再度確認を行った。この作業により，硬化面の存在と広がりが判明した。また，床面の広がりについても明らかとなった。

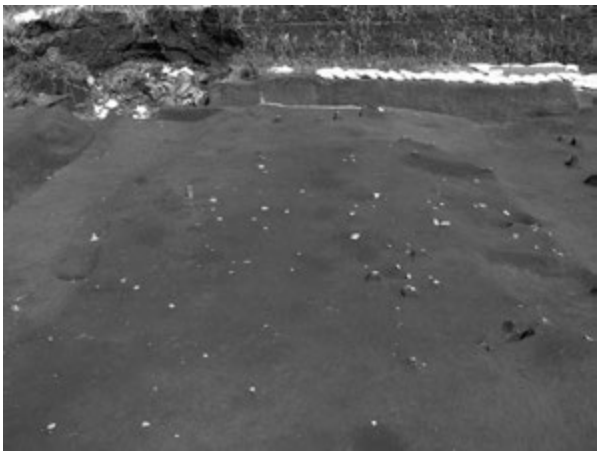
硬化面の状況は，中央部分が最も厚く硬化しているが，床面のほとんどは硬化面が占めている。また，住居跡中央部分には小型丸底甕とともに焼土や炭化物などがみられ，火を使用した痕跡が顕著に残されていた。硬化面の範囲の記録を行った後に，硬化面を剥ぎ取り，柱穴などの確認作業を行った。その結果，柱穴とみられるものが７基検出された。竪穴住居跡のプランやピットの配置等から判断して，これらが主柱穴であると考えられる。

ベッド状遺構にも，中央部よりは弱いが硬化面がみられた。ここでも硬化面の剥ぎ取りを行った。その結果，硬化面の下から鉄片が出土している。竪穴部の拡張などを想定して，調査を行ったが竪穴住居跡との関係を掴むには至らなかった（第44図35・36）。

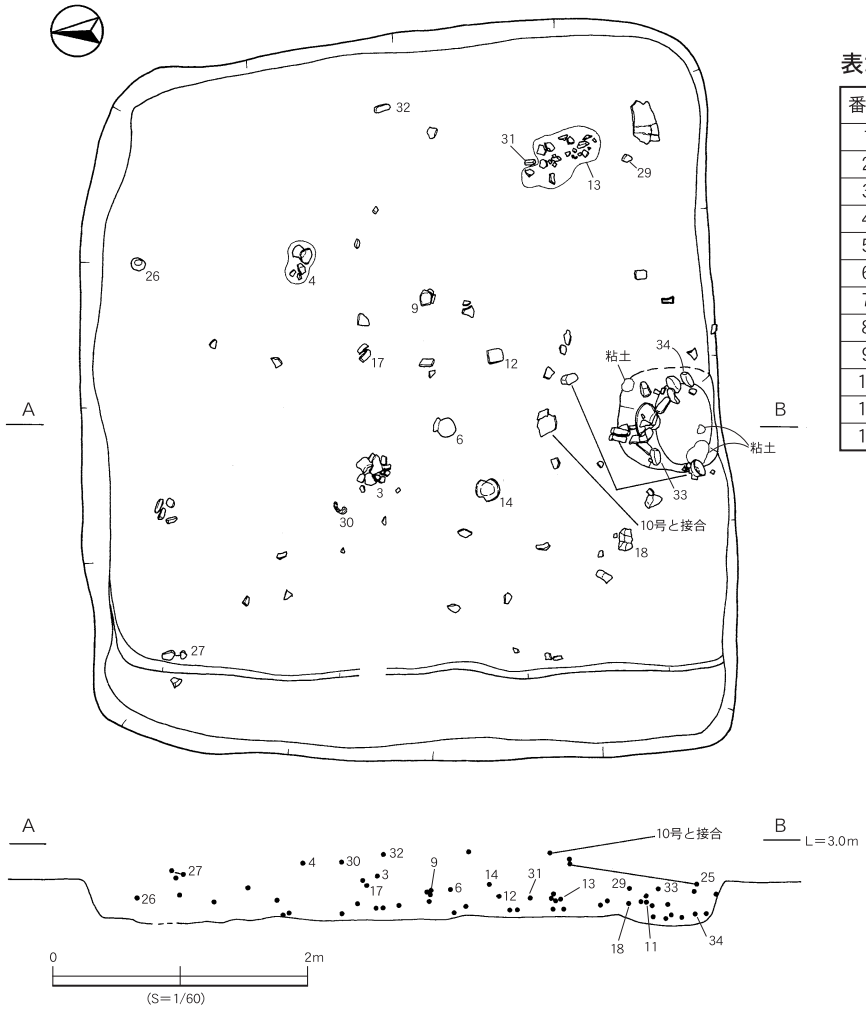
床面南側端には，80㎝×80㎝，床面からの深さ25㎝の土坑が検出された。ただし，中近世のピット２基に切られているため，完全な状態ではない。この中には，ほぼ完形の11と11個の礫の他に，生粘土塊・高坏・坩（小型丸底壺）などの一部が入っていた。この中で，特に粘土塊については，水を加えると溶けてしまうため，未焼成の生粘土であろうと思われる。

なお，住居跡内北西側のコーナーは７号住居と切り合っており，８号が７号を切っていた。

８号竪穴住居跡内から出土した遺物は，2,147点で接合作業を経てこの内の34点を図化した。内訳は甕534点，壷24点，高坏157点，坩43点，鉢78点，小破片その他1,311点である。



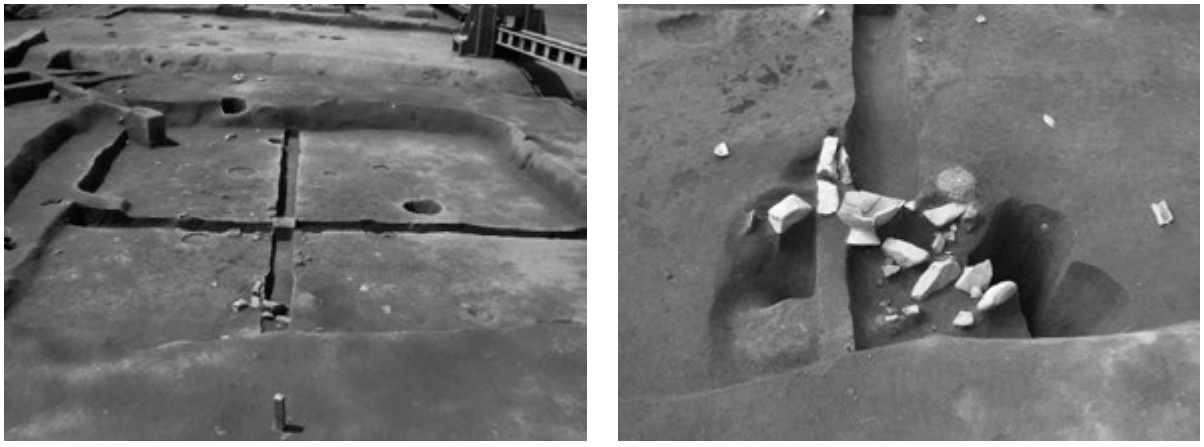
図版22　8号竪穴住居跡検出状況（1）



第40図　8号竪穴住居跡内遺物出土状況

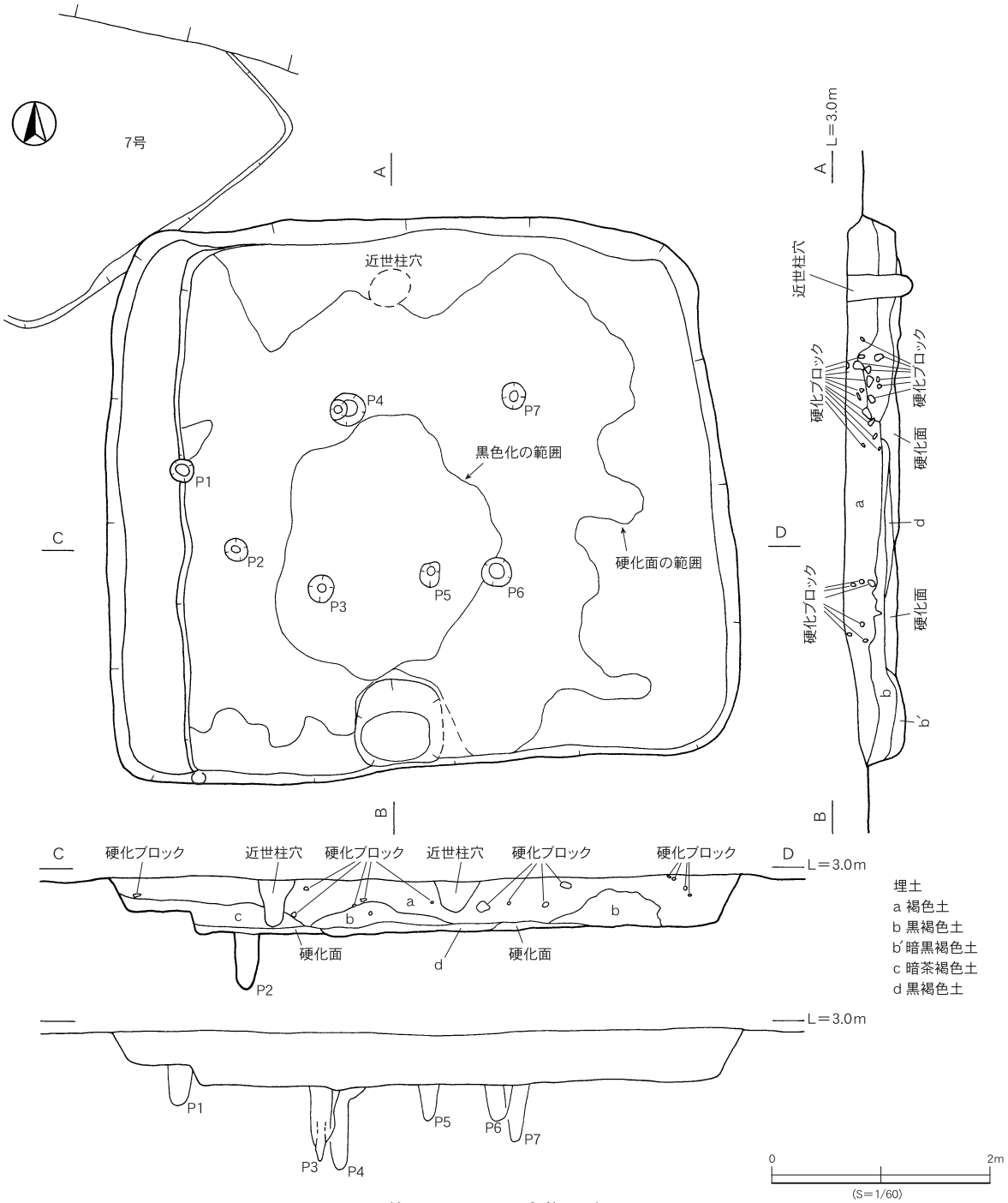
表2　8号竪穴住居跡内出土礫計測表

番号	重量(kg)	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	0.58	17.7	6.9	4.5	
2	0.36	12.4	5.8	4.3	
3	0.58	14.7	6.2	5.0	
4	0.66	14.2	8.4	4.6	
5	0.38	13.8	4.6	3.4	敲打痕
6	0.10	7.4	3.3	3.4	敲打痕
7	0.71	16.1	7.7	5.6	
8	0.60	12.3	9.4	5.5	
9	0.63	11.8	6.8	5.7	敲打痕
10	0.76	13.6	6.6	5.9	
11	0.48	13.1	6.4	5.0	敲打痕
12	0.83	13.8	7.2	5.7	



①床面の状況　　②土坑内の礫

図版23　8号竪穴住居跡検出状況（2）

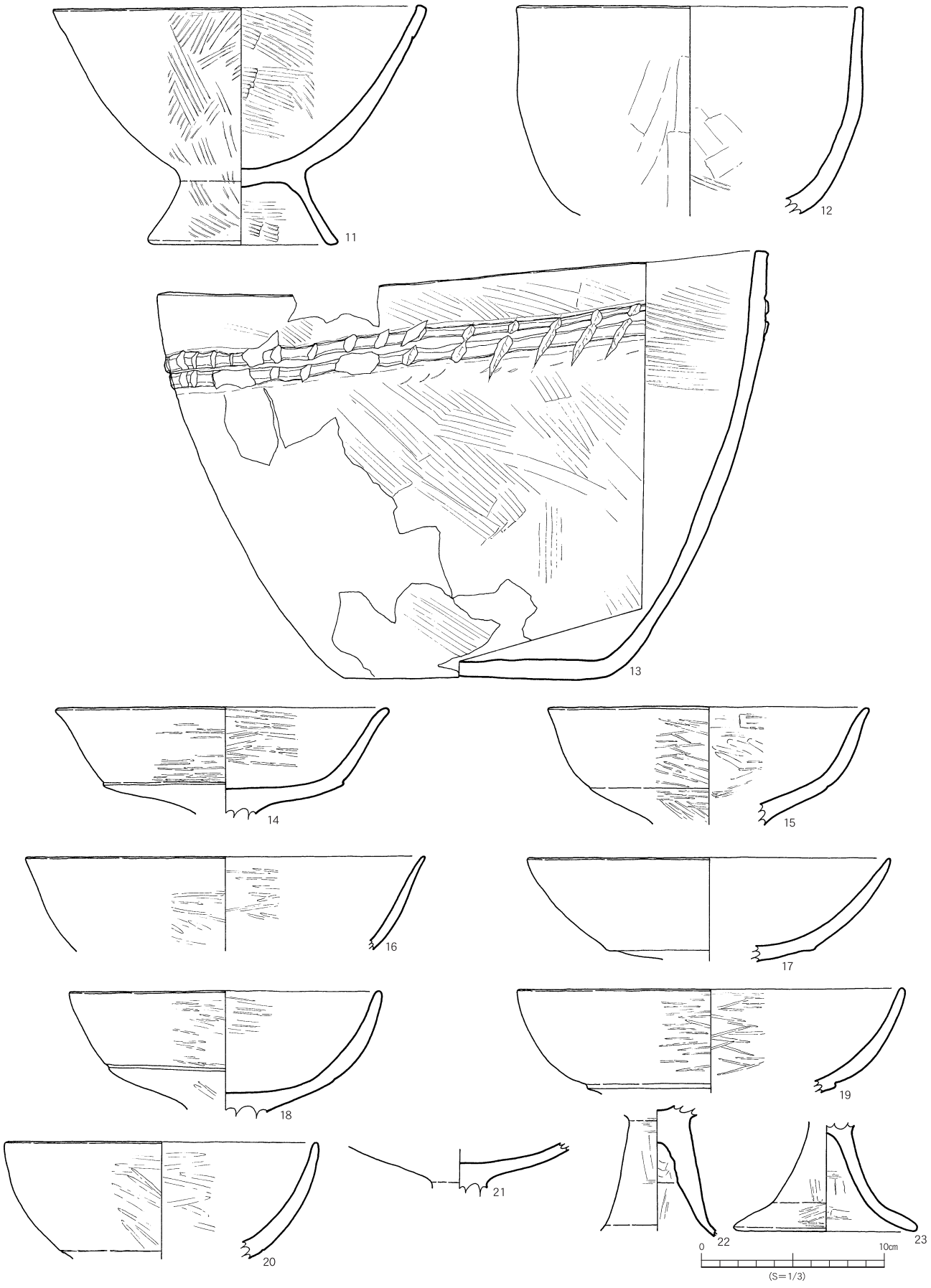


第41図　8号竪穴住居跡

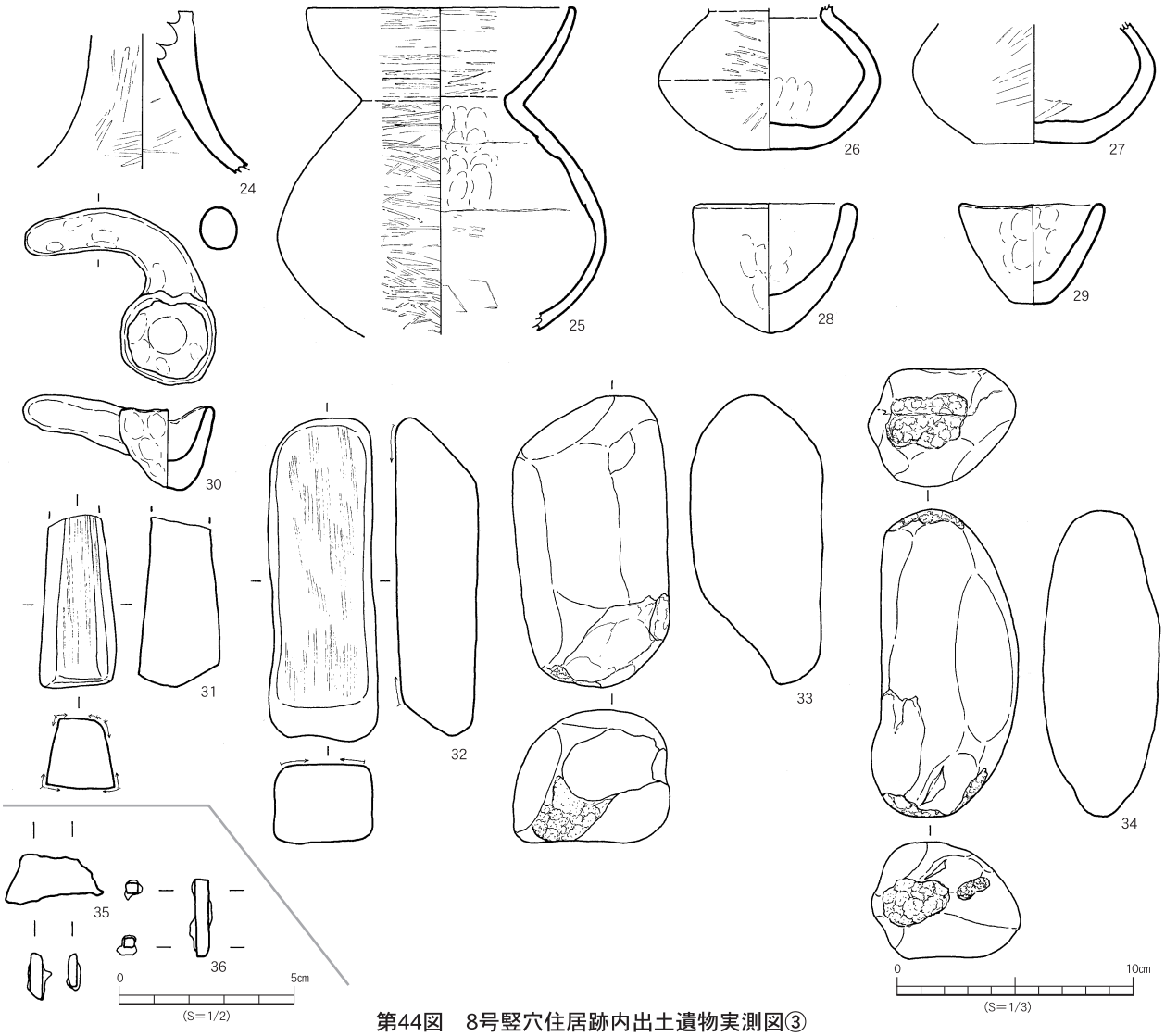
１は口縁部が外反する資料で，内面の稜は認められない。４は，外面のススと内面のコゲとのラインが一致している。６が，竪穴住居跡中央部分から出土した。口縁部を部分的に欠くが，ほぼ完形品に近い。底部形態は丸底で，粘土の接合面を外面に残し，この部分から上位にはススが明瞭に付着している。13は，大型の鉢形である。二条の突帯を一度に刻んでいる。14は，口縁部が外反する高坏である。14・17に関しては，皿部の段が明瞭に残されているが，15・20に関しては沈線も不明瞭である。30は埋土中から出土した匙形土石品である。握手部分が湾曲しており，特徴的な形状を呈している。31は砥石である。４面共に明瞭な光沢を有している。縦断面の形状を見ると，約半分を欠損してはいるが，中央にむけて急激に薄く，使い込んでいる様子がうかがえる。



第42図　8号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



第43図　8号竪穴住居跡内出土遺物実測図②



第44図　8号竪穴住居跡内出土遺物実測図③

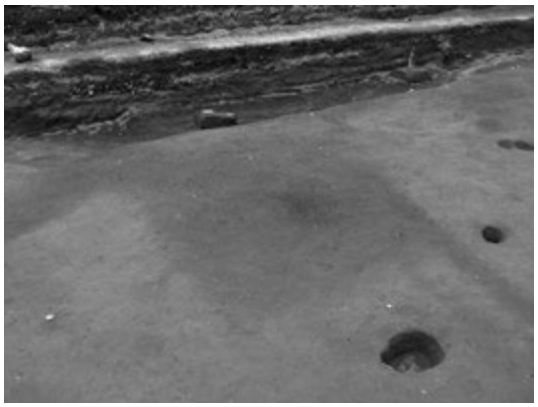
⑨　９号竪穴住居跡

Ｔ－９区・Ⅲａ層上面で検出された。最終的なプランは，2.1m×2.6mで深さは検出面からおよそ30cmであった。埋土はⅢａ′層に該当する。検出面で，中央部分に炭化物の広がりが認められた。調査は，中央に土層ベルトを設定して中央部分から床面を確認していった。床面は，特に中央部分にかけて硬化面が確認できた。硬化面の状況は，中央部分が最も厚く硬化している。

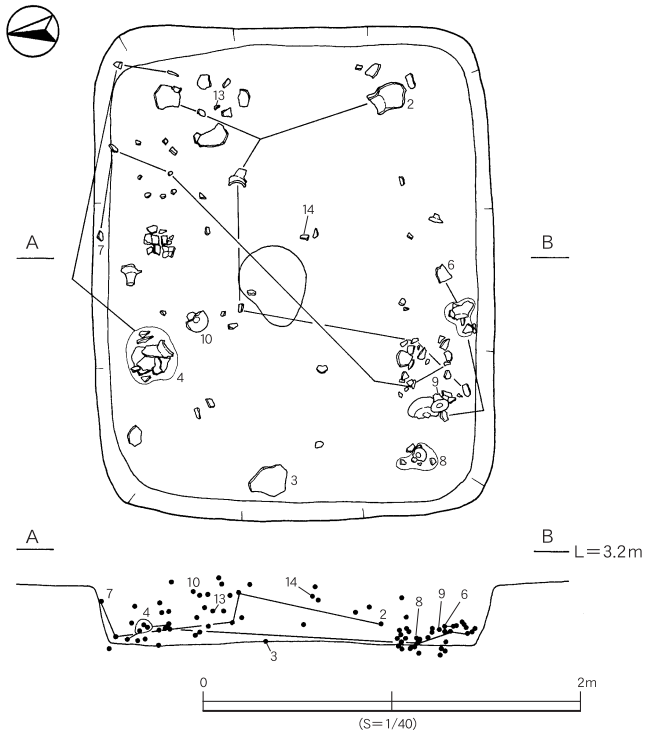
中央炉は，40cm×30cmプランの土坑内に，甕１を埋設していた。炉としての使用も想定出来る。なお，甕１の口縁部は，破砕して甕の内部へ落ち込んでいた。また，炭化物を含んだ黒褐色土は，この炉を中心に広がっている。柱穴は，４基検出された。Ｐ１・３・４は床面から20cm程度掘り込まれている。

竪穴住居跡内から出土した遺物は，512点で接合作業を経てこの内の15点を図化した。特筆すべきは，図版25－①のように，床面付近で高坏がまとまって出土した点であろう。これらは接合し，２点の完形品と４点の欠損品となった。出土遺物の総点内訳は，甕369点，壷23点，高坏100点，坩10点，小破片その他10点である。

１は，やや器高の低い甕で指頭痕が多く残されている。突帯は，指を器面に押しつけるように貼り付けている。２は，胎土中に茶粒を多く含んでおり，他の土器片と異なる。



図版24　9号竪穴住居跡検出状況（1）



第45図　9号竪穴住居跡内遺物出土状況



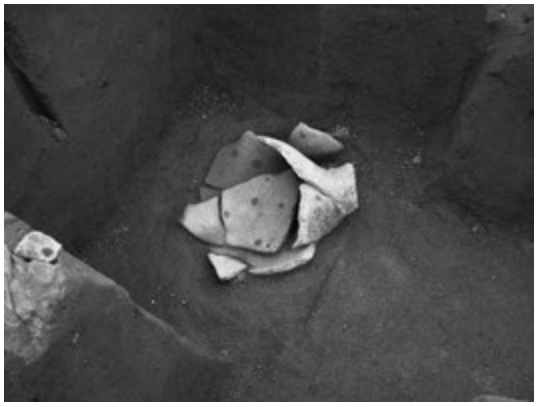
②遺物出土状況



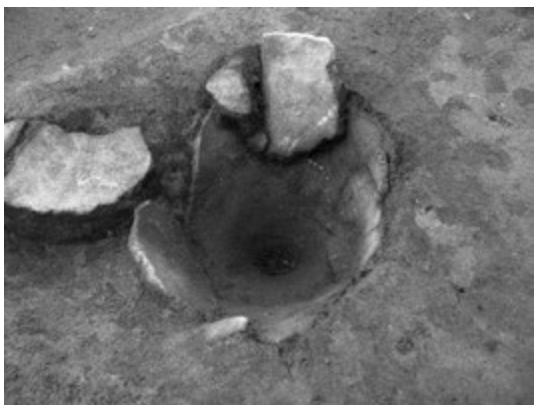
③床面の状況



①高坏出土状況

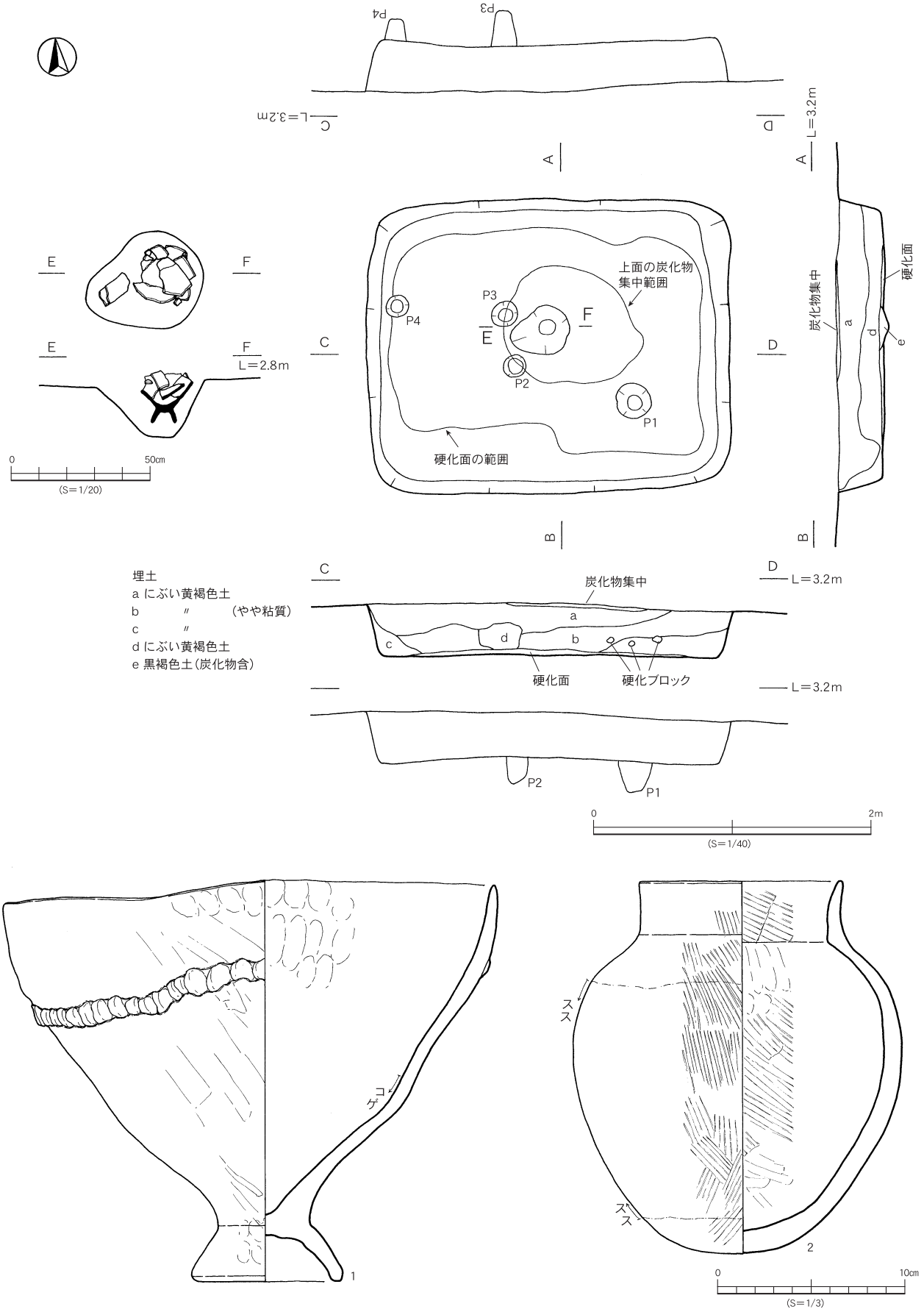


④4の出土状況

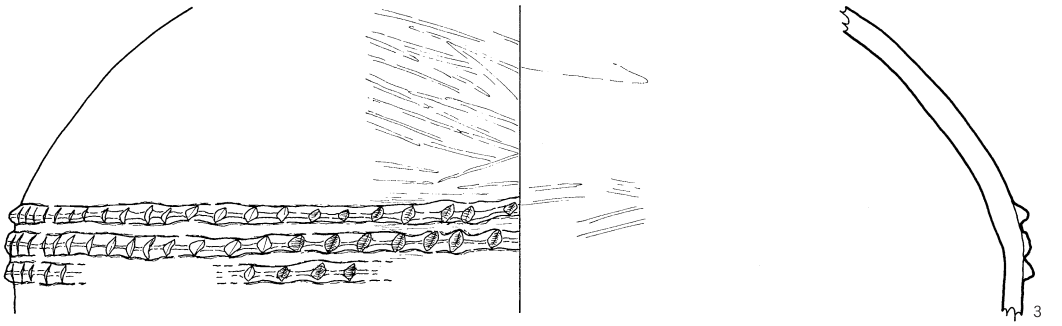


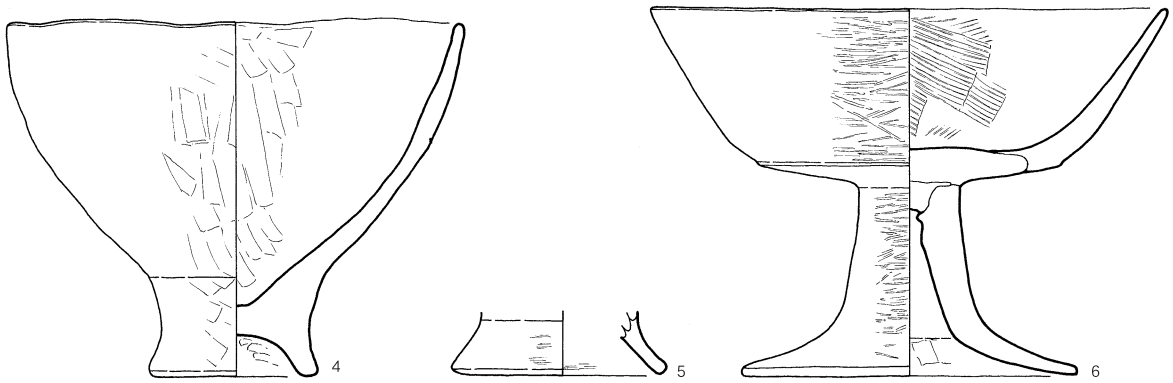
⑤中央出土の土器

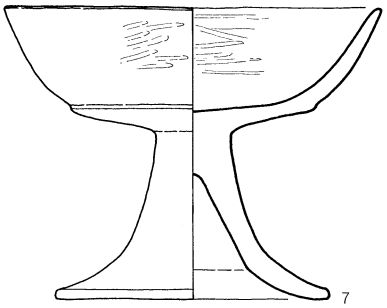
図版25　9号竪穴住居跡検出状況（2）



第46図　9号竪穴住居跡・9号竪穴住居跡内出土遺物実測図①







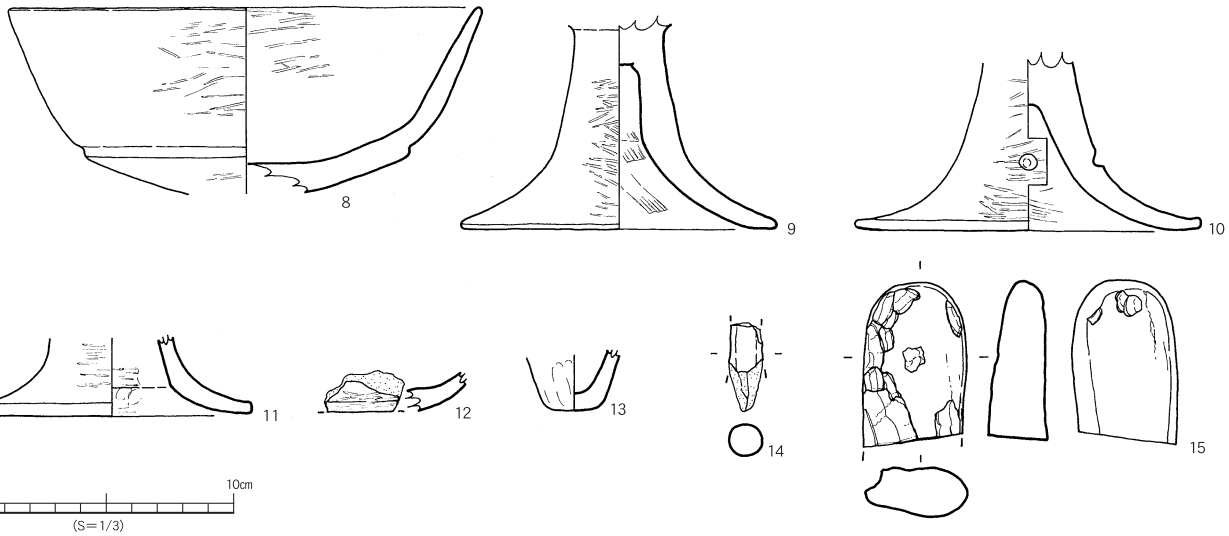


①脚部



②皿部

図版26　6の脚部と皿部の接合状況



第47図　9号竪穴住居跡内出土遺物実測図②

⑩　10号竪穴住居跡

Ｓ・Ｔ－８・９区でⅢａ層上面で検出された。最終的なプランは，６ｍ×5.5ｍで深さは検出面から30㎝であった。当初は，川にかけての落ち込みの可能性も考えられたために，土層ベルトは調査区に沿って設定し，掘り下げを進めていった。この過程で，遺物は小破片の状態で多量に出土し，これらは土層ベルトで区切られた４つの区画で一括取り上げを実施した。この中には，41の一部も出土している。床面等の確認は，ベルトに添うかたちでミニトレンチを設定して行った。この作業により，硬化面がわかり，床面と硬化面の広がりが判明した。硬化面の状況は，中央部分が最も厚く硬化している。埋土中にも硬化したブロックが上下層を問わずに点在しており，竪穴外から流入していることがうかがえた。これが，床面の張り替えや上屋構造，あるいは周提帯など，如何なるものにより生じたのかは捉えることが出来なかった。また，住居跡中央部分には焼土や炭化物等が見られ，特に，赤化はコンパクトに認められた。硬化面の範囲を記録等行ったあとで，硬化面を剥ぎ取り，柱穴等の確認作業を行った。その結果，柱穴と思われるものは14基検出され，竪穴住居跡のプランなどから判断して，主柱穴はＰ３，４，９，11の計４基を想定した。

なお，住居跡西側のコーナーは近世の落ち込みによってわずかに崩落している。

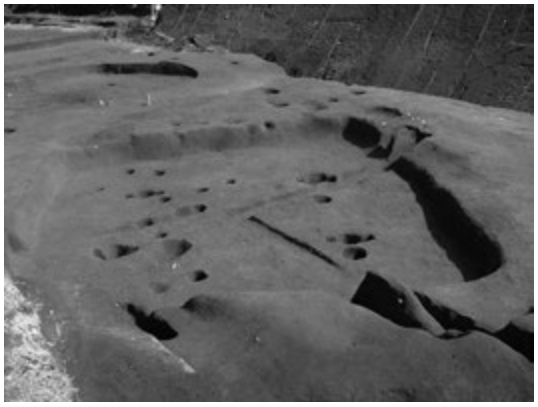
10号竪穴住居跡内から出土した遺物は，一括遺物も含めて1,288点で接合作業を経てこの内の42点を図化した。総点内訳は，甕1,085点，壷15点，高坏60点，坩形62点，須恵器１点，小破片その他65点である。

１は，口縁部が直行し端部が反るタイプである。４については，内湾しつつ端部が反っている。７は，突帯が上下に見られるが，２条突帯というよりは，突帯の接合が上下にズレている可能性の方が高い。14については，種子圧痕が図版29のとおり確認されている。16～18は同一個体と思われるが，16・17については第51図のとおり


①検出状況

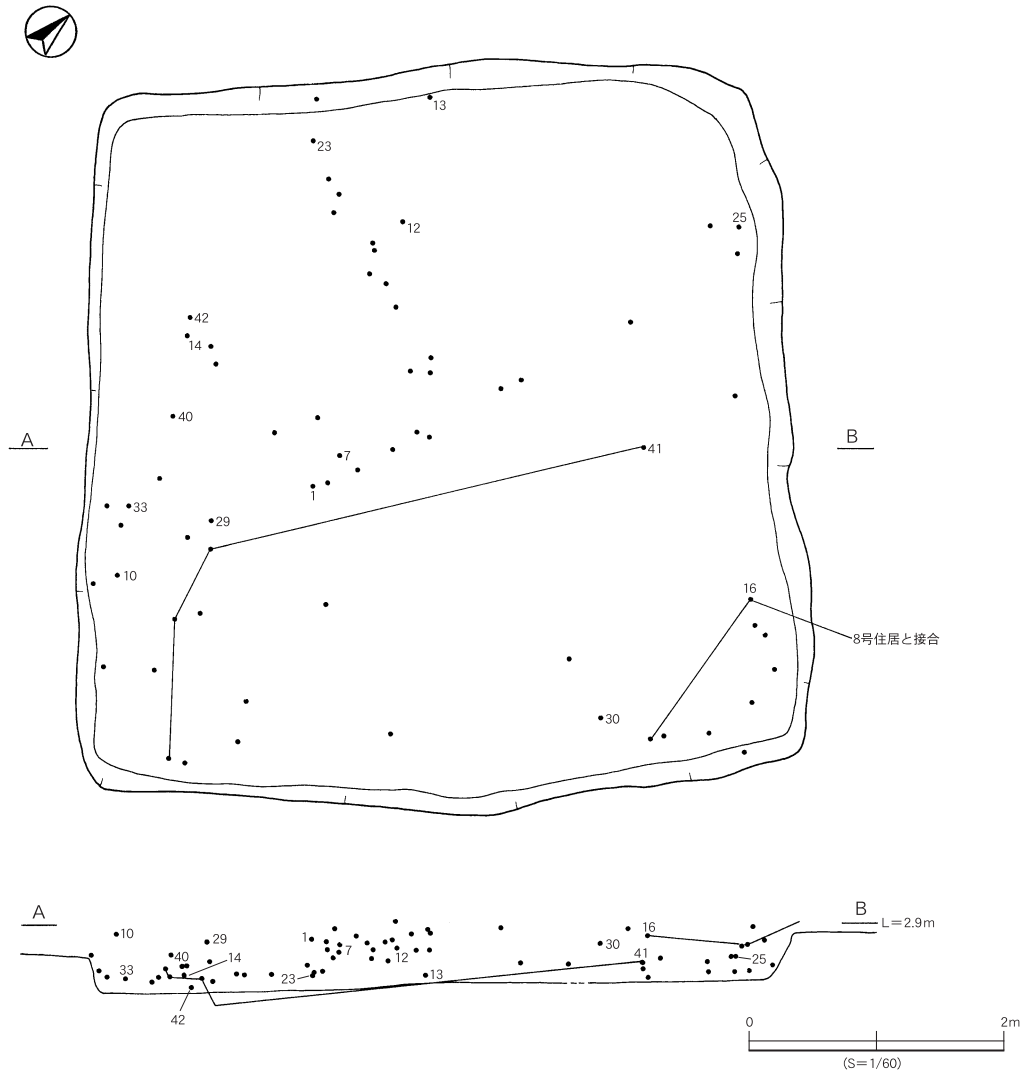

②遺物出土状況


③埋土の状況

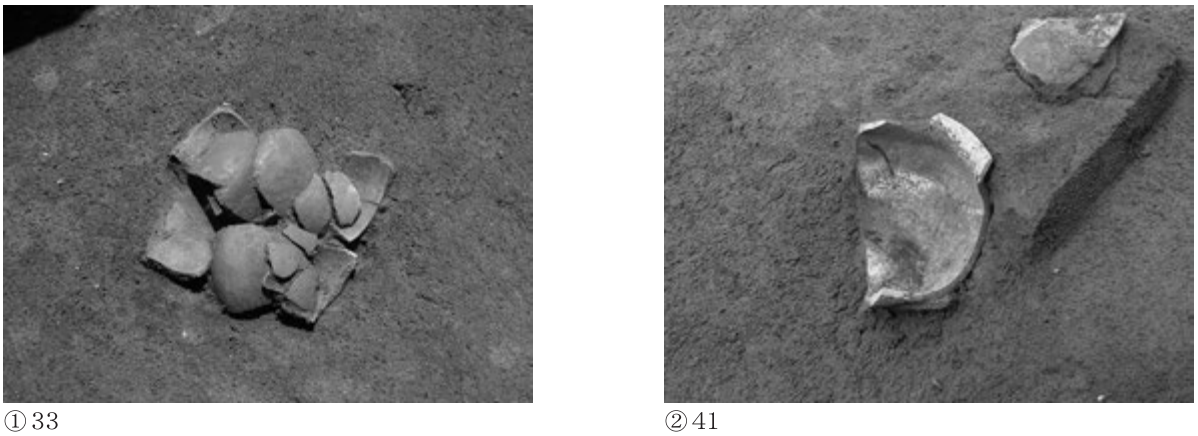

④完掘状況


⑤人物対比

図版27　10号竪穴住居跡検出状況



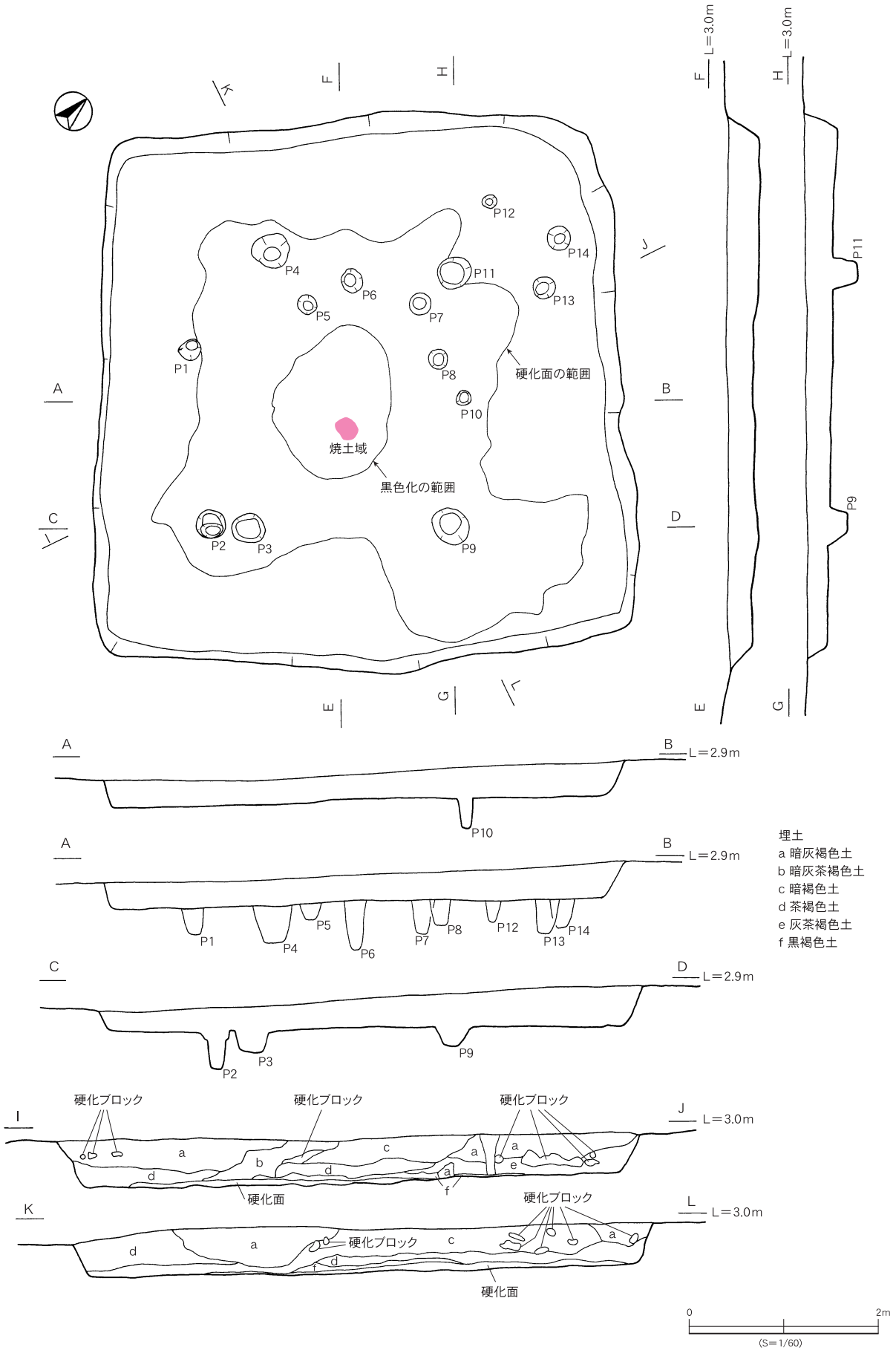
第48図　10号竪穴住居跡内遺物出土状況



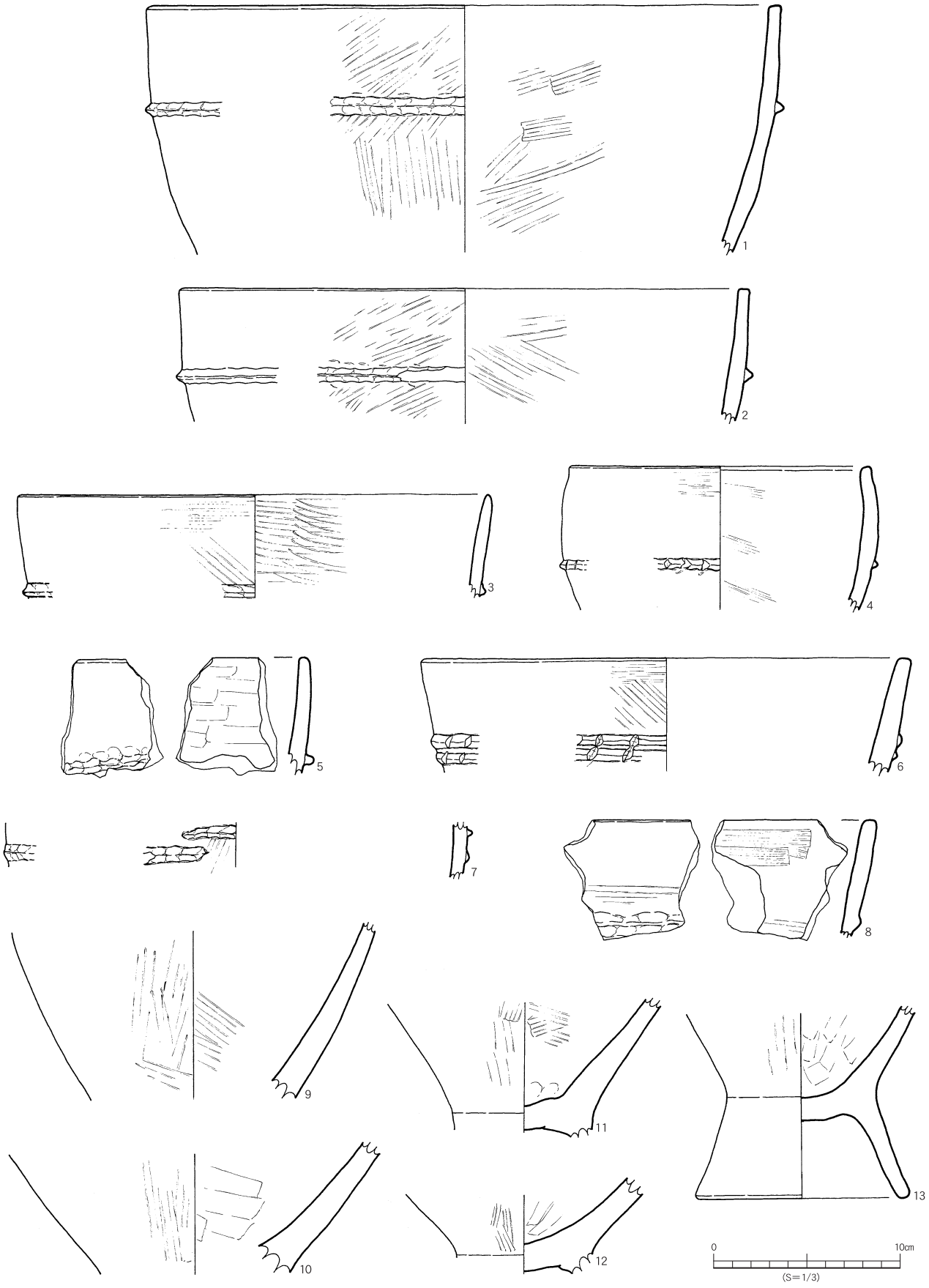
①33　②41

図版28　10号竪穴住居跡内遺物出土状況

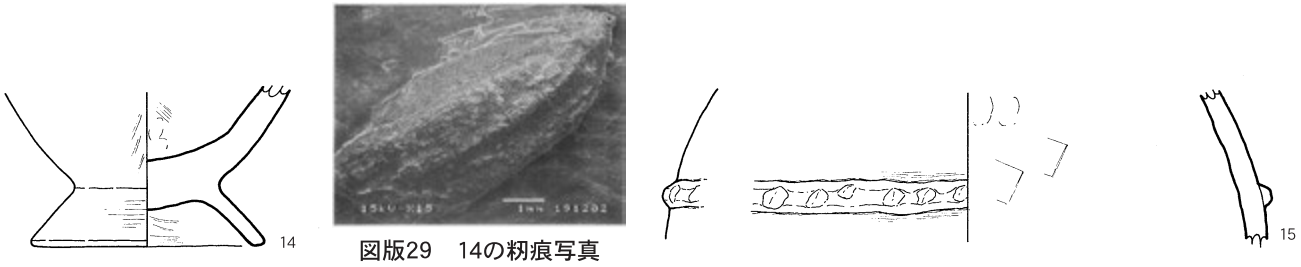
８号と遺構間接合されている。23は皿形を呈する。包含層資料と比べると，やや厚手であるが，入念なヘラミガキが施されている。色調についても白色が強い。28は高坏の脚であるが，やや裾部が広い。33は，床面で潰れた状態で出土した完形品である。40は紡錘車の可能性が考えられる。41は，須恵器の取手付き鉢である。図版２に示してあるように，断面が暗紫色を呈する特徴が見られる。



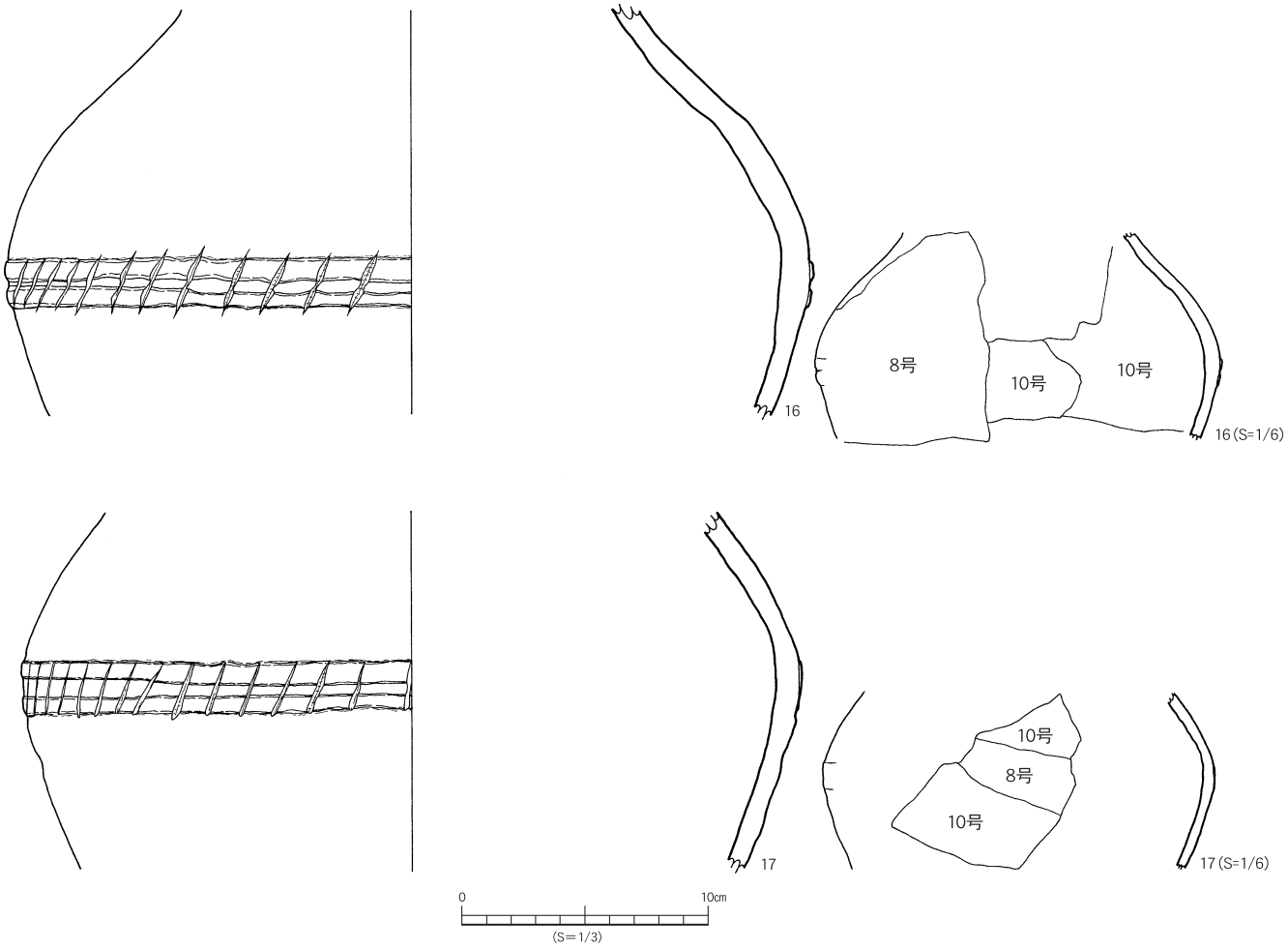
第49図　10号竪穴住居跡

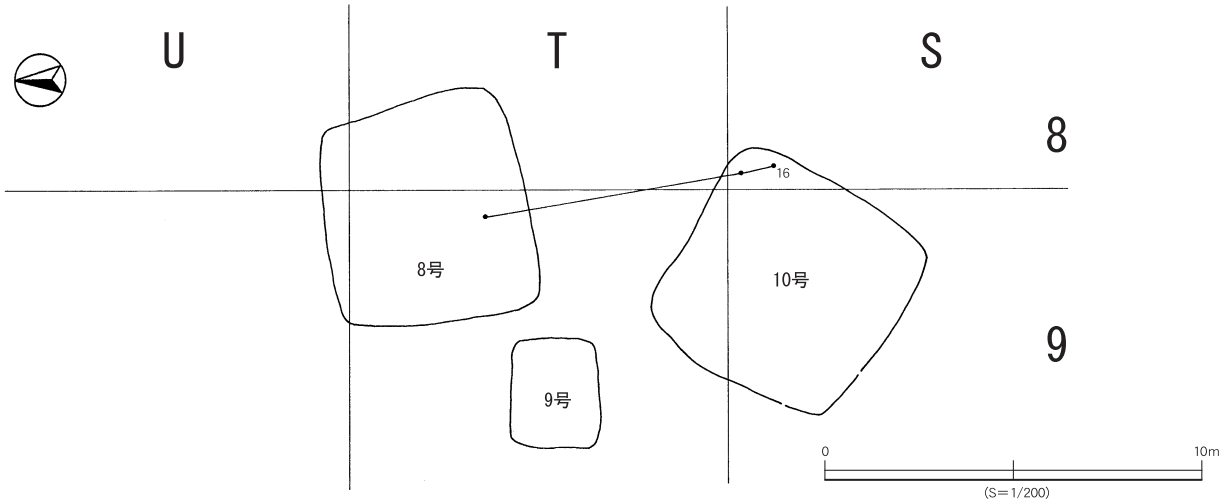


第50図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図①

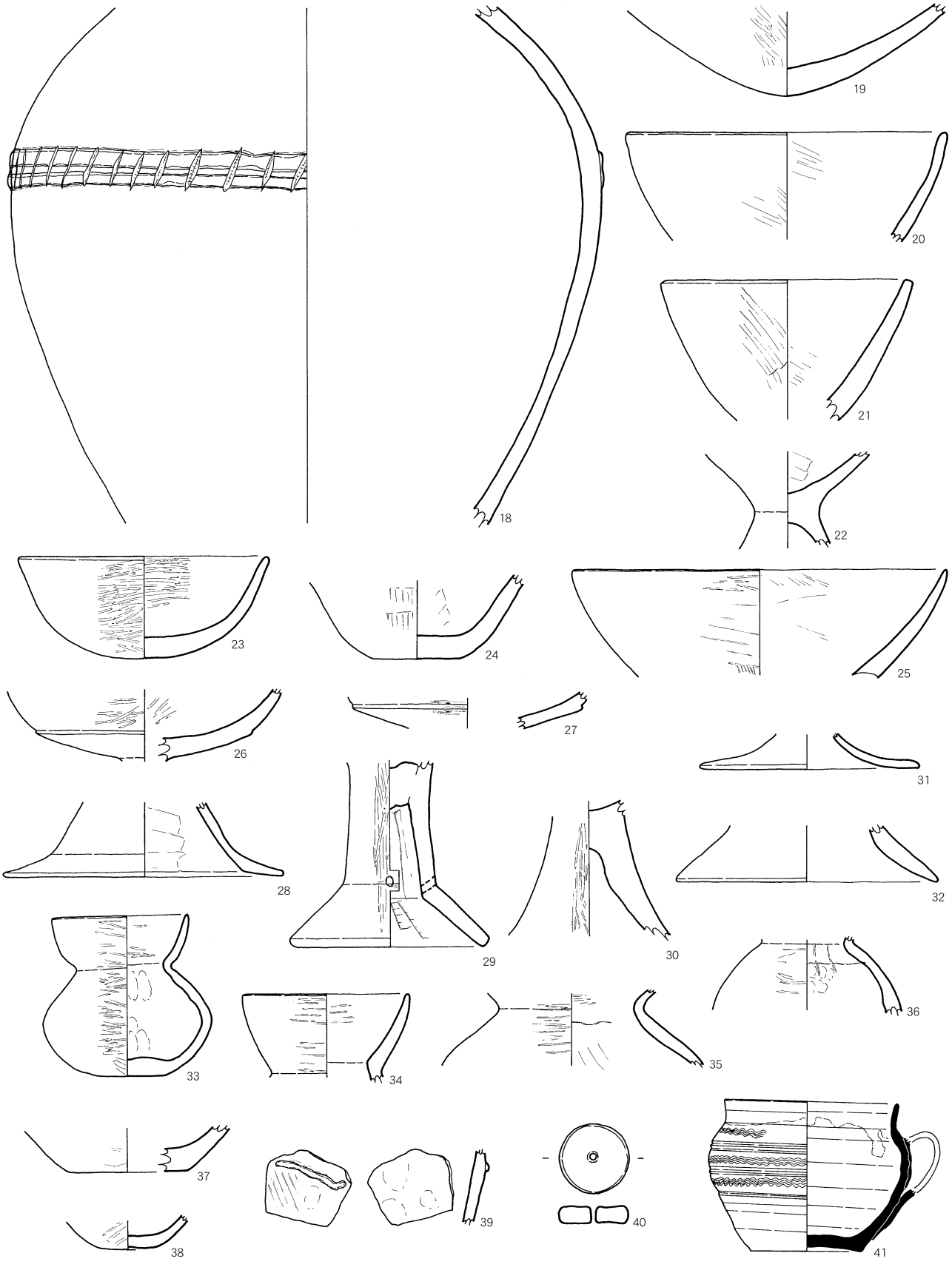


図版29　14の籾痕写真

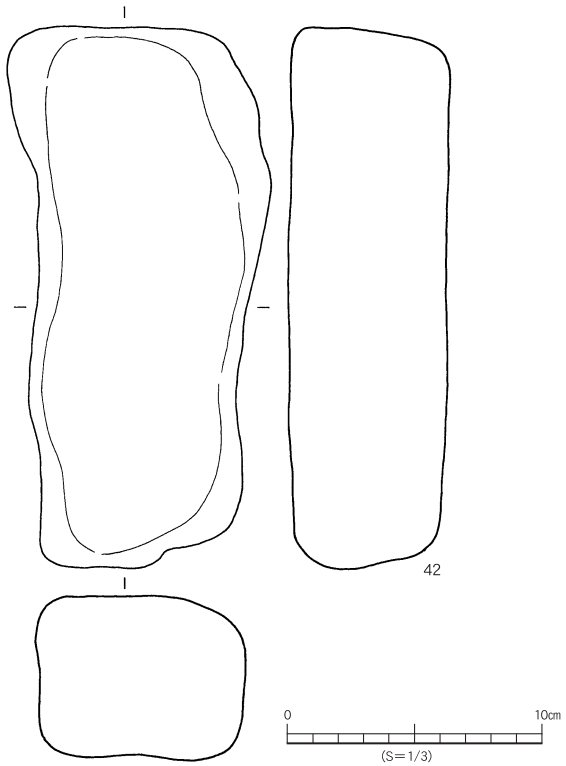




第51図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図②・住居間接合の状況



第52図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図③



第53図　10号竪穴住居跡内出土遺物実測図④

⑪　11号竪穴住居跡

Ｒ－９区・Ⅲａ層中で検出された。プランの半分以上が近世の落ち込みによって崩落しており，最終的なプランは確認できていない。唯一残存している東側の辺と後述する焼土・炭化物の範囲から，3.7m×3.7m程度のプランではないかと想定される。検出面はⅢａ層であるが，他の住居跡と比べてⅢｂ層に近いレベルで行ったため，竪穴住居跡の深さは検出面から20㎝であった。調査は，中央に土層ベルトを設定して中央部分から床面を確認していった。床面は，特に中央部分にかけて硬化面が確認できた。硬化面の状況は，中央部分が最も厚く硬化している。

また，東側には坩形土器（第54図１）の完形品が確認され，土坑状のプランも認められた。この土坑は，床面の硬化面を切り込むように感じられた。検出時には土坑が確認されなかったために，ほぼ同時期のものであると判断した。しかし，今回の調査ではより厳密な同時期性や切り合い関係などを示すことが出来なかった。この土坑内には，完形品で坩形土器が２点，高坏の坏部１点の３点が重なって出土した。周辺の遺物の状況などから，これらの遺物は意図的に埋納されたものであると判断し，これらの性格を掴むために，土坑内の土と竪穴住居跡の土とを比較分析した。また，坩形土器内部の土に関しても，リン・カルシウム分析，ウォーターフローテーションによる種子の検出，植物珪酸体分析等を行った。しかし，性格を掴む分析結果は残念ながら得られなかった（第７章参照）。

11号竪穴住居跡から出土した遺物は，183点で接合作業を経てこの内の11点を図化した。その内訳は，甕165点，壷３点，高坏４点，坩形２点，小破片その他９点である。

１～３は土坑内出土資料である。当初１が横倒しの状態で検出され，ややズレた直下に２が，さらに３が各々接するように出土した。１については，口縁部内面に埋土が充填していたが，胴部内はほぼ空洞の状態であった（図版30－③）。



①遺物出土状況

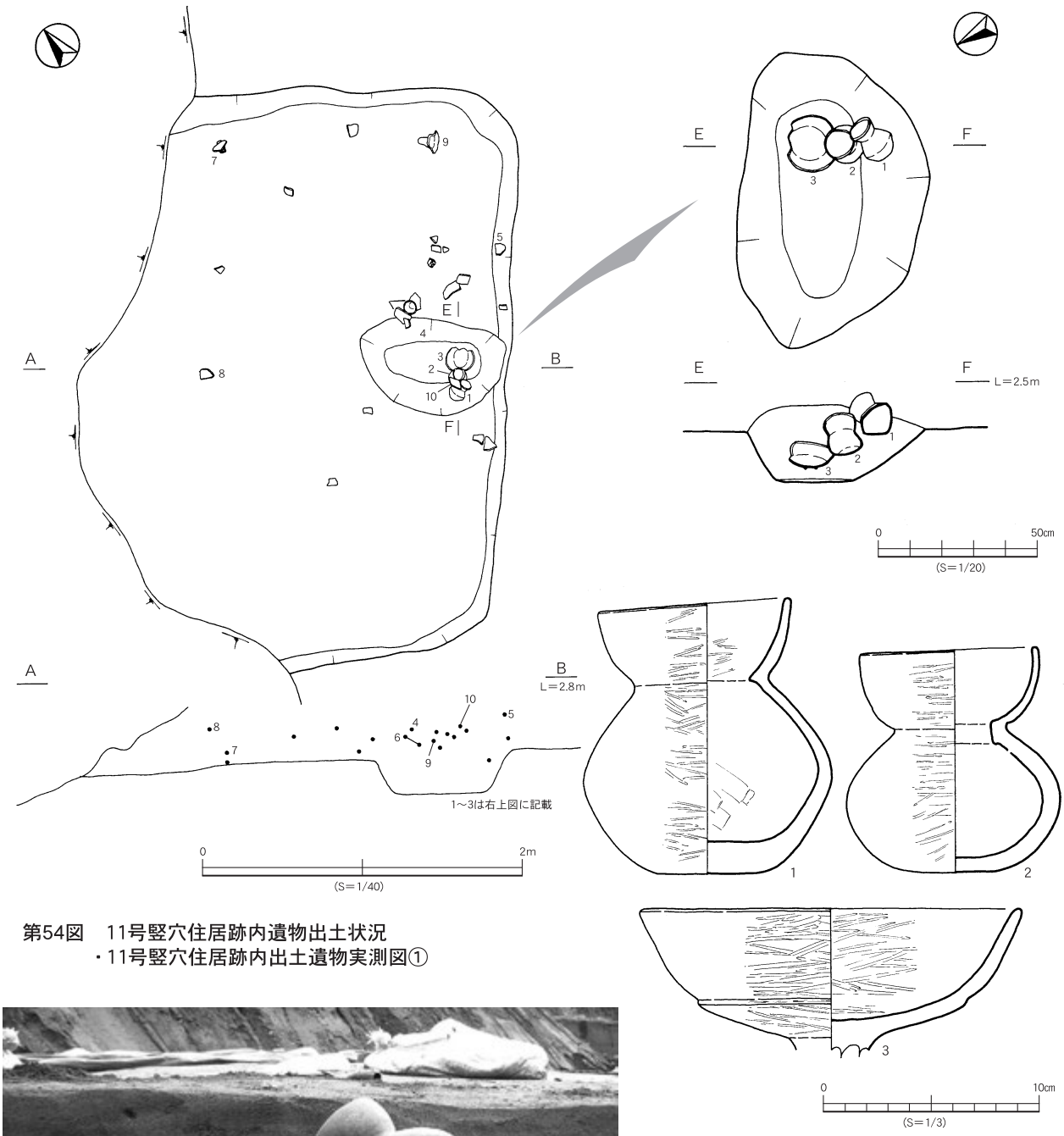


②完掘状況



③1内部への流入土

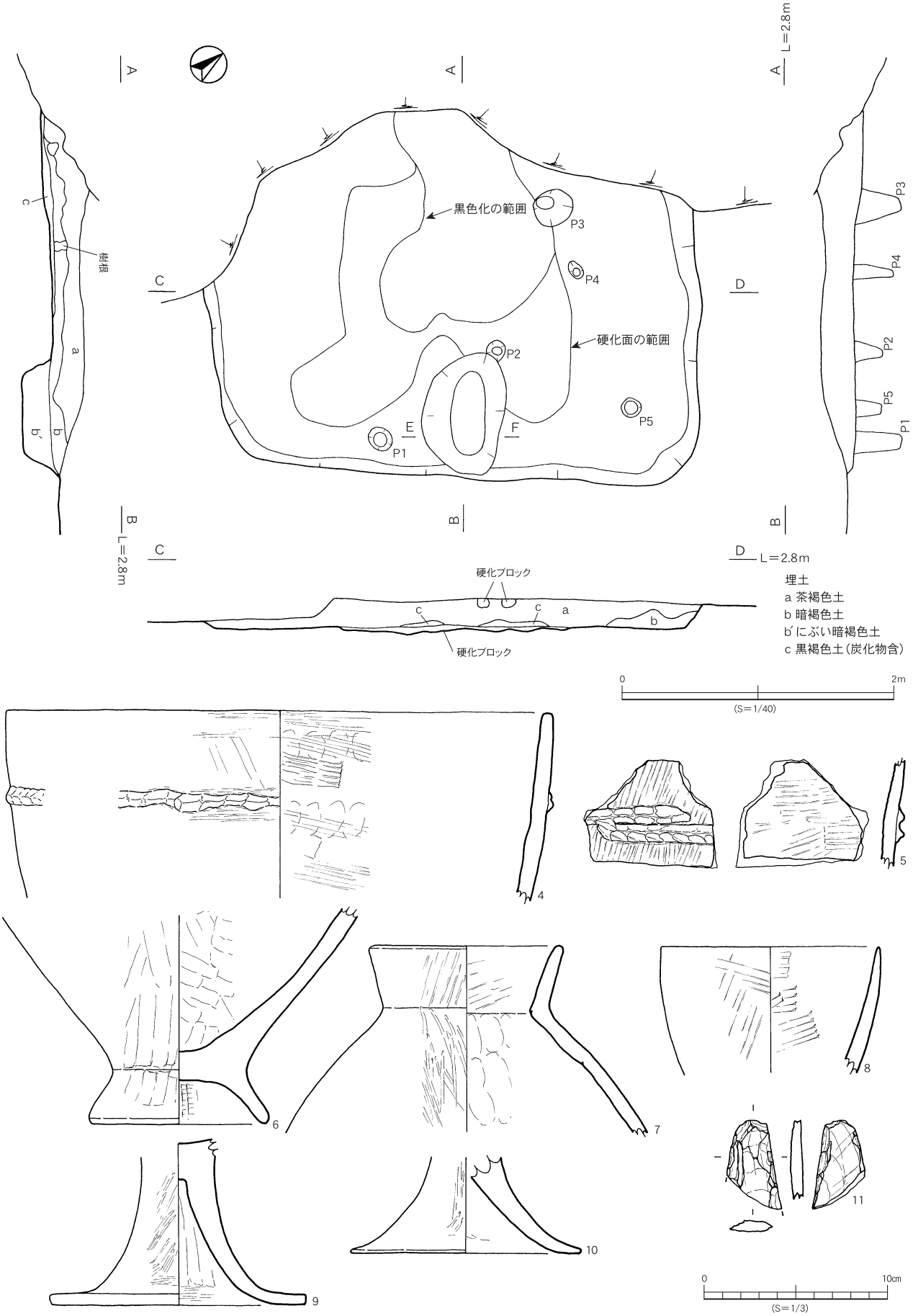
図版30　11号竪穴住居跡検出状況（1）



第54図　11号竪穴住居跡内遺物出土状況
・11号竪穴住居跡内出土遺物実測図①



図版31　11号竪穴住居跡検出状況（２）



第55図　11号竪穴住居跡・11号竪穴住居跡内出土遺物実測図②

（2）土坑

Ｕ－７区で１基が検出された。１は口縁部が直行するが，突帯上部外面がわずかに膨らんでおり内湾状を呈している。２は坩形の胴部片である。

（3）土器埋納ピット

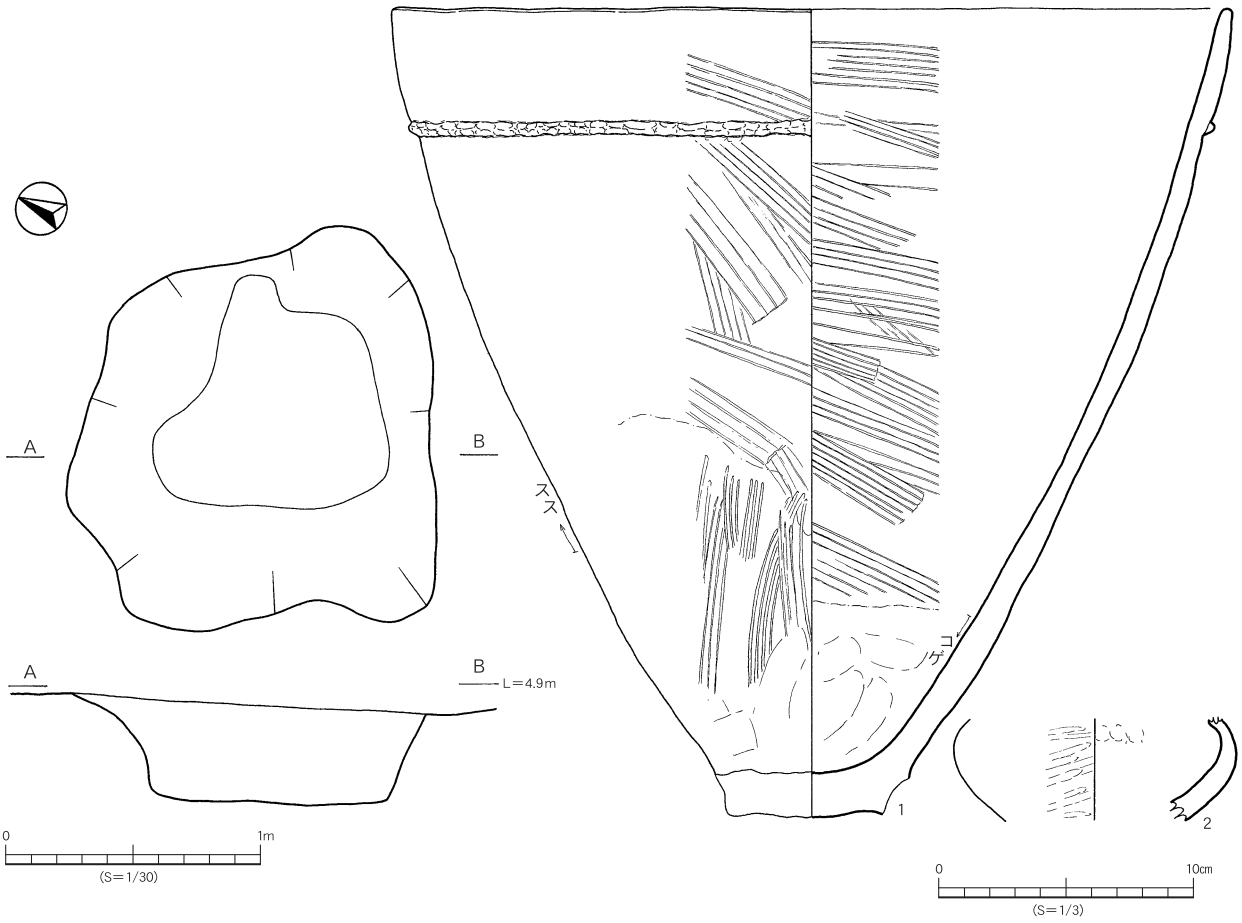
Ｒ－６区（Ｐ１）とＳ－９区（Ｐ２）で２基検出された。Ｐ１からは，１から８を図化した。遺物は，ピット検出と同じレベルで確認され，ピットの中位から下位にかけて遺物は出土していない。１は口縁部が直行する。２は，口縁部が外反し，胴部で屈曲して丸みのある胴部から丸底の底部へと移行する器形を呈する。外面には，入念なハケメが施され，内面にはケズリ痕が明瞭に残される。また，内面には粘土紐の接合痕も観察される。Ｐ２からは，１から３を図化した。ピット検出レベルとほぼ同じレベルで遺物も確認された。ここに図化した３点は，いずれも検出面で確認されたものである。１は口縁部が外反し，口縁部下に段を有する。

（4）焼土

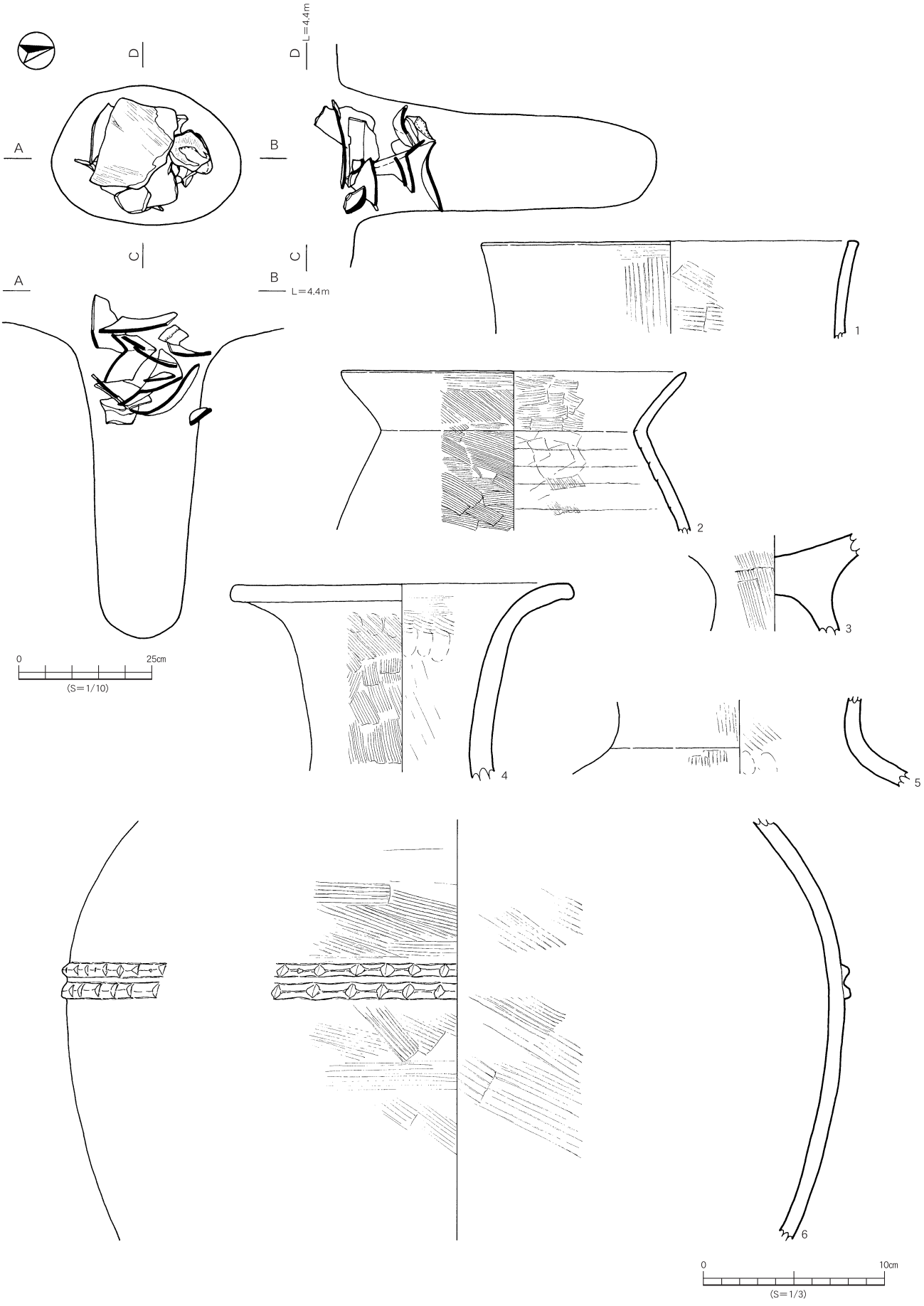
６号と７号竪穴住居跡間のＵ－９区で検出された。

（5）礫集積状遺構

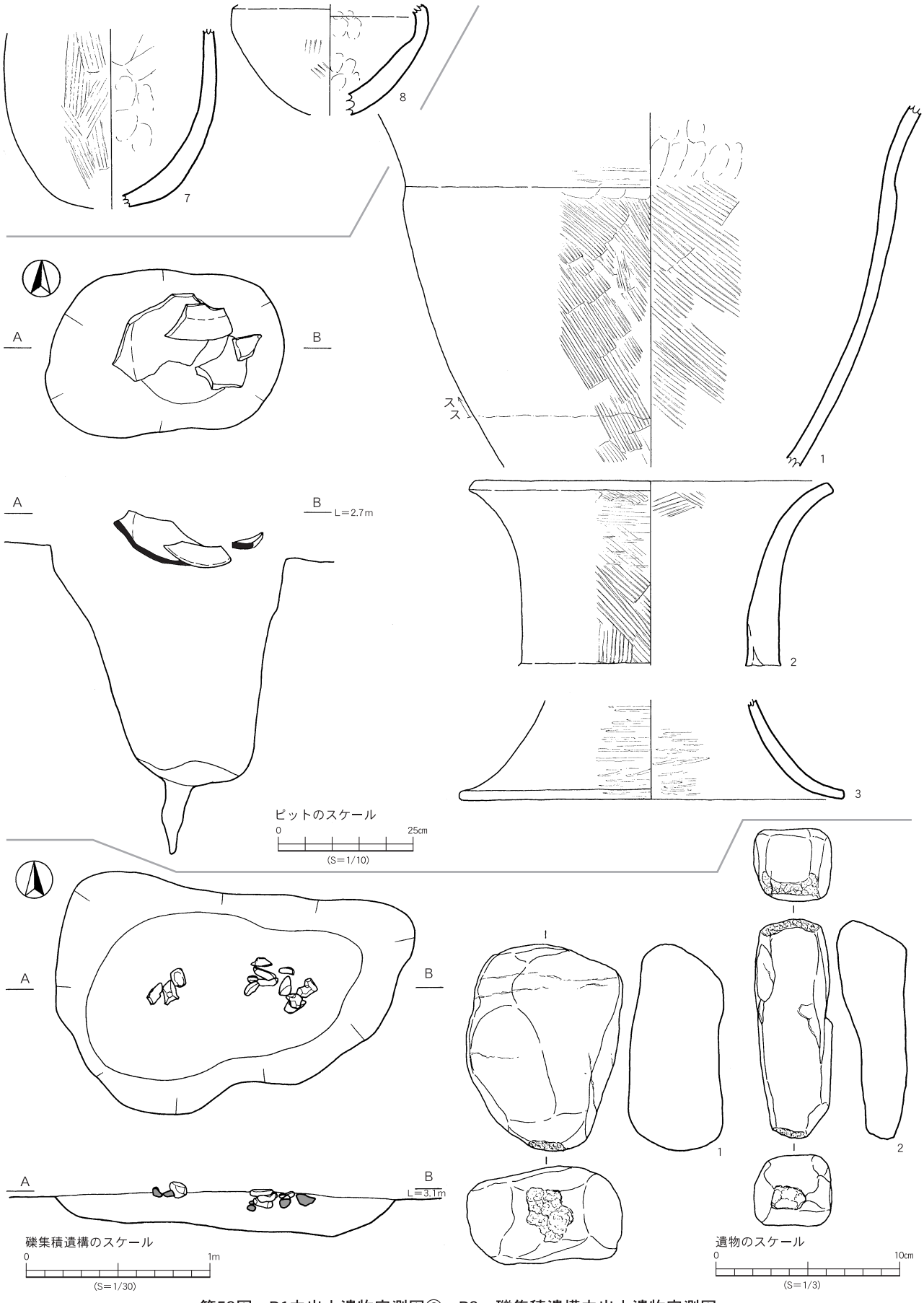
Ｕ・Ｖ―９区のⅢａ′層において検出された。６号竪穴住居跡の北側約１ｍの所で検出した。不定形の土坑は長軸約2ｍで掘り込みは約25cmを測る。ごく希に炭を含む黄褐色の埋土の上面に礫が東西方向二箇所に分かれて13個あった。遺構の用途や性格は不明であるが，６号竪穴住居跡と８号竪穴住居跡の床面でも同様な礫の集積みられたことから関連性があるものと思われる。これら棒状礫の内，敲打痕が認められる資料があり，この内２点を図化した。この他に時期判断が出来るような遺物等は出土していないが，検出された層や周辺の状況などから竪穴住居跡と同じ時期であると判断し，ここに掲載した。



第56図　土坑および土坑内出土遺物実測図



第57図　P1及びP1内出土遺物実測図①



第58図　P1内出土遺物実測図②・P2，礫集積遺構内出土遺物実測図

第３節　遺物

（１）甕（第65図１～第70図52）

総点で5,251点が出土し，この内52点を図化した。章立ての関係から時期的に先行する１から４についてもここに掲載している。

脚部を有するものをＡ類，丸底を呈するものをＢ類と大別した。なお，Ａ類に関しては口縁部が外反するものや直行するもの，あるいは内湾するものなどがあり，底部の形態に関しても脚部内面がU字状を呈するものや平坦なもの，逆U字状を呈するものなど細分が可能である。これらの観点で出土状況を吟味したが，明確な分布の差などを掴むことが出来ず，本報告ではこれらを一括して掲載している。

出土状況は，第59・60図にＡ・Ｂ類を掲載した。竪穴住居跡周辺部とＪ・Ｋ－４区，Ｂ～Ｄ－４～６区という３つの集中域が認められる。

５・６は口縁部が外反し，胴部との境に突帯をめぐらせて屈曲し，胴部は膨らんで脚部へと至る器形を呈する。８は，胴部内外面にスス等の痕跡が認められ，両者の境界線はほぼ一致している。９は，口縁部が強く外反する。口縁部内面にはコゲの範囲が横位にめぐる。10の胴部はやや丸みを呈する。16も９と同様の痕跡を残すが，底部に近い部分に認められる。23・26は１条突帯であるが，粘土紐の接合が上下に高さを違えているため，部分的に２条突帯を呈する。29・30は口縁部が内湾するタイプで，突帯を有しない。30～36は胴部片である。37～49は底部片である。底部は脚内面が平坦なもの，U字状を呈するもの，逆U字状を呈するものの３種類がある。

50～52は丸底になる一群（Ｂ類）である。51の外面の稜線ははっきりとしない。

（２）壷（第70図53～第72図75）

総点で，638点が確認されこの内23点を図化した。53から75が該当する。頸部がやや長いもの（53～55）と，外反して短いもの（56～61），胴部・底部片（62～75）とに分けられる。

53は頸部との粘土接合面で剥離している。56は，胴部最大径よりやや上位に突帯をめぐらせる。57は口縁部がやや湾曲して外反する。口唇部がわずかに丸みを帯びている。62は２条突帯がめぐる。75は灰褐色系の色調で，調整がやや鋭い工具により調整されている。

（３）鉢（第72図76～第73図97・103～105）

総点で，56点が確認されこの内24点を図化した。脚部を有するもの（76・104・105），平底のもの（77～79），不安定な底部のもの（80）とに分けられるが，83～85はこの３者には属さない可能性がある。加えて，時期的には弥生時代後期の可能性が考えられる。

76は，わずかに欠損するがほぼ完形品である。当初は，方形の黒褐色プラン内にあったため，遺構及び遺構内物の可能性も考えられたが，結果的には遺構ではなかったためにここに掲載した。口縁部は外反し，口唇部は外へ張り出して平坦面を有する。頸部は縦位の調整が強くは入り，胴部との境に工具痕のアタリを強く残す。胴部はわずかに膨らんで窄まり脚部へと至る。調整は幅の狭い工具痕を細かく残している。77から79は平底を呈する小型の鉢である。80は完形品で出土した丸底の鉢である。85は胴部下半で段を有して膨らむ。86・87は口縁部が内湾気味に丸みを帯びる。

（４）高坏（第73図98～102・106～116）

総点で452点が出土し，この内16点を図化した。98から103，106から116が該当する。皿部と脚部とが接合する資料は見られない。また，赤色顔料塗彩の資料が多いが，これらが剥落しているものや２次焼成を受けているものなどもある。また，内面が著しく摩耗しているものもあり，単に祭祀とは言い切れない状況の資料もある。

（５）坩（第74図117～133）

総点で203点が出土し，この内17点を図化した。117から133が該当する。117は時期的に先行する可能性がある。119は頸部に粘土の接合面が見られる。119・120の胴部は丸みを呈するが，121から123は丸みを帯びつつも稜線が入る。131は大型のもので，あるいは壺形に分類した方がよいのかも知れない。

（６）皿形（第74図134～138）

総点で９点が確認され，この内５点を図化した。

134は，内外面を丁寧に研磨した薄手の土器である。底部はわずかに平坦である。

（７）土製品（第74図139～154）

総点で25点が確認され，この内16点を図化した。この中には，手捏ね土器や小形土器を含み，匙形土製品もここに分類した。

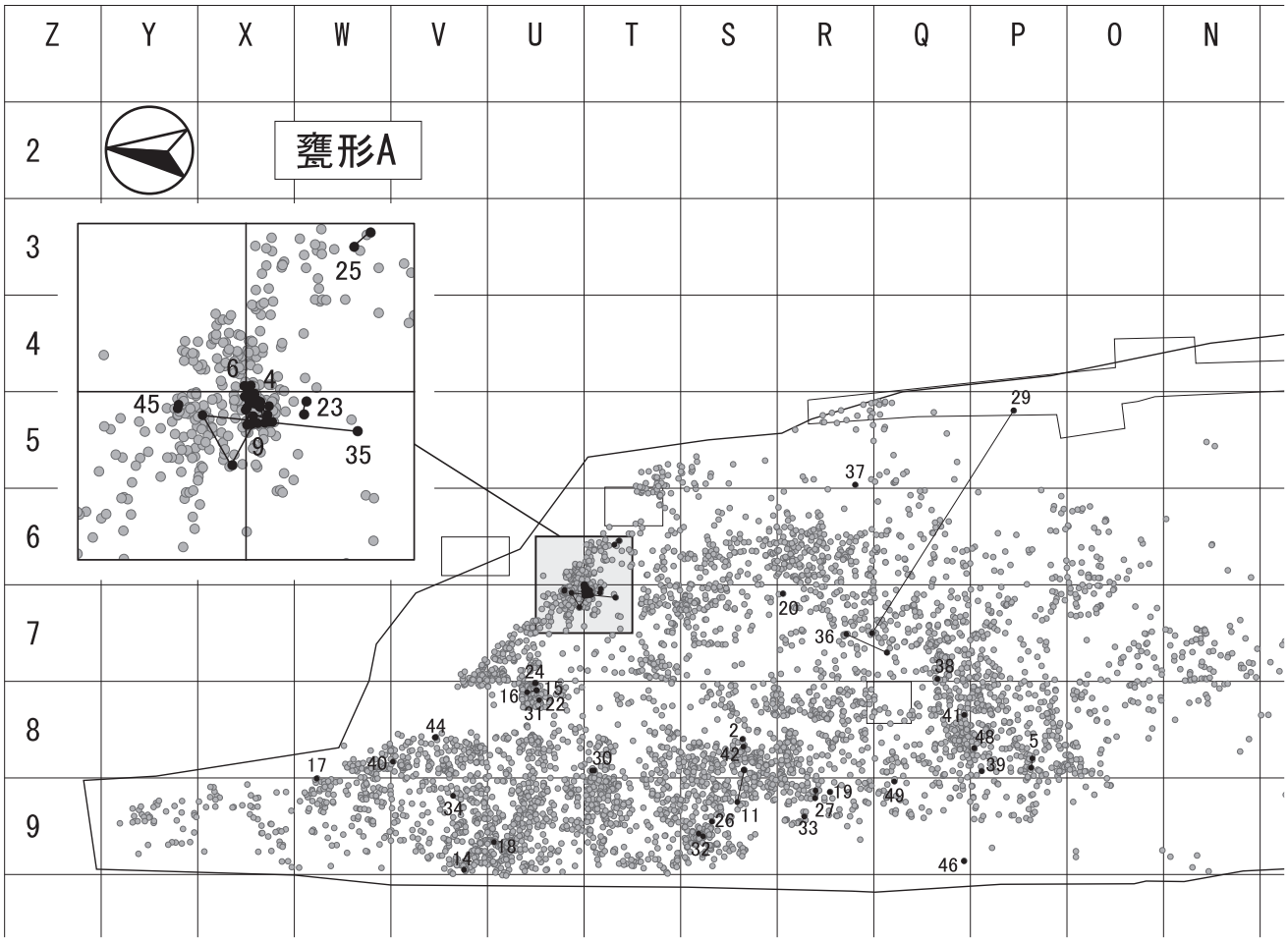
139から142は脚部を有する。143から148は平底を呈し，149は底部が尖る。

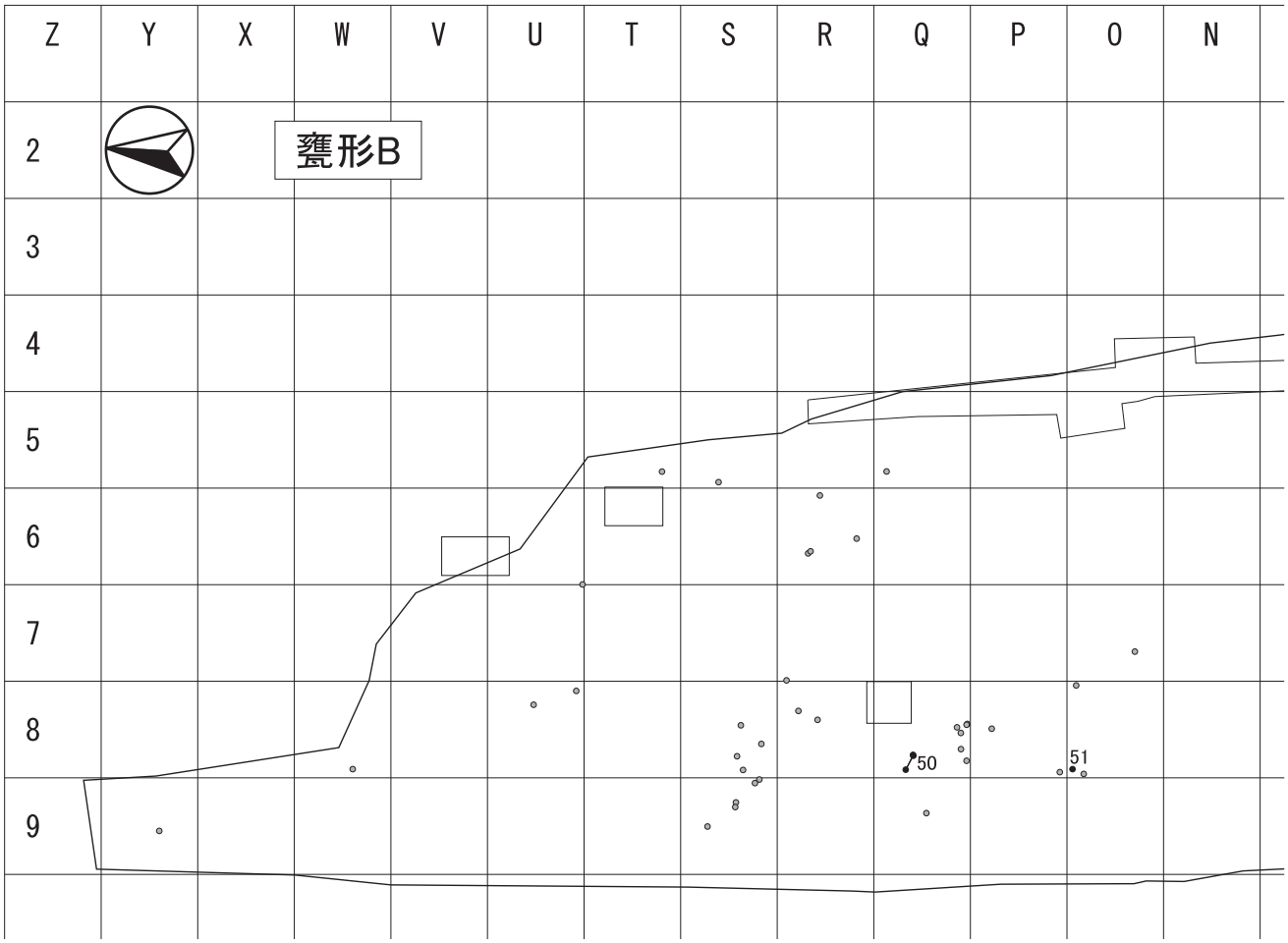
（８）須恵器（第75図155～159）

５点全てを図化した。章の冒頭で述べたとおりにＫ－４区に集中する。158は薄手の資料である。

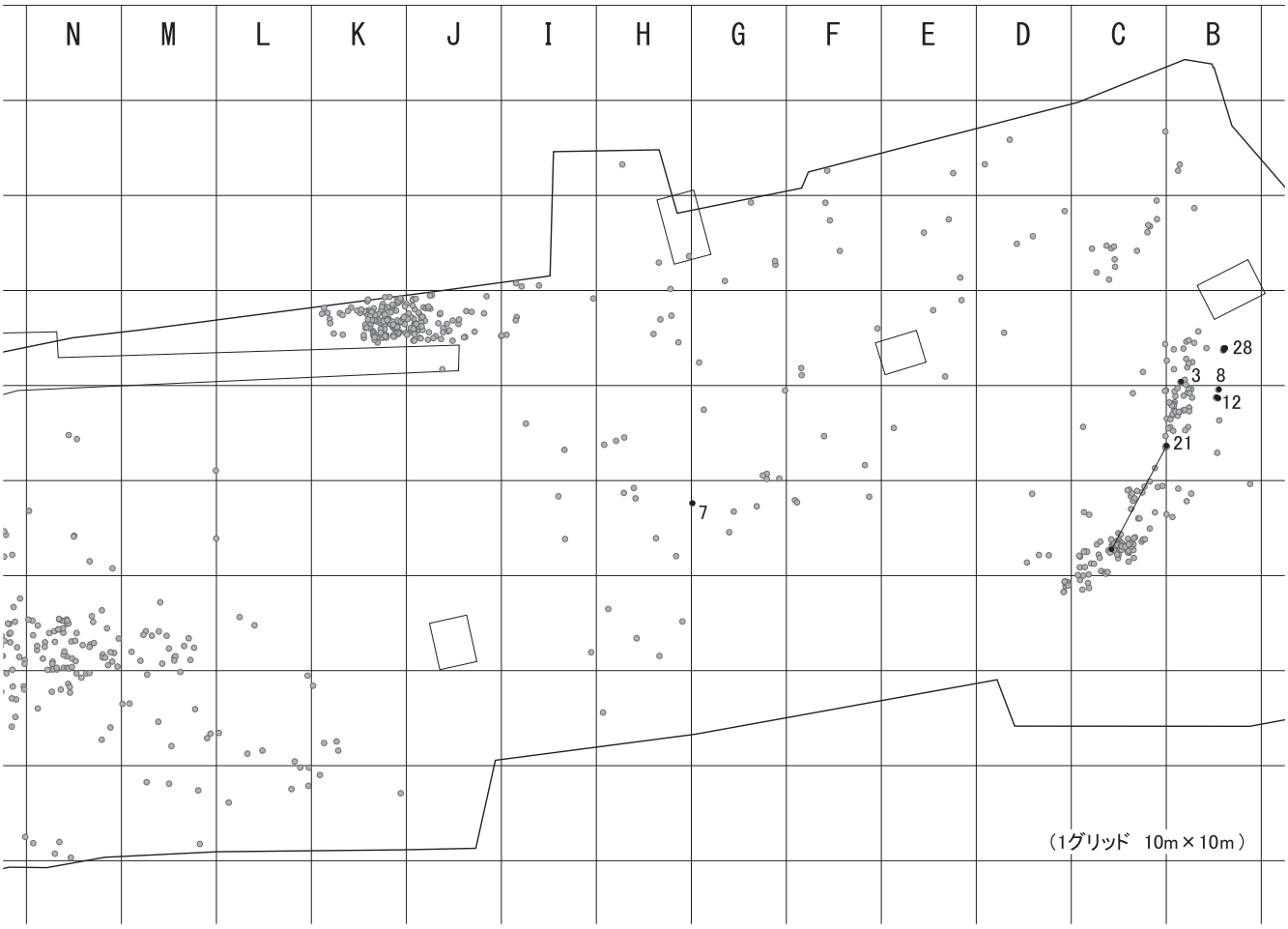
（９）石製品（第75図160・161）

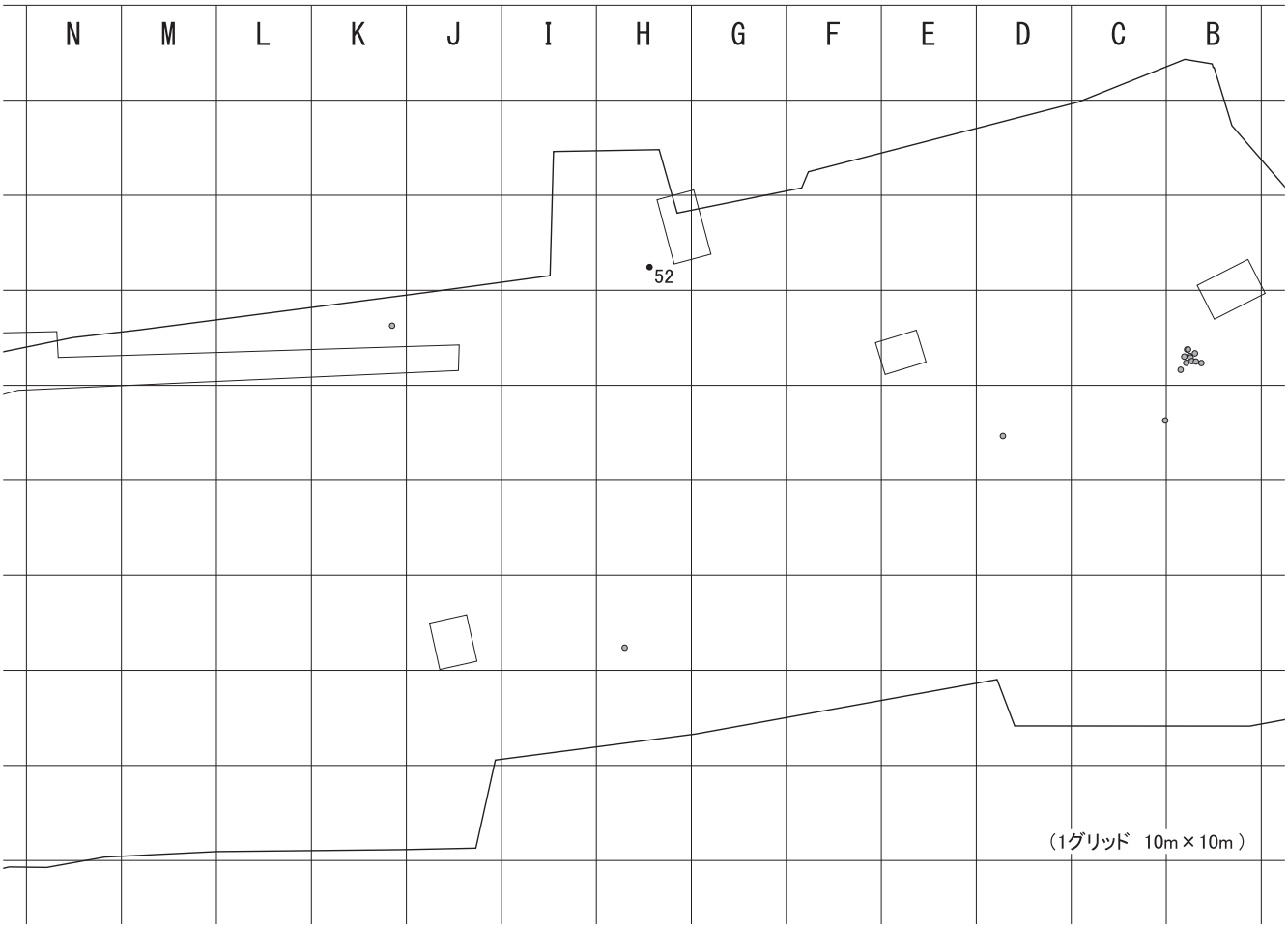
勾玉が２点出土している。



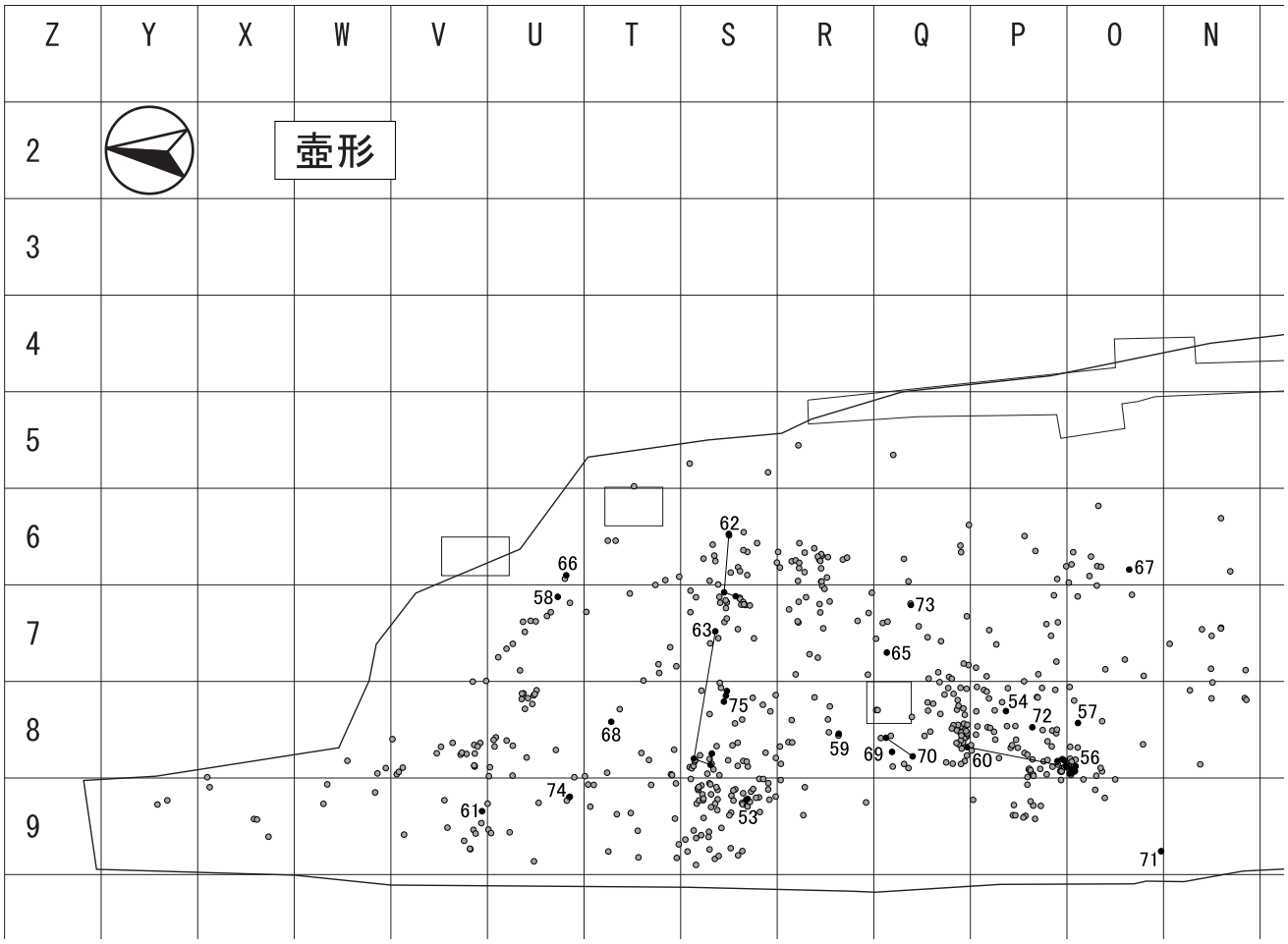


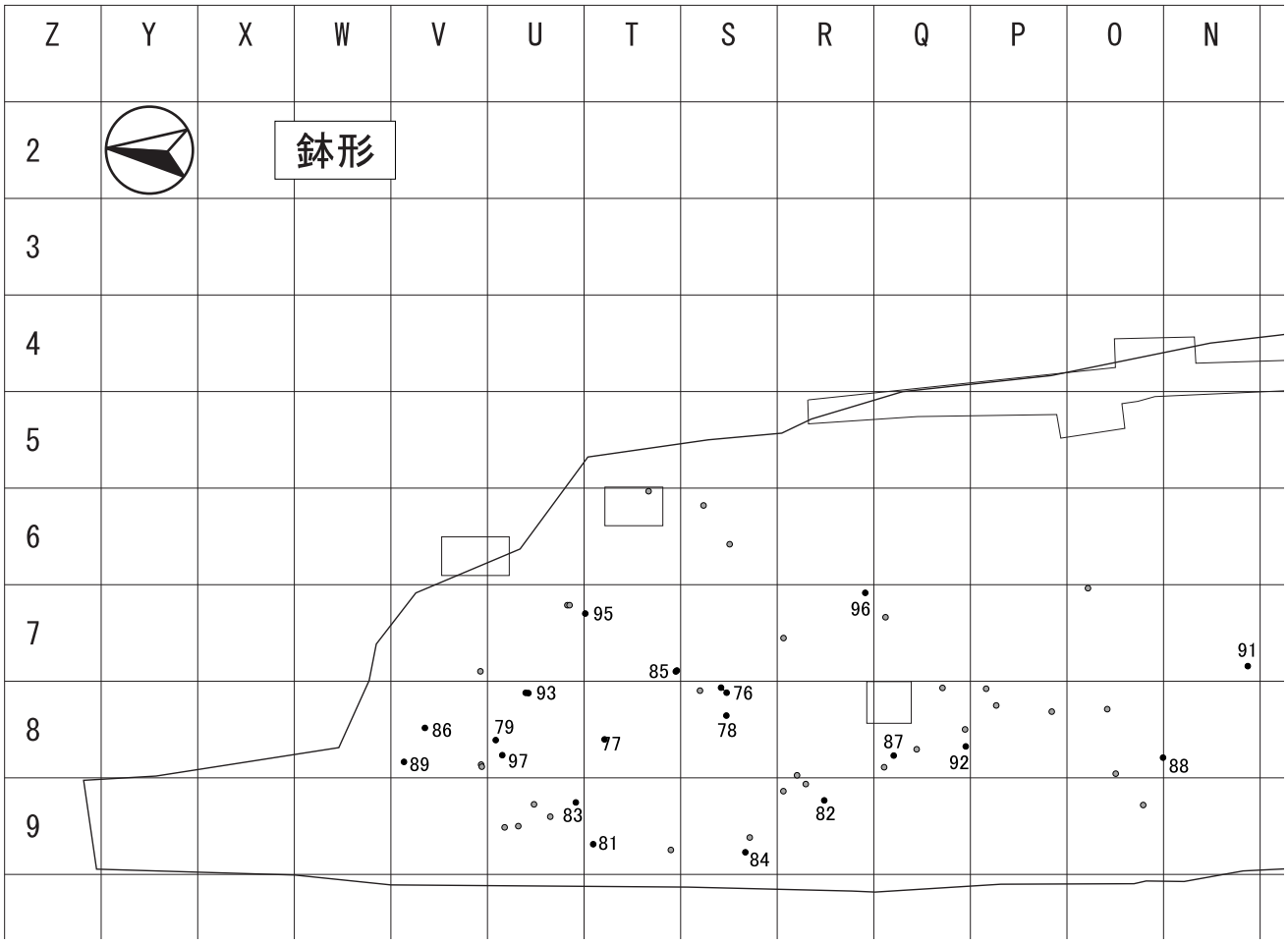
第59図　器種別出土状況図①（甕形A・B左）



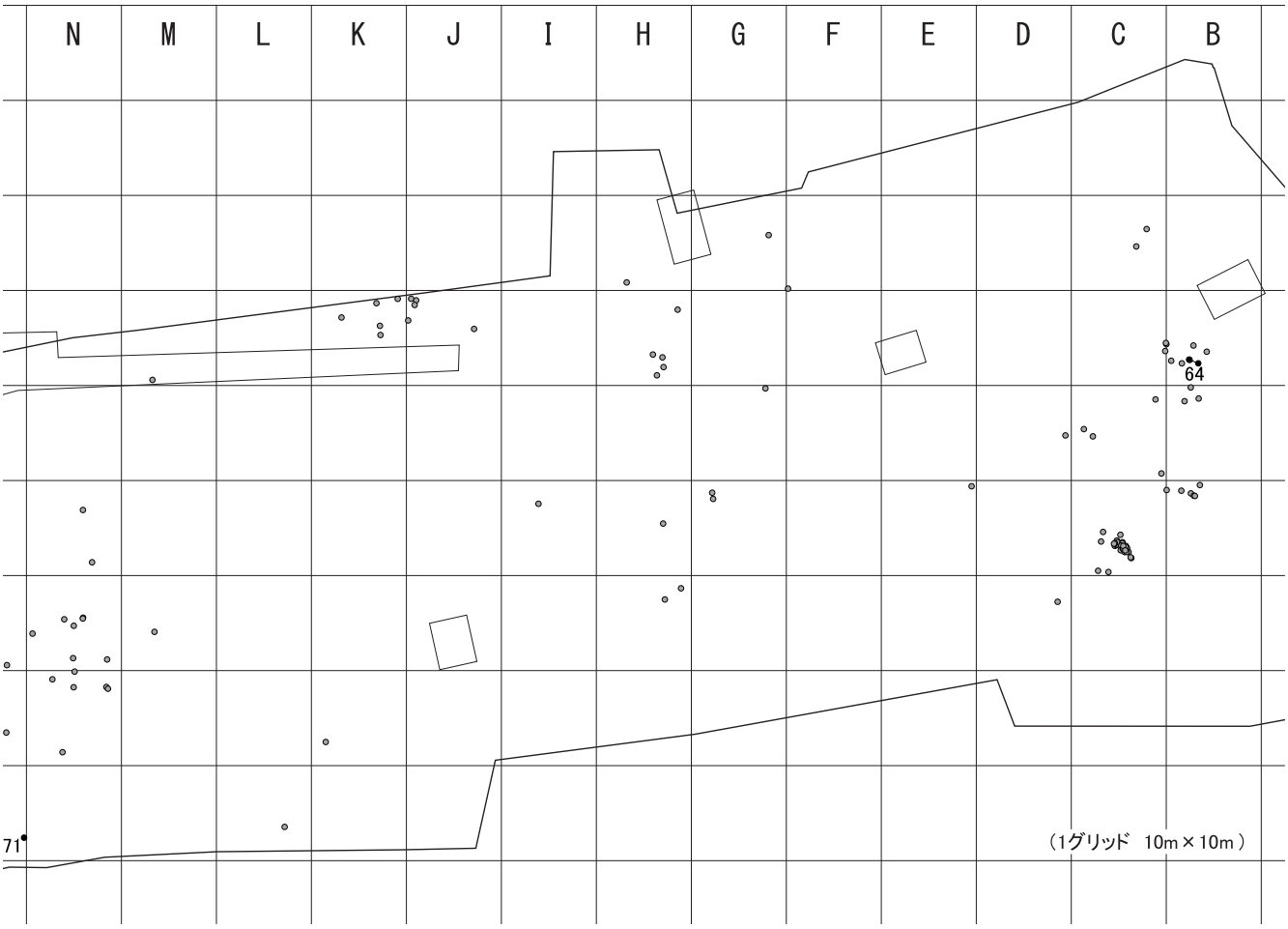


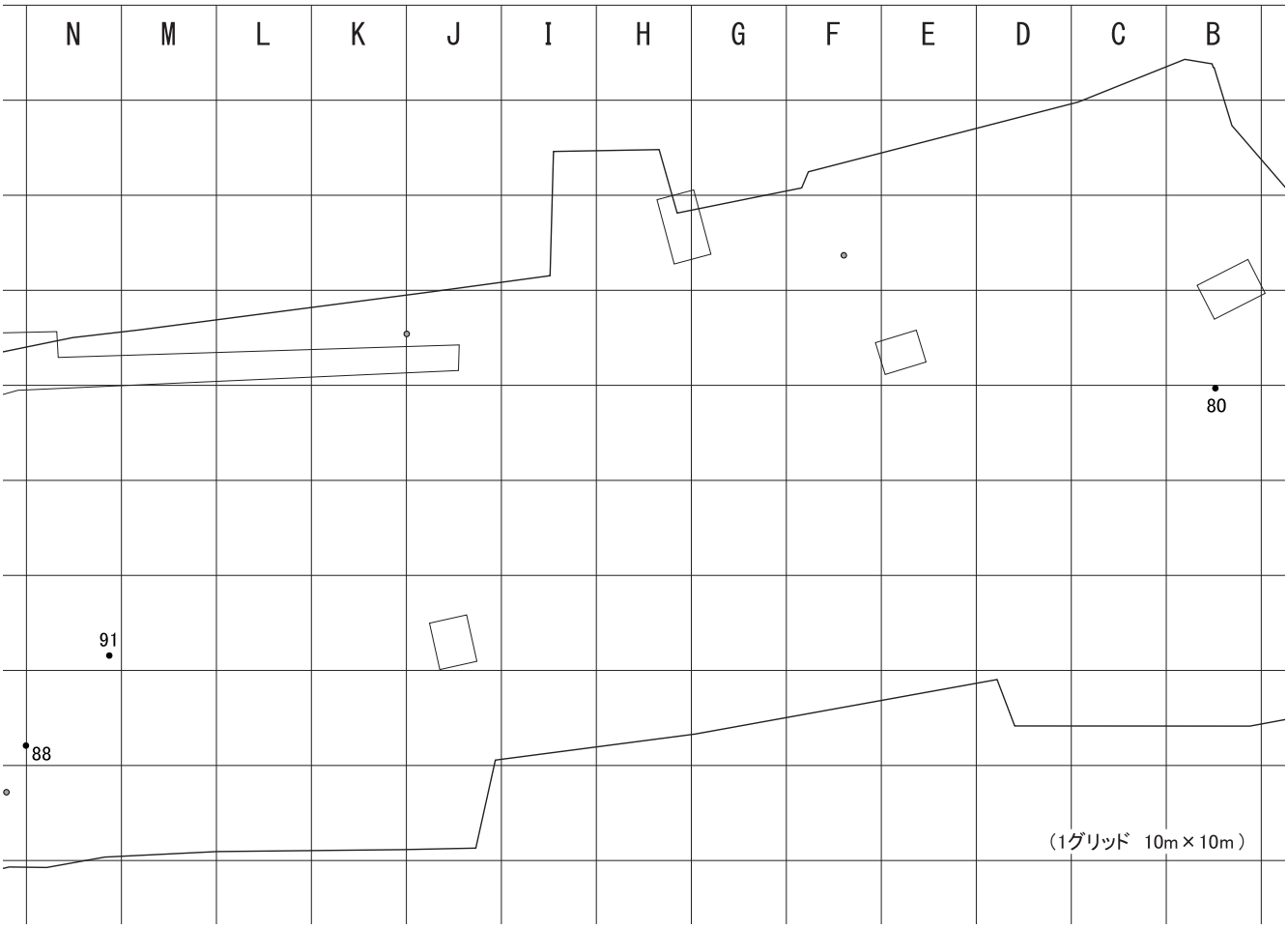
第60図　器種別出土状況図②（甕形A・B右）



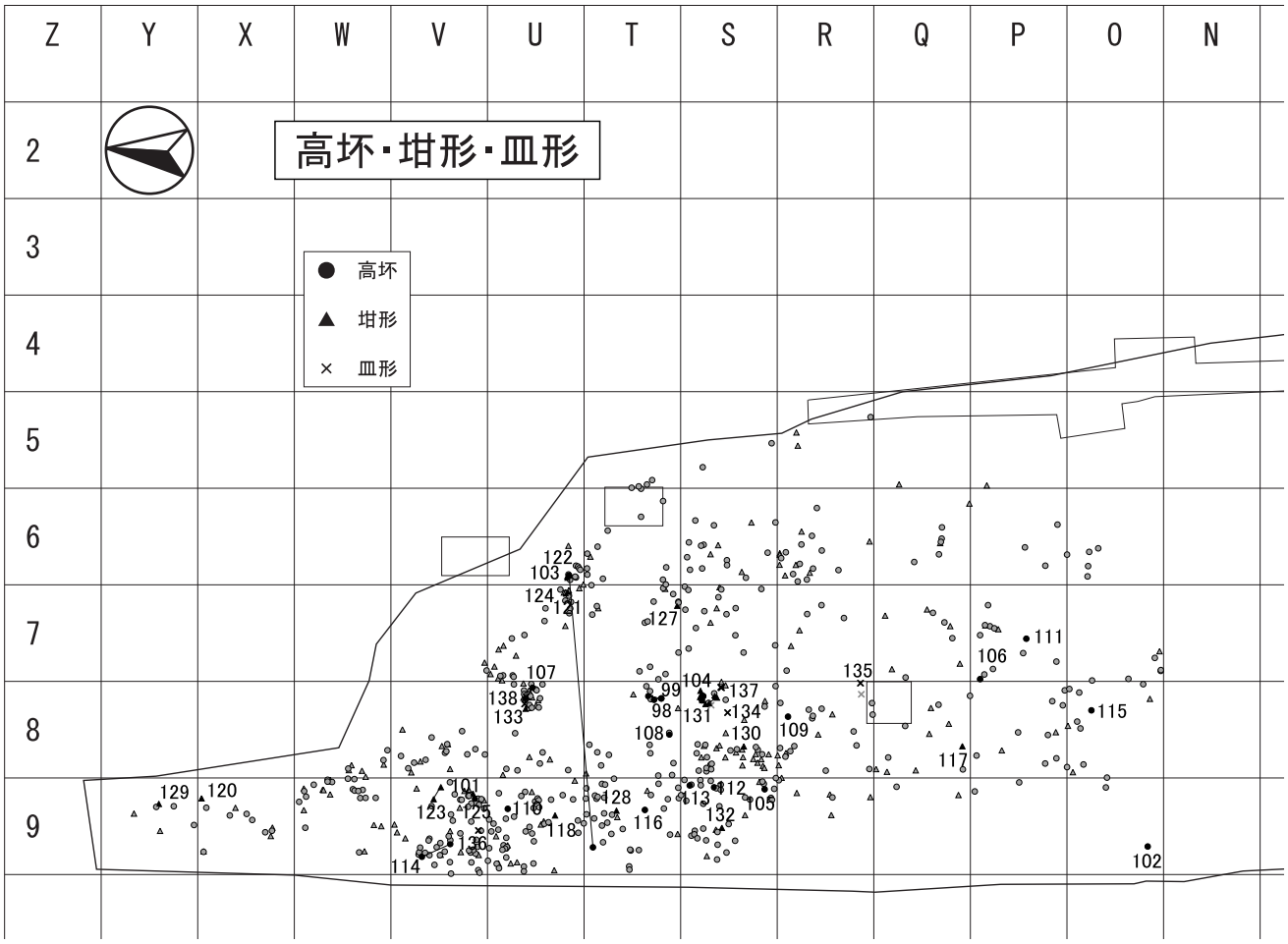


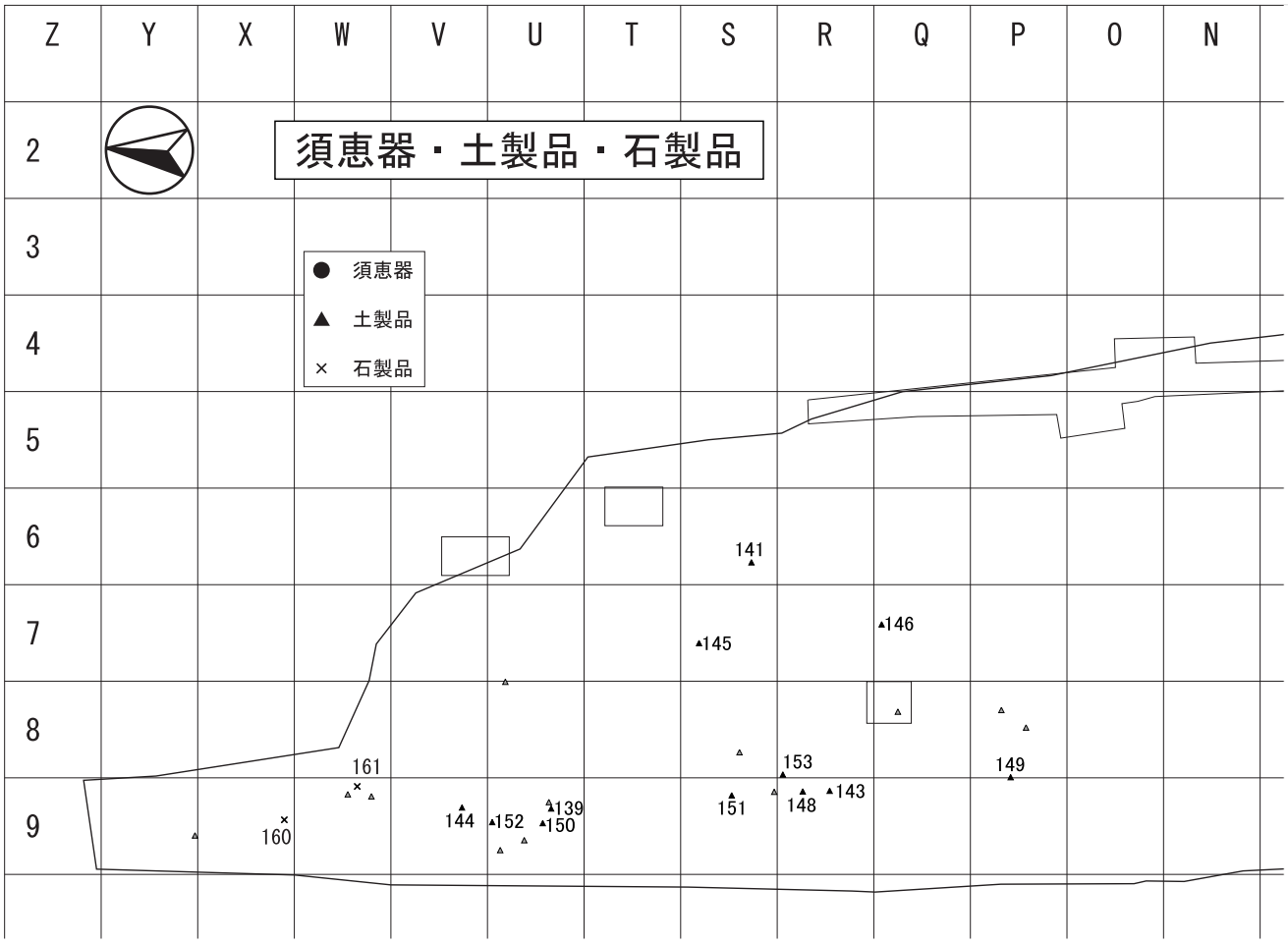
第61図　器種別出土状況図③（壺形・鉢形左）



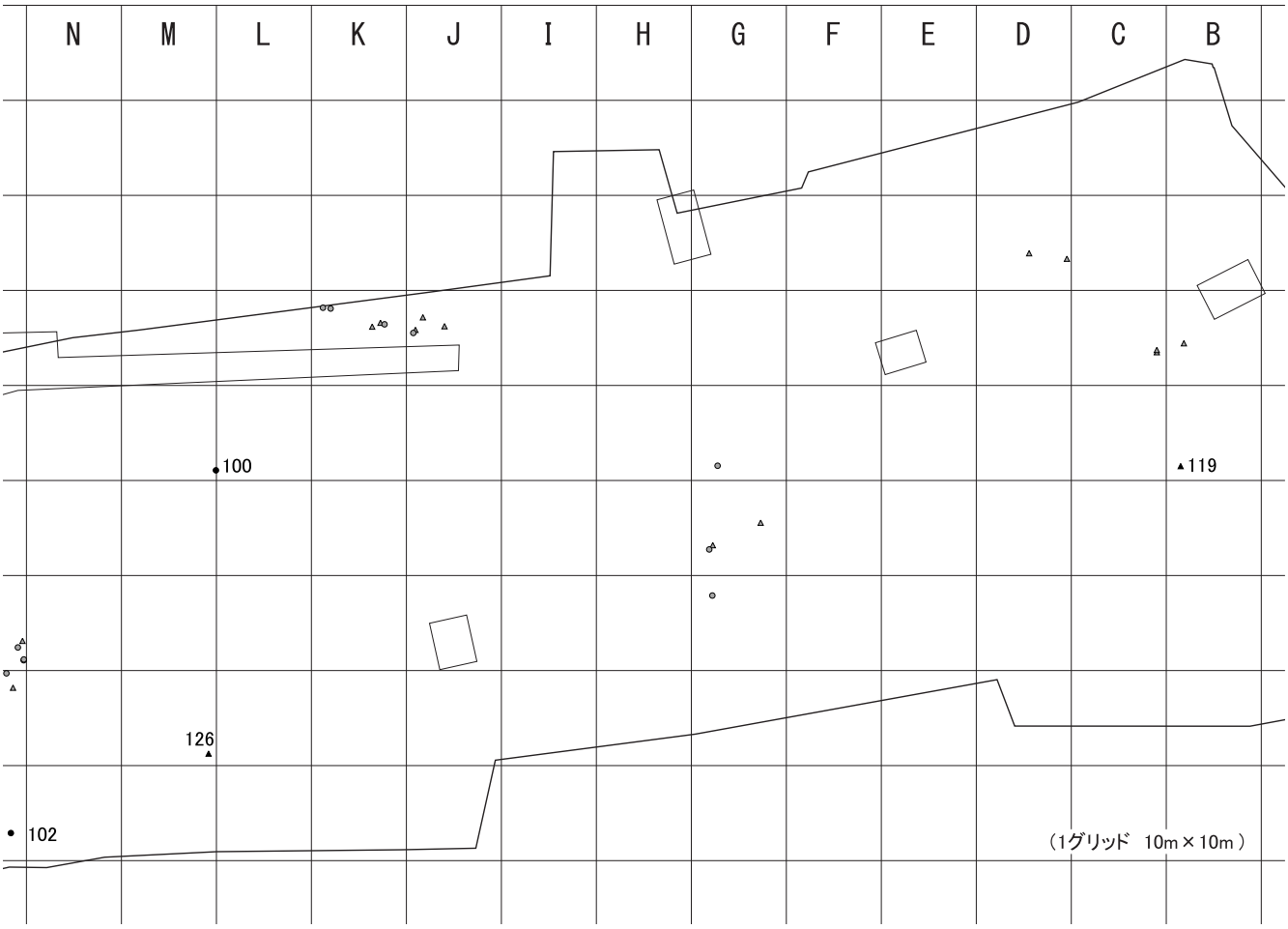


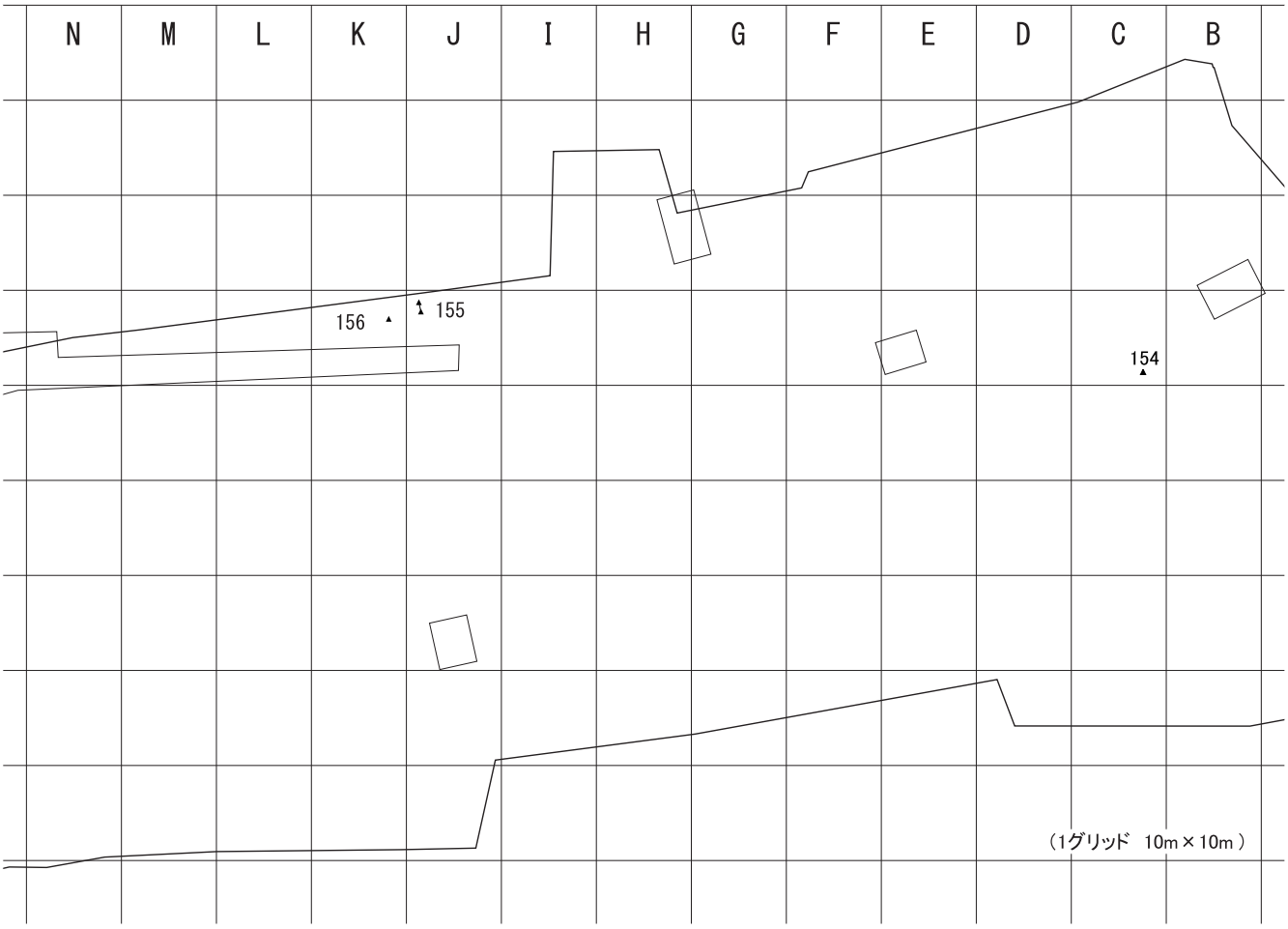
第62図　器種別出土状況図④（壺形・鉢形右）



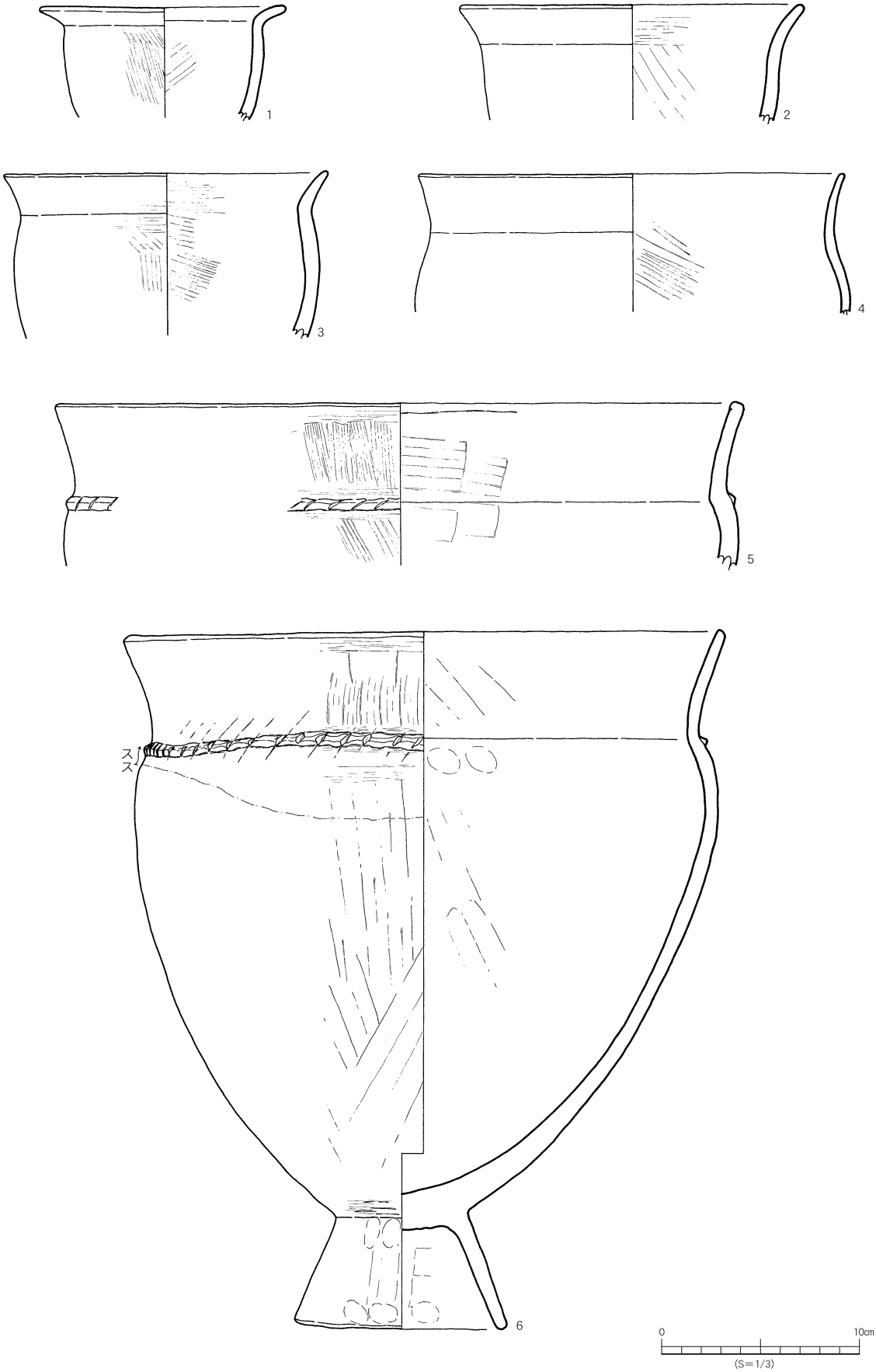


第63図　器種別出土状況図⑤（高坏ほか・須恵器ほか左）

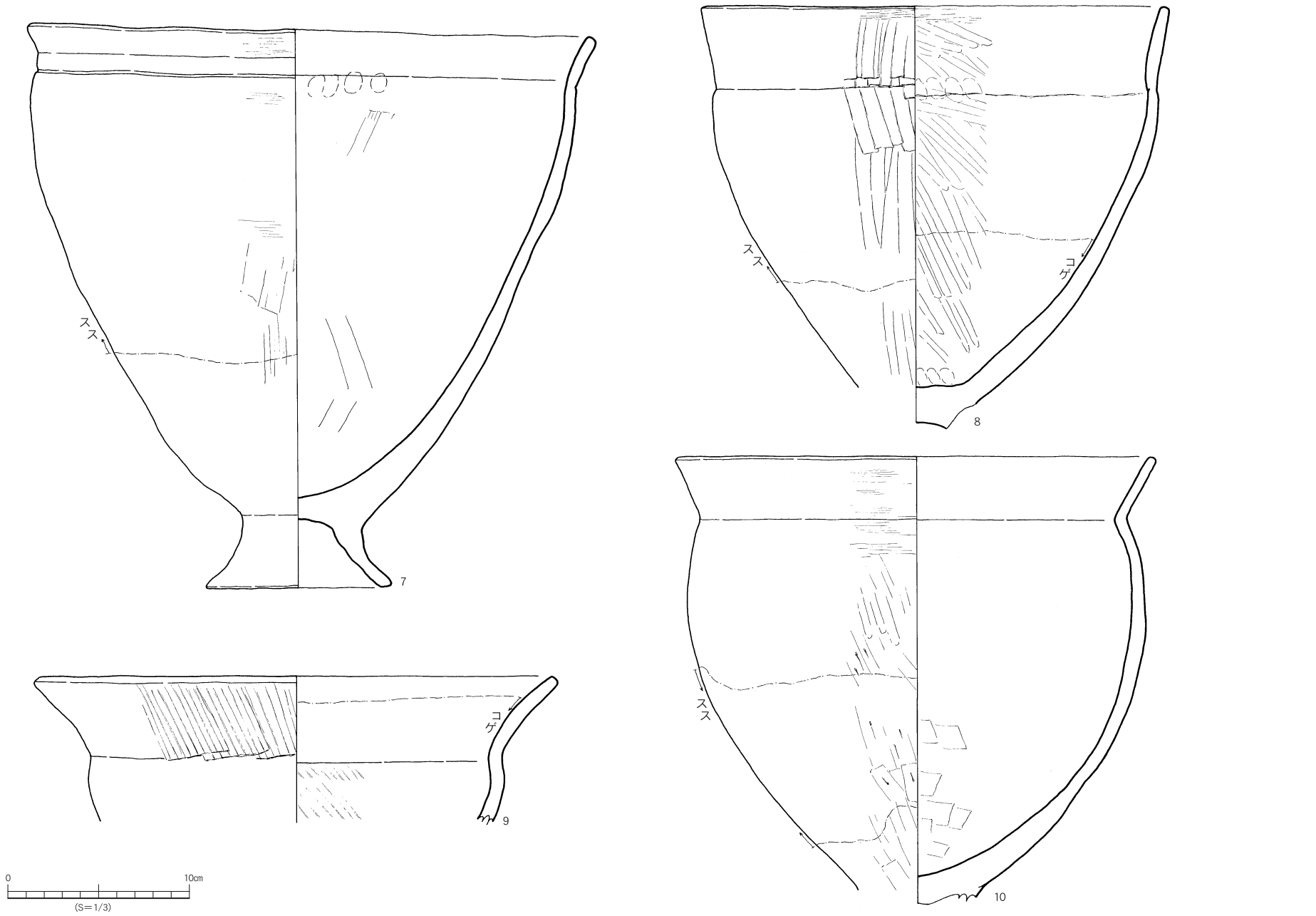




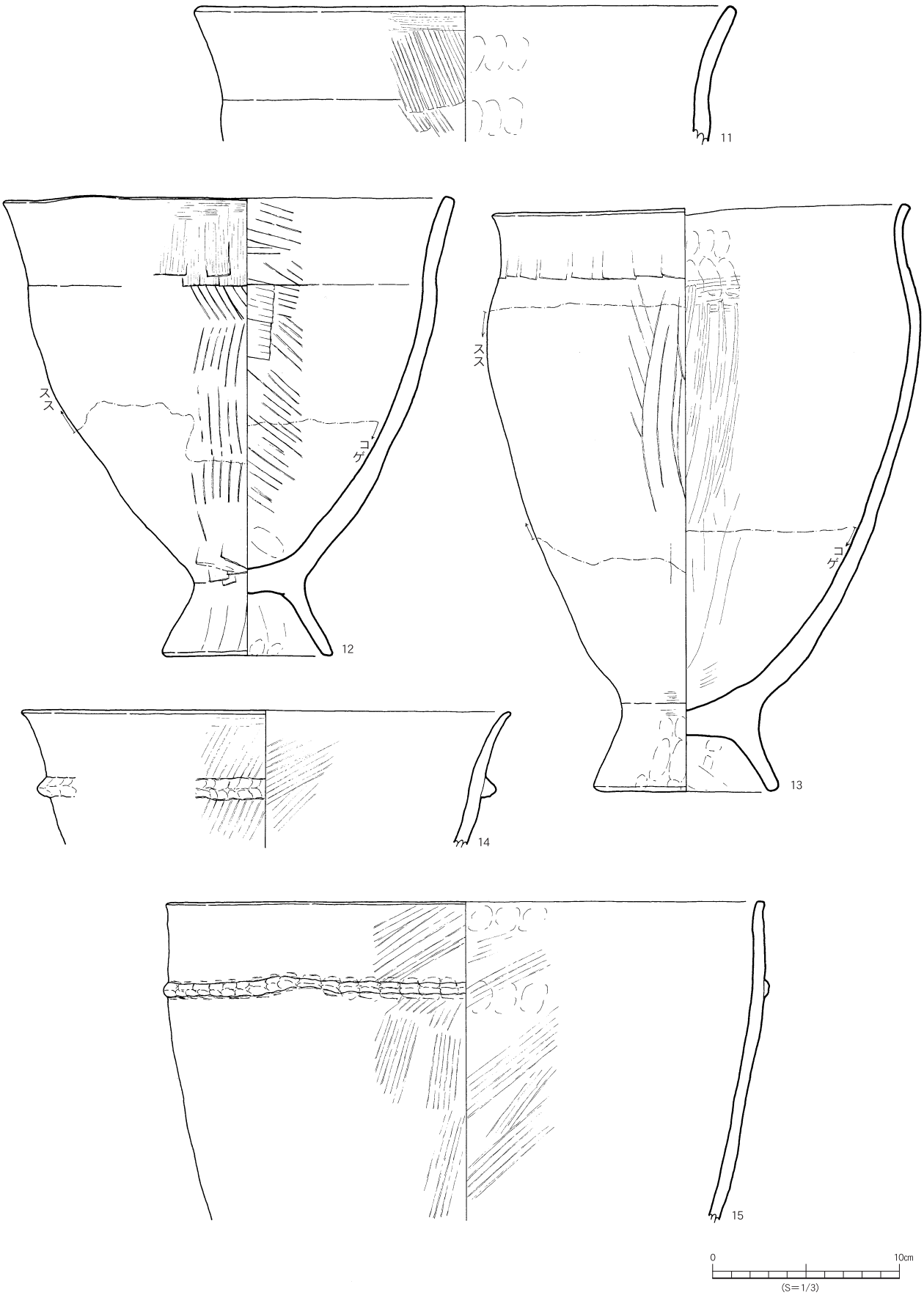
第64図　器種別出土状況図⑥（高坏ほか・須恵器ほか右）



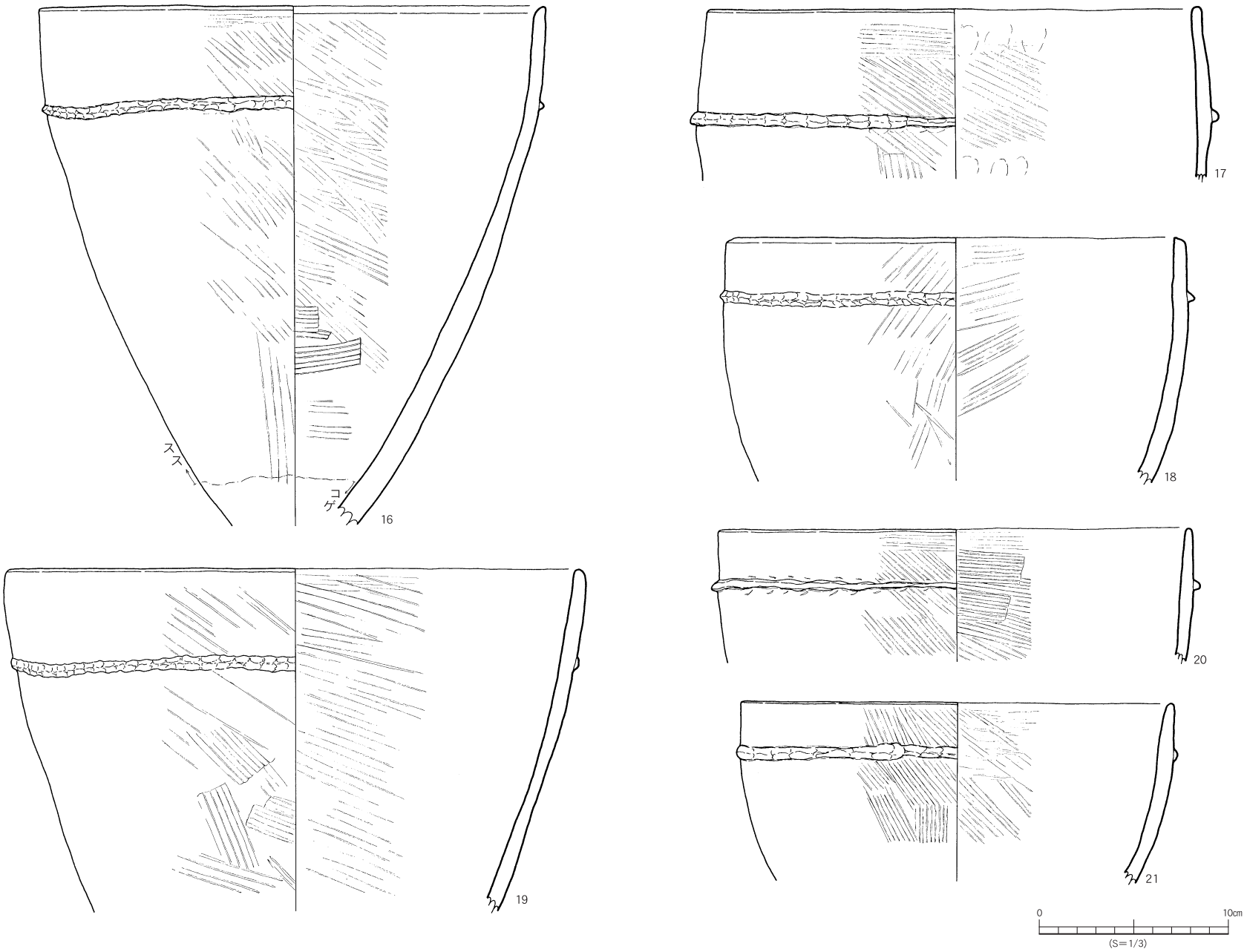
第65図　包含層出土遺物実測図①



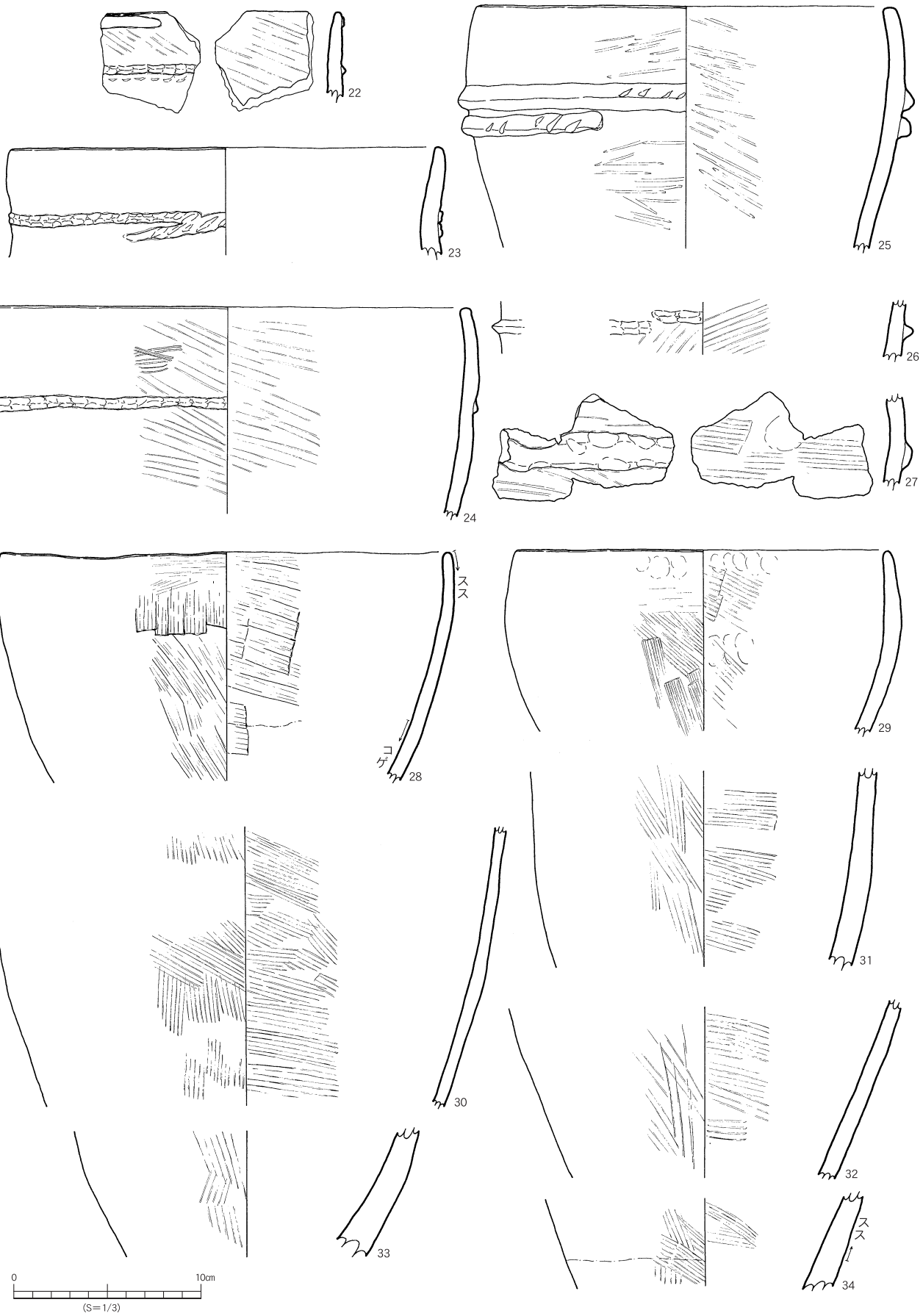
第66図　包含層出土遺物実測図②



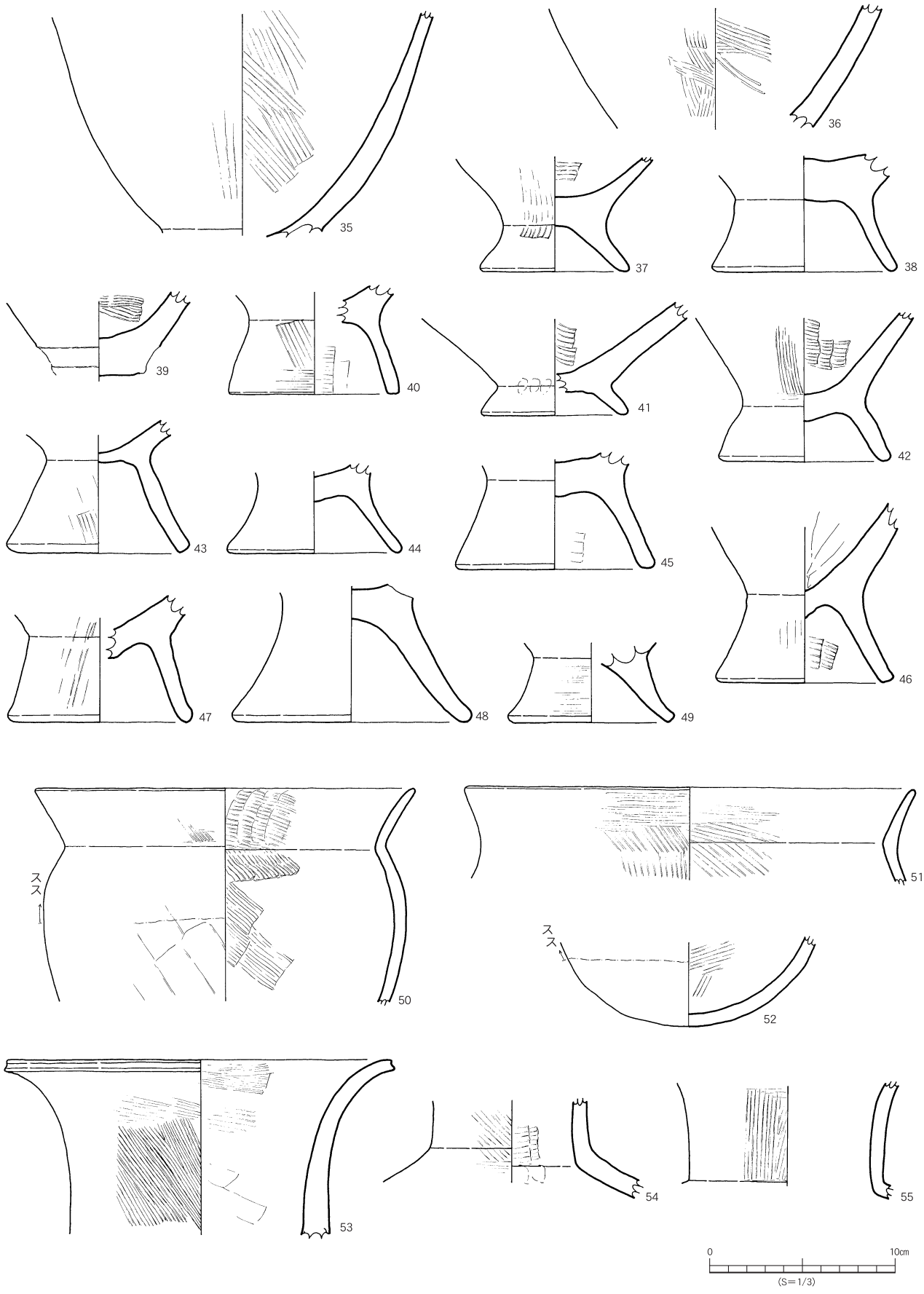
第67図　包含層出土遺物実測図③



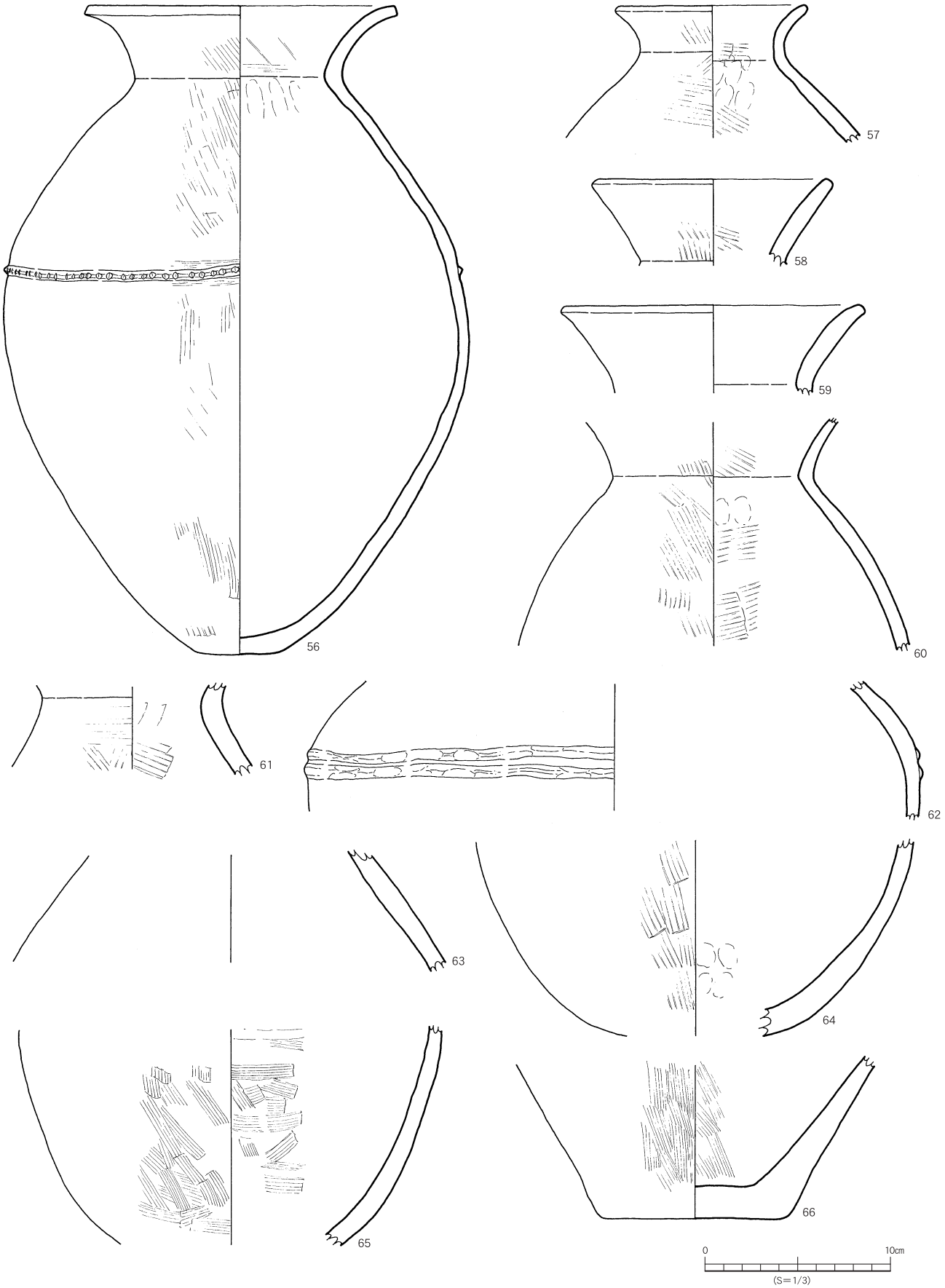
第68図　包含層出土遺物実測図④



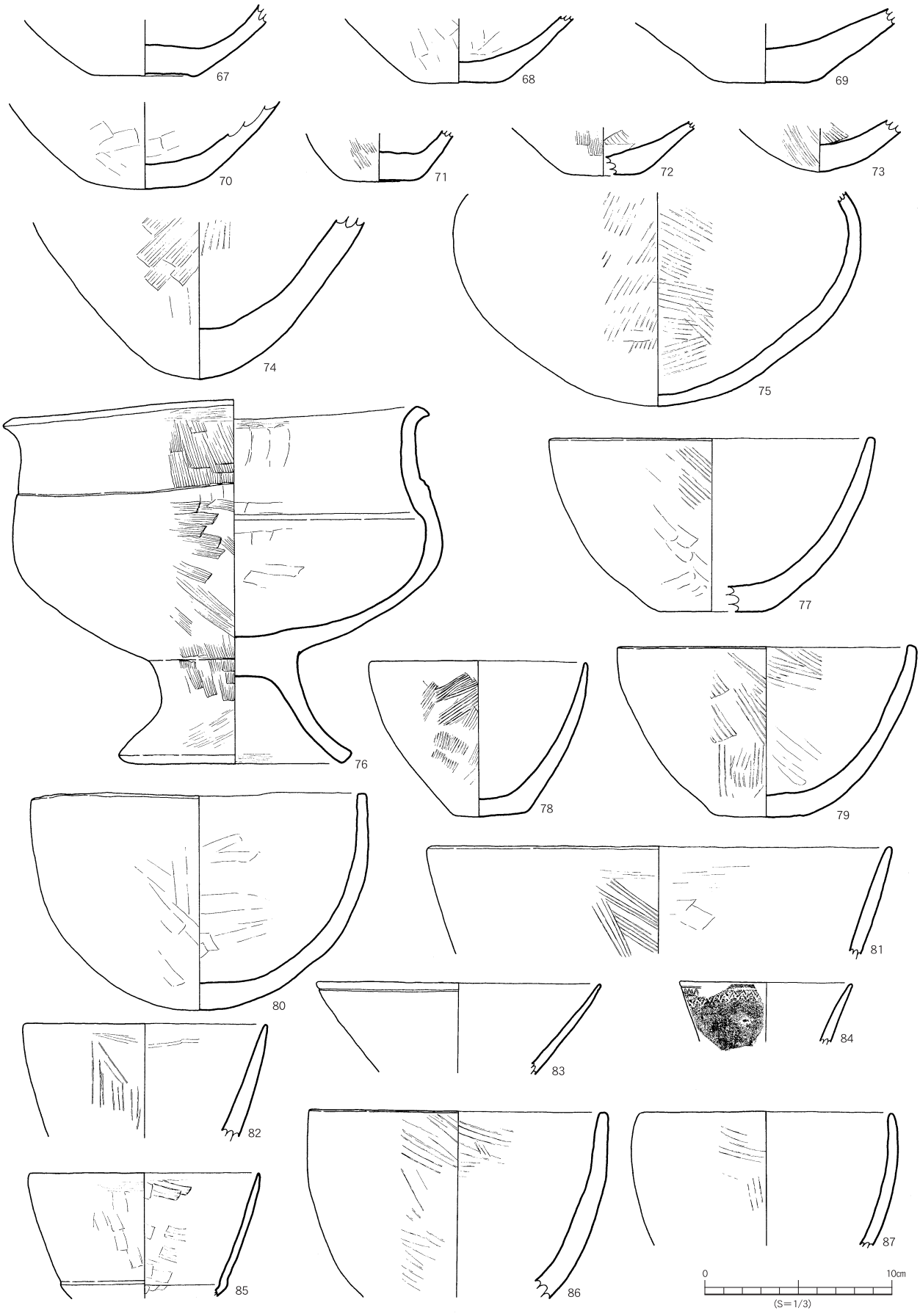
第69図　包含層出土遺物実測図⑤



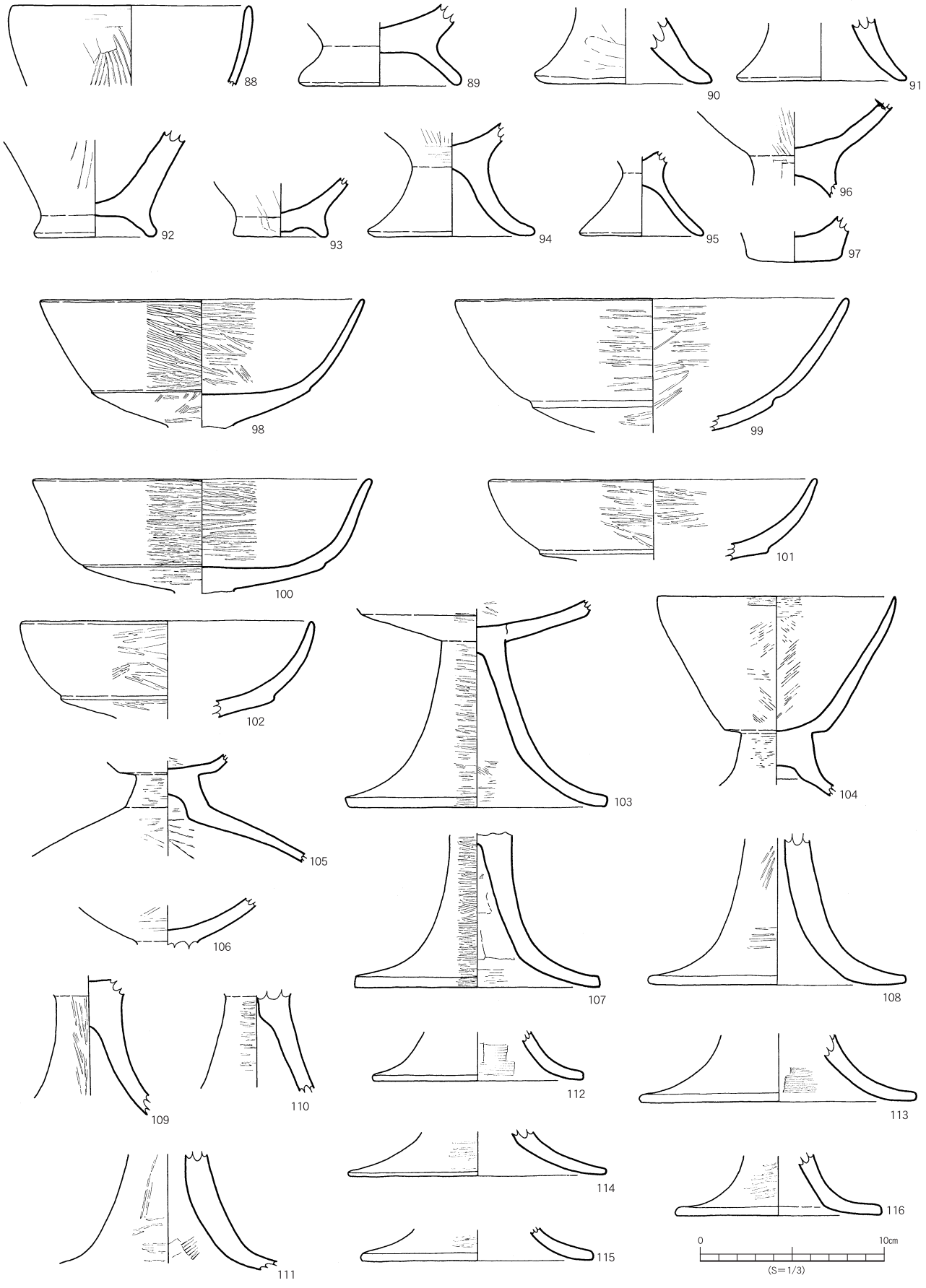
第70図　包含層出土遺物実測図⑥



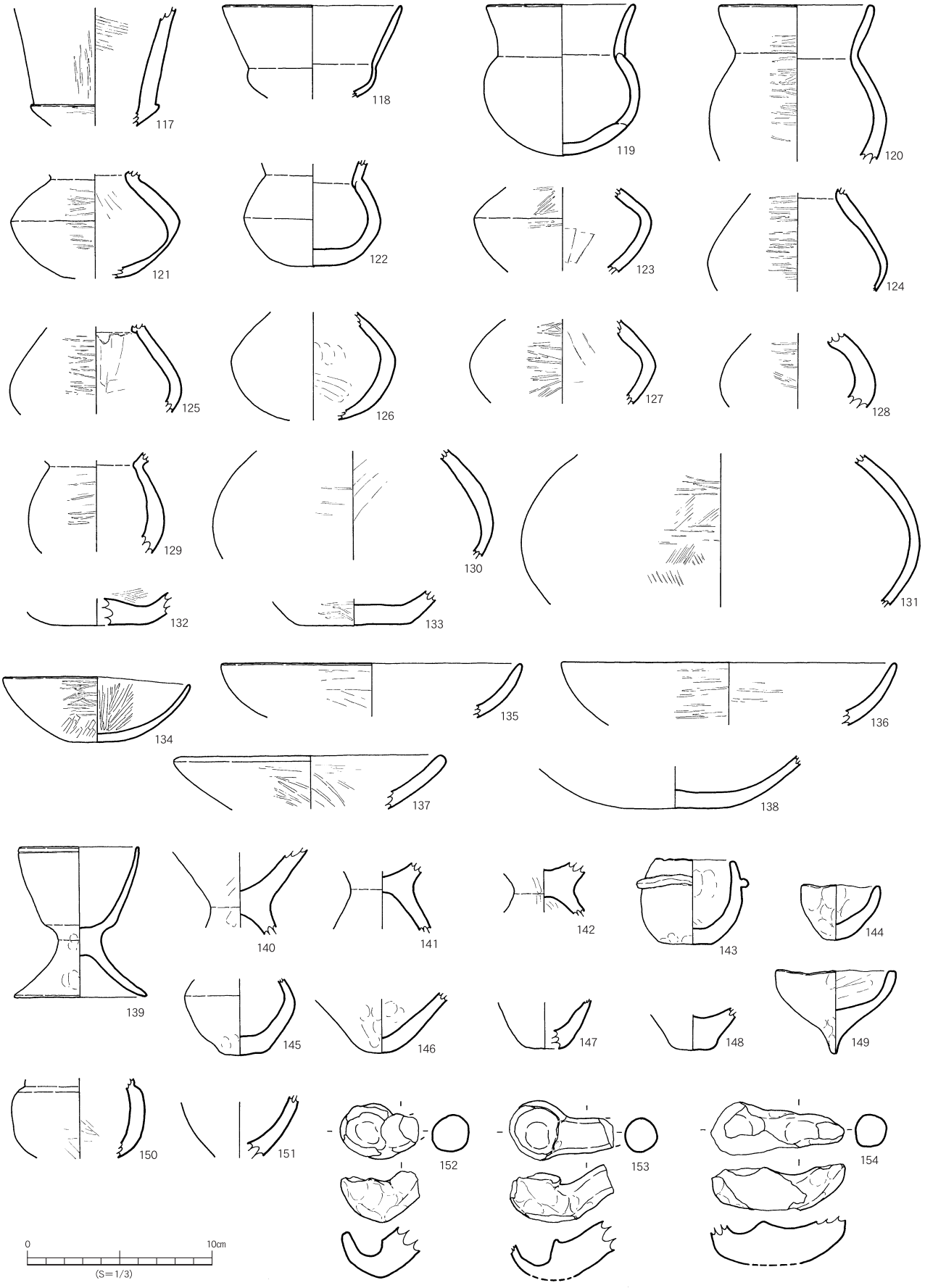
第71図　包含層出土遺物実測図⑦



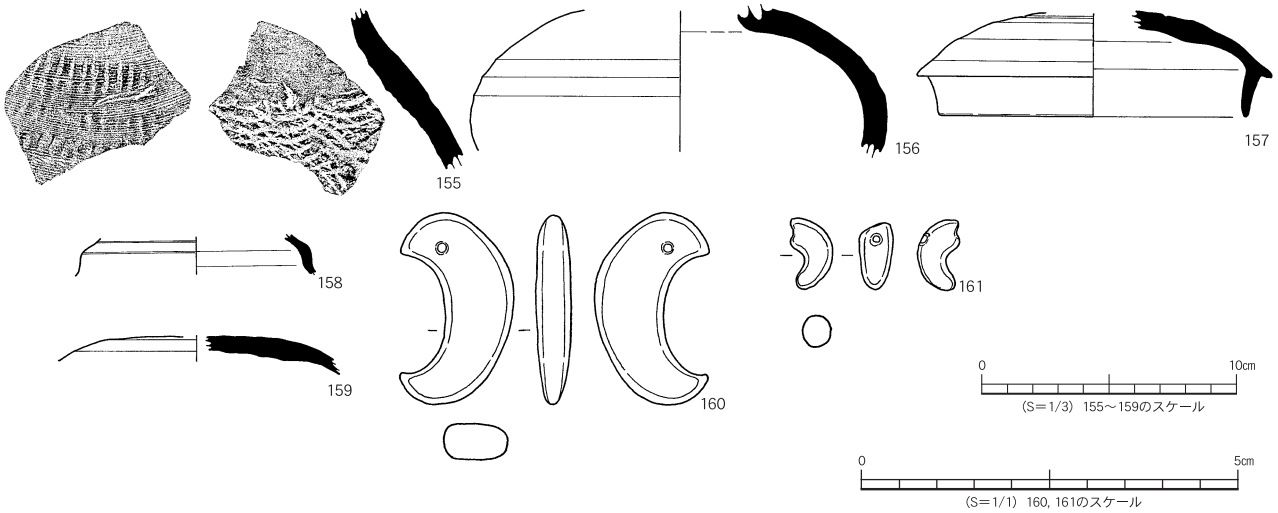
第72図　包含層出土遺物実測図⑧



第73図　包含層出土遺物実測図⑨



第74図　包含層出土遺物実測図⑩



第75図　包含層出土遺物実測図⑪



図版32　竪穴住居跡検出状況

第４章　古代の調査

第１節　概要

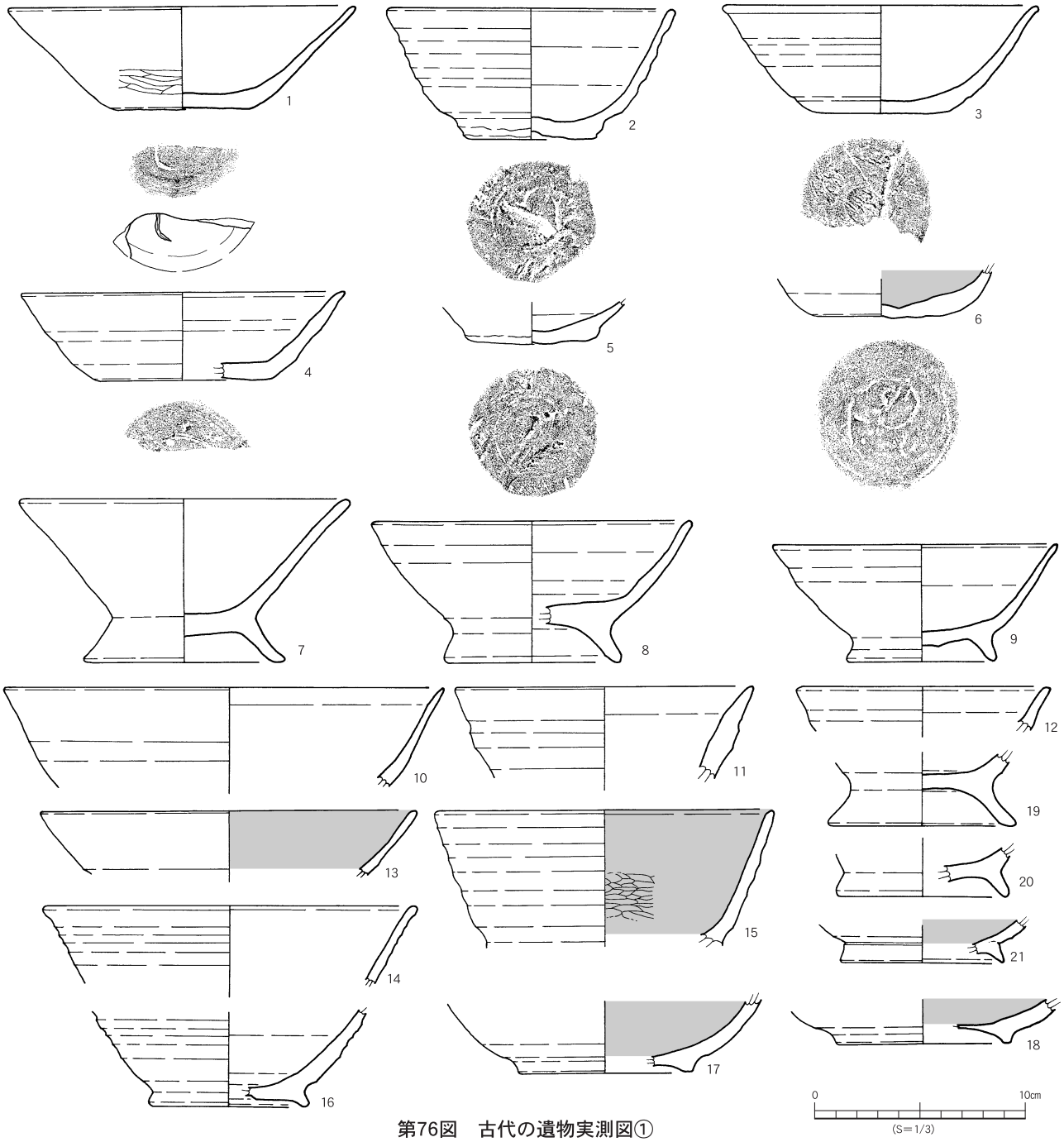
調査対象となる層位は，Ⅱ層，Ⅲa´層，Ⅲa層である。この中で最も遺物量が多いのはⅡ層である。

包含層での遺物出土状況は，Ⅱ層を中心として遺物の出土が見られた。出土状況としては，小破片が多い。これらに関しては，区一括で取り上げを行い，比較的大きめの破片に関しては番号を付けて取り上げを実施した。

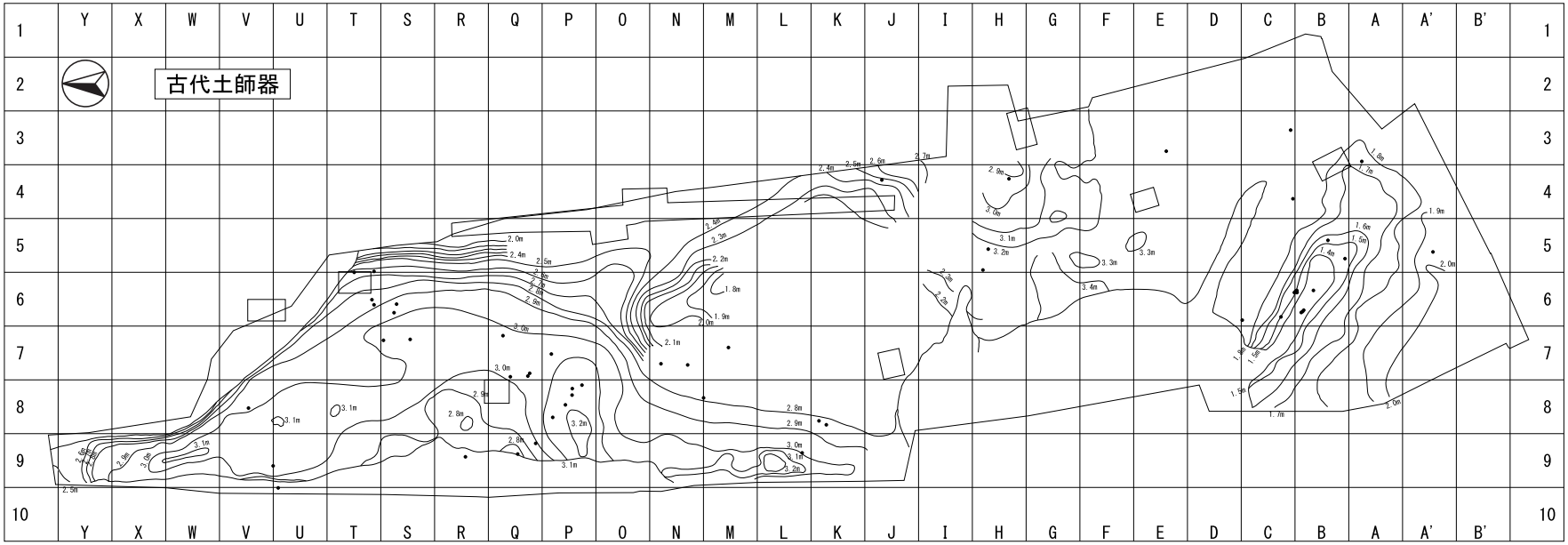
ここでは主に平安時代の遺物について，土師器・黒色土器・赤色土器を一括して口縁部から胴部，底部の順に掲載した。続いて須恵器についても同様の順で掲載した。

当該時期の明確な遺構は，検出されていない。しかしながら，包含層中からは，土師器・須恵器を中心とした遺物が相当量出土している。また，中岳山麓窯跡群がすぐ近くに立地するためか，その中でも須恵器の出土が多くみられた。次章で扱う大量のピットの中には古代に属する可能性のあるものが存在することも付け加えておく。

以上のほかに注目すべき遺物としては，東海系の灰釉陶器や緑釉陶器，削り出し高台の土師器椀などが確認された。１～６は坏，７～21は椀である。１は，７～８世紀の可能性のある坏である。赤色で外面にはミガキがみ

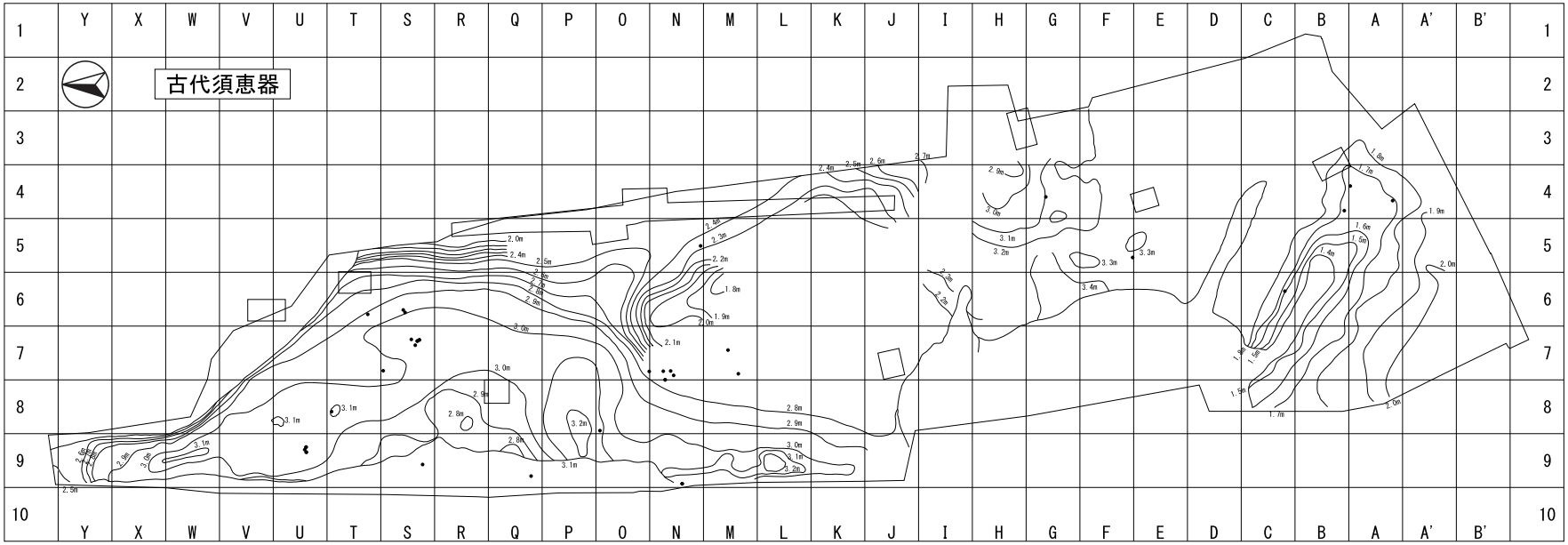


第76図　古代の遺物実測図①



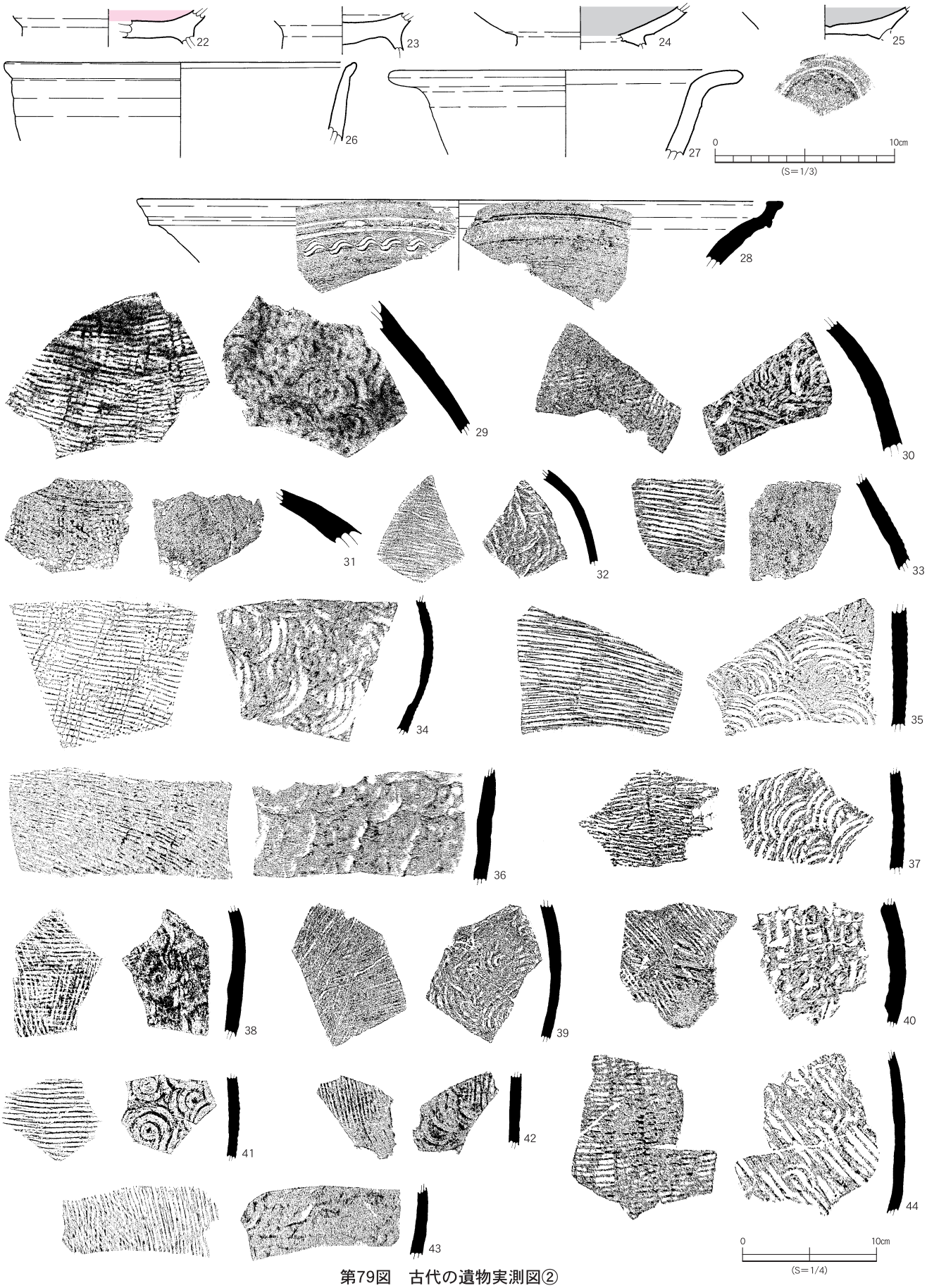
第77図　古代土師器出土状況

（1グリッド10m×10m）

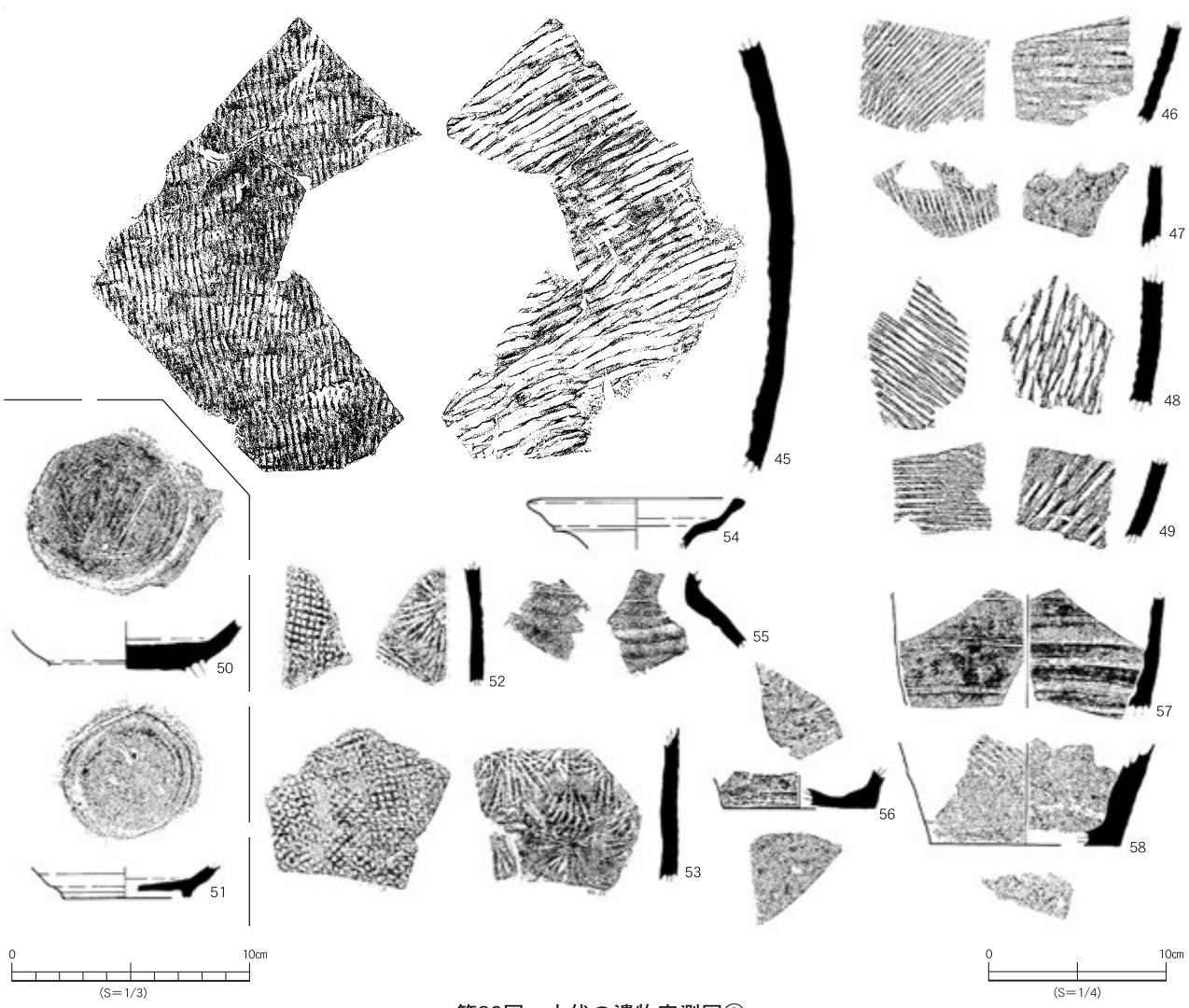


第78図　古代須恵器出土状況

（1グリッド10m×10m）



第79図　古代の遺物実測図②



第80図　古代の遺物実測図③

られる。4は内面見込みにヘラ書きのある坏である。どのような文字かは明らかではない。15は黒色土器でA類（内黒土師器）である。内面にミガキがみられる。21は11世紀以降の可能性があるが，ここでは古代として扱った。26・27は鉢形であると考えられるものである。28～58は須恵器である。甕が大半をしめる。その他には壺（瓶）・椀がある。

第5章　中・近世（遺構）の調査

第１節　概要

ここでは平安時代末の遺物についても中世の遺物として取り扱う。また，本来であれば，中世と近世について詳細な分類を行い，中世と近世の遺構・遺物は別個に報告するのが正当であるが，本遺跡では時期区分が困難であった。そのため，中世から近世までの遺構・遺物を一括して取り扱った。

中世の遺物としては，土師器・国産陶器（常滑・備前・東播磨系須恵器・樺万丈・南島産類須恵器【カムィヤキ】など）・輸入陶磁器（青磁・白磁など）などがみられた。

中世末～近世前半（特に17世紀後半～18世紀初頭頃まで）の遺物としては，土器（瓦質土器を含む）・国産陶磁器（肥前系・東海系・薩摩焼など）・輸入陶磁器（景徳鎮窯𥫱青花・　州窯系青花）などがみられた。この中にはベトナム産長胴壺や徳化窯産白磁などの他の遺跡でも類例の少ないものが含まれている。また，薩摩焼には堂平窯（日置市東市来町）産とみられるものと，朝鮮産

の可能性のあるもの，加治木・姶良系などが含まれている。中でも堂平窯産とみられる薩摩焼は，生産地と消費地のありかたを考えるうえで重要な資料である。

大溝をはじめとして，31基の掘立柱建物跡，２基の竪穴建物跡，19基の炉状遺構，６基の大型土坑，18基の土坑墓，集石状遺構，34条の溝状遺構など多くの遺構が検出された。特に，掘立柱建物を構成していたと考えられる柱穴状遺構（ピット）が数千個検出されており，何度も建て替えがあったことが想定される。

遺構内には，主に16～17世紀頃を中心とした遺物が入っていたが，中には縄文時代前期以降の遺物も混入していた。また，前章の概要でも触れたが，遺跡から近い場所に立地する中岳山麓窯跡群で生産されたとみられる古代の須恵器が多く含まれていた。

鉄器も比較的多く出土している。釘がほとんどであるが，性格不明のものも多く，今後の検討課題である。

古銭も，土坑墓を中心として出土している。他の遺跡と比較して（池畑2006）加治木銭の証である背面に「治」と銘のある洪武通宝が多く出土しており，遺跡の性格を考えさせる資料である。

第２節　出土遺物の分類

１　器種分類

基本的には，以下のように遺物の分類を行う

- ・食膳具　椀・坏・皿・大皿
- ・調度具　合子・瓶・水注・小壺
- ・貯蔵具　壺・有耳壺・須恵器甕
- ・煮炊具　鍋・釜・土師器甕
- ・その他　以上のものにはいらないもの。
  器種が特定できないもの。

２　中近世の遺物分類

土師器

　碗・坏・皿・蓋（・壷）

須恵器

　片口鉢・甕・壷・小壷・瓶

瓦質土器（中近世にまたがるもの含む）

　擂鉢・羽釜・火鉢

陶磁器

　青磁分類は，基本的に上田分類（上田秀夫1982）と，大宰府分類（横田・森田1978，太宰府市教育委員会【山本信夫】2000ほか）を参考として，森村分類（森村健一2005）を加味した。

　白磁分類は，基本的に森田分類（森田勉1982）と，大宰府分類（横田・森田1978，太宰府市教育委員会【山本信夫】2000ほか）を参考とした。また，一部に森村氏による指導内容を加味した。

　基本的には，碗・皿・口折皿・瓶・壷・鉢・盤・合子・その他に分類した・

陶器類

　甕・壷・碗・皿・鉢

その他

　類須恵器（南島須恵器・カムィヤキ）

　ベトナム産長胴壺

３　近世の遺物分類

土器

　皿・焙烙・火鉢（火舎）・蓋・その他

陶器

　碗類・皿類・鉢類・甕類・壷類・瓶類（・水注類）・器台類・蓋類・その他

磁器

　碗類・皿類・鉢類・壷類・瓶類（・水注類）・器台類・その他

輸入陶磁器（中世から近世をまたぐもの含む）

　徳化窯産の白磁

　景徳鎮窯系青花

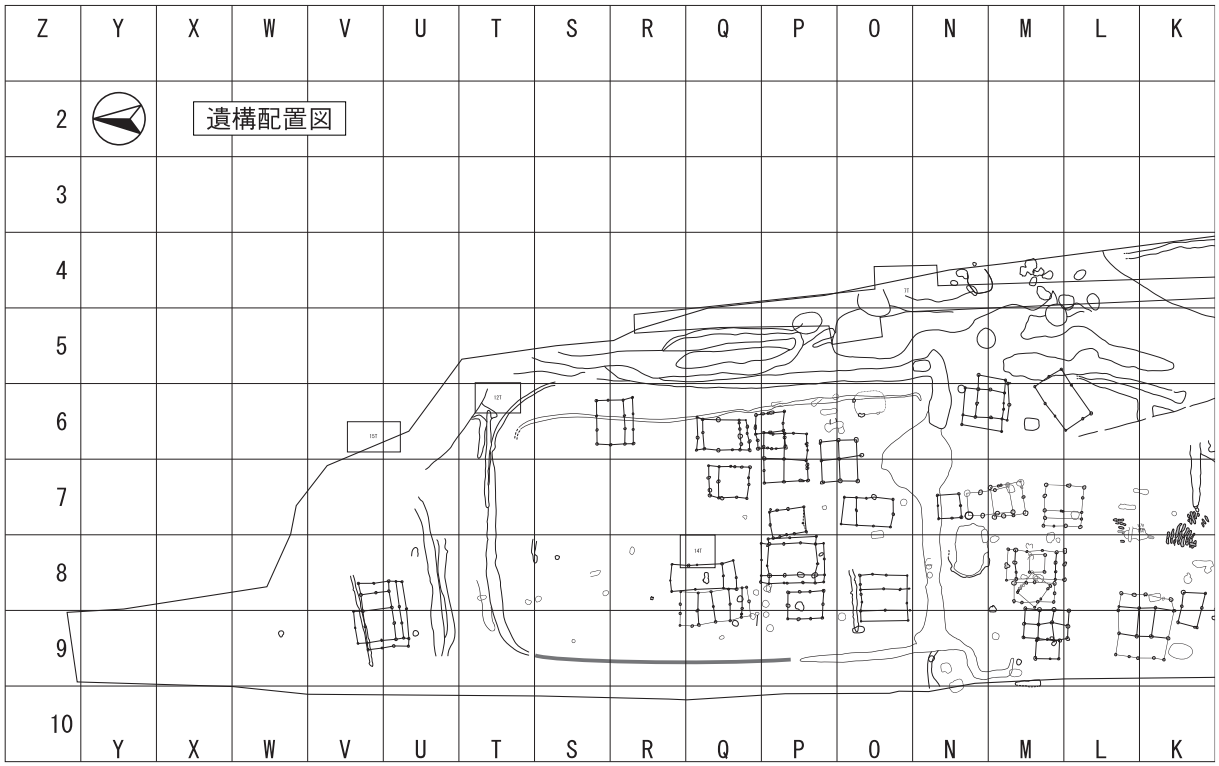
　漳州窯系青花

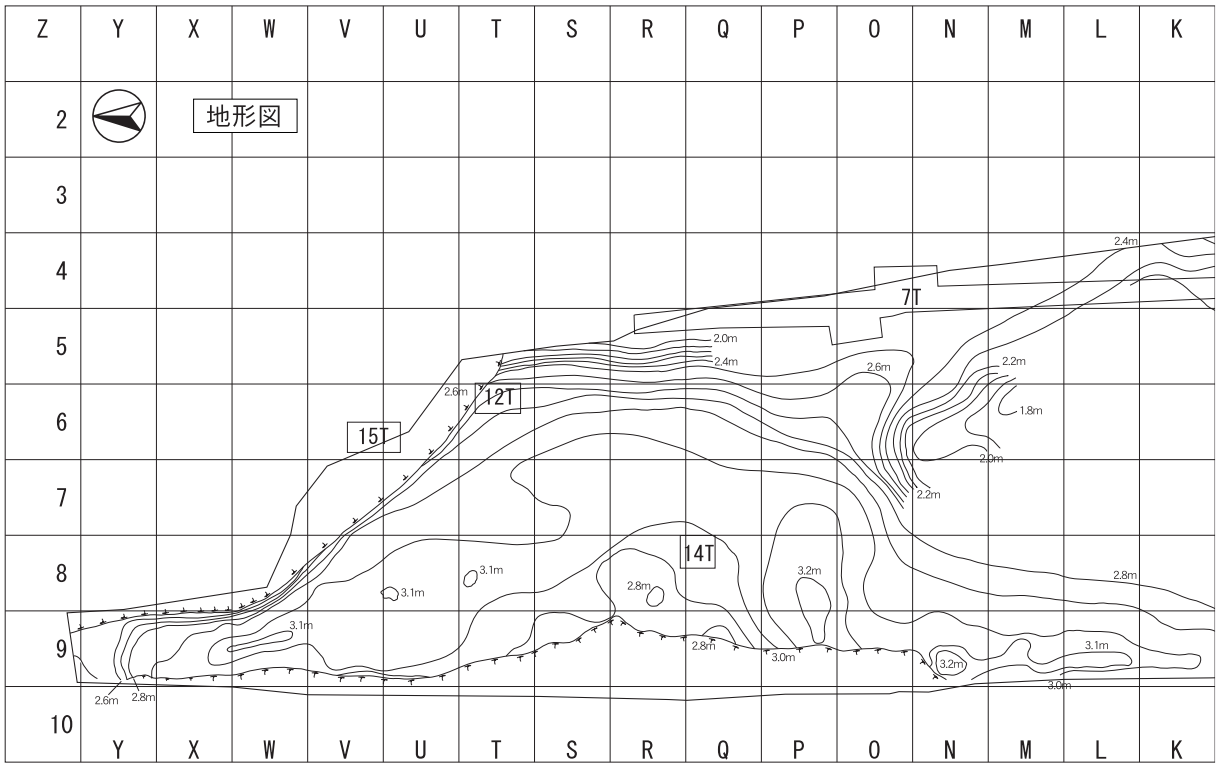
その他

近世以降の陶磁器の器種・器形などの分類は，「江戸遺跡検出のやきもの分類」（新宿区四谷三丁目遺跡調査団1991），『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会2000），『雪山・猿引遺跡』（鹿児島県立埋蔵文化財センター2003），『垂水・宮之城島津家屋敷跡』（鹿児島県立埋蔵文化財センター2003），『堂平窯跡』（鹿児島県立埋蔵文化財センター2007）および「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相」（橋口亘2002）等を参考にした。

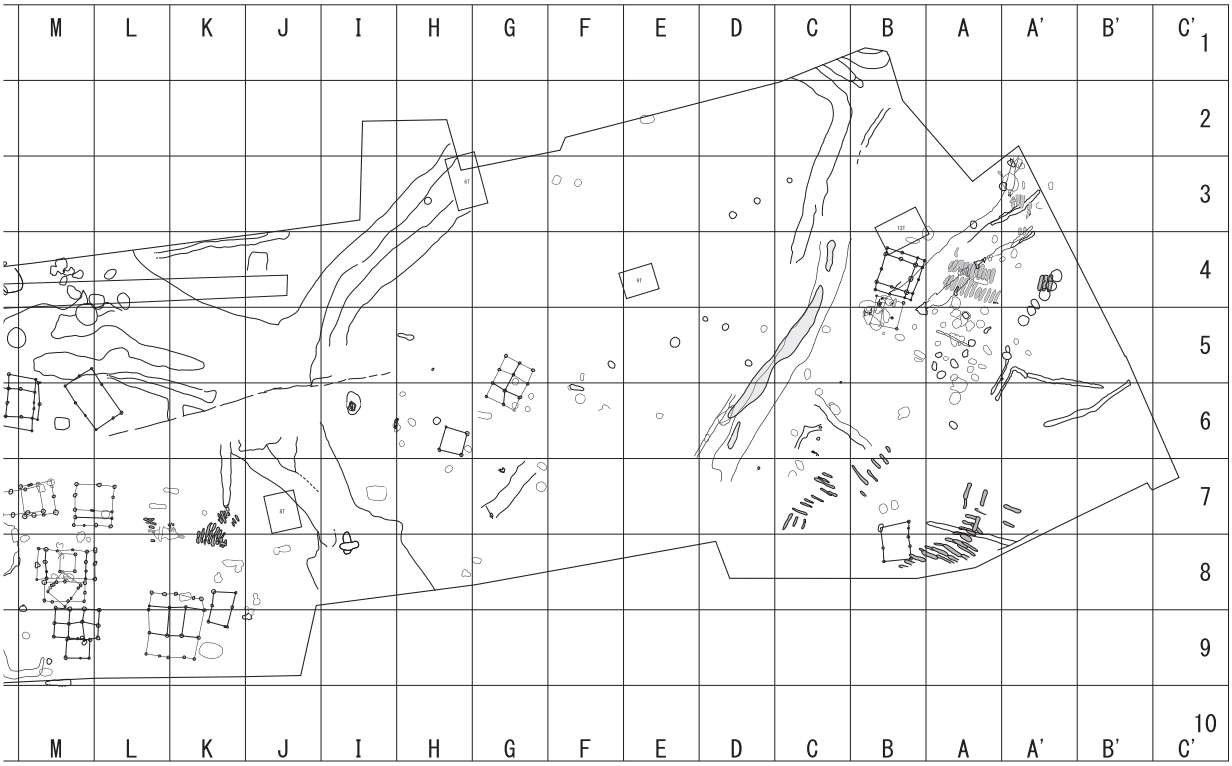
参考文献

池畑耕一　2006「南九州における中世出土銭の特質」『平成18年度　鹿児島考古学会研究発表会』レジュメ

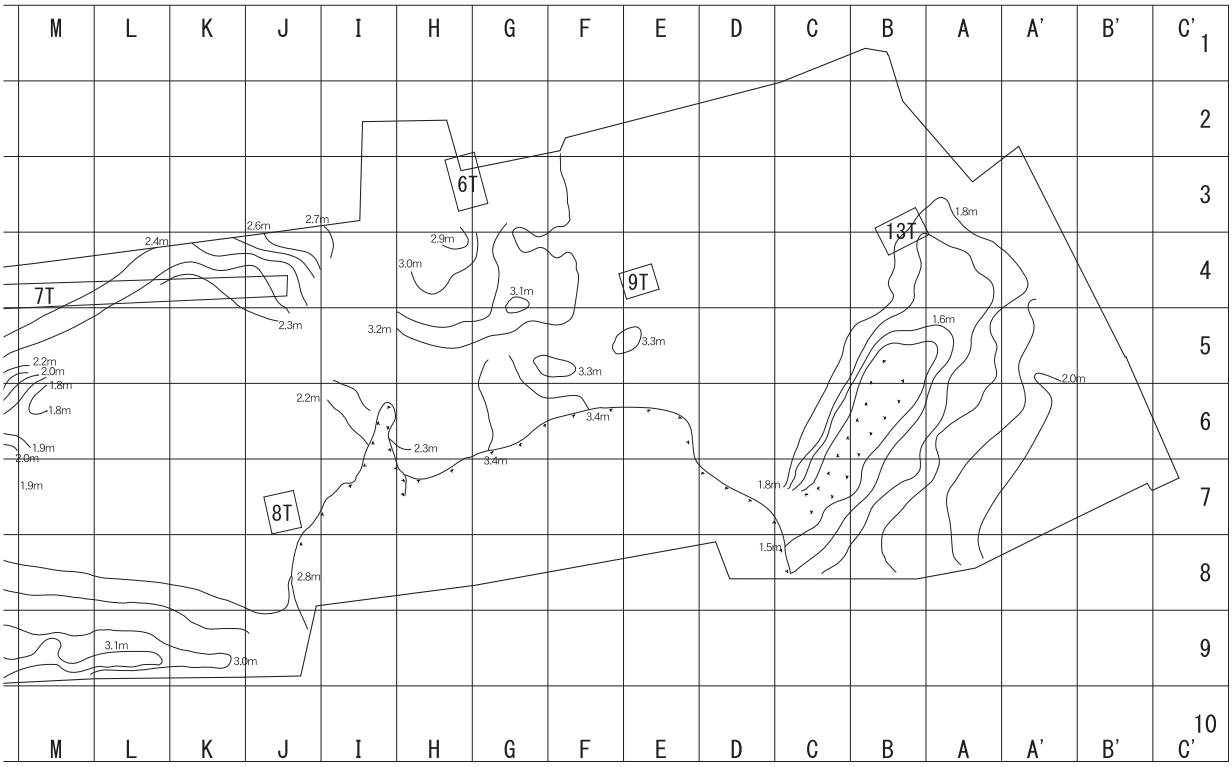




第81図　中・近世の遺構配置図・地形図（左）

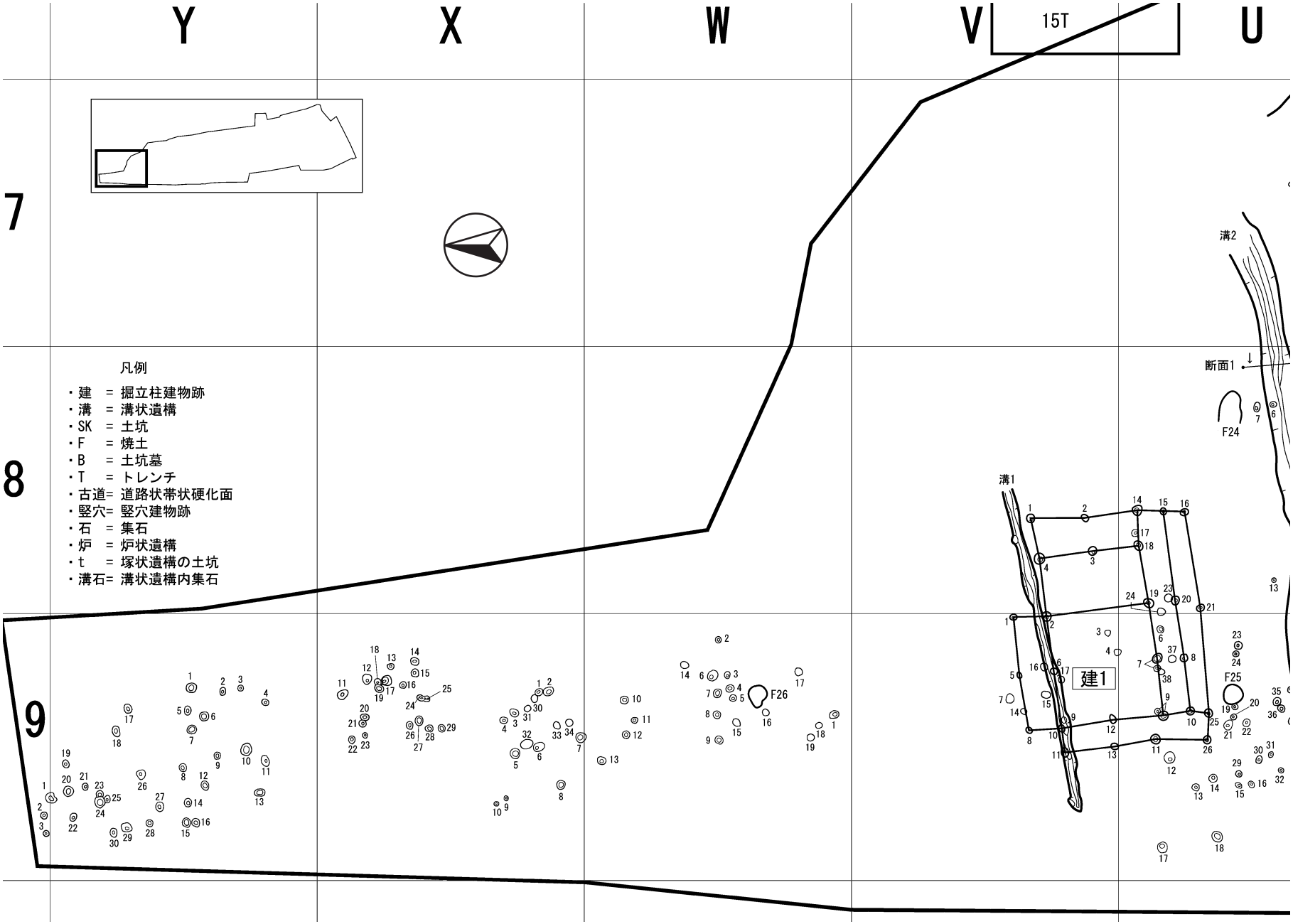


（1グリッド10m×10m）

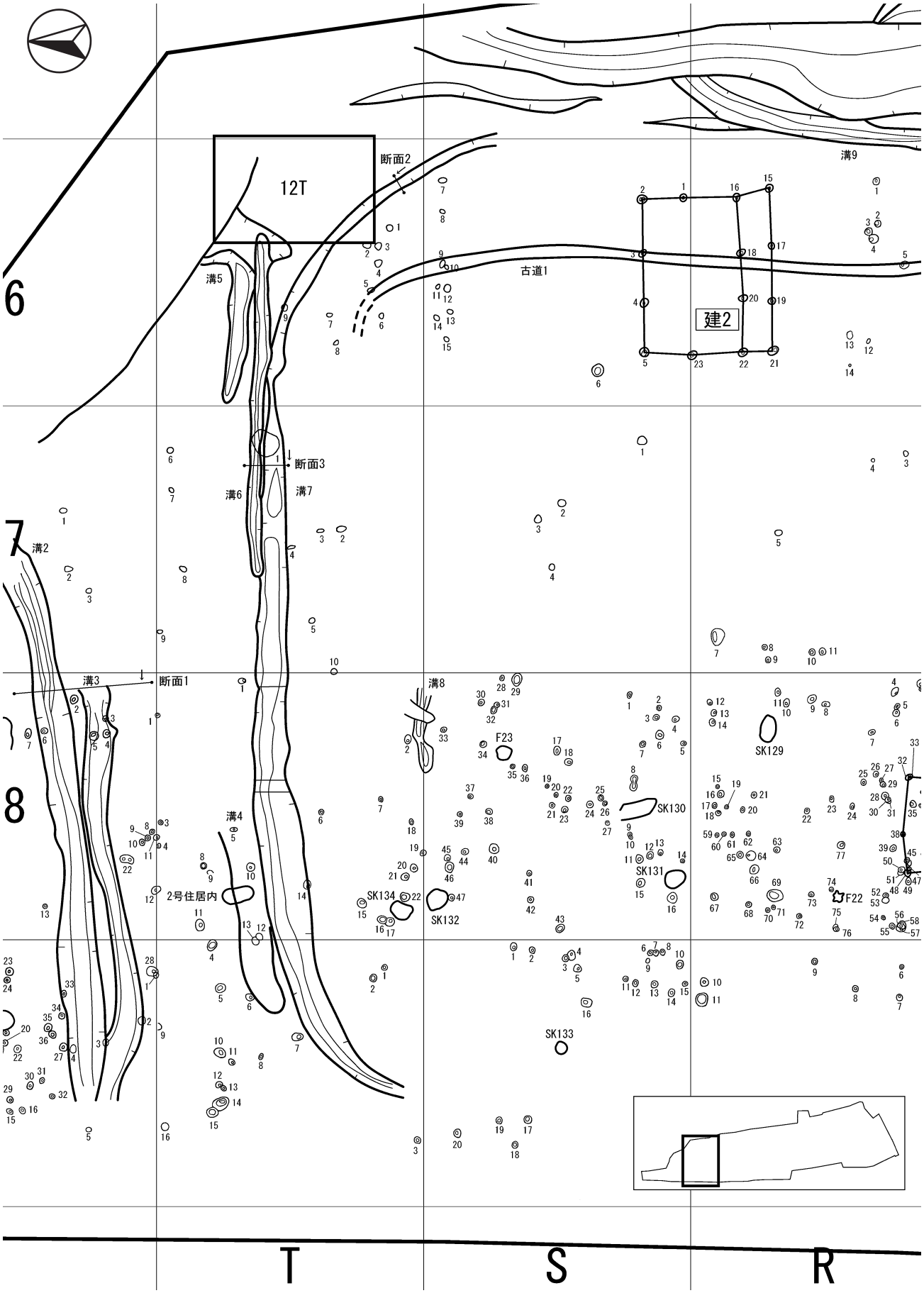


（1グリッド10m×10m）

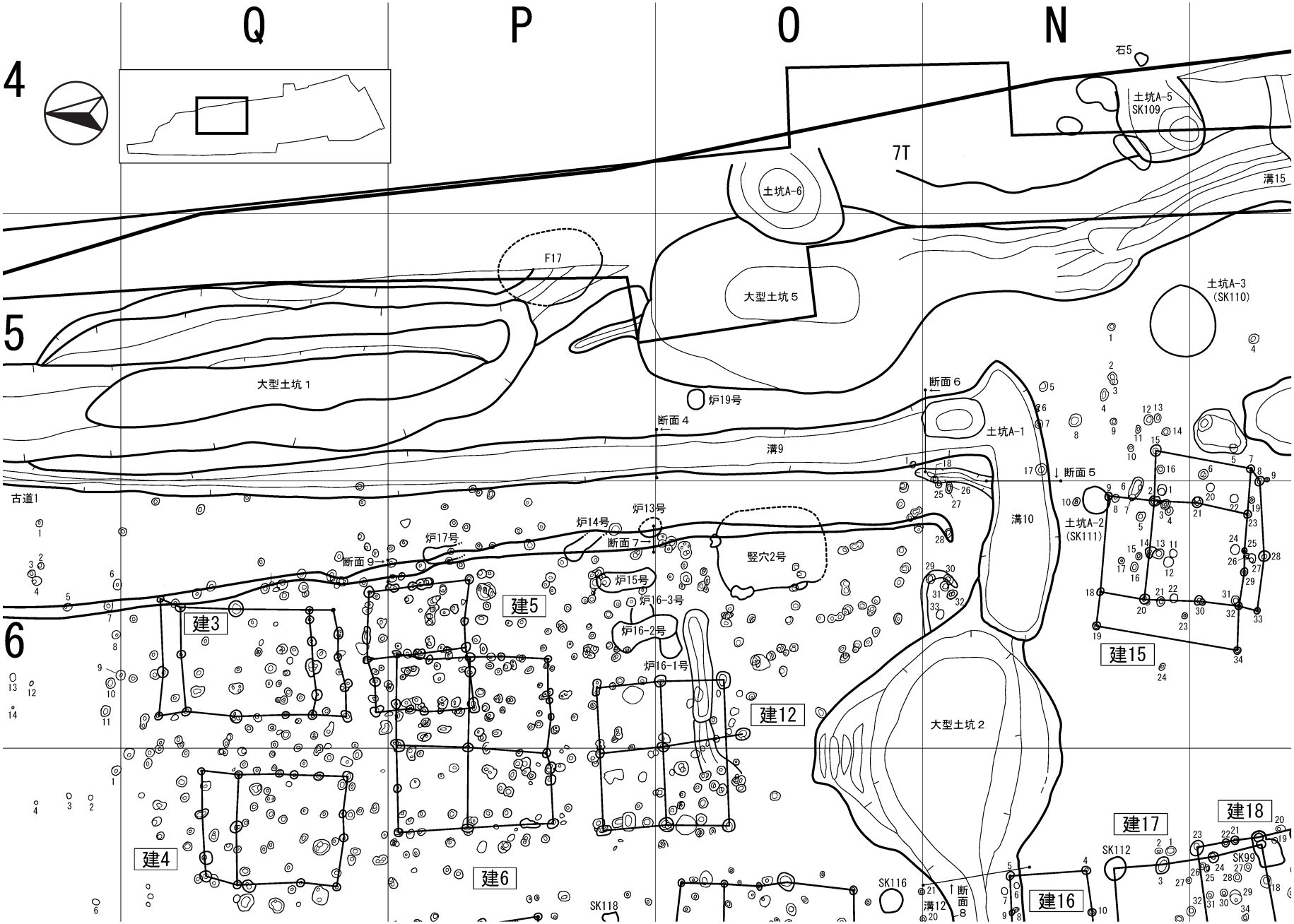
第82図　中・近世の遺構配置図・地形図（右）



第83図　中・近世の遺構配置図①



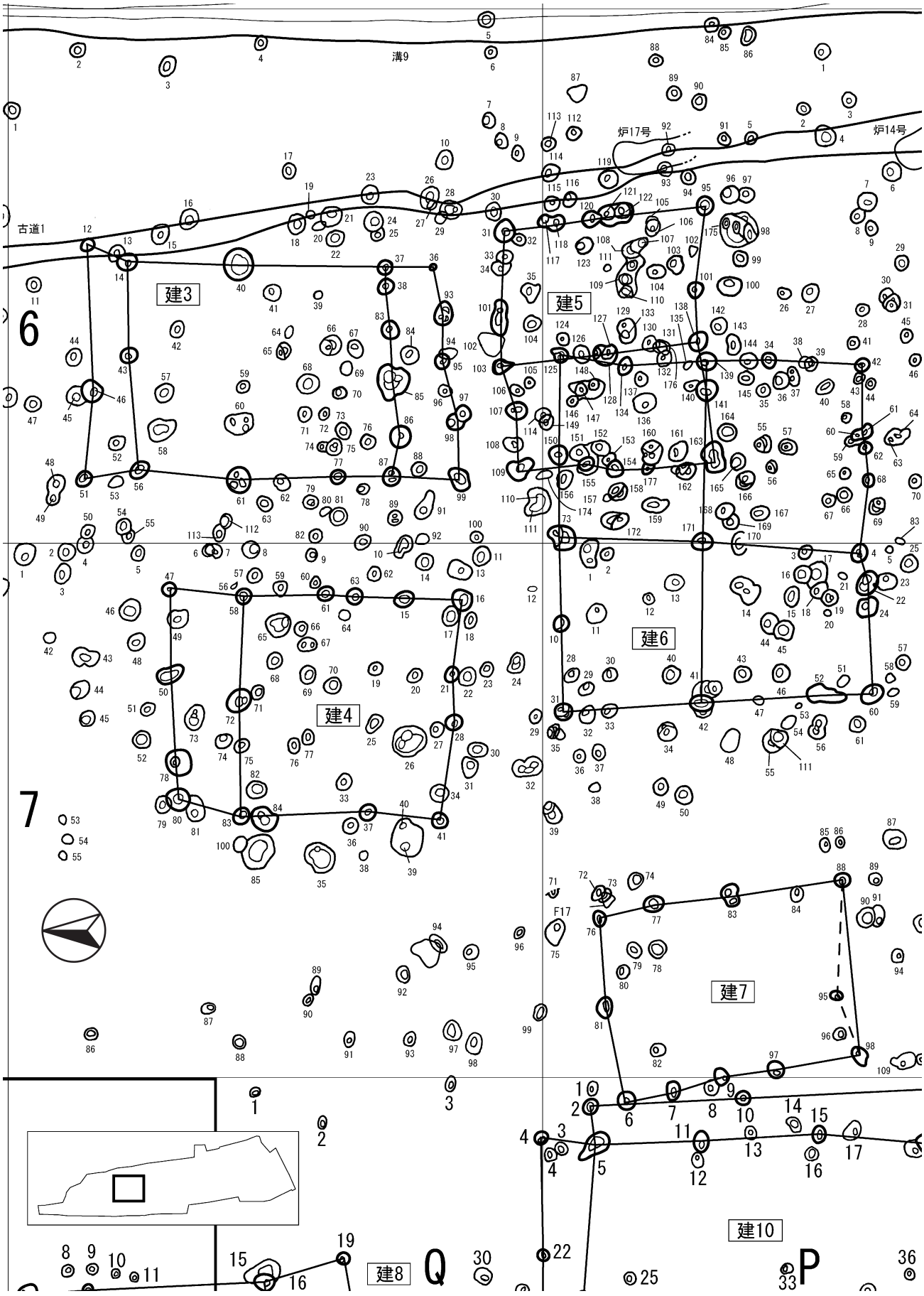
第84図　中・近世の遺構配置図②



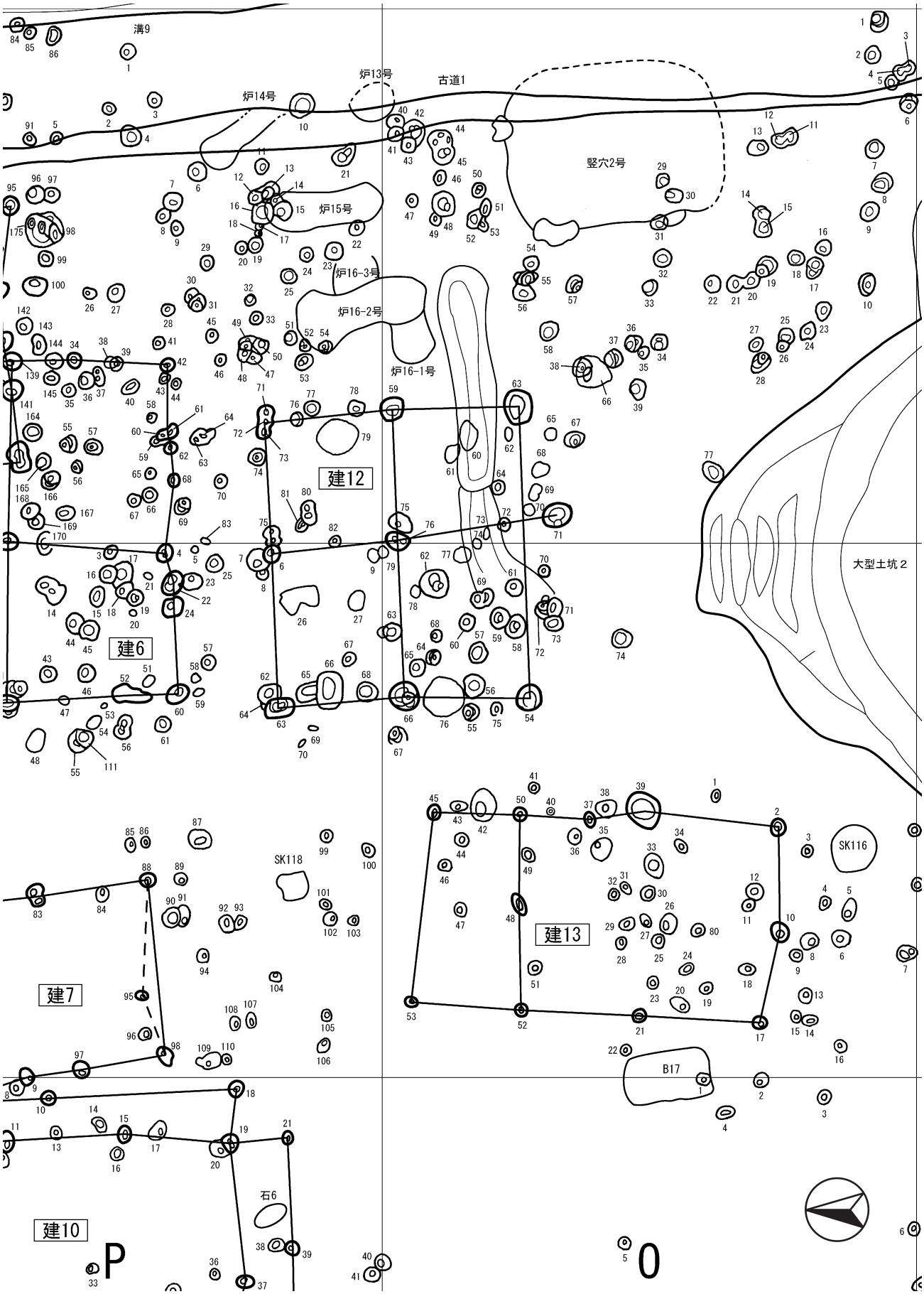
第85図　中・近世の遺構配置図③



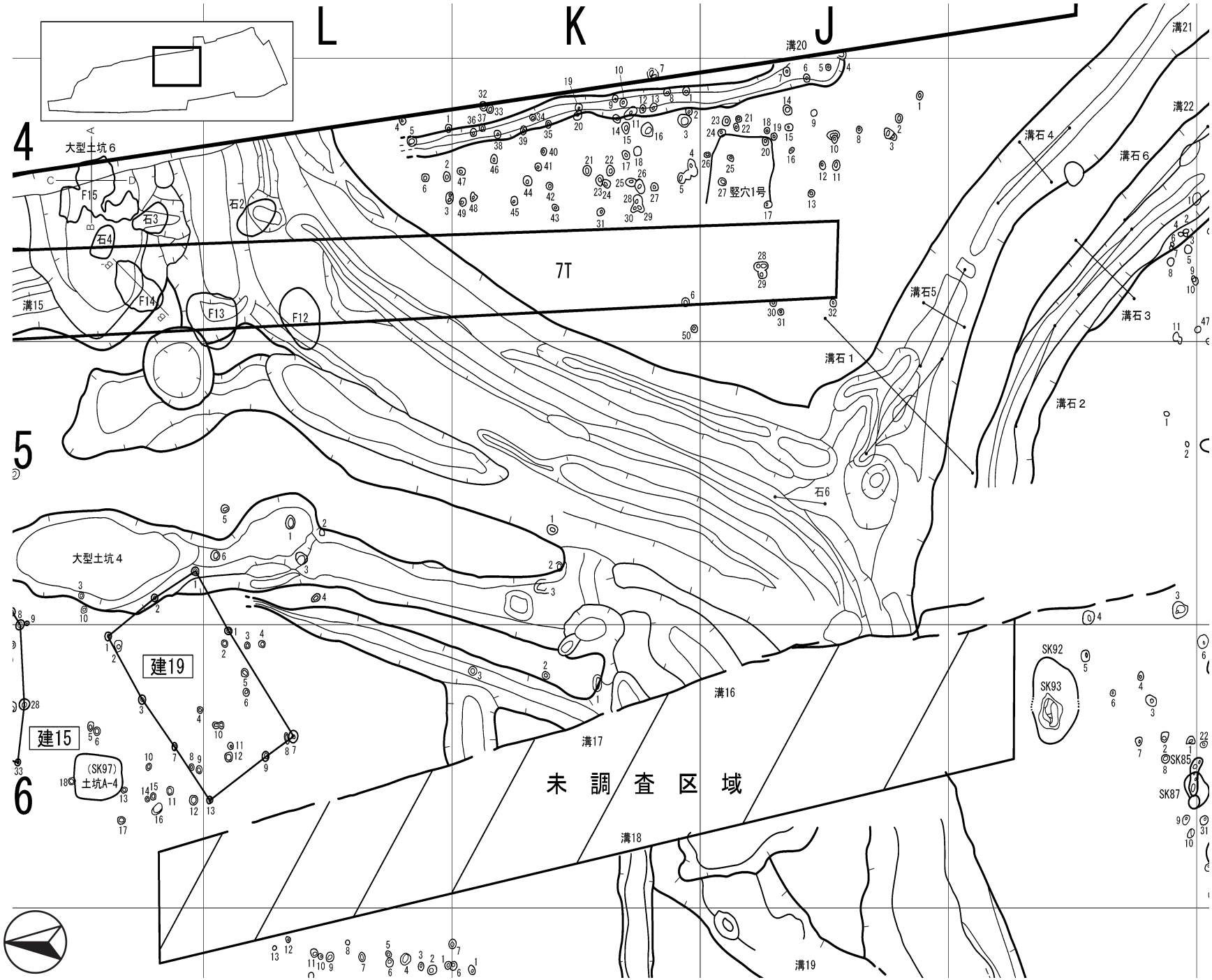
第86図　中・近世の遺構配置図④



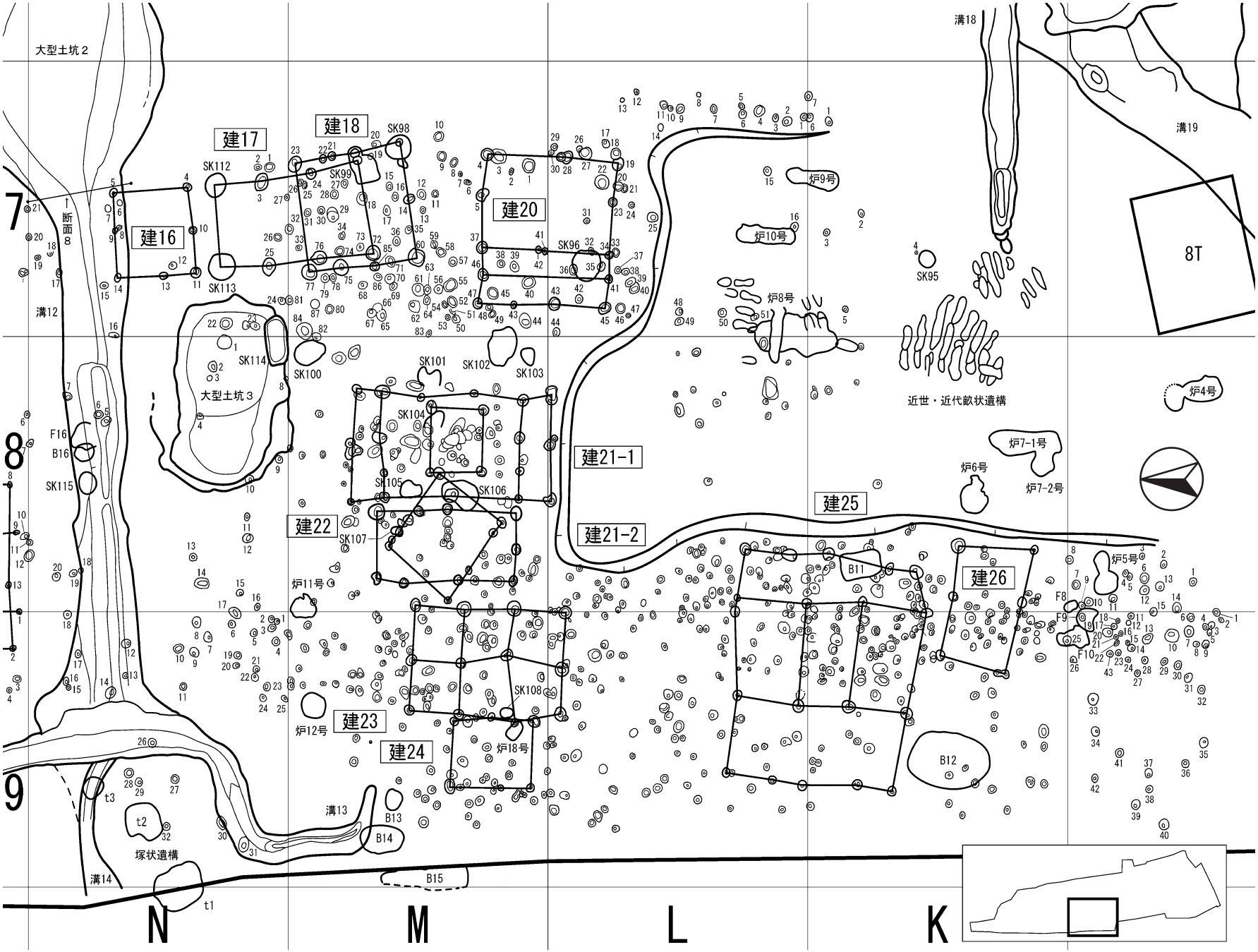
第87図　中・近世の遺構配置図⑤



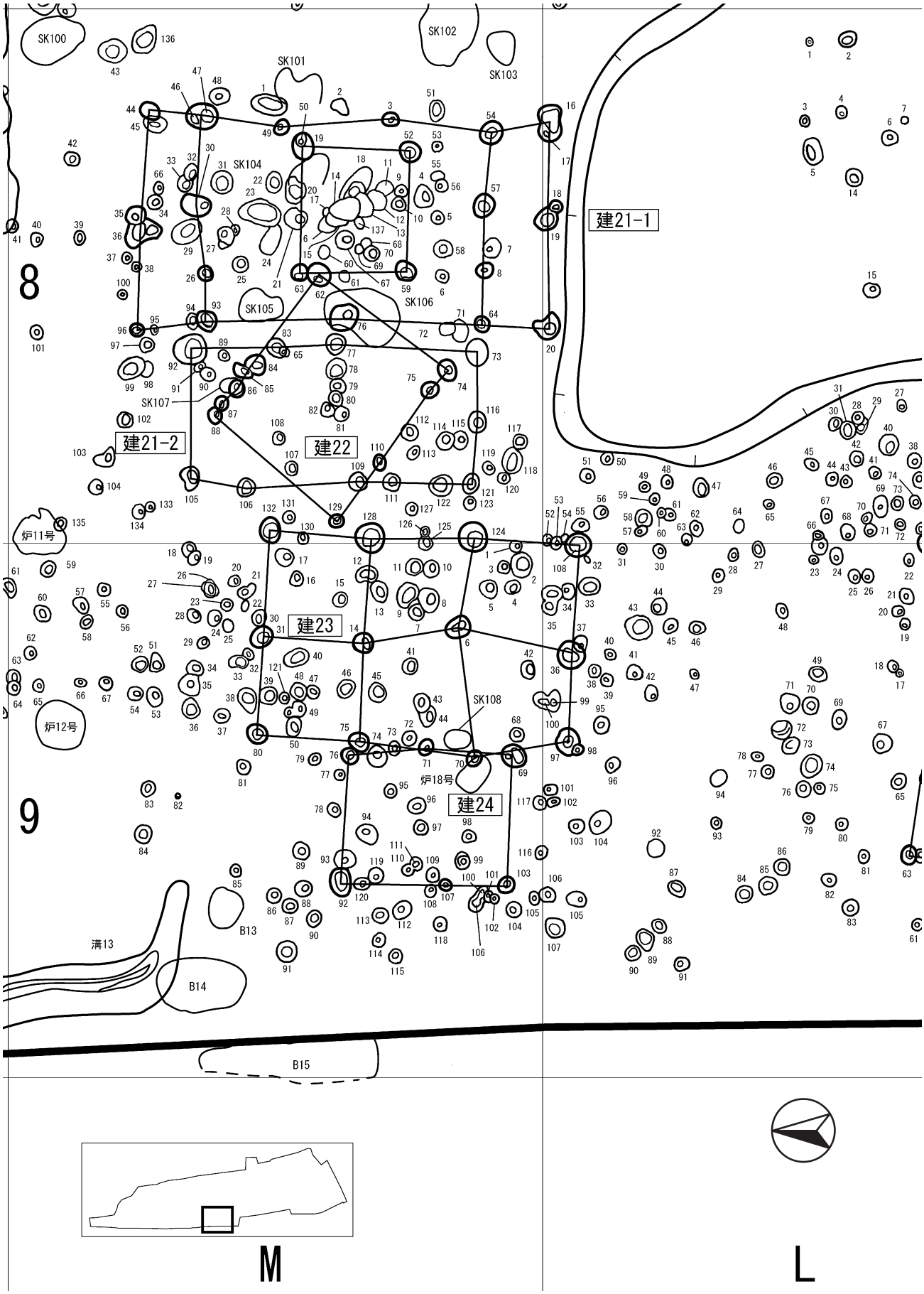
第88図　中・近世の遺構配置図⑥



第89図　中・近世の遺構配置図⑦



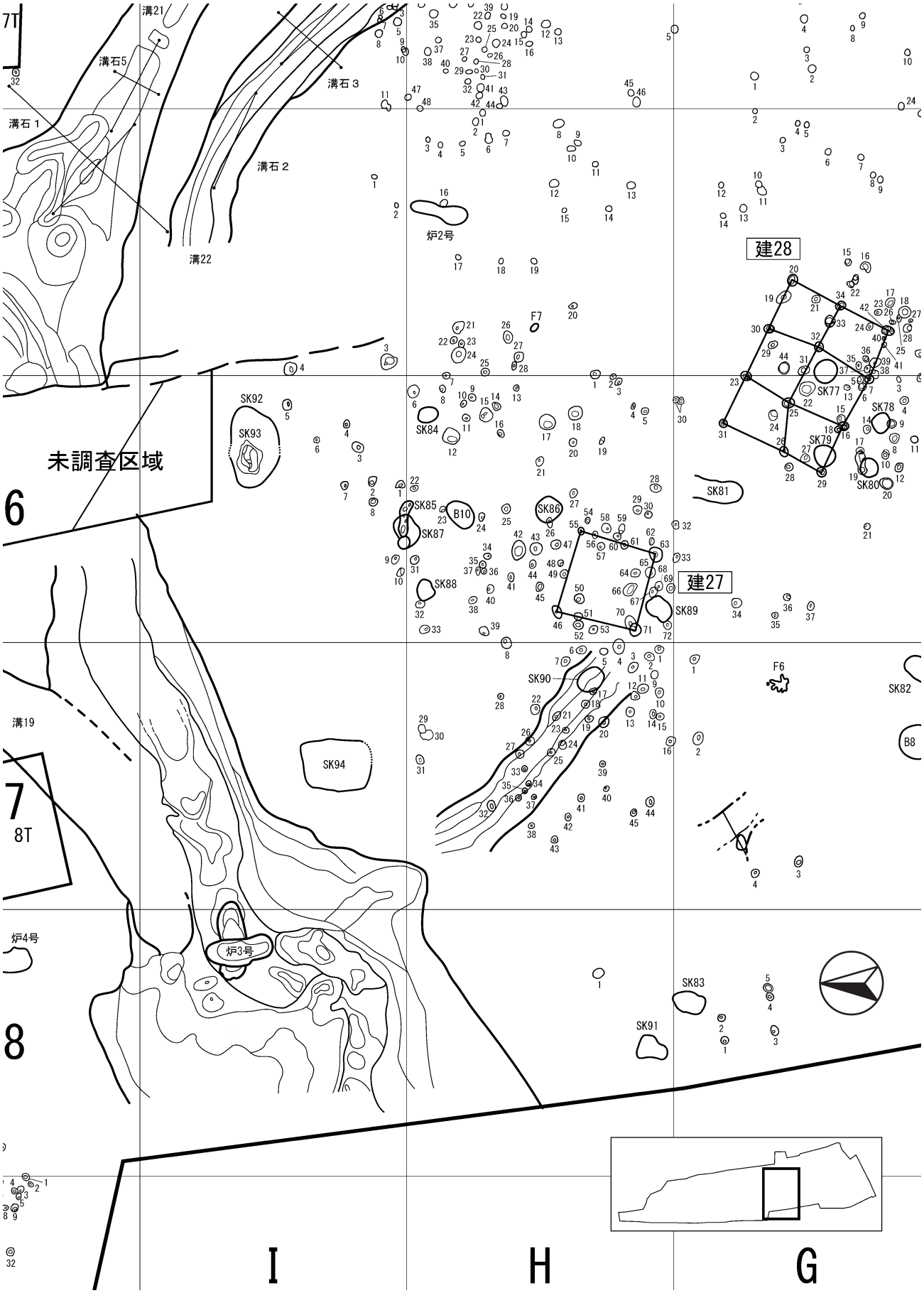
第90図　中・近世の遺構配置図⑧



第91図　中・近世の遺構配置図⑨



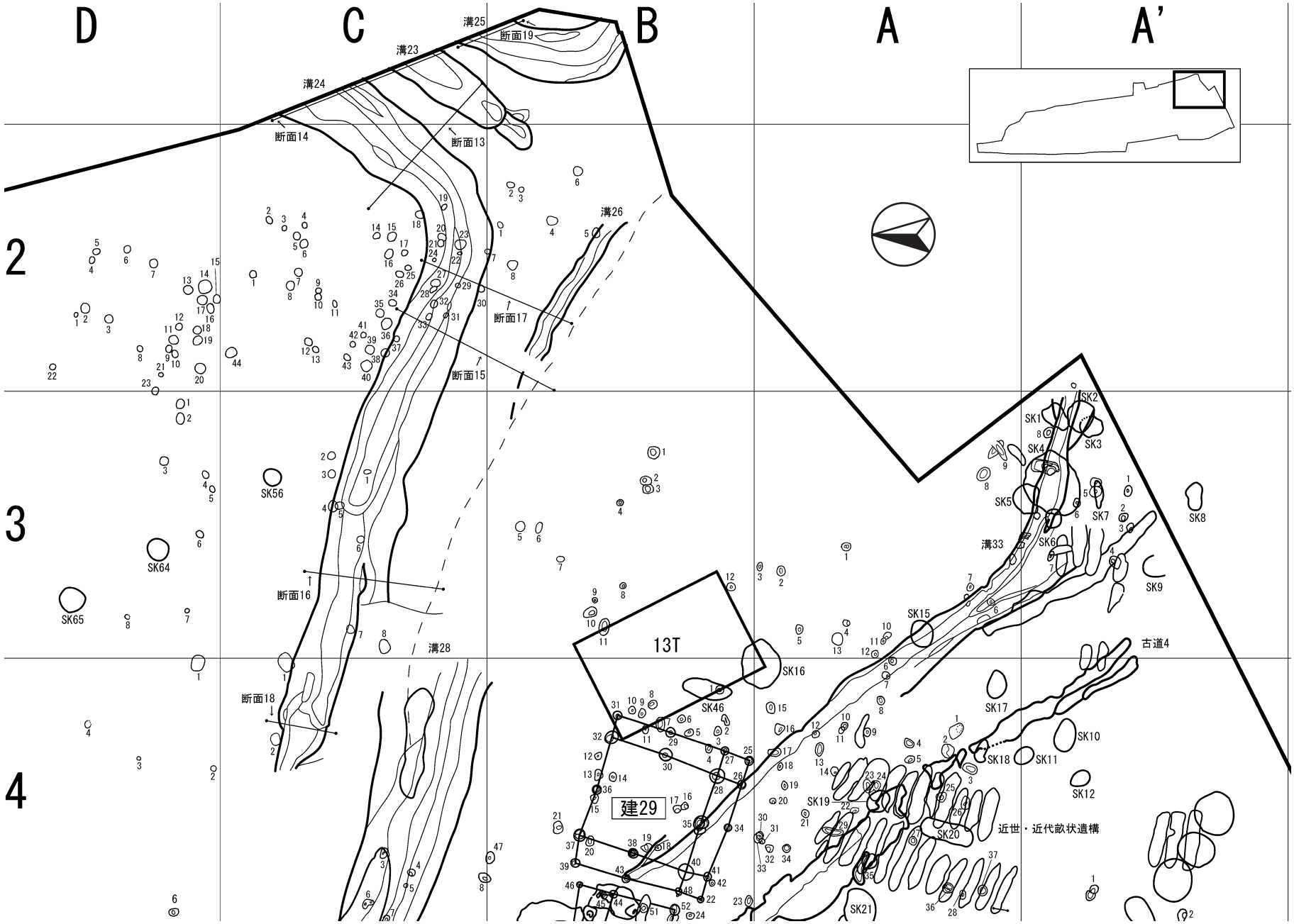
第92図　中・近世の遺構配置図⑩



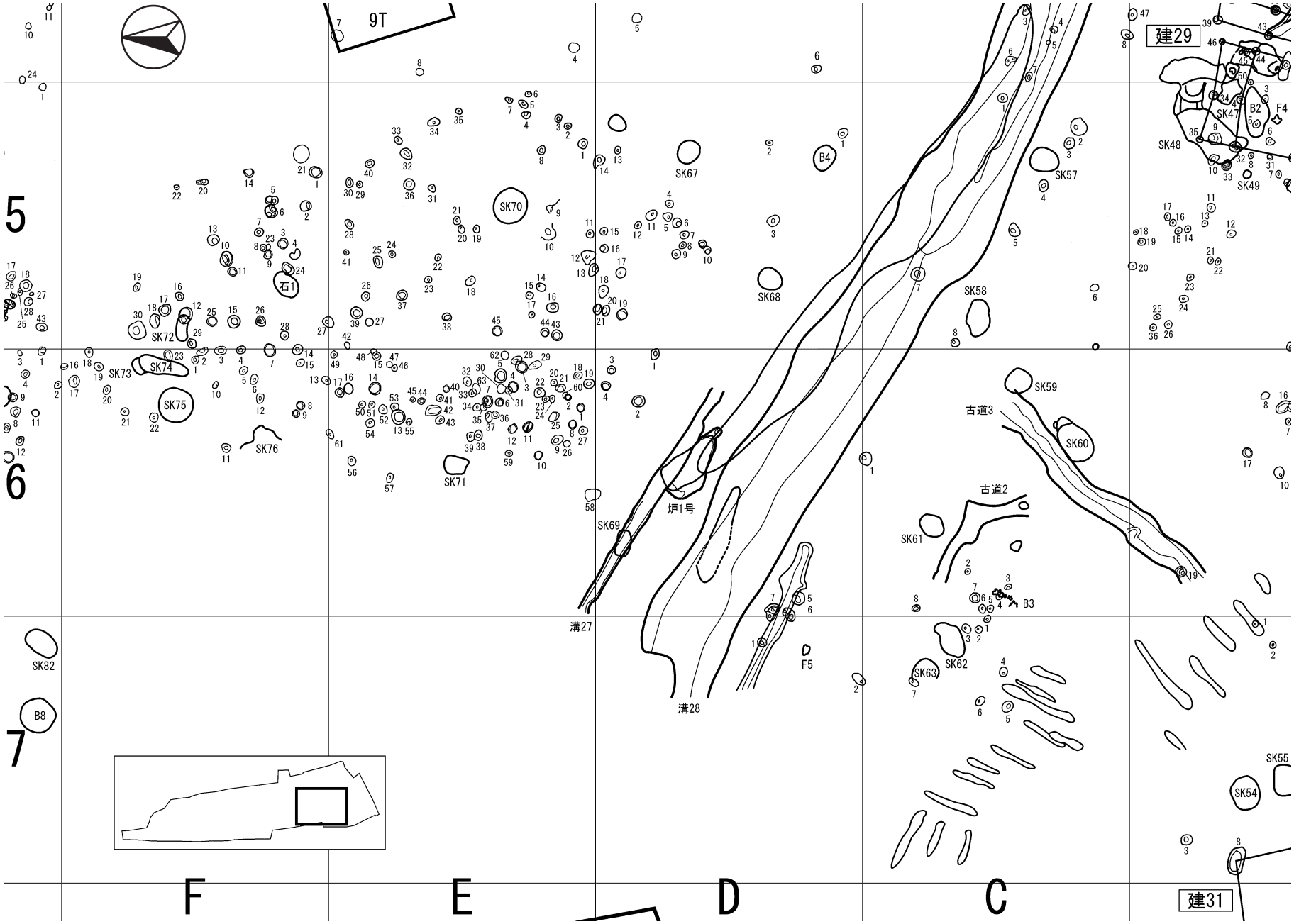
第93図　中・近世の遺構配置図⑪



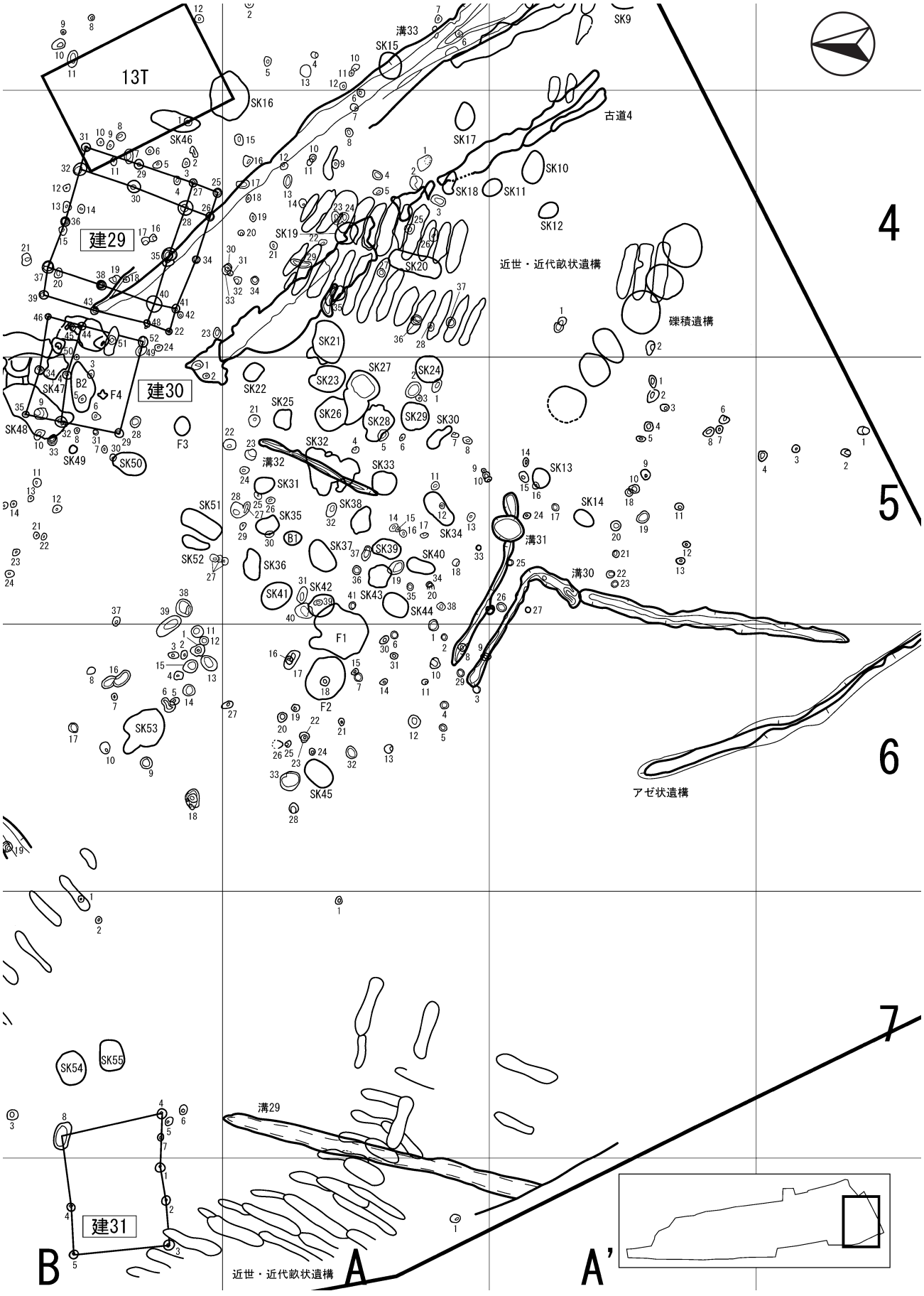
第94図　中・近世の遺構配置図⑫



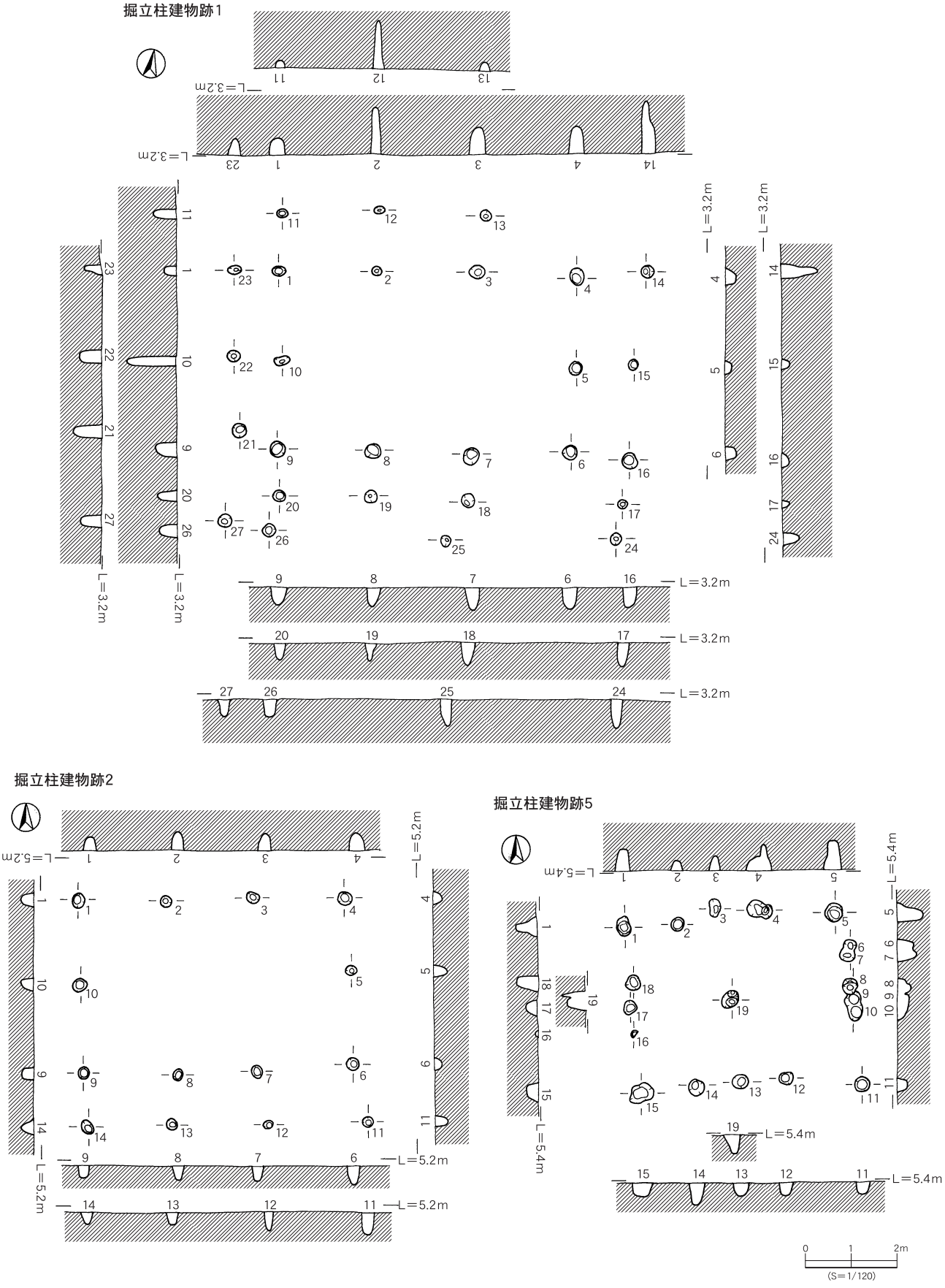
第95図　中・近世の遺構配置図⑬



第96図　中・近世の遺構配置図⑭

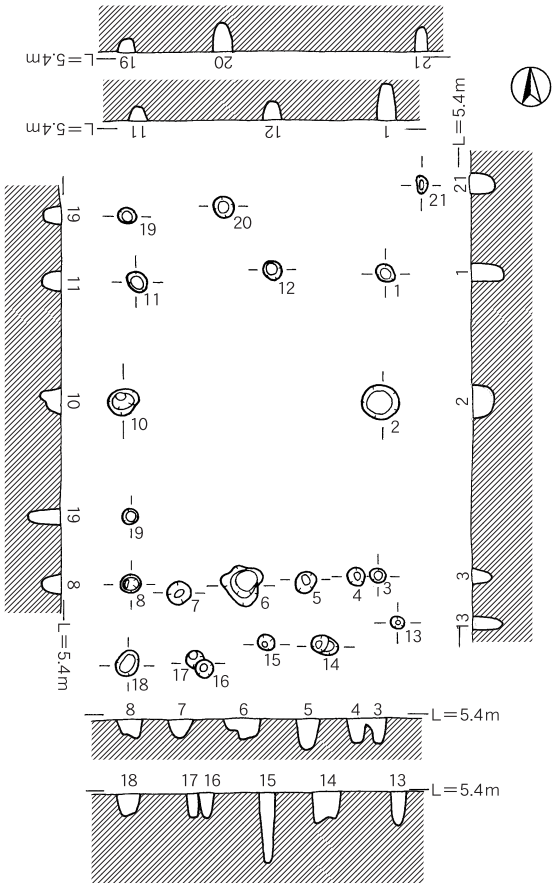


第97図　中・近世の遺構配置図⑮

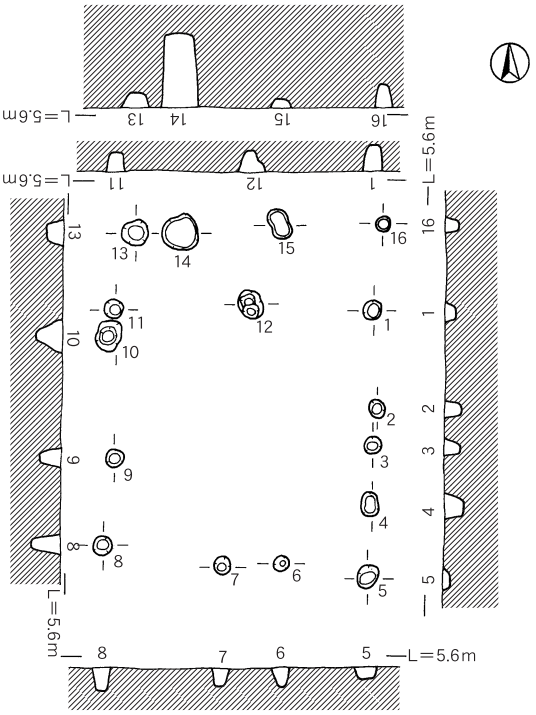


第98図　掘立柱建物跡①

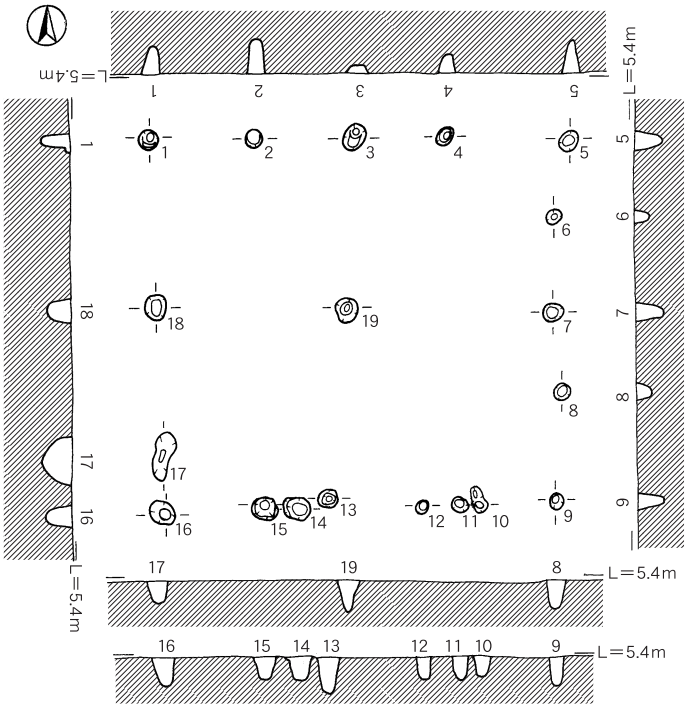
掘立柱建物跡3



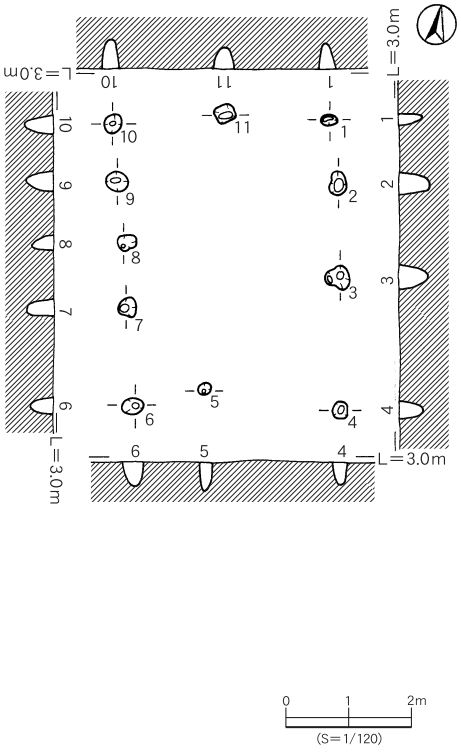
掘立柱建物跡4



掘立柱建物跡6

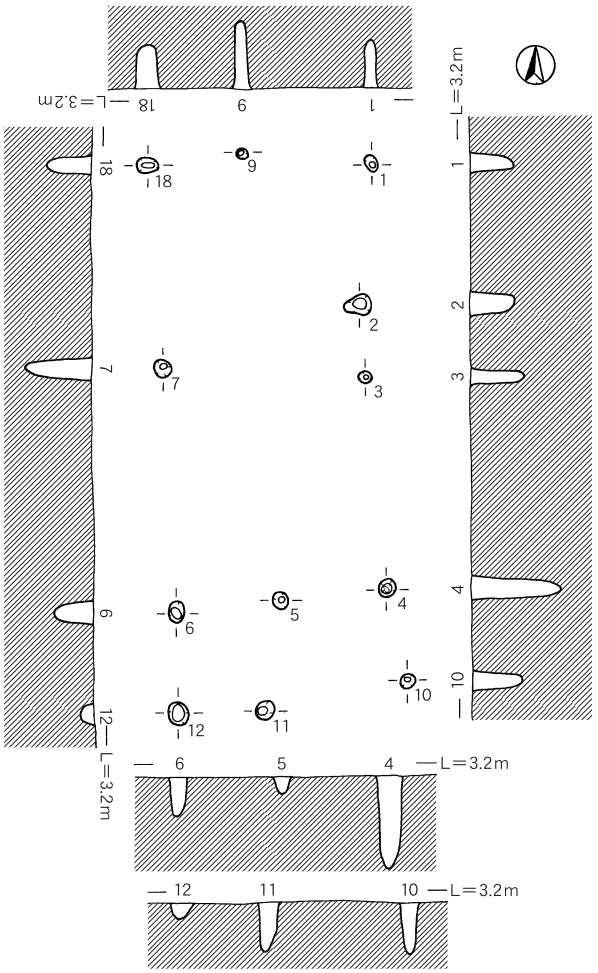


掘立柱建物跡7

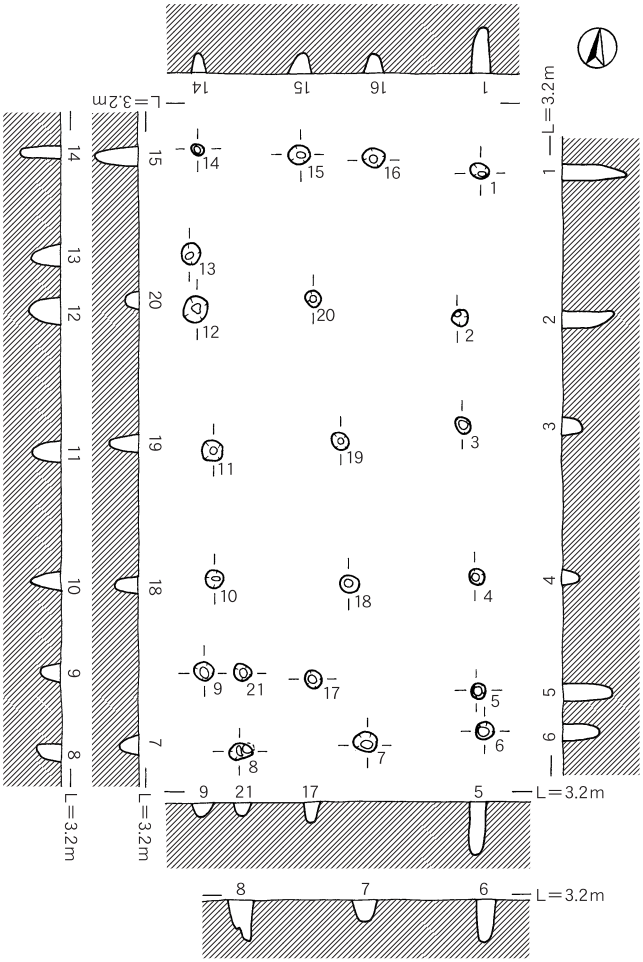


第99図　掘立柱建物跡②

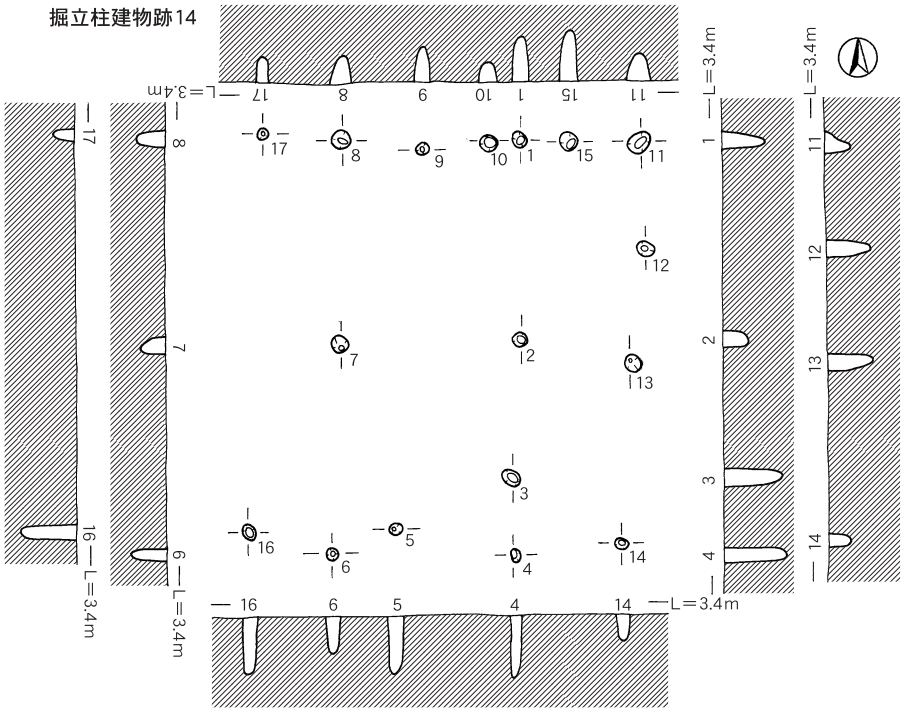
掘立柱建物跡8

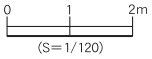


掘立柱建物跡9

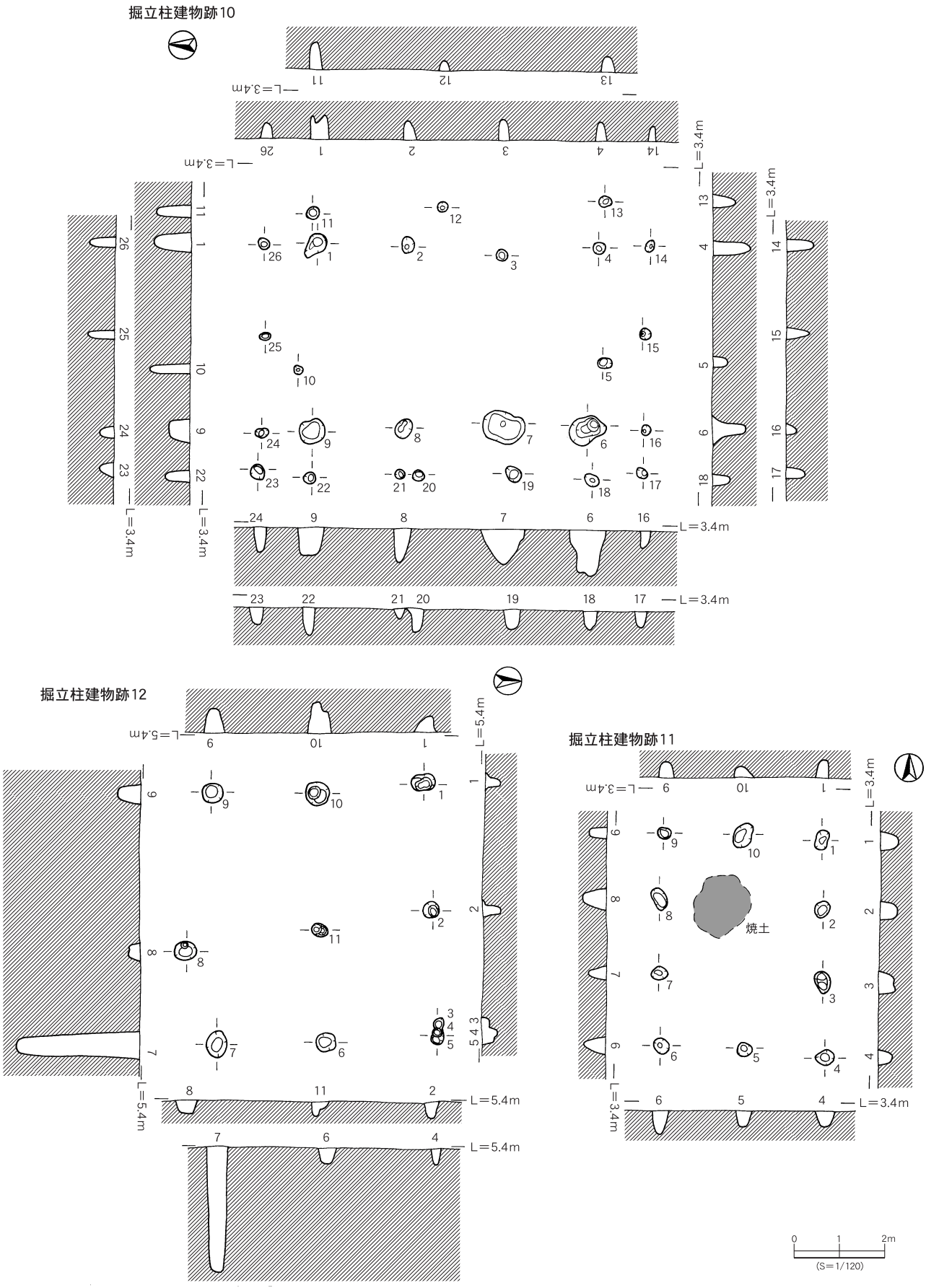


掘立柱建物跡14



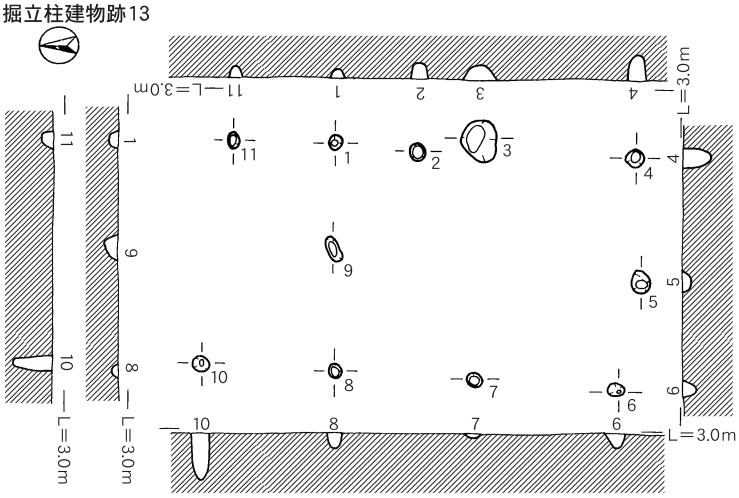


第100図　掘立柱建物跡③

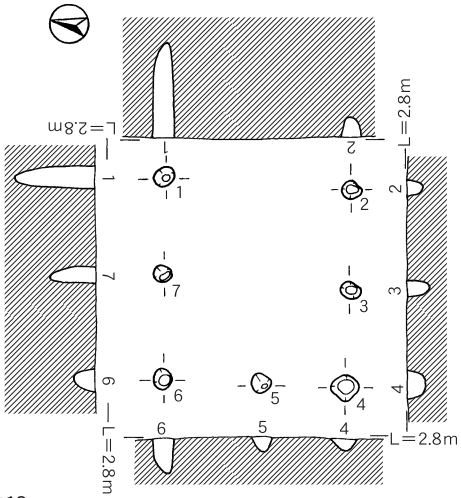


第101図　掘立柱建物跡④

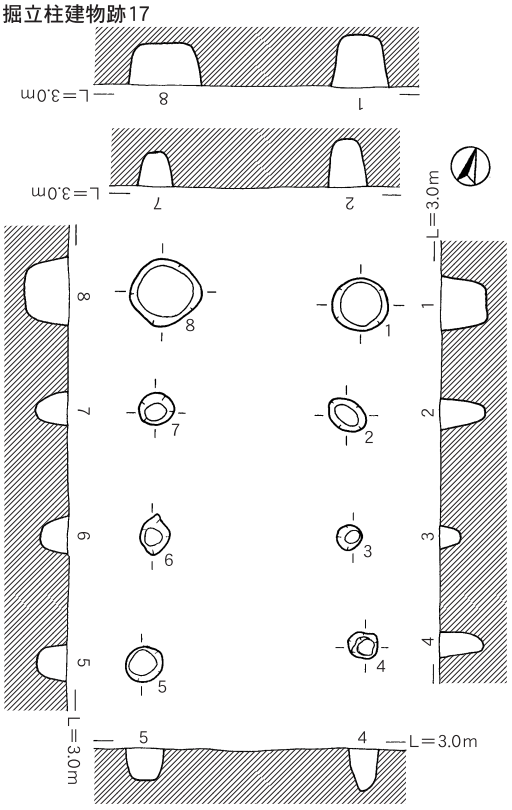
掘立柱建物跡13



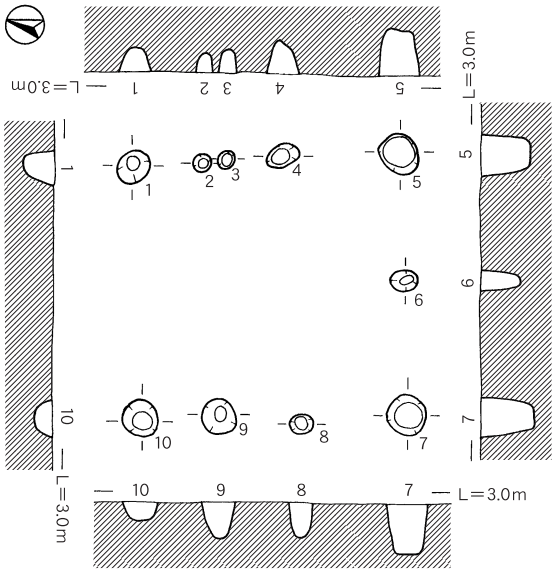
掘立柱建物跡16



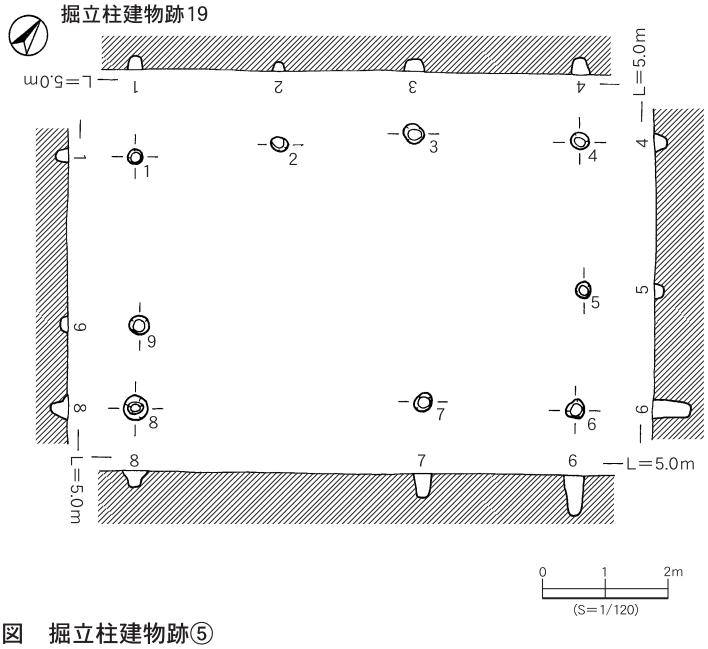
掘立柱建物跡17



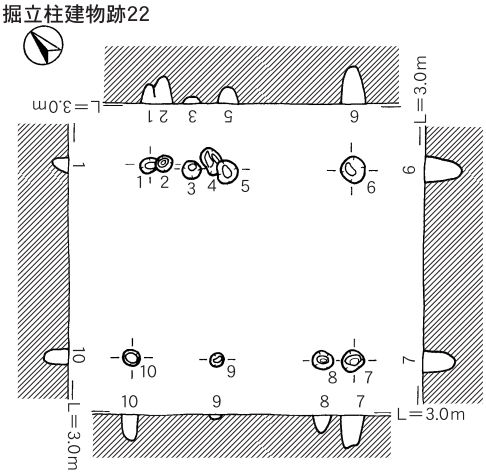
掘立柱建物跡18



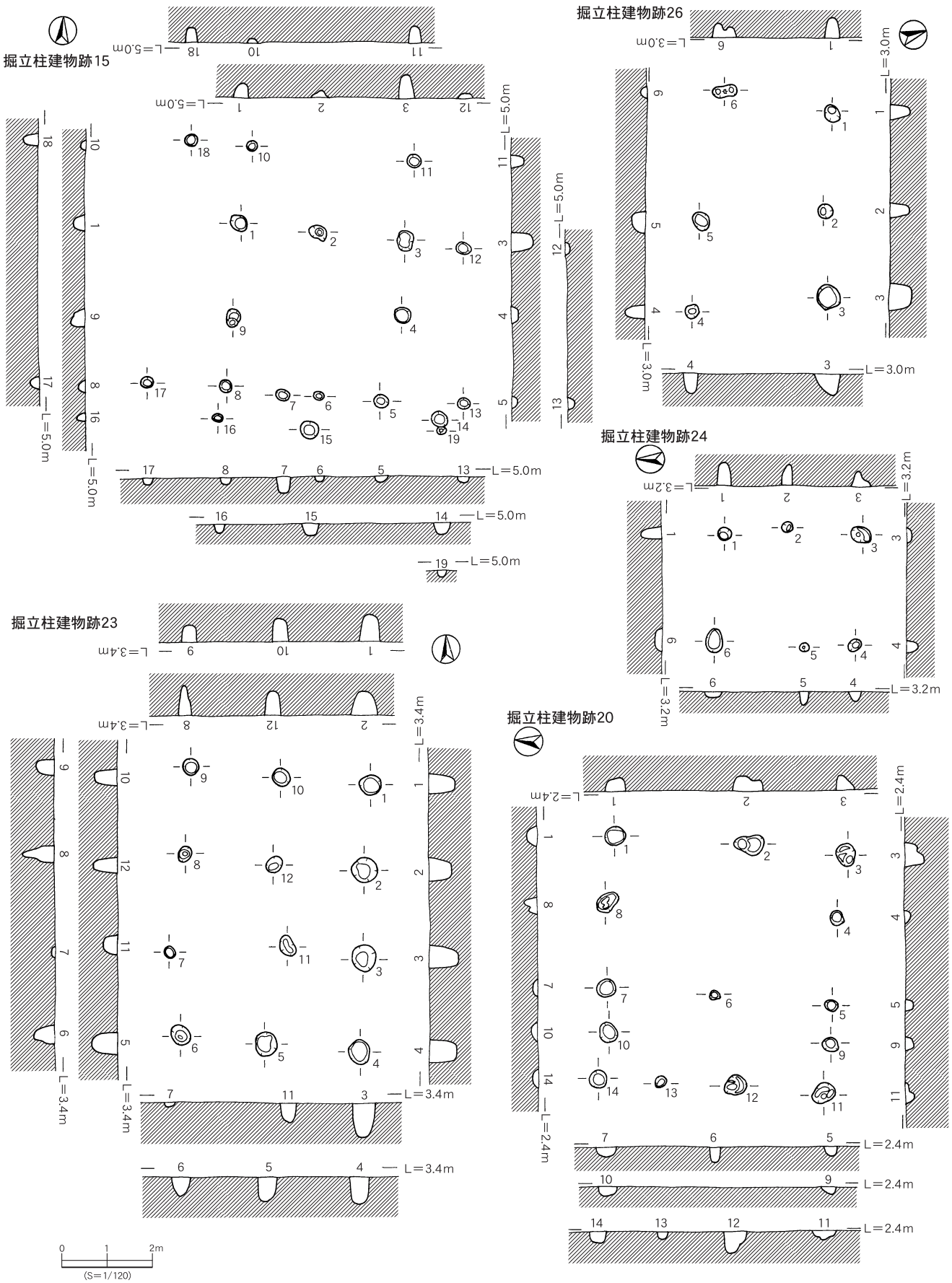
掘立柱建物跡19



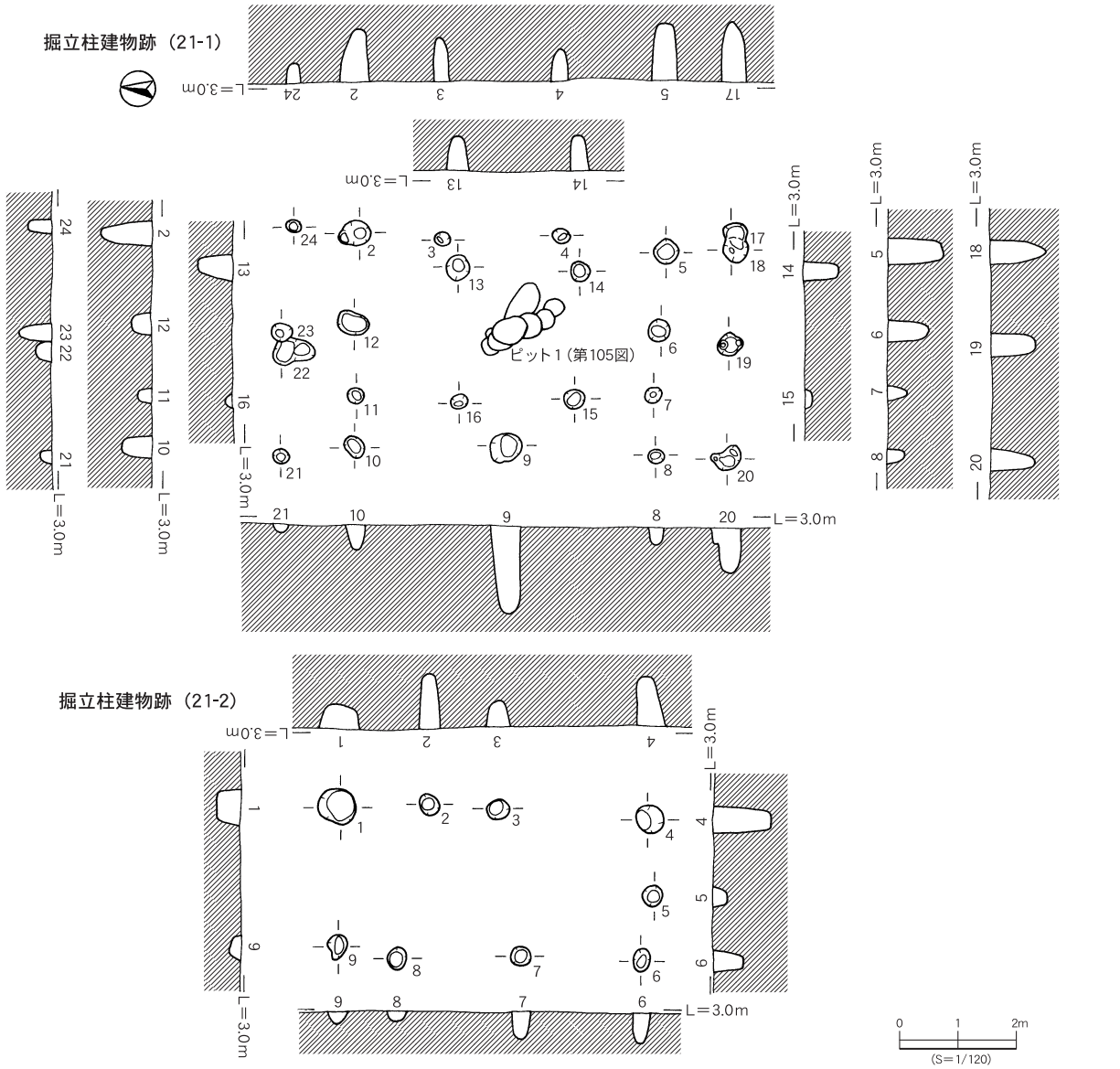
掘立柱建物跡22



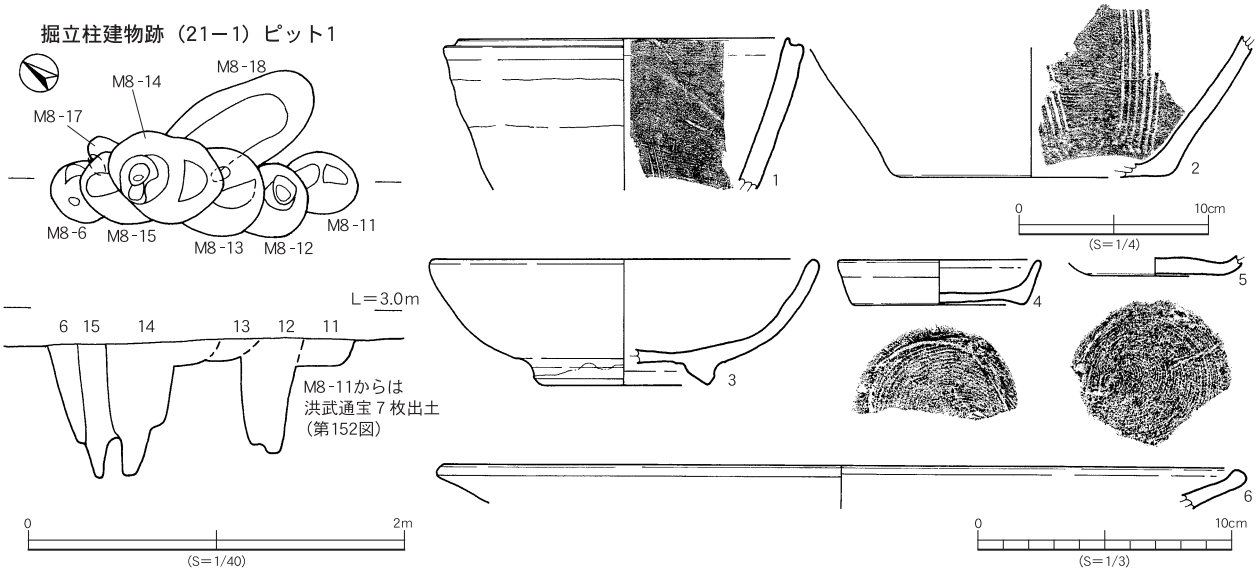
第102図　掘立柱建物跡⑤



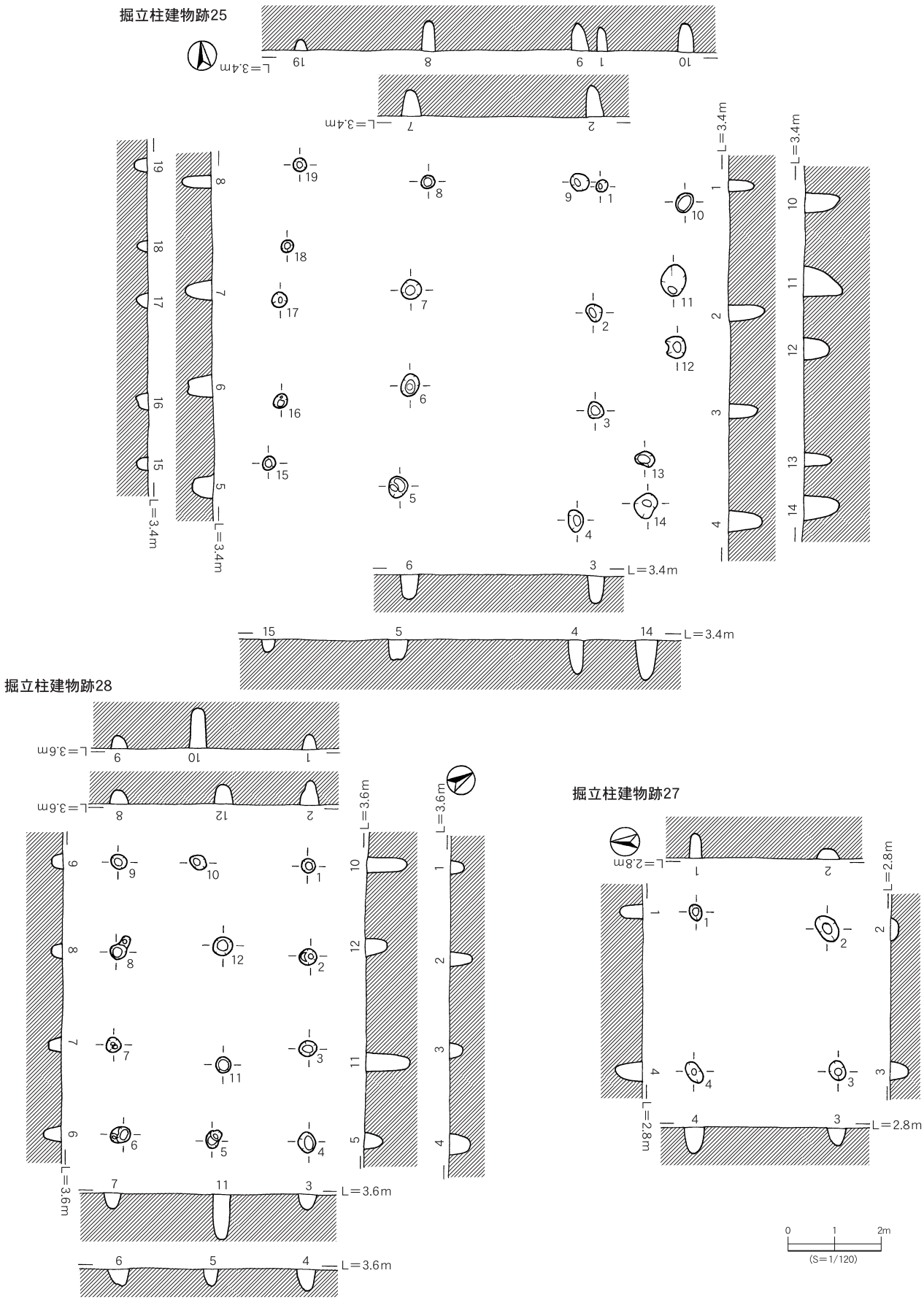
第103図　掘立柱建物跡⑥



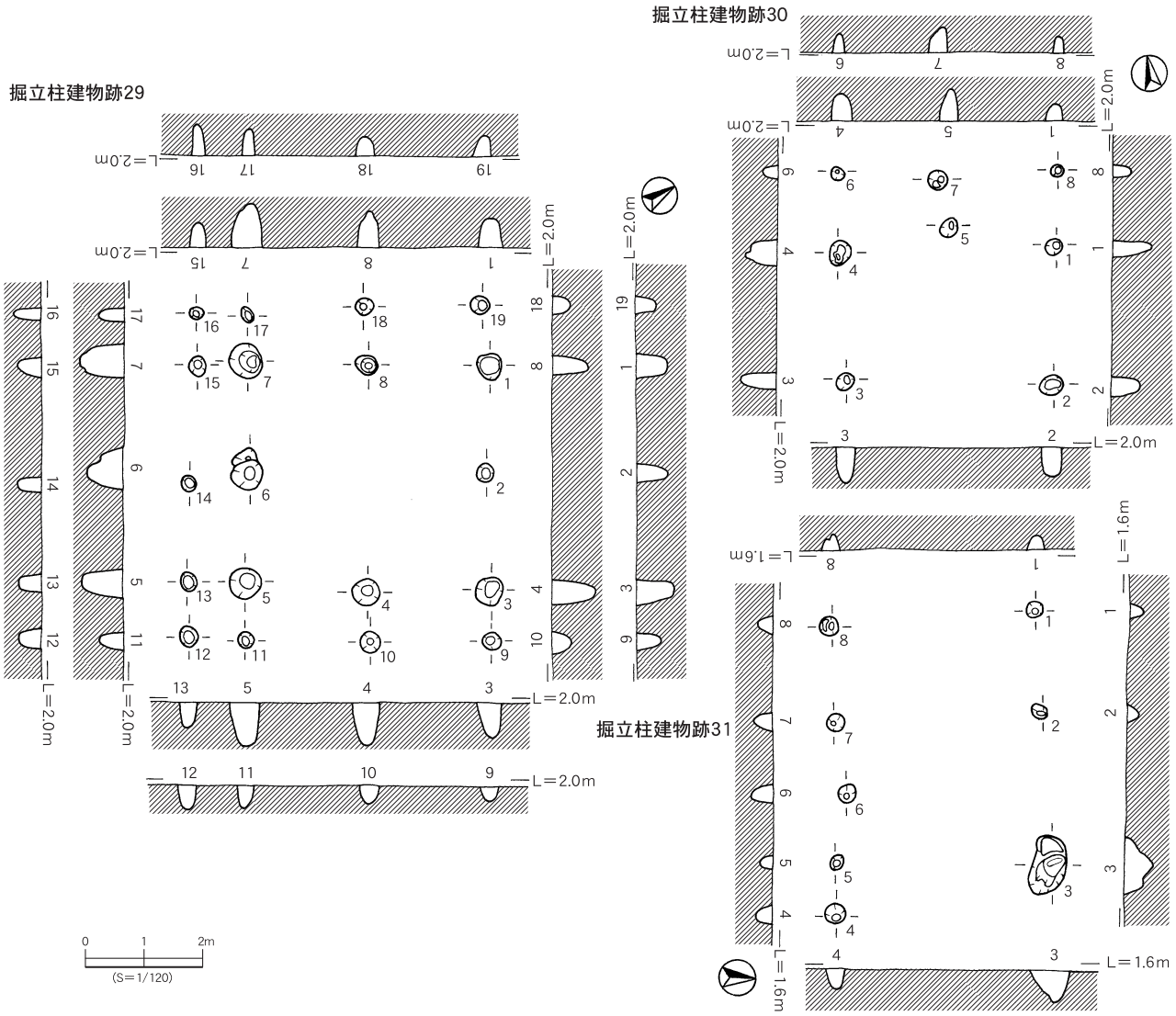
第104図　掘立柱建物跡⑦



第105図　掘立柱建物跡21-1検出ピット・各ピット内出土遺物



第106図　掘立柱建物跡⑧



第107図　掘立柱建物跡⑨

第３節　遺構

（１）掘立柱建物跡

計32棟の建物が復元された。内訳は，側柱建物26棟，総柱建物６棟である。このうちおおよそ12棟がほぼ東西南北に沿っている。

この中で，特に掘立柱建物21については２棟の建物が関連すると考えられたので一連のものとして扱う。

ピット自体はまだまだ多く存在するので，さらに多くの建物があった可能性も高い。また，ここでは中近世として扱うが，古墳時代および古代の建物が混在している可能性もあることを付記しておく。

（２）竪穴建物跡

Ｊ－４区とＯ・Ｐ－６区において検出された。

竪穴建物跡１は，Ｏ・Ｐ－６区においてⅡ層上面で検出された。平面プランは，3.2m×3.0mで深さは検出面から30㎝であった。検出面で既に北東側で焼土がみられたが，床面ではこれとは別に南側で焼土が検出された。このことから，検出面での焼土は遺構とは関係がない可能性も考えられる。遺構内からは，古代の土師器（ヘラ切り底部）片と青磁片などが出土した。

竪穴建物跡２は，Ｊ－４区においてⅡ層上面で検出された。平面プランは，2.2m×2.2mで深さは検出面から90㎝であった。埋土はほとんどが混ざり土であり，人為的に埋め戻されたような状態である。床面では，ほぼ中央部から焼土が検出された。7トレンチによって西側が切られている。

表３　掘立柱建物跡観察表（１）

掘立柱建物跡1

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	V9-10	桁行	1～2	212
2	V9-6		2～3	220
3	V9-2		3～4	212
4	V8-4		●1～4	644
5	V8-3		6～7	215
6	U8-18		7～8	214
7	U8-19		8～9	208
8	U9-7		●6～9	637
9	U9-9		11～12	210
10	V9-12		12～13	230
11	V9-8		●11～13	440
12	V9-5		4～14	147
13	V9-1		16～6	127
14	V8-1		9～21	90
15	V8-2		23～1	95
16	U8-14		17～18	335
17	U8-15		18～19	206
18	U8-20		19～20	197
19	U9-8		●17～20	738
20	U9-10		24～25	365
21	U9-11		25～26	388
22	V9-13		●24～26	753
23	V9-11		26～27	97
24	U8-16	梁間	4～5	192
25	U8-21		5～6	186
26	U9-25		●4～6	378
27	U9-26		9～10	194
			10～1	193
			●9～1	387
			1～11	125
			13～3	125
			14～15	204
			15～16	208
			●14～16	412
			16～17	97
			17～24	76
			●16～24	173
			26～20	78
			20～9	103
			●26～9	259
			27～21	202
			21～22	157
			22～23	188
			●27～23	547

掘立柱建物跡2

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	S6-5	桁行	1～2	191
2	S6-4		2～3	189
3	S6-3		3～4	198
4	S6-2		●1～4	578
5	S6-1		6～7	209
6	R6-16		7～8	171
7	R6-18		8～9	204
8	R6-20		●6～9	584
9	R6-22		11～12	215
10	R6-23		12～13	210
11	R6-15		13～14	180
12	R6-17	梁間	●11～14	605
13	R6-19		4～5	157
14	R6-21		5～6	202
			●4～6	359
			9～10	192
			10～1	184
			●9～1	376
			6～11	130
			14～9	124

掘立柱建物跡3

No.

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	Q6-14	桁行	1～2	204
2	Q6-40		2～3	273
3	Q6-37		●1～3	477
4	Q6-38		8～9	105
5	Q6-83		9～10	190
6	Q6-85		10～11	180
7	Q6-86		●8～11	475
8	Q6-87		3～13	80
9	Q6-77		18～8	128
10	Q6-61		11～19	107
11	Q6-56		21～1	151
12	Q6-43	梁間	3～4	32
13	Q6-36		4～5	80
14	Q6-93		5～6	92
15	Q6-95		6～7	110
16	Q6-97		7～8	80
17	Q6-98		●3～8	394
18	Q6-99		11～12	212
19	Q6-51		12～1	182
20	Q6-46		●11～1	394
21	Q6-12		13～14	120
			14～15	94
			15～16・17	110
			16・17～18	113
			●13～18	437
			19～20	153
			20～21	314
			●19～21	467

掘立柱建物跡4

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	Q7-58	桁行	1～2	154
2	Q7-61		2～3	61
3	Q7-63		3～4	92
4	Q7-15		4～5	113
5	Q7-16		●1～5	420
6	Q7-21		8～9	136
7	Q7-28		9～10	192
8	Q7-41		10～11	44
9	Q7-37		●8～11	372
10	Q7-84		11～13	125
11	Q7-83		16～1	137
12	Q7-72	梁間	5～6	135
13	Q7-80		6～7	95
14	Q7-78		7～8	191
15	Q7-50		●5～8	421
16	Q7-47		11～12	215
			12～1	193
			●11～1	408
			13～14	68
			14～15	111
			15～16	160
			●13～16	339

掘立柱建物跡5

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	Q6-109	桁行	1～2	120
2	Q6-107		2～3	84
3	Q6-103		3～4	110
4	Q6-101		4～5	148
5	Q6-31		●1～5	462
6	P6-117		11～12	169
7	P6-118		12～13	94
8	P6-120		13～14	101
9	P6-121		14～15	120
10	P6-122		●11～15	484
11	P6-95	梁間	5～7	92
12	P6-101		7～9	94
13	P6-138		9～11	185
14	P6-141		●5～11	371
15	P6-163		15～16	129
16	P6-177		16～17	57
17	P6-154		17～18	55
18	P6-155		18～1	120
19	P6-127		●15～1	361
20	P6-128		3～19	203
			19～13	175
			●3～13	378

掘立柱建物跡6

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	P7-31	桁行	1～2	165
2	P7-10		2～3	160
3	P6-73		3～4	146
4	P6-150		4～5	194
5	P6-125		●1～5	665
6	P6-134		9～10	122
7	P6-139		10～11	32
8	P6-34		11～12	57
9	P6-42		12～13	148
10	P6-61		13～14	50
11	P6-62		14～15	57
12	P6-68		15～16	156
13	P7-4		●9～16	622
14	P7-22	梁間	5～6	125
15	P7-24		6～7	151
16	P7-60		7～8	126
17	P7-52		8～9	171
18	P7-42		●5～9	573
19	P6-171		16～17	94
			17～18	235
			18～1	269
			●16～1	598
			3～19	268
			19～13	302
			●3～13	570
		その他	7～19	327
			19～18	302
			●7～18	629

掘立柱建物跡7

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	P7-76	桁行	1～2	107
2	P7-77		2～3	142
3	P7-83		3～4	211
4	P7-88		●1～4	460
5	P7-95		6～7	154
6	P7-98		7～8	96
7	P7-97		8～9	104
8	P8-9		9～10	89
9	P8-7		●6～10	443
10	P8-6	梁間	4～5	220
11	P7-81		5～6	110
			●4～6	330
			10～11	180
			11～1	163
			●10～1	343

掘立柱建物跡8

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	R8-33	桁行	1～2	220
2	Q8-5		2～3	116
3	Q8-12		3～4	340
4	Q8-16		●1～4	676
5	Q8-21		6～7	390
6	Q8-58		7～8	318
7	Q8-45		●6～8	708
8	R8-48		4～10	146
9	R8-38		12～6	158
10	Q8-19	梁間	4～5	168
11	Q8-27		5～6	166
12	Q8-64		●4～6	334
			8～9	148
			9～1	208
			●8～1	356
			10～11	234
			11～12	132
			●10～12	366

掘立柱建物跡9

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	R8-43	桁行	1～2	220
2	Q8-49		2～3	175
3	Q8-54		3～4	238
4	Q8-61		4～5	179
5	Q8-65		5～6	65
6	Q8-66		●1～6	877
7	Q8-74		8～9	134
8	Q9-38		9～10	148
9	Q9-32		10～11	200
10	Q9-26		11～12	225
11	Q9-19		12～13	86
12	Q9-10		13～14	165
13	Q9-7		●8～14	958
14	R9-4	梁間	6～7	186
15	R9-1		7～8	201
16	R8-44		●6～8	387
17	Q8-73		14～15	163
18	Q8-69		15～16	113
19	Q8-68		16～1	175
20	Q9-2		●14～1	451
21	Q9-30		5～17	261
			17～21	111
			21～9	62
			●5～9	434
			4～18	202
			18～10	211
			●4～10	413
			3～19	196
			19～11	203
			●3～11	399
			2～20	230
			20～12	185
			●2～12	415

掘立柱建物跡10

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	P8-5	桁行	1～2	195
2	P8-11		2～3	207
3	P8-15		3～4	214
4	P8-19		●1～4	616
5	P8-37		6～7	197
6	P8-104		7～8	223
7	P8-103		8～9	197
8	P8-32		●6～9	617
9	P8-28		11～12	285
10	P8-24		12～13	357
11	P8-2		●11～13	644
12	P8-10		17～18	115
13	P8-18		18～19	170
14	P8-21		19～20	207
15	P8-39		20～21	40
16	P8-46		21～22	195
17	P8-54		22～23	116
18	P8-53		●17～23	843
19	P8-52		4～5	248
20	P8-51		5～6	136
21	P8-50		●4～6	384
22	P8-47		9～10	136
23	Q8-35		10～1	283
24	Q8-34	梁間	●9～1	419
25	P8-22		14～15	193
26	Q8-4		15～16	213
			16～17	193
			●14～17	499
			23～24	82
			24～25	213
			25～26	201
			●23～26	496

掘立柱建物跡11

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	P8-64	桁行	1～2	150
2	P8-66		2～3	155
3	P8-68		3～4	166
4	P8-71		●1～4	471
5	P8-96		6～7	159
6	P9-3		7～8	159
7	P9-11		8～9	145
8	P9-14		●6～9	463
9	P9-20	梁間	4～5	179
10	P9-84		5～6	184
			●4～6	363
			9～10	166
			10～1	180
			●9～1	346

掘立柱建物跡12

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	P7-63	桁行	1～2	278
2	P7-6		2～4	264
3	P7-73		●1～4	542
4	P7-72		7～8	213
5	P7-71		8～9	350
6	O6-59		●7～9	563
7	O6-63	梁間	4～6	245
8	O6-71		6～7	240
9	O7-54		●4～7	485
10	O7-66		9～10	233
11	O6-76		10～1	235
			●9～1	468
			2～11	250
			11～8	300
		その他	●2～8	550
			6～11	243
			11～10	300
			●6～10	543

掘立柱建物跡13

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	O7-50	桁行	1～2	130
2	O7-37		2～3	93
3	O7-39		3～4	254
4	O7-2		●1～4	477
5	O7-10		6～7	228
6	O7-17		7～8	220
7	O7-21		●6～8	448
8	O7-52		8～10	208
9	O7-48		11～1	160
10	O7-53	梁間	4～5	203
11	O7-45		5～6	173
			●4～6	376
			8～9	193
			9～1	170
			●8～1	363
			10～11	358

掘立柱建物跡14

建物ピット No.	ピットNo.		No.	柱間
1	O8-31	桁行	1～2	314
2	O8-18		2～3	218
3	O8-14		3～4	121
4	O8-9		●1～4	653
5	O8-13		6～7	324
6	O9-1		7～8	326
7	O8-22		●6～8	650
8	O9-13		11～12	167
9	O8-36		12～13	175
10	O8-33		13～14	287
11	O8-24		●11～14	629
12	O8-23		16～17	625
13	O8-16	梁間	4～5	191
14	O8-8		5～6	105
15	O8-27		●4～6	296
16	O9-2		8～9	127
17	O9-17		9～10	107
			10～1	49
			●8～1	283
			14～4	173
			6～16	136
			17～8	127
			1～15	81
			15～11	111
			●1～11	192

※●は桁行もしくは梁間の合計値

表４　掘立柱建物跡観察表（２）

掘立柱建物跡15

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	N6-20	桁行	1～2	173
2	N6-14		2～3	188
3	N6-2		●1～3	361
4	M6-21		5～6	135
5	M6-23		6～7	79
6	M6-25		7～8	125
7	M6-29		●5～8	339
8	M6-32		10～11	356
9	M6-30		12～3	130
10	N6-18		13～5	132
11	N6-19		14～15	285
12	N5-15		15～16	201
13	M5-7		●14～16	486
14	M5-8		17～8	171
15	M6-28		18～10	133
16	M6-33	梁間	3～4	162
17	M6-34		4～5	192
18	N6-19		●3～5	354
19	M5-9		8～9	150
			9～1	205
			●8～1	355
			10～1	172
			11～3	174
			12～13	338
			13～14	64
			16～8	73
			17～18	538

掘立柱建物跡16

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	N7-5	桁行	1～2	293
2	N7-4		4～5	127
3	N7-10		5～6	158
4	N7-11		●4～6	285
5	N7-13	梁間	2～3	157
6	N7-14		3～4	153
7	N7-9		●2～4	310
			6～7	164
			7～1	154
			●6～1	318

掘立柱建物跡17

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	SK107	桁行	1～2	179
2	N7-3		2～3	192
3	M7-24		3～4	175
4	SK94		●1～4	546
5	M7-72		5～6	202
6	M7-76		6～7	200
7	M7-25		7～8	190
8	SK108		●5～8	592
		梁間	4～5	350
			8～1	308

掘立柱建物跡18

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M7-23	桁行	1～2	115
2	M7-22		2～3	40
3	M7-21		3～4	82
4	SK94		4～5	183
5	SK95		●1～5	420
6	M7-14		7～8	169
7	M7-60		8～9	129
8	M7-85		9～10	122
9	M7-75		●7～10	420
10	M7-77		10～1	409
		梁間	5～6	200
			6～7	215
			●5～7	415

掘立柱建物跡19

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	L6-13	桁行	1～2	227
2	M6-7		2～3	213
3	M6-3		3～4	259
4	M6-1		●1～4	699
5	M5-2		6～7	243
6	M5-1		7～8	452
7	L6-1		●6～8	695
8	L6-7	梁間	4～5	235
9	L6-9		5～6	188
			●4～6	423
			8～9	131
			9～1	268
			●8～1	399

掘立柱建物跡20

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M7-4	桁行	1～2	292
2	L7-28		2～3	215
3	L7-19		●1～3	507
4	L7-23		5～6	257
5	L7-34		6～7	236
6	M7-41		●5～7	493
7	M7-37		9～10	486
8	M7-5		11～12	195
9	L7-41		12～13	164
10	M7-10		13～14	139
11	L7-45		●11～14	498
12	L7-43	梁間	3～4	140
13	M7-43		4～5	193
14	M7-47		●3～5	333
			5～9	83
			9～11	111
			●5～11	194
			14～10	106
			10～7	98
			●14～7	204

掘立柱建物跡21-1

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M8-46	桁行	1・2～3	140
2	M8-47		3～4	211
3	M8-49		4～5	181
4	M8-3		●1・2～5	532
5	M8-54		8～9	254
6	M8-57		9～10	267
7	M8-8		●8～10	521
8	M8-64		13～14	207
9	M8-76		15～16	198
10	M8-93		5～17・18	126
11	M8-26		20～8	126
12	M8-30		10～21	127
13	M8-19		24～1・2	115
14	M8-52	梁間	5～6	137
15	M8-59		6～7	107
16	M8-63		7～8	105
17	L8-16		●5～8	349
18	L8-17		10～11	91
19	L8-19		11～12	124
20	L8-20		12～1・2	157
21	M8-96		●10～1・2	372
22	M8-36		14～15	222
23	M8-35		16～13	239
24	M8-44		17・18～19	184
			19～20	202
			●17・18～20	386
			21～22	184
			22～24	216
			●21～24	400

掘立柱建物跡21-2

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M8-92	桁行	1～2	151
2	M8-83		2～3	118
3	M8-77		3～4	254
4	M8-73		●1～4	523
5	M8-116		6～7	210
6	M8-121		7～8	215
7	M8-109		8～9	100
8	M8-106		●6～9	525
9	M8-105	梁間	4～5	133
			5～6	113
			●4～6	246
			9～1	243

掘立柱建物跡22

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M8-88	桁行	1～3	66
2	M8-87		3～5	55
3	M8-86		5～6	194
4	M8-85		●1～6	315
5	M8-84		7～8	50
6	M8-62		8～9	164
7	M8-74		9～10	138
8	M8-75		●7～10	352
9	M8-110	梁間	6～7	320
10	M8-129		10～1	370

掘立柱建物跡23

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M8-132	桁行	1～2	188
2	M8-128		2～3	192
3	M8-124		3～4	201
4	L9-108		●1～4	581
5	L9-36		6～7	185
6	L9-97		7～8	218
7	M9-70		8～9	186
8	M9-75		●6～9	589
9	M9-80	梁間	4～5	210
10	M9-31		5～6	185
11	M9-6		●4～6	395
12	M9-14		9～10	199
			10～1	198
			●9～1	397
			3～11	168
			11～7	255
			●3～7	423
			2～12	200
			12～8	194
			●2～8	394
		その他	5～11	217
			11～12	175
			12～10	191
			●5～10	583

掘立柱建物跡24

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	M9-76	桁行	1～2	144
2	M9-71		2～3	162
3	M9-69		●1～3	306
4	M9-103		4～5	115
5	M9-107		5～6	195
6	M9-92		●4～6	310
		梁間	3～4	239
			6～1	231

掘立柱建物跡25

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	L8-75	桁行	1～2	273
2	K8-48		2～3	210
3	K8-43		3～4	240
4	K9-27		●1～4	723
5	K9-112		5～6	220
6	K9-106		6～7	208
7	L9-51		7～8	239
8	L9-68		●5～8	667
9	L8-77		10～11	189
10	L8-26		11～12	124
11	L8-21		12～13	251
12	K8-17		13～14	97
13	K8-27		●10～14	661
14	K8-30		15～16	136
15	K9-100		16～17	220
16	K9-101		17～18	118
17	L9-54		18～19	175
18	L9-56		●15～19	649
19	L9-63	梁間	4～5	391
			8～9	322
			9～1	50
			●8～1	372
			3～6	404
			7～2	396
			14～4	155
			1～10	186
			5～15	283
			19～8	280

掘立柱建物跡26

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	K9-79	桁行	1～2	222
2	K8-51		2～3	187
3	K8-6		●1～3	409
4	K8-2		4～5	200
5	K8-57		5～6	287
6	K9-83		●4～6	487
		梁間	3～4	296
			6～1	240

掘立柱建物跡27

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	H6-55	桁行	1～2	290
2	H6-63		3～4	314
3	H6-71	梁間	2～3	310
4	H6-46		4～1	344

掘立柱建物跡28

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	G6-31	桁行	1～2	193
2	G6-23		2～3	210
3	G5-30		3～4	200
4	G5-20		●1～4	603
5	G5-34		6～7	198
6	G5-42		7～8	198
7	G6-7		8～9	194
8	G6-16		●6～9	590
9	G6-29	梁間	4～5	210
10	G6-26		5～6	230
11	G5-32		4～6	440
12	G6-25		9～10	170
			10～1	244
			9～1	414
			3～11	189
			11～7	244
			3～7	433
			8～12	232
			12～2	191
			8～2	423
		その他	5～11	168
			11～12	258
			12～10	188
			●5～10	614

掘立柱建物跡29

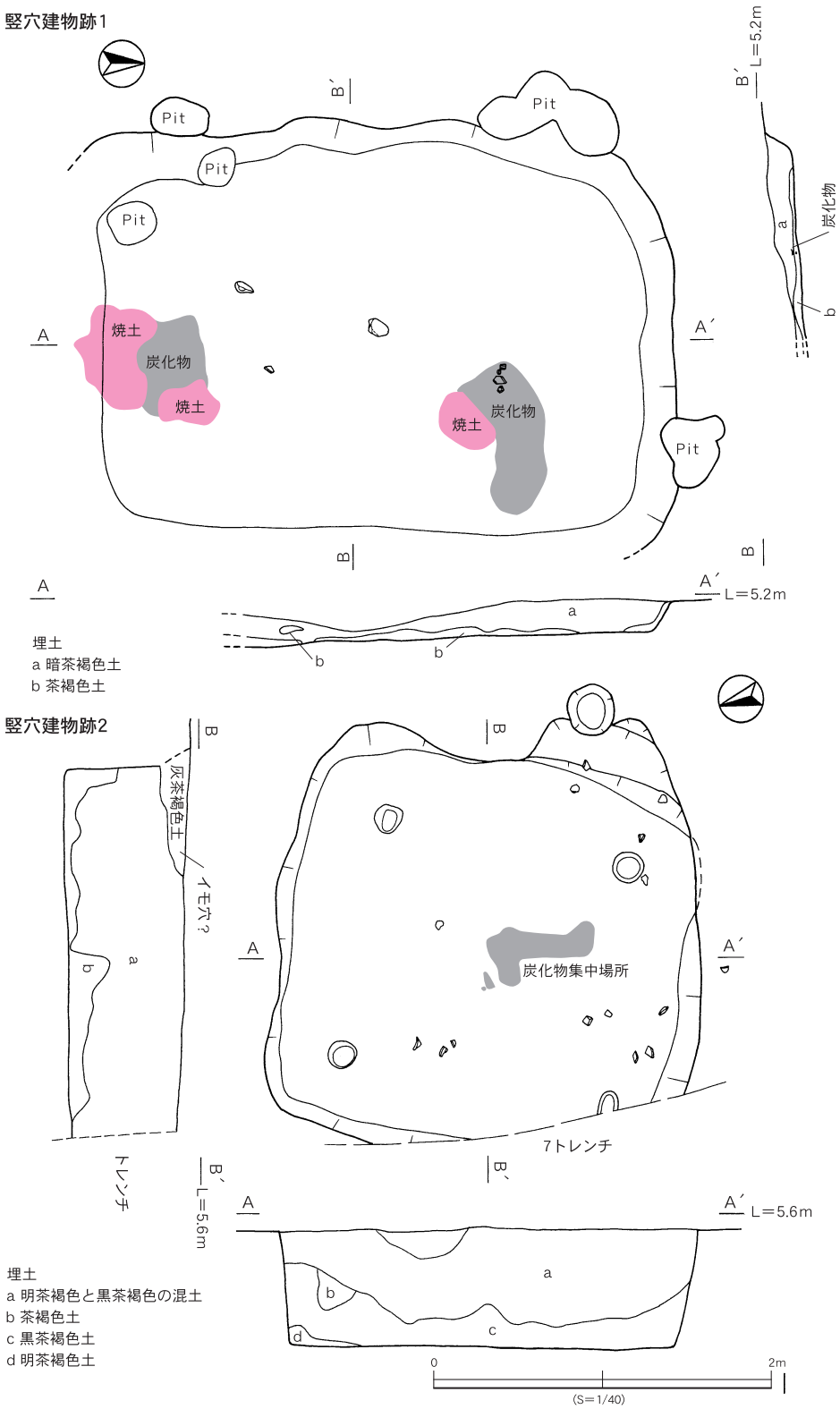
建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	B4-37	桁行	1～2	185
2	B4-36		2～3	197
3	B4-32		●1～3	382
4	B4-30		5～6	184
5	B4-28		6～7	191
6	B4-35		●5～7	375
7	B4-40		3～9	85
8	B4-38		11～5	102
9	B4-31		7～17	78
10	B4-29		19～1	105
11	B4-27		12～13	94
12	B4-25		13～14	170
13	B4-26		14～15	204
14	B4-34		15～16	88
15	B4-41		●12～16	556
16	B4-22	梁間	3～4	215
17	B4-48		4～5	207
18	B4-43		●3～5	422
19	B4-39		7～8	204
			8～1	208
			●7～1	412
			9～10	207
			10～11	214
			11～12	98
			●9～12	519
			16～17	91
			17～18	198
			18～19	205
			●16～19	494

掘立柱建物跡30

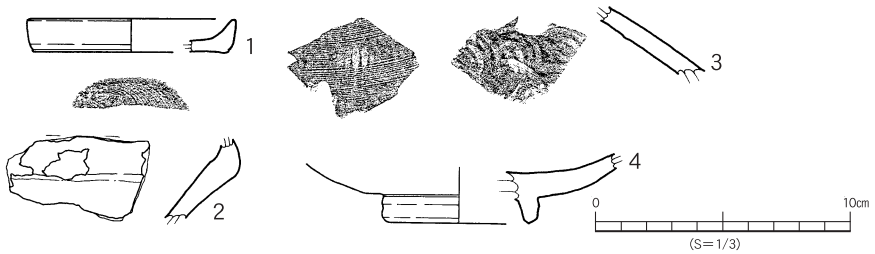
建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	B4-44	桁行	1～2	240
2	B4-52		3～4	220
3	B5-29		4～6	138
4	B5-32		8～1	128
5	B5-4	梁間	2～3	353
6	B5-35		4～5	196
7	B5-34		5～1	184
8	B4-46		●4～1	380
			6～7	177
			7～8	203
			●6～8	380

掘立柱建物跡31

建物ピット			柱間心心距離計測表	
No.	ピットNo.		No.	柱間
1	B8-5	桁行	1～2	177
2	B8-4		2～3	256
3	B7-8		●1～3	433
4	B7-4		4～5	93
5	B7-7	梁間	5～6	118
6	B8-1		6～7	126
7	B8-2		7～8	166
8	B8-3		●4～8	503
			3～4	380
			8～1	353



第108図　竪穴住居跡



第109図　竪穴住居跡出土遺物実測図

（3）炉状遺構

炉状遺構は全部で19基が確認された。ただし，このうち３基で切り合いが確認されているのでこれを含めると実際には23基が存在していたことになる。

これらは，中世から近世にかけて使用されていたものと考えられる。いずれも鉄滓や鍛造剥片等の金属質剥片が確認されなかったので，基本的には鍛冶炉としてよりも，カマドとして使用されたものがほとんどであると捉えたい。ただし，12号については鍛冶炉の可能性が，18号・19号については囲炉裏の可能性が考えられるが，形態から考慮して炉状遺構として扱った。

１号炉状遺構（第110図）

Ｄ-６区のⅡ層において検出された。溝27に燃焼部と掻き出し部の一部が切られている。燃焼部は橙色でＣ字状の炉壁を持ち，焚き口の両側は袖石の役割をはたす礫がそれぞれ数個ずつ使われており，礫の間には，粘土が目地の役割で貼り付けられ，補強されている。大きさは138㎝×84㎝である。床面は検出面より46㎝下方にあり，硬化は見られない。燃焼部の断面を観察すると，垂直に近い角度で掘り込んで作ってあり，炉壁の厚さは最大で８㎝を測る。この炉状遺構は煙道施設が付随している。燃焼部内の一番奥の壁の中央に床面から12㎝の高さに推定直径16㎝の穴がある，これが約30°の角度で斜上方にむかって開けられている。内部は一部崩落しているもの

の，粘土でパイプ状に作られており，周囲は高温にさらされたため，赤化している。燃焼部，掻き出し部共に崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊がみられ，内部には炭化木や炭を含む埋土の堆積をみる。

２号炉状遺構（第111図）

Ⅰ-５区のⅡ層において検出された。検出時に上部の殆どが削平されており，基礎部がわずかに残っている程度である。C字状の燃焼部の外周と焚き口付近は崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊がみられ，内部には炭化木や炭を多く含む黒色土の堆積をみる。大きさは推定95㎝×73㎝である。掻き出し部の大きさは先端が削平されているので不明である。遺構内から土錘とチャートのフレイクが出土している。

３号炉状遺構（第111図）

３-１・３-２号炉状遺構は，Ⅰ-８区において大溝内で検出された。検出面は，大溝の床面より20㎝程度上面である。このことから，大溝が若干埋まった段階で構築されたと言える。大きさは，３-１号が260㎝×120㎝で３－２号が285㎝×110㎝である。３-１号が３-２号を切っている。

ア ３-１号

３-１号の最大の特徴は，大型の礫を円形に配置して燃焼部を形成している点である。この礫は，２段に積み上げられ，それぞれの礫の平坦面が内側に来るように配置されている。さらに，上段の礫は内側へ傾けられ，断面形状がドーム形を呈する。また，各礫は内側が赤変している。これらの礫の間には，粘土が貼り付けられ，さながら目地の役割を果たす。そして，内部へ行くにしたがい熱により硬化している。粘土は，上段の礫の内側にも貼り付けられており，これが天井部に該当するものと思われた。この天井部から崩落したと思われる粘土塊が若干埋土中に認められた。埋土は，燃焼部床面は最大で厚さ5㎝の炭化物層が広がっており，その上部は炭化物混じりの灰褐色砂層がかき出し部共に堆積している。この層は，厚さ約43㎝であったが分層は出来なかった。

かき出し部は，162㎝×110㎝の楕円形を呈している。燃焼部とかき出し部との間には大型の礫を両側に神石として配置しており，熱が逃げ出さないための工夫が認められる。

イ ３-２号について

３-２号は，大溝内にこれと並行するように構築されている。先に述べたように３-１号によって燃焼部とかき出し部が切られている。この遺構も，３-１号と同様に礫を組み合わせて燃焼部を構築している。ただし，３-１号との違いは，軽石を一部に用いている点であろう。この結果，軽石外部の砂層が赤化しており，熱が放出していたものと思われる。粘土による目地も３-１号ほど緻密ではない。燃焼部には，最大で厚さ９㎝の炭化物層が認められた。その上部には，炭化物混じりの灰褐色砂層が堆積している。遺物等は出土していない。

４号炉状遺構（第111図）

Ｊ-８区のⅣ層において検出されたが使用時期は周辺の炉状遺構とほぼ同時期であると考えられる。周囲より一段深く掘り込まれた場所に位置し，大きさは220㎝×100㎝である。検出時に3/4程度削平されており，基礎部がわずかに残っている程度である。燃焼部は赤褐色の炉壁を持ち，形状はＣ字状であると思われる。内部の埋土は上面に炭化物混ざりのⅡ層土が堆積し，その下に炭化物の層が全面に堆積する。厚さは最大で７㎝を測る。検出面から約15㎝下に床面があるが硬化はみられない。焚き口は南南東側にありここから外側に向かって掻き出し部が楕円形に拡がる。埋土は明黄褐色で灰や炉壁や炭化物が混ざっている。燃焼部から採取した炭化物の分析を行った結果，樹種はアワブキ属で，放射性炭素年代は補正年代を換算すると西暦1,482±39年という結果が出ている。

５号炉状遺構（第112図）

Ｊ-８・９区のⅢa層において検出された。削平により基礎部がわずかに残る程度である。燃焼部の炉壁はＣ字状を呈している。大きさは97㎝×82㎝である。埋土は炭化物を含む。床面の焚き口付近は熱でわずかに赤化している。掻き出し部のプランは80㎝×50㎝で，少量の灰や炭化物を含む茶褐色土が堆積する。燃焼部の埋土中から採取した炭化物を分析した結果，樹種は広葉樹（散孔材）で，放射性炭素年代は補正年代を換算すると西暦1.350±38年という結果が出ている。

６号炉状遺構（第112図）

Ｋ-８区のⅢa層において検出された。７号と隣接している。燃焼部は赤褐色でＣ字状の炉壁を持ち，大きさは115㎝×85㎝である。燃焼部奥の壁はフラスコ状に抉られ，若干オーバーハングしている。壁の断面の被熱による赤化部分は下に向かうほど薄くなっている。燃焼部内は焚き口から見て奥半分の床面が熱で硬化し，褐色を呈している。手前半分は硬化はみられず，にぶい赤褐色を呈している。炭化物が硬化した床面上に最大で3㎝の厚さで堆積している。焚き口は東側にありここから外側に向かって炉壁の一部と見られる粘土塊が混入する灰質土が堆積するが，削平のため上部構造や掻き出し部のプランは確認できなかった。

燃焼部と掻き出し部の埋土から採取した炭化物を分析した結果，樹種はクスノキ科であり，放射性炭素年代は

補正年代を換算すると西暦1484±37年という結果が出ている。

７号炉状遺構（第112図）

K-８区のⅢa層において検出された。大きさは，７-１号が275cm×105cmで，７-２号が90cm×80cmである。検出時より７-１号が７-２号の焚き口と掻き出し部を切っているのが観察された。双方とも検出面以上は削平されており，上部構造はわからない。

ア　７-１号

７-１号は焚き口の左右に大きい袖石を使い，燃焼部は102cm×92cmのC字形プランを呈しており，壁の残り具合も良好である。比較的頑丈に作られてあり，３号（イコウ2582）と同様に長期間の使用のために作られたものと考えられる。煙道は確認できない。検出面より約40cm下にほぼ平坦な硬化していない床面があり，その上を炭化物層が覆う。これは燃焼部の奥にいくほど厚く堆積しており，最大で約10cm程を測る。炭化物層の上には崩落した炉壁の粘土が混ざる暗赤褐色の埋土があるが分層できなかった。燃焼部の壁は断面でみるとややフラスコ状である。また，床面から20～27cmまでは固く焼成されており，これより上の壁はやや脆かった。すなわち，下部をまず固く作った後，その上に粘土を積み上げているのがわかる。また，焚き口の袖石近くの粘土は特に上から下まで煉瓦状に固く焼成されてあり，指頭で掻き上げるなどして，ていねいに燃焼部の内面壁を整えている。袖石は二つとも床面より約13cm下まで突き刺すようにして据えている。燃焼部を検出時の周囲の土の焼け具合と密着具合からみて，炉壁の下位1/3～1/4程度は地上に露出せずに，地下にあった可能性がある。北側のかき出し部は175cm×87cmの楕円形を呈する。上層に炉壁の粘土や炭化物が混ざる薄い層があり，その下ににぶい黄褐色の埋土が堆積していた。最も深い所で検出面より35cmを測る。遺構内遺物は燃焼部内に青花碗片が，掻き出し部内に瓦質土器の擂鉢片がそれぞれ1点，床から若干浮いた位置で出土した。

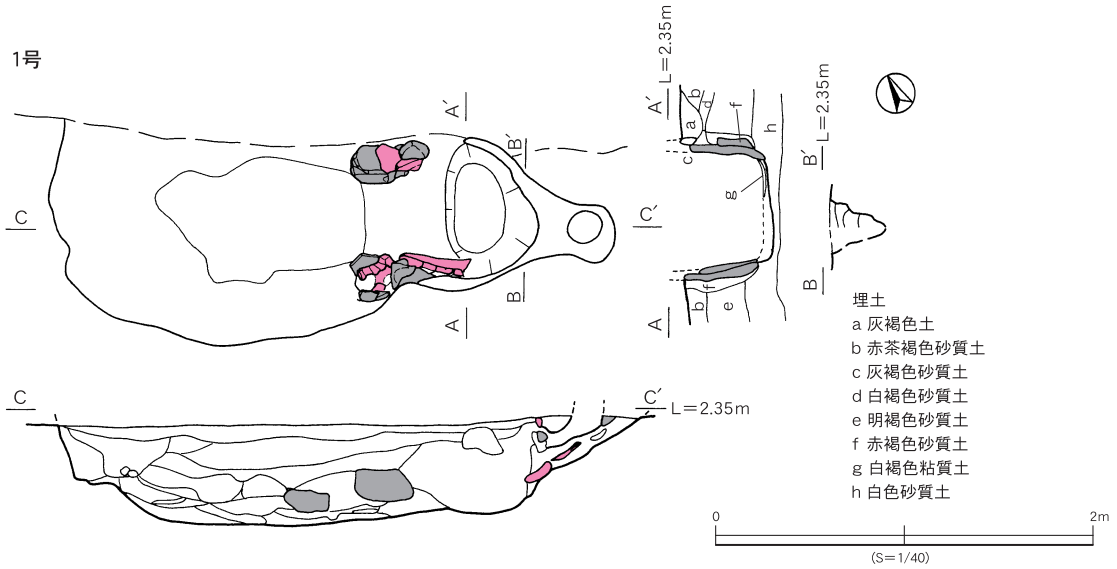
イ　７-２号

切り合いの関係から７-１号より前に作られた遺構であることが理解される。燃焼部内の埋土は褐色で崩落した炉壁の粘土と炭化物が混ざる。床面は７-１号より30cm近く高く，硬化は見られない。炉壁は袖石等も使用されておらず，残存状況も良好ではない。大きさは７-１号の燃焼部とほぼ同じであると思われる。焚き口と掻き出し部は切られている。

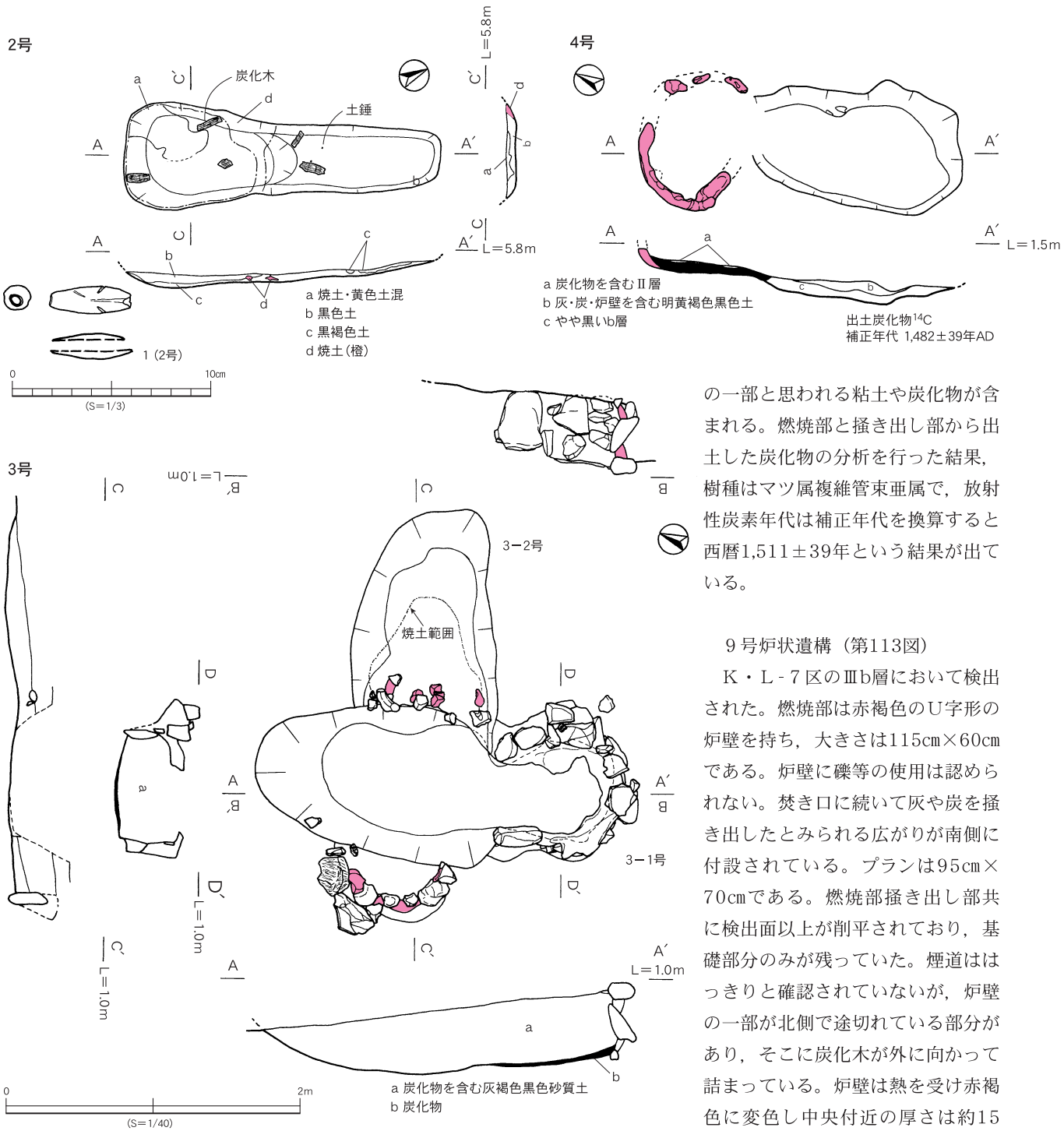
７-２号の遺構の残存状況の悪さから，何らかの理由で短期間しか使用されずに，その後長期使用を考えた丈夫な７-１号をすぐ横に作った可能性が考えられる。

８号炉状遺構（第113図）

K・L-７・８区のⅢa′層において検出され，10号より約３m西側にある。検出時に3/4程度が削平されており，基礎部がわずかに残っている程度である。燃焼部は溝状遺構によって南側が，ピットL８-７によって北西側がそれぞれ切られている。階段状の断面を持つピットの底は燃焼部の床面を貫いてさらに約47cm下に達している。赤褐色でU字形の炉壁を持つ燃焼部はフラスコ状に抉られ，わずかにオーバーハングしている。大きさは推定で125cm×110cmである。炉壁に礫等の使用は認められない。内部の埋土は炭化物混じりの赤褐色で分層はできなかっ



第110図　炉状遺構①



第111図　炉状遺構②

た。検出面より約17m下に床面があるが，硬化は見られない。また，焚き口から見て燃焼部の右奥，床面から約７cm上の壁に11～15cm幅の穴が開いている。そこから外に向かい煤と地面の焼けた痕が約43cm延びているのが，検出時よりはっきりと確認できた。上部構造がわからないので明らかではないが，煙道の可能性が考えられる。焚き口に続いて掻き出し口が南側に付設されている。大きさは203cm×160cmである。暗褐色の埋土中には炉壁の一部と思われる粘土や炭化物が含まれる。燃焼部と掻き出し部から出土した炭化物の分析を行った結果，樹種はマツ属複維管束亜属で，放射性炭素年代は補正年代を換算すると西暦1,511±39年という結果が出ている。

９号炉状遺構（第113図）

Ｋ・Ｌ-７区のⅢb層において検出された。燃焼部は赤褐色のＵ字形の炉壁を持ち，大きさは115cm×60cmである。炉壁に礫等の使用は認められない。焚き口に続いて灰や炭を掻き出したとみられる広がりが南側に付設されている。プランは95cm×70cmである。燃焼部掻き出し部共に検出面以上が削平されており，基礎部分のみが残っていた。煙道ははっきりと確認されていないが，炉壁の一部が北側で途切れている部分があり，そこに炭化木が外に向かって詰まっている。炉壁は熱を受け赤褐色に変色し中央付近の厚さは約15cmを計る。床面に赤化は見られない。

燃焼部の内側の埋土は黒褐色で，その下に厚さ４～６cmの炭化物層がほぼ全面的に堆積しているが，特に北側に厚く堆積している。炭化物はさらに掻き出し部の埋土の中にもブロック状に見られる。燃焼部と掻き出し部の埋土中から採取したの炭化物を分析した結果，樹種はマツ属複維管束亜属であり，放射性炭素年代は補正年代を換算すると西暦1,536±36年という結果が出ている。埋土中より近世と思われる染付が1点出土している。また，埋土のウォーターフローテーションを行った結果，直径約４㎜のガラス小玉が発見された。このガラス玉は分析

の結果，鉛ガラスであることが確認されている。

10号炉状遺構（第113図）

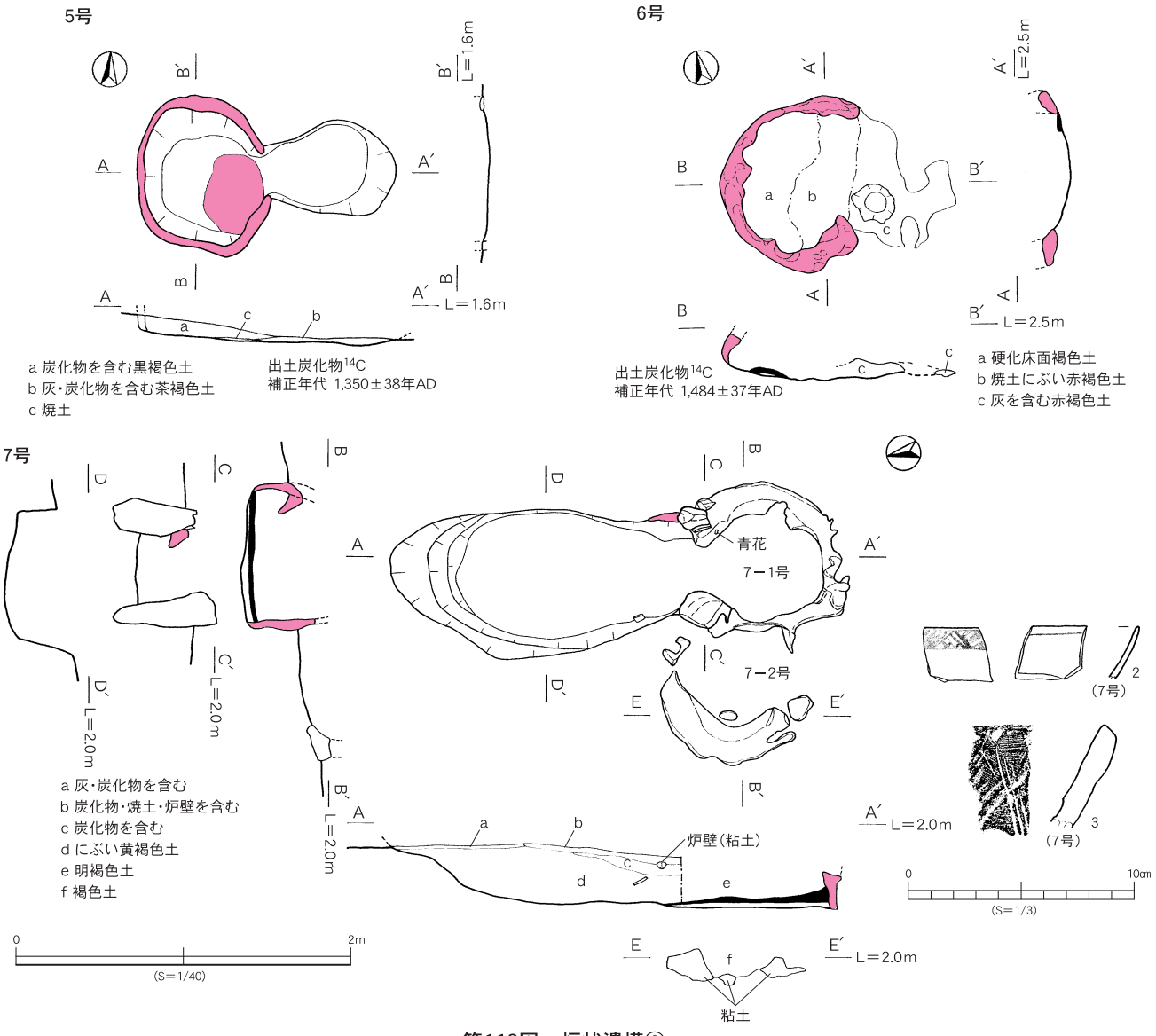
L-7区のⅢb層において検出された。燃焼部は赤化したU字形の炉壁を持ち，大きさは100cm×70cmである。炉壁に礫等の使用は認められない。焚き口に続いて灰や炭を掻き出したと思われる広がりが南側に付設されている。

プランは130cm×55cmである。燃焼部掻き出し部共に検出面以上が削平されており，基礎部分のみが残っていた。燃焼部に煙道ははっきりと確認されていないが，炉壁の一部が東側で途切れており，ここより炭化物が外側にはみ出るように堆積していた。炉壁は熱を受け明赤褐色に変色し南側の焚き口付近ほど厚く，幅は約10cmを計る。燃焼部の北半分にはかまどの上部構造が崩落したと思われる粘土が堆積し，その下に厚さ４～５cmの炭化物層が堆積している。炭化物層の下部にある床面は熱により深さ3cmにわたって硬化しているが熱による赤化は見られない。炭化物はさらに掻き出し部の褐色の埋土の中にもブロック状に見られる。燃焼部の焚き口付近からは炭化種子（桃核）が床面から約8cm浮いた位置で出土している。また，輸入陶器も出土した。

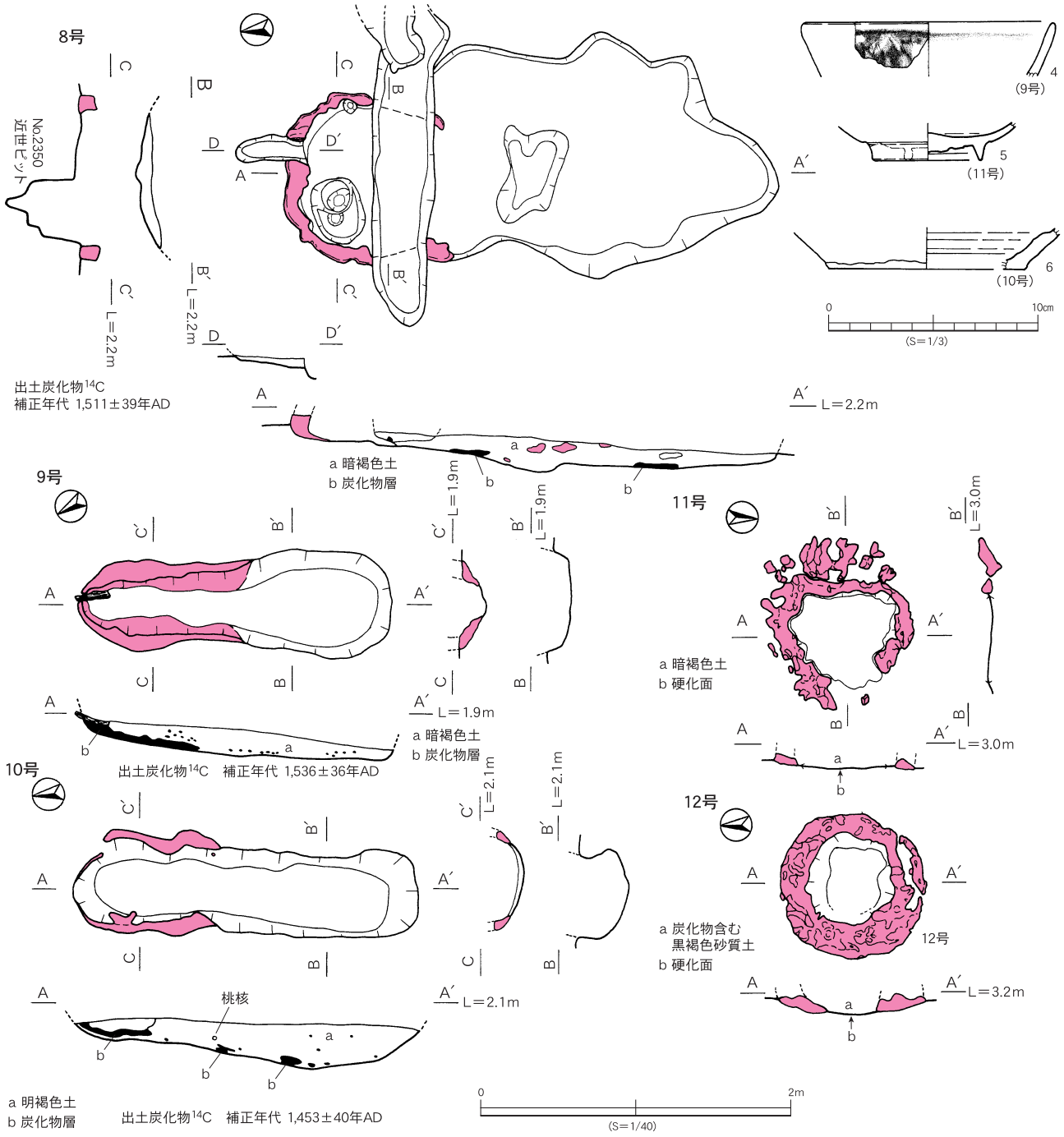
燃焼部と掻き出し部から採取した炭化物を分析した結果，樹種はコナラ属アカガシ亜属であり，放射性炭素年代は補正年代を換算すると西暦1,452±40年という結果が出ている。また，土壌サンプルの分析を行ったところ，栽培植物のオオムギが検出された。

11号炉状遺構（第113図）

M-8・9区のⅢa′層において検出された。12号から約2.5m東側にある。燃焼部は橙色のC字状の炉壁を持ち，大きさは100cm×85cmである。検出面以上が削平されており，上部構造はわからない。したがって，12号のようにリング状であったのかは不明である。灰や炭を掻き出したとみられる広がりも同様に確認できなかった。炉壁は被



第112図　炉状遺構③



第113図　炉状遺構④

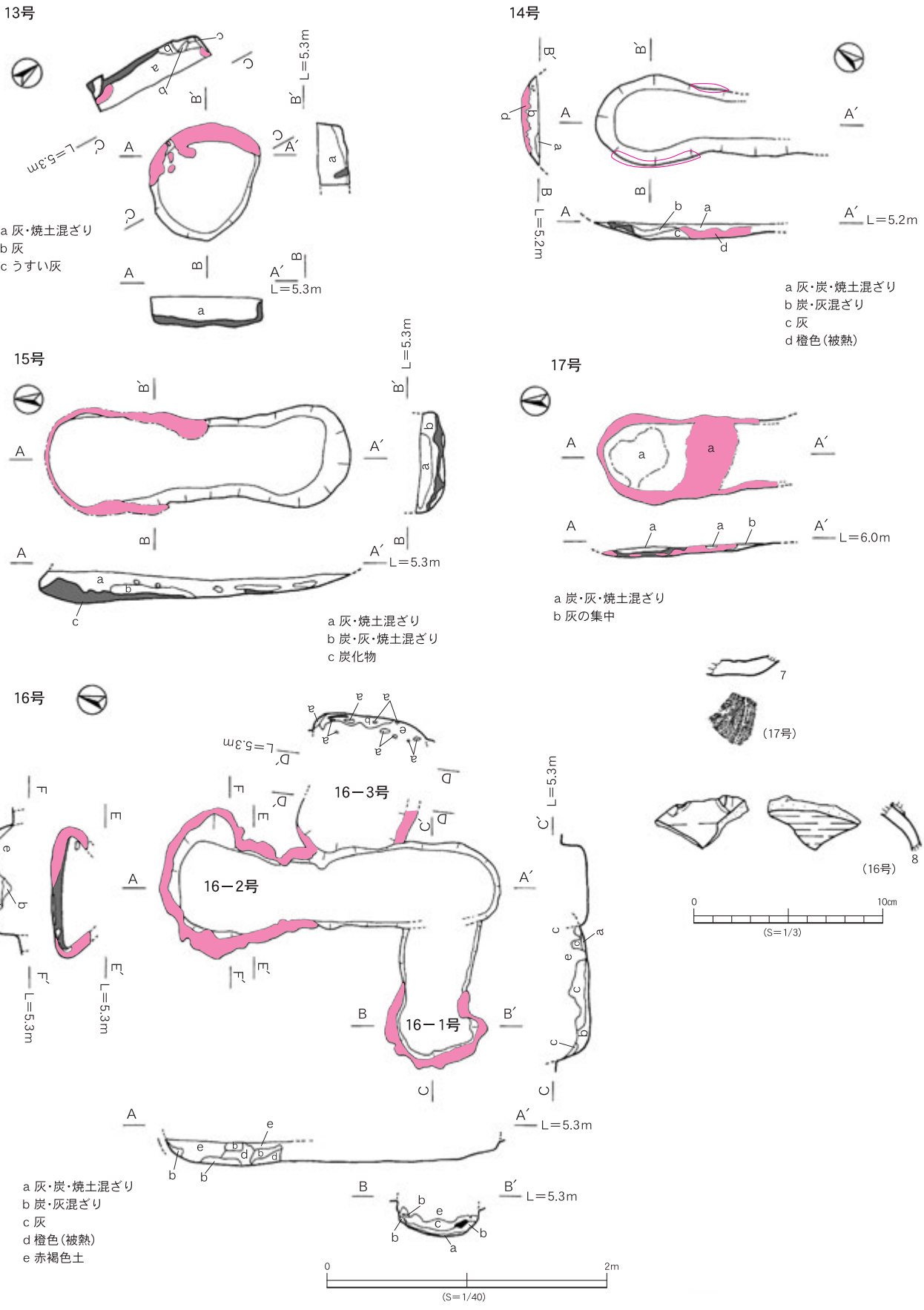
熱で堅くなっており礫等の使用はない。燃焼部の外の西側に炉壁の上部が崩落した粘土塊がひろがっていた。燃焼部の中には黒褐色の埋土がみられる。検出面から約8cm下にある中央の床面は硬化しているが，炭化物等の出土はみられなかった。遺構から白磁碗の底部が出土した。

12号炉状遺構（第113図）

M-9区のⅢa′層において検出された。この炉状遺構のみ他の遺構と形態が異なり，直径95cmの円形を呈する。炉状ではあるが，焚き口や煙道が見られない。被熱により硬化した橙色の炉壁がリング状に囲み，中央部が窪んでいる。検出面から約12cm下にある中央の床面は硬化しており，その上に黒褐色でわずかに炭を含む埋土がみられる。埋土中から弥生土器の口縁部が1個出土したが，外部から入り込んだものであると考えられる。炉壁の上部が崩落したと思われる粘土塊，まとまった炭化物や鉄滓や鍛造剥片等の金属質剥片も確認されなかった。

13号炉状遺構（第114図）

P-6区のⅡ層において検出された。検出面以上が削平されており，燃焼部を構成するオレンジ色の炉壁の一部のみが残っている。燃焼部の推定直径は87cm。


13号
a 灰・焼土混ざり
b 灰
c うすい灰
14号
a 灰・炭・焼土混ざり
b 炭・灰混ざり
c 灰
d 橙色（被熱）
15号
a 灰・焼土混ざり
b 炭・灰・焼土混ざり
c 炭化物
17号
a 炭・灰・焼土混ざり
b 灰の集中
16号
16－3号
16－2号
16－1号
a 灰・炭・焼土混ざり
b 炭・灰混ざり
c 灰
d 橙色（被熱）
e 赤褐色土
(17号)
(16号)
(S=1/3)
(S=1/40)

第114 図　炉状遺構⑤

14号炉状遺構（第114図）

Ｐ-６区のⅡ層において検出された。検出時に上部の殆どが削平されており，燃焼部と掻き出し部の一部がわずかに残っている程度である。燃焼部は橙色でＣ字状の炉壁を持ち，大きさは85㎝×72㎝である。床面は硬化せず，埋土は概ねレンズ状の堆積を見る。

15号炉状遺構（第114図）

Ｐ-６区のⅡ層において検出された。主軸はほぼ南北である。燃焼部は橙色でＣ字状の炉壁を持ち，プランは90㎝×76㎝である。床面には炭化物層が奥に行くほど厚く堆積しており，最大で13㎝を測る。その上に崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊や，炭化物の混ざった灰褐色土がある。煙道は確認できない。焚き口に続いて灰や炭を掻き出したと思われる広がりが南側に付設されている。大きさは130㎝×73㎝である。

16号炉状遺構（第114図）

Ｐ-６区のⅢa層の上面において検出された。検出面以上が削平されており，上部構造はわからない。検出時より16-１(Ｅ）と16-３(Ｇ)が16-２(Ｆ)によって切られており，16-２（Ｆ）が一番後に使用されたのがわかるが，16-１(Ｅ）と16-３(Ｇ)の新旧関係は確認することができなかった。16-２号の主軸はほぼ南北であり，16-１号・16-３号の主軸は並行しておりほぼ東西である。

ア　16-１号

16-２号により掻き出し部の約半分が切られている。燃焼部は橙色でＣ字状の炉壁を持ち，プランは78㎝×73㎝である。埋土は炭化物や崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊を含む茶褐色土である。検出面よりより約23㎝下に床面があり，北側の一部が硬化している。掻き出し部の最大幅は55㎝で焚き口から約40㎝のところで切られている。

イ　16-２号

燃焼部は橙色でＣ字状の炉壁を持ち，プランは117㎝×90㎝である。内部の埋土は崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊や，炭化物の混ざった茶褐色土である。検出面より約25㎝下に床面があるが，硬化はみられない。また，焚き口より20㎝奥の炉壁の断面は，フラスコ状を呈しているのが明瞭に観察され，炭化物の層が床面の上に最大で5㎝堆積している。炭化物の堆積は奥にいくほど薄くなり，炉壁は床面に近づくほど薄くなっている。焚き口より南側に向かって掻き出し部が楕円状に拡がる。プランは165㎝×63㎝である。埋土は粘土塊や，炭化物の混ざった茶褐色土で，分層はできなかった。約1,5㎝の滑石片と耳壺と思われる白磁片(８)が遺構内より出土した。

ウ　16-３号

16-２号と削平により，レンガ色に変色した燃焼部の壁のごく一部分しか残っていない。埋土には炭化物や崩落した炉壁の一部と見られる粘土塊が混ざる。床面に硬化はみられない。推定される燃焼部の横幅は約80㎝である。

17号炉状遺構（第114図）

Ｑ-６区のⅡ層において検出された。検出時に上部の殆どが削平されており，基礎部がわずかに残っている程度である。主軸はほぼ南北であり，北側に炭化物がリング状にあり，その中に灰や焼土等が混ざった埋土が見られるため，ここにＣ字状の燃焼部があったと思われる。焚き口と思われる付近には崩落した炉壁の一部と見られる粘土がみられる。南側に灰が集中しているので，ここが掻き出し部であると思われる。掻き出し部の先端も削平されているのでプランは不明である。糸切り底の土師器(７)が床着で出土し，他に親指大の焼けた粘土塊が１点出土した。

18号炉状遺構（第115図）

Ｍ-９区のⅢa′層において検出されたもので，主軸方向がほぼ北西ー南東の長方形の土坑である。側面と下面が被熱によって赤色化している。埋土内には炭化物が多くみられたが，中央部にはほぼそのままの状態の炭化木が残存していた。大きさは66×36㎝で，検出面からの深さは５㎝である。西側の角付近は，ピット（イコウ3113）に切られている。

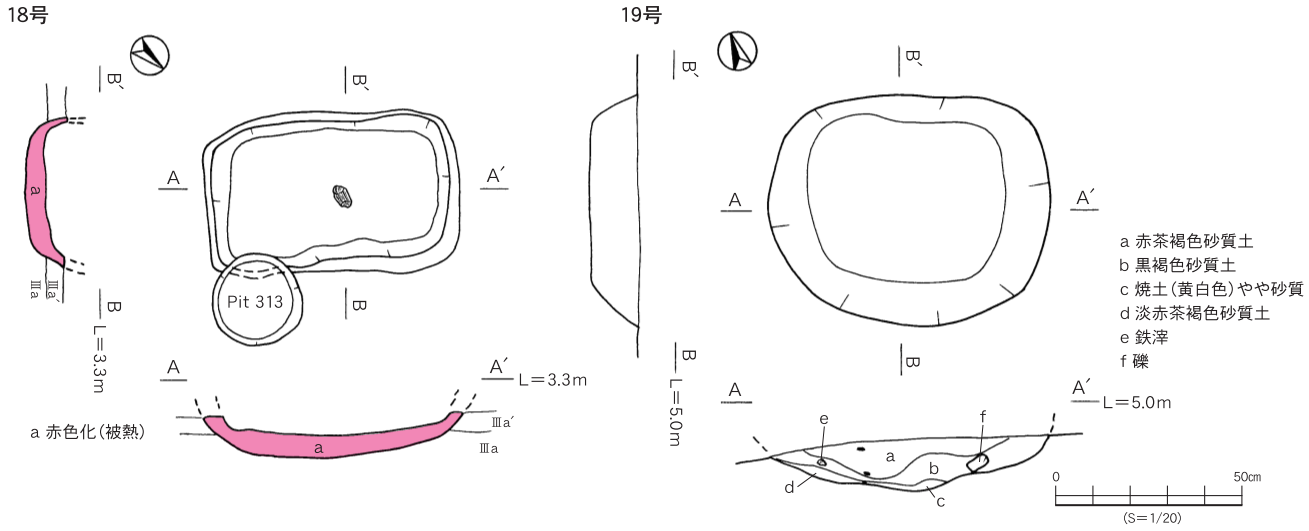
19号炉状遺構（第115図）

Ｏ-５区において検出された。大きさは60×75㎝で，主軸方向がほぼ南北ー東西の方形である。埋土は全体的に砂質で概ねレンズ状堆積を見る。中に礫，炭化物，鉄滓，焼土粒を含む。壁面，底面及び遺構の周辺も熱を受けやや硬化している。

※８号・９号・10号の3基はお互いの距離が近く，軸がほぼ南北であり，焚き口が南を向いている。検出面の高さも概ね一致している。また3基とも燃焼部の右奥の壁に煙道の可能性のある穴があり，その中には炭化物や煤が多量に見られた。これらのことから同一時代か，極めて近い時期に使用されたと考えられる。

（４）土坑墓

18基の土坑墓が検出された。これらについては，人骨・副葬品などが発見されているものを中心とした。ただし，人骨が発見されず，明確に「墓」と断定できないものについても，土坑の形態の類似性から「墓」の可能性のあ



第115 図　炉状遺構⑥

あるものはここに含んだ。平面が長方形で深さ50㎝以下のものは基本的には「木棺墓」，平面形が円形あるいは方形で比較的掘り込みの深いものは「桶墓」とみられる。ただし，長方形でも掘り込みの深いものは「桶墓」である可能性がある。なお、土坑墓は頭にBをつけて，Ｂ１～B18としている。

１号土坑墓（第116図）

小型の土坑であるが，鉄製品が出土しているので，墓の可能性があるためここで取り上げた。

24は鉄器である。ヘラと考えられるが，用途不明である。

２号土坑墓（第116図）

不定形にみえるが，畝に切られているためである。骨が風化したとみられる乳灰白色粘土と炭化物が出土している。

３号土坑墓（第116図）

Ｃ-６区のⅡ層上面で，人骨が土壌化したとみられる粉状の白色土部分と粘質土部分が長さ90㎝，幅30㎝の範囲で検出された。もともとは土坑墓であった可能性があるが，人骨の痕跡のみの検出であるので明確でない。遺物の出土はなかった。

４号土坑墓（第116図）

Ｄ-５区のⅢａ´層上面で検出された。平面形は，ほぼ隅丸長方形を呈する。平面形が90×80㎝で，深さ190㎝の深い土坑である。底面から数㎝浮いた状態で完形の土師器小皿(２)が出土している。また，土師器皿も出土した。人骨の出土はみられなかったが，形態から桶墓の可能性の高いものとして取り上げた。

５号土坑墓（第116図）

Ｅ-２区のⅡ層上面で検出された。平面形は長方形で，遺構内からは釘が30～40本出土した。明確な人骨は検出されなかったが，人骨が土壌化したものとみられる白色の粘質土などが埋土中に混在していた。

６号土坑墓（第117図）

Ｆ-３区のⅡ層上面で検出された。平面形は長方形で，遺構内からは古銭の破片・土器片などが出土した。
人骨細片・人骨が土壌化したものとみられる白色の粘質土などが埋土中に混在していた。

７号土坑墓（第117図）

Ｆ-３区のⅡ層上面で検出された。平面形は長方形で，遺構内からは釘・土器などが出土した。明確な人骨は検出されなかったが，人骨が土壌化したものとみられる白色の粘質土などが埋土中に混在していた。

８号土坑墓（第117図）

Ｇ-７区で検出された。遺構内からは礫などが出土した。明確な人骨は検出されなかったが，人骨が土壌化したものとみられる白色の粘質土などが埋土中に混在していた。

９号土坑墓（第117図）

Ｈ-３区のⅡ層上面で検出された。平面形は長方形で，遺構内からは遺物の出土はなかった。明確な人骨は検出されなかったが，人骨が土壌化したものとみられる白色

表５　上水流遺跡　炉状遺構観察表

遺構番号	遺構名	区	検出層	主軸	燃焼部(cm)	掻き出し部(cm)	遺構内遺物	備考	形態
1号	D-6区カマド	D－6	Ⅱ	S63°E	138×84	不明	－	煙道,袖石の使用	C字形炉壁
2号	I-5区カマド	I－5	Ⅱ	N22°E	95×73	不明	土錘,チャートフレイク	－	C字形炉壁
3-1号	イコウ2582-1	I－8	大溝内	S13°E	107×95	162×110	－	ドーム状断面，礫の多用，粘土による目地	C字形炉壁
3-2号	イコウ2582-2	I－8	大溝内	N92°W	不明	不明	－	礫,軽石の多用,粘土による目地,切り合い	C字形炉壁
4号	イコウ2213	J－8	Ⅳ	N17°W	92×73	149×92	－	－	C字形炉壁
5号	イコウ2416	J－8・9	Ⅲa	N90°W	97×82	80×50	－	床面赤化	C字形炉壁
6号	イコウ1199	K－8	Ⅲa	N85°W	115×85	不明	－	床面半分硬化	C字形炉壁
7-1号	イコウ2210-1	K－8	Ⅲa	S8°W	102×92	175×87	青花,瓦質擂鉢	袖石の使用	C字形炉壁
7-2号	イコウ2210-2	K－8	Ⅲa	N71°W	不明	不明	－	切り合い	C字形炉壁？
8号	イコウ2185	K・L－7・8	Ⅲa'	N7°E	125×110	203×160	－	フラスコ状断面	C字形炉壁
9号	イコウ1889	K・L－7	Ⅲb	N31°E	115×60	95×70	染付	－	C字形炉壁
10号	イコウ1888	L－8	Ⅲb	N6°E	100×70	130×55	炭化種子	床面硬化	C字形炉壁
11号	イコウ1194	M－8・9	Ⅲa'	N85°E	100×85	不明	－	床面硬化	C字形炉壁？
12号	イコウ1193	M－9	Ⅲa'	－	95×94	なし	弥生土器	床面硬化	円形
13号	中世カマドA	P－6	Ⅱ	N70°W	直径約87	不明	－	－	C字形炉壁
14号	中世カマドB	P－6	Ⅱ	N37°W	85×72	不明	－	床面硬化	C字形炉壁
15号	中世カマドC	P－6	Ⅱ	N2°E	90×76	130×73	－	－	C字形炉壁
16-1号	中世カマドE	P－6	Ⅲa	N101°E	78×73	不明	－	切り合い	C字形炉壁
16-2号	中世カマドF	P－6	Ⅲa	N9°E	117×90	165×63	白磁,滑石	フラスコ状断面	C字形炉壁
16-3号	中世カマドG	P－6	Ⅲa	N89°E	直径約80	不明	－	切り合い	C字形炉壁？
17号	中世カマドD	Q－6	Ⅱ	N6°E	不明	不明	土師器(床着),粘土塊	－	C字形炉壁
18号	イコウ3073	M－6	Ⅲa'	N45°W	66×36	－	－	囲炉裏か？	長方形
19号	近世焼土遺構	O－5	Ⅲa'	N30°W	60×75	－	礫,炭化物	囲炉裏か？	長方形



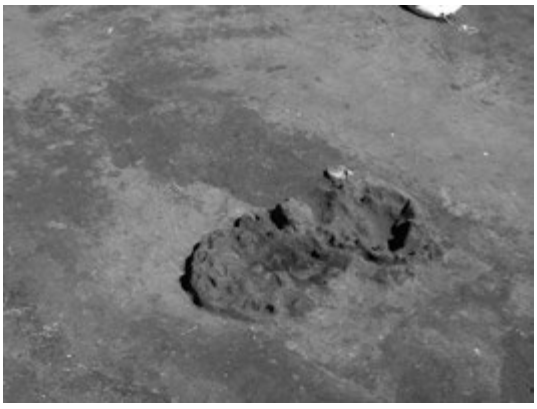
1号



3－1号



3－1号 燃焼部礫配置

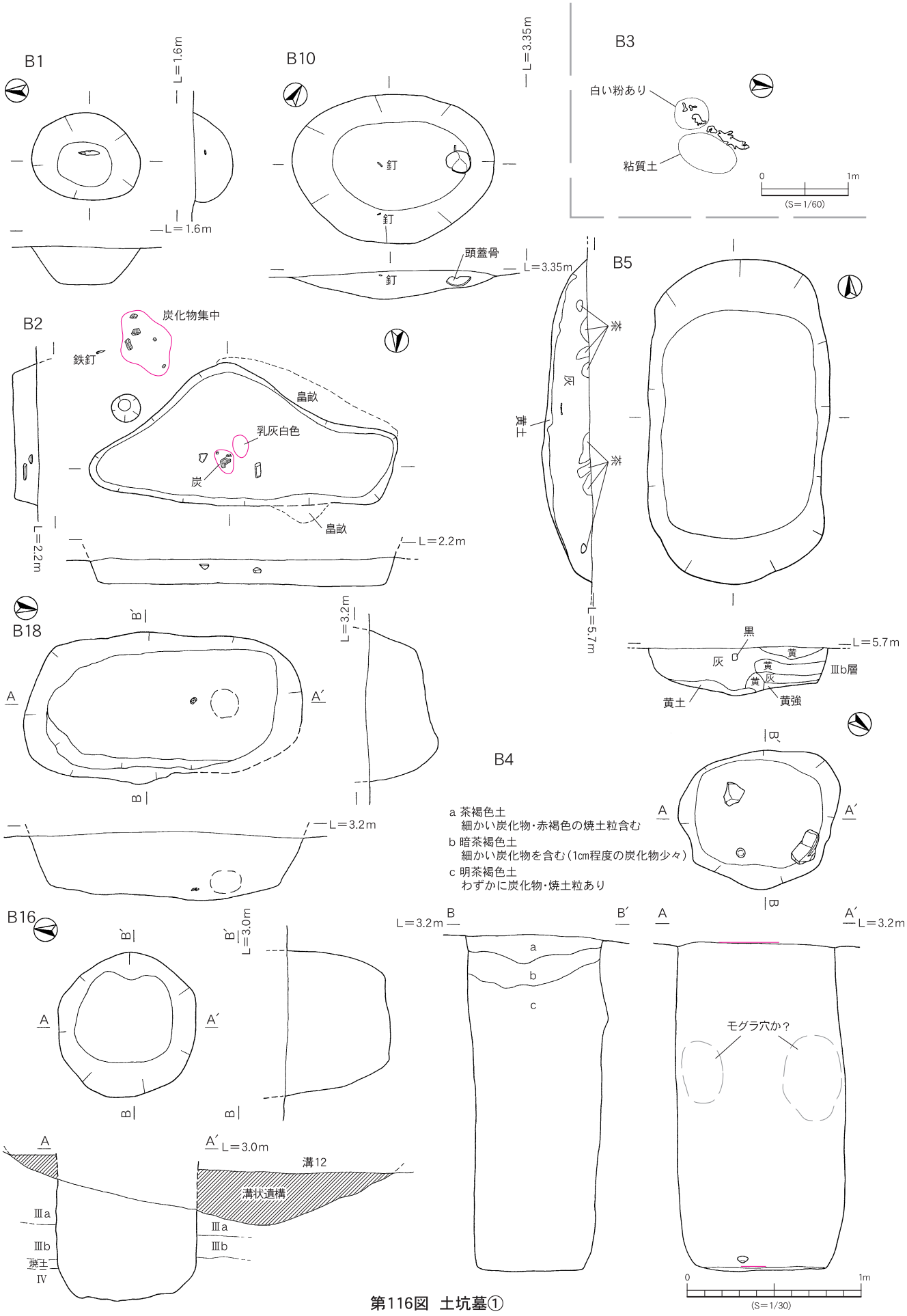


7号

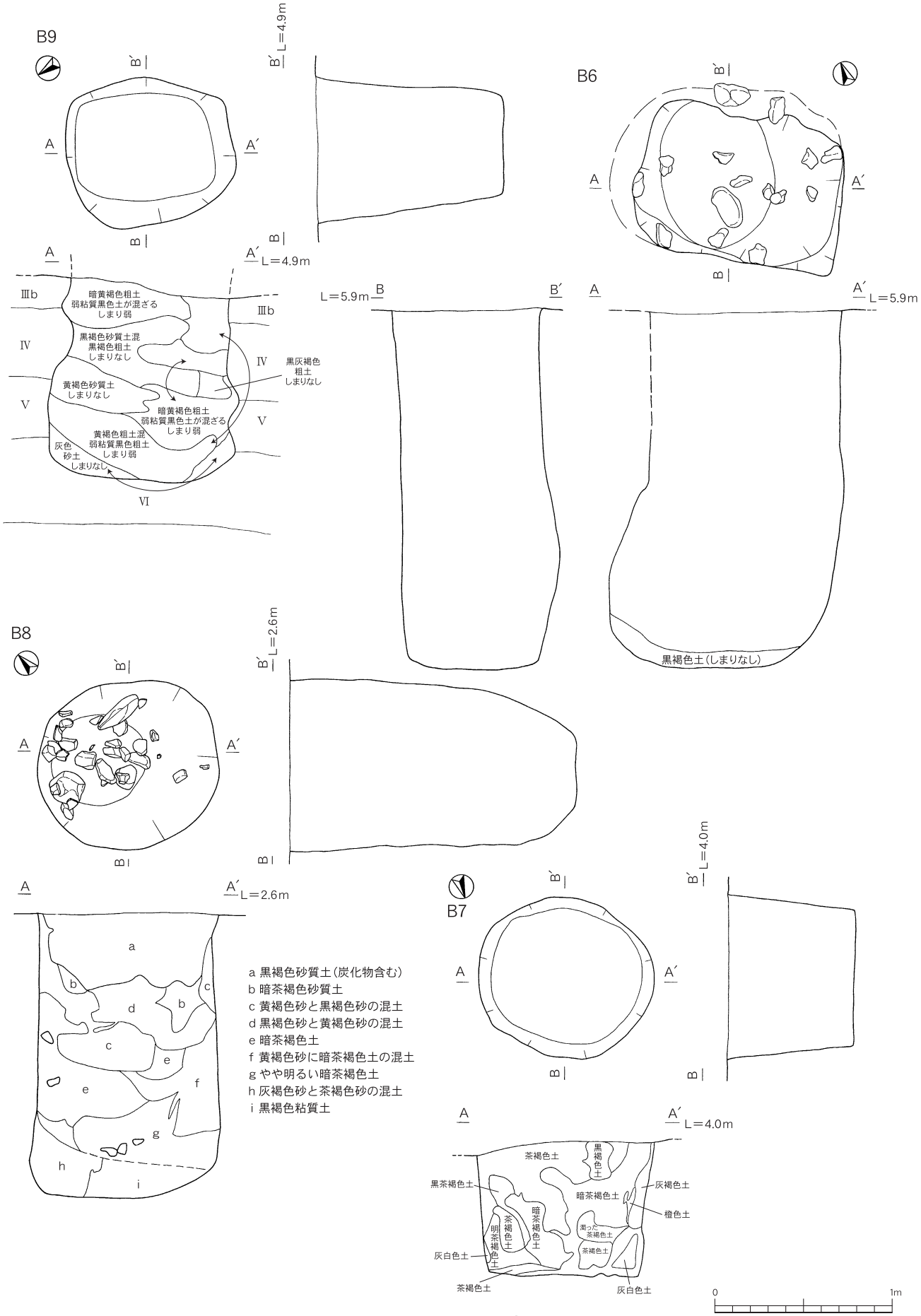


12号

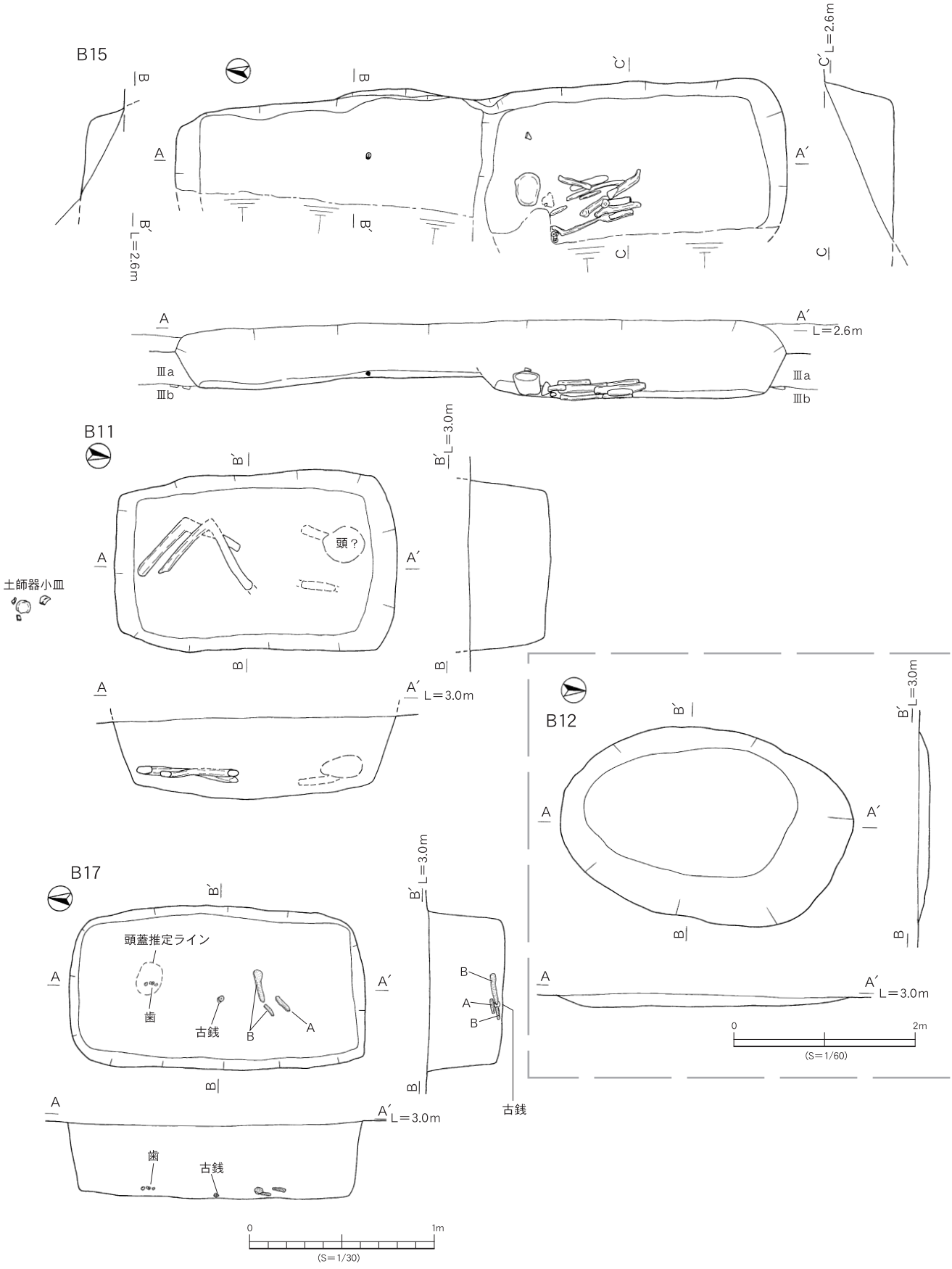
図版33　炉状遺構検出状況


B1
L=1.6m
L=1.6m
B10
L=3.35m
釘
釘
釘
頭蓋骨
L=3.35m
B3
白い粉あり
粘質土
0
1m
(S=1/60)
B2
炭化物集中
鉄釘
畠畝
乳灰白色
炭
畠畝
L=2.2m
L=2.2m
B5
淋
灰
黒土
淋
L=5.7m
黒
灰
黄
黄
灰
黄
黄土
黄強
L=5.7m
Ⅲb層
B18
B
B
A
A′
L=3.2m
L=3.2m
B4
a 茶褐色土
細かい炭化物・赤褐色の焼土粒含む
b 暗茶褐色土
細かい炭化物を含む(1㎝程度の炭化物少々)
c 明茶褐色土
わずかに炭化物・焼土粒あり
B
B
A
A′
B16
B
B
A
A′
B
B
L=3.0m
A
A′
L=3.0m
溝12
溝状遺構
Ⅲa
Ⅲb
焼土
Ⅳ
Ⅲa
Ⅲb
L=3.2m
B
B′
A
A′
L=3.2m
a
b
c
モグラ穴か？
0
1m
(S=1/30)

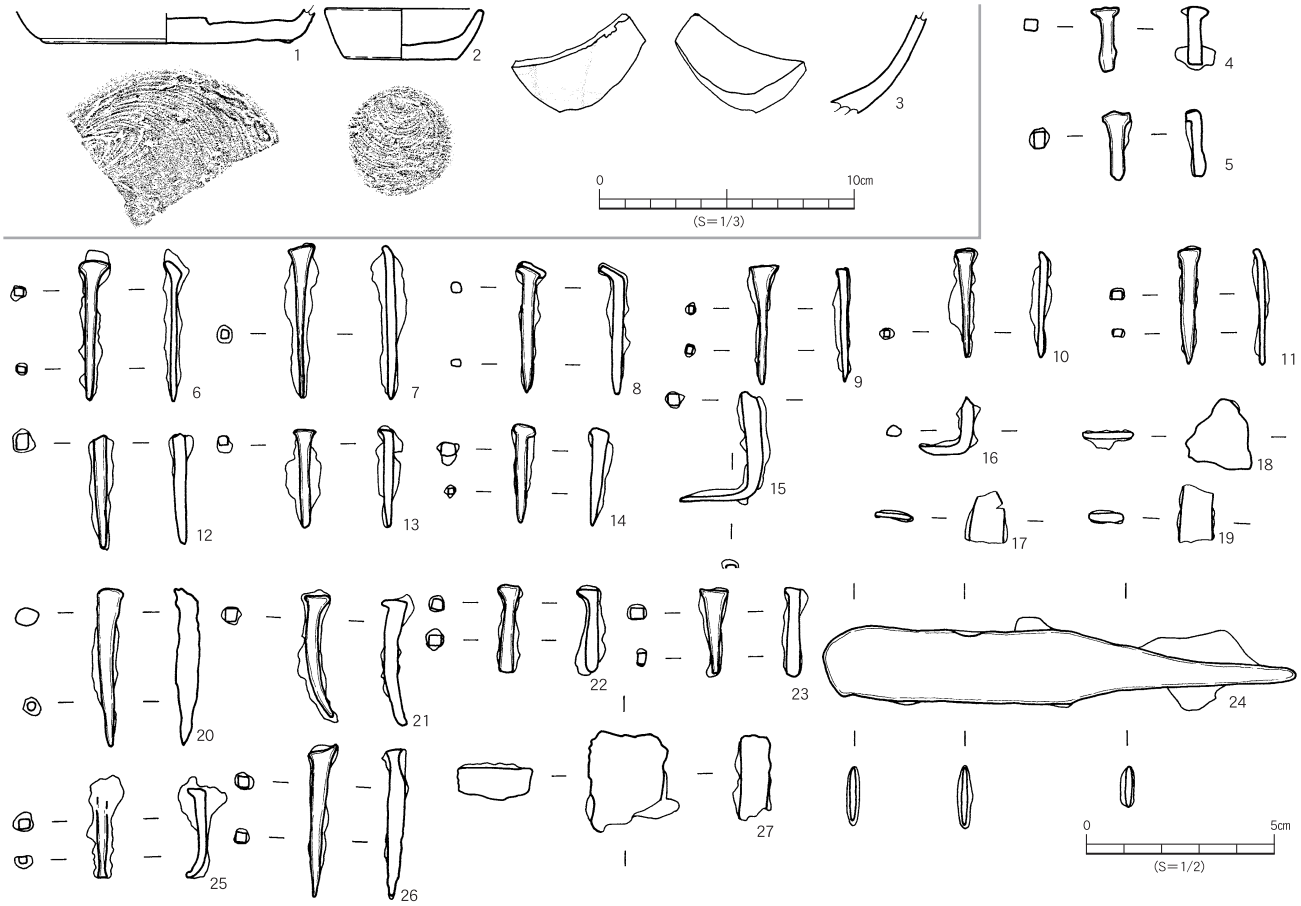
第116図　土坑墓①


B9
B´
A
A´
B
B´ L=4.9m
A
A´ L=4.9m
Ⅲb
暗黄褐色粗土
弱粘質黒色土が混ざる
しまり弱
Ⅲb
Ⅳ
黒褐色砂質土混
黒褐色粗土
しまりなし
Ⅳ
黒灰褐色
粗土
しまりなし
黄褐色砂質土
しまりなし
Ⅴ
暗黄褐色粗土
弱粘質黒色土が混ざる
しまり弱
Ⅴ
黄褐色粗土混
弱粘質黒色粗土
しまり弱
灰色
砂土
しまりなし
Ⅵ
B6
B´
A
A´
B
L=5.9m B B´
A A´ L=5.9m
黒褐色土(しまりなし)
B8
B´
A
A´
B
B´ L=2.6m
A
A´ L=2.6m
a
b
c
d
b
c
e
e
f
g
h
i
a 黒褐色砂質土(炭化物含む)
b 暗茶褐色砂質土
c 黄褐色砂と黒褐色砂の混土
d 黒褐色砂と黄褐色砂の混土
e 暗茶褐色土
f 黄褐色砂に暗茶褐色土の混土
g やや明るい暗茶褐色土
h 灰褐色砂と茶褐色砂の混土
i 黒褐色粘質土
B7
B´
A
A´
B
B´ L=4.0m
A
A´ L=4.0m
茶褐色土
黒褐色土
黒茶褐色土
灰褐色土
暗茶褐色土
橙色土
茶褐色土
暗茶褐色土
明茶褐色土
灰白色土
灰白色土
茶褐色土
茶褐色土
灰白色土
0
1m
(S=1/30)

第117図 土坑墓②


B15
B
B´
C
C´
A
A´
L=2.6m
Ⅲa
Ⅲb
B11
頭？
L=3.0m
土師器小皿
B12
B17
頭蓋推定ライン
歯
古銭
0
1m
(S=1/30)
2m
(S=1/60)

第118図　土坑墓③



第119図　土坑墓出土遺物実測図

の粘質土などが埋土中の上部にみられた。

10号土坑墓（第116図）

H-６区のⅢa′層上面で検出された。平面形はほぼ長楕円形状を呈している。釘・頭骨が出土した。頭骨は北側で発見されている。頭骨の横には板が見つかっており，木棺の痕跡である可能性がある。釘は，検出面付近で２点出土した。

11号土坑墓（第118図）

K－８区のⅢａ層上面で検出された。釘，頭部の痕跡，四肢骨などが出土した。痕跡とみられる白色の硬化した部分を取り上げて後日クリーニングを行ったところ，脳頭蓋の右半分の残存が確認された。特に下顎は良好な残存状態である。骨は四肢骨であると考えられ，残りは悪いが大腿・脛骨・腓骨などの脚部の骨である可能性が高い。検出状況から，膝を曲げた状態で埋葬されたとみられる。西向き合掌葬であろうか。釘は，検出面から底面付近までおよそ100点が出土した。古銭は出土していない。遺構と直接関係ない可能性もあるが，遺構から60㎝南で小師器小皿が出土している。

12号土坑墓（第118図）

他の土坑墓よりもひとまわり大きい。青磁碗（第119図３）が出土した。人骨などは確認されていない。

13号土坑墓（第122図）

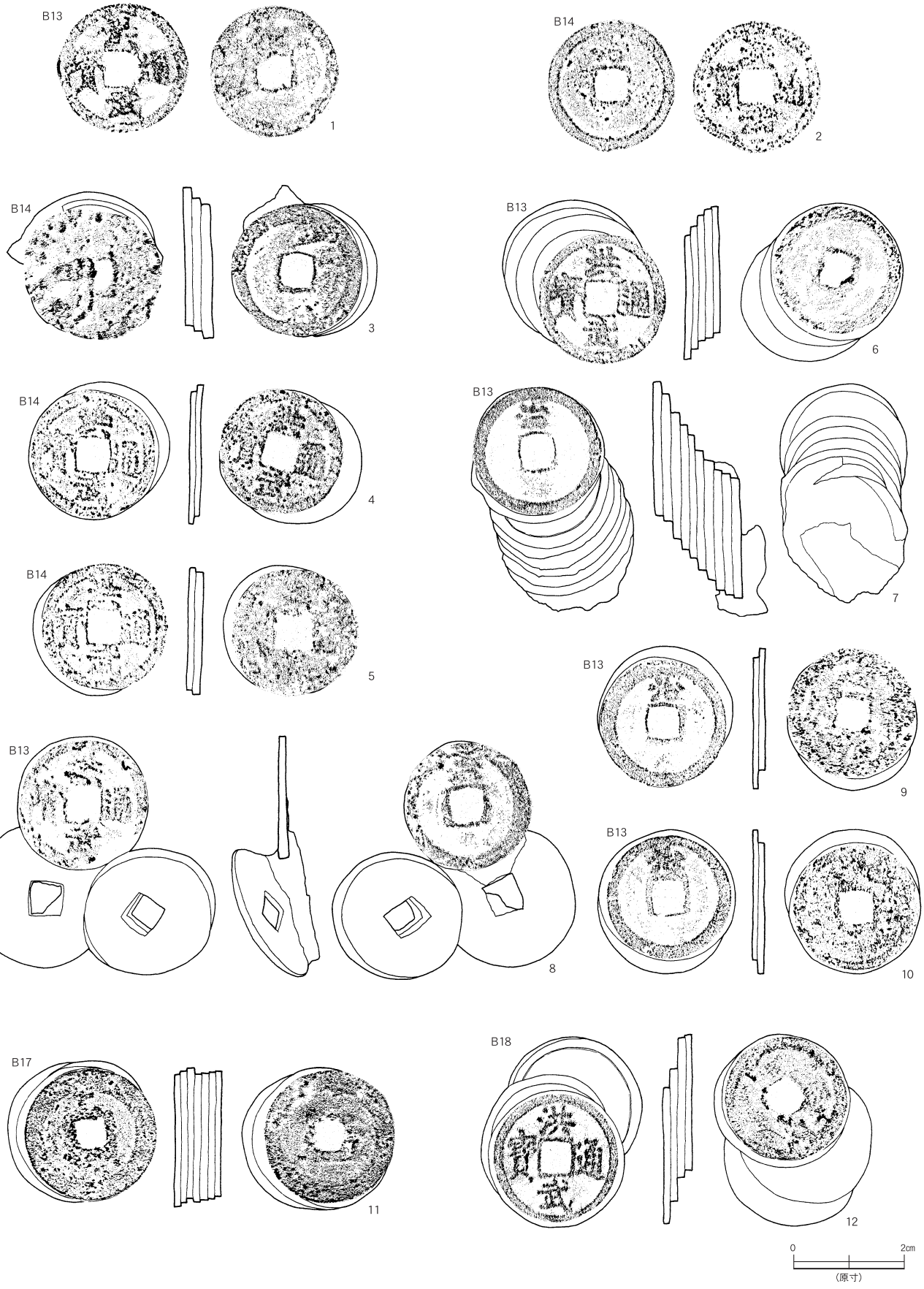
M-９区のⅢａ′層上面で検出された。ただし，検出した時点ですでに底面のみになっていたため，おおよその平面形しかつかめなかった。深さは不明である。

古銭が24枚（第120図 6～10）・釘（第119図 4～19）が出土した。古銭は数枚重なった状態のものが５つあり，洪武通寶の加治木銭が表にみえるものがあるが，重なりをばらしていないので中は確認していない。

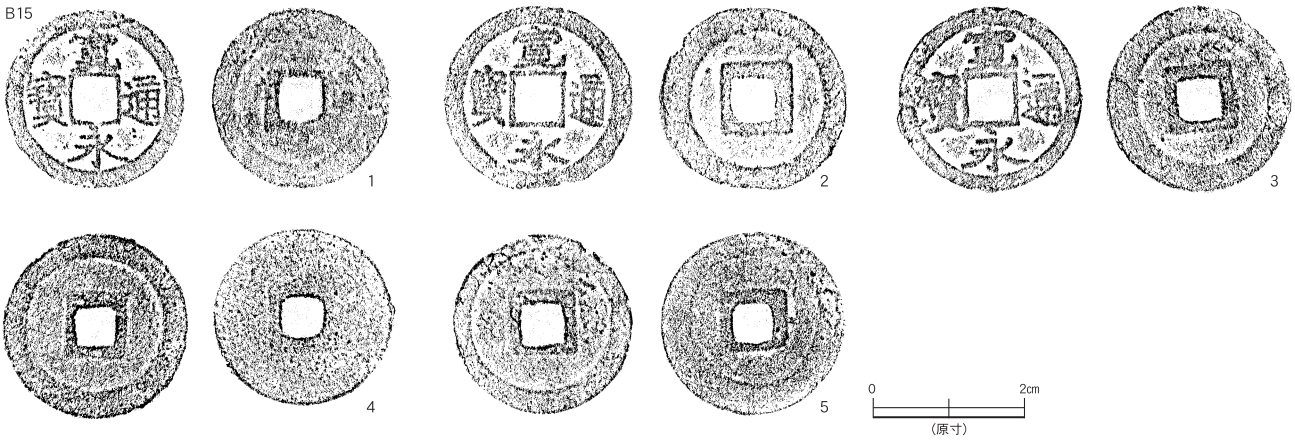
14号土坑墓（第122図・206図）

M-９区のⅢａ′層上面で検出された。

古銭が８枚（第120図 2～５）・釘（第119図 20～23・



第120図　土坑墓出土古銭①



第121図　土坑墓出土古銭②

25・26）が出土した。古銭は洪武通寶の加治木銭が表にみえるが，中は確認していない。

15号土坑墓（第118図）

M-９区のⅢａ′層上面で検出された。西側は，昭和初期の河川工事によって切られている。一見するとひとつの遺構にみえるが，底面の状況から２基の切り合いであることが理解される。北側土坑を南側土坑が切っており，かつどちらからも古銭が出土している。このうち南側土坑からは人骨が発見されている。

膝を強く曲げたきつめの屈葬であり，埋葬姿勢からみると中世的である。ただし，副葬されていた古銭は寛永通寶であるので，時期は近世である。当遺跡で発見された人骨の中では，比較的残存状況がよく，四肢骨などはある程度特定が可能である。また，頭部の保存も比較的良く，右半分が残っている。

南側土坑の古銭は，頭部付近の底面からわずかに浮いた状態で寛永通寶３枚（第121図　1～3・5）が出土し，紐が付着している。また２枚重ねでもう一組出土したが，上下ともに裏面を向いた状態であるので，詳細は不明である。出土頭部の下に古銭を置いた可能性がある。

北側土坑からは，古銭のみの出土であった。古銭は３枚重なって出土したが，上下ともに裏面を向いた状態であるので詳細は不明である（第121図 1～４）。

土坑墓 b16（第116図）

N-８区の溝12の底面で発見された。骨や遺物などは確認されてない。他の土坑墓と比較して，比較的深さが浅い。ここでは形態の類似性から土坑墓としてとりあげたが，墓ではない可能性もあることを付記しておく。

17号土坑墓（第118図）

O-７・８区のⅢａ′層上面で検出された。釘・古銭・歯・四肢骨が底面付近で出土した。頭骨は残っていなかったが，痕跡とみられる白色の硬化した部分が発見された。その中に，歯が残っていた。骨は四肢骨であると考えられ，残りは悪いが大腿・脛骨・腓骨などの脚部の骨である可能性が高い。

遺構中からは古銭も出土した。紐が付着しており，床面から７枚重なった状態で出土した。この古銭は上下とも裏面を向いているので詳細は不明である。

18号土坑墓（第116図）

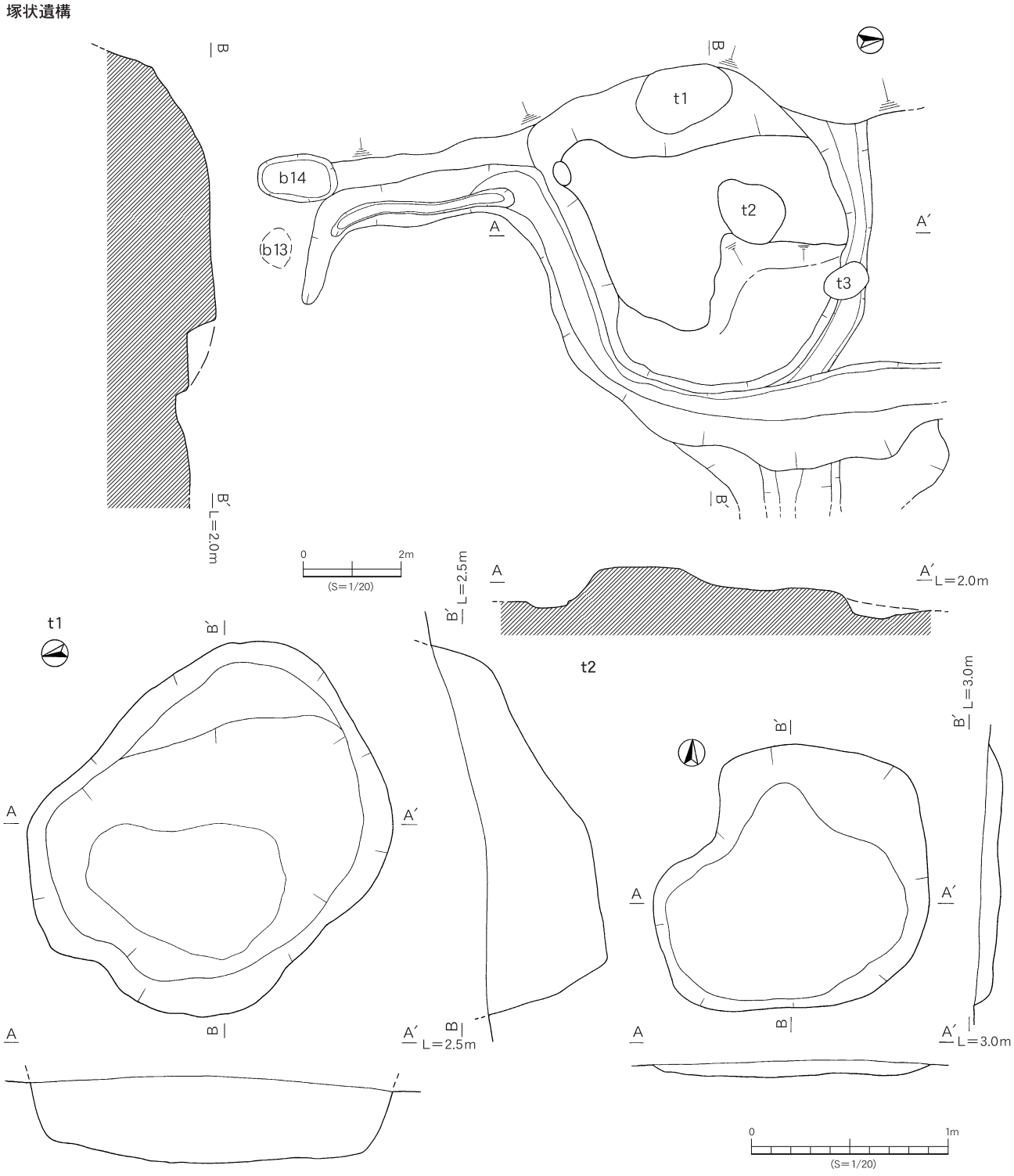
O-９区のⅢａ′層上面で検出された。検出面には炭化物がわずかにみられたが，埋土中にはみられなかった。古銭・頭部の痕跡が発見された。痕跡とみられる白色の硬化した部分を取り上げて後日クリーニングを行ったところ，右側頭部の残存が確認された。古銭は洪武通寶が４枚重なった状態で，底面から少し浮いて検出された。洪武通寶は加治木銭である。

（５）　塚状遺構及び関連遺構（第122図）

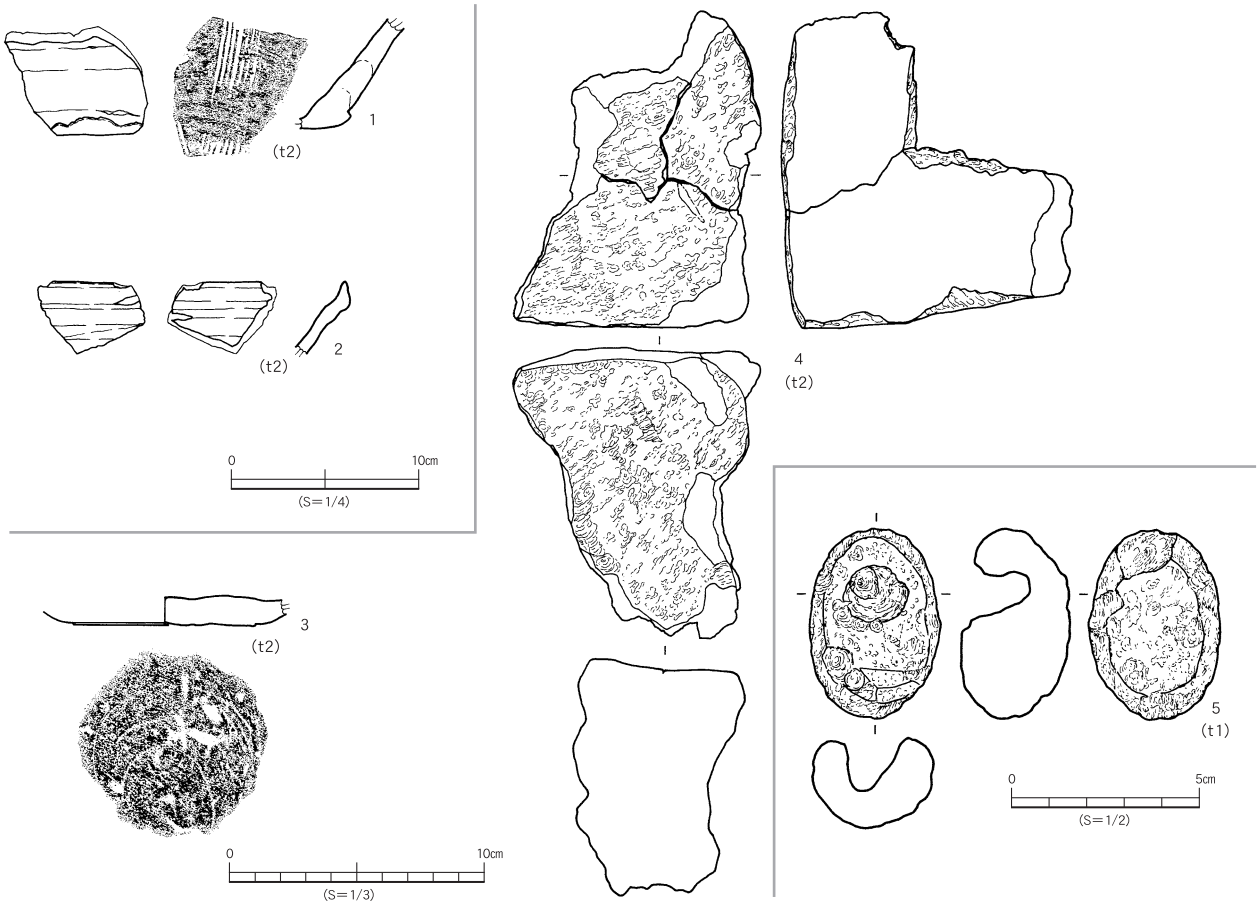
塚状遺構はM･N－９･10区で発見された。重機によって表土を除去する際に周辺と土の硬さや色調の違いがみられたので精査を行ったところ発見された。ただし，重機による表土除去はある程度進んでいたため，若干破壊してしまった部分がある。また，本来はもっと高さがあったと考えられる。形状は，周辺から盛り上がった部分とその周りに巡る溝状遺構からなる。また，塚の頂上と溝の周辺には，土坑（ｔ－１･２･３）及び土坑墓ｂ13･ｂ14が確認された。

ｔ－１は，Ｎ－９・10区の塚状遺構上の西側で検出された。軽石製品が出土している（第123図５）。

ｔ－２は，Ｎ－９区の塚状遺構上ほぼ中央で検出された。備前焼の擂鉢，東播磨系須恵器片口鉢，軽石製品が出土している（第123図１・２・４）。



第122図　塚状遺構及び関連遺構



第123図　　塚状遺構出土遺物実測図

ｔ-３は，溝14を切った状態で塚状遺構の北東側で検出された。糸切り底部の土師器坏が出土している。ピットの可能性があることも付記しておく。

（５）　大型土坑

大型土坑１（第124図・126図）

Ｐ・Ｑ・Ｒ-５区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，19m×5.1mで深さは検出面から1.6mであった。西側から礫が入り込んでいる状況が観察される。鉄溝６につながっている。遺構の一部は，確認調査時のトレンチに切られている。また，遺構の東側隅の上部には，古道とみられる帯状硬化面がみられる。遺構がある程度埋まった時点で，遺構の隅を通路として使用していた可能性がある。Ｐ～Ｔ-５区付近では溝状になっている。青磁・青花・東播磨系須恵器片口鉢などとともに，鉄器と不明銅器が出土している。

17・18は薩摩焼である。17は，内面に同心円状のあて具跡痕が残る。底部外面に目跡がある。18は，片口の注ぎ部である。口縁部は端部で外側に折り，さらに内側に折り返して丸くおさめる。口縁部直下に，半円形の粘土板を貼り付けて注ぎ口をつくる。内面から横方向の切れ込みを入れ，切り口の下部分は外側に，上部分は外側上方に折り曲げて接合する。片口外面には貼り付ける際のナデつけた痕が残る。口唇部には貝目が残る。

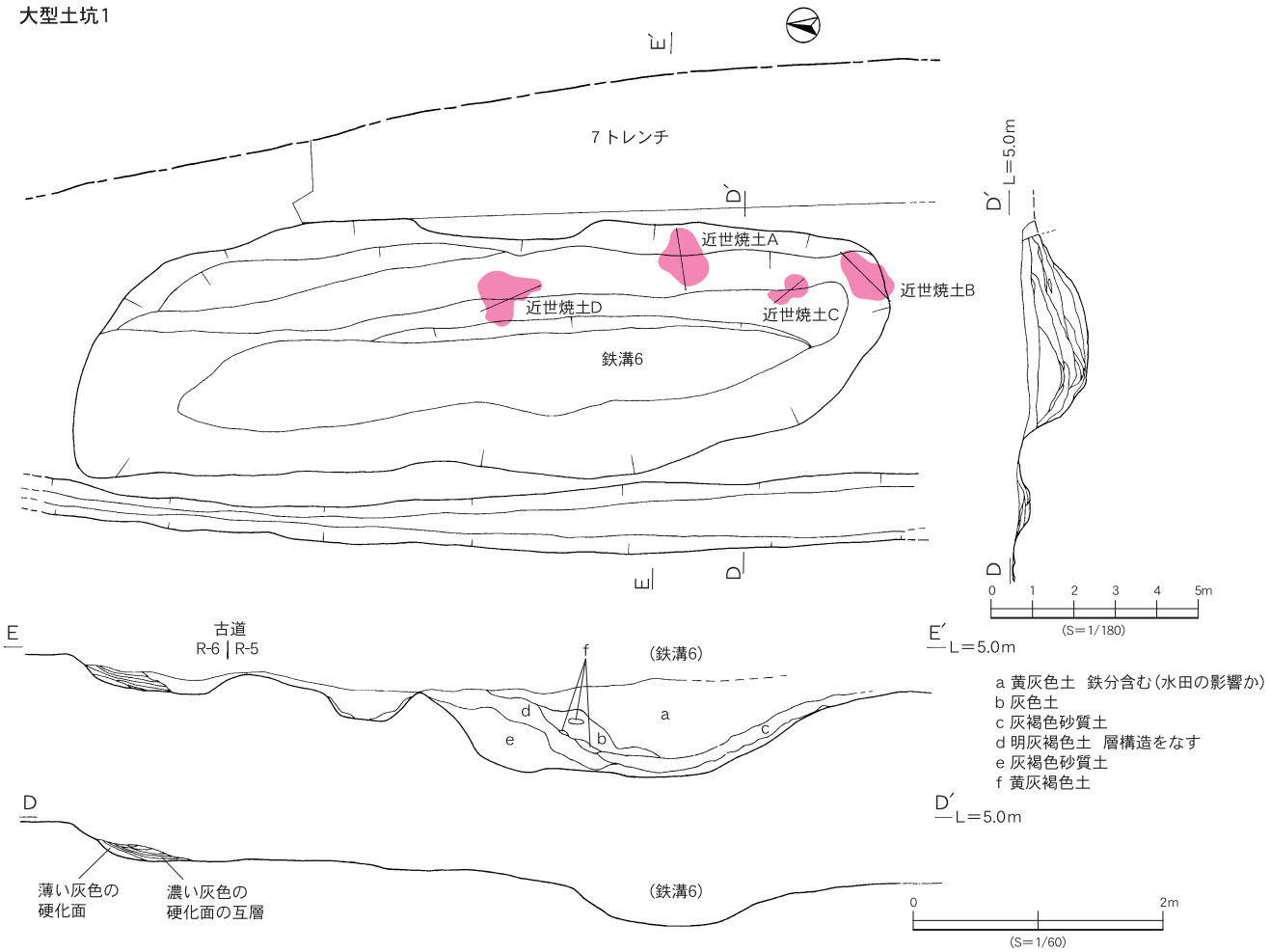
大型土坑２（第125図・127図）

Ｎ・Ｏ-６・７区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，8.8m×9.44mで深さは検出面から1mであった。遺構北側には，上り下り用とみられる階段状の施設がみられる。遺構内からは，礫・土器・陶器等が出土した。これらは南側から流れ込んだような状況で検出されているので，徐々に埋まっていったというよりも，何らかの作用でいっきに埋まった可能性が高い。周辺に目を向けると，東側で溝９・10と大型土坑２はつながっていることが理解される。さらに，西側では溝1068とつながっていることが理解される。

26は，薩摩焼の擂鉢である。口縁部は外側に折り返して肥厚させ，２条の突帯をつくる。口縁部の端部がわずかに外反し，口唇部は幅広く平坦である。内面にナデ調整の痕が看取される。浅い擂り目を下位から上位へ施している。口唇部の釉は，拭き取られている。

大型土坑３（第125図・127図・128図）

Ｎ-７・８区で検出された。東半分をはじめに検出したが，当初はやや掘りすぎた状況で検出された。西半分については，東半分で遺構の続きがあることが認識され



第124図　大型土坑①



大型土坑4



大型土坑6

図版34　大型土坑検出状況

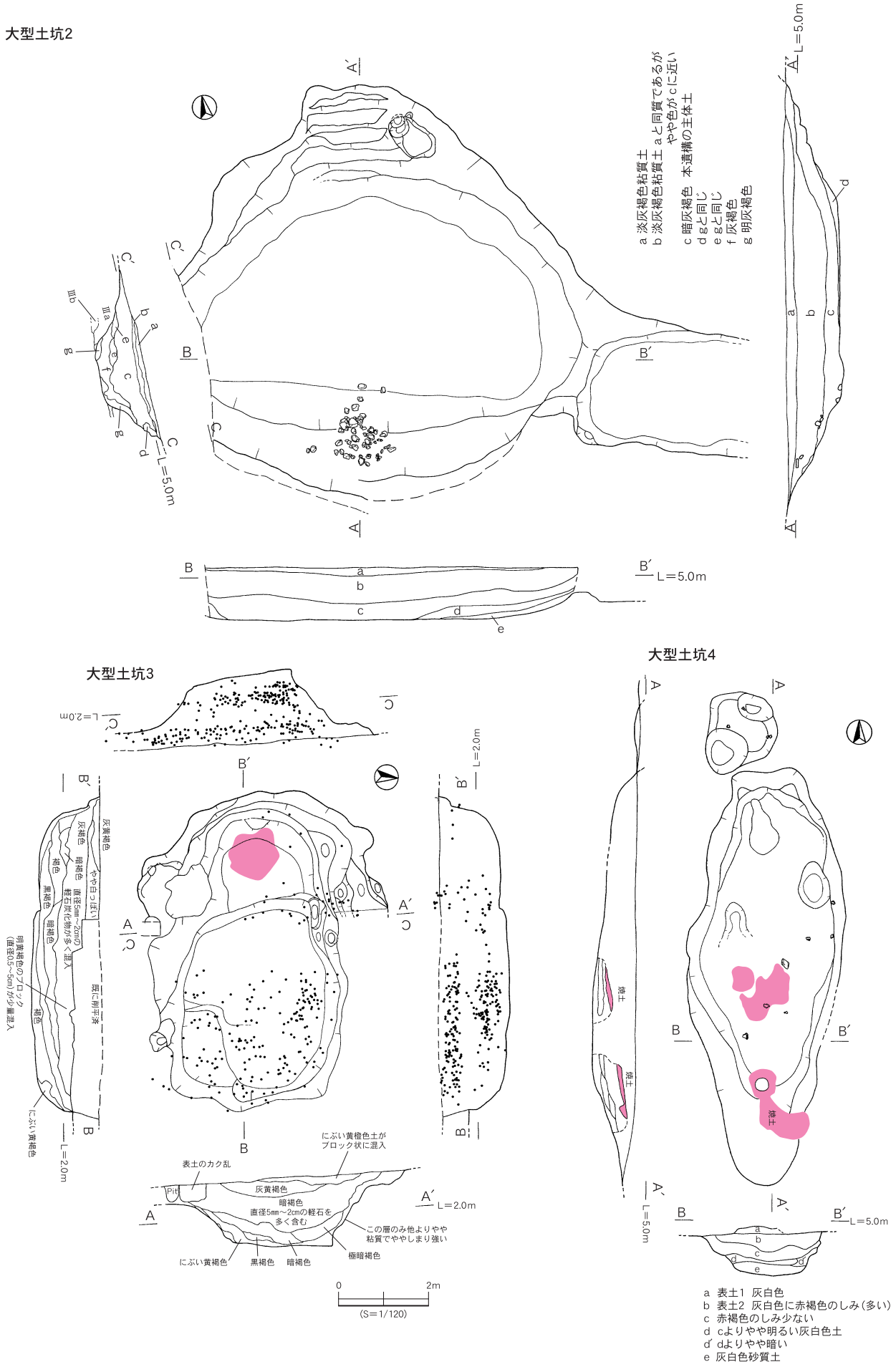
ていたため，比較的良好な状態で検出された。平面形は6.89m×5.4mで，底面の大きさが5.83m×3.5mである。また，底面はさらに東側に3.7m×3.5mの大きさでもう一段下がっている面がある。この部分での深さ1.6mである。特にここから礫と遺物が大量に出土した。これらの礫・遺物は北側から流れ込んだような状況で検出されているので，徐々に埋まっていったというよりも，短期間に一度に埋まった可能性が高い。これは，人為的なものである可能性がある。

底面の西側端には焼土が検出されている。遺構内で火を用いた何らかの行為を行っていたことが想定される。

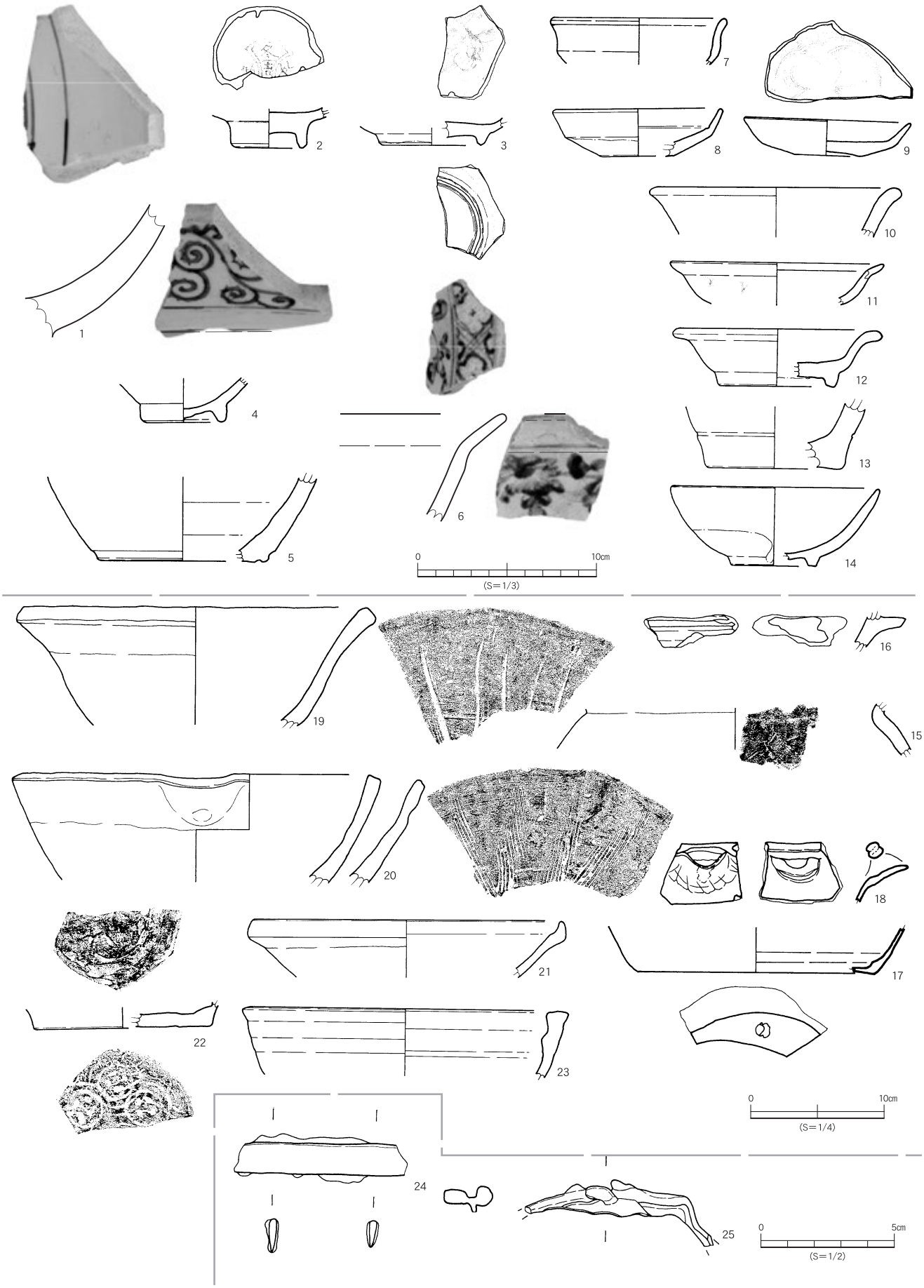
この遺構が埋まった後に，土坑114がつくられている。

永楽通寶（68）が発見されている。

ふいごの羽口が数点出土したので，そのうち３点（61・62・63）掲載した。66は板状に加工された用途不明の軽石である。また，古銭に棒状の鉄製品を曲げたものが

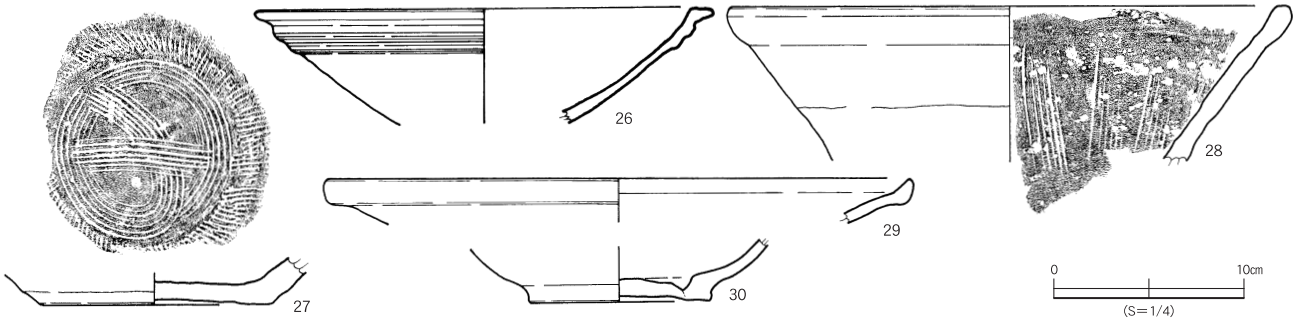

大型土坑2
大型土坑3
大型土坑4
a 淡灰褐色粘質土
b 淡灰褐色粘質土 a と同質であるが やや色が c に近い
c 暗灰褐色 本遺構の主体土
d gと同じ
e gと同じ
f 灰褐色
g 明灰褐色
L=5.0m
L=2.0m
表土のカク乱
Pit
灰黄褐色
暗褐色
直径5mm～2cmの軽石を多く含む
にぶい黄橙色土がブロック状に混入
この層のみ他よりやや粘質でややしまり強い
極暗褐色
にぶい黄褐色
黒褐色
暗褐色
0
2m
(S=1/120)
a 表土1 灰白色
b 表土2 灰白色に赤褐色のしみ(多い)
c 赤褐色のしみ少ない
d cよりやや明るい灰白色土
d' dよりやや暗い
e 灰白色砂質土

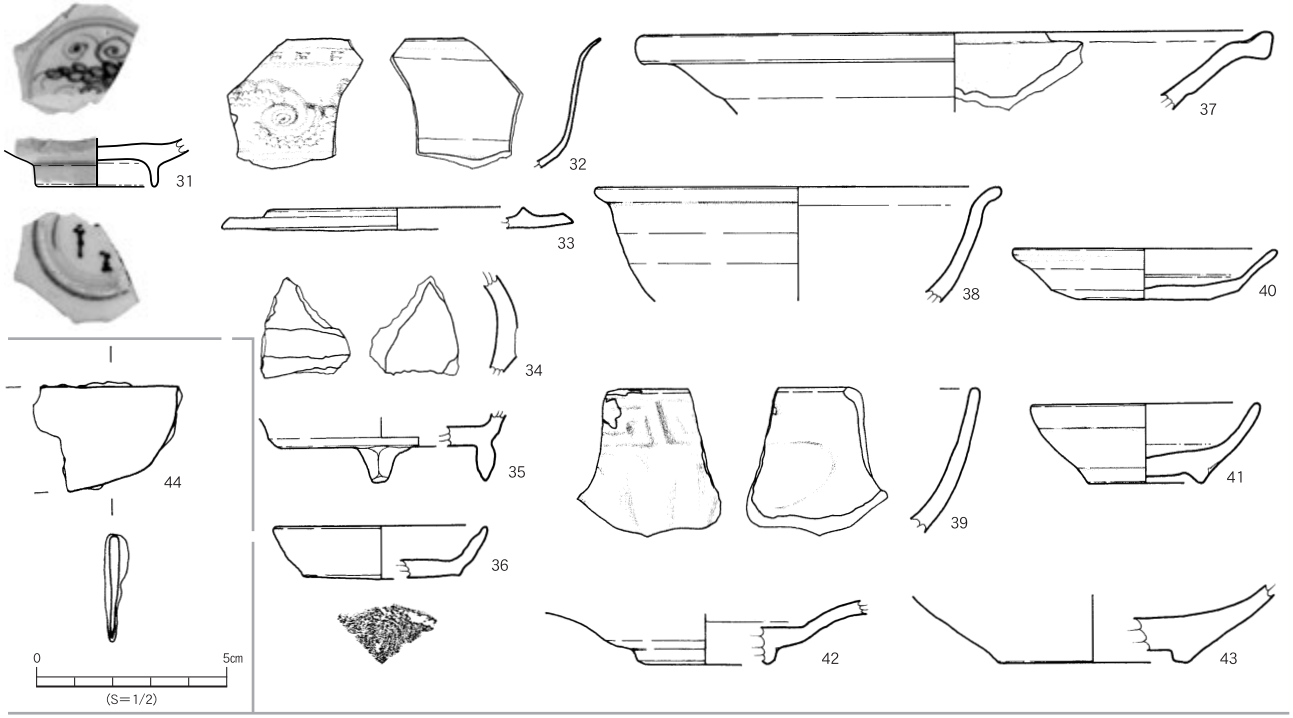
第125図　大型土坑②



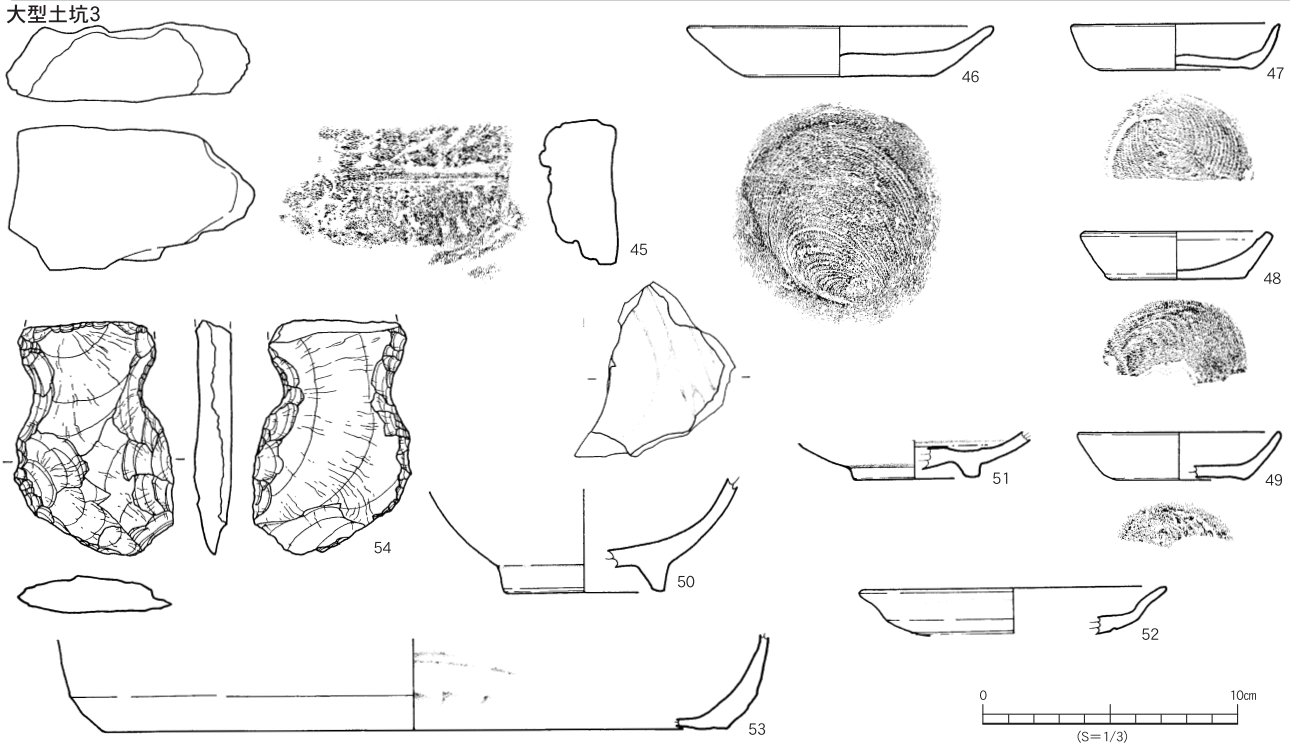
第126図　大型土坑出土遺物実測図①

大型土坑2



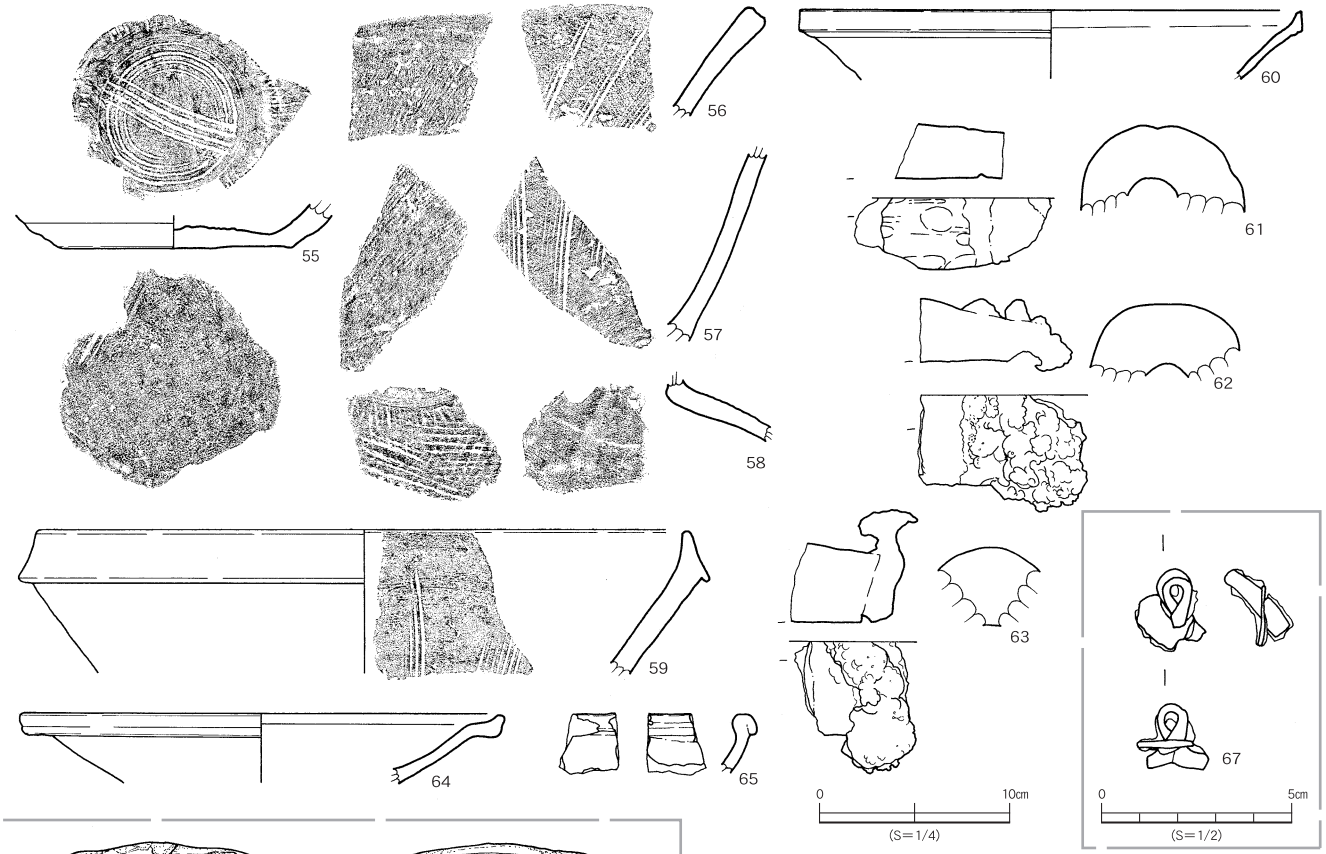


大型土坑3

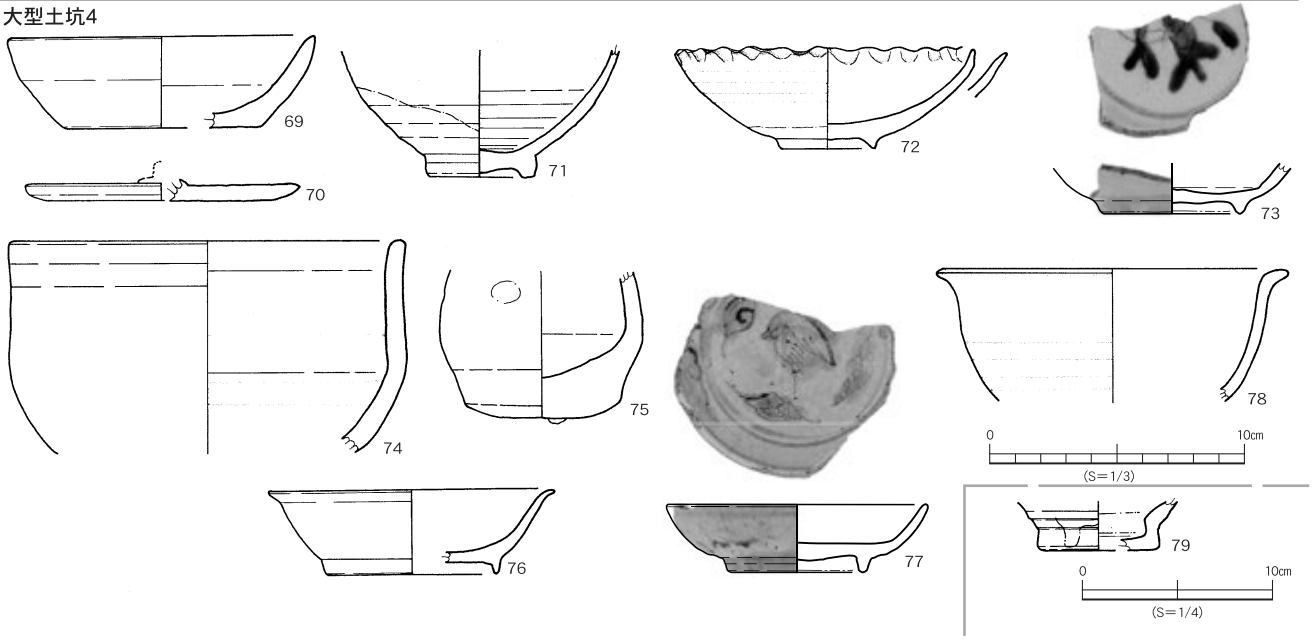


第127図　大型土坑出土遺物実測図②

大型土坑3



大型土坑4



第128図　大型土坑出土遺物実測図③



第129図　大型土坑③

穴にささった状態で出土した（67）。これらは，鉄器や銅製品の簡易的な加工が行われていた可能性を示す資料である。

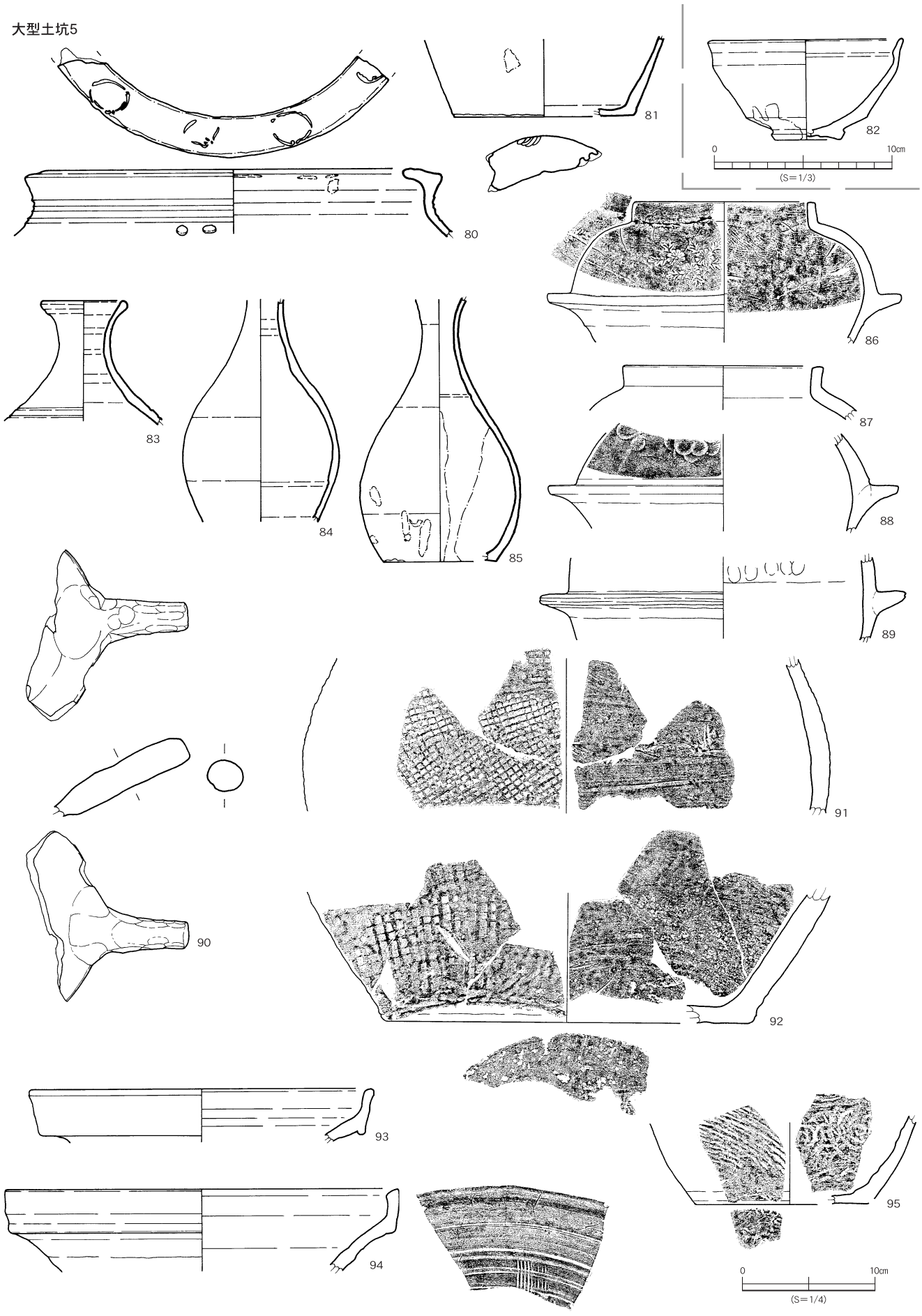
大型土坑４（第125図・128図）

Ｍ・Ｎ-５区でⅡ層およびⅢａ´層上面で検出された。平面プランは，7.7m×3.4mで深さは検出面から0.46mであった。検出面には中央付近で礫がまばらにみられた。

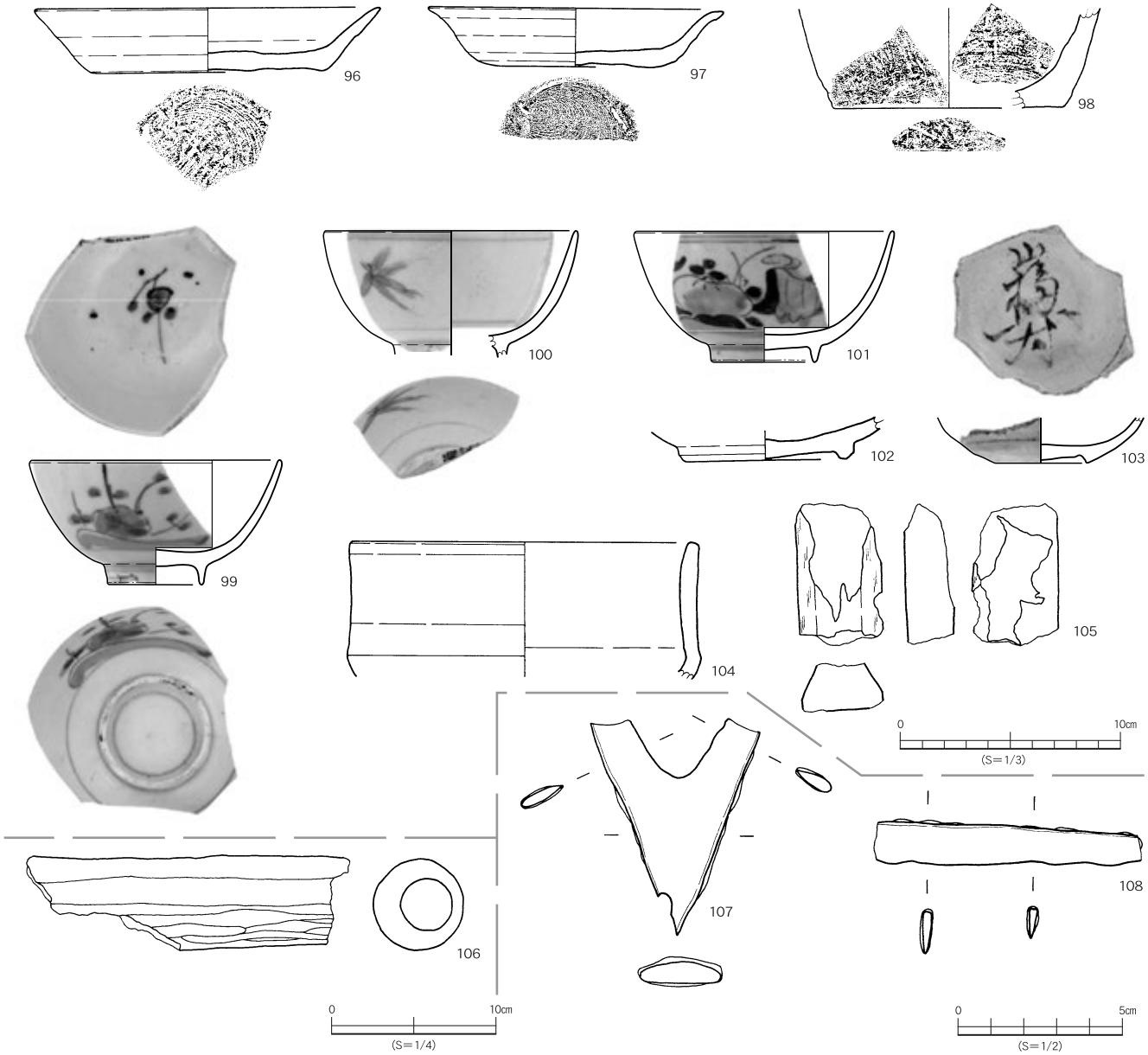
床面中央南寄りには，焼土がみられる。この焼土に周辺には，数点の遺物が発見された。周辺に目を向けると，溝16につながることが理解される。

70は，薩摩焼の蓋である。平坦な円盤状のもので，端部をヘラ状工具で斜めにケズリで調整している。上面中央には円柱状あるいはアーチ状のつまみが付くものと考えられる。

71は，薩摩焼の加治木・姶良系山元窯産の碗である。



第130図　大型土坑出土遺物実測図④



第131図　大型土坑出土遺物実測図⑤

内外面腰部にはヘラ状工具によるケズリ調整が，内外面胴部にはナデ調整痕が看取される。ケズリ高台である。内面には，飴釉がかかる。

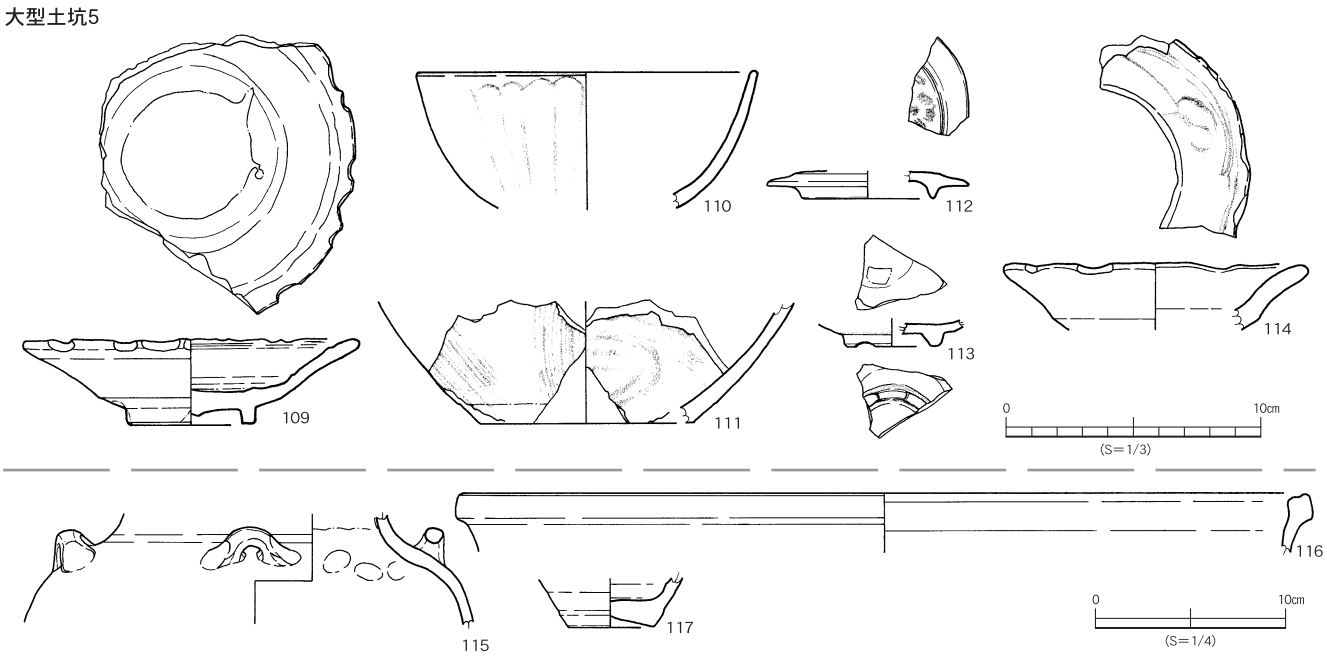
大型土坑５（第129図～133図）

Ｏ・Ｐ-４・５区のⅢａ′層上面で検出された。並んで検出された土坑Ａ-６を切って構築された遺構である。平面プランは，10.1ｍ×6.6ｍで深さは検出面から2.2ｍであった。底面の大きさ・範囲は5.1ｍ×2.2ｍである。埋土中には，礫や遺物などが大量に入っていた。礫の大きさは，数㎝大のもの・拳大のものなどがほとんどであるが，中には人頭大のものやひと抱えほどになるものもみられた。また，これらの礫・遺物は西側（万之瀬川側）から流れ込んだような状況であった。遺構内では集石も発見されている。石だけでなく，陶磁器・土器などの遺物や鉄滓も混在している。

周辺に目を向けると，溝15につながることが理解される。また，この遺構は確認調査時の７トレンチに切られている。

80は，薩摩焼の甕である。口縁部は断面三角形で，口唇部はやや平坦で外側にごく浅い溝がある。外面口縁部下位には円形の突起が付く。口唇部には貝目の腹縁が残り，内外面にヘラ状工具による調整痕が残る。また，内面には，タタキ成形によるあて具痕が残る。81は，薩摩焼の甕または壺の底部である。外面にタタキ成形による平行タタキ目が看取される。また，内面には同心円状のあて具痕が，底部外面には貝目が残る。

83・84・85は，薩摩焼の徳利である。いずれもタタ



第132図　大型土坑出土遺物実測図⑥

キ成形がなされ，内面に同心円状のあて具痕が残る。83は，「舟徳利」型と呼ばれる胴部下半部に最大径を有する形状のものであると考えられる。頸部は細くくびれ，口縁部にかけてラッパ状に開き，端部は外側に折り返して肥厚させ丸くおさめている。頸部内面にはナデ調整痕が残る。頸部内面下位に，胴部との接合痕が残る。肩部外面に，二条の沈線が確認できる。84は，「鶴首」型と呼ばれる頸部が細長く，肩部がなで肩の形状のものである。頸部内面にナデ調整痕が残る。頸部内面下位に，胴部との接合痕が残る。85は，「舟徳利」型を呈する。頸部内面にナデ調整痕跡が残る。頸部内面下位に，胴部との接合痕が残る。

86～89は，瓦質土器の羽釜である。90は，フライパン形の焙烙（炒り具）である。

105は，レンガのような素材のものである。三角柱のように整形されている。用途は不明である。

109・114は青磁の稜花皿である。

110は，竜泉窯系の青磁碗である。111は同安窯系の青磁である。112は青白磁の壺のフタである。

118・119は備前焼の大甕である。この２つは同一個体と考えられる。本遺跡では最大の遺物である。

鉄器も出土している。ここでは，そのうち２点について図化した。108は刃物であるが，破片であるので詳細は明らかではない。107は雁又（狩俣）鏃である。115は華南産とみられる壺である。三耳壺か四耳壺と考えられる。

大型土坑６（第134図・135図）

Ｍ・Ｎ-４区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，6.0m×5.7mで深さは検出面から1.2mであった。ただし，長軸（6.0mの値）については東側が未調査区境にかかり検出されていないので，おおよその値である。

遺構内埋土中には，礫や遺物などが大量に入っていた。礫の大きさは，数㎝大のもの・拳大のものなどがほとんどであるが，中には人頭大のものやひと抱えほどになるものもみられた。また，これらの礫・遺物は南東側に集中しており，集石のような様相を呈している。

（６）　土坑

ここでは，礫・遺物などが多くみられる特徴的な中型の土坑を「土坑Ａ」として扱う。それ以外の土坑については，通常の「土坑」として扱う。

ア　土坑Ａ

土坑Ａ-１（第137図・139図１～６）

Ｏ-５区のⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，22.8m×1.47mで深さは検出面から0.58mであった。

埋土断面の層位から，北側から土が流れ込んだとみられる状況が観察される。おそらくは，徐々に埋まっていったというよりも，何らかの作用で一度に埋まった可能性が高い。

遺構内からは，礫・土器・陶器などが出土した。

土坑Ａ-２（第137図・第139図7・8・9）

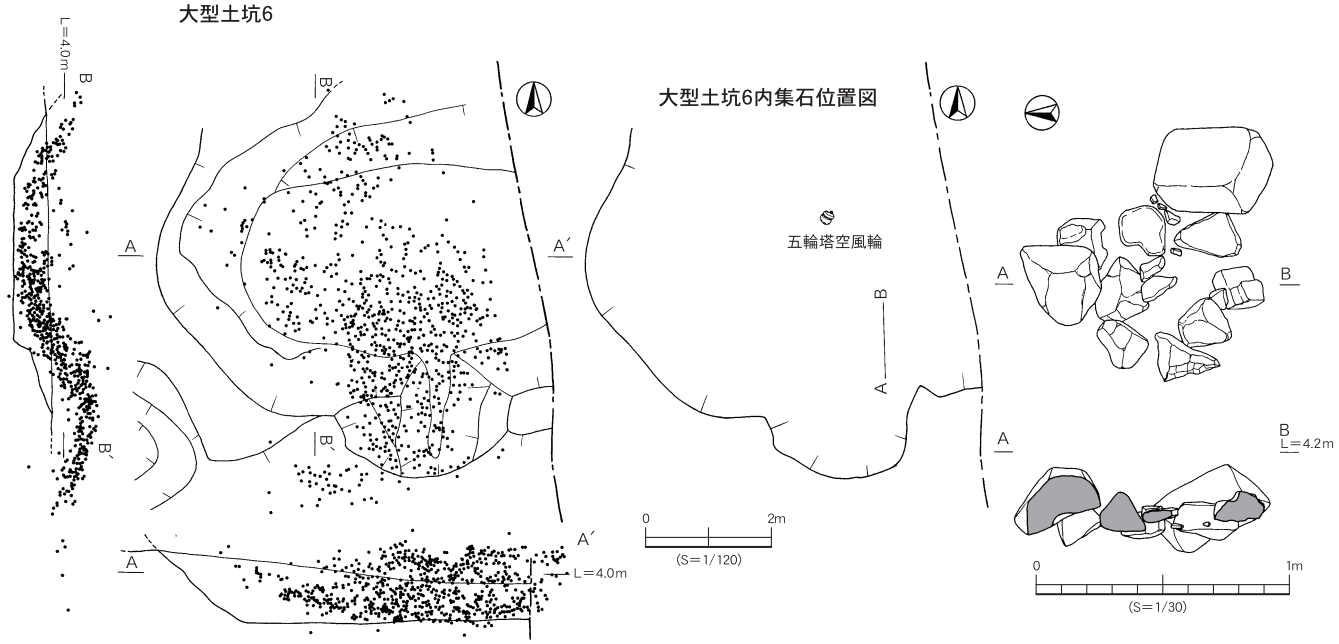
Ｎ-５・６区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，1.1m×1.02mで円形を呈し，深さは検

大型土坑5

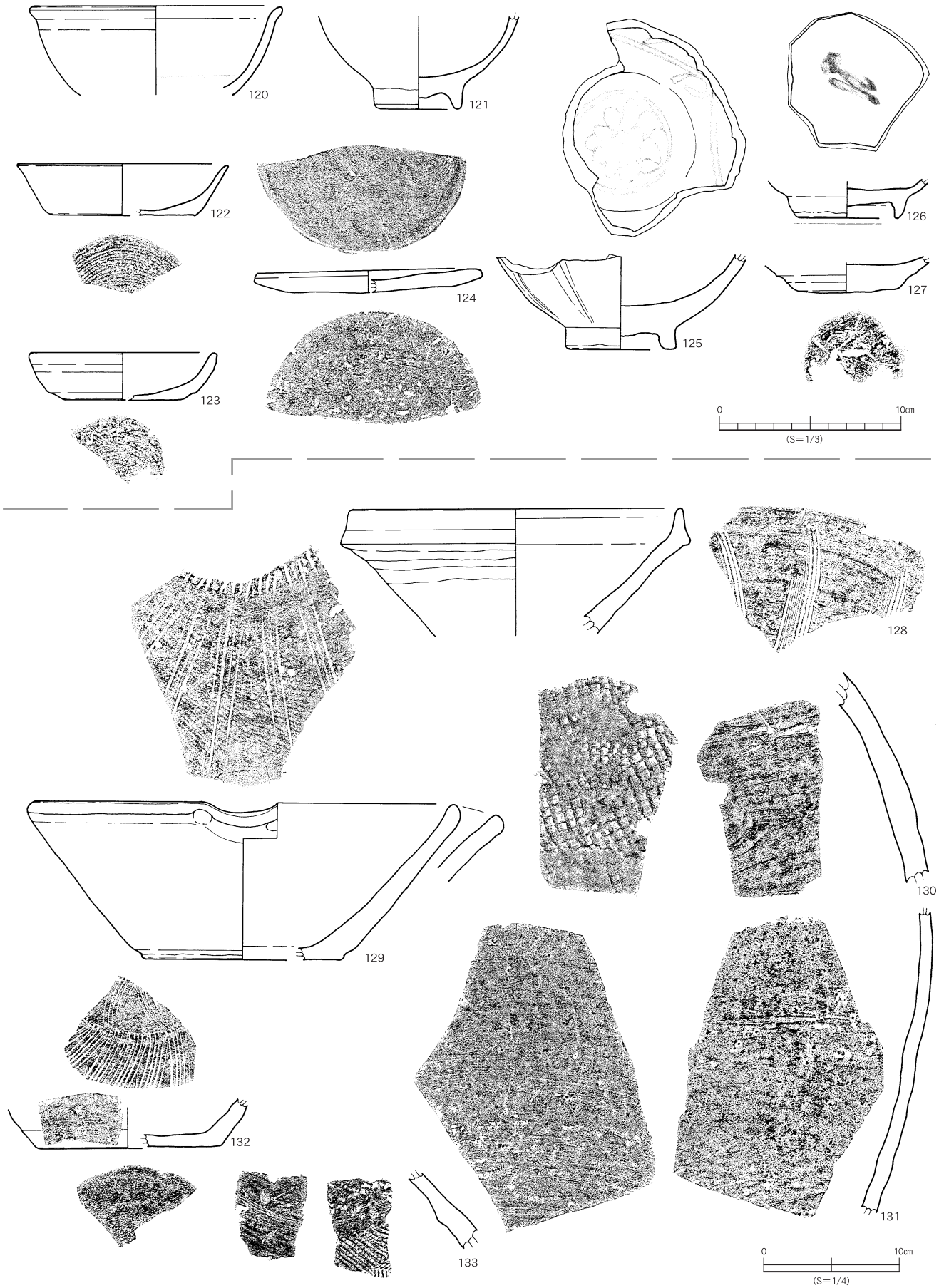


第133図　大型土坑出土遺物実測図⑦

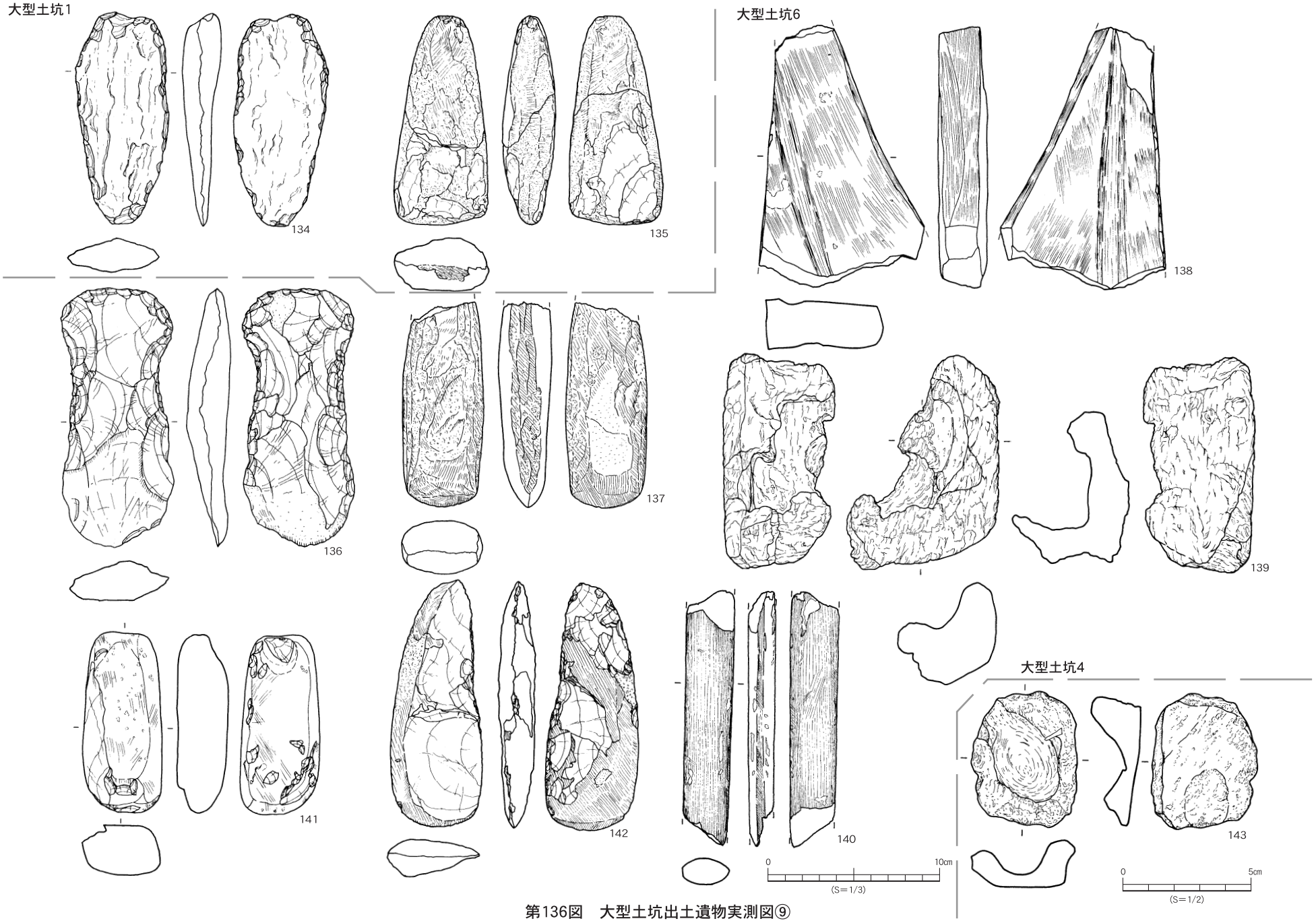
大型土坑6



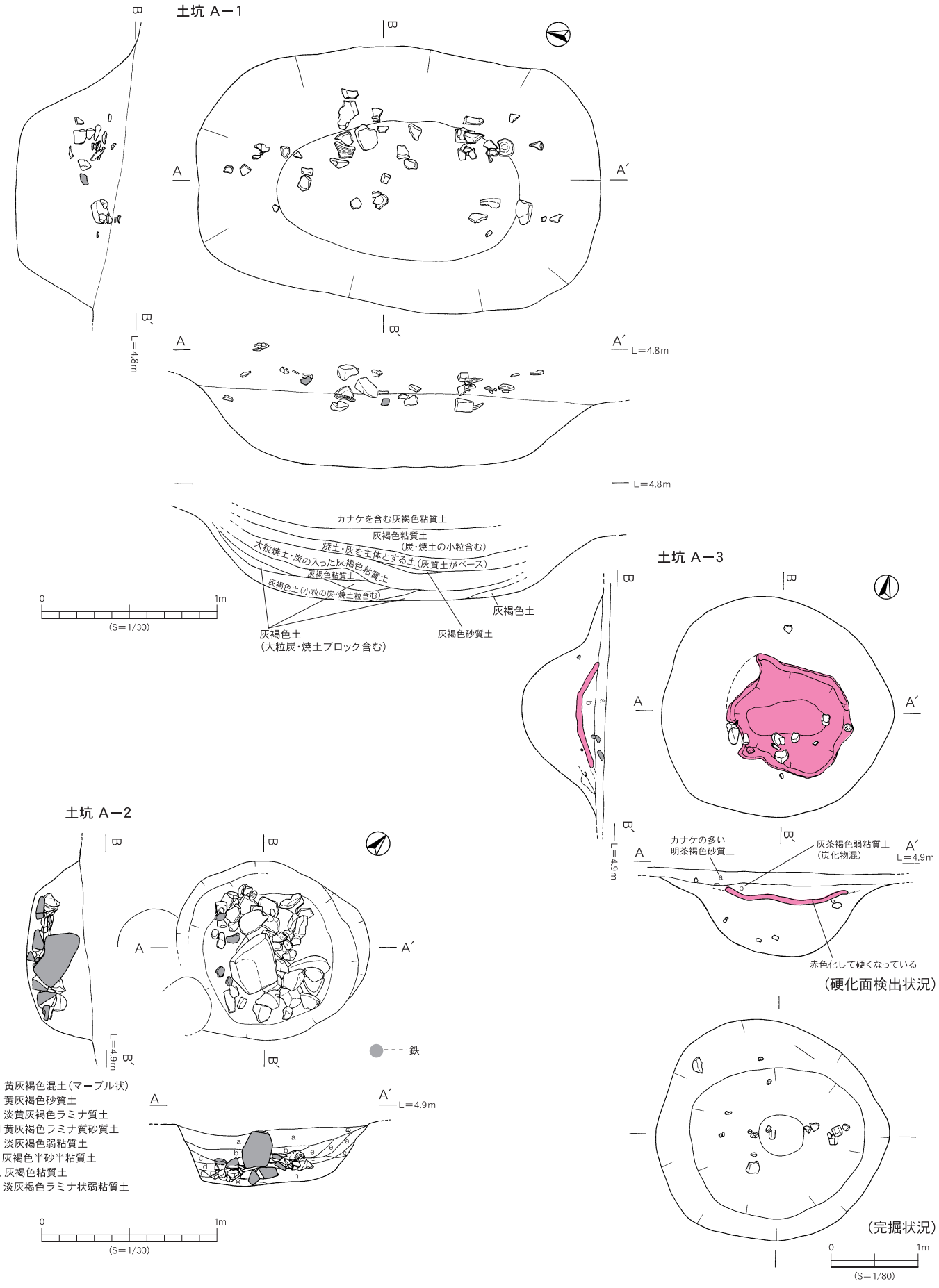
第134図　大型土坑④



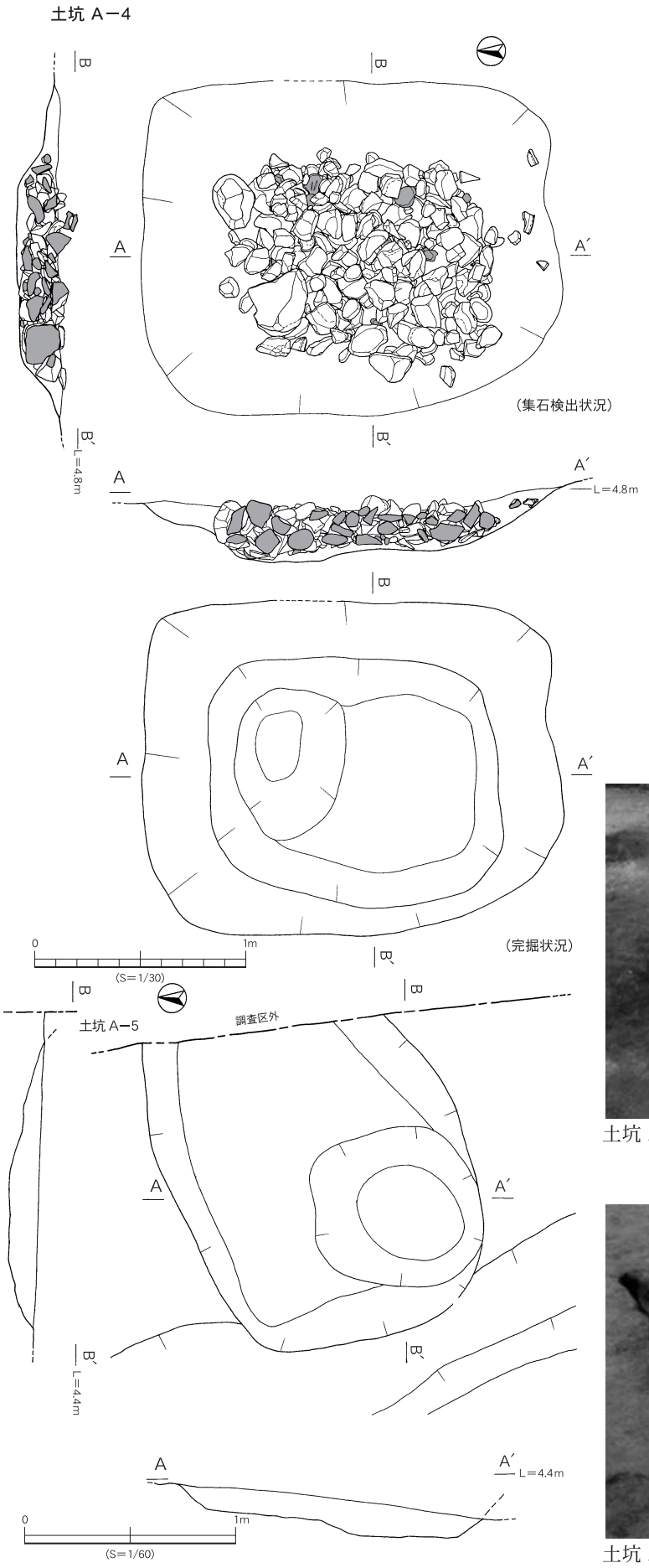
第135図　大型土坑出土遺物実測図⑧



第136図　大型土坑出土遺物実測図⑨


土坑 A－1
B
B´
A
A´
L＝4.8m
カナケを含む灰褐色粘質土
灰褐色粘質土
（炭・焼土の小粒含む）
焼土・灰を主体とする土（灰質土がベース）
大粒焼土・炭の入った灰褐色粘質土
灰褐色粘質土
灰褐色土（小粒の炭・焼土粒含む）
灰褐色土
灰褐色砂質土
灰褐色土
（大粒炭・焼土ブロック含む）
0
1m
（S＝1/30）
土坑 A－3
L＝4.9m
カナケの多い
明茶褐色砂質土
灰茶褐色弱粘質土
（炭化物混）
赤色化して硬くなっている
（硬化面検出状況）
（完掘状況）
（S＝1/80）
土坑 A－2
鉄
a 黄灰褐色混土（マーブル状）
b 黄灰褐色砂質土
c 淡黄灰褐色ラミナ質土
d 黄灰褐色ラミナ質砂質土
e 淡灰褐色弱粘質土
f 灰褐色半砂半粘質土
g 灰褐色粘質土
h 淡灰褐色ラミナ状弱粘質土

第137図　土坑①



第138図　土坑②



土坑 A－1

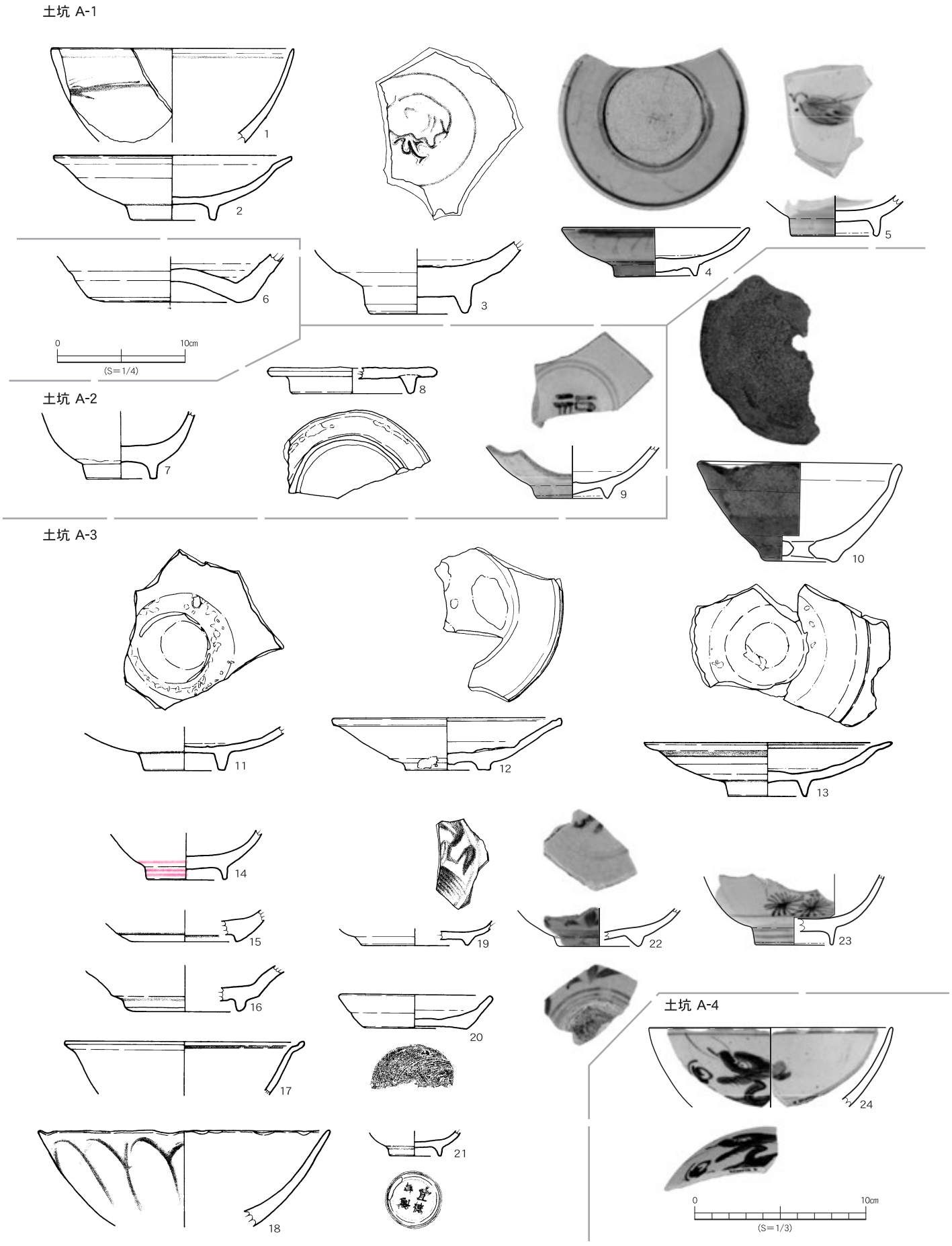


土坑 A－4

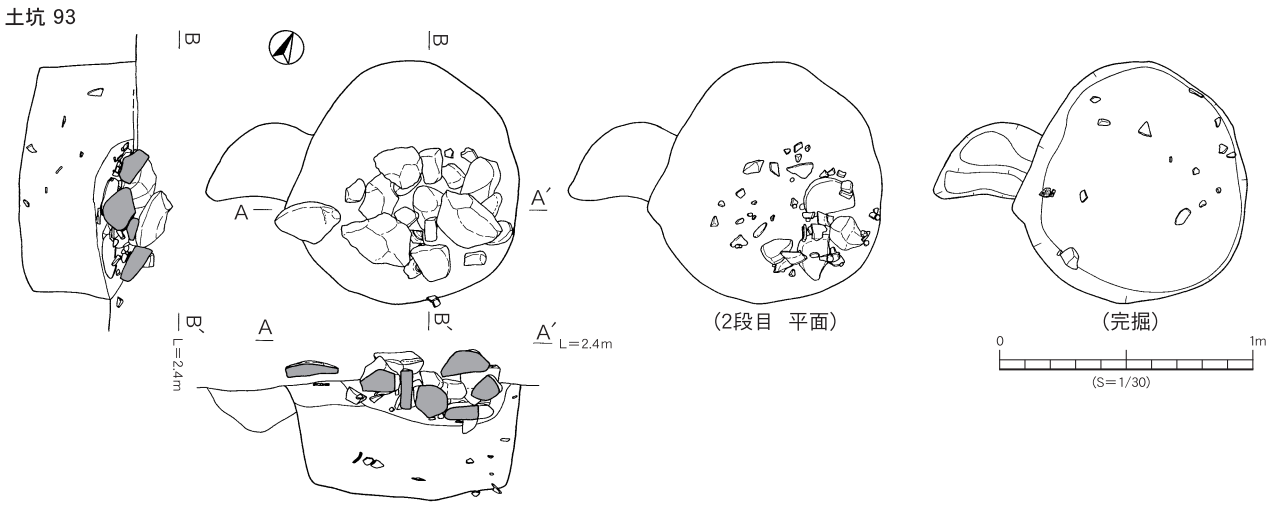


土坑 A－3

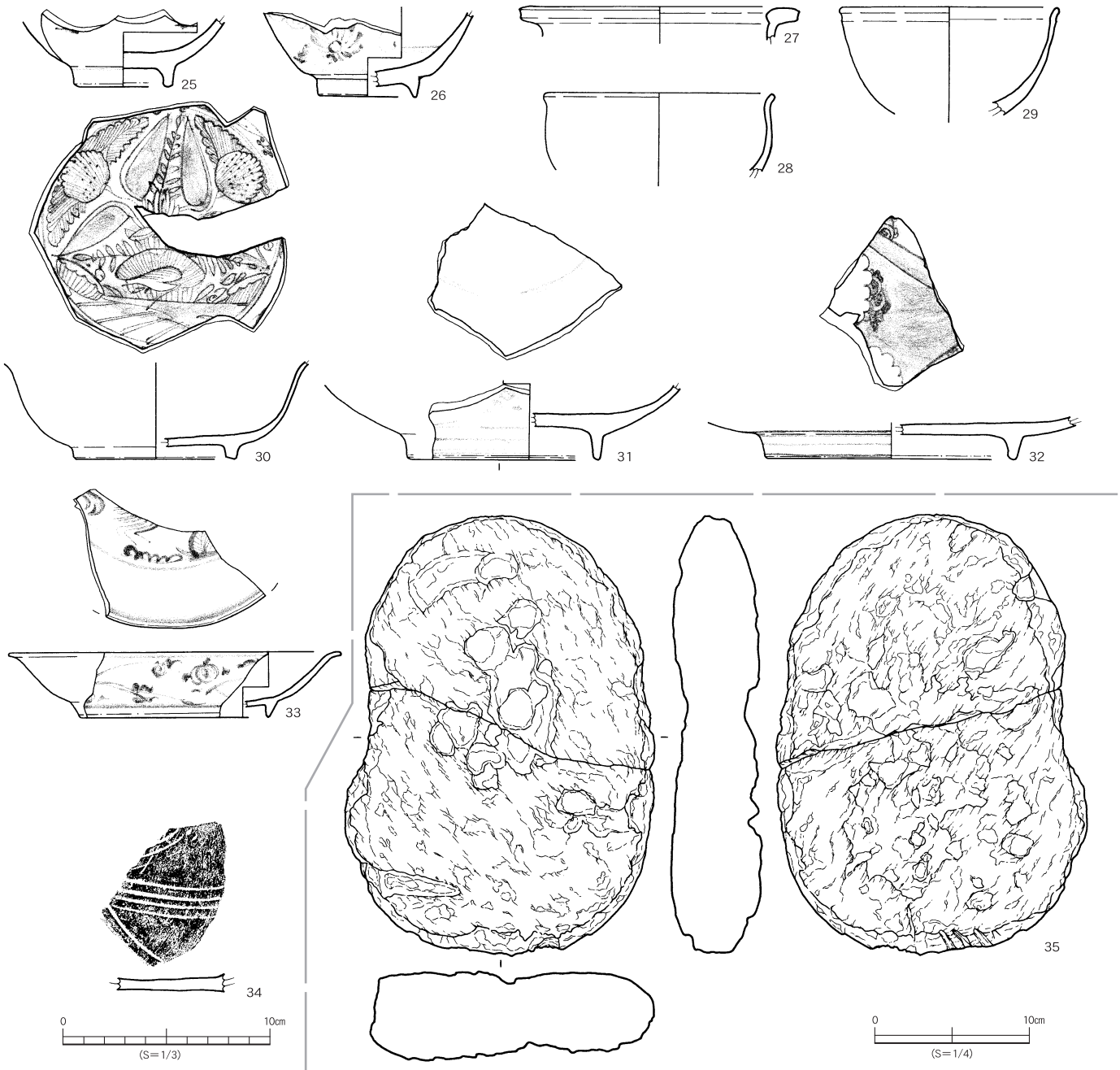
図版35　土坑A検出状況



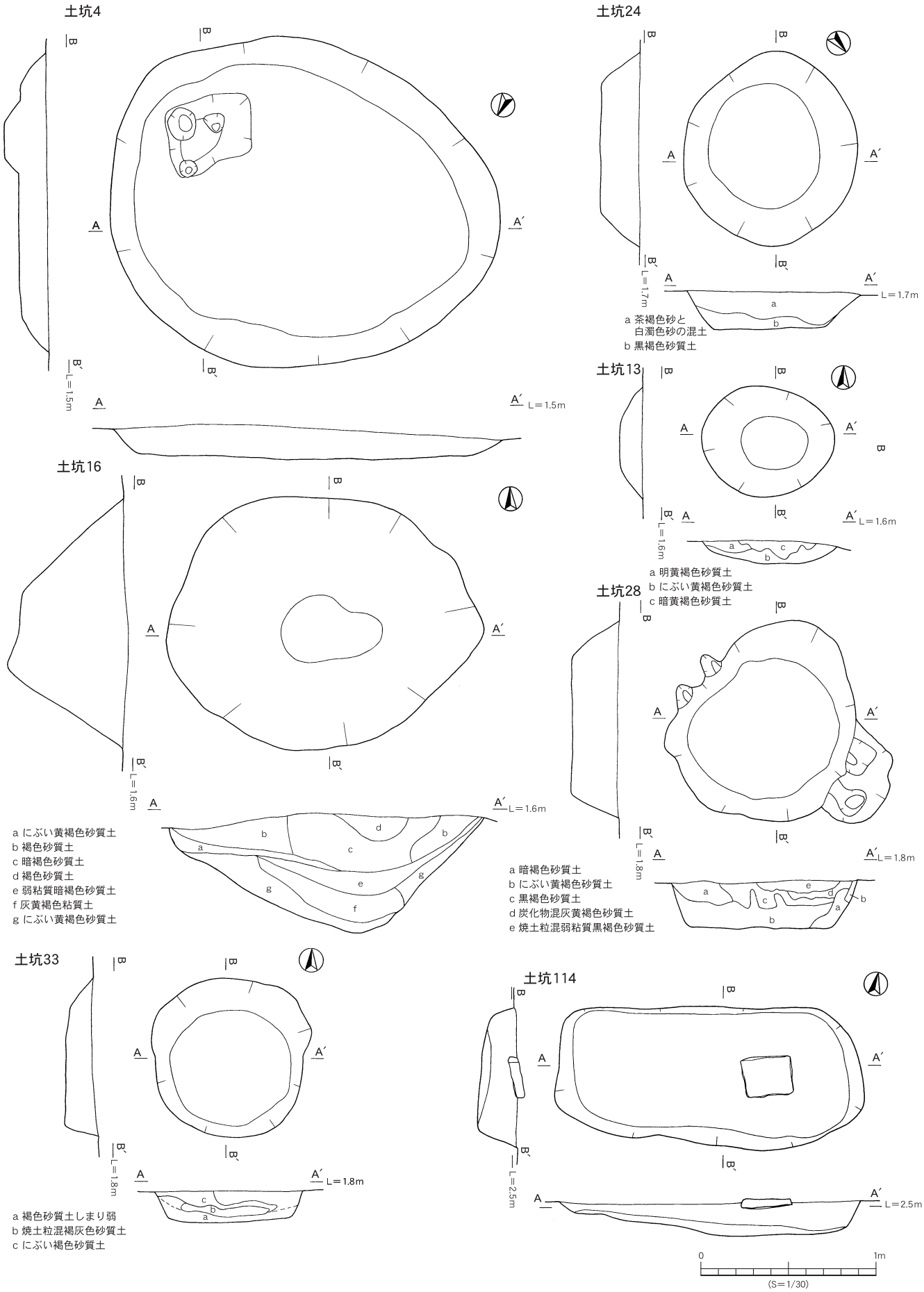
第139図　土坑出土遺物実測図①



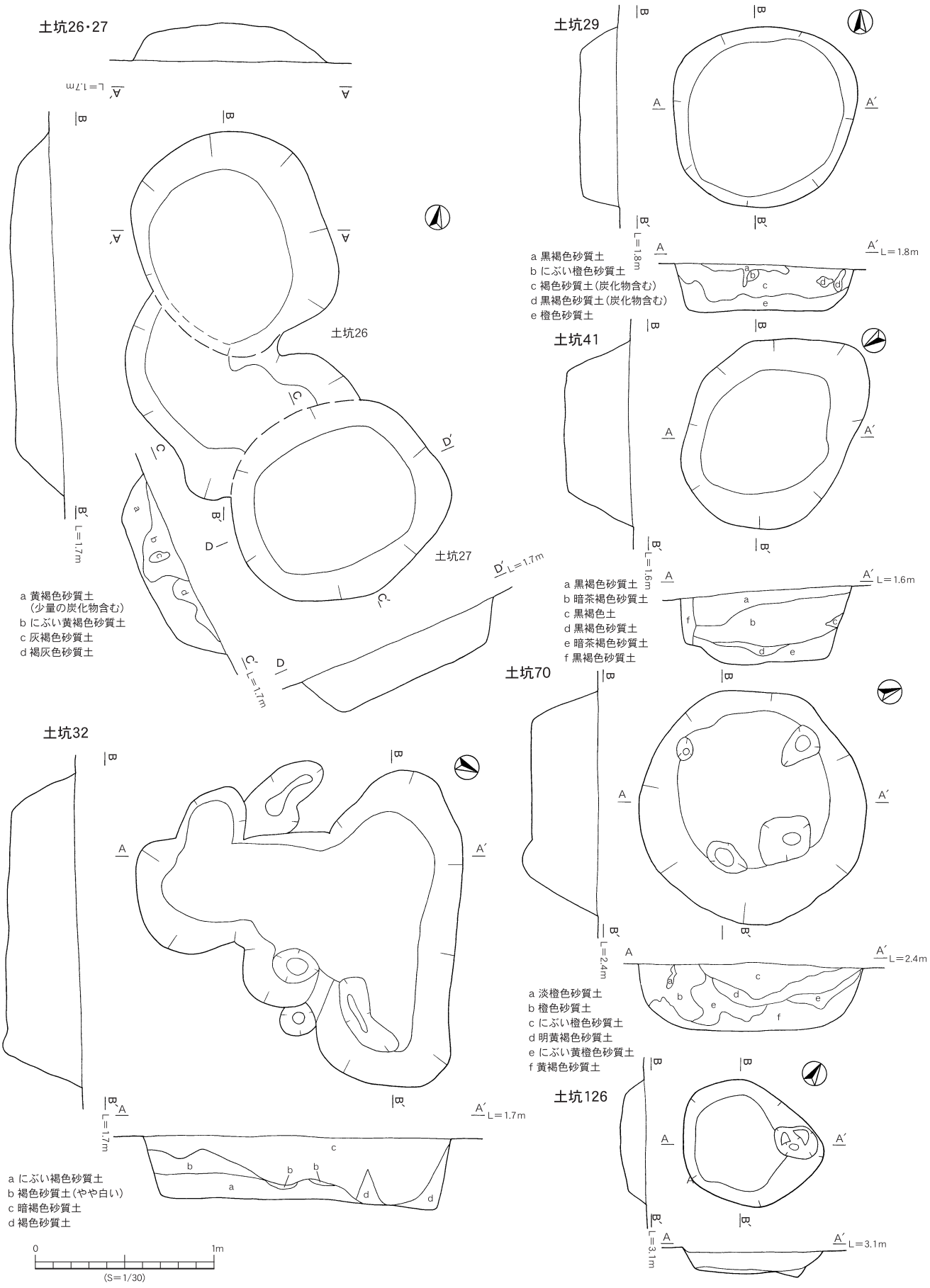
第140図　土坑③



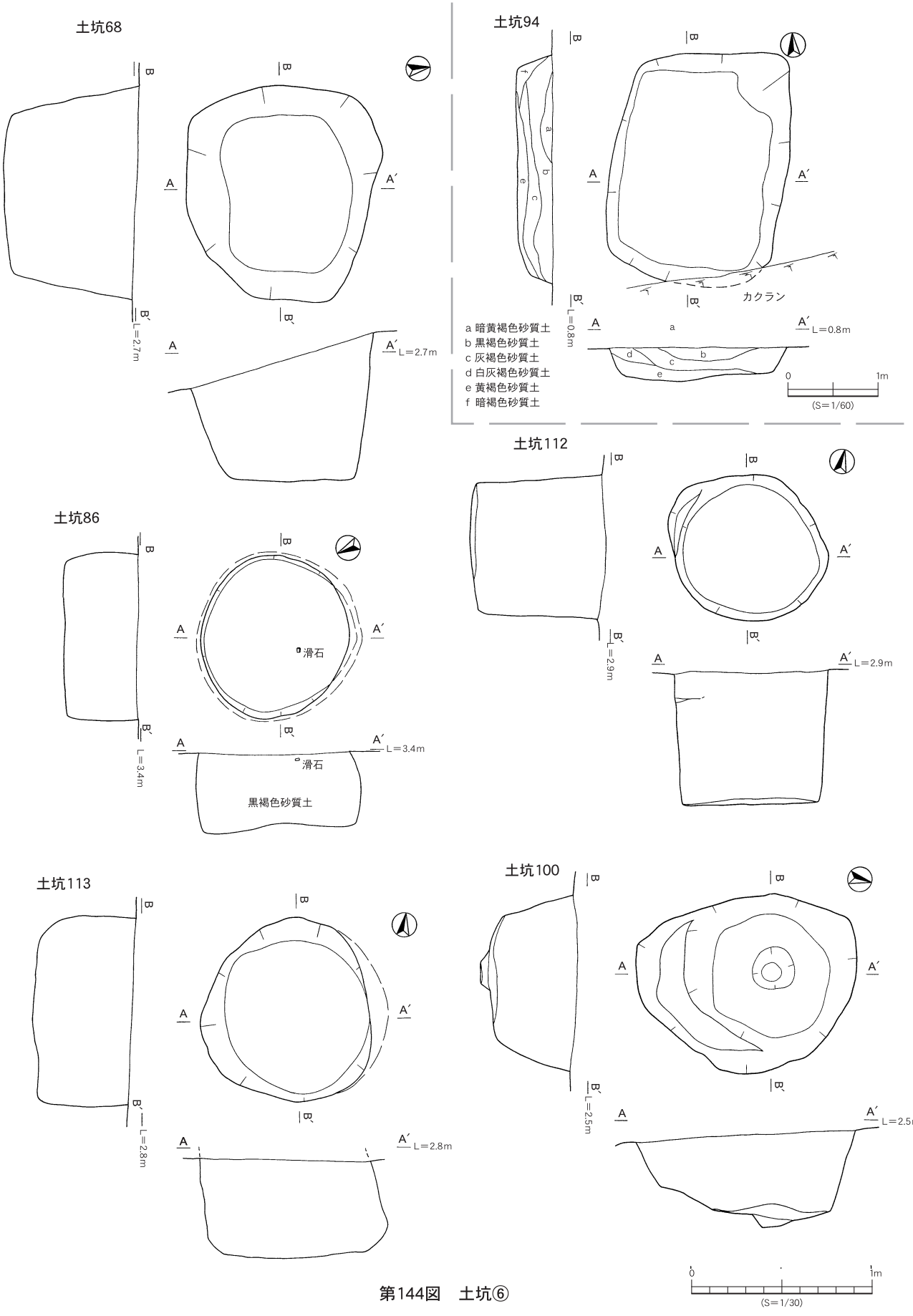
第141図　土坑出土遺物実測図②


土坑4
L=1.5m
土坑24
L=1.7m
a 茶褐色砂と
白濁色砂の混土
b 黒褐色砂質土
土坑13
L=1.6m
a 明黄褐色砂質土
b にぶい黄褐色砂質土
c 暗黄褐色砂質土
土坑16
L=1.6m
a にぶい黄褐色砂質土
b 褐色砂質土
c 暗褐色砂質土
d 褐色砂質土
e 弱粘質暗褐色砂質土
f 灰黄褐色粘質土
g にぶい黄褐色砂質土
土坑28
L=1.8m
a 暗褐色砂質土
b にぶい黄褐色砂質土
c 黒褐色砂質土
d 炭化物混灰黄褐色砂質土
e 焼土粒混弱粘質黒褐色砂質土
土坑33
L=1.8m
a 褐色砂質土しまり弱
b 焼土粒混褐灰色砂質土
c にぶい褐色砂質土
土坑114
L=2.5m
0
1m
(S=1/30)

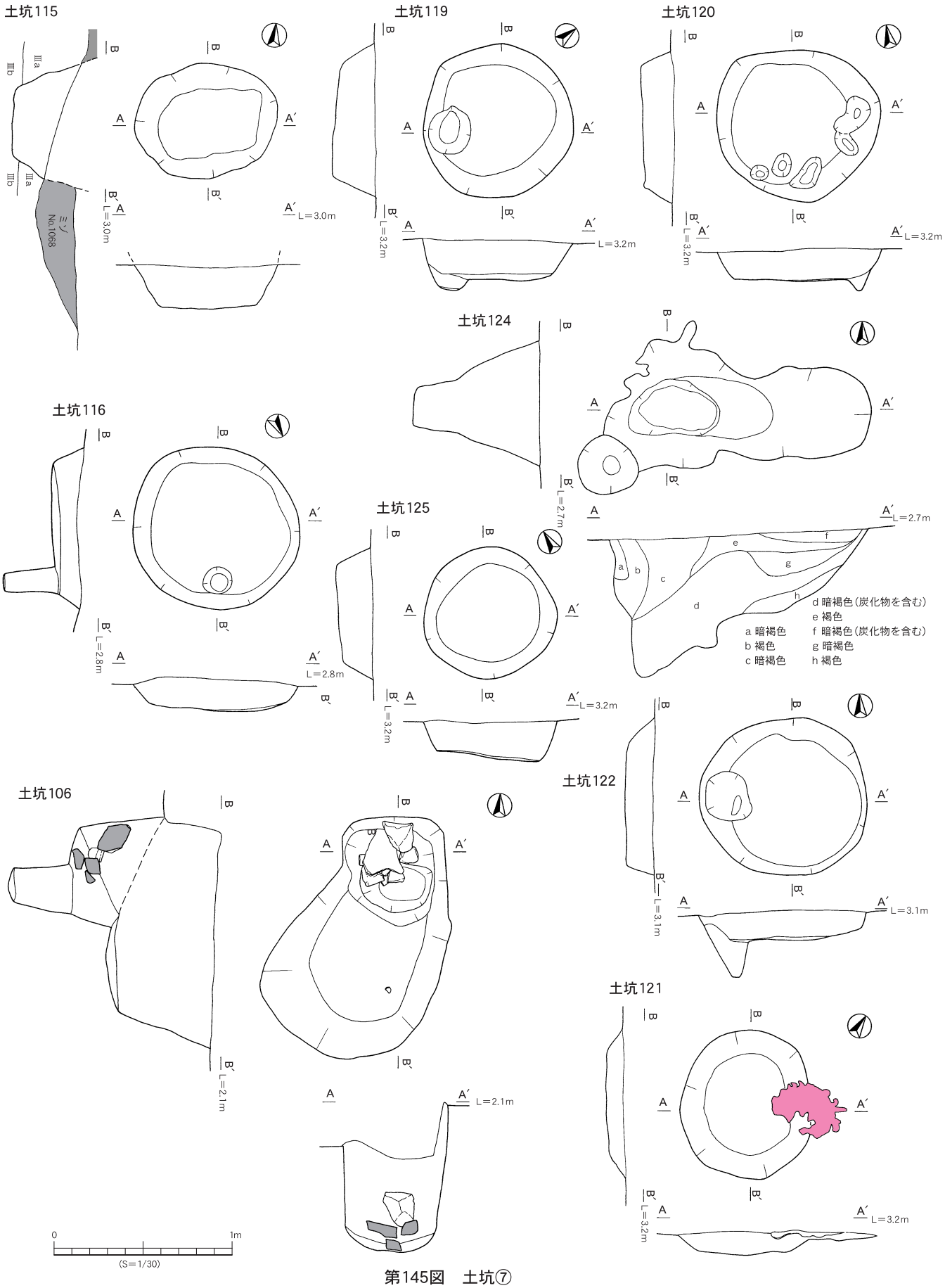
第142図　土坑④


土坑26・27
土坑26
土坑27
a 黄褐色砂質土
（少量の炭化物含む）
b にぶい黄褐色砂質土
c 灰褐色砂質土
d 褐灰色砂質土
土坑29
a 黒褐色砂質土
b にぶい橙色砂質土
c 褐色砂質土（炭化物含む）
d 黒褐色砂質土（炭化物含む）
e 橙色砂質土
土坑41
a 黒褐色砂質土
b 暗茶褐色砂質土
c 黒褐色土
d 黒褐色砂質土
e 暗茶褐色砂質土
f 黒褐色砂質土
土坑70
a 淡橙色砂質土
b 橙色砂質土
c にぶい橙色砂質土
d 明黄褐色砂質土
e にぶい黄橙色砂質土
f 黄褐色砂質土
土坑32
a にぶい褐色砂質土
b 褐色砂質土（やや白い）
c 暗褐色砂質土
d 褐色砂質土
土坑126
0
1m
(S=1/30)

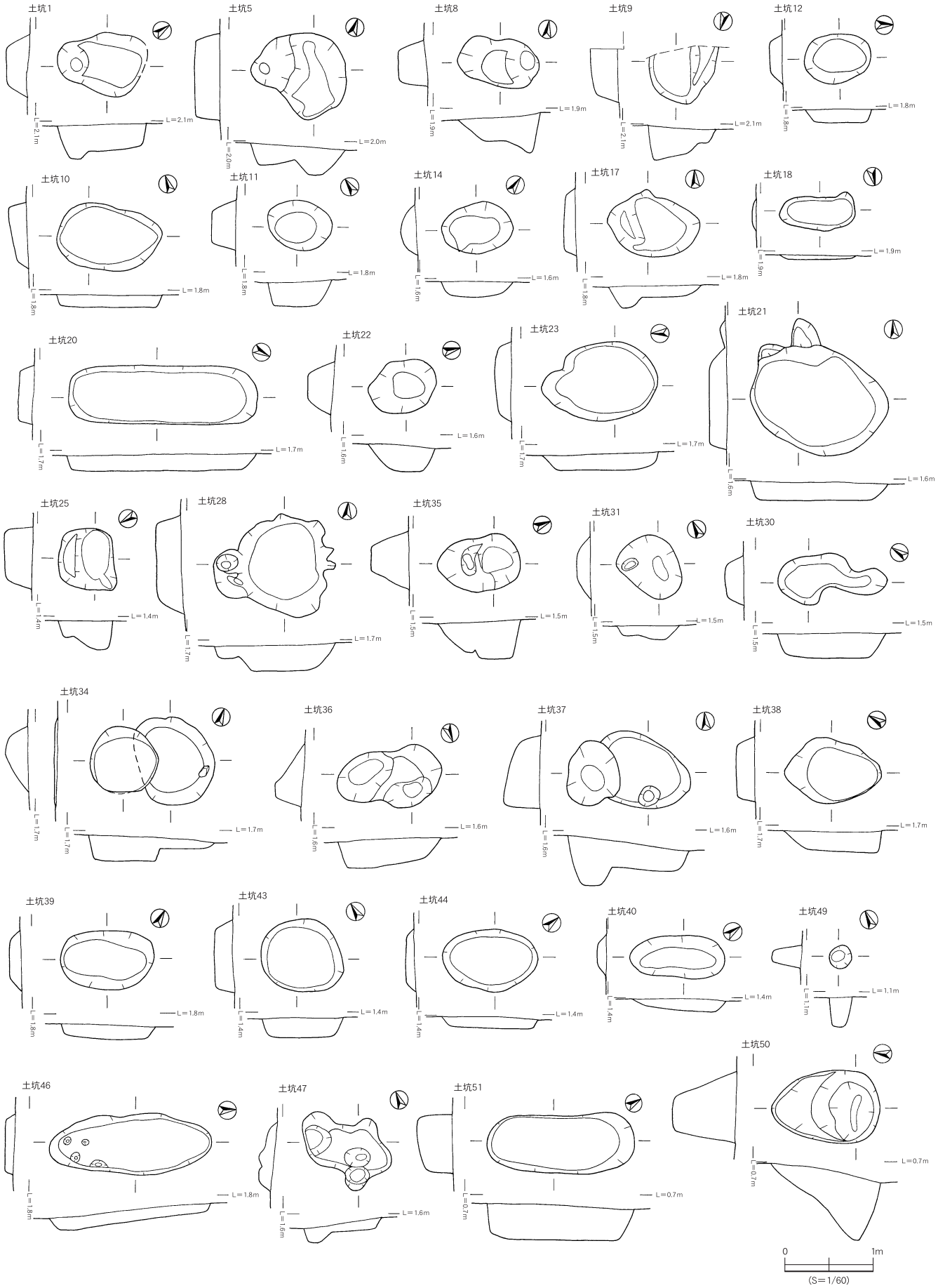
第143図　土坑⑤


土坑68
B
B´
L=2.7m
A
A´
土坑94
a 暗黄褐色砂質土
b 黒褐色砂質土
c 灰褐色砂質土
d 白灰褐色砂質土
e 黄褐色砂質土
f 暗褐色砂質土
カクラン
L=0.8m
0
1m
(S=1/60)
土坑112
L=2.9m
土坑86
滑石
L=3.4m
黒褐色砂質土
土坑113
L=2.8m
土坑100
L=2.5m
0
1m
(S=1/30)

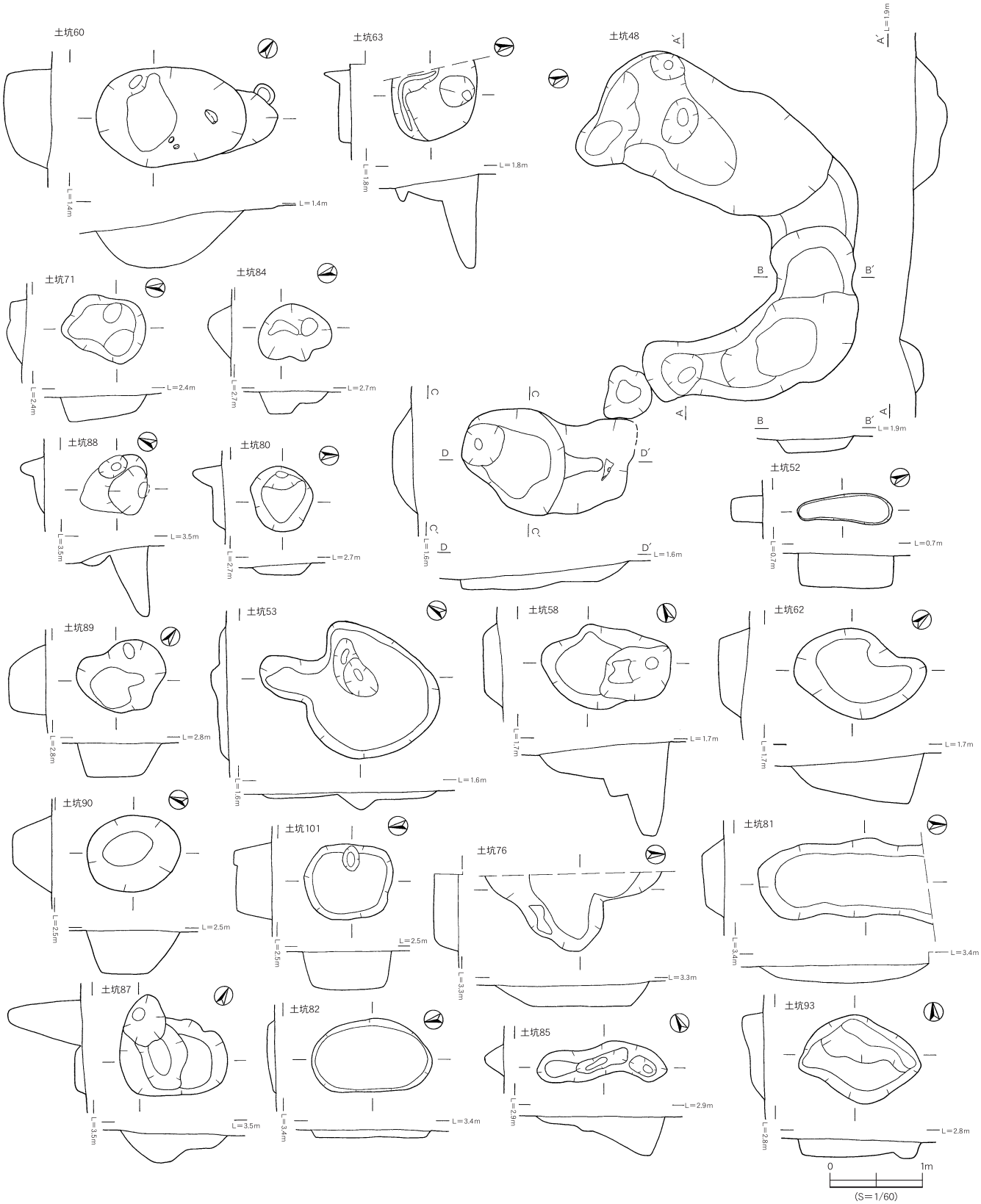
第144図　土坑⑥


土坑115
土坑119
土坑120
土坑124
土坑116
土坑125
土坑122
土坑106
土坑121
ミゾ No.1068
L=3.0m
L=3.2m
L=2.7m
L=2.8m
L=2.1m
L=3.1m
a 暗褐色
b 褐色
c 暗褐色
d 暗褐色(炭化物を含む)
e 褐色
f 暗褐色(炭化物を含む)
g 暗褐色
h 褐色
0
1m
(S=1/30)

第145図　土坑⑦


土坑1
土坑5
土坑8
土坑9
土坑12
土坑10
土坑11
土坑14
土坑17
土坑18
土坑20
土坑22
土坑23
土坑21
土坑25
土坑28
土坑35
土坑31
土坑30
土坑34
土坑36
土坑37
土坑38
土坑39
土坑43
土坑44
土坑40
土坑49
土坑46
土坑47
土坑51
土坑50
0
1m
(S=1/60)

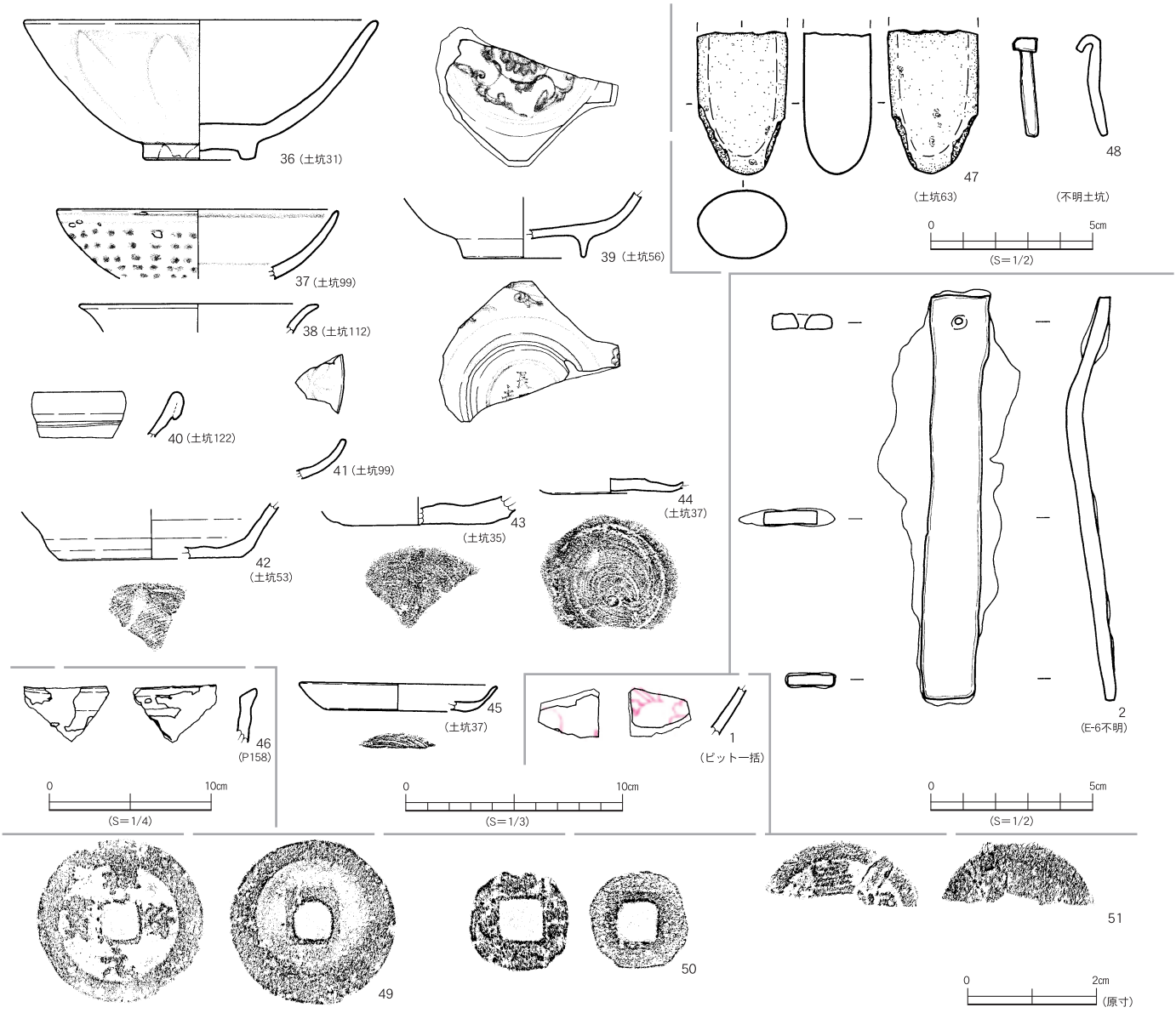
第146図　土坑⑧



第147図　土坑⑨

出面から0.37mであった。床面には，礫・石が集中詰して出土した。特に，中央には一抱えほどもある大石がみられる。この礫・石に混じって，土器・陶器などが出土した。

8は，薩摩焼の蓋である。円盤状の体部の下面に，輪状の粘土紐を貼り付け，身受け部をつくるものである。蓋の端部には，ヘラ状工具による調整痕が残る。体部下面には，タタキ成形によるあて具痕が残る。体部上面のみ釉が掛けられている。体部下面端部には，他製品の釉が付着している。



第148図　土坑出土遺物実測図③およびピット内出土遺物実測図①

土坑A-３（第137図・第139図10～23）

N-５区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，2.67m×2.5mで深さは検出面から0.9mであった。遺構内には，検出面直下から深さ20㎝の間に硬化面を持つ。この硬化面は，粘土を貼ったものである可能性もあるが，基本的には強い熱を受けて焼土化したものと考えられる。遺構中には，鉄滓などの出土もみられるが，流動滓・椀形滓のどちらも存在する。

土坑A-４（第138図・第139図24）

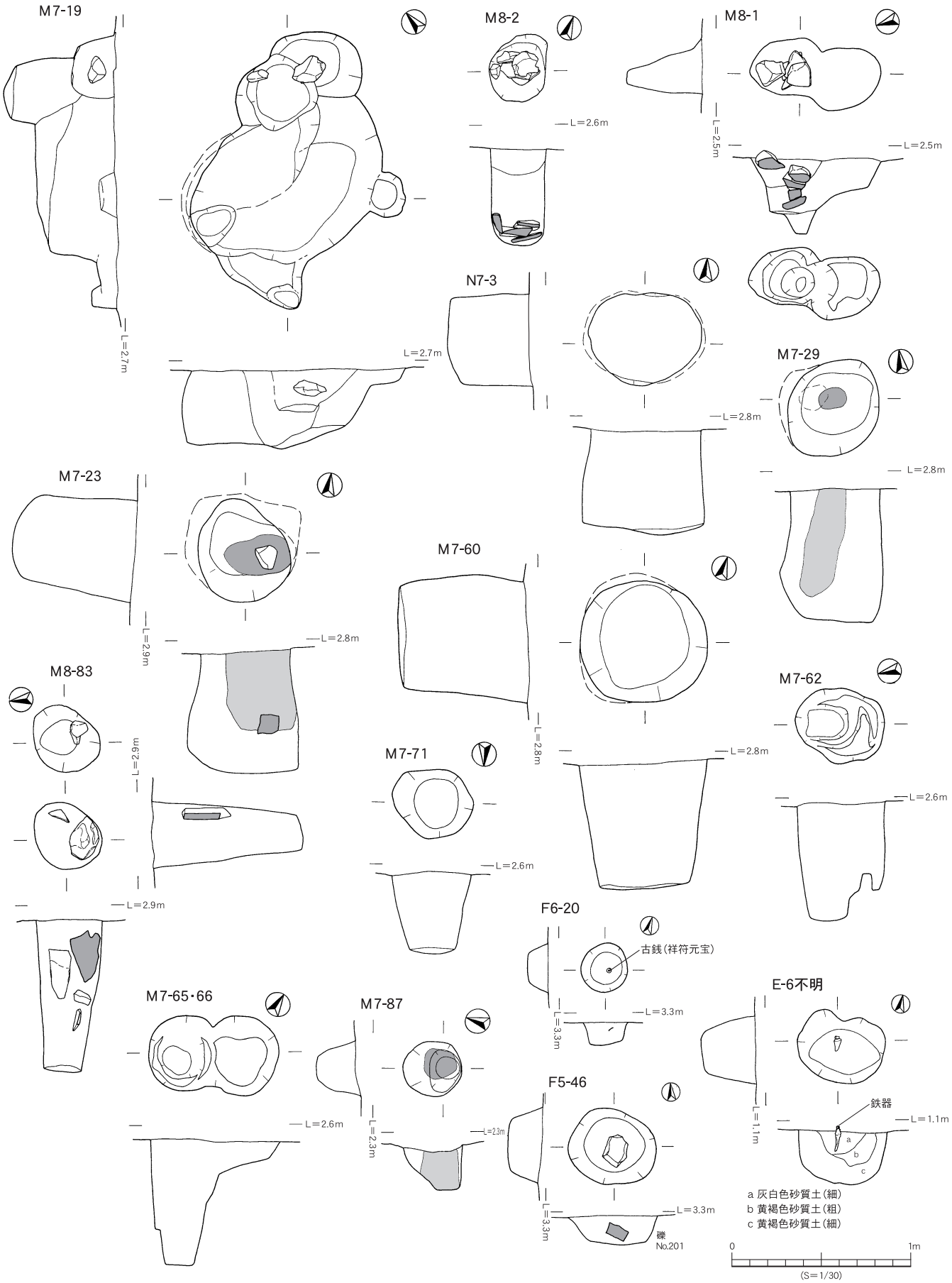
M・N-６区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。平面プランは，1.97m×1.56mで長方形状を呈し，深さは検出面から0.25mであった。礫が詰まっており，その部分は集石状を呈する。これらの石に混じって，土器・陶器・鉄滓などが出土している。

土坑A-５（第138図）

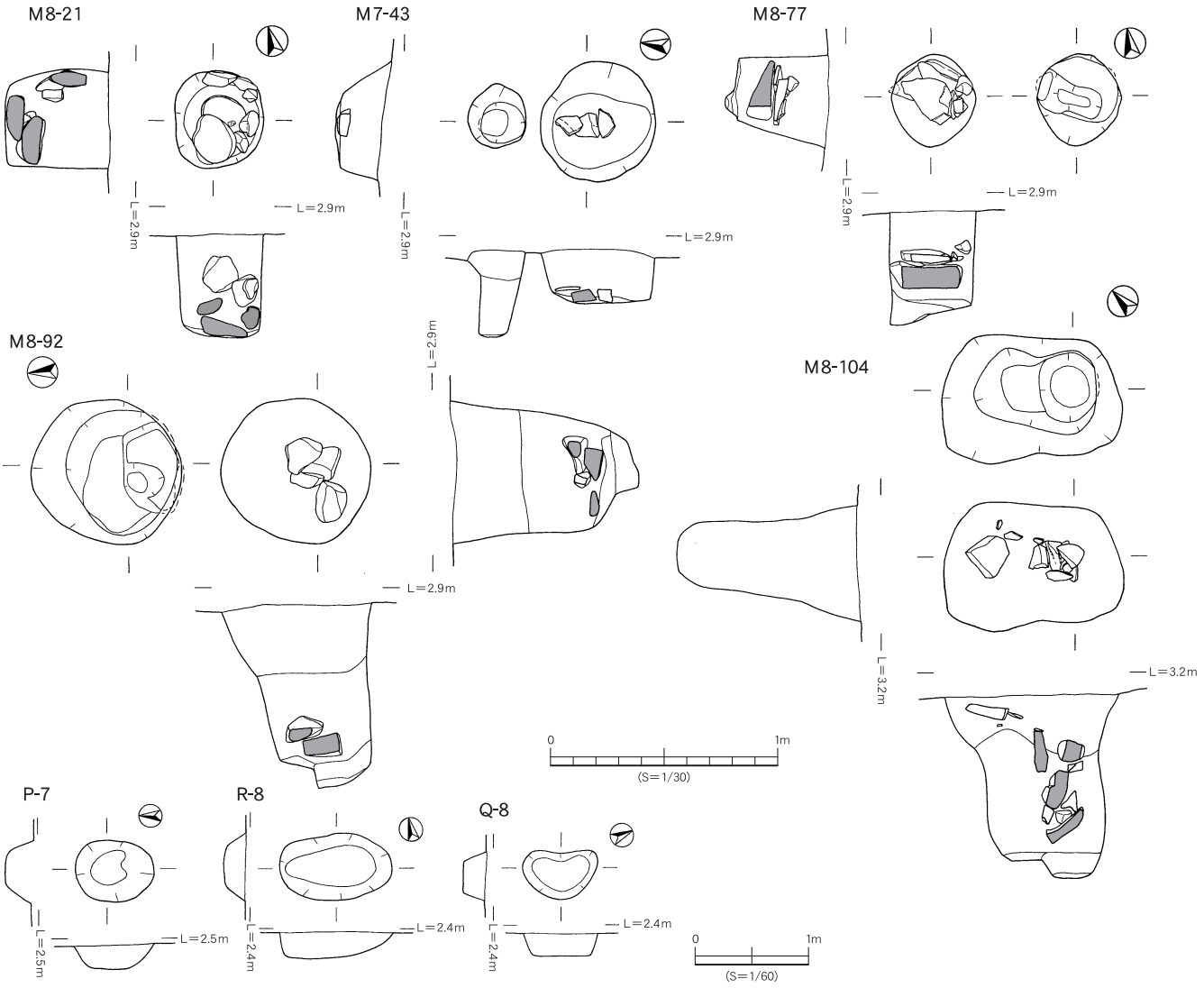
N-４・５区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。一見すると，竪穴住居のような形態をしている土坑である。平面プランは，3.0m×2.7mで深さは検出面から0.5mであった。底面の大きさ・範囲は2.7m×2.2mである。

A-６（第129図）

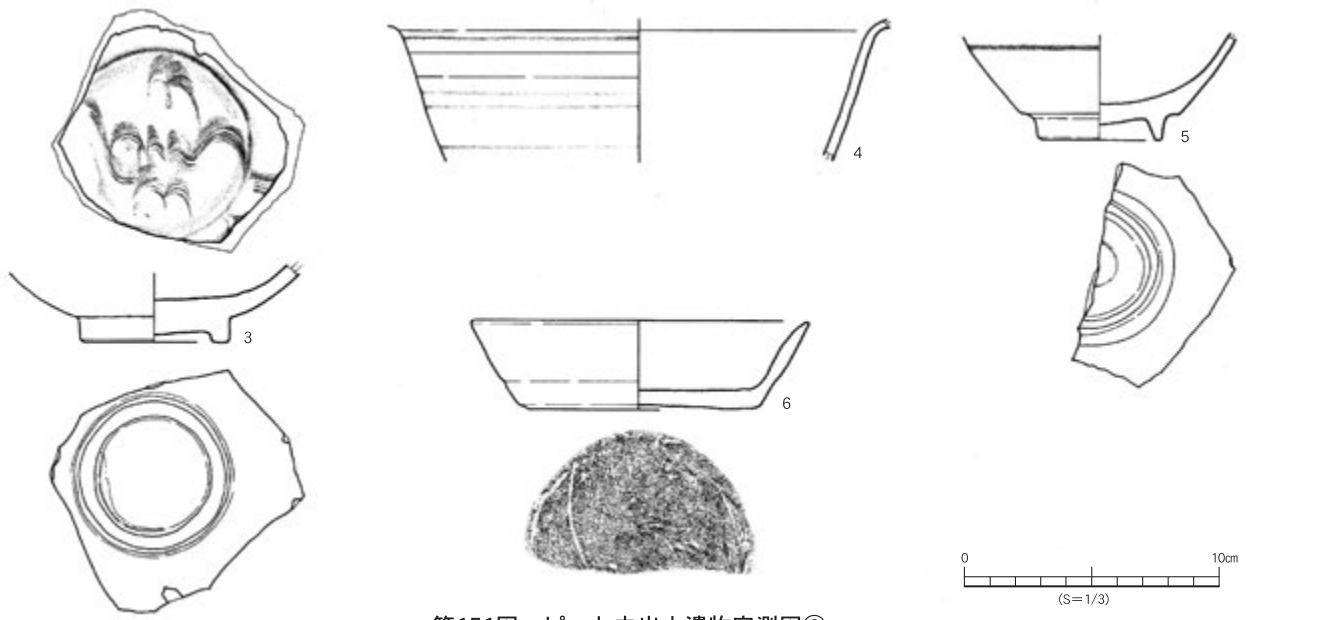
O・P-４・５区でⅡ層およびⅢａ′層上面で検出された。並んで検出された大型土坑５に切られる。平面プランは，4.2m×3.5mで深さは検出面から１mである。ただし，短軸（3.5mの値）については西側が大型土坑５に切られ，東側が未調査区境にかかり検出されていないので，おおよその値である。底面の大きさ・範囲は1.7m×1.5mである。


M7-19
L=2.7m
L=2.7m
M8-2
L=2.6m
M8-1
L=2.5m
L=2.5m
N7-3
L=2.8m
M7-29
L=2.8m
M7-23
L=2.9m
L=2.8m
M7-60
L=2.8m
L=2.8m
M8-83
L=2.9m
L=2.9m
M7-71
L=2.6m
M7-62
L=2.6m
F6-20
古銭(祥符元宝)
L=3.3m
L=3.3m
M7-65・66
L=2.6m
M7-87
L=2.3m
L=2.3m
F5-46
L=3.3m
L=3.3m
礫
No.201
E-6不明
L=1.1m
L=1.1m
鉄器
a
b
c
a 灰白色砂質土(細)
b 黄褐色砂質土(粗)
c 黄褐色砂質土(細)
0
1m
(S=1/30)

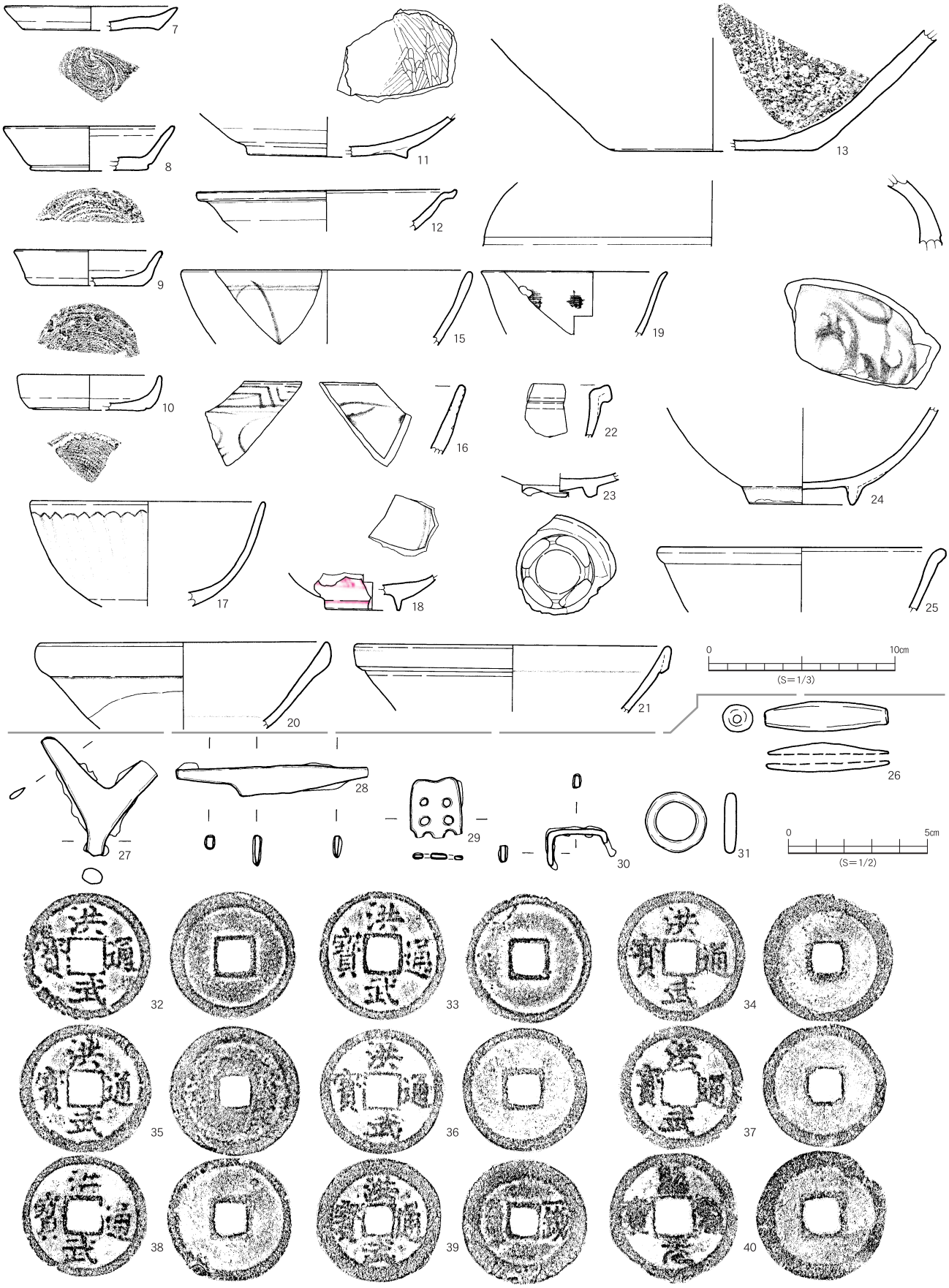
第149図　ピット①



第150図　ピット②



第151図　ピット内出土遺物実測図②



M8－11出土（第105図）古銭

第152図　ピット内出土遺物実測図③

表６　ピット観察表①

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
A'-3	1	472	35	25	40
	2	471	43	32	18
	3	470	36	26	19.5
	4	469	45	35	32
	5	460	67	54	33.5
	6	461	26	20	7.5
	7	459	31	15	6.5
	8	521	31	29	23
A-3	1	380	25	21.5	35
	2	420	35	32	52
	3	421	27	26.5	26
	4	806	20	20	38.5
	5	419	33	29	39.5
	6	797	23	22	35.5
	7	798	22.5	19	24
	8	451	50	46	3
	9	452	49	24	19
	10	379	24	22	27.5
	11	751	21	18	20
	12	370	26	25	28
	13	418	46	38	26
A'-4	1	405	55	22	16
	2	600	43	35	41
A-4	1	506	66	46.5	13
	2	381	50	48	12.5
	3	508	43	40	8.5
	4	562	30	43	30.5
	5	417	28	24.5	12
	6	371	23	22.5	20
	7	817	27	23	30
	8	372	26	23	11.5
	9	432	24.5	24	20.5
	10	433	25	24	19
	11	717	19	19	29
	12	560	25	24	27
	13	561	45	36	30
	14	816	34	29	26.5
	15	423	29	29	16
	16	511	37	36	14
	17	512	38	30	9
	18	513	26	20	5
	19	514	24	21	8
	20	368	17	14	13
	21	519	25	23	12.5
	22	376	26	24	22
	23	558	45	36	30
	24	559	36	30	30
	25	416	32	29	30
	26	509	34	37	25
	27	510	26	26	7
	28	404	23	17	13
	29	414	74	27	16
	30	557	26.5	26	20
	31	413	17	16.5	5
	32	556	27	26	29.5
	33	-	38	34	22
	34	-	30	29	20
	35	-	61	55	34
	36	-	41	37	27
	37	-	40	36	18
A'-5	1	599	43	30	15.5
	2	601	44	34	29.5
	3	446	25	24	28.5
	4	569	35	29	26.5
	5	568	28	18	20.5
	6	448	26	23	27.5
	7	570	25	21	53.5
	8	447	33	29	13
	9	567	37	28	42
	10	566	33	27	39.5
	11	565	31	22	40.5
	12	553	27	16	16
	13	554	31	22	20
	14	541	18	18	14.5
	15	445	39	34	10
	16	540	25	23	30
	17	539	23	21	18
	18	-	29	28	11
	19	-	50	37	18
	20	-	38	36	16
	21	-	27	25	18
	22	-	31	26	17
	23	-	27	24	12
	24	-	29	25	1
	25	-	25	24	12
	26	-	22	21	5
	27	-	38	31	19
A-5	1	426	38.5	25	19.5
	2	336	55	52	32
	3	563	22	20	18.5
	4	427	25	22	31
	5	400	45	41	33
	6	588	23.5	23	24
	7	555	28	18	22
	8	543	27	24	20.5
	9	542	55	27.5	46
	10	334	28	25	14
	11	333	24	23	27
	12	564	18	16.5	12.5
	13	544	31	28	44
	14	329	29	26	22
	15	587	16	13.5	16.5
	16	586	21.5	21	16
	17	337	28	25	16
	18	573	21	20	19.5
	19	444	62	37.5	32
	20	582	22	19.5	13.5
	21	575	46	45	24
	22	580	44	41	16
	23	576	40	37	48.5
	24	577	28	28	-
	25	578	22	21	11
	26	585	28	27	13
	27	592	70	55	10.5
	28	534	53	47	26.5
	29	579	25	23	15
	30	390	24	24	19
	31	410	57	38	20
	32	396	47	35	37
	33	-	20	19	11
	34	-	25	22	7
	35	-	29	22	13
	36	-	34	32	16
	37	-	56	28	9
A-5	38	283	26	25	15
	39	-	30	18	-
	40	31	40	33	29
	41	-	28	25	26
	1	-	40	38	12
	2	-	25	22	26
	3	-	28	28	21
	4	-	20	17	12
	5	-	29	25	12
	6	-	29	28	10
	7	-	32	30	10
	8	583	27	27	18
	9	339	34	26	13
	10	335	35	33	13
	11	388	23	22	13.5
	12	525	41.5	36.5	57
	13	389	27	26	36
	14	338	22	21	10
	15	537	26	25	24
	16	178	26	25	14
A-6	17	546	77	44	40
	18	547	33.5	33	39.5
	19	175	27	23	9
	20	429	40	36	33
	21	538	20.5	19	19
	22	548	33	32	41
	23	176	30	29	18
	24	177	22	12	10
	25	428	26	24.5	26.5
	26	387	32	24	54
	27	430	45	29	27
	28	386	34	33	13.5
	29	584	35	30	29
	30	342	34	25	16
	31	536	19.5	19.5	20
	32	-	49	38	7
	33	-	80	68	15
A-7	1	1706	26	24	18
A-8	1	1707	31	29	27
B-2	1	P81	24	22	-
	2	P82	28	26	17
	3	P83	22	18	9
	4	P84	46	36	23
	5	P85	34	30	11
	6	P86	42	40	13.7
	7	P106	20	20	-
	8	P107	45	40	-
B-3	1	-	47	41	8
	2	-	37	33	19
	3	-	40	33	12
	4	-	21	18	13
	5	3	38	32	-
	6	2	40	20	-
	7	1	35	20	-
	8	-	20	20	17
	9	-	20	15	13
	10	-	50	35	15
	11	-	65	38	9
	12	422	32	28	22.5
	1	434	27	25	12
	2	435	29.5	18	10.5
	3	369	30	28	32.5
	4	815	29	25	25
	5	515	30	27	9
	6	638	21	20	12
	7	627	46	36	29
	8	801	28	23.5	32.5
	9	628	25	23.5	38
	10	629	23	22	33
	11	800	23.5	21.5	35
	12	621	22	22	72
	13	622	32	30	27.5
	14	623	25	24	35
	15	624	25	24.5	8
	16	522	27	26	20
	17	814	26	25	27
	18	523	21	20	16
	19	516	35	30	14
	20	626	29	28	41.5
	21	625	39	35	30
	22	412	12.5	12	4.5
	23	437	33	26	17
	24	-	25	22	15.5
	25	-	34	32	22
	26	-	32	30	25
	27	-	30	29	59
	28	-	57	55	57
	29	-	35	35	21
	30	-	50	46	63
	31	-	33	32	26
	32	-	48	46	57
	33	-	48	44	42
	34	-	28	28	22
	35	-	72	51	61
	36	-	35	34	45
	37	-	45	44	57
	38	-	47	34	48
	39	-	35	31	33
	40	-	59	58	60
	41	-	33	30	26
	42	-	27	23	25
	43	-	30	29	21
	44	-	31	27	51
	45	-	23	23	31
	46	-	22	21	28
	47	-	45	32	28
	48	-	28	22	23
	49	517	30	27	14.5
	50	408	15	15	13
	51	407	30	29	20
	52	-	42	35	29
B'-5	1	598	45	32	29.5
	2	597	36	27	48
	3	596	25	24	31
	4	571	27.5	24	28
B-5	1	518	36	30	16
	2	424	20	20	16
	3	832	27	24	23
	4	382	31	29	31
	5	831	24	21	24
	6	441	30	29.5	13
	7	833	23	21	23.5
	8	830	18	18	13
	9	748	49	46	33
	10	749	39	22	31
	11	646	27	22.5	21.5
	12	648	31	26.5	31
	13	647	17	17	19.5
	14	645	18	17.5	20
	15	644	26	24	-
	16	643	18.5	16	12
	17	642	21.5	21	14
	18	440	15	14.5	12
	19	439	29	27	15
	20	652	23	21.5	21
	21	650	20	19	16
B-5	22	649	22	20	7.5
	23	651	22	20	11
	24	653	29	27	25
	25	655	17	15.5	19
	26	654	21	19	17
	27	535	64	26	28
	28	-	42.5	34.5	30
	29	-	33	29	27
	30	-	25.5	25	23
	31	-	21	19	21
	32	-	47	38	36
	33	-	41.5	32.5	24
	34	-	35	32	29
	35	-	25.5	21.5	16
	36	656	20	18	17.5
	37	401	30	29	24
	38	-	68	60	36
	39	-	106	48	21
	1	526	35.5	31	30.5
	2	527	27	26	23
	3	528	28	27	38
	4	529	29	29	37
	5	530	32	30	29
	6	374	53	38	18
	7	383	21	19	25
	8	402	28.5	27	25.5
B-6	9	375	44	40	29
	10	384	39	36	24.5
	11	-	46	44	22
	12	-	35	33	25
	13	-	67	48	24
	14	-	58	47	17
	15	-	45	44	29
	16	-	113	41	29
	17	-	39	35	31
	18	-	77	52	33
	19	-	42	38.5	24
	1	1704	20	20	11
	2	1703	20	19	17
	3	1692	36	35	35
B-7	4	1701	34	31	29
	5	1700	30	27	16
	6	1702	29	27	13
	7	1699	22	22	20
	8	1693	102	56	48.5
	1	1698	30	29	33
B-8	2	1697	29	29	30
	3	1696	32	30	27
	4	1694	27	24	13
	5	1695	27	26	15
	1	P60	30	28	9
	2	P61	26	20	17.5
	3	P62	22	21	6.5
	4	P63	25	22	6
	5	P64	29	29	19.5
	6	P65	34	32	13
	7	P66	33	30	16
	8	P67	32	32	29
	9	-	25	20	-
	10	-	30	25	-
	11	-	25	15	-
	12	P68	33	28	7
	13	P69	30	25	14.5
	14	P70	32	24	31
	15	P71	30	29	17
	16	P72	34	28	25
	17	P73	26	22	23
	18	P74	35	30	10
	19	P75	26	22	23
	20	P76	35	26	22
	21	P77	28	26	16
C-2	22	P78	15	10	10
	23	P79	46	41	10
	24	P103	17	15	24.5
	25	P97	22	20	13
	26	P96	30	25	15.5
	27	P102	35	25	19.5
	28	P101	30	20	14
	29	P104	20	20	7
	30	P105	25	21	14.5
	31	P99	22	15	13
	32	P100	30	25	11.5
	33	P98	25	20	16.5
	34	P95	30	25	28
	35	P94	35	30	23
	36	P93	50	40	12
	37	P92B	21	20	11.5
	38	P92A	31	30	30.5
	39	P91	40	30	23.5
	40	P88	45	40	17.5
	41	P90	22	20	8
	42	P89	20	18	6
	43	P87	25	20	8
	44	P54	44	38	13
	1	P5	25	15	-
	2	P6	28	25	13.5
C-3	3	P7	30	25	9
	4	-	45	40	-
	5	P8	35	30	-
	6	P9	30	25	15
	7	P12	35	28	14.5
	8	P11	50	40	17.5
	1	P14	70	50	21
C-4	2	P15	45	35	12
	3	184	44	29	20
	4	179	26	20	26
	5	180	14	12	20
C-4	6	183	32	26	13
	7	181	34	33	24
	8	-	47	34	35
	1	182	32.5	26.5	17
	2	-	66	58	56
C-5	3	-	55	38	43
	4	-	45	33	64
	5	-	50	39	76
	6	502	24.5	24	23
	7	185	51	50	15
	8	-	34	32	62
	1	-	50	45	73
	2	630	18.5	18	32
C-6	3	724	18	18	11
	4	725	25.5	19.5	15
	5	726	26	24	10
	6	727	31	22	71.5
	7	633	42	40	28.5
	8	-	31	25	2
	1	728	20.5	19	34.5
	2	729	18	17	19
	3	634	28	24	20.5
C-7	4	1690	29	23	12
	5	1691	39	39	45
	6	1689	29	26	31
	7	807	31	20.5	27.5
	1	P34	20	15	10.5
	2	P35	38	35	20
	3	P36	40	30	18
	4	P37	25	20	12
	5	P38	30	25	12.5
	6	P39	28	28	10
	7	P40	35	30	24
	8	P41	25	20	16.5
	9	P49	30	28	14
	10	P48	30	22	13.5
	11	P50	40	30	14
D-2	12	P51	25	25	9
	13	P57	40	35	20
	14	P58	55	50	29
	15	P59	30	25	26
	16	P55	40	25	18
	17	P56	40	35	20
	18	P52	35	30	20
	19	P53	35	32	17.5
	20	P47	40	40	10.5
	21	P42	22	15	18.5
	22	P33	22	20	7.5
	23	P43	40	25	10.5
	1	P44	38	35	27
	2	P45	45	35	15.5
	3	P46	35	35	14
D-3	4	P17	28	20	12
	5	P18	25	15	8.5
	6	P19	30	25	7.5
	7	P24	20	15	21
	8	P26	20	20	10
	9	P28	52	50	15
D-4	1	P23	60	50	14.5
	2	P20	22	20	17
	3	P21	16	15	22
D-4	4	P22	28	21	17
	5	P32	40	35	14
	6	187	31	27	20
	1	186	36	34	32.5
	2	195	21	15	12
	3	359	42	40	29
	4	260	30	23	21
	5	261	35	34	23
	6	262	33	31	12.5
	7	303	32	31	12
D-5	8	263	30	29.5	16
	9	191	37	35.5	27
	10	2	33	29	10
	11	259	39	36	20
	12	258	27	25.5	19
	13	225	26	22	19
	14	226	39	29.5	15
	15	257	32.5	29	18
	16	256	30.5	29	9.5
	17	220	45	30	12.5
	18	218	41	41	20
	19	194	40	40	11
	20	304	31	27	20.5
	21	305	29	27	19.5
	1	358	34	30	17
D-6	2	302	45	39	15
	3	23	32	31	18
	4	22	34	33	23
	5	-	50	44	30
	6	-	54	40	28
	7	-	68	45	54
D-7	1	-	35	30	28
	2	808	41	24	39
	1	P110	45	40	28.5
	2	P109	46	40	38.5
	3	P31	20	12	11
E-4	4	P33	42	38	7.5
	5	P108	19	18	13.5
	6	P113	48	45	36
	7	P114	54	44	22.5
	8	P112	28	25	-
	1	227	33.5	29	14
	2	236	26	24	-
	3	237	23	23	19
	4	229	23	22	11.5
	5	230	25	24.5	14.5
	6	231	20	19	13
	7	232	23	22	14.5
	8	228	27	25.5	14.5
E-5	9	235	33	23	24.5
	10	222	43	41	37.5
	11	255	29	28	10
	12	221	59	53	19
	13	190	52	35	48
	14	254	29	28	30
	15	253	28	27	18
	16	224	41	32	14
	17	223	20	21.5	11
	18	246	38	29.5	20
	19	245	25	23	20

表７　ピット観察表②

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
E-5	20	244	29	25	12
	21	243	28	26	27
	22	252	24	22	14
	23	251	24	23	18
	24	247	24	22	15
	25	272	41	34	26
	26	661	29	29	50.5
	27	240	30	28.5	17
	28	273	31.5	29.5	20
	29	275	21	19	14
	30	274	30	25.5	14
	31	242	26	26	16
	32	234	45	41	32
	33	239	30	28	14.5
	34	238	44	37.5	33
	35	233	30	16	23.5
	36	-	43	42	13
	37	-	40	35	25
	38	-	35	28	21
	39	-	44	43	25
	40	188	32	26	13
	41	189	22	17	13
	42	248	27.5	27	14.5
	43	-	40	39	22
	44	-	32	30	32
	45	-	37	36	32
E-6	1	-	32	29	27
	2	-	26	22	9
	3	-	46	40	28
	4	-	41	37	43
	5	-	56	42	35
	6	-	31	30	30
	7	-	45	39	38
	8	-	34	30	30
	9	-	43	33	28
	10	-	32	29	31
	11	-	42	33	29
	12	-	35	27	22
	13	-	57	50	32
	14	-	47	45	31
	15	-	31	30	14
	16	-	42	33	31
	17	-	35	33	17
	18	278	28	28	16.5
	19	307	31	29.5	17
	20	269	23	20	18
	21	276	34	34	14.5
	22	309	30	29	17
	23	271	23	21	13.5
	24	299	28	26	12
	25	298	46	33	21.5
	26	297	39	34	18
	27	192	28	26	12
	28	265	28	27	18
	29	267	52	33	18
	30	264	35.5	30	14
	31	294	29	27	13.5
	32	282	29	28	19
	33	290	27	26	17
	34	281	27	26	14
	35	291	27	23	15
E-6	36	293	29	28	20
	37	280	35	33	24
	38	292	32	30	8
	39	361	23	21	14
	40	193	27	25	13
	41	289	29	27	19.5
	42	287	62	30	11
	43	288	34	32	20
	44	285	27	27	17
	45	284	21.5	20	14
	46	663	20	17	11
	47	241	23	22	16
	48	9	31	30	11
	49	673	27	26	16.5
	50	668	25	23.5	19
	51	666	24.5	23	18.5
	52	665	33	28	21
	53	664	25	25	18
	54	667	25	25	19.5
	55	286	-	-	-
	56	671	28	26	12
	57	672	28.5	22	18
	58	300	55	43	17
	59	361	23	21	14
	60	277	27	25	14.5
	61	670	27	27	18
	62	6	36	35	22
	63	8	40	33	30
F-2	1	235	33	23	24.5
F-5	1	-	49	40	7
	2	-	43	41	27
	3	-	38	34	25
	4	-	38	19	14
	5	-	49	30	14
	6	-	48	43	8
	7	-	34	30	17
	8	-	28	25	27
	9	-	34	32	12
	10	-	55	49	27
	11	-	33	30	8
	12	-	64	50	28
	13	200	37	37	19
	14	-	33	30	17
	15	211	45	40	23
	16	215	27.5	27.5	12
	17	201	46	42	15
	18	701	49	38	12
	19	217	15	12	8.5
	20	-	45	20	11
	21	P122	65	65	-
	22	-	18	16	33
	23	213	18	17	13
	24	498	40	38	24.5
	25	-	39	35	8
	26	-	41	35	28
	27	675	42	34	36.5
	28	198	29	28	16
	29	620	33	29	34
	30	700	62	57	19
F-6	1	210	31	29	21.5
	2	209	43	28	26
F-6	3	208	42	30	23
	4	199	31	27	11
	5	206	26	25	16
	6	205	30	29	18
	7	-	48	41	17
	8	-	31	30	15
	9	-	27	27	13
	10	207	23	22.5	23
	11	367	32	28	26.5
	12	618	30	30	37
	13	669	30	29	17
	14	197	35	34	24
	15	723	26	19	25
	16	344	26	26	14
	17	674	53	43	11
	18	703	28	27	20
	19	704	31	26	25
	20	196	28	26	15
	21	722	29	26	22
	22	619	29	28	24
	23	214	38	27.5	23.5
G-3	1	P220	22	14	20
	2	P221	26	22	18
	3	P222	28	22	29
	4	P223	27	22	31
	5	P224	22	15	15
	6	P225	26	24	14
	7	P226	28	17	16
	8	P227	24	18	12
	9	P228	23	21	12
	10	P229	22	16	15
	11	P230	28	27	-
	12	P231	32	28	-
	13	P232	26	24	16
	14	P233	28	26	13
	15	P234	32	28	26
	16	-	30	25	-
	17	-	35	29	-
G-4	1	P136	30	30	18
	2	P137	32	30	10.5
	3	P138	22	20	6
	4	P141	34	28	7.5
	5	P142	24	14	9.5
	6	P143	26	20	9.5
	7	P213	62	48	25.5
	8	P139	22	16	8
	9	P140	28	20	16
	10	P118	24	20	35
	11	P116	18	16	5
	12	P115	18	18	6
	13	P215	20	18	11
	14	P216	18	16	6
	15	P217	26	24	5.5
	16	P214	30	26	-
	17	P144	24	20	13
	18	P204	26	22	10.5
	19	P205	28	22	23.5
	20	P206	20	16	5
	21	P207	26	22	14.5
	22	P208	36	24	30.5
	23	P212	26	24	9.5
G-4	24	P121	26	24	7.5
G-5	1	P120	28	26	10.5
	2	P135	20	16	14.5
	3	P129	20	20	17
	4	P128	20	18	10.5
	5	P127	24	20	15
	6	P126	28	28	19.5
	7	P125	24	24	20
	8	P124	22	20	16.5
	9	P123	20	28	14.5
	10	P131	26	24	-
	11	P130	38	30	30.5
	12	P133	28	22	8.5
	13	P132	30	30	23
	14	P134	21	20	-
	15	354	24	13.5	36.5
	16	310	46	36	27
	17	311	35	31	22
	18	496	45	43	26.5
	19	489	50	40	23
	20	364	40	39	24
	21	495	26	25	32
	22	-	55	22	18
	23	332	16	15	-
	24	331	30	27	29
	25	355	18	17	12
	26	316	20.5	14	14
	27	314	14	13	18
	28	315	30	17	20
	29	362	31	30	13
	30	-	39	30	28
	31	320	37	36	21
	32	488	36	35	-
	33	-	45	34	22
	34	-	40	19	27
	35	350	28	27	16.5
	36	351	24	24	8
	37	328	22	21	25
	38	492	20	15	47.5
	39	491	21	18	28
	40	317	11	10	10
	41	318	20	18	12
	42	-	33	32	15
	43	480	33	32	15
	44	-	47	42	7
G-6	1	491	21	18	28
	2	721	29	29	29
	3	347	23	19	11.5
	4	481	27	25	16
	5	348	26	23	10
	6	349	30	28	9.5
	7	356	27	22	23
	8	482	34	30	24
	9	-	37	32	25
	10	353	30	27	57
	11	-	28	25	-
	12	322	28	26	35
	13	327	21	18	16
	14	325	28	26	28
	15	326	27	26	19
	16	324	34	30	31
G-6	17	490	27	27	34
	18	-	55	20	26
	19	-	90	31	22
	20	-	50	45	28
	21	504	24	22	19
	22	484	-	-	-
	23	-	40	32	46
	24	321	37	33	23
	25	-	45	36	38
	26	323	46	38	34
	27	486	37	31	19
	28	-	30	28	27
	29	-	37	34	19
	30	463	36	28	20
	31	-	30	29	19
	32	639	27	24	20
	33	731	31	30	28.5
	34	549	42	35	18.5
	35	357	20	18	20
	36	356	27	22	23
	37	503	32	29	20
G-7	1	788	32	29	24
	2	787	38	32	26
	3	2339	32	28	23
	4	2338	24	23	24
G-8	1	2274	29	28	9
	2	2275	27	26	26
	3	2276	29	26	15
	4	2278	28	27	10
	5	2279	28	27	9
H-2	1	P242	23	20	24.5
	2	P243	26	18	8.5
	3	P244	22	18	6.5
	4	P245	18	14	5.5
H-3	1	P236	36	19	2
	2	P237	28	22	13
	3	P238	54	44	28
H-4	1	P211	26	24	27.5
	2	P210	34	30	26.5
	3	P209	26	24	24
	4	-	22	20	13
	5	P145	33	26	15
	6	P202	52	32	14.5
	7	P203	28	27	29.5
	8	P198	33	28	11.5
	9	P199	26	24	32
	10	P201	28	24	5.5
	11	P197	32	24	11.5
	12	P194	34	30	19.5
	13	P195	24	23	5.5
	14	P191	26	20	18
	15	P192	22	21	23
	16	P193	26	20	11.5
	17	-	50	40	-
	18	P188	30	27	-
	19	P189	22	16	19.5
	20	P190	25	20	28
	21	P183	28	20	18
	22	P184	30	26	9
	23	P185	24	20	14
	24	P186	32	30	10.5
H-4	25	-	21	19	-
	26	-	18	11	-
	27	P169	22	18	-
	28	P168	18	16	-
	29	P167	28	18	13
	30	-	11	10	-
	31	P165	20	18	-
	32	P170	20	16	9.5
	33	-	28	18	-
	34	P182	36	26	20
	35	P181	35	32	25.5
	36	P180	26	22	9.5
	37	P173	25	24	17
	38	P171	34	30	25.5
	39	P187	26	20	18
	40	-	18	15	-
	41	P164	32	28	16
	42	P163	28	28	12.5
	43	-	40	25	-
	44	-	22	20	-
	45	P147	28	26	17
	46	P148	38	32	12
	47	-	25	21	-
	48	-	22	21	-
H-5	1	-	25	21	-
	2	-	30	21	-
	3	-	21	17	-
	4	-	23	18	-
	5	-	22	18	-
	6	-	40	30	-
	7	P156	27	23	29.5
	8	P155	43	33	21.5
	9	-	30	22	-
	10	P154	34	22	11.5
	11	P153	23	21	-
	12	P152	40	26	17
	13	P149	34	26	33.5
	14	P150	26	22	-
	15	P151	18	18	11
	16	P159	32	24	18
	17	-	22	20	-
	18	-	20	15	-
	19	-	25	20	-
	20	501	28	22	22.5
	21	766	45	45	32
	22	765	24	24	14
	23	804	29	27.5	35
	24	474	16.5	16	11
	25	756	32	31	75
	26	742	39	31	24.5
	27	743	38	36	19.5
	28	744	25.5	24.5	17
H-6	1	710	36	35	21
	2	474	16.5	16	11
	3	473	23	22	48.5
	4	465	22	19	29.5
	5	464	31	27	28
	6	799	45	40	23
	7	763	18	15	12
	8	762	23	22	15
	9	761	27	26	16
H-6	10	760	26	24	16
	11	759	26	25	16
	12	466	66	65	19
	13	767	33	30	16
	14	841	29	29	15
	15	720	53	47	17
	16	467	26	22	16
	17	719	60	58	10
	18	755	50	42	12
	19	468	20	19	15.5
	20	718	29	28	14
	21	688	29	27	22
	22	822	26	25	15
	23	824	18	18	19
	24	614	26	24	15
	25	840	29	27	26
	26	738	35	23	22.5
	27	687	32	27.5	17.5
	28	737	36	27	21
	29	613	29	29	21
	30	736	25	24	25.5
	31	825	34	33	23
	32	811	33	32	42.5
	33	810	42	31	62
	34	689	23	20	20.5
	35	835	25.5	23	17.5
	36	691	22	21	21
	37	690	22	20.5	19.5
	38	695	28	27	15
	39	610	27	24	18.5
	40	694	33	28	22
	41	693	29	29	26
	42	684	68	49	34
	43	836	46	45	20.5
	44	692	26.5	22	24
	45	739	31	26	21
	46	774	40	36	38
	47	838	31	30	24
	48	607	22	20	13.5
	49	837	34	33	28
	50	772	32	31	30
	51	615	22	21	38
	52	773	31	29	43
	53	740	30	28	31
	54	605	21	17	22
	55	606	25	22	18
	56	604	21	16	14
	57	603	26	24	25
	58	734	32	22.5	21
	59	602	28	24	56
	60	733	32	28	23
	61	732	26.5	25	28
	62	699	22	22	20.5
	63	698	59	47	18.5
	64	659	32.5	31.5	49
	65	770	34	34	21
	66	683	52	34	38.5
	67	771	32	28	32
	68	660	30	27	35.5
	69	769	30	30	23
	70	753	86	42	28.5
H-6	71	781	31	30	23
	72	730	30	28.5	24.5
H-7	1	784	30	29	34
	2	783	36	34	36
	3	782	33	33	24
	4	754	48	39	31
	5	780	25	22	21
	6	779	27	24	18
	7	679	32	30	29
	8	685	40	39	22
	9	741	28	26	22
	10	785	28	28	21
	11	846	35	30	23
	12	677	30	29.5	20
	13	696	28.5	27	35
	14	845	30	23	14
	15	790	24	24	20.5
	16	786	29	28	17
	17	777	25	22	11
	18	842	27	27	20.5
	19	843	26	25	19
	20	844	34	32	19
	21	680	30	29	23
	22	681	33	33	23
	23	791	28	25.5	32
	24	776	28	25	32
	25	793	22	20	31
	26	794	28	24	40
	27	795	26	24	21
	28	775	22	20	15
	29	826	29	28	23
	30	827	49	29	28
	31	829	27	25	29
	32	1772	40	29	25
	33	1778	19	19	15
	34	1777	21	18	12
	35	1775	18	18	19
	36	1774	21	20	16
	37	1776	18	17	11
	38	1773	19	19	23
	39	1783	21	21	14
	40	1782	17	17	18
	41	1779	26	26	23
	42	1780	23	21	16
	43	1781	25	24	27
	44	1785	35	27	17
	45	1784	29	20	12
H-8	1	2272	42	35	24
I-2	1	P240	32	25	8.5
I-3	1	P239	28	26	-
I-4	1	-	45	33	-
	2	P177	24	18	20
	3	-	22	21	-
	4	-	21	20	-
	5	P174	36	34	11.5
	6	P176	21	16	28.5
	7	-	20	15	-
	8	-	31	30	-
	9	P172	22	19	-
	10	-	30	28	-
	11	-	40	30	-

表８　ピット観察表③

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
I-5	1	-	22	16	-
	2	-	20	13	-
	3	746	59	50	31
	4	-	50	48	34
I-6	1	821	37	29	15
	2	820	37	33	16
	3	768	35	32	18
	4	499	26	24	24
	5	805	40	38	8
	6	500	18	18	21
	7	818	28	25	26
	8	819	29	28	27
	9	813	28	26	31
	10	812	30	29	30
J-4	1	H86	27	26	21
	2	H85	32	29	16
	3	H1	53	34	32
	4	H87	34	31	17
	5	H88	23	21	19
	6	H8	28	28	28
	7	H9	33	28	23
	8	H2	26	22	18
	9	H7	26	21	19
	10	H3	50	40	32
	11	H4	35	34	27
	12	H5	27	24	29
	13	H6	25	25	14
	14	H10	40	37	40
	15	H11	30	28	33
	16	H12	21	16	35
	17	H13	33	26	44
	18	H15	23	20	24
	19	H14	24	23	28
	20	H16	29	27	15
	21	H20	27	22	31
	22	H19	29	22	27
	23	H21	36	34.5	35
	24	H22	32	23	30
	25	H18	31	24	29
	26	H23	26	21	22
	27	H17	32.5	23	26
	28	H80	58	29	54
	29	H81	34.5	28	50
	30	H82	25.5	22	17
	31	H83	25.5	21.5	23
	32	H84	23.5	23	38
J-8	1	2270	30	30	17
	2	2269	27	26	33
	3	2268	23	23	15
	4	2161	22	20	10
	5	2162	16	14	16
	6	2163	35	35	7
	7	2158	33	32	8
	8	2157	27	26	22
	9	2159	25	24	15
	10	2160	36	32	30
	11	2461	30	29	20
	12	2164	38	36	24
	13	2165	31	28	27
	14	2255	34	30	25
	15	2254	27	26	29

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
J-9	1	2264	26	24	11
	2	2263	29	26	17
	3	2262	25	23	31
	4	2260	24	17	13
	5	2261	19	16	22
	6	2256	29	28	23
	7	2257	38	31	33
	8	2258	25	22	31
	9	2259	31	31	40
	10	2253	52	45	27
	11	2460	20	19	24
	12	2459	17	16	13
	13	2252	29	20	12
	14	2452	29	25	17
	15	2453	15	15	8
	16	2456	16	15	6
	17	2457	22	20	34
	18	2458	18	17	7
	19	2281	35	34	33
	20	2251	33	25	20
	21	2455	18	15	14
	22	2454	25	16	25
	23	2450	22	19	12
	24	2451	19	18	15
	25	2364	28	27	27
	26	2248	43	34	59
	27	2691	25	23	28
	28	2690	27	26	35
	29	2689	28	24	21
	30	2688	33	27	15
	31	2882	30	30	17
	32	2687	34	24	30
	33	2892	41	38	42
	34	2697	27	24	28
	35	2692	40	34	26
	36	2881	23	21	35
	37	2693	29	28	22
	38	2694	27	25	11
	39	2695	35	32	30
	40	2880	43	35	51
	41	2696	33	32	28
	42	2698	25	24	18
	43	2449	20	19	13
K-4	1	H26	31	29	19
	2	H25	32	29	29
	3	H24	52.5	42	65
	4	H54	59.5	35	33
	5	H55	34	34	33
	6	H78	33	32	15
	7	H31	44	42	24
	8	H27	26	25.5	24
	9	H35	25	20.5	30
	10	H34	29	24	29
	11	H33	60.5	30.5	34
	12	H30	32	23	18
	13	H29	29.5	25	15
	14	H36	25.5	24.5	20
	15	H37	34.5	33	14
	16	H32	46	45	44
	17	H39	30.5	29	36
	18	H38	34	33.5	57

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
K-4	19	H49	29	27.5	41
	20	H48	34.5	31.5	39
	21	H47	36	34	38
	22	H44	36	33.5	17
	23	H46	38	29	24
	24	H45	28	26.5	25
	25	H40	42.5	32	38
	26	H41	45	37.5	41
	27	H56	31	26.5	20
	28	H42	41.5	36.5	52
	29	H43	41	22	34
	30	-	25	24	18
	31	H57	27	19	26
	32	H64	32.5	32	30
	33	H63	27	25	32
	34	H62	26	23.5	37
	35	H50	26.5	26	26
	36	H67	26	25	19
	37	H66	22.5	22	17
	38	H65	27.5	25	23
	39	H61	29	28	17
	40	H51	29	26	40
	41	H52	28.5	27.5	19
	42	H53	28	26	17
	43	H58	29.5	28.5	23
	44	H60	36	33	23
	45	H59	29	25	27
	46	H68	28	27.5	19
	47	H69	26	21	27
	48	H70	33	28	29
	49	H71	27	24	25
	50	H79	26	23	14
K-5	1	-	39	35	20
	2	-	34.5	27	30
	3	-	62	50	40
K-6	1	-	52	38	31
	2	-	26.5	26	19
	3	-	33.5	32.5	19
K-7	1	1886	29	29	18
	2	1890	27	25	19
	3	2208	22	22	9
	4	2378	10	3	11
	5	2209	-	-	-
	6	1885	28	26	29
	7	1893	34	24	40.1
K-8	1	2462	29	20	12
	2	2156	28	28	25
	3	2153	20	20	10
	4	2152	29	23	15
	5	2267	23	22	16
	6	2266	49	49	47
	7	2529	23	21	27
	8	2530	21	17	28
	9	2528	32	29	27
	10	2384	19	17	31
	11	2354	25	21	34.4
	12	2353	30	28	12
	13	2383	15	15	23
	14	2382	30	29	26
	15	2432	44	32	48
	16	2433	30	27	50

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
K-8	17	2431	47	45	56
	18	2107	23	23	11
	19	2106	35	30	33
	20	2430	24	23	23
	21	2083	36	32	12
	22	2493	34	30	40
	23	2438	15	14	17
	24	2439	40	23	29
	25	2572	18	18	3
	26	2265	32	27	32
	27	2437	36	31	16
	28	2436	27	18	31
	29	2435	34	27	36
	30	2146	54	47	46
	31	2145	47	33	29
	32	2440	28	26	35
	33	2149	29	27	23
	34	2441	25	20	38
	35	2148	33	30	34
	36	2441	25	20	38
	37	2232	33	32	53
	38	2231	39	35	70
	39	2442	21	19	20
	40	2233	28	27	43
	41	2556	25	22	18
	42	2494	15	13	39
	43	2230	42	39	69
	44	2332	19	17	41
	45	2229	39	29	37
	46	2331	23	20	27
	47	2088	26	25	48
	48	2084	35	33	53
	49	2329	30	26	62
	50	2434	9	7	25
	51	2150	31	30	46
	52	2237	33	25	47
	53	2238	19	17	53
	54	2151	23	23	24
	55	2154	26	23	51
	56	2138	22	22	13
	57	2155	41	34	29
	58	2139	35	23	25
	59	2246	22	19	12
	60	2245	23	16	33
	61	2376	19	16	15
	62	2247	14	14	12
K-9	1	2375	18	17	9
	2	2241	19	17	14
	3	2240	24	22	18
	4	2137	28	27	34
	5	2373	21	19	16
	6	2134	38	36	46
	7	2133	25	25	33
	8	2372	18	15	11
	9	2135	26	23	28
	10	2136	20	19	18
	11	2374	17	16	28
	12	2239	25	23	31
	13	2140	20	20	24
	14	2336	31	29	61
	15	2243	24	20	39

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
K-9	16	2242	22	19	20
	17	2141	23	22	16
	18	2244	45	20	45
	19	2377	17	17	18
	20	2142	29	24	24
	21	2271	36	27	16
	22	2144	25	19	23
	23	2236	23	22	24
	24	2235	29	20	44
	25	2131	37	28	34
	26	2132	25	23	34
	27	2443	43	26	32
	28	2127	27	27	10
	29	2371	16	15	17
	30	2567	19	15	13
	31	2126	24	22	7
	32	2446	22	20	23
	33	2124	28	28	25
	34	2125	20	17	32
	35	2120	25	25	23
	36	2445	17	16	19
	37	2123	18	17	17
	38	2122	31	20	13
	39	2121	23	22	9
	40	2365	7	7	10
	41	2334	16	14	7
	42	2335	13	10	7
	43	2118	41	39	35
	44	2119	30	30	26
	45	2117	25	23	7
	46	2116	18	16	7
	47	2115	24	22	11
	48	2333	18	15	13
	49	2112	31	28	23
	50	2114	46	28	24
	51	2533	45	28	57
	52	2113	30	18	15
	53	2532	45	40	60
	54	2444	19	18	20
	55	2110	31	27	14
	56	2228	44	36	39
	57	2227	29	28	41
	58	2109	23	21	13
	59	2105	27	27	19
	60	2104	29	24	19
	61	2103	25	20	18
	62	2102	44	43	32
	63	2101	40	38	33
	64	2099	28	21	10
	65	2100	14	14	6
	66	2098	35	33	36
	67	2097	26	26	12
	68	2096	19	10	6
	69	2531	40	20	47
	70	2093	31	29	22
	71	2092	34	28	26
	72	2091	25	22	30
	73	2086	27	26	40
	74	2087	26	24	52
	75	2234	27	21	39
	76	2128	26	23	16

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
K-9	77	2129	28	27	17
	78	2447	24	24	25
	79	2130	37	29	45
	80	2448	29	28	47
	81	2888	26	25	24
	82	2705	28	24	27
	83	2704	27	24	31
	84	2703	28	28	24
	85	2887	23	21	37
	86	2870	20	20	21
	87	2871	21	21	25
	88	2891	44	36	39
	89	2869	29	23	17
	90	2890	19	18	20
	91	2699	28	27	32
	92	2700	35	34	26
	93	2701	29	23	19
	94	2872	30	30	27
	95	2886	26	24	37.9
	96	2885	17	17	13
	97	2884	23	21	22
	98	2889	18	17	21
	99	2702	21	23	20
	100	2710	24	24	17
	101	2712	31	30	22
	102	2711	36	34	14
	103	2713	22	22	15
	104	2714	23	22	6
	105	2715	10	10	4
	106	2716	48	37	32
	107	2717	23	23	33
	108	2709	37	36	22
	109	2706	22	20	15
	110	2873	27	26	22
	111	2874	22	21	39
	112	2707	45	43	54
	113	2708	43	26	54
	114	2722	16	16	11
	115	2723	24	18	22
	116	2724	23	23	22
	117	2725	19	16	11
	118	2727	25	22	25
	119	2143	26	25	28
L-4	1	H74	25	22.5	40
	2	H73	34.5	30	29
	3	H72	38.5	28.5	41
	4	H77	31	22	38
	5	H76	41.5	35	27
	6	H75	34	26	11
L-5	1	-	53	37	27
	2	-	28.5	23.5	12
	3	-	47	35	31
	4	-	38	27.5	12
	5	-	34	26	16
	6	-	38.5	38	28
L-6	1	H97	32	26.5	39
	2	H98	25	24	18
	3	H96	24	23	45
	4	H95	29	27.5	20
	5	-	33	26	12
	6	-	28	26	9

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
L-6	7	H94	40	38.5	26
	8	-	36	17.5	10
	9	H97	31	26	39
	10	-	44.5	22.5	10
	11	H101	27	26.5	12
	12	-	35	33	15
	13	-	22.5	22	15
L-7	1	1884	28	27	41
	2	1883	34	32	34
	3	1882	24	23	10
	4	1881	46	37	40
	5	1880	16	16	9
	6	1879	30	27	25
	7	1878	29	29	35
	8	1877	16	16	29
	9	1876	32	30	25
	10	1875	20	18	32
	11	1874	30	28	32
	12	1873	18	18	15
	13	1872	14	13	10
	14	2223	22	18	37
	15	1887	29	27	29
	16	2207	28	28	28
	17	1747	30	29	16
	18	1748	40	34	46
	19	1749	41	38	37
	20	1751	48	34	42
	21	1752	25	20	14
	22	1750	60	47	43
	23	1753	29	27	8
	24	1754	19	19	20
	25	1892	35	32	9
	26	1771	32	24	7
	27	1746	42	42	30
	28	1745	32	17	29.1
	29	1744	24	23	23
	30	1770	22	19	6
	31	1755	17	16	11
	32	1756	26	20	34
	33	1759	28	20	8
	34	1758	25	24	14
	35	1757	35	30	34
	36	1894	30	30	21
	37	1761	23	23	29
	38	1760	23	22	43
	39	1768	31	27	11
	40	1767	41	39	22
	41	1762	29	28	14
	42	1763	26	26	27
	43	1729	46	45	34
	44	2222	23	23	70
	45	1764	50	41	26
	46	1765	35	31	15
	47	1766	15	12	12
	48	2205	28	24	18.3
	49	2204	28	24	34
	50	2206	30	27	40
	51	2355	26	22	11
L-8	1	2203	8	7	16
	2	2202	34	24	38
	3	2198	14	13	3

レイアウトNo.区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
L-8	4	2201	19	19	35
	5	2197	50	29	23
	6	2200	29	25	35
	7	2356	11	11	32
	8	2350	43	38	47
	9	2406	15	15	15
	10	2351	73	56	27
	11	2380	20	18	39
	12	2381	24	24	13
	13	2352	26	22	51
	14	2199	30	30	25
	15	2186	30	29	16
	16	2195	46	39	26.4
	17	2194	42	23	41
	18	2190	26	20	76
	19	2189	42	35	34
	20	2187	45	35	66
	21	2218	68	45	82
	22	2219	36	25	15
	23	2220	25	22	47
	24	2221	24	12	5
	25	2067	29	28	33
	26	2066	41	35	42
	27	2326	16	16	25
	28	2323	24	17	45
	29	2325	27	17	8
	30	2324	23	22	28
	31	2322	29	27	16
	32	2068	25	23	28
	33	2327	31	17	50
	34	2071	27	25	39
	35	2069	25	25	25
	36	2070	20	19	24
	37	2065	26	26	20
	38	2037	28	27	24
	39	2038	28	28	13
	40	2036	40	37	31
	41	2035	23	23	20
	42	2033	27.5	22	20
	43	2034	26	23	30
	44	2032	26	23	20
	45	2031	24	24	24
	46	2030	29	26	28
	47	2024	32	26	11
	48	2320	25	21	12
	49	2010	18	16	7
	50	2009	26	24.5	20
	51	2008	28	28	36
	52	2022	22	21	12
	53	2004	19	18	58
	54	2217	21	15	15
	55	2006	29	23	21
	56	2007	23	22	16
	57	2015	21	20	17
	58	2014	29	29	30
	59	2011	19	19	6
	60	2013	18	17	15
	61	2012	25	25	26
	62	2023	25	25	24
	63	2022	22	21	12
	64	2321	22	20	11

表９　ピット観察表④

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
L-8	65	2029	20	20	11
	66	2046	46	28	16.9
	67	2045	23	20	12
	68	2044	31	26	23
	69	2041	34	27	31
	70	2042	23	20	12
	71	2043	26	26	15
	72	2062	25	23	7
	73	2040	25	25	18
	74	2039	20	20	7
	75	2064	23	23	25
	76	2063	18	17	5
	77	2061	35	32	30
	78	2074	18	17	6
	79	2072	19	19	5
	80	2073	21	19	8
	81	2328	42	39	40
	82	2081	25	25	17
	83	2082	38	40	32
L-9	1	2085	21	17	53
	2	2089	36	32	34
	3	2094	33	29	28
	4	2370	29	27	35
	5	2080	24	24	13
	6	2079	24	20	28
	7	2078	40	40	44
	8	2090	20	20	17
	9	2075	26	26	22
	10	2059	25	21	14
	11	2077	31	30	23
	12	2076	19	19	26
	13	2058	29	26	50
	14	2057	8	9	7
	15	2056	16	16	11
	16	2226	11	11	14
	17	2055	14	10	5
	18	2054	17	15	16
	19	2053	24	20	16
	20	2052	22	20	22
	21	2051	27	24	27
	22	2060	17	16	12
	23	2047	19	17	6
	24	2048	32	27	23
	25	2049	25	22	16
	26	2050	24	22	26
	27	2026	28	27	6
	28	2025	20	19	11
	29	2225	24	22	48
	30	2017	24	23	29
	31	2016	17	15	6
	32	2002	14	12.5	6
	33	2001	40	29	37
	34	1591	26	20	38
	35	1590	50	25	26.1
	36	1993	28	26	18
	37	1994	28	27	27
	38	1995	25	21	19
	39	1996	21	21	9
	40	1997	18	17	10
	41	2319	26	25	41
	42	1999	26	25	35

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
L-9	43	2000	52	49	41
	44	2018	33	29	8
	45	2019	24	17	9
	46	2020	30	26	22
	47	2021	18	17	10
	48	2027	21	20	11
	49	2028	28	27	12
	50	2718	22	16	14
	51	2719	41	41	45
	52	2720	31	28	22
	53	2721	38	32	31
	54	2726	32	30	20
	55	2728	21	20	20
	56	2729	25	25	22
	57	2730	16	15	10
	58	2731	24	23	32
	59	2732	22	19	12
	60	2875	27	23	62
	61	2740	22	21	23
	62	2738	20	18	11
	63	2739	28	27	26
	64	2733	23	22	26
	65	2737	23	20	20
	66	2734	35	25	20
	67	2736	30	29	37
	68	2735	29	26	49
	69	2749	24	23	24
	70	2750	26	25	12
	71	2751	31	30	38
	72	2752	30	26	24
L-9	73	2053	24	20	16
	74	2748	40	34	35
	75	2746	19	17	16
	76	2747	28	25	17
	77	2755	21	20	21
	78	2754	25	13	11
	79	2745	13	13	5
	80	2744	22	19	31
	81	2742	18	17	16
	82	2743	20	20	17
	83	2741	30	28	22
	84	2760	28	27	10
	85	2759	28	27	23
	86	2758	30	26	21
	87	2876	29	29	26
	88	2761	24	21	10
	89	2878	37	36	9
	90	2879	35	28	26
	91	2877	26	23	23
	92	2762	29	25	16
	93	2757	12	11	8
	94	2756	23	21	10
	95	2769	31	30	34
	96	2768	26	24	31
	97	2770	40	36	33
	98	2771	19	17	19
	99	1593	30	23	35
	100	1594	27	22	14.9
	101	2767	24	21	32
	102	3109	18	15	26.2
	103	2766	22	20	18

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
L-9	104	2763	37	30	32
	105	2764	31	30	33
	106	2765	32	30	38
	107	3106	35	29	61.2
	108	-	54	53	52.5
M-5	1	-	28.5	25	51
	2	-	26.5	22	6
	3	-	21	18	8
	4	-	37	33.5	9
	5	-	33	32	35
	6	H124	37	33	36
	7	-	27	27	12
	8	H126	36	34	21
	9	-	18	17.5	10
	10	-	28	19	7
M-6	1	H114	28	27	19
	2	H113	39	32.5	37
	3	H112	34	32	15
	4	-	22	21.5	6
	5	H115	34	25	27
	6	-	31	28	-
	7	H111	25.5	20	14
	8	H103	24	21	28
	9	H102	28	26.5	20
	10	H110	26	20	16
	11	-	30	26	12
	12	-	36.5	34.5	34
	13	H116	26	22	12
	14	H109	23	21	29
	15	H108	26	23.5	13
	16	H107	49.5	35.5	30
	17	H117	32	25.5	21
	18	H118	30	25	12
	19	-	25	22.5	12
	20	-	33	32	-
	21	H128	37.5	36	75
	22	-	33	30	-
	23	H127	32	32	14
	24	-	37	36	-
	25	-	21.5	17.5	12
	26	-	19	18	8
	27	H129	36	26	55
	28	H130	41	38.5	27
	29	H131	29	27.5	31
	30	H133	41	32.5	29
	31	H132	32	30	44
	32	-	30	28.5	11
	33	-	22.5	17	12
	34	-	17.5	17	14
M-7	1	1743	48	41	45.5
	2	1742	21	14	11
	3	1741	52	49	31
	4	1740	40	38	20
	5	1739	50	35	22
	6	1738	23	14	15
	7	1736	30	28	12
	8	1737	12	12	9
	9	1734	33	33	9
	10	1735	33	31	37
	11	1733	25	22	8
	12	1143	31	30	36

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
M-7	13	1142	28	24	43
	14	1144	56	30	19
	15	1091	29	27	22
	16	1117	25	25	23
	17	1118	33	27	15
	18	1090	38	37	44
	19	1146	46	27	19
	20	1145	46	27	19
	21	1128	29	29	28
	22	1127	27	26	24
	23	1126	57	49	60
	24	1111	35	32	21
	25	1112	30	26	25
	26	1113	27	22	9
	27	1115	24	22	21
	28	1116	29	26	9
	29	1129	56	50	74.5
	30	1087	24	24	16
	31	1086	29	26	15
	32	1085	33	30	28
	33	1151	24	24	16
	34	1088	29	27	31
	35	1119	24	24	31
	36	1092	31	29	32
	37	1724	38	37	15
	38	1725	26	23	10
	39	1726	36	32	22
	40	1730	42	42	27
	41	1731	23	21	17
M-7	42	1732	20	19	13
	43	1727	22	20	8
	44	1728	47	41	22
	45	1719	44	38	22
	46	1720	42	32	14
	47	1716	37	35	12
	48	1717	26	25	10
	49	1718	26	23	9
	50	1713	34	29	17
	51	2211	20	11	18.6
	52	1714	39	35	22
	53	1711	19	17	10
	54	1712	26	17	8
	55	1715	52	41	31
	56	1140	31	30	38
	57	1721	29	28	35
	58	1722	31	30	20
	59	1723	28	25	34
	60	1120	76	62	74.5
	61	1139	32	31	29
	62	1137	49	42	64
	63	1102	41	40	36
	64	1138	32	32	31
	65	1134	40	34	70
	66	1133	42	39	21
	67	1101	35	33	19
	68	1093	31	30	16
	69	1121	30	26	37
	70	1122	36	28	37
	71	1136	40	36	44
	72	1130	57	56	20
	73	1123	29	22	55

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
M-7	74	1089	33	28	55
	75	1105	57	57	52
	76	1104	62	50	40
	77	1100	55	54	51
	78	1095	21	21	12
	79	1096	37	27	37
	80	1094	30	30	17
	81	1098	29	25	23
	82	1097	29	27	28
	83	1169	29	26	34
	84	1041	33	32	48
	85	1131	37	31	32
	86	1135	33	27	13
	87	1178	32	32	22
M-8	1	1161	72	34	22
	2	1158	39	32	49
	3	2191	24	23	14
	4	1870	38	29	19
	5	1871	30	26	18
	6	2484	23	22	24
	7	2625	40	30	91.3
	8	2486	28	28	30
	9	1869	25	23	26.9
	10	1868	24	24	18
	11	1945	26	26	14
	12	1944	39	24	61.6
	13	1943	46	23	12.1
	14	1941	54	42	68
	15	1939	37	18	70.2
	16	1938	16	29	24.2
	17	1940	14	7	14
	18	1942	82	42	15
	19	2618	45	37	56.6
	20	1865	39	25	49
	21	1867	40	39	45
	22	1866	52	39	32
	23	1864	75	59	77
M-8	24	1933	30	24	60
	25	1932	30	30	24
	26	1931	26	23	24
	27	1863	37	29	32
	28	1958	17	15	6
	29	1604	50	33	62
	30	1605	51	30	46
	31	1606	36	32	26
	32	1862	30	25	36
	33	1861	28	23	24
	34	1860	30	26	16
	35	1859	33	29	43
	36	1603	62	37	32
	37	1930	22	20	25
	38	1929	22	20	24
	39	1601	18	18	9
	40	1600	22	21	26
	41	1599	20	20	16
	42	1602	21	20	14
	43	1166	57	53	27
	44	2474	24	22	13
	45	2475	37	30	15
	46	1164	59	25	29
	47	1163	59	44	59

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
M-8	48	1162	34	27	14
	49	1160	31	30	39
	50	1159	29	23	25
	51	2192	32	26	9
	52	2491	37	35	48
	53	2490	22	20	14
	54	2193	41	39	36
	55	2489	20	16	12
	56	2488	22	22	17
	57	2188	38	36	59
	58	2487	29	26	21
	59	2483	30	30	14
	60	2481	27	24	20
	61	2482	19	17	20
	62	1934	39	36	27
	63	2480	21	20	12
	64	2485	28	27	22
	65	2550	13	12	4
	66	2476	24	23	34
	67	1946	36	36	13
	68	1936	28	7	17.5
	69	1935	16	15	7
	70	1937	27	27	25
	71	1926	49	35	29
	72	1925	30	25	28
	73	1927	50	49	77
	74	1858	30	30	51
	75	1572	29	29	25
	76	2605	45	29	50
M-8	77	1852	35	33	50
	78	1571	35	34	49
	79	1570	29	20	9
	80	1569	26	24	22
	81	1568	25	23	19
	82	1567	24	21	18
	83	1851	34	34	86
	84	1532	35	31	26
	85	1531	29	26	22
	86	1530	27	26	8
	87	1842	27	26	37
	88	1843	25	20	19
	89	1529	20	18	16
	90	1841	25	22	12
	91	1840	21	12	4
	92	1839	65	59	78
	93	1838	37	30	46
	94	1837	23	22	24
	95	1836	20	15	18
	96	1834	27	24	13
	97	1835	32	31	29
	98	1528	29	18	48.8
	99	1527	43	29	42
	100	1928	15	7	7
	101	1526	21	23	15
	102	1525	25	23	16
	103	1524	34	30	27
	104	1523	25	21	16
	105	1533	39	20	23
	106	1534	31	30	20
	107	1566	24	23	24
	108	1850	24	22	16

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
M-8	109	1565	30	29	47
	110	1578	20	17	9
	111	1579	30	28	16
	112	1573	29	27	28
	113	1853	27	24	29
	114	1574	32	30	34
	115	1575	27	24	29
	116	1576	32	29	26
	117	1924	27	26	22
	118	1923	39	33	17
	119	1922	23	20	17
	120	1857	15	15	10
	121	1854	34	28	42
	122	1577	37	35	43
	123	1855	22	22	35
	124	1581	51	50	54
	125	1918	22	16	13
	126	1917	18	18	13
	127	1580	19	18	13
	128	1564	51	51	35
	129	1916	23	21	13
	130	1848	16	14	22
	131	1849	18	18	17
	132	1551	43	39	43
	133	1522	31	25	16
	134	1521	24	22	27
	135	1914	14	14	11
	136	1165	51	47	21
	137	2470	26	25	26
M-9	1	1921	21	20	17
	2	1589	43	40	50
	3	1588	24	23	11
	4	1856	27	25	28
	5	1587	32	28	41
	6	1595	43	25	17
	7	1586	37	35	47
	8	1919	26	25	16
	9	1585	30	26	24
	10	1582	29	25	8
	11	1583	29	26	47
	12	1563	35	25	21
	13	1584	31	30	33
	14	1561	31	30	37
	15	1562	24	22	16
	16	1553	26	25	21
	17	1552	30	29	16
	18	1535	23	21	19
	19	1844	23	22	19
	20	1550	21	21	12
	21	1549	20	20	10
	22	1915	14	10	9
	23	1548	22	22	12
	24	1846	26	25	13
	25	1847	19	19	12
	26	1845	26	26	20
	27	1957	25	23	27
	28	1536	24	23	14
	29	1537	18	18	13
	30	1547	29	25	9
	31	1546	37	34	42
	32	1545	17	15	11

レイアウトNo.		遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
区	番号				
M-9	33	1544	30	26	13
	34	1538	30	27	24
	35	1539	40	35	29
	36	1540	31	30	31
	37	1541	26	24	18
	38	1542	41	30	18
	39	1543	34	33	21
	40	1554	46	28	16
	41	1920	25	24	16
	42	1592	28	26	25
	43	1596	32	23	43
	44	1597	30	29	38
	45	1598	31	29	29
	46	1560	33	30	25
	47	1559	26	22	12
	48	1555	33	31	10
	49	1557	40	24	28
	50	1558	32	28	16
	51	1518	33	24	35
	52	1517	27	25	18
	53	1516	31	26	25
	54	1515	23	19	8
	55	1520	24	21	19
	56	1519	21	19	7
	57	1511	29	26	20
	58	1512	24	18	8
	59	1913	31	26	15
	60	1510	25	24	15
	61	1912	37	21	8
	62	1509	21	20	9
M-9	63	1911	30	25	24
	64	1507	25	23	14
	65	1508	19	19	16
	66	1513	17	16	19
	67	1514	20	20	19
	68	2772	20	18	7
	69	2773	46	32	25
	70	3113	24	23	27
	71	2782	24	22	32
	72	2783	28	26	24
	73	3114	30	26	23.1
	74	2784	39	39	20
	75	2785	34	30	47
	76	3097	30	29	28.6
	77	3098	19	19	22.4
	78	3099	21	18	25.2
	79	2786	18	17	16
	80	2787	34	33	13
	81	2788	20	20	12
	82	2793	5	5	-
	83	2794	22	19	25
	84	2795	30	22	65
	85	2792	17	16	6
	86	2790	45	27	5
	87	3081	31	26	25.3
	88	3082	33	28	20.9
	89	2789	31	30	4
	90	3083	-	-	-
	91	2791	36	31	6
	92	3084	51	37	42
	93	2780	40	34	20

表10　ピット観察表⑤

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
M-9	94	2781	36	30	48
	95	3096	21	19	13.3
	96	3095	34	25	19.2
	97	3094	25	24	13.8
	98	3100	27	25	35.3
	99	2776	28	28	18
	100	3102	24	22	8.4
	101	2775	20	18	7
	102	3103	13	12	6.7
	103	2774	27	25	22
	104	3104	28	25	17.9
	105	3105	25	21	13.4
	106	3101	25	25	6.5
	107	3093	21	19	15.1
	108	3092	20	15	14.7
	109	2777	24	23	22
	110	3090	23	23	19.5
	111	3091	25	21	12.4
	112	2779	33	30	30
	113	3087	29	26	16.3
	114	3088	21	19	15.5
	115	3089	21	20	12.8
	116	3107	18	16	20.1
	117	3108	24	20	35.7
	118	2778	20	20	12
	119	3086	25	25	22.4
	120	3085	29	25	45.5
	121	1556	20	19	14
N-5	1	-	28	27	33
	2	H120	33	32	17
	3	H121	28.5	24	23
	4	-	110	86	22
	5	-	35	32.5	35
	6	-	28.5	16	24
	7	-	33	31	43
	8	H149	51.5	48	19
	9	-	27	23	8
	10	-	23	21	38
	11	-	28	18	12
	12	H148	41	34	13
	13	H122	32	28.5	22
	14	H123	32	27.5	16
	15	-	46	40.5	55
	16	-	31	29	6
	17	-	41.5	41	32
	18	-	28	26	23
N-6	1	H141	35	31	37
	2	H142	44	35	48
	3	H140	38	35.5	32
	4	-	31	29.5	6
	5	H145	37	35.5	22
	6	H143	30	22	32
	7	H144	94	42	51
	8	H146	30	28	27
	9	H147	29	27	24
	10	-	29.5	24	15
	11	-	33.5	30	-
	12	-	37	33.5	-
	13	H139	40	39	30
	14	-	40.5	28	12
	15	H138	23.5	23.5	29

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
N-6	16	H137	34	31	29
	17	-	24.5	21	14
	18	-	29	24	7
	19	H136	29	27.5	31
	20	H135	40.5	39.5	23
	21	H134	34.5	30.5	31
	22	-	33.5	31	-
	23	-	26	22.5	16
	24	-	32.5	30	13
	25	H152	24.5	23.5	18
	26	H150	23.5	19.5	24
	27	H151	30	25	29
	28	H160	29.5	29	20
	29	H164	36	30	8
	30	H165	39	36	11
	31	H166	34	33	20
	32	H167	40	32.5	38
	33	-	32	28.5	-
N-7	1	1149	40	37	11
	2	1150	26	26	19
	3	1148	65	50	55
	4	1078	30	30	26
	5	1185	26	26	56
	6	1107	30	24	6
	7	1108	30	26	45
	8	1177	23	19	33
	9	1109	29	25	54
	10	1077	30	29	25
	11	1076	38	37	22
	12	1170	36	31	43
	13	1171	28	27	49
	14	1110	30	30	32
	15	1172	25	24	13
	16	1155	28	20	29
	17	1075	31	28	27
	18	1154	24	23	25
	19	1153	19	17	15
	20	1074	20	17	24
	21	1168	19	19	28
	22	1181	44	40	9
	23	1182	67	23	21
	24	1099	30	24	26
	25	1114	50	48	34
	26	1084	28	26	8
	27	1083	23	22	21
N-8	1	1180	76	55	12
	2	2552	36	32	56
	3	2553	21	16	15
	4	2554	25	20	60
	5	1196	38	32	43
	6	1195	30	29	30
	7	1187	23	23	14
	8	2521	24	16	30
	9	2415	25	20	32
	10	2414	26	26	69
	11	2413	32	29	25
	12	1501	37	31	32
	13	1493	27	24	25
	14	1494	49	34	32
	15	1500	23	21	17
	16	1502	21	18	19

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
N-8	17	1499	33	32	23
	18	1832	17	16	13
	19	1831	24	22	12
	20	1829	31	26	43
N-9	1	1953	19	19	27
	2	1952	21	20	18
	3	1503	24	23	16
	4	1504	30	25	12
	5	1951	21	19	19
	6	1498	24	23	28
	7	1497	33	31	30
	8	1495	34	27	43
	9	1496	33	29	42
	10	1961	37	25	10
	11	1960	25	22	15
	12	1833	30	29	25
	13	2180	23	22	11
	14	2179	42	34	38
	15	1956	18	17	9
	16	2178	22	27	9
	17	1959	26	24	26
	18	1830	29	28	25
	19	1907	29	26	29
	20	1906	22	22	17
	21	1909	26	24	28
	22	1908	29	28	43
	23	1910	30	25	16
	24	1505	24	23	27
	25	1506	24	23	29
	26	2801	29	25	3.7
	27	2799	35	33	8
	28	2802	36	30	4.1
	29	3075	25	24	26
	30	2797	48	27	6.3
	31	3112	28	26	8.6
	32	2798	28	26	8.6
O-5	1	-	29.5	28	41
O-6	1	H155	38	37	49
	2	H156	31	30	41
	3	H157	27	22	27
	4	H158	30	24	32
	5	H159	29	28	31
	6	-	33	32	23
	7	H161	32	31	35
	8	H162	40	36	45
	9	H163	34	33	28
	10	H168	41	30	51
	11	H183	32	28	31
	12	H184	27	22	29
	13	H185	38	28	24
	14	H181	30	26	36
	15	-	35	34	35
	16	H169	31	29	18
	17	H170	40	30	50
	18	H171	30	28	17
	19	H180	44	28	16
	20	H179	32	29	14
	21	H178	31	28	13
	22	H177	30	27	25
	23	H172	29	24	25
	24	H173	34	30	52

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
O-6	25	H174	31	27	18
	26	H175	23	19	25
	27	-	26	21	8
	28	H176	46	34	41
	29	H187	25	24	37
	30	H188	34	28	13
	31	H189	34	32	34
	32	H190	33	33	66
	33	H191	30	25	37
	34	H192	33	30	31
	35	-	21	20	18
	36	H193	32	29	37
	37	H194	34	30	39
	38	H196	35	33	52
	39	H195	35	32	32
	40	H227	32	22	12
	41	H226	32	28	33
	42	H224	46	44	30
	43	H225	27	24	30
	44	H223	44	32	31
	45	H222	43	28	31
	46	H220	30	26	22
	47	H221	27	26	-
	48	H219	53	42	21
	49	H218	26	23	18
	50	-	25	24	16
	51	H215	34	23	35
	52	H216	41	30	17
	53	-	25	18	11
	54	H214	32	28	25
	55	H213	38	28	40
	56	H212	44	32	33
	57	H211	31	29	19
	58	H210	36	32	27
	59	H230	46	45	32
	60	H15	60	37	30
	61	H16	39	24	18
	62	H14	26	15	24
	63	-	25	22	-
	64	H200	28	27	45
	65	H13	28	27	27
	66	-	28	24	-
	67	H197	34	32	22
	68	H12	37	30	12
	69	H11	34	23	25
	70	H10	28	21	25
	71	H198	52	41	25
	72	H201	25	21	17
	73	H7	22	13	31.5
	74	H6	21	18	27
	75	H235	36	28	30
	76	H234	36	28	33
	77	-	41	29	15
O-7	1	1055	24	21	22
	2	1056	30	30	27
	3	1057	24	24	14
	4	1034	25	23	10
	5	1033	36	29	34
	6	1032	29	28	21
	7	1073	28	22	23
	8	1030	35	33	36

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
O-7	9	1029	21	18	8
	10	1031	30	28	14
	11	1059	21	15	30
	12	1035	26	23	12
	13	1028	31	21	7
	14	1026	26	22	23
	15	1027	22	22	12
	16	1025	24	23	28
	17	1018	25	21	23
	18	1024	29	28	20
	19	1106	22	22	21
	20	1014	34	27	24
	21	1016	18	16	5
	22	1017	19	19	11
	23	1015	22	20	9
	24	1013	30	28	10
	25	1010	22	19	21
	26	1011	34	31	25
	27	1008	22	19	17
	28	1009	21	19	13
	29	1007	28	20	27
	30	1004	24	22	21
	31	1005	20	18	13
	32	1006	29	17	14
	33	1003	34	32	25
	34	1002	21	21	41
	35	999	36	31	21
	36	998	28	27	29
	37	1054	26	23	12
	38	1000	36	33	37
	39	1001	61	59	56
	40	1052	16	14	7
	41	1053	20	20	8
	42	995	57	47	24
	43	1036	24	22	39
	44	1051	21	21	9
	45	1037	27	25	17
	46	1050	23	21	20
	47	1023	24	22	34
	48	997	33	20	23
	49	996	25	24	9
	50	994	21	21	14
	51	1022	27	22	15
	52	1021	21	21	9
	53	970	24	23	30
	54	H207	48	41	46
	55	H239	29	26	64
	56	H238	42	46	45
	57	H237	36	35	22
	58	H208	39	35	42
	59	H209	35	32	26
	60	H236	28	26	20
	61	H202	28	26	-
	62	H233	54	53	34
	63	H244	29	28	24
	64	H243	25	23	20
	65	H242	32	29	30
	66	H241	51	50	64
	67	H240	32	25	22
	68	-	24	21	13
	69	-	44	39	15

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
O-7	70	-	21	20	-
	71	H204	29	28	27
	72	H203	34	18	17
	73	H205	33	32	36
	74	H206	38	30	-
	75	-	22	20	26
	76	-	62	60	34
	77	-	32	30	19.5
	78	-	21	20	32.5
	79	-	20	18	-
	80	1012	26	23	39
O-8	1	1152	21	20	27
	2	1019	28	24	38
	3	1042	24	22	21
	4	1020	29	27	23
	5	1483	23	21	18
	6	1955	23	22	5
	7	1954	25	23	26
	8	1488	17	14	7
	9	1904	18	17	28
	10	1492	36	25	20
	11	1905	22	21	14
	12	1491	37	35	16
	13	1903	19	18	22
	14	1902	30	19	31
	15	1901	17	15	14
	16	1486	28	28	45
	17	1485	26	25	9
	18	1487	21	19	6
	19	1900	25	23	23
	20	1821	15	15	20
	21	1898	18	18	29
	22	1489	26	24	27
	23	1899	18	17	7
	24	1313	36	26	45
	25	1990	28	24	56
	26	1988	24	24	29
	27	1989	25	24	57
	28	1991	24	20	37
	29	1317	23	22	21
	30	1987	25	24	52
	31	1318	25	21	39
	32	1984	19	17	35
	33	1985	27	26	22
	34	1986	24	19	14
	35	1983	20	20	34
	36	1982	19	16	41
	37	1319	22	20	12
	38	1981	19	18	23
	39	1979	23	22	31.5
	40	1978	36	35	39
	41	1482	60	34	29
	42	1314	27	26	21
	43	1479	23	23	36
	44	1305	-	-	-
	45	1476	20	20	15
	46	1397	38	31	27
O-9	1	1828	20	18	14
	2	1950	25	24	26
	3	1490	27	23	21
	4	1827	19	18	8

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
O-9	5	1826	18	18	13
	6	1949	23	19	21
	7	1824	17	14	10
	8	1825	27	26	20
	9	1948	26	26	14
	10	1823	21	18	10
	11	1947	24	24	21
	12	1822	20	19	8
	13	1320	30	26	47
	14	1980	50	30	58
	15	1977	42	40	74
	16	1976	24	23	74
	17	1975	18	18	20
	18	1974	20	19	7
	19	1973	23	20	10
	20	1992	25	20	21
	21	1396	27	24	37
	22	1395	25	22	23
	23	1683	25	24	20
	24	1394	32	29	34
	25	1688	40	33	32
	26	1972	27	24	11
	27	1971	25	23	11
	28	1687	30	26	24
	29	1684	40	37	40
	30	1686	16	15	15
	31	1685	50	41	18
	32	2803	29	28.5	6
P-6	1	H288	27	25	27
	2	H289	22.5	21	22
	3	H287	29	27.5	28
	4	H290	48.5	37	34
	5	H369	49	46	27
	6	H286	38	37	42
	7	H285	38.5	36	47
	8	H284	30	29	30
	9	H283	29	28	41
	10	H257	46.5	45.5	39
	11	H256	22	21.5	23
	12	-	26.5	24.5	18
	13	H255	28	22	31
	14	-	26	22.5	30
	15	H253	36	30	48
	16	H258	49	47.5	38
	17	-	10	9	-
	18	H259	13.5	12	16
	19	H261	29.5	27	31
	20	H260	22.5	21.5	15
	21	H229	52.5	37	112
	22	H228	27.5	26	21
	23	-	37	35	-
	24	-	30	25	29
	25	H252	25	24	30
	26	H293	24	19	28
	27	H292	29.5	29	27
	28	H291	28.5	19.5	19
	29	-	28	23	-
	30	-	31.5	24	11
	31	H282	46	30.5	45
	32	H262	19	18	21
	33	H263	24	20	25

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P-6	34	H357	28.5	26.5	22
	35	H354	26.5	22.5	19
	36	H353	30.5	30	27
	37	H352	31.5	25	10
	38	-	28	20	-
	39	H356	25.5	24	20
	40	H351	33.5	24	26
	41	H294	28.5	23.5	30
	42	H295	26	21	41
	43	H296	23	17.5	21
	44	H297	21	20	20
	45	H281	14.5	12	16
	46	H280	20.5	20	14
	47	-	27	18.5	8
	48	-	26	24.5	19
	49	H265	34	28	42
	50	H264	25.5	21	35
	51	H251	26.5	26	23
	52	H250	22	21.5	27
	53	H248	28	24	16
	54	H249	22.5	21.5	30
	55	H350	31.5	30	44
	56	H348	21	18	24
	57	H349	32.5	28	34
	58	H298	29	21	-
	59	H301	22	18.5	31
	60	H300	26.5	20.5	26
	61	H299	26	21.5	29
	62	H302	24.5	24	32
	63	H279	24	22.5	21
	64	H278	41	22	31
	65	H304	22.5	20.5	35
	66	H305	31	29	21
	67	H307	26	23	13
	68	H303	22.5	22	26
	69	H308	31	29	24
	70	H277	24.5	20.5	31
	71	H266	28	17	23
	72	H267	23	20	33
	73	H268	28	21	15
	74	H269	33	32	42
	75	H276	28	20	19
	76	H247	27	24	30
	77	H246	33	30	25
	78	H231	31	30	22
	79	-	79	70	17.5
	80	H270	40	28	26
	81	-	25	24	9
	82	H245	24	24	51
	83	-	18.5	12	10.5
	84	H272	37	34	19
	85	H371	22.5	22	17
	86	H370	32.5	24	32
	87	-	40	32	14.5
	88	-	26	25	11
	89	H373	25	24	8
	90	-	29	27	14
	91	H374	23	20	14
	92	-	21	18	23
	93	H375	28	26	34
	94	H376	29	28	29

表11　ピット観察表⑥

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P-6	95	H377	32	31	21
	96	H368	34	33	51
	97	H367	30	29	18
	98	H365	36	25	39
	99	H364	32	27	22
	100	H362	41.5	35	27
	101	H380	32.5	27	28
	102	-	25	18	25.5
	103	H379	34	33	31
	104	H381	41.5	33	28
	105	-	17	15.5	24
	106	H378	34	25	47
	107	H430	38.5	27	40
	108	H429	22	18.5	10
	109	H428	25	20	19
	110	H427	29.5	25	9
	111	-	12	11	-
	112	H435	27	26.5	28
	113	H436	26.5	25.5	17
	114	H437	33.5	32.5	49
	115	H439	29.5	26	26
	116	H438	30	25	40
	117	H440	27.5	25.5	28
	118	H441	34	28.5	40
	119	H434	37.5	33.5	48
	120	H433	34.5	32	27
	121	H432	27	24.5	56
	122	H431	32	29	29
	123	H442	30	29.5	38
	124	H445	24	21	32
	125	H446	35	28	50
	126	H447	33.5	28	28
	127	H448	22	13.5	26
	128	H449	26.5	22	14
	129	H426	20	18.5	52
	130	H383	27	21	25
	131	H384	21.5	15	45
	132	H385	28	21	12
	133	H425	24	20	32
	134	H424	28	25.5	24
	135	H423	24.5	24	15
	136	H422	38.5	34	53
	137	-	20	10	-
	138	-	34.5	29	28
	139	H386	34	31	41
	140	H382	22.5	18.5	37
	141	H388	36.5	36	50
	142	H360	26.5	26	38
	143	H359	36.5	31	25
	144	H358	30	27	-
	145	H355	30	26	32
	146	H453	20	20	20
	147	H451	33	26	33
	148	H452	40	35	12
	149	-	28	25	-
	150	H455	31.5	25	29
	151	H421	30	24	26
	152	H419	36	34	35
	153	H418	29	24	39
	154	H417	33	28.5	22
	155	H420	34	27	46
P-6	156	H456	31.5	26	48
	157	-	15	11	-
	158	H416	25.5	25	25
	159	H394	43	34	34
	160	H393	56	40	42
	161	H391	41	31	23
	162	H392	35.5	33.5	46
	163	H389	54	39	28
	164	H390	35	34	27
	165	H347	33	26.5	27
	166	H346	40	35	26
	167	H340	29	24	17
	168	H344	29	24	25
	169	H345	25	24	5
	170	H339	30	25	26
	171	H395	39	36	43
	172	H415	42	33	31
	173	H461	46.5	35	29
	174	-	30	11	-
	175	H366	19.5	12	37
	176	-	32	22	-
P-7	1	H413	54	34	29
	2	H412	27	24	50
	3	H323	25	24	27
	4	H310	33	31	45
	5	-	21	18	22.5
	6	H274	39	35	38
	7	H273	45	43	26
	8	-	22	13	15
	9	-	25	19	11.5
	10	H397	28	26.5	47
	11	H398	41	37	25
	12	-	22	16.5	14
	13	H396	35	29	30
	14	H338	37.5	26.5	20
	15	H337	42	30	22
	16	H322	33.5	33	16
	17	-	49	34	10
	18	-	34	26	12
	19	H321	31.5	27.5	12
	20	-	17	11	15.5
	21	-	22	18	21.5
	22	H311	39	35	36
	23	H312	37	35	36
	24	H313	44	40	32
	25	H309	33	33	24
	26	-	72	45	-
	27	-	38	29	7.5
	28	H400	32.5	26	25
	29	H401	30.5	24.5	28
	30	H399	31	27.5	35
	31	H404	32	30	45
	32	H403	35	31	17
	33	H402	33	31	23
	34	H332	35	32	54
	35	H406	26.5	24	29
	36	H407	25	21	35
	37	H408	35	26	35
	38	-	20	18	14
	39	H409	40	27	13
	40	H336	32	28.5	15
P-7	41	H334	43.5	27	42
	42	H333	46	41	34
	43	H335	31.5	29.5	26
	44	H326	35	33	20
	45	H325	42.5	38	30
	46	H327	35	34	37
	47	-	21	18	8
	48	-	44	36	48.5
	49	H331	30	24	28
	50	H330	37	32	22
	51	-	26	18	24
	52	-	80	35	33
	53	-	12	10	17.5
	54	-	32	25	22
	55	H329	40	18	24
	56	H320	47.5	28	23
	57	H314	29	26	41
	58	-	24	20	44.5
	59	-	24	17	34
	60	H319	44	34.5	41
	61	H318	29	27.5	25
	62	H315	52	43	22
	63	H317	36	31	31
	64	H316	37	36	41
	65	-	48	36	18
	66	-	71	54	20
	67	H271	22	18	37
	68	H272	39	37	19
	69	-	21	11	5.5
	70	-	21	12	10
P-7	71	960	15	15	7
	72	887	28	23	26
	73	961	23	21	49
	74	886	28	28	16
	75	888	31	24	37
	76	912	26	22	40
	77	913	36	32	50
	78	885	37	30	35
	79	884	28	28	23
	80	883	23	22	23
	81	882	36	35	25
	82	959	28	27	22
	83	948	40	36	28
	84	962	28	22	25
	85	914	23	20	22
	86	915	20	17	11
	87	964	39	38	46
	88	916	28	27	22
	89	947	20	20	22
	90	917	32	28	23
	91	963	36	21	25
	92	946	31	26	40
	93	919	27	23	16
	94	918	24	21	14
	95	949	20	18	21
	96	950	19	16	4
	97	877	37	31	43
	98	876	36	29	28
	99	945	27	25	19
	100	973	28	25	35
	101	971	22	22	33
P-7	102	921	22	20	21
	103	922	21	20	26
	104	920	19	17	9
	105	923	23	22	14
	106	953	26	18	32
	107	952	24	20	20
	108	951	22	22	11
	109	875	43	30	16
	110	874	23	23	15
	111	H328	40	30	38
P-8	1	890	24	22	31
	2	891	35	27	46
	3	893	26	20	19
	4	894	27	20	15
	5	892	59	37	50
	6	881	31	30	46
	7	958	34	29	29
	8	880	31	27	33
	9	955	30	26	40
	10	878	25	24	20
	11	956	30	29	32
	12	957	25	25	28
	13	879	25	21	15
	14	929	27	20	11
	15	927	32	24	43
	16	928	24	24	42
	17	954	40	26	28
	18	873	27	25	27
	19	925	30	29	57
	20	926	34	33	50
	21	924	25	23	30
	22	1660	23	18	31
	23	1662	21	16	18
	24	1661	21	19	33
	25	1674	20	20	26
	26	1271	26	25	22
	27	1663	19	16	15
	28	1272	51	47	77
	29	1820	28	27	28
	30	1673	26	26	28
	31	1410	23	23	26
	32	1316	45	31	73
	33	1402	26	25	14
	34	1403	29	28	18
	35	1286	35	34	42
	36	1404	18	18	8
	37	1675	28	21	8
	38	1405	25	23	15
	39	1406	25	22	45
	40	1408	28	25	12
	41	1407	29	24	25
	42	1311	33	31	43
	43	1307	26	23	25
	44	1308	21	21	22
	45	1309	33	27	25
	46	1310	23	21	25
	47	1326	25	22	26
	48	1664	19	16	17
	49	1327	32	29	25
	50	1273	22	19	22
	51	1322	25	24	39
P-8	52	1302	34	31	52
	53	1401	30	27	28
	54	1400	29	27	29
	55	1379	33	25	15
	56	1481	20	18	25
	57	1480	22	18	18
	58	1399	30	27	17
	59	1398	27	23	15
	60	1269	21	21	14
	61	1267	30	23	26
	62	1671	17	16	20
	63	1672	43	28	33
	64	1268	45	29	39
	65	1315	25	24	18
	66	1285	33	31	42
	67	1274	30	29	41
	68	1275	36	24	34.7
	69	1276	24	20	35.6
	70	1277	27	24	26
	71	1279	31	24	32
	72	1278	31	23	45
	73	1478	39	29	32
	74	1477	23	22	15
	75	1454	21	20	20
	76	1665	20	15	19
	77	1380	29	27	25
	78	1666	27	26	18
	79	1381	24	23	11
	80	1667	30	27	30
	81	1451	20	20	20
	82	1819	21	20	18
	83	1266	26	25	23
	84	1265	53	40	33
	85	1455	31	27	40
	86	1382	25	24	31
	87	1383	30	25	27
	88	1467	25	20	30
	89	1466	25	24	31
	90	1468	21	21	25
	91	1409	18	17	14
	92	1469	23	23	26
	93	1384	29	29	20
	94	1283	72	35	17
	95	1470	22	25	29
	96	1284	30	28	37
	97	1388	22	23	15
	98	1472	14	13	11
	99	1387	19	18	12
	100	1473	22	21	15
	101	1475	24	23	19
	102	1474	21	21	17
	103	1301	84	66	64
	104	1306	80	52	39
P-9	1	1386	24	22	18
	2	1385	22	21	15
	3	1303	34	41	47
	4	1682	24	24	27
	5	1393	25	25	22
	6	1681	42	35	43
	7	1680	26	25	27
	8	1678	21	20	29
P-9	9	1679	28	26	24
	10	1465	33	30	29
	11	1280	37	30	41
	12	1281	33	30	22
	13	1677	25	24	28
	14	1264	46	29	41
	15	1392	30	26	30
	16	1676	16	16	17
	17	1263	25	24	24
	18	1390	27	25	26
	19	1391	33	33	19
	20	1261	29	24	31
	21	1262	27	26	34
	22	1389	30	27	30
	23	1260	31	27	45
	24	1259	36	30	24
	25	1452	22	24	22
	26	1453	26	25	31.2
	27	1668	32.5	21	10
	28	1817	29	28	23
	29	1257	29	26	30
	30	1258	33	32	33
	31	1378	17	15	10
	32	1669	22	22	23
	33	1670	21	18	25
	34	1376	24	23	19
	35	1456	32	31	26
	36	1457	22	19	20
Q-6	1	H598	31	29	27
	2	H599	26	24	35
	3	H570	24	23	32
	4	H531	24	22	23
	5	H499	30	29.5	19
	6	-	22	21	9
	7	H498	28	26	55
	8	H497	27	23	31
	9	H496	30	26	32
	10	-	35	34	25
	11	-	28	26	21
	12	-	27	24	22
	13	H572	33	28	20
	14	H573	35	29	29
	15	-	31	29	15
	16	H571	31	28	33
	17	-	27	26	14
	18	H532	38	36	23
	19	-	20	14	19.4
	20	-	30	18	9
	21	H533	42	40	37
	22	H534	34	32	26
	23	H530	34	32	28
	24	H529	40	38	52
	25	-	27	26	17
	26	H501	40	32	44
	27	-	20	18	11
	28	H503	44	32	-
	29	-	23	22	27
	30	H495	30	29	35
	31	H494	42	38	35
	32	H493	25	11	22
	33	H492	29	24	26
Q-6	34	H491	34	28	44
	35	H443	38	37	40
	36	-	17	12	8.5
	37	H528	25	24	30
	38	H527	62	56	32
	39	-	20	19	11
	40	-	62	57	19
	41	-	37	32	46
	42	-	35	25	32
	43	-	34	30	21
	44	-	32	32	13
	45	H593	36	34	32
	46	H592	43	33	23
	47	-	32	30	23
	48	H604	35	32	29
	49	H605	26	24	18
	50	H589	20	17	26
	51	H590	28	27	18
	52	H591	27	27	31
	53	-	28	26	11.5
	54	H581	31	28	46
	55	-	24	23	17
	56	H580	37	33	24
	57	H576	34	31	32
	58	H577	58	40	37
	59	H568	26	25	36
	60	H567	59	37	18
	61	H566	51	43	45
	62	H579	33	28	39
	63	H565	33	22.5	27
	64	-	25	18	18
	65	H537	30	25	27
	66	H536	42	40	47
	67	H535	40	28	28
	68	H538	40	33	20
	69	-	26	23	12
	70	H539	28	24	27
	71	H540	27	26	25
	72	-	21	18	21
	73	H541	31	26	35
	74	-	20	18	9
	75	H542	32	30	25
	76	H524	29	26	23
	77	H543	26	25	47
	78	H523	23	22	24
	79	-	29	27	19
	80	-	27	20	26
	81	H544	32	32	13
	82	H545	26	23.5	20
	83	H526	37	32	46
	84	H525	35	32	37
	85	-	70	64	26
	86	H507	40	36	25
	87	H509	34	31	29
	88	H508	28	27	16
	89	H522	26	26	15
	90	H521	27.5	24	23
	91	-	57.5	31.5	26
	92	-	22	21.5	23
	93	H504	43	31	50
	94	-	32	21	31.5
Q-6	95	H505	27	26	100
	96	H506	26	22	23
	97	H485	32	30	48
	98	H484	33	30	94
	99	H483	46	36	30
	100	H463	21.5	21	18
	101	H490	57	37	48
	102	-	83	80	12.5
	103	H488	40	24	28
	104	H444	24	23	27
	105	H450	22	18	21
	106	H487	20	18	13
	107	H486	32	28	36
	108	H457	36	27	24
	109	H458	41	30	45
	110	H459	46.5	19.5	36
	111	H460	30	25	41
	112	-	20	16	12
	113	-	27.5	24	19
	114	-	25.5	24	43
Q-7	1	-	42	36	7
	2	-	30	29	30
	3	H606	33	31	21
	4	-	29	28	12
	5	-	24	24	13
	6	-	22	20	27.5
	7	H563	25	24	28
	8	-	31	30	7
	9	H546	23	22	17
	10	H511	32	26	29
	11	H482	36	35	34
	12	-	18	12	13
	13	H481	49	31	44
	14	H482	35	34	34
	15	H513	37	30	26
	16	-	40	31	9
	17	H480	34	33	23
	18	H479	27	21.5	11
	19	-	27	24	7
	20	H478	26.5	24.5	29
	21	H476	26	25	24
	22	H477	30	30	31
	23	H466	24	21	18
	24	H465	43	32	19
	25	-	37.5	24	12
	26	-	66	59.5	18
	27	H475	30	29.5	20
	28	H474	30.5	29	25
	29	H405	25	21	28
	30	H467	37	35	79
	31	H468	42	33	53
	32	H411	56.5	34.5	61
	33	-	27.5	25	27
	34	H470	31.5	30	22
	35	-	60	46	7
	36	-	28	28	25
	37	-	31	30.5	34
	38	-	20	15	-
	39	-	41.5	40	55
	40	-	30	26	26
	41	H469	31.5	30.5	35

表12　ピット観察表⑦

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Q-7	42	-	22	20	-
	43	H588	53	35	27
	44	-	35.5	30	30
	45	H586	27	26	28
	46	H582	41	38.5	38
	47	H560	27	25.5	22
	48	H583	29	25	27
	49	H559	40	33	38
	50	-	50	31.5	9
	51	H584	27.5	25	8
	52	H585	36	35.5	35
	53	-	20	12	-
	54	-	20	18	-
	55	-	18	15	-
	56	-	15	8	-
	57	H562	28	25	28
	58	H561	32	31.5	25
	59	H550	51.5	42	31
	60	H547	22.5	20	19
	61	H548	29	25	22
	62	-	24	23	28
	63	H519	27.5	25	25
	64	-	21.5	21	27
	65	H550	51	42	31
	66	H549	28	27.5	23
	67	-	33	26	17
	68	H552	30	28.5	19
	69	H551	31.5	31	14
	70	H518	29	29	48
	71	H553	27	25.5	27
	72	H554	44	36	24
	73	H558	43	34	28
	74	H557	90.5	55	31
	75	-	29	27	10
	76	H516	26	21	11
	77	H517	27	24	18
	78	-	17	16	15
	79	-	33	31	7
	80	-	45	43	18
	81	H556	49	35	49
	82	-	39	37	15
	83	-	30.5	30	28
	84	-	51	42	30
	85	-	53.5	52.5	11
	86	905	23	23	34
	87	904	26	23	12
	88	903	25	22	13
	89	907	30	20	17
	90	906	19	19	17
	91	900	25	24	34
	92	908	32	27	11
	93	899	23	21	8
	94	909	27	20	13
	95	910	28	27	35
	96	911	20	19	10
	97	898	38	31	10
	98	897	37	30	21
	99	889	27	25	22
	100	-	30	22	-
Q-8	1	902	25	21	12
Q-8	2	901	25	21	13

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Q-8	3	896	22	19	10
	4	895	25	23	34
	5	1639	39	28	22
	6	1638	27	26	26
	7	1812	24	19	20
	8	1640	24	23	21
	9	1641	22	21	23
	10	1813	15	15	-
	11	1814	18	17	27
	12	1642	19	18	17
	13	1643	25	19	24
	14	1815	21	19	32
	15	1653	62	47	60
	16	1895	28	27	27
	17	1652	17	15	21
	18	1651	19	15	12
	19	1654	21	20	34
	20	1447	26	24	49
	21	1321	25	23	17
	22	1371	27	27	36
	23	1650	46	31	51
	24	1370	27	26	27
	25	1373	25	24	17
	26	1297	22	21	18
	27	1655	27	26	30
	28	1298	19	19	18
	29	1448	20	18	13
	30	1658	28	27	18
	31	1659	23	23	22
	32	1896	21	18	31
	33	1657	24	20	17
	34	1270	25	24	34
	35	1251	31	31	33
	36	1644	21	18	26
	37	1440	22	20	29
	38	1364	29	25	26
	39	1362	20	17	20
	40	1363	16	15	17
	41	1361	19	18	16
	42	1360	21	20	18
	43	1359	25	24	20
	44	1358	26	25	14
	45	1645	25	25	28
	46	1441	30	26	28
	47	1391	33	33	19
	48	1365	29	28	25
	49	1442	26	20	48
	50	1292	25	23	17
	51	1443	20	19	12
	52	1293	30	26	26
	53	1458	33	30	34
	54	1366	24	24	14
	55	1234	19	17	10
	56	1294	24	24	21
	57	1367	32	27	36
	58	1649	26	23	30
	59	1446	25	23	24
	60	1295	27	23	21
	61	1296	26	24	21
	62	1235	24	23	28
	63	1638	27	26	26

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Q-8	64	1299	34	31	23
	65	1656	23	23	23
	66	1330	23	22	31
	67	1300	22	20	18
	68	1233	28	28	36
	69	1236	28	26	35
	70	1445	32	30	60
	71	1357	23	22	24
	72	1343	21	20	29
	73	1247	28	28	33
	74	1249	35	28	36
	75	1328	20	20	15
	76	1450	23	20	25
	77	1449	17	15	35
	78	1329	35	22	41
	79	1818	20	18	20
Q-9	1	1226	25	23	15
	2	1227	29	27	31
	3	1340	24	24	22
	4	1341	32	32	32
	5	1342	20	20	12
	6	1344	18	17	20
	7	1228	38	26	36
	8	1345	21	20	22
	9	1346	29	25	25
	10	1229	38	37	34
	11	1347	29	27	14
	12	1444	23	22	32
	13	1230	38	31	22
	14	1349	23	22	15
	15	1348	23	22	27
	16	1331	15	15	14
	17	1232	32	32	31
	18	1352	31	27	28
	19	1351	25	24	18
	20	1646	14	13	16
	21	1350	27	25	23
	22	1238	26	23	23
	23	1237	23	13	10
	24	1647	25	24	34
	25	1239	29	23	26
	26	1240	29	26	40
	27	1241	26	21	24
	28	1242	29	26	20
	29	1648	28	30	44
	30	1356	30	27	42
	31	1355	25	25	36
	32	1243	29	28	21
	33	1244	23	23	21
	34	1245	37	28	34
	35	1354	22	20	24
	36	1353	24	23	30
	37	1372	23	18	12
	38	1369	40	28	56
	39	1377	23	19	11
	40	1374	20	20	13
	41	1254	24	23	13
	42	1375	26	25	26
R-6	1	-	26	25	24
	2	H610	26	24	25
	3	-	33	26.5	18

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
R-6	4	-	39.5	31	31
	5	H609	33	26	42
	6	H596	25	24	30.5
	7	H597	36	27	48
	8	H600	32	31.5	36
	9	H602	38	35	-
	10	-	42	40	-
	11	H608	41	38	15
	12	-	20	12	-
	13	-	32	22	-
	14	-	12	10	-
	15	-	24	23	26
	16	-	29.5	28	21
	17	-	23.5	20	27
	18	-	30.5	22.5	27
	19	-	24	21	25
	20	-	25	24	30
	21	-	33	24	28
	22	-	25	24	28
	23	-	31.5	28.5	26
R-7	1	607	22	20	13.5
	2	-	20	15	-
	3	-	22	18	-
	4	-	12	11	-
	5	-	28	22	-
	6	-	28	20	-
	7	930	55	43	62
	8	931	23	20	12
	9	932	22	22	18
	10	937	27	21	11
	11	938	27	24	34
R-8	1	943	26	24	35
	2	977	18	16	25
	3	978	17	17	16
	4	942	35	31	16
	5	941	14	14	34
	6	940	27	26	20
	7	939	20	18	8
	8	936	25	17	12
	9	935	38	25	58
	10	934	29	21	37
	11	933	26	24	22
	12	870	22	21	21
	13	871	16	14	10
	14	872	25	24	21
	15	1626	14	14	14
	16	1625	25	21	24
	17	1426	18	14	12
	18	1624	20	20	4
	19	1427	16	13	8
	20	1627	21	17	10
	21	1628	19	18	16
	22	1630	19	19	17
	23	1631	21	20	19
	24	1632	20	19	16
	25	1797	20	20	17
	26	1633	20	18	16
	27	1798	14	12	9
	28	1799	19	14	13
	29	1634	19	17	13
	30	1800	28	27	30

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
R-8	31	1635	30	27	25
	32	1636	25	19	22
	33	1811	14	13	10
	34	1637	18	18	17
	35	1434	27	25	14
	36	1435	16	14	12
	37	1436	24	24	41
	38	1801	18	18	22
	39	1802	23	22	30
	40	1808	21	21	21
	41	1437	24	22	32
	42	1438	26	26	51
	43	1439	27	26	51
	44	1334	32	30	32
	45	1803	21	19	17
	46	1433	26	20	16
	47	1805	16	16	16
	48	1432	35	25	18
	49	1431	28	22	18
	50	1430	20	20	16
	51	1804	20	17	13
	52	1806	15	11	11
	53	1332	26	22	16
	54	1331	15	15	14
	55	1429	32	19	30
	56	1807	17	14	30
	57	1810	16	13	14
	58	1333	34	32	35
	59	1422	14	13	13
	60	1423	16	13	20
	61	1424	16	16	30
	62	1425	17	16	29
	63	1221	21	20	12
	64	1629	32	30	56
	65	1219	24	21	9
	66	1220	33	31	38
	67	1791	26	24	34
	68	1222	21	20	19
	69	1225	56	45	26
	70	1792	17	16	34
	71	1793	14	13	18
	72	1794	16	15	13
	73	1795	19	16	19
	74	1223	19	17	21
	75	1428	28	24	35
	76	1224	22	20	16
	77	1796	25	23	30
R-9	1	1335	32	30	35
	2	1339	27	25	23
	3	1336	18	18	36
	4	1337	17	16	32
	5	1338	18	17	38
	6	2347	14	14	11
	7	2346	22	20	23
	8	2830	19	12	29
	9	2831	24	17	44
	10	2840	28	26	39
	11	2841	40	39	4
S-6	1	-	28	25	34
	2	-	31	30	24
	3	-	25.5	25	29

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
S-6	4	-	30	27	40
	5	-	29.5	26	30
	6	-	46	40	13
	7	-	32	22	7.5
	8	-	21	18.5	24
	9	-	30	20	14.5
	10	-	16	10.5	4.5
	11	-	21	18	8
	12	-	32	28	14.5
	13	-	28	22	9.5
	14	-	24	17.5	13
	15	-	28	14	18
S-7	1	-	36	33	25.8
	2	-	30	25	17.6
	3	-	30	29	25.3
	4	-	24	22	11.6
S-8	1	867	20	18	12
	2	866	18	16	12
	3	865	22	21	13
	4	868	41	20	21
	5	869	17	17	11
	6	864	34	27	15
	7	863	24	22	14
	8	862	50	25	17
	9	1417	16	16	25
	10	1790	18	13	17
	11	1418	29	28	24
	12	1420	29	23	14
	13	1421	18	17	46
	14	1218	17	15	19
	15	1419	25	23	29
	16	1216	33	32	8
	17	860	27	23	22
	18	861	27	26	14
	19	1615	14	13	12
	20	1616	11	11	9
	21	1617	20	20	17
	22	1619	19	19	17
	23	1618	23	21	15
	24	1620	24	24	20
	25	1621	21	19	9
	26	1622	18	18	28
	27	1416	23	21	25
	28	855	20	15	8
	29	856	40	39	12
	30	852	22	20	18
	31	854	26	23	6.5
	32	853	23	21	6
	33	851	19	19	12
	34	857	20	20	10
	35	858	17	17	9
	36	859	19	15	9
	37	1788	17	16	17
	38	1614	23	22	20
	39	1787	19	18	14
	40	1414	34	32	23
	41	1415	19	18	23
	42	2848	22	18	23
	43	2865	26	21	7
	44	1413	29	28	37
	45	1412	21	20	22

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
S-8	46	2864	31	24	24
	47	2852	22	20	25
S-9	1	2850	26	24	16
	2	2849	22	17	35
	3	1214	24	23	24
	4	1215	37	36	32.5
	5	1213	31	29	24
	6	2837	19	14	34
	7	2836	21	17	42
	8	2835	22	15	37
	9	2838	18	13	24
	10	2839	22	22	11
	11	2845	17	16	31
	12	2859	21	19	29
	13	2844	22	20	14
	14	2843	21	19	18
	15	2842	21	15	30
	16	2814	48	39	43
	17	2854	24	20	60
	18	2856	20	19	11
	19	2855	22	20	-
	20	2857	25	22	47
T-6	1	-	31	29	25.5
	2	-	34	32	46.5
	3	-	28	26	21
	4	-	33	28	31
	5	-	32	23	41
	6	-	24	20	4.5
	7	-	22	16	8.5
	8	-	23	16	13.5
	9	-	28	24	46
T-7	1	-	108	100	57
	2	-	38	23	38
	3	-	26	17	23
	4	-	31	18	43
	5	-	22	20	13
	6	-	28	27	37.5
	7	-	24	18	18.5
	8	-	29	25	42
	9	-	21	20	27
	10	-	22	20	32
T-8	1	968	26	22	52
	2	969	26	23	35
	3	2304	17	16	8
	4	2303	13	13	25
	5	2308	23	20	27
	6	1786	23	23	13
	7	1613	38	35	31
	8	2306	22	22	12
	9	2307	21	12	9.4
	10	2862	30	23	32
	11	1609	38	36	42
	12	2678	-	-	-
	13	2679	-	-	-
	14	1612	33	30	25
	15	1207	38	34	28
	16	1205	34	30	11
	17	1206	33	31	31
	18	1411	17	16	8
	19	1210	22	20	23
	20	1209	26	24	20

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
T-8	21	1208	27	26	32
	22	1204	38	32	13
T-9	1	1211	21	19	19
	2	1212	28	28	22
	3	2858	22	20	15
	4	2348	42	38	32.9
	5	2349	45	35	40.1
	6	1611	29	28	33
	7	2297	43	34	37
	8	2296	-	-	-
	9	2681	-	-	-
	10	2294	35	34	68
	11	2295	20	19	14
	12	2292	22	19	12
	13	2293	18	17	11
	14	2829	42	37	87
	15	2828	34	33	56
	16	2827	29	29	14
U-7	1	-	28	23	38
	2	-	30	28	38.5
	3	-	26	24	32.5
U-8	1	967	16	15	16
	2	986	34	29	23
	3	847-2	25	20	-
	4	966	28	26	27
	5	965	32	30	23
	6	987	26	25	35
	7	988	32	22	27
	8	2301	17	15	20
	9	2300	20	16	10
	10	2299	21	18	28
	11	2302	23	19	19
	12	2305	30	29	22
	13	2298	13	12	14
	14	2922	27	25	17
	15	2823	18	15	17
	16	2822	22	21	16
	17	2923	30	25	24
	18	2924	39	27	25
	19	2804	29	28	42
	20	2805	21	21	44
	21	2824	23	22	24
	22	2860	42	22	28
	23	3010	25.5	25.5	29.4
	24	3009	28	25	14.3
U-9	1	2680	20	18	-
	2	2682	32	25	-
	3	2683	30	20	-
	4	2821	30	24	31
	5	2825	20	20	-
	6	2992	30	25	-
	7	2807	35	28	42
	8	2806	21	21	34
	9	2809	45	32	40
	10	2808	21	20	31
	11	2817	32	28	39
	12	2816	30	29	39
	13	2815	23	23	20
	14	2818	31	30	29
	15	2819	17	17	17
	16	2820	20	19	29

表13　ピット観察表⑧

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
U-9	17	2810	39	34	33
	18	2811	39	30	37
	19	2283	21	19	20
	20	2282	26	23	18
	21	2812	38	22	17
	22	2813	23	23	25
	23	2285	30	28	32
	24	2284	21	19	17
	25	1287	27	25	31
	26	1288	28	27	35
	27	1291	29	29	19
	28	1610	50	41	56
	29	1289	23	21	30
	30	2286	27	25	26
	31	2287	20	16	22
	32	2288	17	16	5
	33	2291	22	17	13
	34	2290	23	23	17
	35	1290	28	26	22
	36	2289	21	21	9
	37	2963	28	24	17.2
	38	2962	22.5	20	10.8
V-8	1	2978	27	26	64
	2	2979	21	21	16
	3	2980	25	24	20
	4	2981	28	26	22
V-9	1	2983	25	20	22
	2	2982	33	28	30
	3	-	22	21	-
	4	-	25	25	-
	5	-	22	15	-
	6	-	28	22	-
	7	-	35	30	-
	8	-	28	20	-
	9	-	23	20	-
	10	-	30	20	-
	11	-	35	22	-
	12	-	32	21	-
	13	-	30	25	-
	14	2958	21.5	18	11.7
	15	2959	41.5	36.5	19.9
	16	2960	20.5	19	10.8
	17	2961	24.5	22.5	15.2
W-9	1	2925	31	24	56
	2	2933	21	21	15
	3	2928	22	21	20
	4	2927	25	23	13
	5	2926	21	20	21
	6	2929	33	32	15
	7	2930	27	24	7
	8	2931	25	25	22
	9	2932	26	25	26
	10	2934	25	23	37
	11	2935	19	17	16
	12	2936	25	23	26
	13	2937	30	28	30
	14	2988	23	21	21.5
	15	2973	22.5	20.5	21.1
	16	2974	21.5	20	11.4
	17	2975	30.5	28.5	63.3
	18	2976	18	16.5	26

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
W-9	19	2977	26	24	30.1
X-9	1	2941	22	22	15
	2	2940	30	21	40
	3	2943	28	27	26
	4	2944	20	20	29
	5	2964	40	36	-
	6	2942	28	27	23
	7	2939	33	30	27
	8	2938	32	30	24
	9	2971	12	12	17
	10	2970	11	9	10
	11	2952	30	27	45
	12	2951	33	25	19
	13	2965	27	22	40
	14	2967	32	25	35
	15	2949	25	25	27
	16	2950	21	20	22
	17	2953	37	36	37
	18	2968	24	24	25
	19	2969	25	25	13
	20	2954	27	19	26
	21	2955	24	24	16
	22	2957	23	22	13
	23	2956	16	15	13
	24	2966	28	19	22
	25	2972	22	17	15
	26	2948	25	23	27
	27	2947	34	28	18
	28	2946	28	23	19
	29	2945	20	18	18
	30	2987	31.5	18	20
	31	2986	21.5	20	16.5
	32	2989	41	27.5	140.6
	33	2985	27	25	23
	34	2984	22	20.5	9.7
Y-9	1	3150	31	27	40
	2	3134	27	20	25
	3	3151	20	19	15
	4	3152	26	24	22
	5	3149	23	21	19
	6	3144	27	26	27
	7	3148	29	26	15
	8	3146	24	24	13
	9	3143	20	18	9
	10	3130	41	39	35
	11	3132	45	25	24
	12	3142	25	25	21
	13	3133	41	23	24
	14	3147	27	26	16
	15	3140	30	23	21
	16	3141	27	23	14
	17	3129	29	28	21
	18	3128	36	34	21
	19	3119	20	21	29
	20	3145	32	32	20
	21	3138	20	20	22
	22	3137	24	20	18
	23	3122	21	20	14
	24	3121	41	40	16
	25	3123	19	18	7
	26	3127	28	27	18

レイアウトNo. 区	番号	遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
Y-9	27	3139	30	27	19
	28	3126	28	24	16
	29	3125	35	32	24
	30	3124	35	25	27
Z-9	1	3120	31	26	10
	2	3135	28	20	18
	3	3136	28	22	26

表14　土坑観察表

遺構No. 区	番号	実測番号	埋土	長径	短径	深さ	備考
A'-5	13	593	褐色	83	63	13.5	炭化物
	14	581	暗褐色	67	60	18	
A'-4	10	455	暗褐色	119	72	18	土器，炭化物
	11	456	暗褐色	74	56	30.5	
	12	406	暗褐色	70	53	14	
A'-3	1	453	黒褐色	91	70	40	
	2	-	-	110	95	-	
	3	-	-	80	70	-	
	4	-	-	221	180	33	
	5	457	暗褐色	106.0	96	36.5	土器
	6	462	暗褐色	60	55	19	
	7	-	-	85	22	22	
	8	494	暗褐色	93	54	34	
	9	458	暗褐色	78	64.5	39	
A-3	15	418	黒褐色	51.5	40	29	炭化物，土器
A-4	16	365	にぶい黄褐色・褐色	181	145	69.5	炭化物
	17	454	暗褐色	105	74.5	29	
	18	507	暗褐色	87	34	4.5	
	19	377	暗褐色	88	83	17.5	
	20	50	褐色	211	66	19	土器
	21	403	暗褐色	154	122	21.5	土器，炭化物，焼土
A-5	22	431	黒褐色	70	53	28	
	23	425	黒褐色	130	87	20	石，土器，炭化物
	24	397	暗褐色	111	99	21.5	炭化物
	25	574	暗褐色	65	64	31	
	26	399	暗褐色	120	100	24	炭化物，土坑27と切合
	27	398	暗褐色	143	100	25.5	炭化物，土坑26と切合
	28	63	暗褐色	134	118	33	土器
	29	62	暗褐色	101.5	100.5	22	土器
	30	341	暗褐色	122	54	22.5	
	31	373	黒褐色	66	66	19	青磁・土器
	32	202	にぶい黄褐色	200	180	32	土器・磁器
	33	102	暗褐色	90	83.5	22	土器・石
	34	552	暗褐色	143	71	19	ピットA5-12と切合
	35	393	暗褐色	88.5	58	46	土器
	36	392	暗褐色	114	59	33.5	灰を含む，土器
	37	395	暗褐色	92	85	33	炭化物，土器
	38	103	にぶい黄褐色	102	74	24.5	
	39	443	暗褐色	105	67	16.5	
	40	340	暗褐色	107	49	15.5	

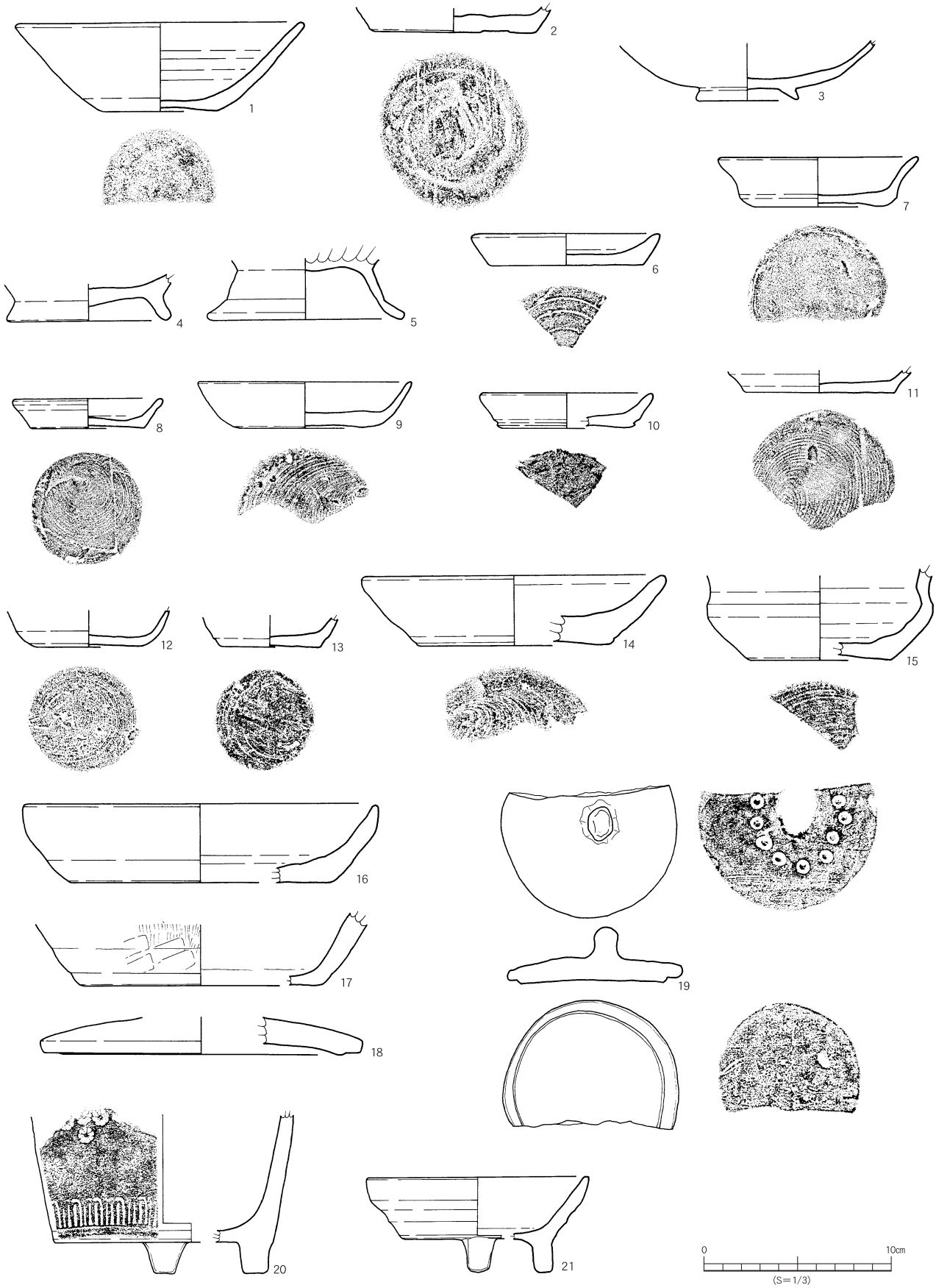
遺構No. 区	番号	実測番号	埋土	長径	短径	深さ	備考
A-5	41	409	暗褐色	122	91.5	44.5	炭化物，土器
	42	442	暗褐色	97	79	20	土器
	43	203	にぶい黄褐色	95	83	22	土器
	44	204	にぶい黄褐色	106	70	15	
A-6	45	-	-	120	80	-	
B-4	46	436	暗褐色	170	69	28	
B-5	47	709	暗褐色	110	67	27	炭化物
	48	101	暗褐色	1480	277	87.5	土器
	49	450	にぶい黄褐色	85	56	13	
	50	834	暗褐色	120	82	91	
	51	802	暗褐色	164	65	44	炭化物
	52	803	暗褐色	100	31	37.5	炭化物
B-6	53	385	暗褐色	196	141	23.5	
B-7	54	1709	暗褐色	120	102	53	
	55	1710	暗褐色	121	87	37	
C-3	56	P10	-	62.5	55	20.5	
C-5	57	-	-	107.5	87	57	
	58	505	褐色	140	92	100	
C-6	59	-	-	106	90.5	56	
	60	657	暗褐色	194	100	64.5	軽石あり
	61	-	-	95	79.5	24	
C-7	62	635	暗褐色	140	94	54.5	鉄滓
	63	636	暗褐色	104	77	100	
D-3	64	P25	-	87.5	75	23.5	
	65	P27	-	100	87.5	8	
D-5	66	-	-	67	56	-	
	67	-	-	92	80	-	
	68	61	にぶい黄褐色	120	118	82	土器
D-6	69	301	褐色	92	43	17	
E-5	70	343	未記入	138	129	39.5	
E-6	71	306	褐色	82	66	22.5	土器・軽石
F-5	72	702	褐色	98	48	26.5	-
F-6	73	P7	-	62.5	30	23	
	74	P8	-	187.5	62.5	12	
	75	P12	-	130	125	63	
	76	216	黒褐色	160	82	33	
G-6	77	P44	-	95	88	16	
	78	352	黒褐色	76	70	9.5	
	79	P29	-	80	77.5	7	
	80	485	褐色	71	65	35	
	81	366	褐色	182	86	31	土器
	82	345	黒褐色	128	77	9	土器
G-8	83	2277	暗褐色	99	69	23	
H-6	84	747	暗褐色	81	63	25	
	85	823	暗褐色	138	34	43	土器
	86	609	暗褐色	93.5	91	45	
	87	612	暗褐色	115	108	79.5	土器
	88	611	暗褐色	73	64	77.5	
	89	682	暗褐色	96	74	40	石斧片，頁岩，土器
H-7	90	778	褐色	100	85	43.5	
H-8	91	2273	暗褐色	90	82	41	
I-6	92	-	-	250	187	2.5	
	93	809	暗褐色	127	89	24	
I-7	94	2659	暗褐色	256	190	48	
K-7	95	1891	暗褐色	59	59	35	
L-7	96	1769	暗褐色	112	110	33	

遺構No. 区	番号	実測番号	埋土	長径	短径	深さ	備考
M-6	97	鉄炉Ⅰ	-	197	156	25	土抗A-4
M-7	98	1200	-	93.5	92	32	集積，一部ピット
	99	1147	にぶい黄褐色	136	84	60	1146を切る，一部掘立柱
M-8	100	1167	Ⅱ	125	88	53	
	101	1156	Ⅱ	96	79	42	
	102	2340	暗褐色	122	110	26	
	103	2341	褐色	57	48	4	
	104	1942	暗褐色	82	42	15	
	105	2576	暗褐色	81	50	76	
	106	2577	褐色	114	91.5	72	焼土
	107	2212	暗褐色	40	28	-	
M-9	108	3074	暗褐色	50	30	-	焼土
N-4	109	鉄炉D	-	300	270	50	土抗A-5
N-5	110	鉄炉F	-	267	250	90	土抗A-3
N-6	111	鉄炉H	-	110	102	37	土抗A-2
N-7	112	1069	灰黄褐色	105	80	70	
	113	1070	灰黄褐色	94	92	57	一部堀立柱
N-8	114	1071	灰黄褐色	177	80	20.5	
	115	1198	黒褐色	80	64.5	25	溝12内
O-7	116	1058	灰黄褐色	96	95	42.5	
O-9	117	1304	暗褐色	95	94	13	
P-7	118	974	にぶい黄褐色	65	63	24.5	
P-8	119	1252	暗褐色	86	85	25	
	120	1253	暗褐色	95	87.5	-	
P-9	121	1256	暗褐色	83.5	73.5	13	
	122	1255	暗褐色	94.5	88.5	38	
Q-7	123	975	暗褐色	57	41	21	
Q-8	124	1459	暗褐色	146.5	81	85	ピットQ8-53に切られる
	125	1250	暗褐色	75	74	24	
Q-9	126	1248	暗褐色	78	69	15	
	127	1816	暗褐色	47	46	25	
Q-8	128	1653	暗褐色	62	47	60	
R-8	129	976	暗褐色	97	59	20.5	
S-8	130	1623	暗褐色	120	58	38	
	131	1217	暗褐色	77	67	49	
	132	1202	暗褐色	82	73	14	
S-9	133	2814	にぶい黄褐色	48	39	43	焼土26と重なり
T-8	134	1203	暗褐色	81	59	26	

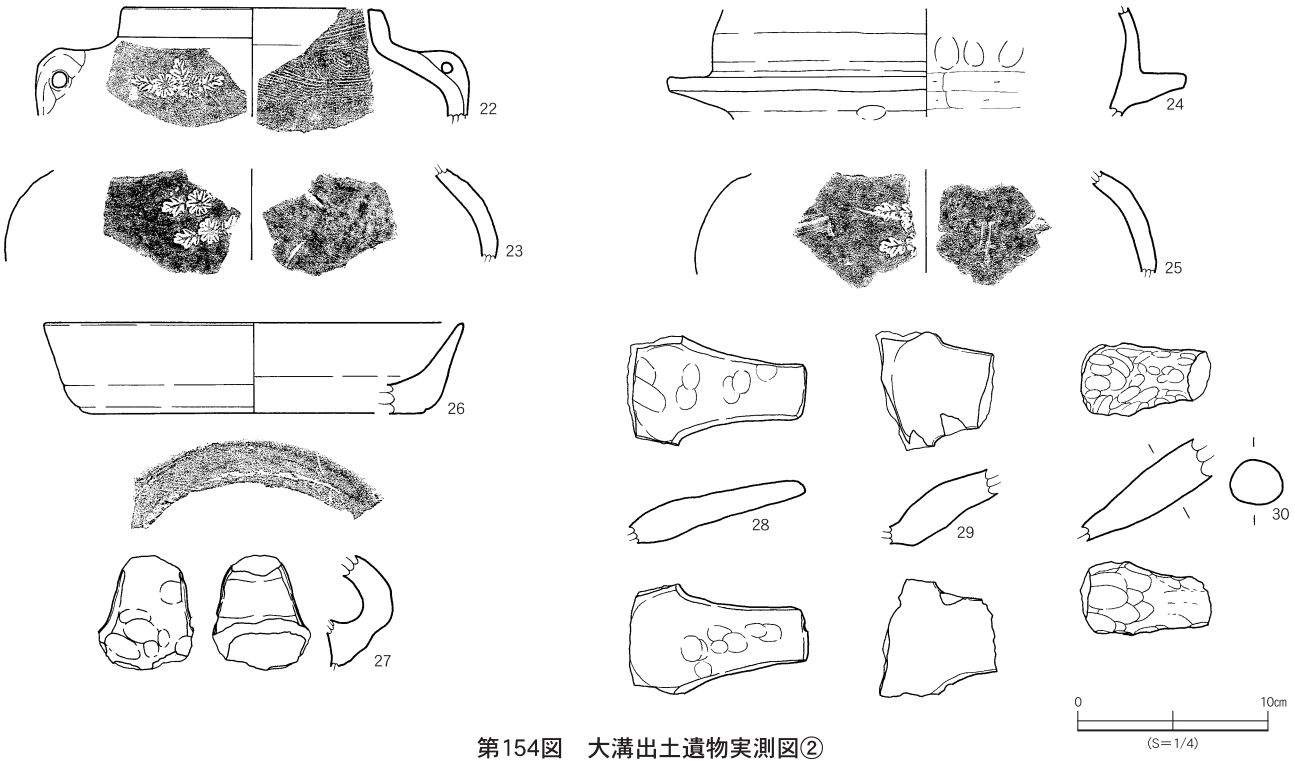
表15　焼土観察表

レイアウト 区	番号	遺構番号	埋土	長径	短径	深さ	備考
A-6	1	焼土17	-	205	199	58.5	
	2	-	-	160	138	33	
B-5	3	焼土6	-	70	48	44.5	
	4	焼土1	-	40	30	-	
D-7	5	焼土43	-	44	26	26	
G-7	6	焼土42	-	57	11	-	
H-5	7	焼土44	-	23	19	-	
J-8	8	2250	暗褐色	50	30	-	
J-9	9	2249	暗褐色	65	79	37	
	10	2337	暗褐色	130	69	23	

遺構No. 区	番号	実測番号	埋土	長径	短径	深さ	備考
K-8	11	1199	-	130	100	-	
L-4	12	焼土A	-	220	156	-	
	13	焼土B	-	222	193	-	
M-4	14	焼土C	-	220	125	-	
	15	焼土D	-	312	220	-	
N-8	16	2477	褐色	42	93	14	集石
P-5	17	-	-	75	61	13.5	
P-7	18	焼土50	-	28	22	-	
P-8	19	1464	暗褐色	129	57	15	
	20	1460	黒褐色	112	111	24	
Q-8	21	1463	暗褐色	62	59	12	
Q-9	22	1462	暗褐色	86	85	13	
R-8	23	1461	褐色	36	37	-	
S-8	24	焼土49	-	57	52	-	
U-8	25	983	不明	120	75	-	
U-9	26	2826	にぶい黄褐色	67	79	-	ピットQ8-53を切る
W-9	27	-	-	83	70	-	



第153図　大溝出土遺物実測図①



第154図　大溝出土遺物実測図②

イ　土坑

土坑113（第144図）

Ｎ-７区のⅢａ´層上面で検出された。平面形は，ほぼ円形を呈する。遺物は発見されなかったが，白色の粘土塊が発見された。当初，この粘土塊は人骨が風化したものである可能性が考えられ，形態の類似性から「土坑墓」と考えていたが，観察の結果粘土塊であると判断されたため，これをトイレの可能性のあるものとしたい。この遺構付近のＮ～Ｑ-７・８・９区には，同様の形態をした土抗112・125・119・120・122・121があるので，これらも同様の遺構である可能性がある。

（７）ピット

調査範囲からは多くのピット（柱穴状遺構）が検出された。

総数で約3,000基が発見された。ここでは，掘立柱建物として復元されなかったものの中で，特徴的なものについて取りあげた。

多くは柱痕跡などが確認されなかったが，いくつかについては，柱痕跡や根巻きとみられる石・礫が詰まったものもみられた。また，底面が堅くしまったものもみられた。これは，基盤が砂質土や砂層であることから，堀り方（ピット）にそのまま柱をたてるとその重さで柱自体が沈み込みを起こす危険性があったからではないかと考えられる。

（８）　大溝（大型溝状遺構）

ア　概要

大溝は，Ｍ・Ｎ-４・５区からＨ・Ｉ・Ｊ-７・８区の範囲でⅡ層およびⅢａ´層上面で検出された。Ｍ・Ｎ-４・５区付近（大型土抗）で出現してほぼ北北西から南南西方向に走るが，Ｊ・Ｋ-５・６区付近で西南西方向にカーブし，Ｈ・Ｉ・Ｊ-７・８区付近では乱れた形状となってきている。なお，Ｉ・Ｊ・Ｋ-６区については，安全上の問題のために調査することができなかった。結果的に，堤防の下に全くの手つかずの状態で残存することになった。

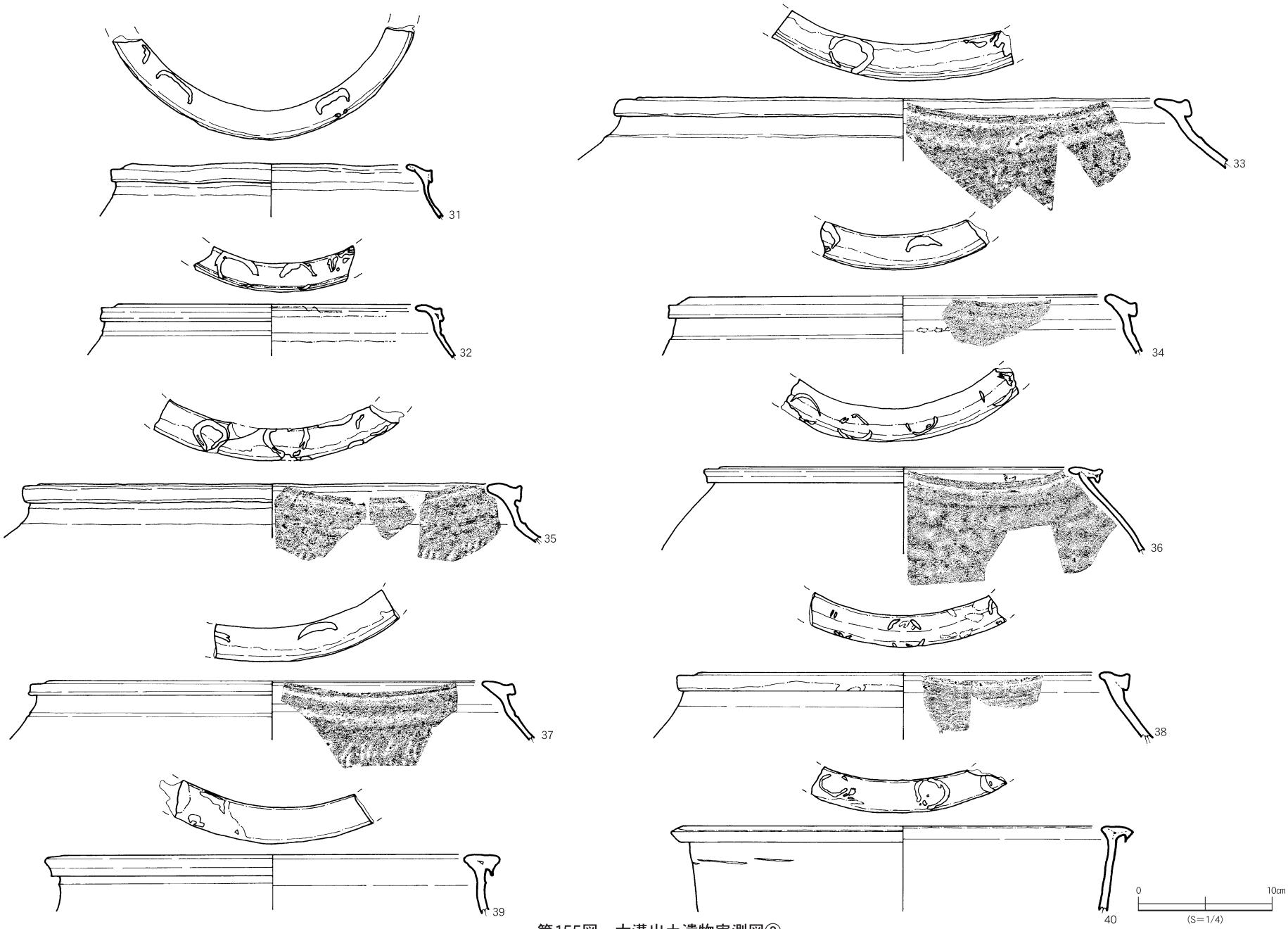
また，安全上の都合で，川に近い部分の調査ができなかったため確認していないが，大溝はそのまま万之瀬川へとつながって注ぐかたちになっていることが想定される。また，溝がカーブする地点では，溝21・22が合流し，大溝へと注ぐ形となっている。

また，周辺に目を向けると，溝16・17及び大型土坑４・６と大溝がつながっていることが確認される。

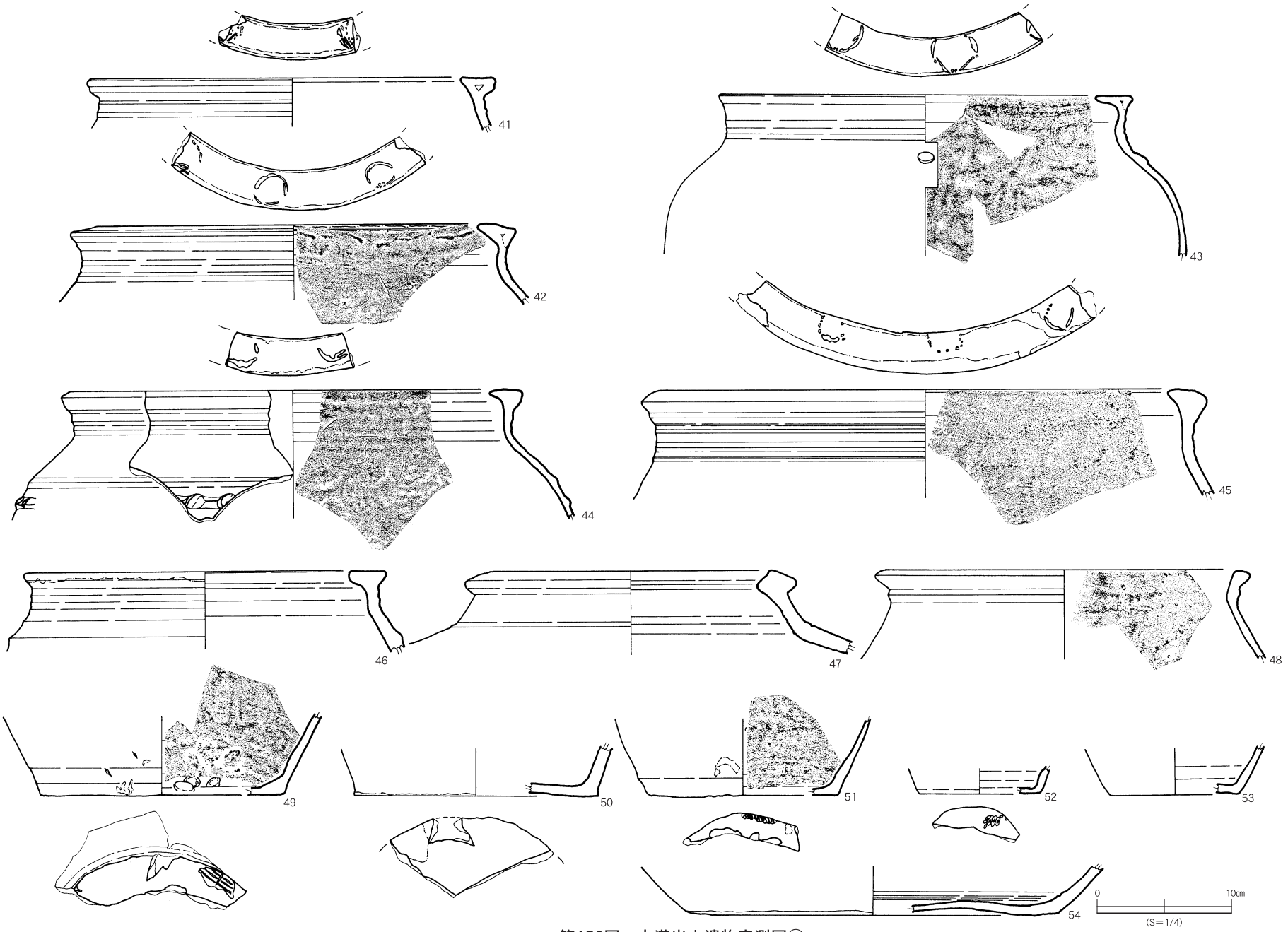
最終的な深さは検出面から2mであった（深さに関してはＰ４の第４図②参照）。

イ　出土遺物

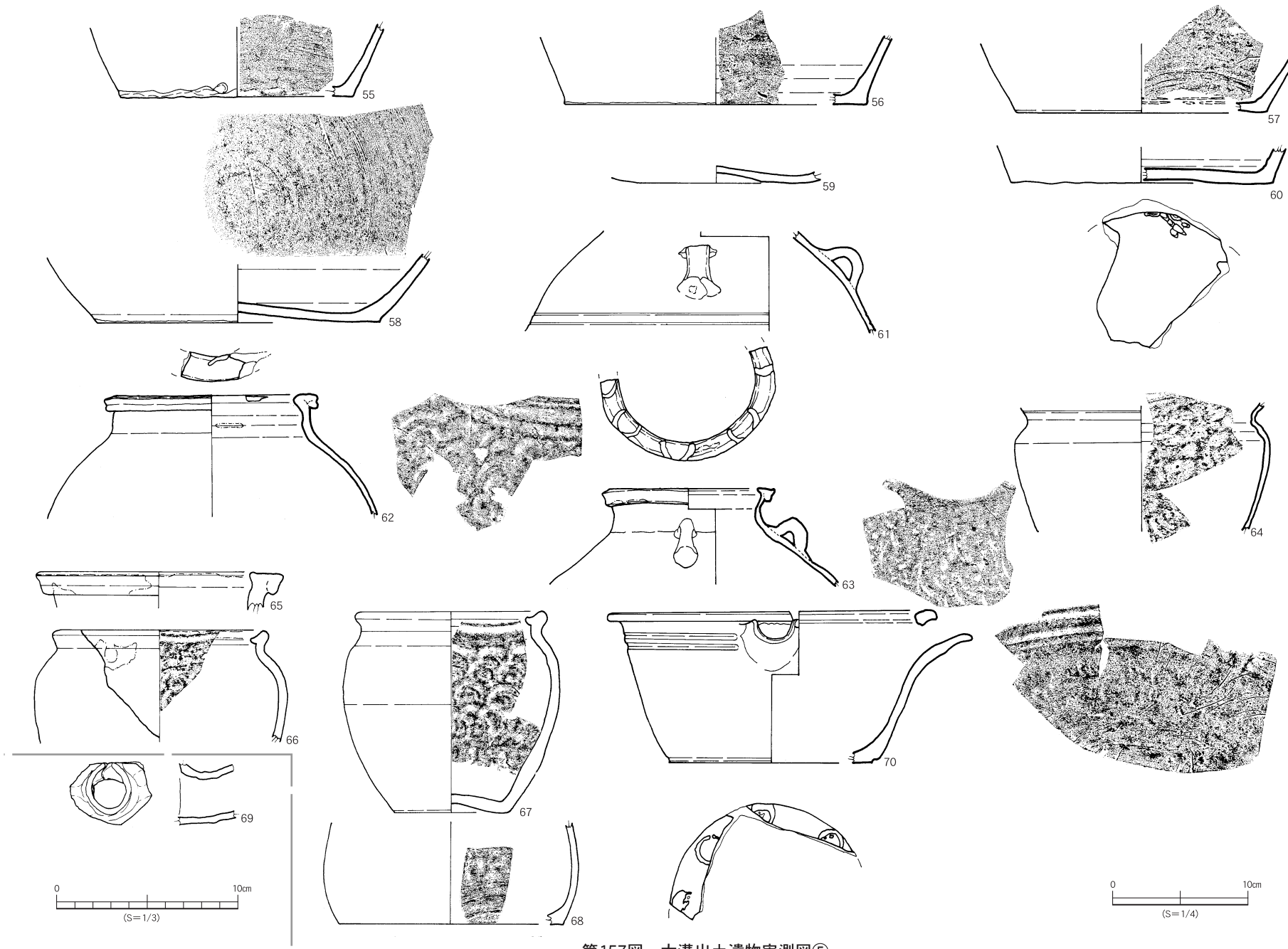
大溝からは，17世紀を中心とした大量の陶器・磁器が出土した。これらの遺物は，中国・東南アジア産のものと，国内産のものに大別される。



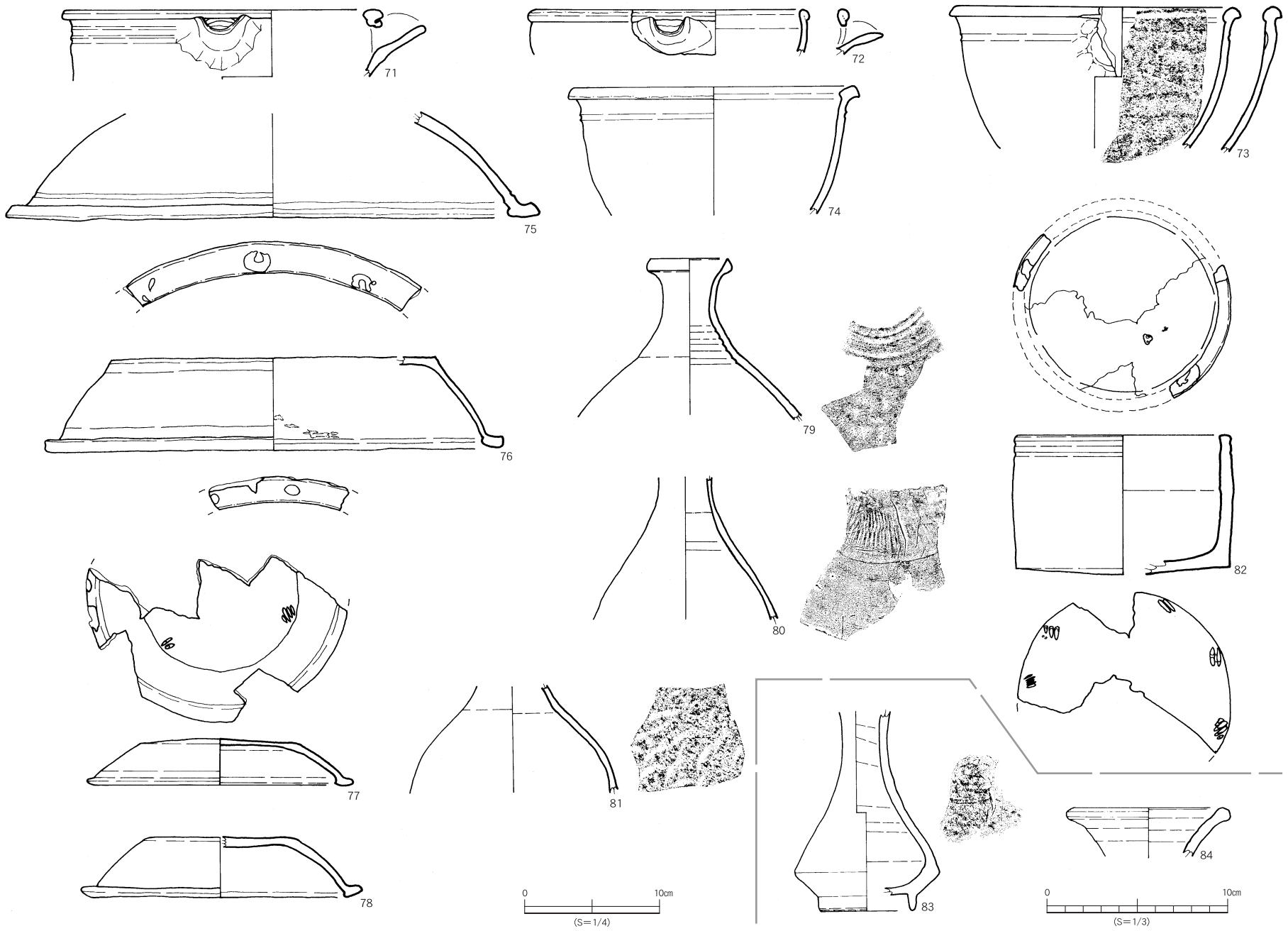
第155図　大溝出土遺物実測図③



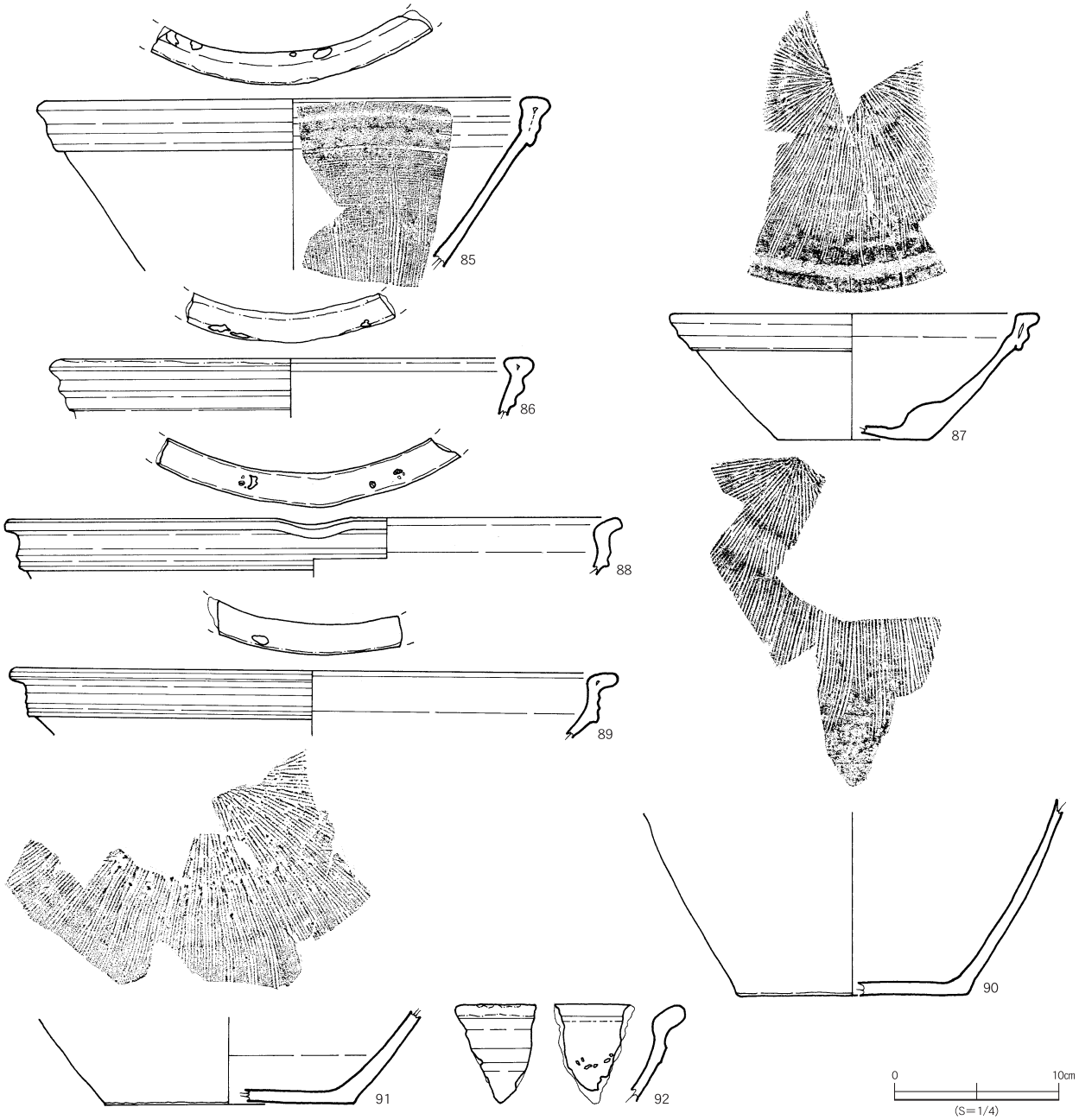
第156図　大溝出土遺物実測図④



第157図　大溝出土遺物実測図⑤



第158図　大溝出土遺物実測図⑥



第159図　大溝出土遺物実測図⑦

中国・東南アジア産のものは中世以降の貿易陶磁器（漳州窯や景徳鎮窯の青花・龍泉窯系青磁・徳化窯系の白磁・華南【福建・広東地方か】産陶器・ベトナム陶器など）である。

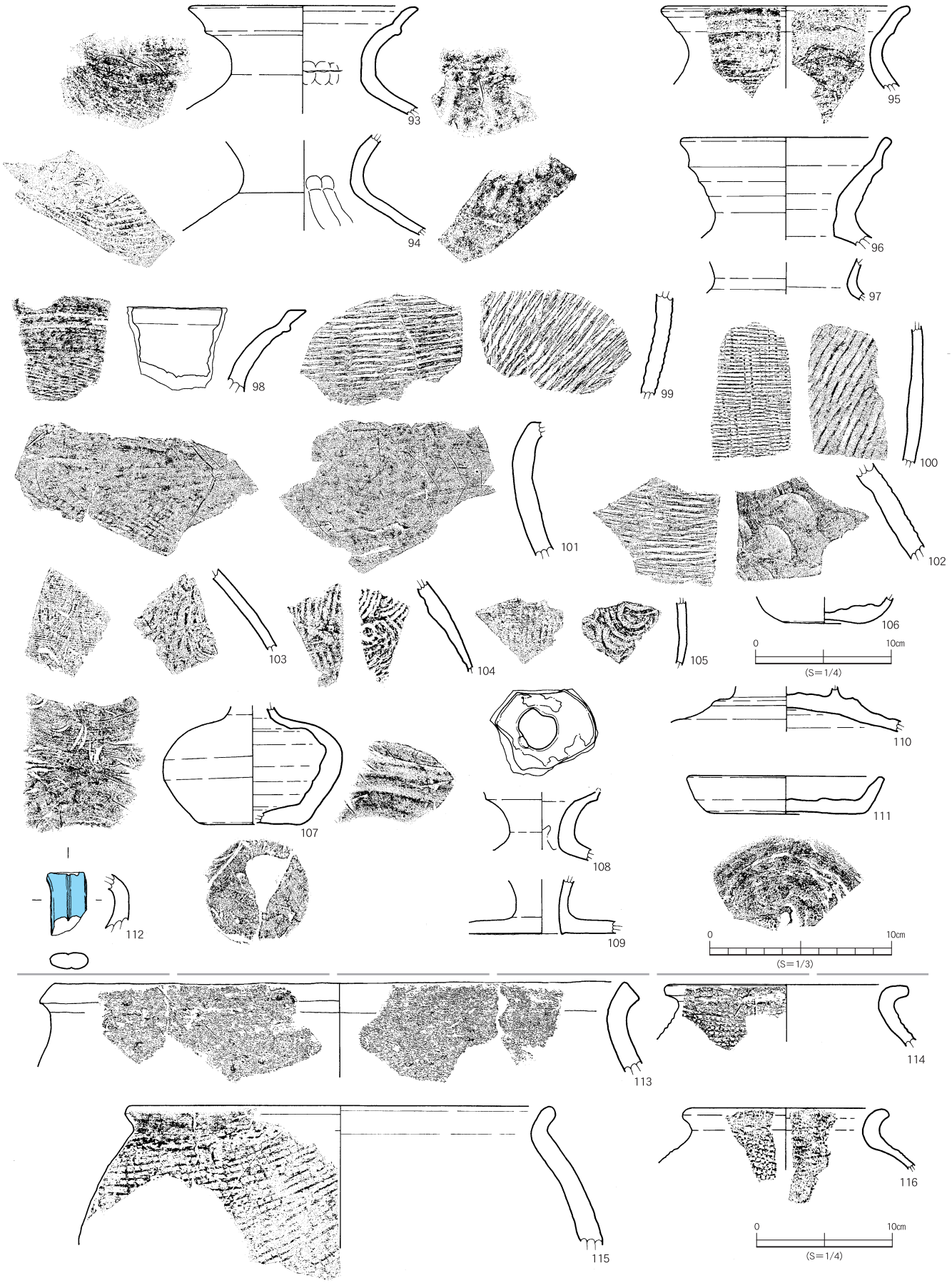
国内産のものとしては，苗代川系の薩摩焼や肥前系陶磁器などが出土している。特に，日置市東市来町美山に所在した堂平窯で生産されたとみられる初期の薩摩焼も多く出土している。

薩摩焼甕(第155図・第156図)

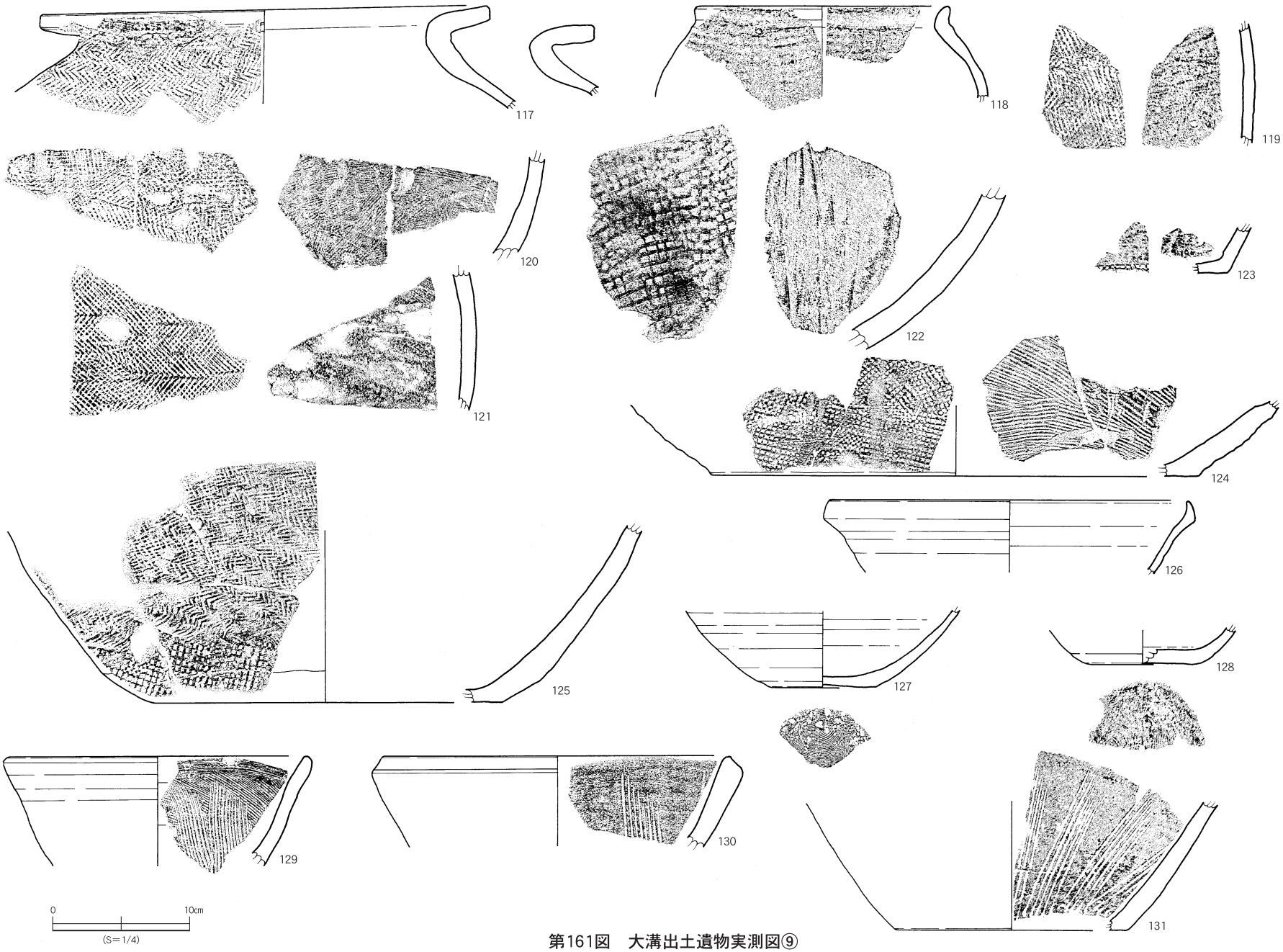
大溝内出土遺物の中で，出土量が多い器種である。胴部の形状には，丸みを帯びて膨らむものと，バケツ型を呈するものとがある。

タタキ成形を行っており，内面に同心円状のあて具痕が残るものが多い。口縁部は，先端を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ，「T」字状の形状をつくる。また，口縁部を外側に折り返して，断面三角形につくるものもある。口唇部は，内側を高くし外側を溝線状にするもの，口唇部内縁が内側に伸びるものがある。さらに，口唇部の釉は拭き取られ，重ね焼きのための貝目が残るものがある。

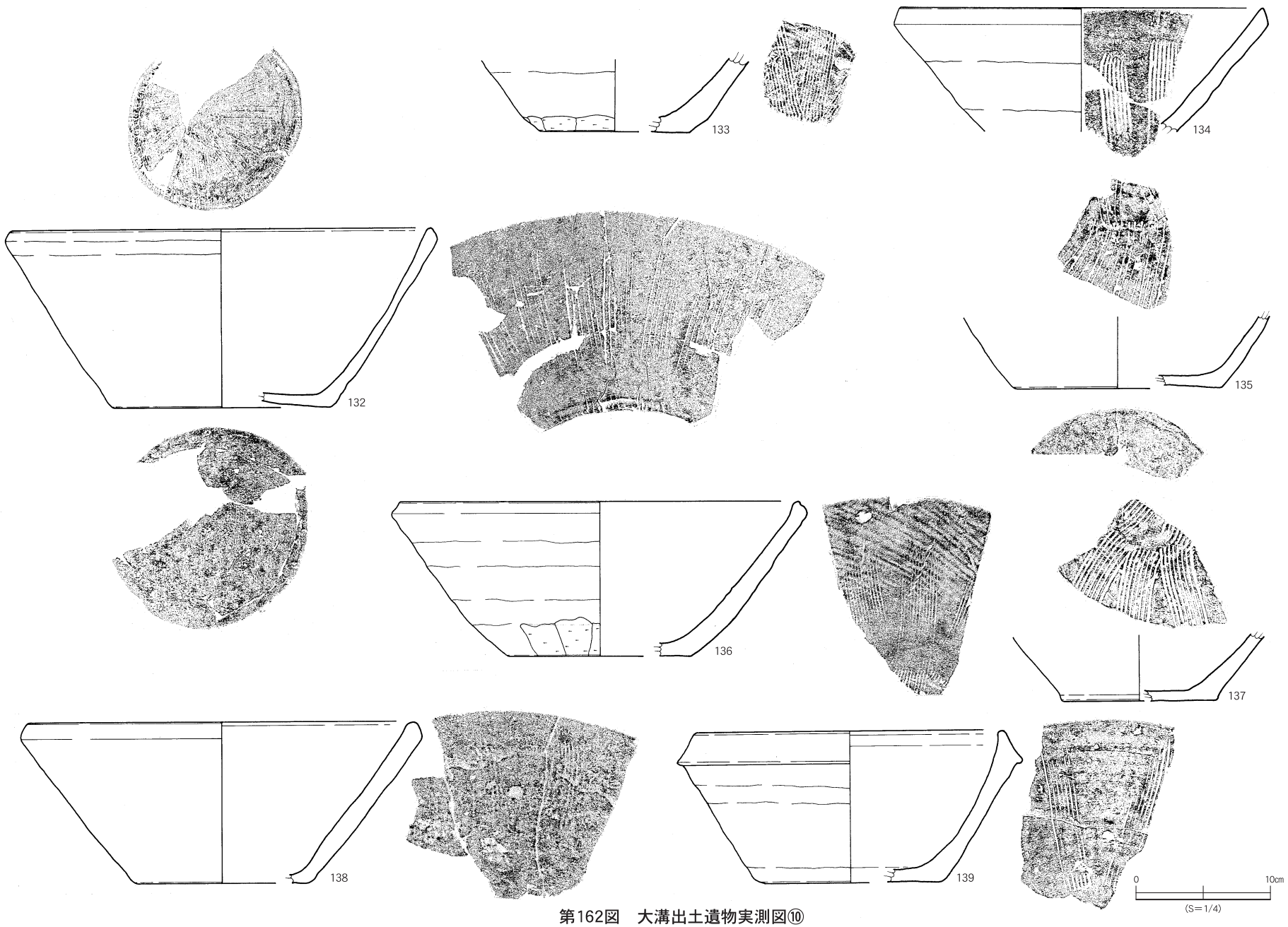
31～38は，胴部が丸く膨らみ，口縁部がT字状の形状を呈する。口唇部は，内側が高く外側を溝縁状にする



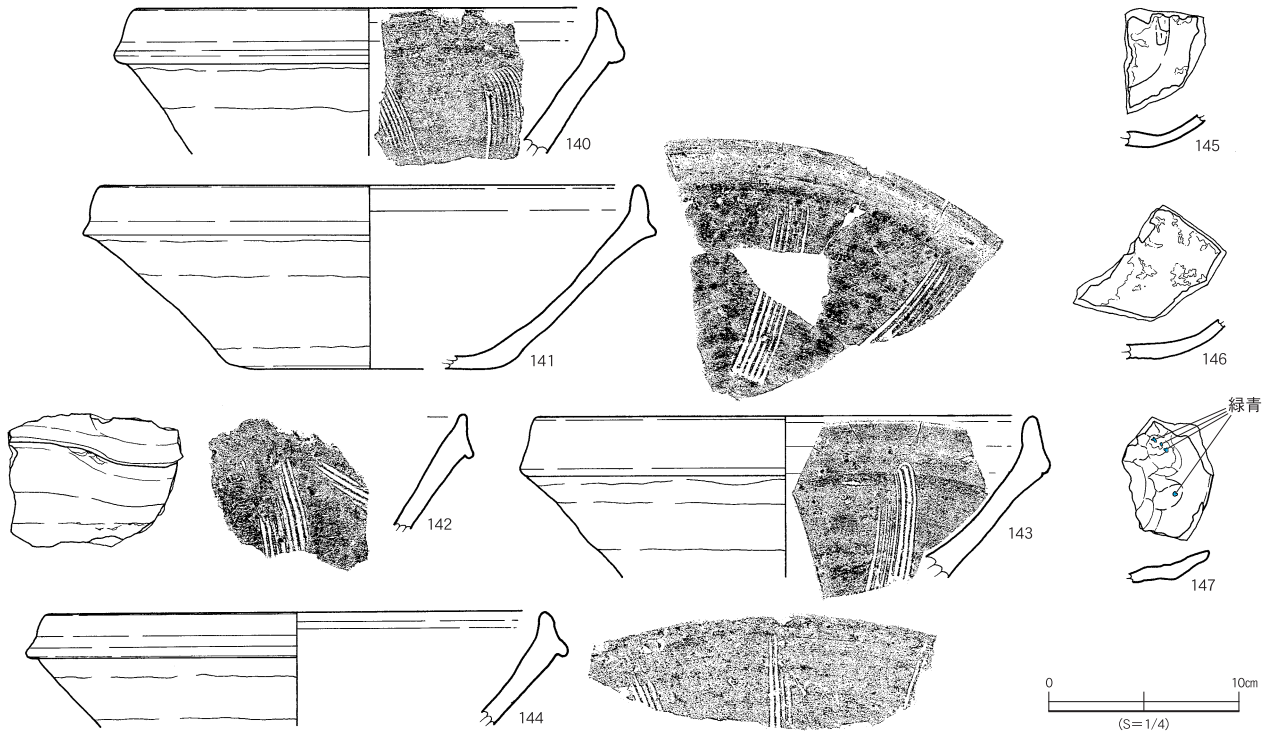
第160図　大溝出土遺物実測図⑧



第161図　大溝出土遺物実測図⑨



第162図　大溝出土遺物実測図⑩



第163図　大溝出土遺物実測図⑪

 もので，貝目が残る。口縁部のつくりはシャープである。31は，口縁部が歪んでいるが，器壁が極めて薄く，釉をはじいている。32は，31と同じように器壁が極めて薄く，釉をはじいている。35は，口径の大きいものであり，内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。33・34・36～38も，内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。

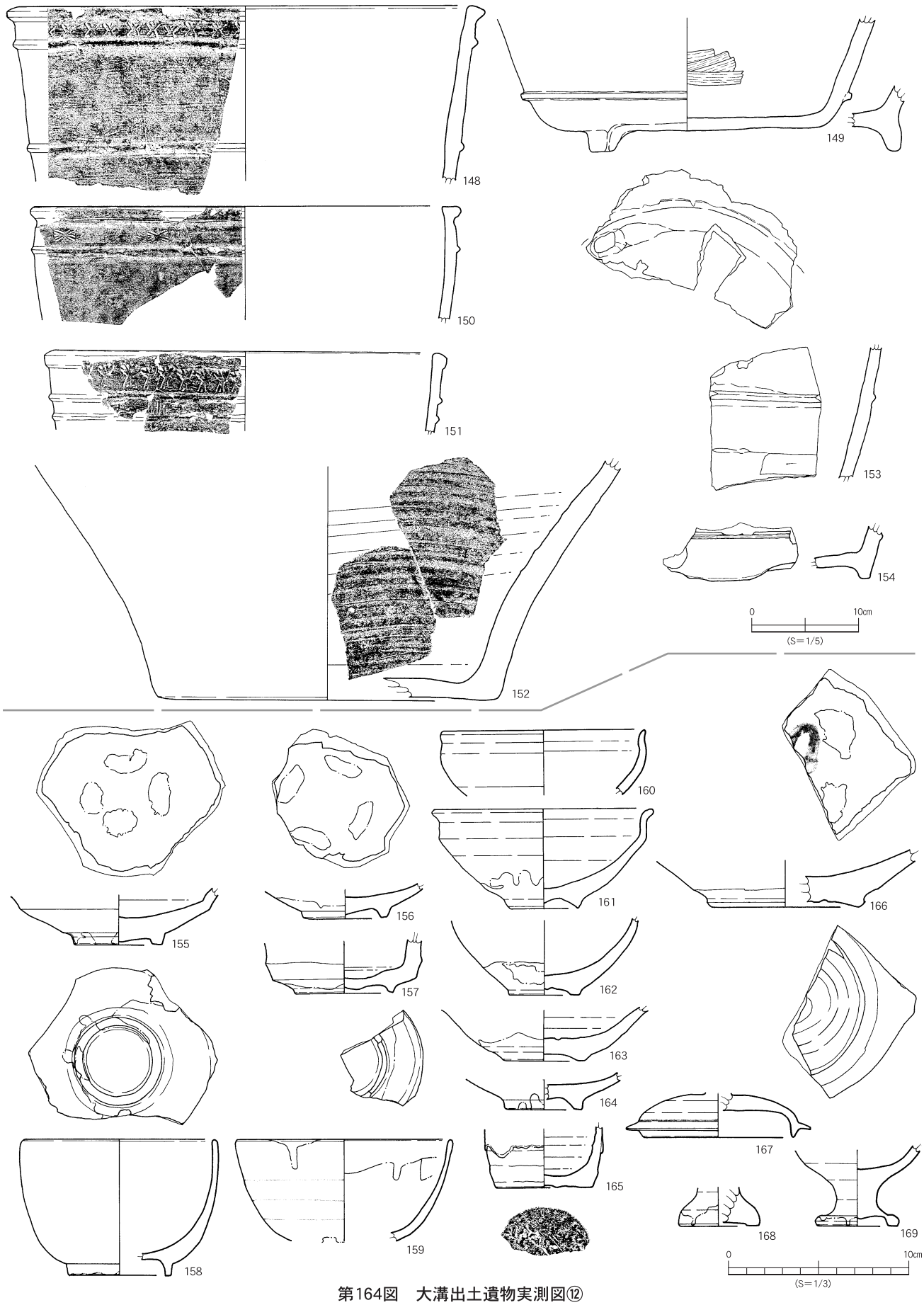
39・40は，胴部がバケツ型で，口縁部がT字状の形状を呈する。口唇部はほぼ平坦である。どちらも内外面にナデ調整による横筋が看取される。39は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残る。40は，外面にタタキ成形による平行タタキ目が看取される。

41～48は，胴部が丸みを帯びて膨らむ形状のものである。41～46は，口縁部が断面三角形をつくるもので，口唇部はほぼ平坦である。41は，内外面にナデ調整による横筋が看取される。また，内面口縁部に指圧痕が残り，口唇部に貝目が残る。42は，口唇部がほぼ平坦で外側にごく浅い溝があり，貝目が残る。内面には，タタキ成形によるあて具痕が残る。43は，口唇部に貝目が残り，外面口縁部下位に円形の突起が付く。内面にはタタキ成形によるあて具痕が残る。44は，肩部に貼り付けの縄状突帯と，その上位にさらに一条の突帯が巡るタイプのものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。口唇部には貝目が残る。45は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，外面にナデ調整による横筋が看取される。器壁が厚い。46は，内面にナデ調整による横筋が残る。47は，器壁が極めて厚く，内面にタタキ成形によるあて具痕が残る。48は，口縁部が外反するものであり，内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。

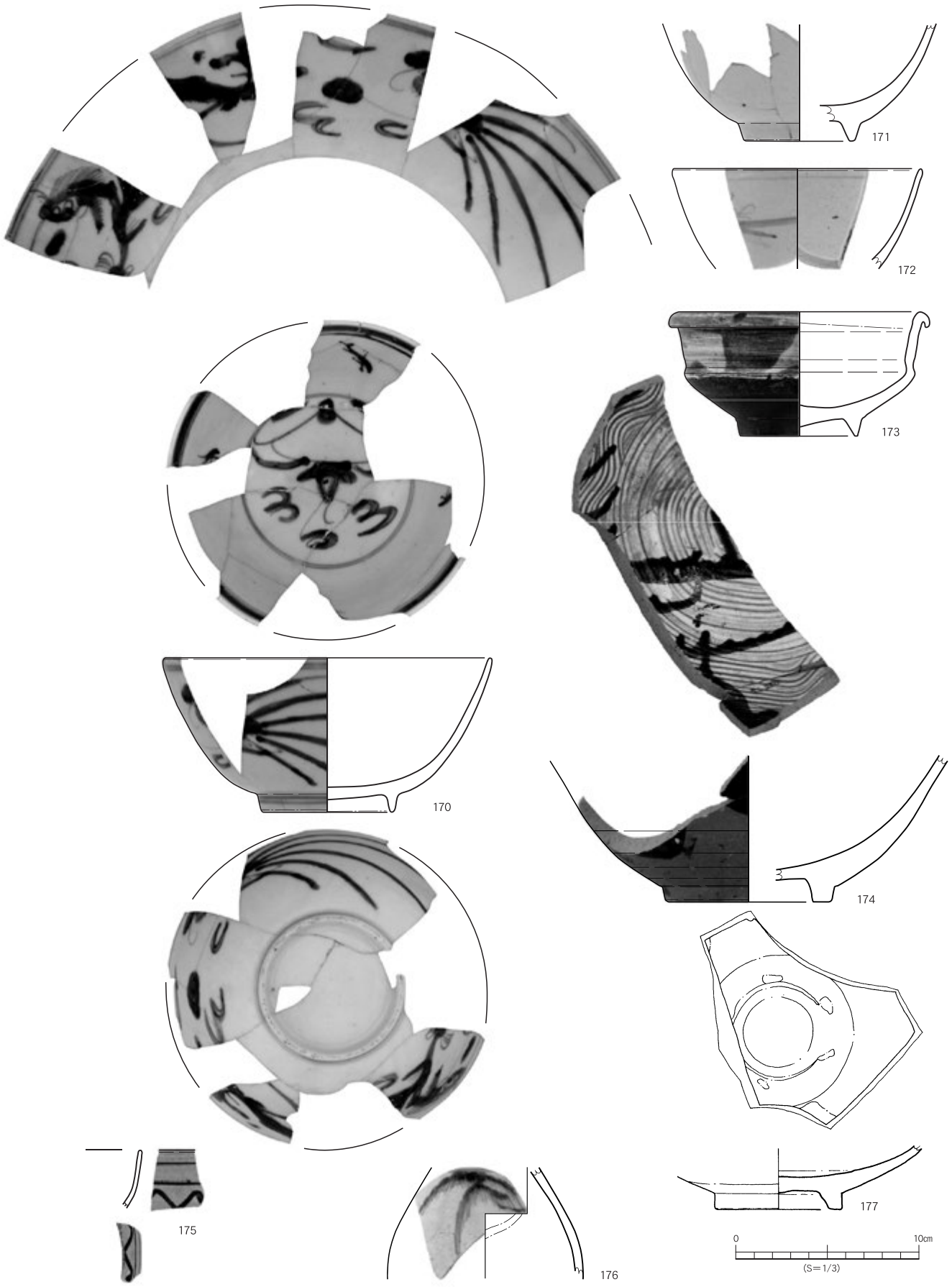
底部（第156図・157図）

49～60は，甕または壺の底部を一括した。

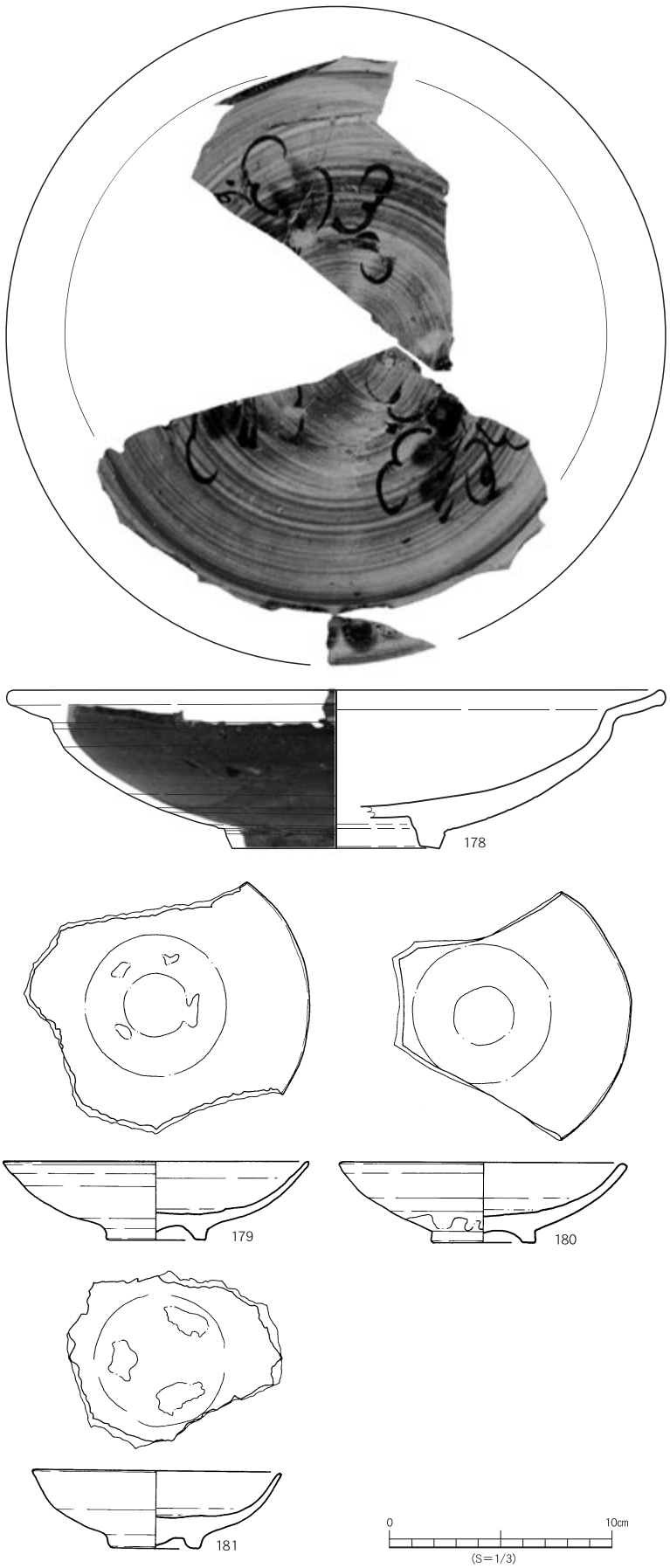
49は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，外底面に貝目が残る。50は，外面にナデ調整による横筋が残り，外底面に貝目が残る。51・52は，内面にはタタキ成形によるあて具痕が，外底面には貝目が残る。53は，外面にナデ調整による横筋が残る。54は，内面にナデ調整による横筋が残る。56は，内面にタタキ成形によるあて具痕とナデ調整による横筋が残る。55・57は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残る。58は，内面にナデ調整による横筋が看取される。60は，外底面に貝目が残る。



第164図　大溝出土遺物実測図⑫



第165図　大溝出土遺物実測図⑬



第166図　大溝出土遺物実測図⑭

壺(第157図)

基本的な形状としては，頸部が締まり肩部にかけて丸みを帯びながら膨らむ形状である。口縁部を外側に折りさらに内側に折り返して肥厚させたのち端部を丸くおさめるものと，口縁部を内側に折り返して丸くおさめ口唇部に蓋受け部を有するものがある。

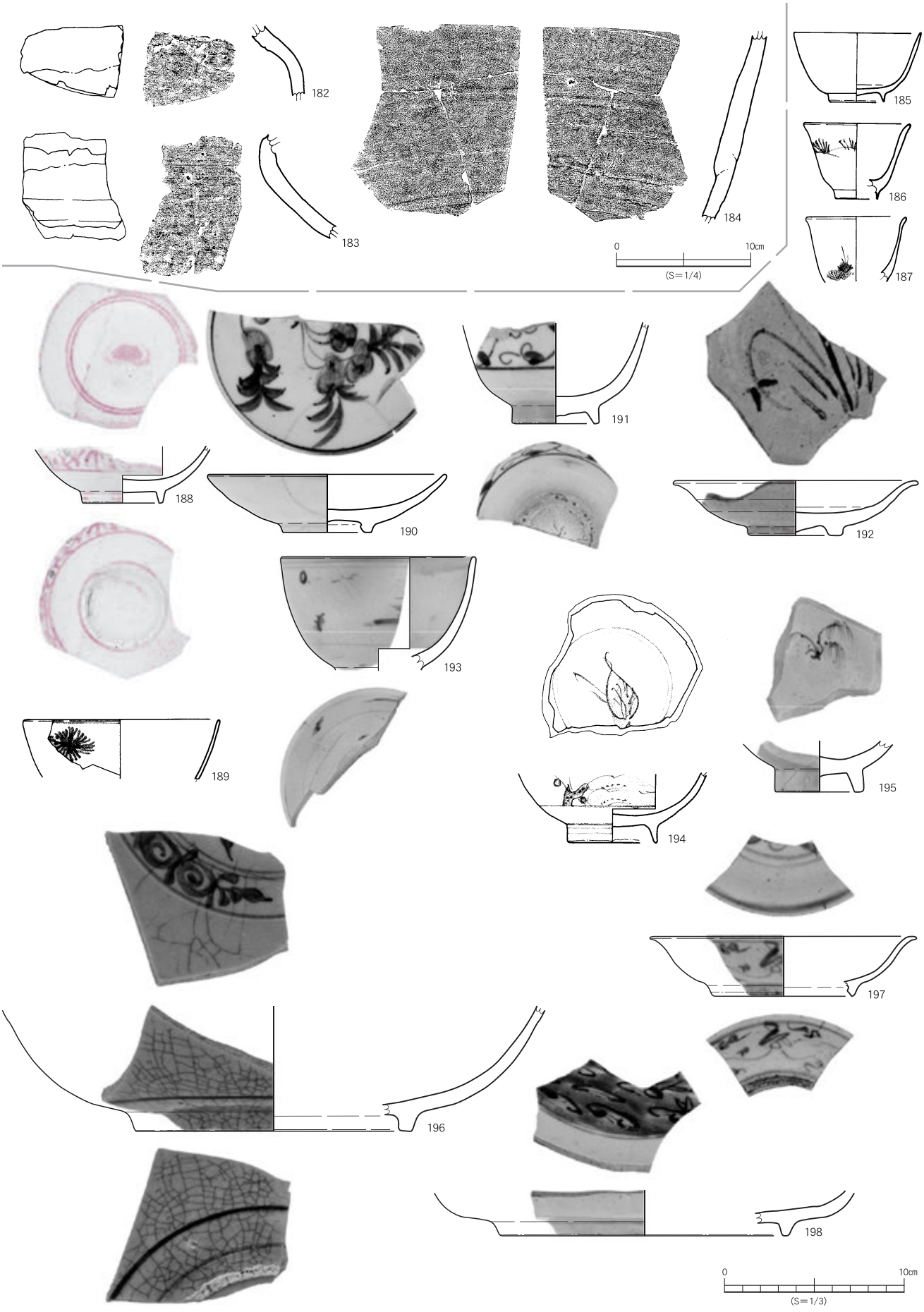
62・63・65は，口縁部を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させたのち，端部を丸くおさめるものである。口唇部は，ほぼ平坦に仕上げる。63は，肩部に縦耳が付くものである。残存する耳の付き方のバランスから考えて，三耳壺になるものと考えられる。口唇部は外側にごく浅い溝があり，貝目が残る。外面には平行タタキ目がみられる。また，内面に同心円状のあて具痕が残る。62は，口唇部の外側にごく浅い溝があり，貝目が残る。内面に同心円状のあて具痕が残る。65は，内面にあて具痕が看取される。口唇部の釉は拭き取られている。

61・64・68は，胴部である。いずれも内面にはあて具痕が残る。61は，肩部に縦耳が付き，その下位に二条の沈線を有する。64は，器壁が極めて薄い。68は，内外面ともにナデ調整による横筋が看取される。

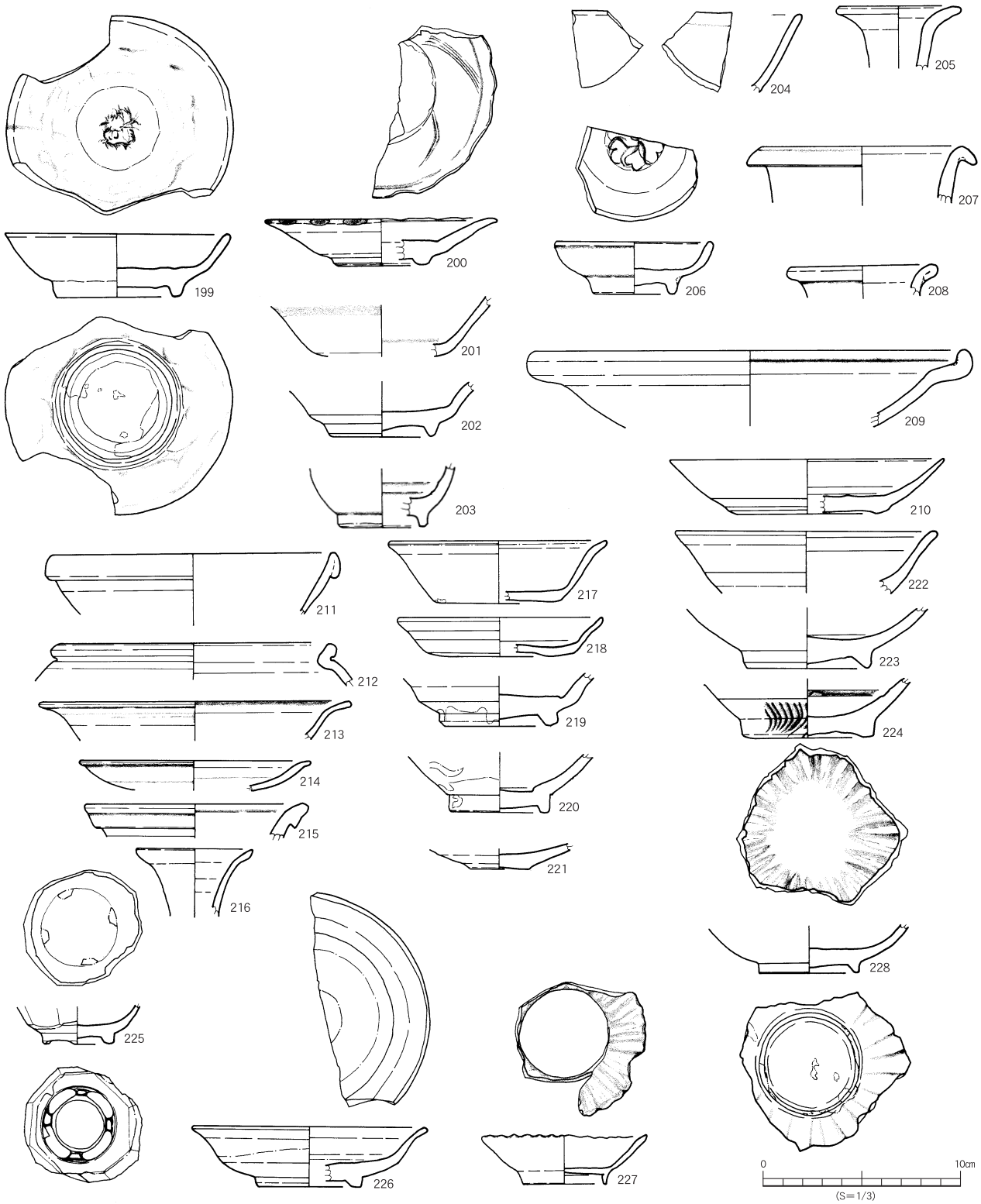
66・67は，口縁部を内側に折り返して丸くおさめ，口唇部に蓋受け部を有する小形の壺である。口唇部の釉は拭き取られている。ともに，外面にナデ調整による横筋が残り，内面には同心円状のあて具痕が残る。

片口（第157・158図）

タタキによって成形されており，内面に同心円状のあて具痕が残る。口唇部は端部で外側に折り，さらに内側に折り返しておさめるため，「T」字状を呈



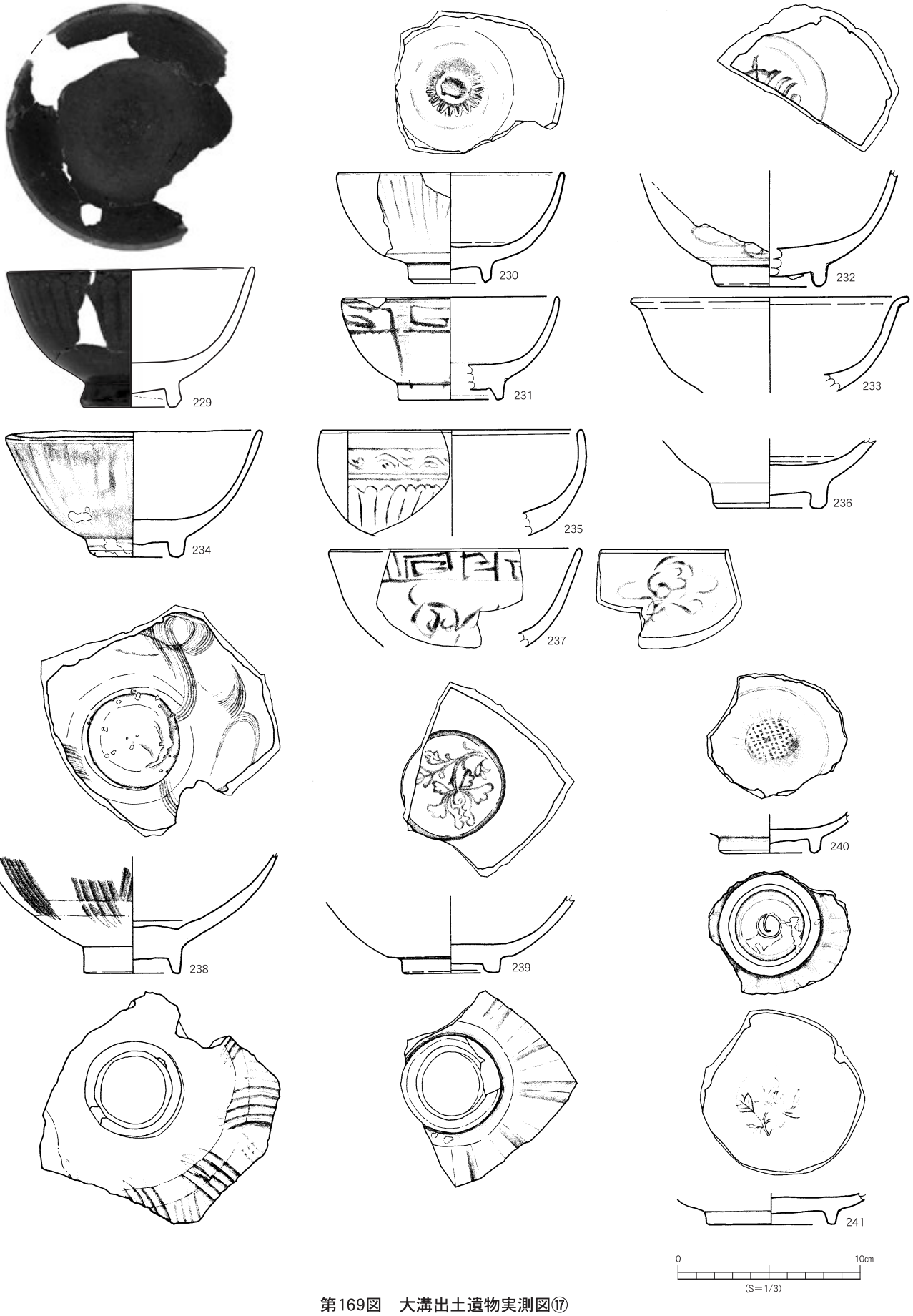
第167図　大溝出土遺物実測図⑮



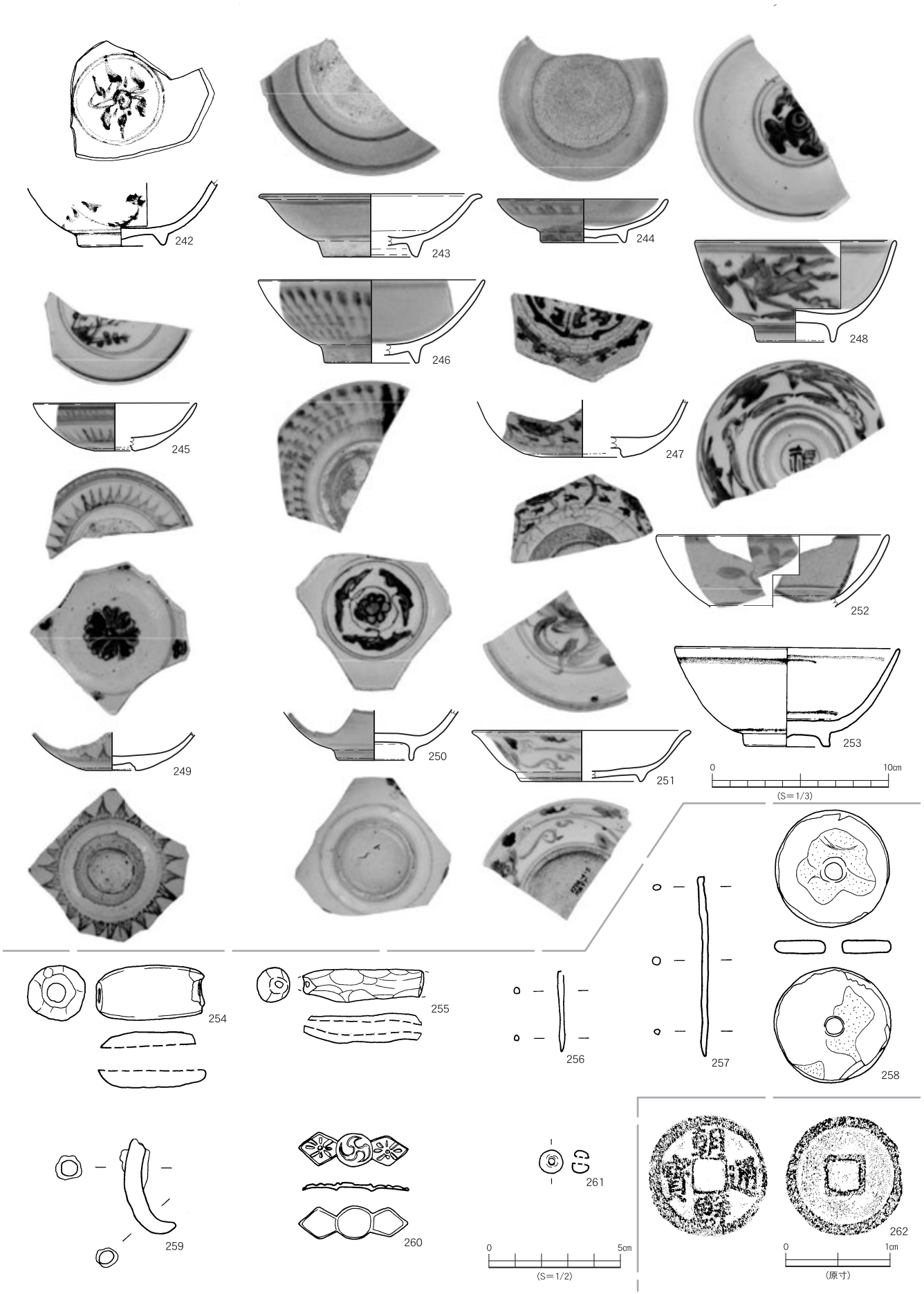
第168図　大溝出土遺物実測図⑯

する。

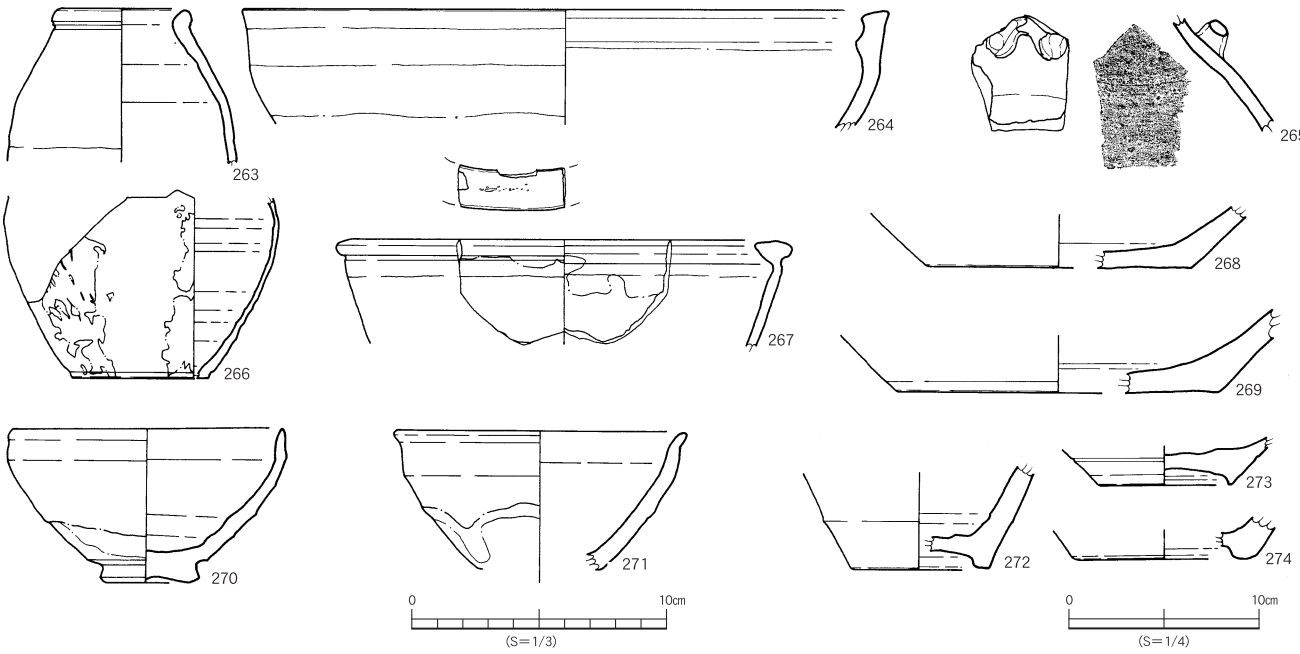
70・71は，口縁部直下に半円形の粘土板を貼り付けて注ぎ口をつくるものである。70は，内面から横方向の切り込みを入れ，切り口の下部は外側に折り曲げ片口部と接合させ，上部は切り抜き，切り抜き部分は調整しない。外反した口縁部先端は丸くおさめる。内面には同心円状のあて具痕が，外底面には貝目が残る。71は，内面から横方向の切り込みを入れ，切り口の下部分は外側に折り曲げて接合させ，上部分は外側上方に折り曲げ口縁部に付けるが，切り口は調整しない。外反した口縁部先

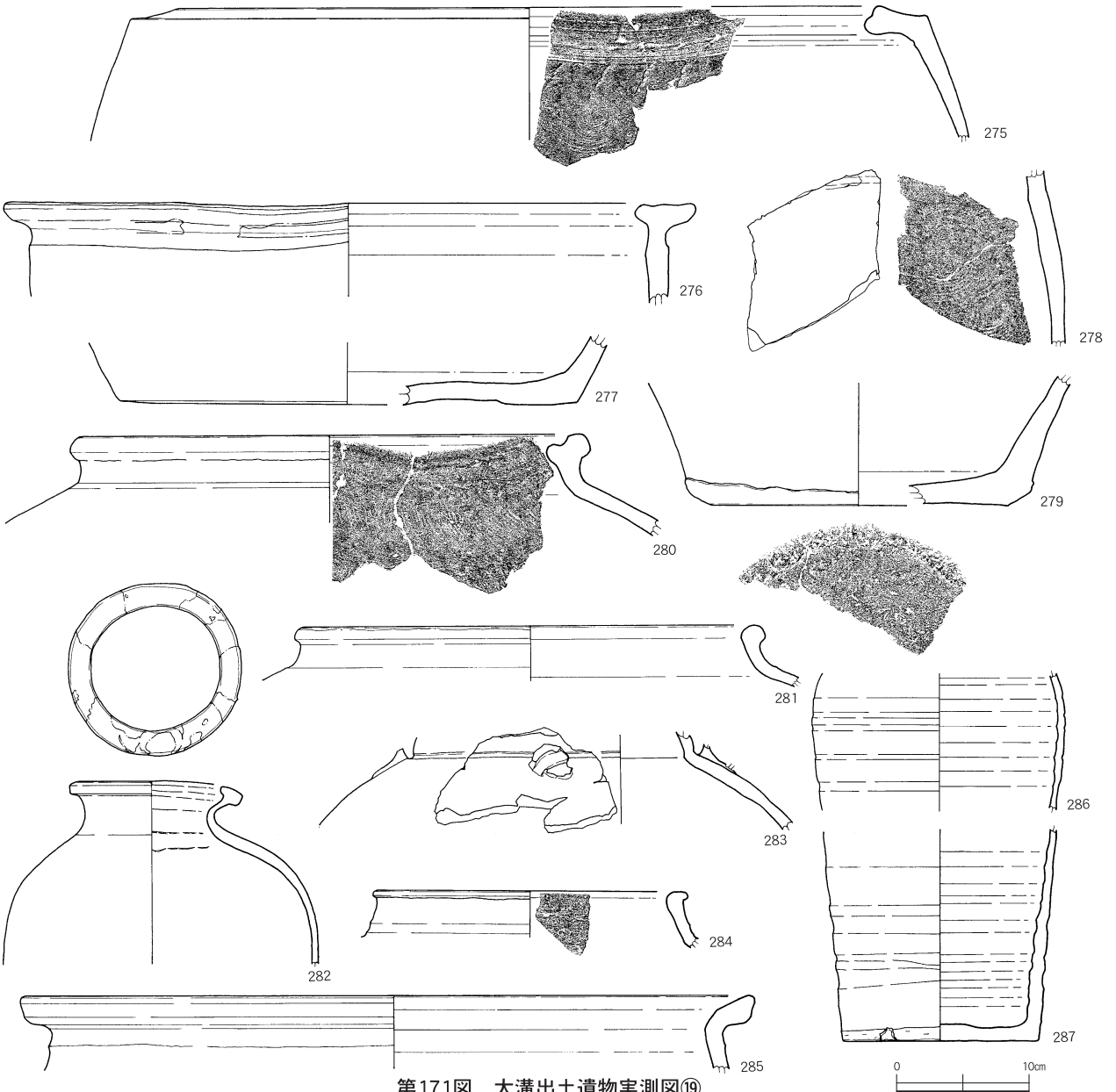


第169図　大溝出土遺物実測図⑰

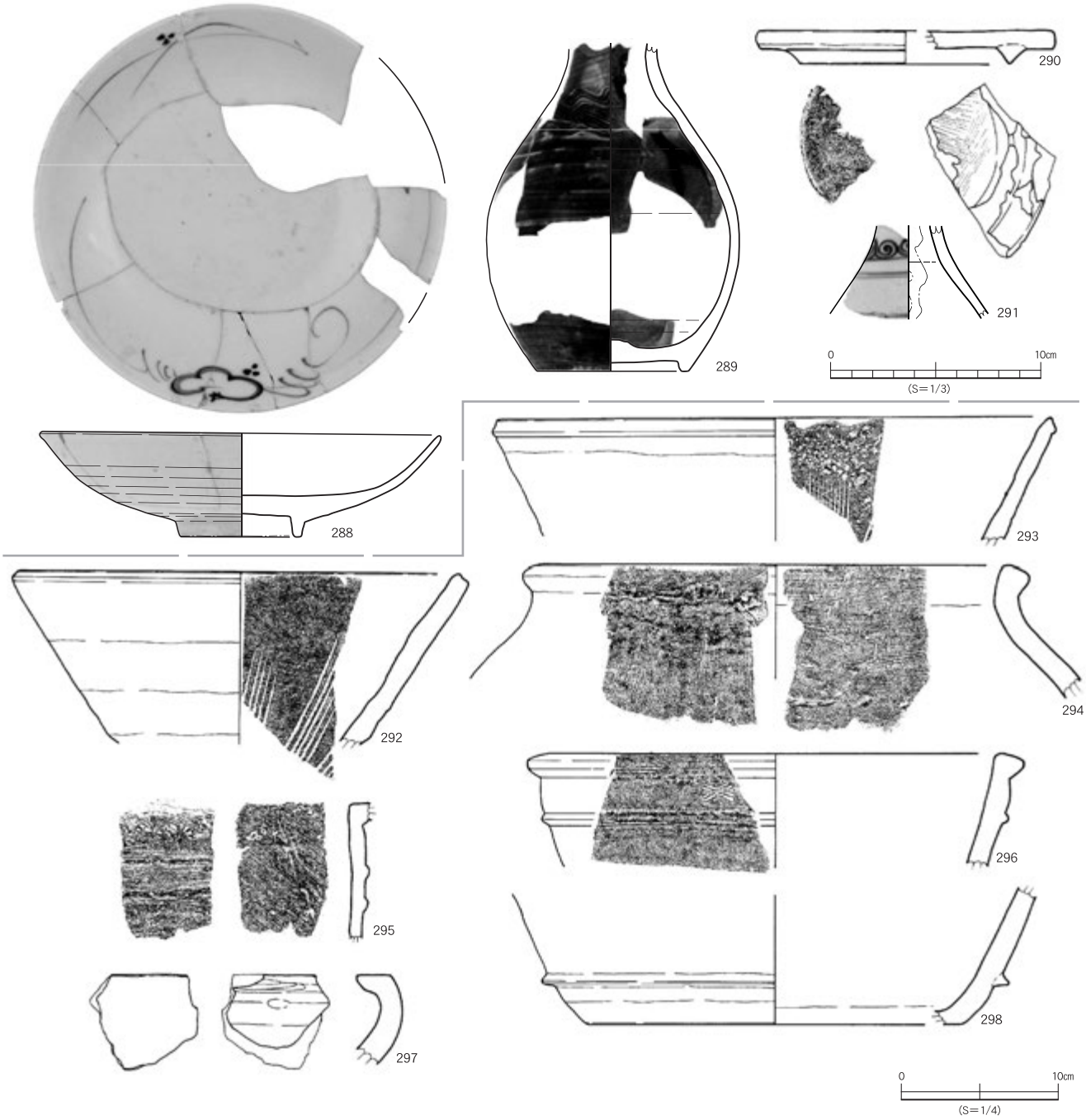


第170図　大溝出土遺物実測図⑱





第171図　大溝出土遺物実測図⑲



第172図　大溝出土遺物実測図⑳

端が下方に垂れる。

73・74は，片口部が欠損しているものである。口縁部先端は，外返し下方に垂れる。口縁部下位にはヘラ状工具による沈線が一条巡る。内外面ともに，ナデ調整による横筋が看取される。内面にはあて具痕が残る。

72は，口縁部直下に半円形の粘土板を貼り付けて片口をつくるものであるが，口縁部は端部で外側に折り返して丸くおさめたものである。内面から横方向の切り込みを入れ，切り口の下部は外側に折り曲げ片口部と接合させ，上部は切り抜き，切り抜き部分は調整しない。内面には，あて具痕が残る。口唇部には，重ね焼きの際のものと考えられる他製品の釉が筋状に付着している。

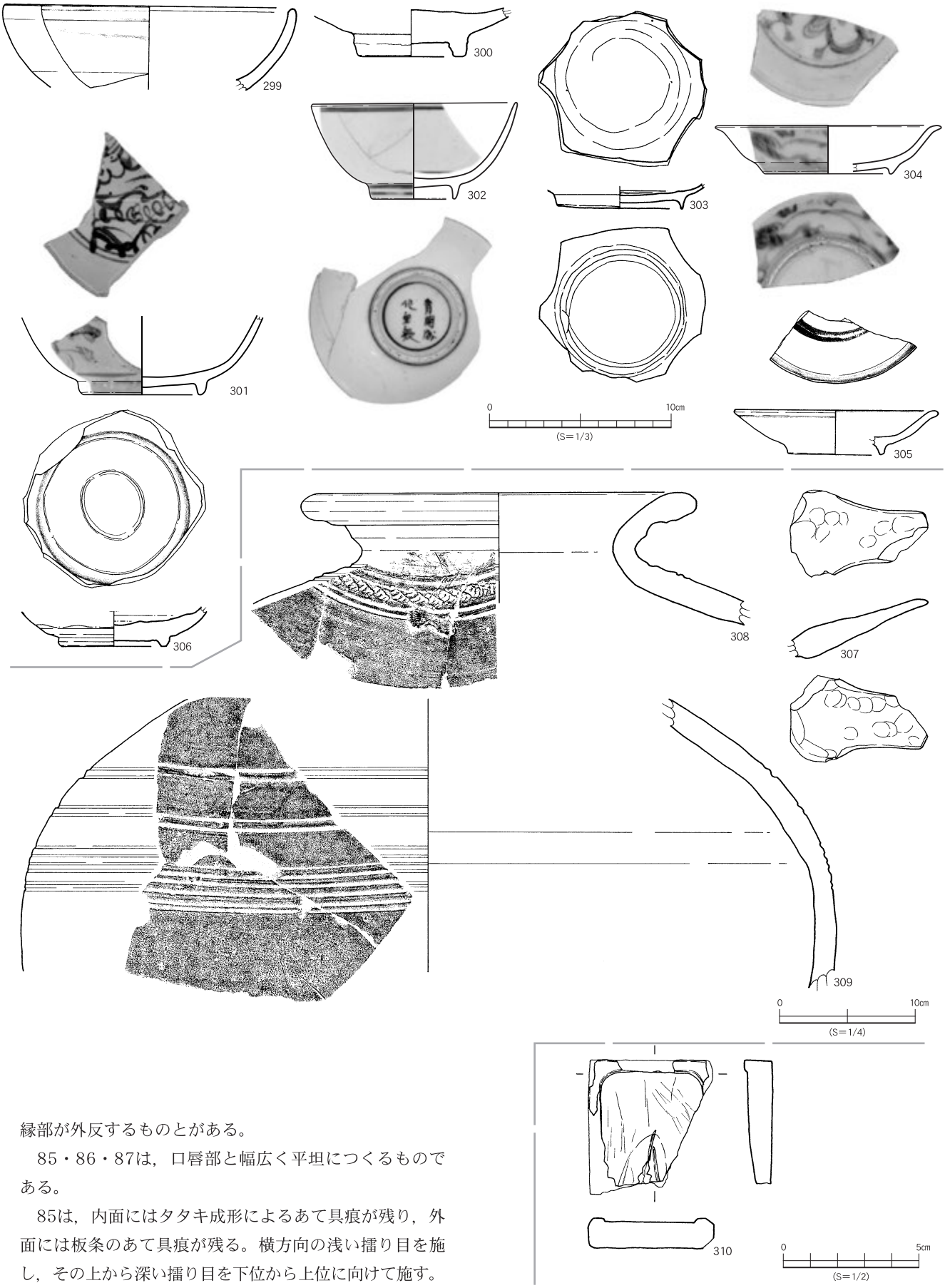
水注（第157図）

本遺跡での出土は，一点のみである。

69は，水注の注口である。注口は巻口で，注口に向かって左側の端が上になるように巻かれている。接合は，体部に切り込みを入れ，注口内部に折り曲げてなでつけて接合している。内外面に接合時のなでつけた痕跡が看取される。

擂鉢（第159図）

85～92は擂鉢である。基本的な器形として「逆ハ」の字にひらき，口縁部は外側に折り返して肥厚させ，二・三条の突帯をつくる。口唇部が幅広く平坦なものと，口

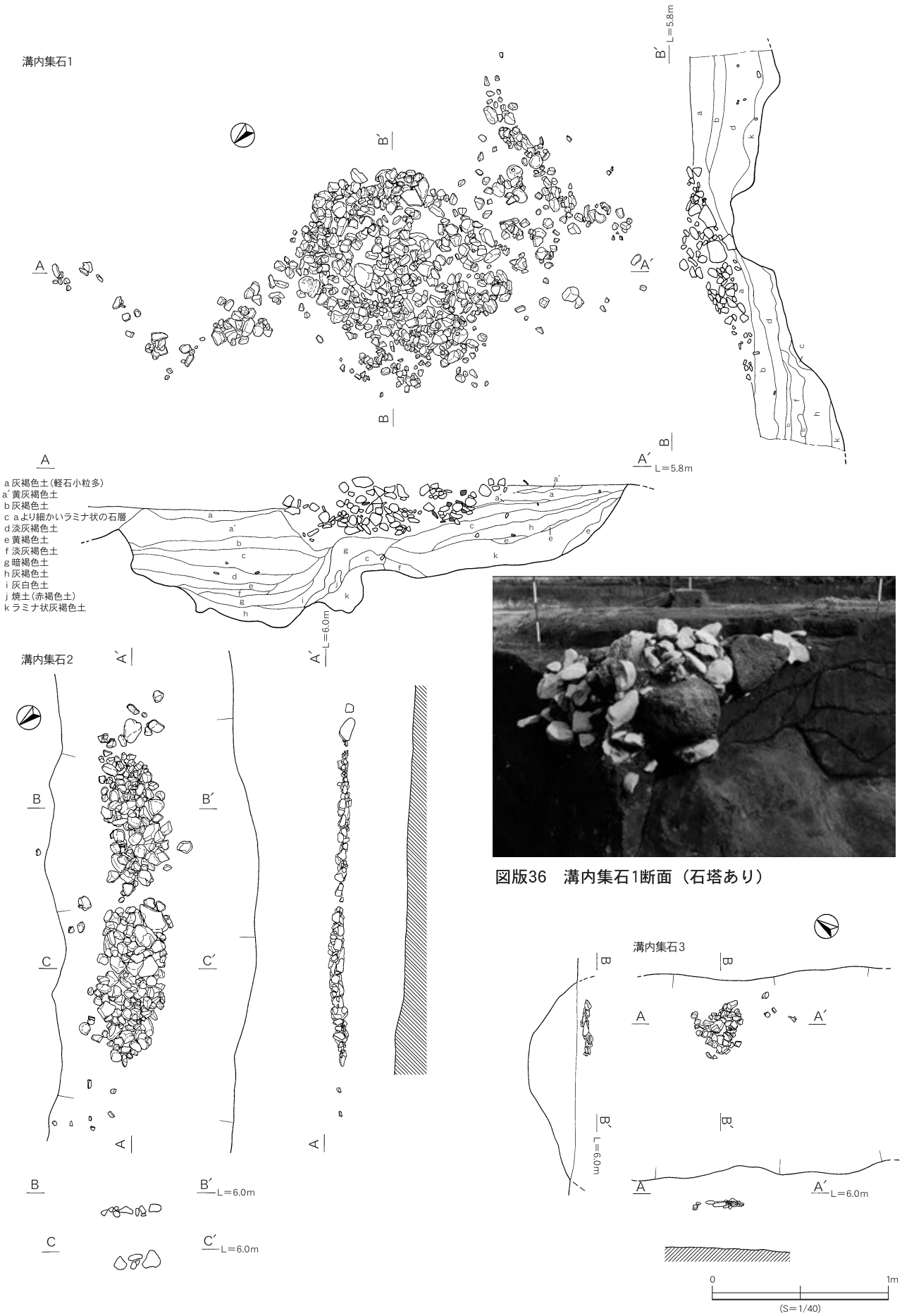


第173図　大溝出土遺物実測図㉑

縁部が外反するものとがある。

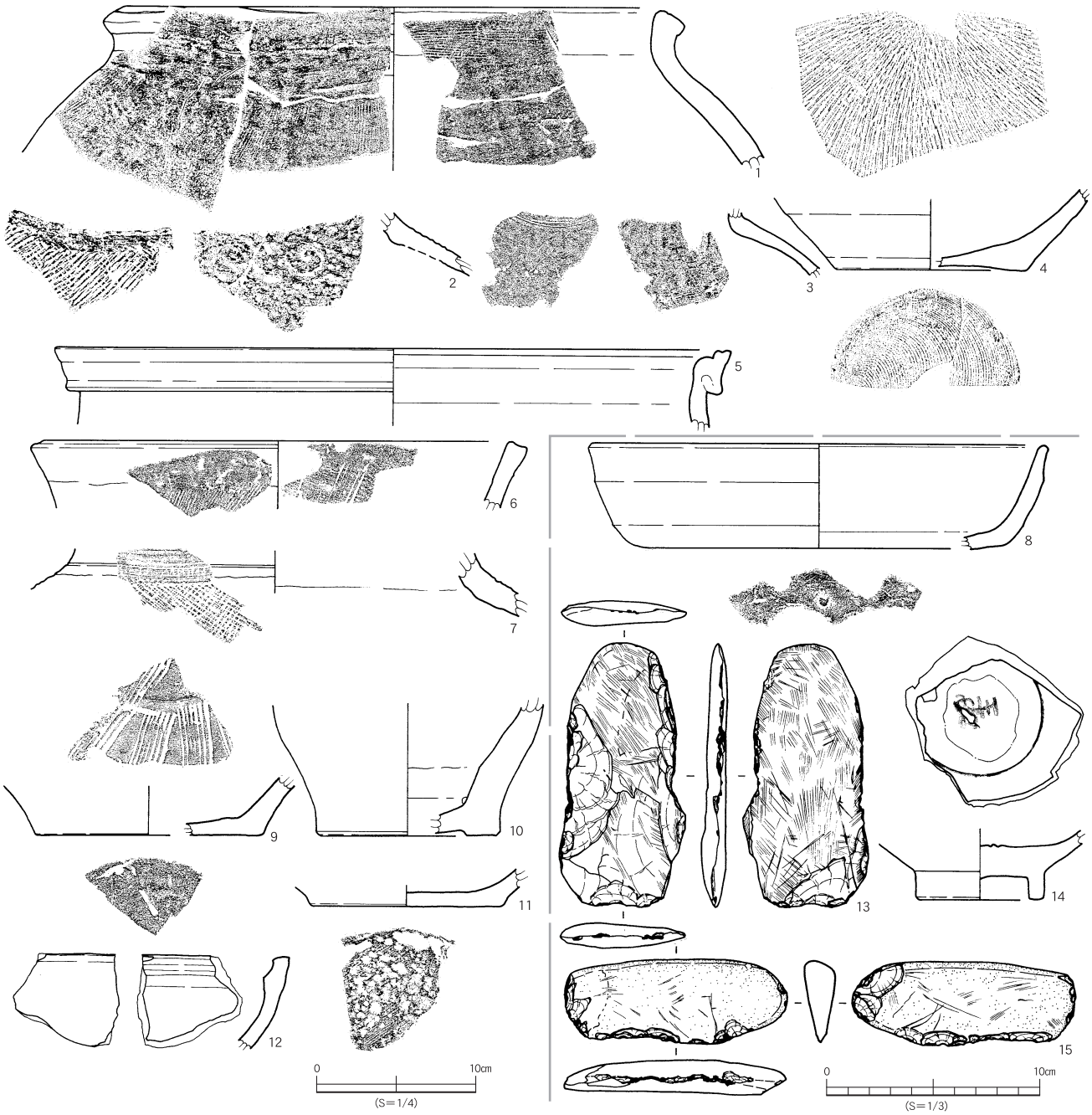
85・86・87は，口唇部と幅広く平坦につくるものである。

85は，内面にはタタキ成形によるあて具痕が残り，外面には板条のあて具痕が残る。横方向の浅い擂り目を施し，その上から深い擂り目を下位から上位に向けて施す。口唇部には胎土詰め貝目が残る。86は，内面の口縁部下



図版36　溝内集石1断面（石塔あり）

第174図　溝内検出集石①



第175図　溝内出土遺物実測図①（集石分）

位に，タタキ成形によるあて具痕が看取される。87は，外面に板状のあて具痕が残り，下位にはヘラ状工具によるケズリ調整の痕が残る。内面の口縁部下位には，ケズリ調整の横筋が看取される。内面底部中心から放射状に擂り目が施されている。

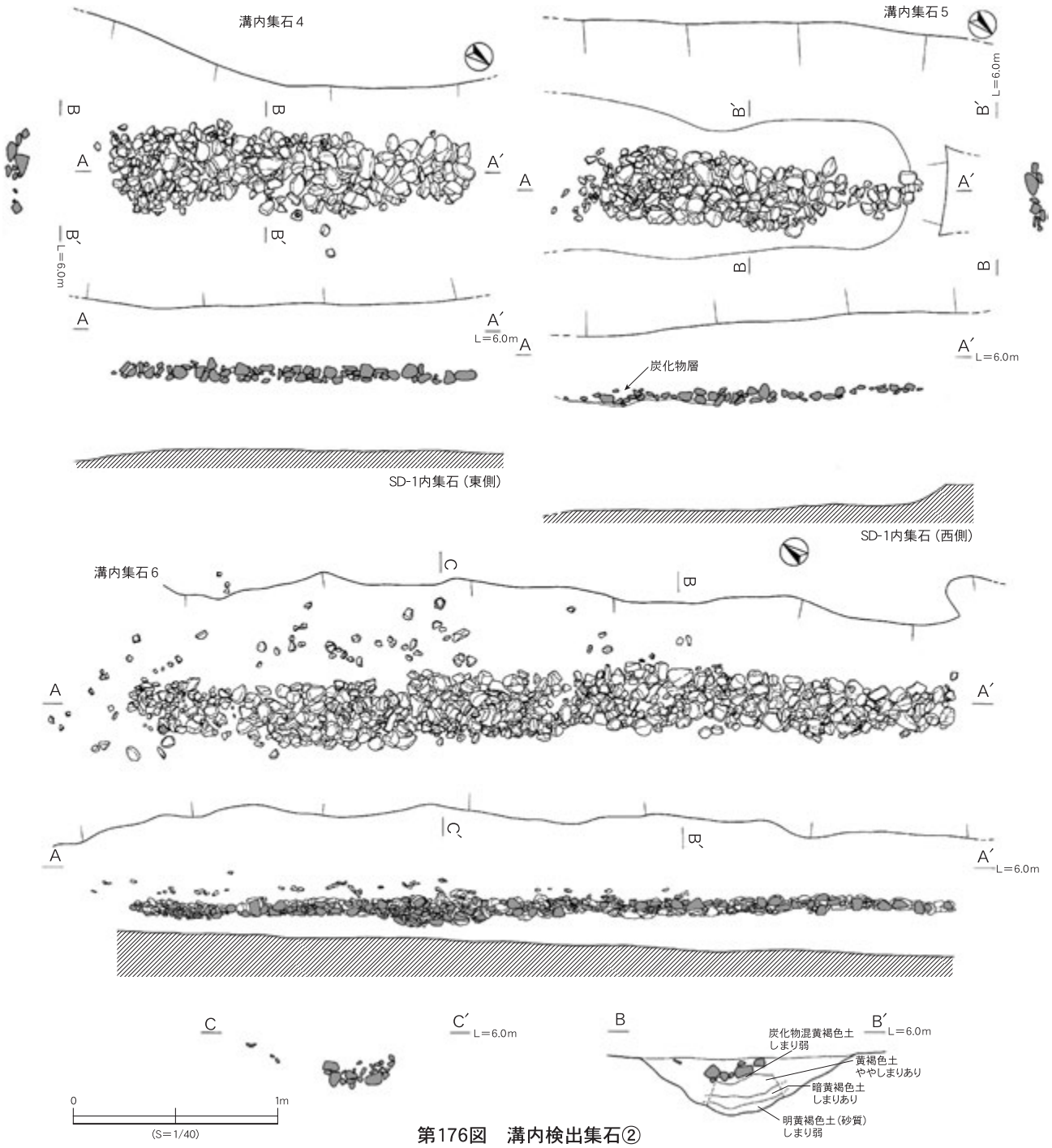
88・89は，口縁部の端部がわずかに外反するものである。どちらも，口唇部に貝目が残る。

90・91は，擂鉢の底部である。90は，外面にケズリ調整の横筋が残り，下位にはヘラ状工具によるケズリ調整の痕が残る。内面にはタタキ成形によるあて具痕が残る。内面底部中心から放射状に太い擂り目が施されているが，使用されたためか擂り目が摩耗している。91は，外面下位にヘラ状工具によるケズリ調整の痕が残る。内面底部中心から放射状に太い擂り目が施されている。内面にタタキ成形によるあて具痕が残る。

92は，口縁部が外反するものである。口縁部内面下位に胎土目が残る。口唇部に重ね焼きの際に付いた他製品の釉が付いている。

蓋（第158図）

75～78は，蓋である。器形は浅鉢形であり，甕や壺に被せて使用したと思われる。口縁部を外反させ，さら



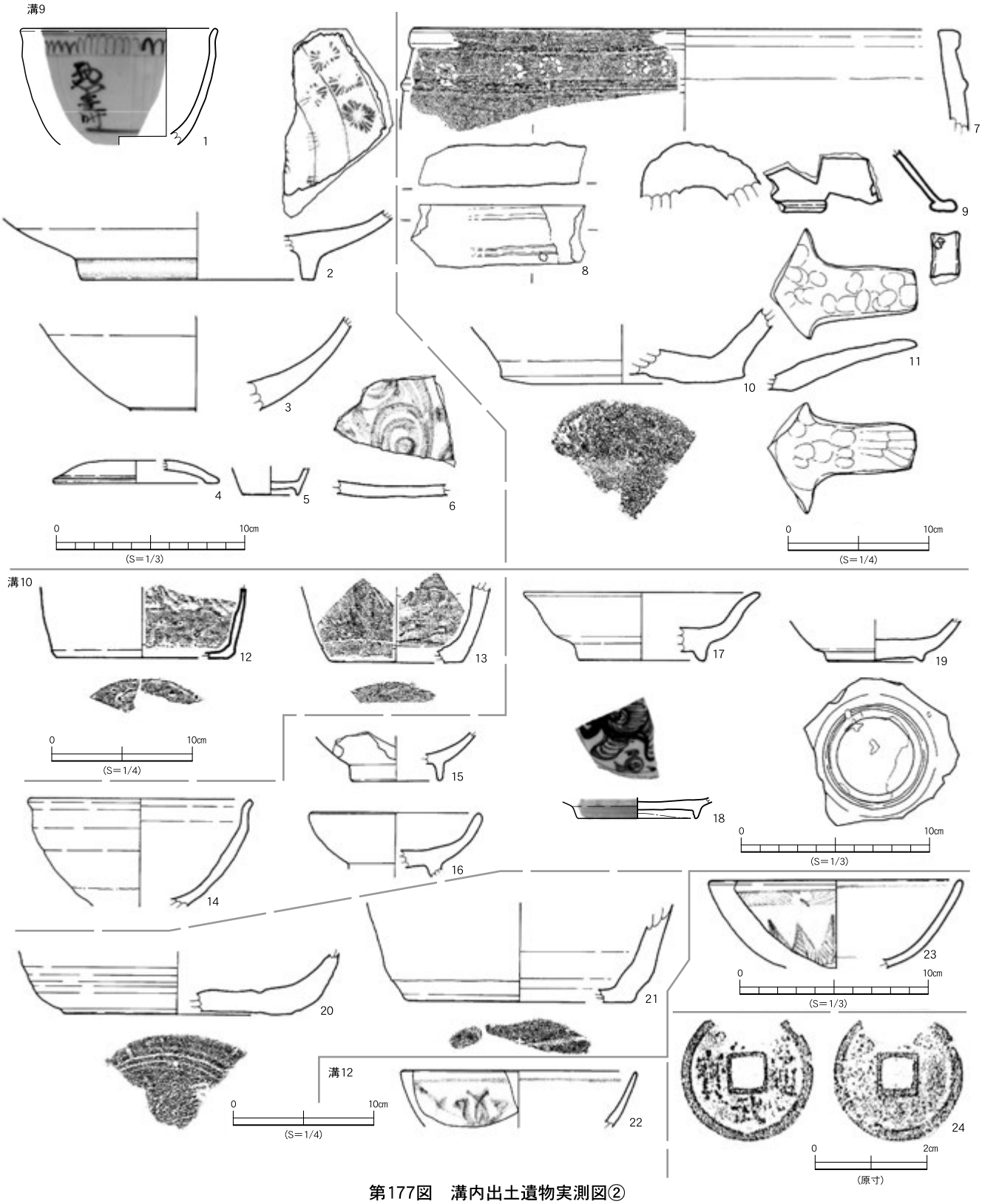
第176図　溝内検出集石②

に内側に折り返して肥厚させ，内側を丸くおさめている。75は，内外面にナデ調整による横筋を看取することができる。口唇部はやや丸くなっており，貝目が残る。76は，外底面下位にヘラ状工具によるケズリ調整の痕跡がある。口唇部はやや丸くなっており，貝目が残る。77は，ヘラ状工具によって内面には横方向の調整痕が，外面には，ナデ調整痕が残る。外底面には貝目が残る。口唇部は平坦である。78は，内面にタタキ目が残り，ヘラ状工具による横方向の調整の痕跡が残る。口唇部は，ほぼ平坦である。

徳利（第158図）

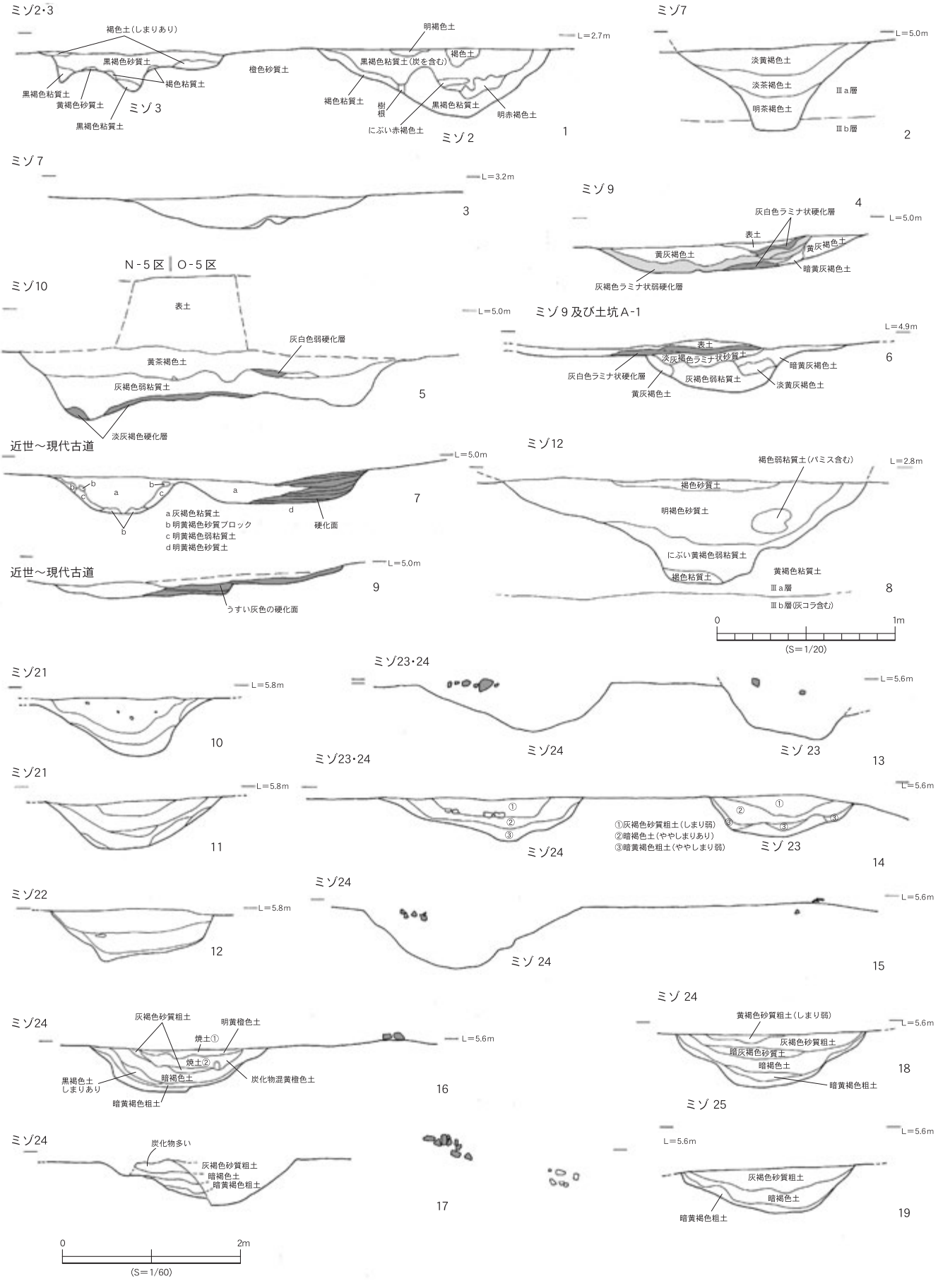
79・80・81は，徳利である。タタキ成形しており，内面には同心円状のあて具痕が残る。「舟徳利」型と呼ばれる胴部下半部に最大径を有する形状を呈するものと，「鶴首」型と呼ばれる頸部が細長く肩部がなで肩の形状を呈するものがある。

79・81は，「舟徳利」型のものである。79は，頸部が細くくびれ，口縁部にかけてラッパ状に開き，端部は外側に折り返して断面三角形につくる。頸部内面にヘラ状工具によるとみられる調整痕が観察される。また，内

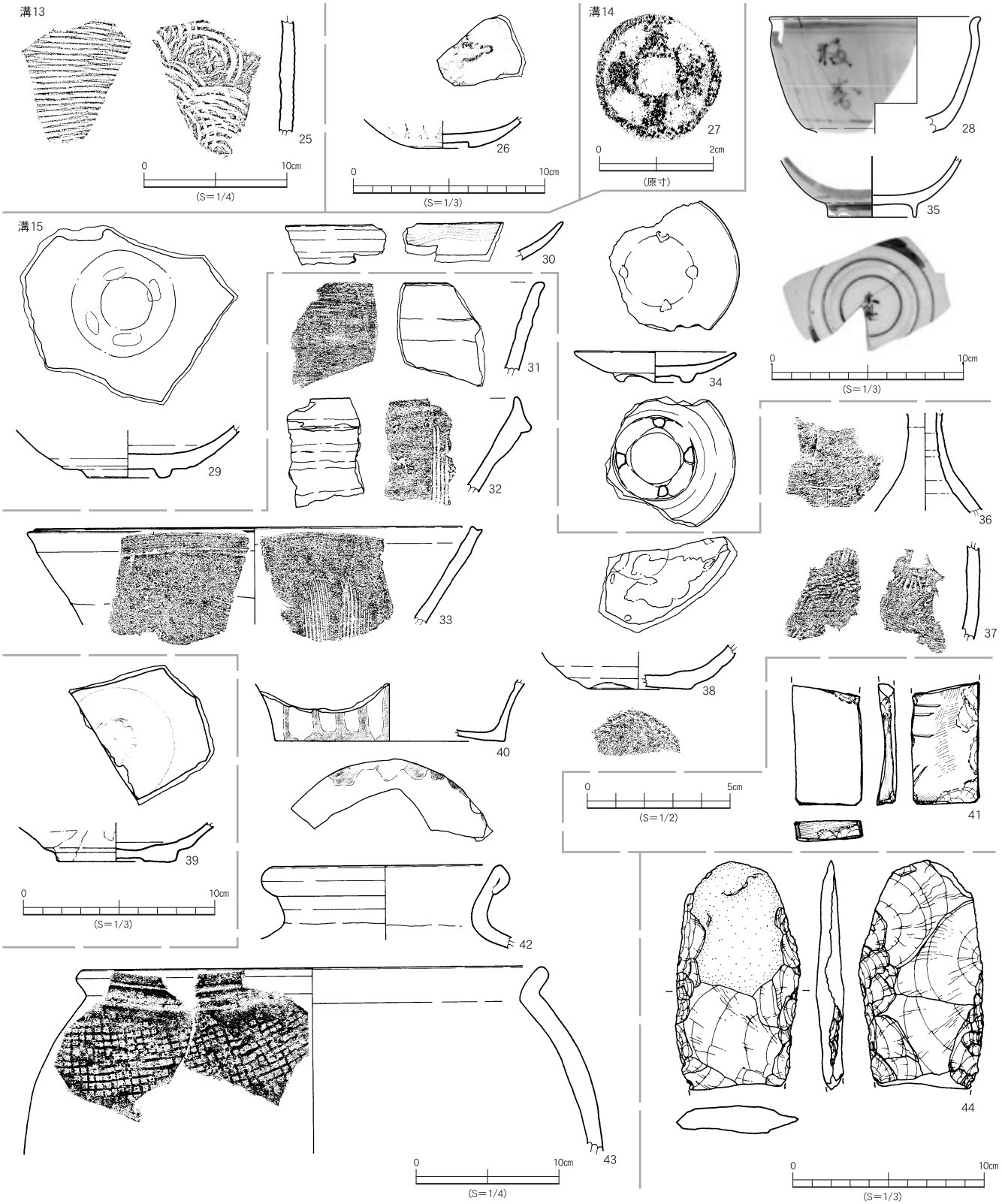


第177図　溝内出土遺物実測図②

面には同心円状のあて具痕が残る。外面頸部には，胴部との接合痕が残る。80・81は，頸部から胴部にかけてのものである。81は，頸部内外面に，胴部との接合痕が残る。また，内面には同心円状のあて具痕が残る。80は，「鶴首」型のものであり，「白薩摩」に類似する白色の胎土に透明釉をかけた資料である。肩部内面には，ヘラ状工具によるとみられる調整痕が残る。また，頸部内面には，胴部との接合痕が残る。胎土は白色で緻密である。透明釉が，残存部外面には全体に，内面には頸部上位までかかる。細かい貫入が入っている。これは，韓国の軟


ミゾ2・3
褐色土（しまりあり）
黒褐色砂質土
褐色粘質土
黒褐色粘質土
黄褐色砂質土
黒褐色粘質土
ミゾ3
橙色砂質土
明褐色土
褐色土
黒褐色粘質土（炭を含む）
褐色粘質土
樹根
黒褐色粘質土
明赤褐色土
にぶい赤褐色土
ミゾ2
L＝2.7m
1
ミゾ7
L＝5.0m
淡黄褐色土
淡茶褐色土
明茶褐色土
Ⅲa層
Ⅲb層
2
ミゾ7
L＝3.2m
3
N-5区
O-5区
ミゾ9
灰白色ラミナ状硬化層
表土
黄灰褐色土
黄灰褐色土
暗黄灰褐色土
灰褐色ラミナ状弱硬化層
L＝5.0m
4
ミゾ10
表土
灰白色弱硬化層
黄茶褐色土
灰褐色弱粘質土
淡灰褐色硬化層
L＝5.0m
5
ミゾ9及び土坑A-1
L＝4.9m
表土
淡灰褐色ラミナ状砂質土
暗黄灰褐色土
灰白色ラミナ状硬化層
灰褐色弱粘質土
淡黄灰褐色土
黄灰褐色土
6
近世～現代古道
L＝5.0m
a灰褐色粘質土
b明黄褐色砂質ブロック
c明黄褐色弱粘質土
d明黄褐色砂質土
硬化面
7
ミゾ12
褐色弱粘質土（パミス含む）
L＝2.8m
褐色砂質土
明褐色砂質土
にぶい黄褐色弱粘質土
褐色粘質土
黄褐色粘質土
Ⅲa層
Ⅲb層（灰コラ含む）
8
0
1m
（S＝1/20）
近世～現代古道
L＝5.0m
うすい灰色の硬化面
9
ミゾ21
L＝5.8m
10
ミゾ23・24
L＝5.6m
ミゾ24
ミゾ23
13
ミゾ21
L＝5.8m
11
ミゾ23・24
①灰褐色砂質粗土（しまり弱）
②暗褐色土（ややしまりあり）
③暗黄褐色粗土（ややしまり弱）
ミゾ24
ミゾ23
14
ミゾ22
L＝5.8m
12
ミゾ24
ミゾ24
L＝5.6m
15
ミゾ24
灰褐色砂質粗土
明黄橙色土
焼土①
焼土②
黒褐色土
しまりあり
暗褐色土
炭化物混黄橙色土
暗黄褐色粗土
L＝5.6m
16
ミゾ24
黄褐色砂質粗土（しまり弱）
L＝5.6m
灰褐色砂質粗土
暗灰褐色砂質土
暗褐色土
暗黄褐色粗土
18
ミゾ25
ミゾ24
炭化物多い
灰褐色砂質粗土
暗褐色土
暗黄褐色粗土
17
L＝5.6m
L＝5.6m
灰褐色砂質粗土
暗褐色土
暗黄褐色粗土
19
0
2m
（S＝1/60）

第178図　溝断面図

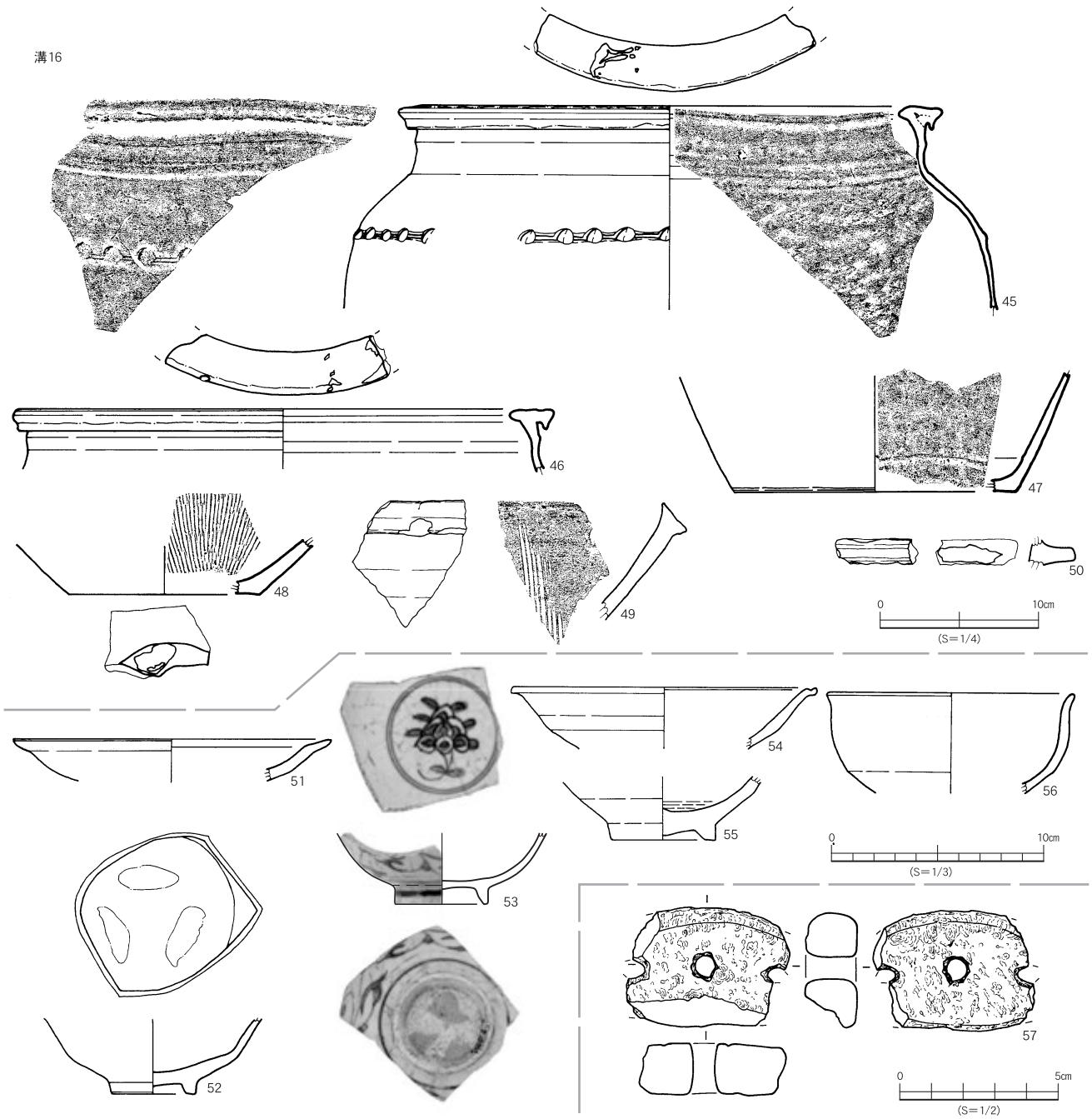


第179図　溝内出土遺物実測図③

質白磁もしくは竪野・冷水窯系陶器に類似する。土がパサパサなのが薩摩焼の特徴であるが，この白磁の土はキメ細かいので薩摩焼ではない可能性が高い。透明釉の透明度が高く白濁していないことと，貫入がほとんどないため，非常に美しい印象を持つ。

サヤ鉢（第158図）

82は，窯道具であるサヤ鉢である。内底面に砂目と胎



第180図　溝内出土遺物実測図④

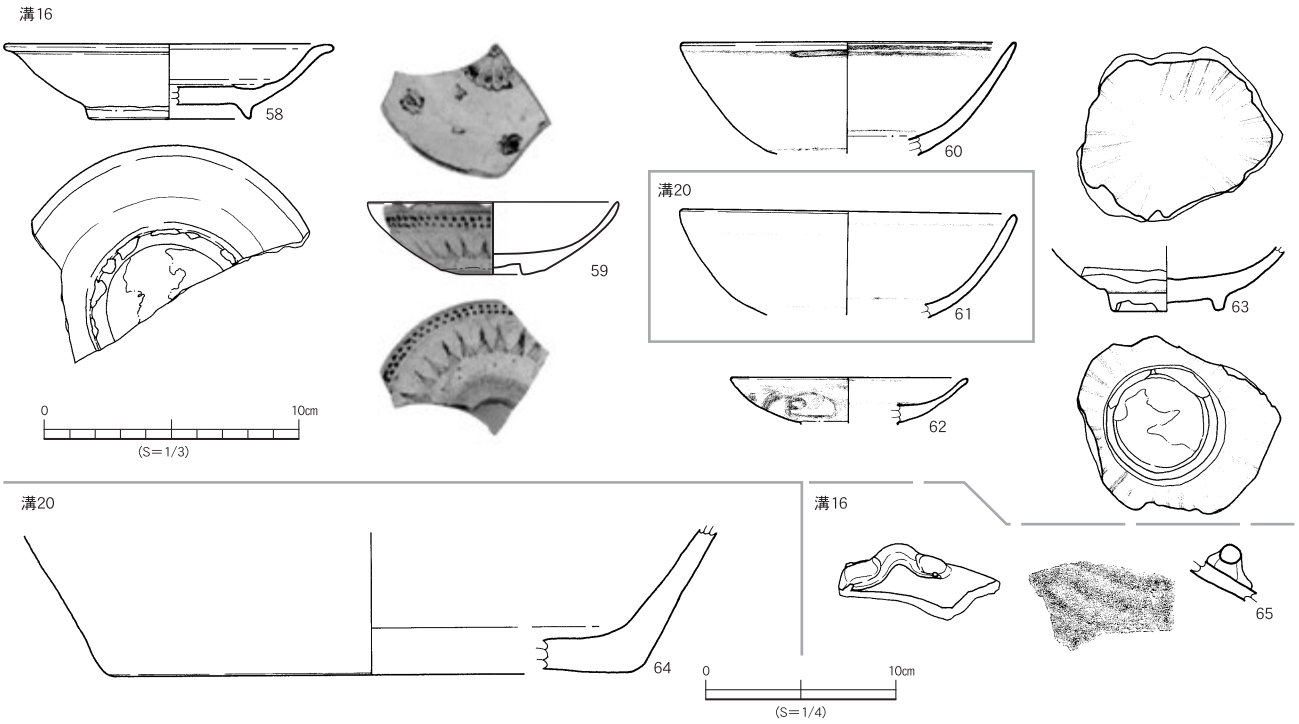
土が残り，外底面には貝目が残っている。また，口唇部に粘土によると考えられる目土が残り，外底面には貝目が残っている。このことから，サヤ鉢の中に製品を入れ，製品の入ったサヤ鉢を重ねたり他の製品を重ねたりして使用したものと考えられる。

瓶（第158図）

83・84は，瓶である。83は，頸部から底部にかけての資料である。内面には，ヘラ状工具によると思われる調整痕が残る。胎土は灰白色である。外面は，高台畳付以外飴釉が掛けられている。84は，口縁部である。ラッパ状に開き，端部は外側に折り返して断面三角形につくる。口唇部は，平坦におさめている。内外面に，ヘラ状工具による調整痕が残る。釉は青白濁化し，細かい貫入がはいる。

輸入陶器（第171図）

華南（中国南部地方，福建・広東周辺か）産とみられる輸入陶磁器も出土している（274～286）。この地域の焼物は，あまり研究が進んでいないため，時期や生産地の特定が困難な状況にある。ここでは，便宜上華南産の輸入陶器としておく。これらはフィリピンなどで日常



第181図　溝内出土遺物実測図⑤

雑器として使用されていたが，輸入されて茶器として使われたものと考えられる（285・286）。

また，ベトナム産の長胴壺も出土している

289は，緑色を基調とした二彩手刷毛目徳利で，17世紀後半の小田志（こたじ）地区（佐賀県武雄市西川登町）で生産されたものである。

（10）　溝状遺構

溝１

Ｖ-８・９区で発見された。掘立柱建物１と古墳時代の６号竪穴住居跡を切っている。西から東へと傾斜する溝である。

溝２

Ｕ-７・８・９区で発見された。溝３とはほぼ並行しているが西側隅では溝３を切っている。西から東へ傾斜する。

溝３

Ｕ-７・８・９区で発見された。溝２に切られる。古墳時代の７号竪穴住居跡を切っている。

溝４

Ｔ-８・９区で発見された。平成16・17年の調査区のみで発見されており，溝５とつながっていた可能性はあるが，確認できなかった。また，西側へ向かって徐々に浅くなり不明瞭となる。８号竪穴住居跡を切る。

溝５

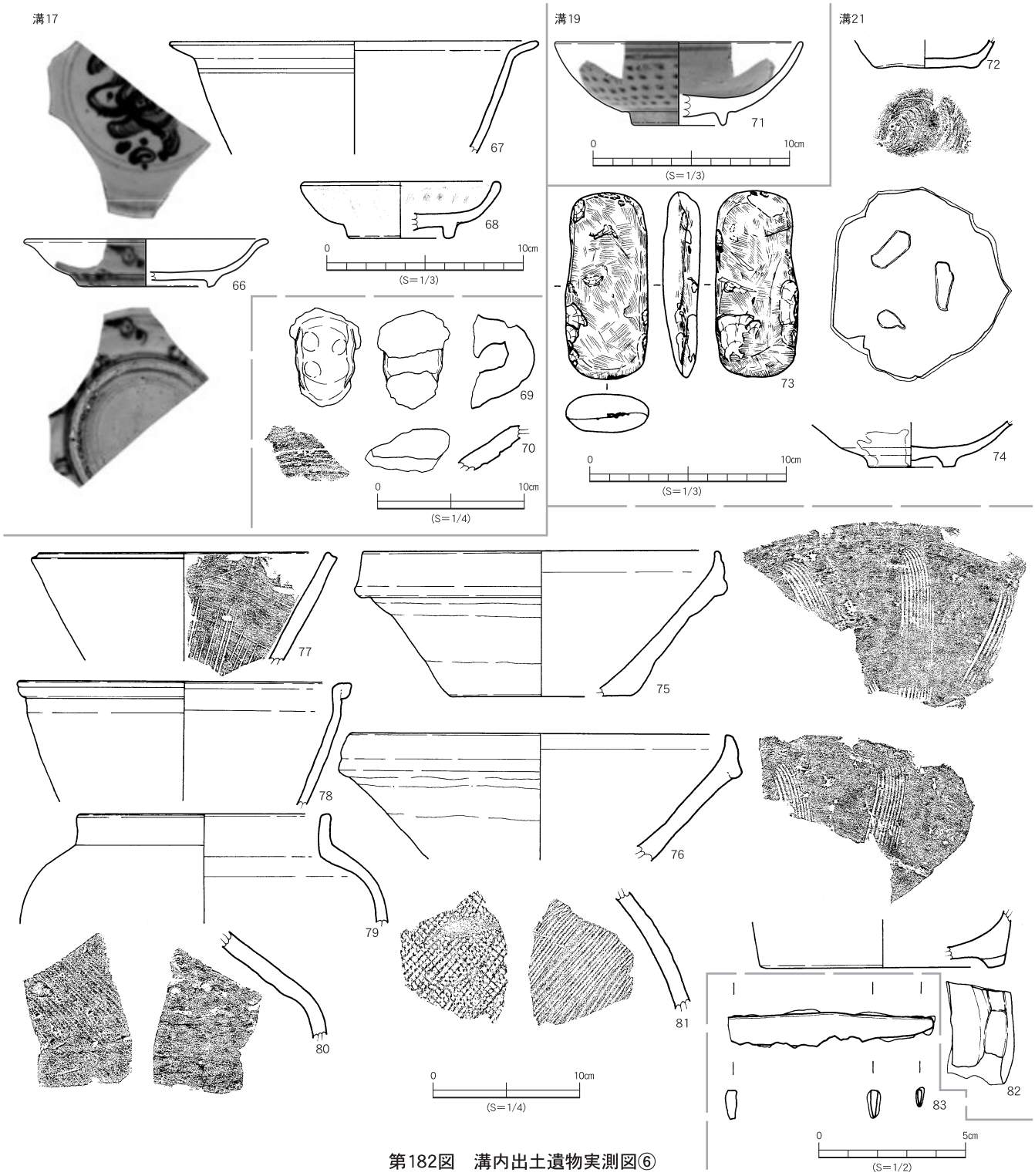
Ｔ-６区で発見された。Ｌ字形にみえるが，近現代の水田による段造成によって切られているため，つながりは確認できなかった。

溝６

Ｔ-６・７区で発見された。溝５と溝７に挟まれた状態であるが，切り合いからそれら３つの中で最も新しい溝であることが確認できる。

溝７

Ｓ-６区・Ｔ-６～９区で発見された。溝の傾斜と流れを観察すると，Ｔ-９区でカーブして一直線に進んだのちにＴ-６区からＳ-６区へかけてカーブし不明瞭となる。もともとは大型土坑１へ注いでいた可能性があるが，確認できなかった。またＰ-９から始まり南へ走る溝13との間には，帯状硬化面が断続的に続いていることが確認されたので，Ｏ～Ｔ-６～９の範囲を区画し囲っていた可能性も考えられる。なお，この範囲にはピットと掘立柱建物跡が集中する。



第182図　溝内出土遺物実測図⑥

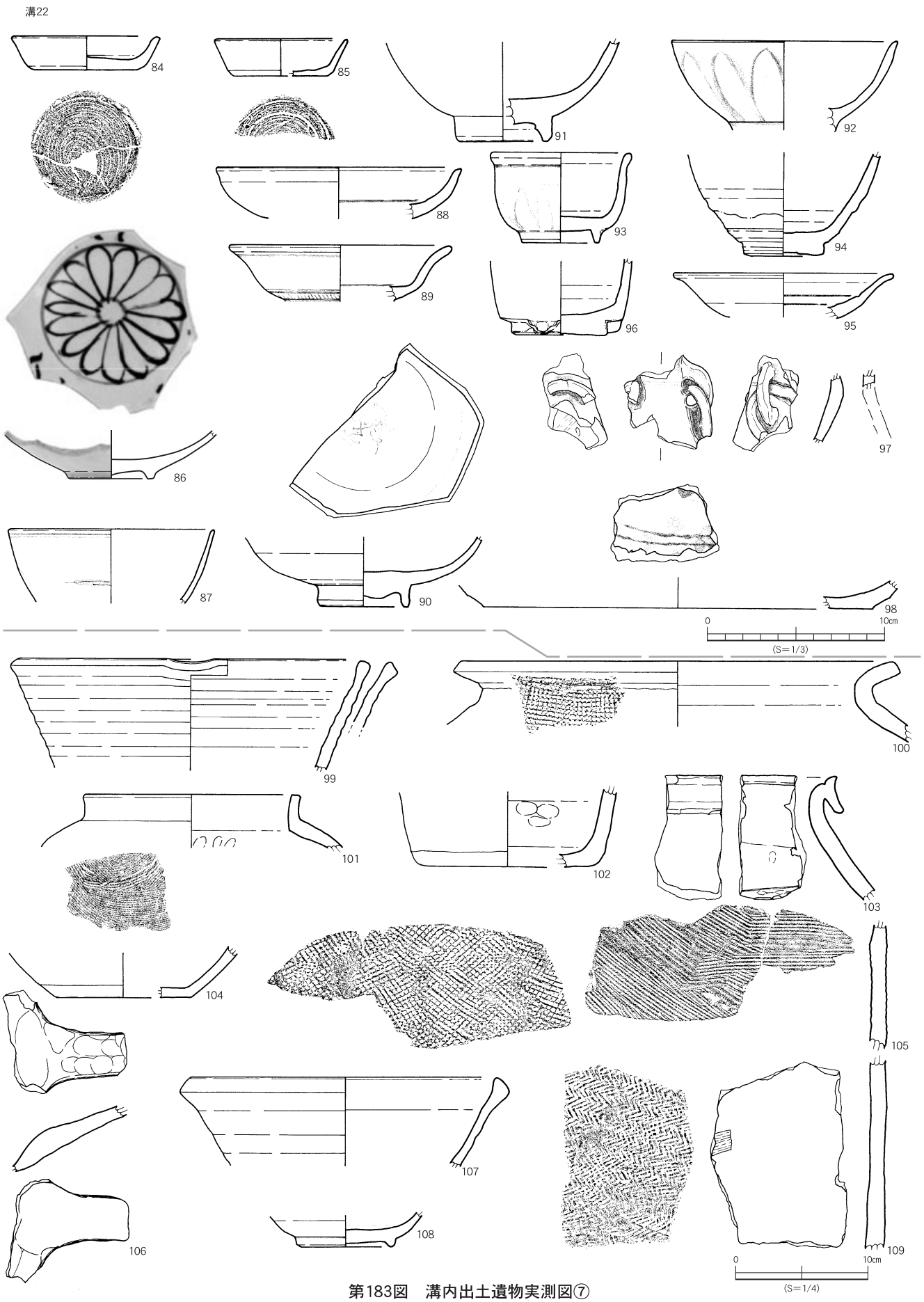
溝８

Ｓ・Ｔ-８区で発見された。もとは長い溝であったとみられるが，確認できた長さは3m程度と短い。溝７と並行するような状況である。

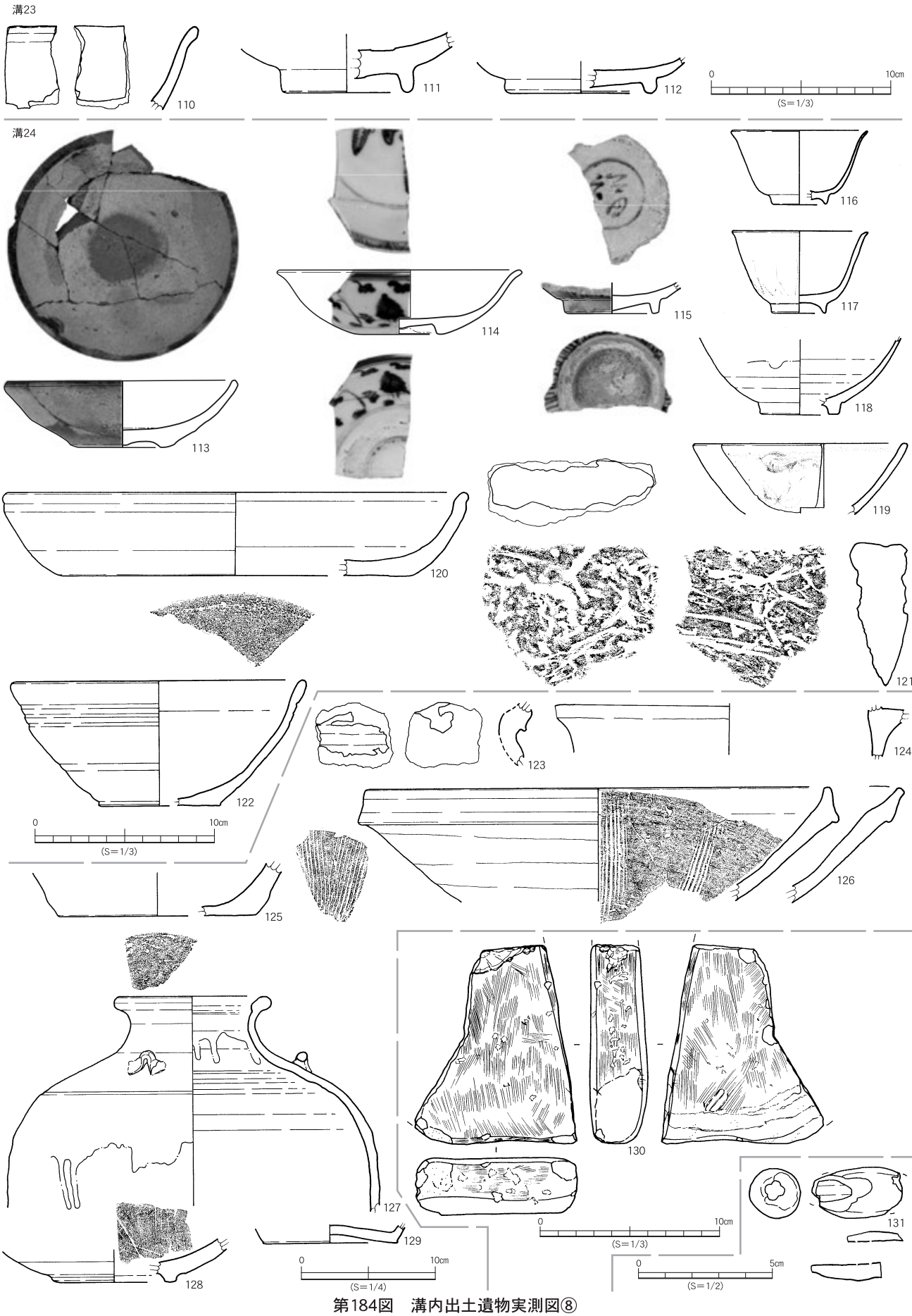
溝９（鉄溝１）

Ｎ～Ｔ-５・６区で発見された。長さは60m。「古道１」とは並行するので関連する可能性がある。溝10・溝12・溝13・溝７とは一連の溝であった可能性があり，その場合は区画溝が想定される。溝10との境目付近には土坑Ａ-１が存在する。状況からみて土坑Ａ－１のほうが新しいとみられる。

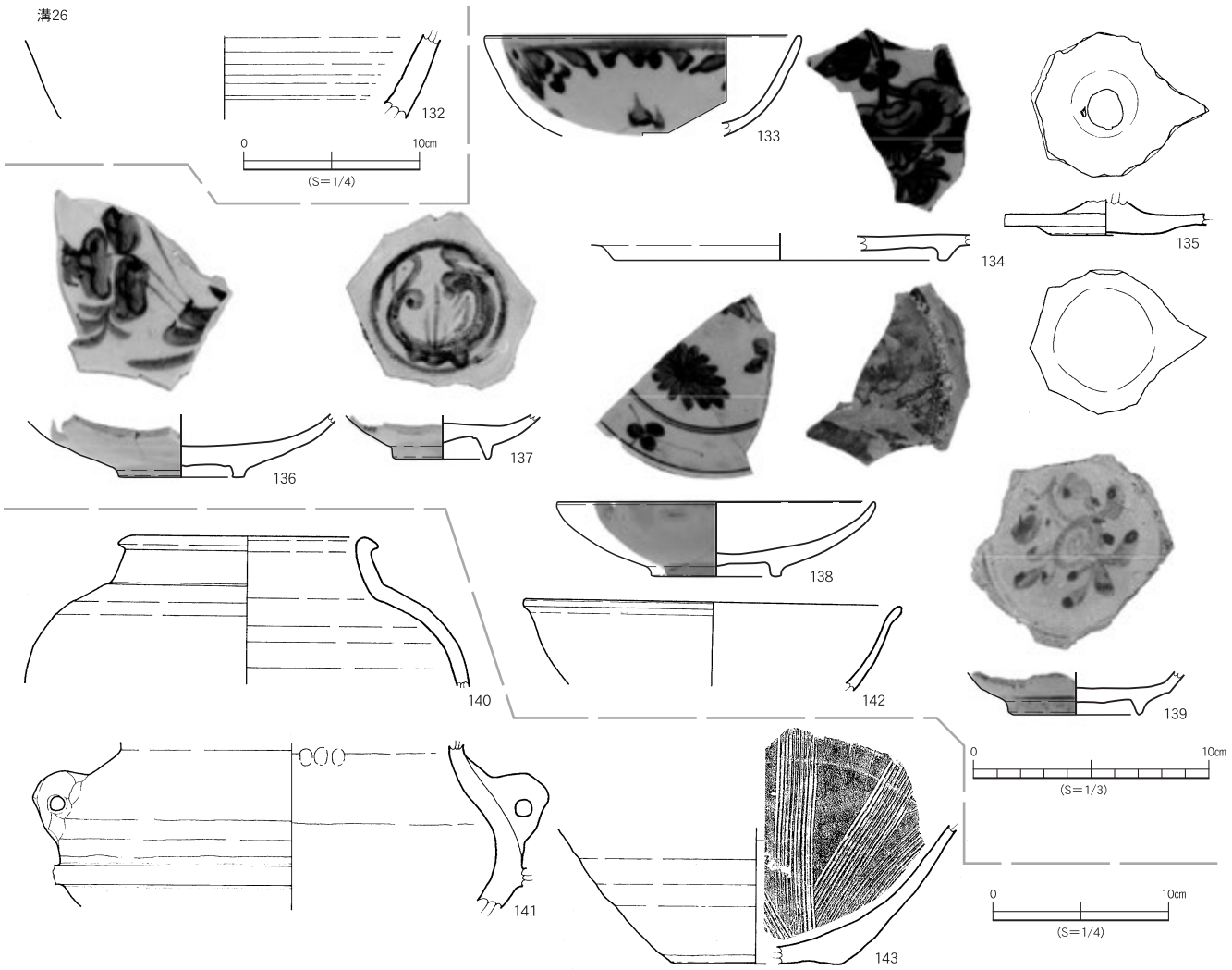
９は，薩摩焼の蓋である。器形は浅鉢形であり，甕や壺に被せて使用したと考えられる。口縁部を外反させ，さらに内側に折り返して肥厚させ，内側を丸くおさめている。内面にナデ調整の痕が残り，口唇部に目跡が残る。



第183図　溝内出土遺物実測図⑦



第184図　溝内出土遺物実測図⑧



第185図　溝内出土遺物実測図⑨

溝10（鉄ミゾ２）

Ｎ-５・６区で検出された。長さは10m。大型土坑２と溝９に挟まれた状態で検出されたが，本来は溝９・溝12と一連の溝であった可能性がある。

12は薩摩焼の甕または壺の底部と考えられる。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残り，底部外面端部をヘラで調整している。底部外面には目跡が残る。

溝11

Ｏ-８・９区で検出された。長さは９ｍで，ほぼ東西方向に走る。東端は不明瞭になるが，西端は土坑墓ｂ18で切れている。

溝12

Ｎ-７・８・９区で検出された。長さは20m。大型土坑２と溝13に挟まれた状態で検出されたが，本来は溝10・溝14と一連の溝であった可能性がある。溝13に切られる。大型土坑２との先後関係は明らかでないが，同時に存在していた可能性もある。

溝13

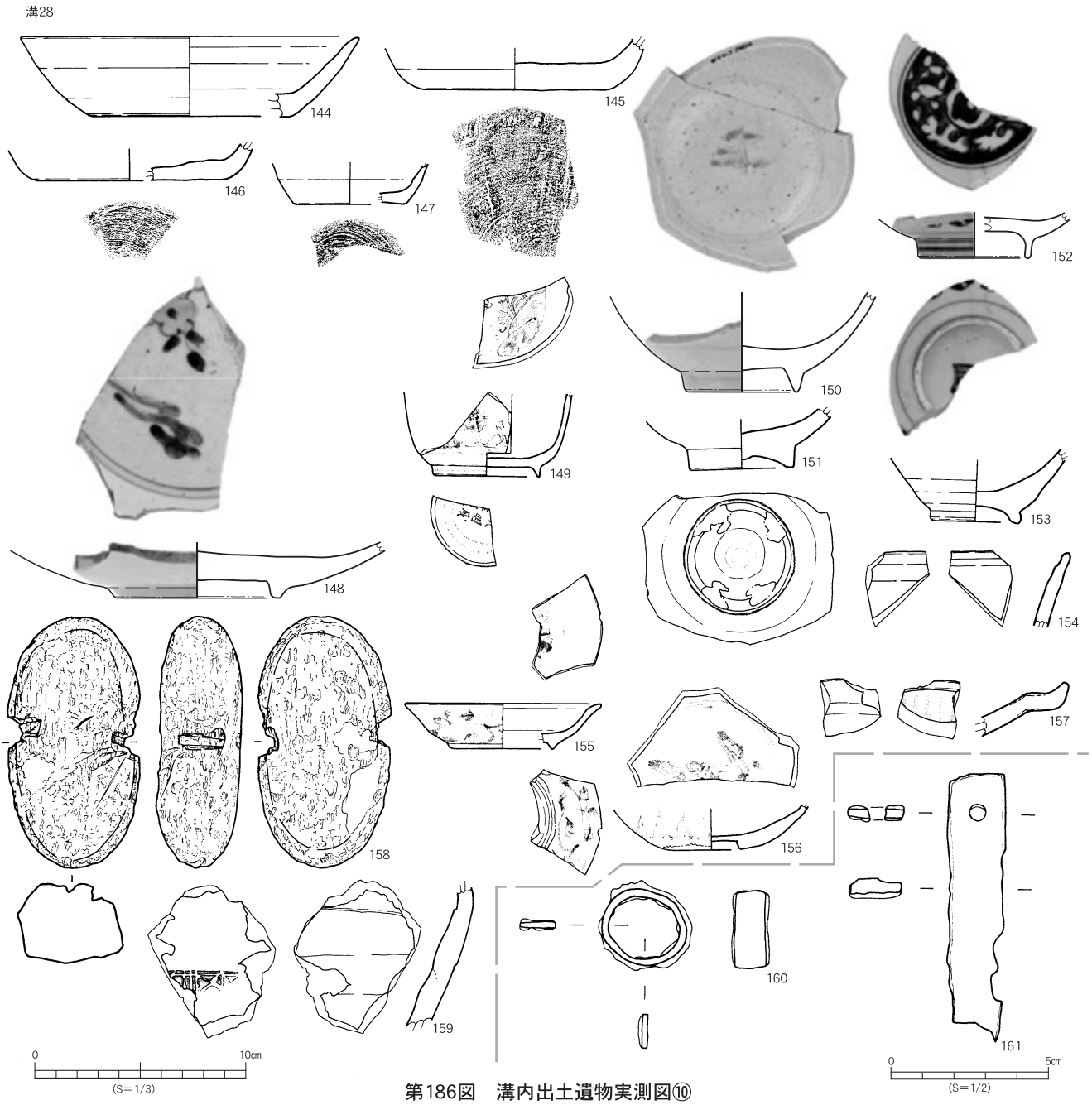
Ｍ～Ｐ-９区で検出された。長さは28m。ほぼ南北方向へ走るが，Ｎ-９区で西側へほぼ直角にカーブし，また南へまっすぐ走りもう一回東方向へほぼ直角にカーブして途切れる。溝12と溝14に挟まれた状態で検出されているが，この３者のうちではもっとも新しい遺構である。ただし，現状になる以前には溝14とあわせて塚状遺構を巡っていた可能性が高い。また，溝７との間は，わずかに帯状硬化面が残っており，本来は一連のものであった可能性がある。

溝14

Ｎ-９・10区で検出された。東端は溝13に切られるが，本来は一連ものとして塚状遺構を巡っていた可能性が高い。西側へ向かって大きく下るので，万之瀬川へ注いでいた可能性がある。

溝15

Ｍ・Ｎ-４・５区で検出された。長さは15m。大型土坑５と大型土坑６を連結するような状況で検出された。



第186図　溝内出土遺物実測図⑩

溝16

Ｊ～Ｌ-５・６区で検出された。長さは20m。北北東～南南西へと走る。北端は大型土坑４へ，南端は未調査区域へ続く。また，東側は大溝に，西側は溝17に挟まれ，一部連結している。

薩摩焼（第180図）

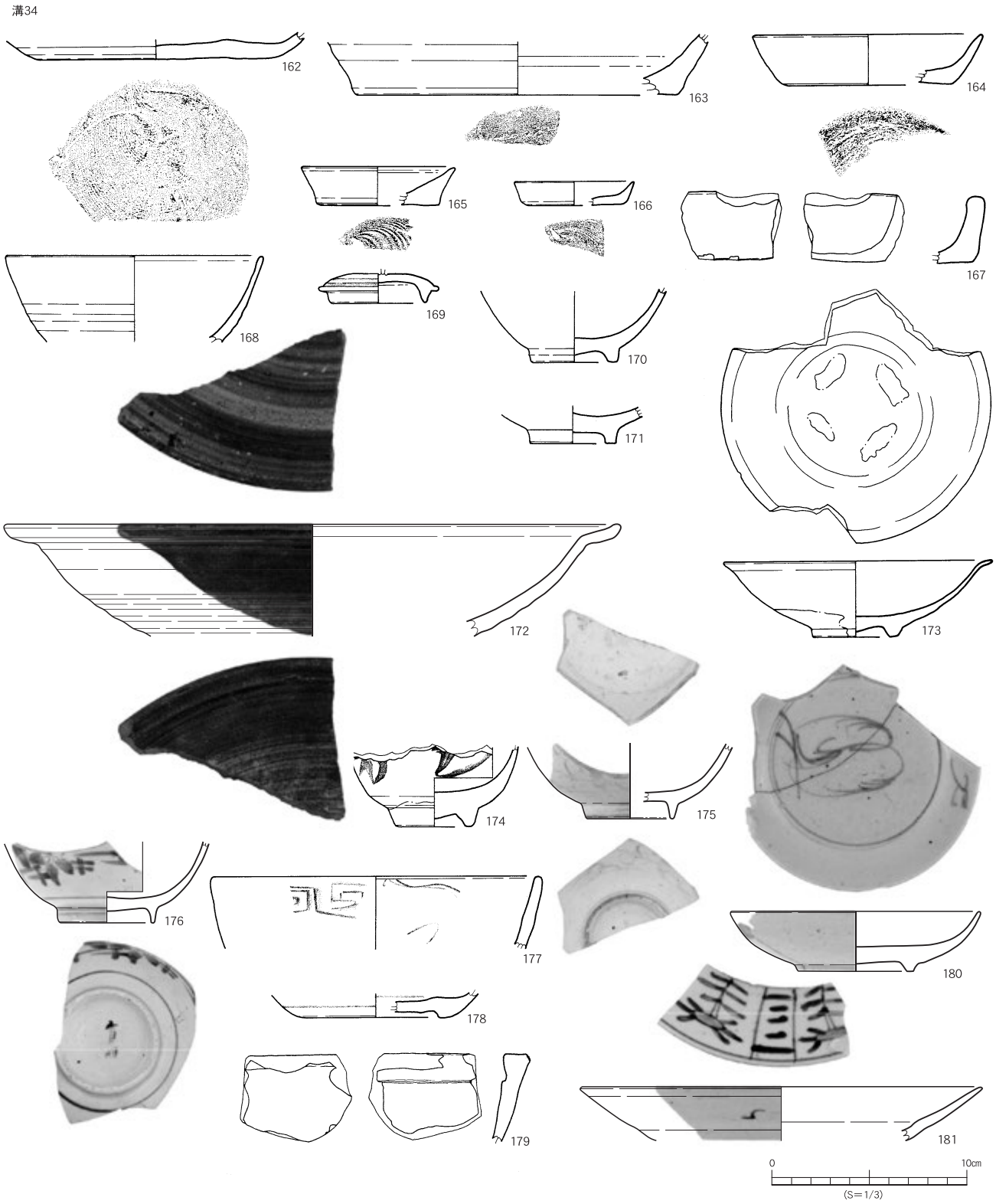
45・46は，口縁部が「T」字状の形状を呈する甕であり，口唇部はほぼ平坦である。口縁端部は，下方に垂れ下がる。どちらも外面にナデ調整による横筋が看取される。45は，肩部に貼り付けの縄状突帯が巡る。内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，口唇部に貝目が残る。46は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，口唇部に貝目が残る。

47は，甕または壺の底部であると考えられる。内面底部上位からタタキ成形によるあて具痕が残り，底部から胴部にかけて器壁が薄くなる。47は，内面にタタキ成形によるあて具痕が残る。

48は，擂鉢である。胴部下位から上位に向けて擂り目を施し，さらにその上に底部から胴部に向けて全体に擂り目を施している。底部外面に目跡が残る。

溝17

Ｋ・Ｌ-５・６区で検出された。長さは15m。溝16とほぼ並行する。南端は未調査区域へ続いているが，北端は大型土坑４の直前で不明瞭となる。また，南端付近で一部であるが溝16と連結している。



第187図　溝内出土遺物実測図⑪

溝18

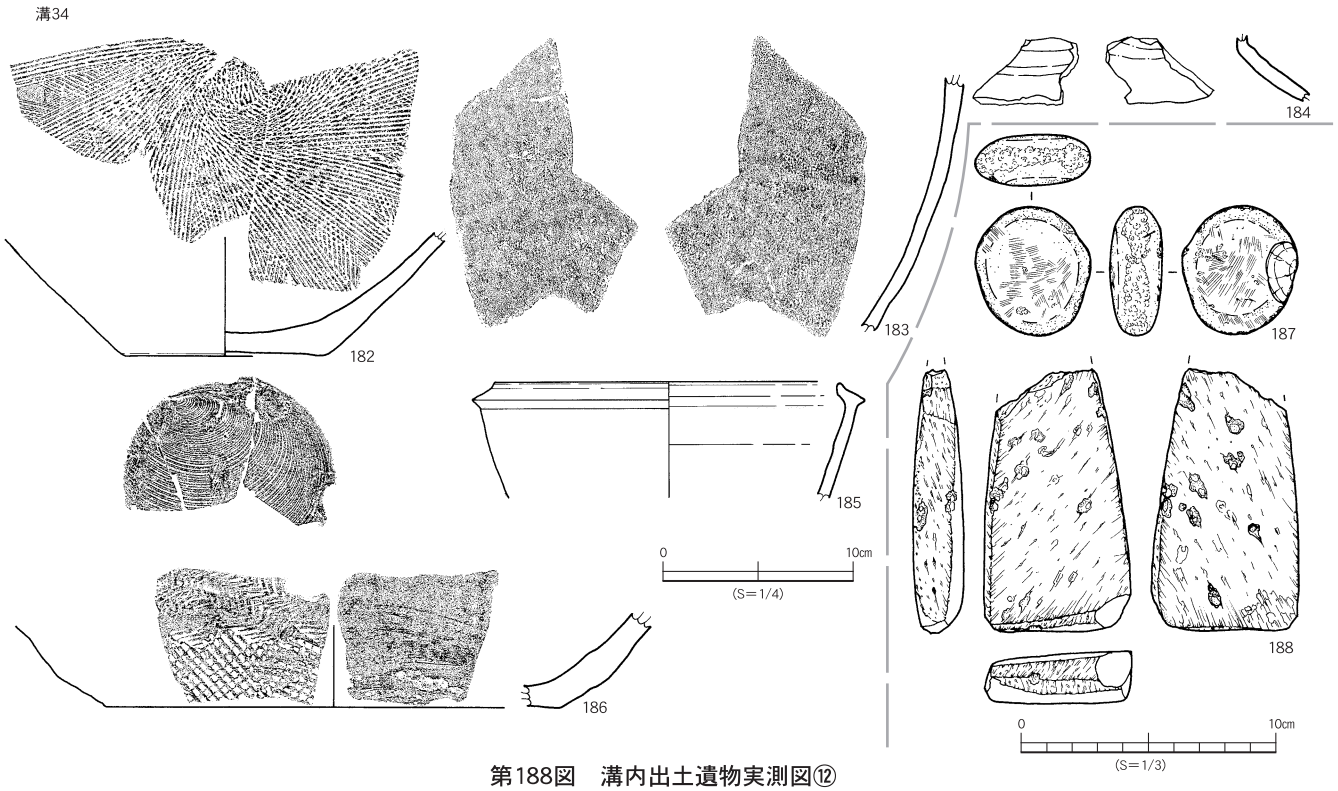
Ｋ-６・７区で検出された。長さは12m。東西方向である。溝19を切る。大溝に接するものであるが東端は未調査区域に続いているため，東側へのつながりは明らかではないが，溝17と連結していた可能性がある。

溝19

Ｉ～Ｋ-６～８区で検出された。長さは13m。北東～南西方向である。Ｉ・Ｊ-７・８区付近で切り込むように大溝と合流する。溝19に切られる。

溝20

Ｊ～Ｌ-３・４区で検出された。長さは20m。北北西～南南西へ走る。北西端では不明瞭となる。また，南西



第188図　溝内出土遺物実測図⑫

端では東側へとカーブして調査区外へと続く。多数のピットと切り合っているが，先後関係は明らかでない。

溝21

Ｈ・Ｉ・Ｊ-２～５区で検出された。長さは35m。溝22と並行して，ほぼ北西～南東方向へ走る。南東端は調査区外へと続くが，北西端は大溝に注ぐ形となっている。大溝との境目のＪ-５区には礫や石塔などで構成される大集石がある。また，溝内には溝内集石４と５がある。これらの集石は，溝の底面にあるのではなく，ある程度溝が埋まったところで，炭化物を伴って組まれている。状況としては，礫をはずすと炭化物が層状に堆積していた。

溝22

Ｈ・Ｉ・Ｊ-３～５区で検出された。長さは30m。溝21と並行してほぼ北西～南東方向へと走る。南東端は調査区外へと続いているが，北西端はＩ・Ｊ-５区で撹乱されている。本来は，大溝に注いでいたものとみられるが，合流部分はこの撹乱のため確認することができなかった。溝内には２箇所で集石が確認された。この集石も溝21同様に，溝がある程度うまった段階で組まれたものであることが確認された。

溝23

Ｂ－１・２区で検出された。長さは５m。北東～南西方向である。溝24と溝25に挟まれた状態で検出された。

溝24

Ｂ・Ｃ-１～４区で検出状況された。長さは30m。西北西～東南東方向であるが，Ｃ-２区付近で北側にほぼ直角にカーブして，Ｃ-１で調査区外へと続いている。本来は溝22・溝27などと一連のものであった可能性があり，その場合はＣ～Ｉ-２～７区が方形に区画されていたと想定される。ただし，この範囲内には掘立柱建物跡27と28の２棟と炉状遺構２号以外に生活に関する遺構は確認されていない。

溝25

Ｂ・Ｃ-１区で検出された。長さは７m。一部溝23・溝24と並行するが，すぐにほぼ直角にカーブして調査区域外へと続く。溝23・溝24・溝26との関係については，明らかではない。

溝26

Ａ～Ｄ-２～７区で検出された。長さは60m。溝24と並行する。Ｂ-２とＢ-３の境目付近で造成によるとみられる段で切られる。また，南東端は不明瞭となる。本来は溝28と一連であった可能性がある。

溝27

Ｄ・Ｅ-６区で検出された。長さは10m。溝28と並行する北西～南東方向である。北西端・南東端ともに不明瞭となる。炉状遺構１号に切られる。

溝28
Ｃ・Ｄ-４～７区で検出された。長さは40m。溝27と並行するが，Ｃ-４区とＤ-７区で不明瞭となる。Ｃ・Ｄ-５・６区の範囲には溝状遺構とほぼ重なる状態で炭化物が帯状に集中する。

溝29
Ａ′・Ａ-７・８区で検出された。長さは12m。北北東～南南西に走るが南南西端は調査区外へと続いている。近世・近代の畝状遺構に切られる。

溝30
Ｂ′・Ａ′・Ａ-５・６区で検出された。長さは17m。北西にはじまり南東に走るが，Ａ′-５区でカーブして北北西側に走る。

溝31
Ａ′・Ａ-５・６区で検出された。長さは９m。途中で土坑状の遺構に切られる。

溝32
Ａ-５区で検出された。長さは５m。北北東～南南西方向へ走る。土坑（ＳＫ）32を切る。

溝33
Ａ′・Ａ・Ｂ-３・４区で検出された。長さは22m。北西～南東方向へ走る。Ａ′-３区とＡ-３区の境目付近で二股に分かれる掘立柱建物跡29や土坑（ＳＫ）４などと切り合うが先後関係は明らかではない。Ａ′-３区では近世・近代畝状遺構に切られる。

溝34
Ｈ-７区で検出された。ほぼ北西～南東方向に走る。本来はＨ・Ｉ-７区付近で大溝に注いでいた可能性が高いが，調査中は確認できなかった。

畦状遺構
Ｂ′・Ａ′-５・６区で検出された。土手状に盛り上がっている。長さは13m。北北西～南南西に走るが，途中で南東側にカーブして調査区外へと続く。

古道１
Ｎ～Ｔ-６区で検出された。長さは55m。ほぼ東西方向である。溝９と平行しており，関連する可能性もある。また，古道１を境として西方向にむかって高くなる段差がある。

古道２
Ｃ-６区で検出された。長さは５m。西北西～東南東に走るが，２mほどいったところで南側へ向けてカーブするＬ字形となる。周辺の溝状遺構である溝28や古道３などと関連する可能性がある。

古道３（帯状硬化面）
Ｂ・Ｃ-６区で検出された。長さは10m。北東～南西方向へ走る。溝状であるが，底面はかたくしまっている。

古道４（帯状硬化面）
Ａ′・Ａ・Ｂ-３・４・５区で検出された。長さは20m。北西～南東へと走る。Ａ-４区では近世・近代畝状遺構に切られる。

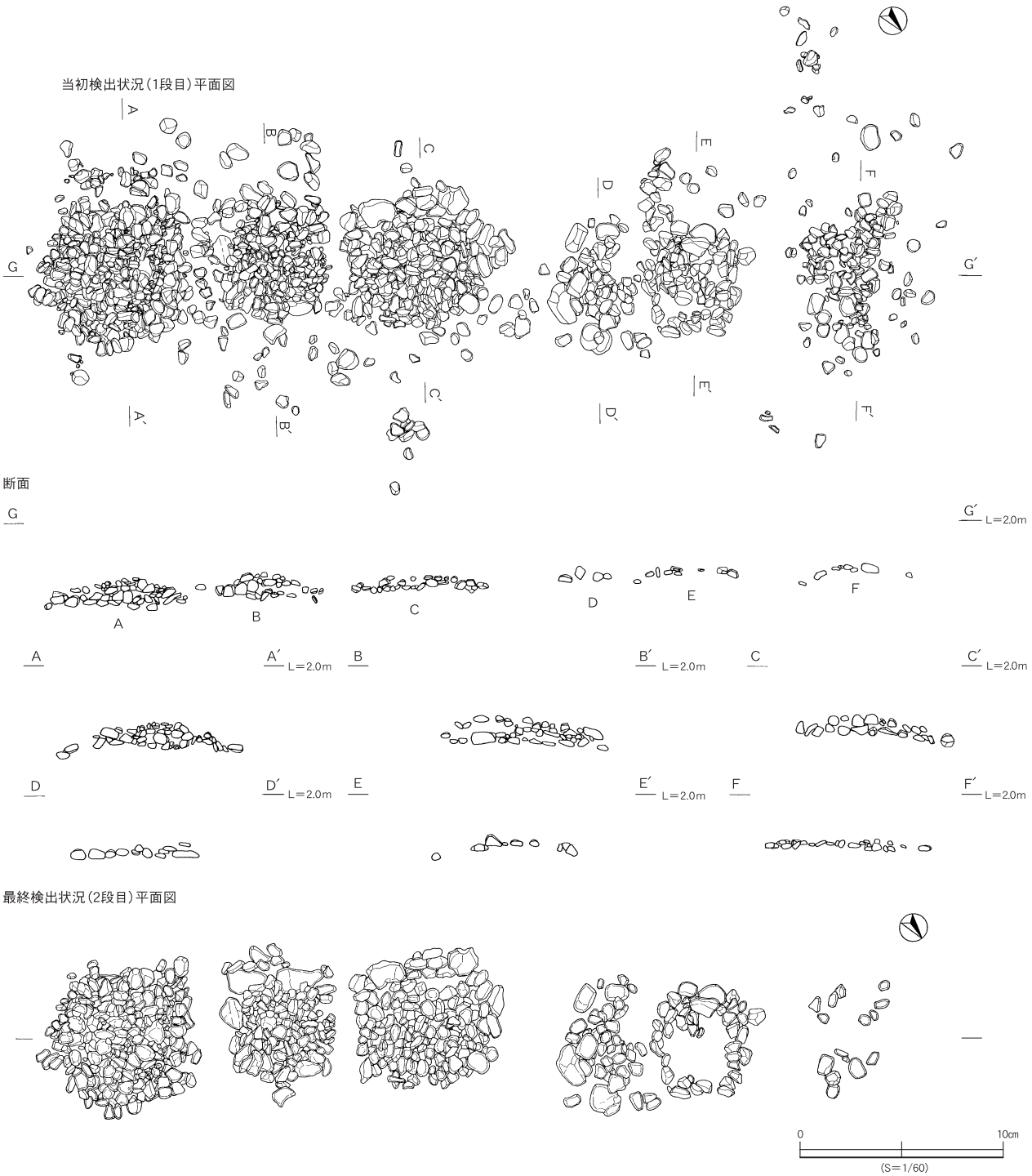
（11）　その他の遺構（集石・焼土など）
①礫集積
Ａ′-４・５区で検出された。方形に礫を集積した遺構が５つ並んだ状態のもので，本来は石塔の基壇であった可能性がある。基本的には礫で構成されるが，土器なども使用されている。
１は土師器坏である。完形品である。やや橙色の発色をしている。２は東播磨系須恵器片口鉢である。これらの遺物を含むことからおおよそ13世紀をさかのぼらない遺構であることが明らかである。

②集石
５基確認された。これらは基本的には礫で構成されるが，礫のほかに鉄滓・土器・陶磁器・軽石・石器なども用いられる。純粋な煮炊き用ではなく，鍛冶に関連する可能性がある。

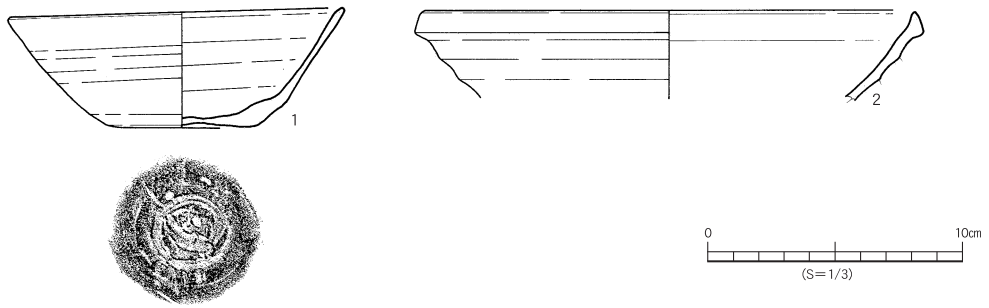
③石塔集積
Ｑ-７区の溝状遺構内で検出された。開発の際にもとからあった石塔を処分したものであることが考えられる。

④土器埋設遺構
Ａ-４区で検出された。糸切り底の土師器坏を口縁部で合わせた状態で出土した。掘り込みは確認することはできなかったが，このような出土状態は通常では考えにくいことから，祭祀などの用途で埋設された可能性が高い。付近には，古道や近世・近代の畝状遺構があるので関連する可能性がある。

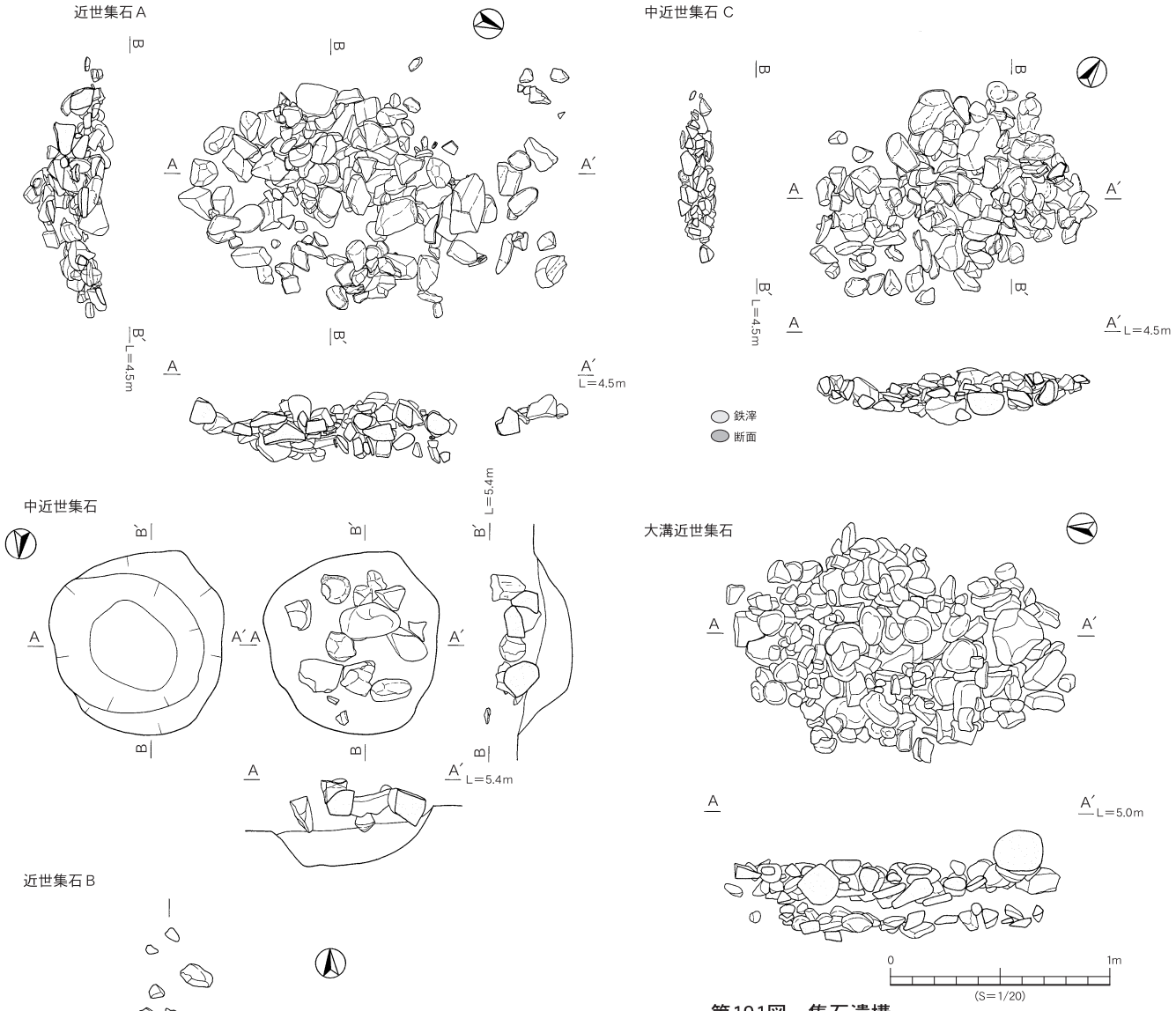
⑤鍛冶炉
Ｃ-８区において，鍛冶によるとみられる鉄滓と鍛造



第189図　礫積遺構



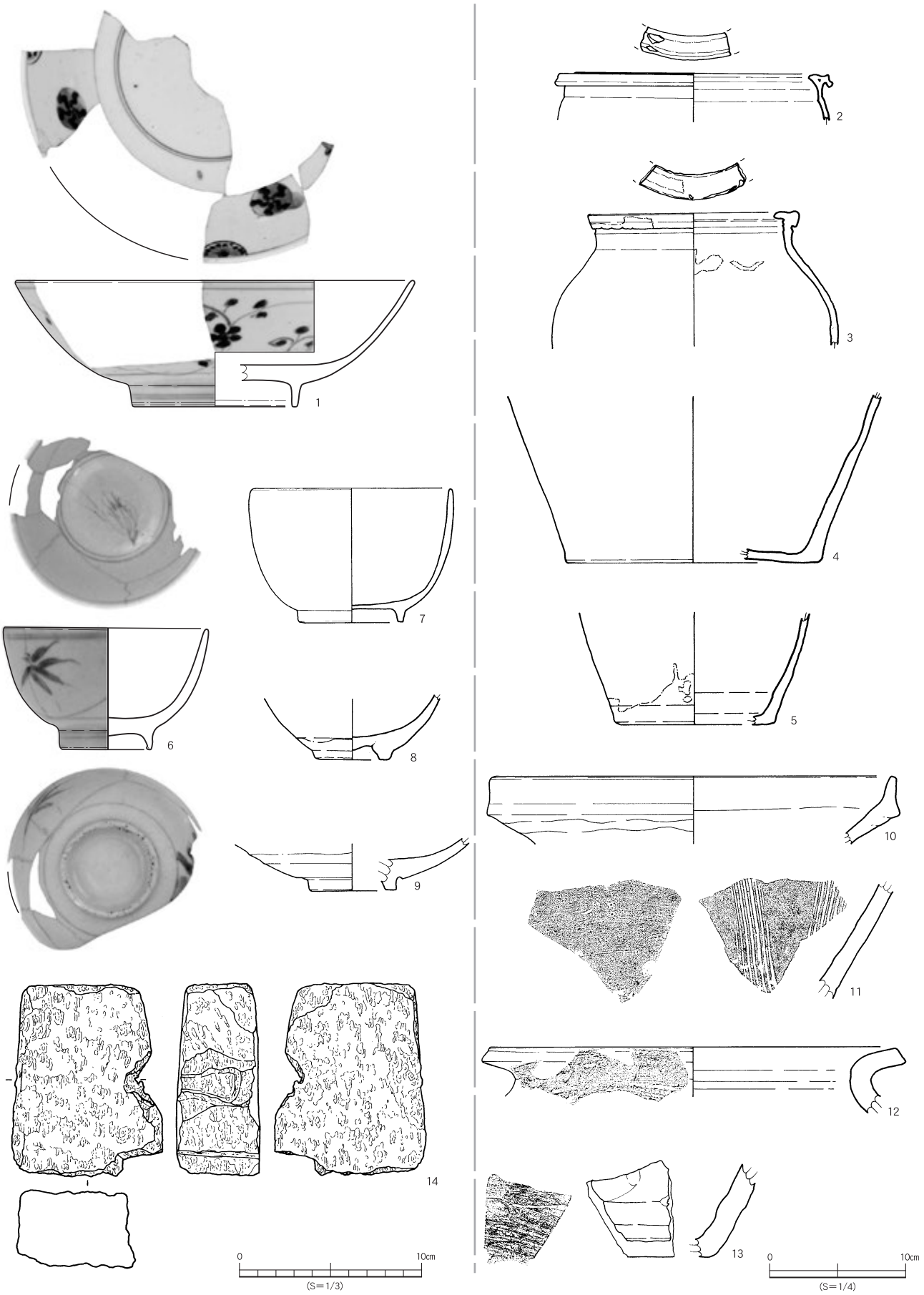
第190図　礫積遺構出土遺物実測図



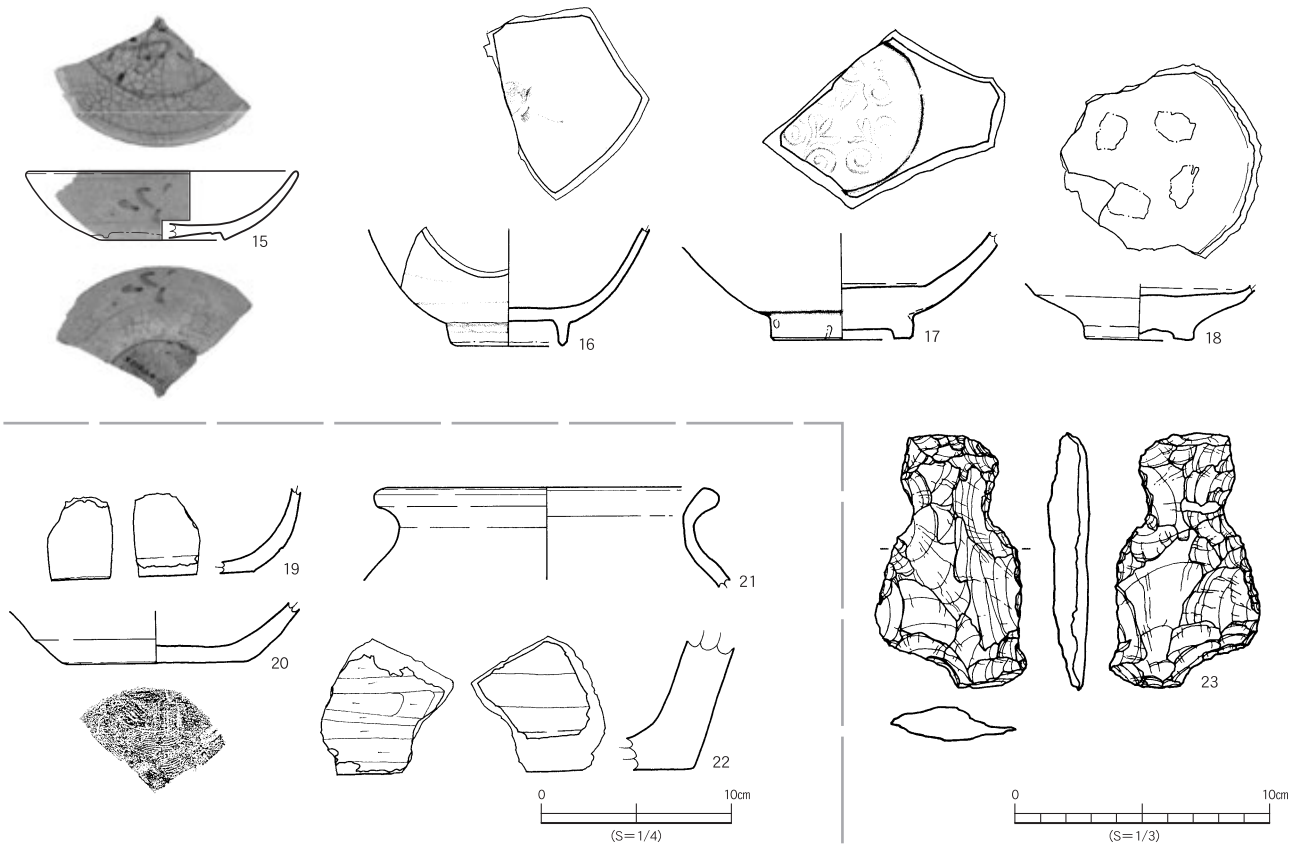
第191図　集石遺構



図版37　近世集石遺構検出状況



第192図　集石遺構遺物実測図①



第193図　集石遺構出土遺物実測図②

剥片が集中していたので，その部分について土壌サンプルを採取した。

この土壌サンプルについてウォーターフローテーションを行ったところ，大量の鍛造剥片が得られた。調査中には肉眼においても鍛造剥片は確認されていたが，予想をはるかに超える量の鍛造剥片である。また，鍛造剥片以外にも，粒状滓・鉄滓等が得られている。

⑥集石を伴うピット（第195図）

Ｆ-５区で検出された。検出面では礫が集中して検出されたので，集積として扱ったが，礫をはずして掘り下げたところ，根石ないしは寝巻石を持つピットが検出された。柱痕も検出されているので何らかの建物の一部であった可能性が高いが，周辺のピットと関連して建物を復元することができなかった。本遺跡で特殊な例であるので特に項目を別にした。

⑦焼土（第196図）

遺跡全域で27箇所で検出された。ほとんどは，平面的が焼けた面が円形にみられるのみであるが，焼土17と焼土14は特に厚く炭化物と焼土が観察された。

焼土17は，M-４区の大型土坑１の検出面で検出されたもので，炭化物・炭質土を伴う。

焼土14は，M-４区で検出されたもので，オレンジ色や煉瓦色に変色した部分がブロック状に観察された。

これらの焼土は，煮炊きのほかに鍛冶などに使用された可能性もあるが調査中には明らかにできなかった。

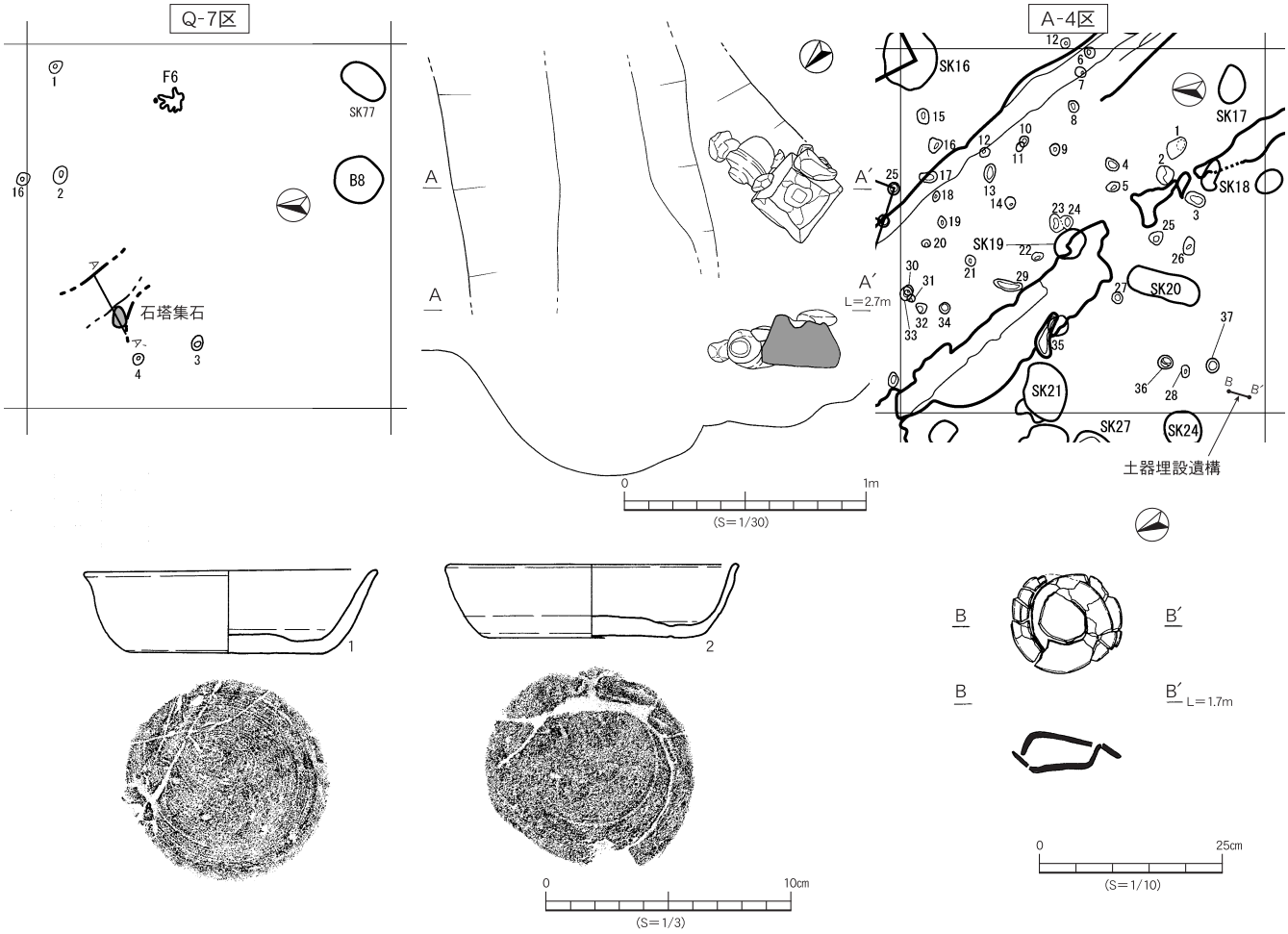
⑧遺物・動物骨・貝殻

これらについては少数であるので，包含層出土物も一括して掲載した。

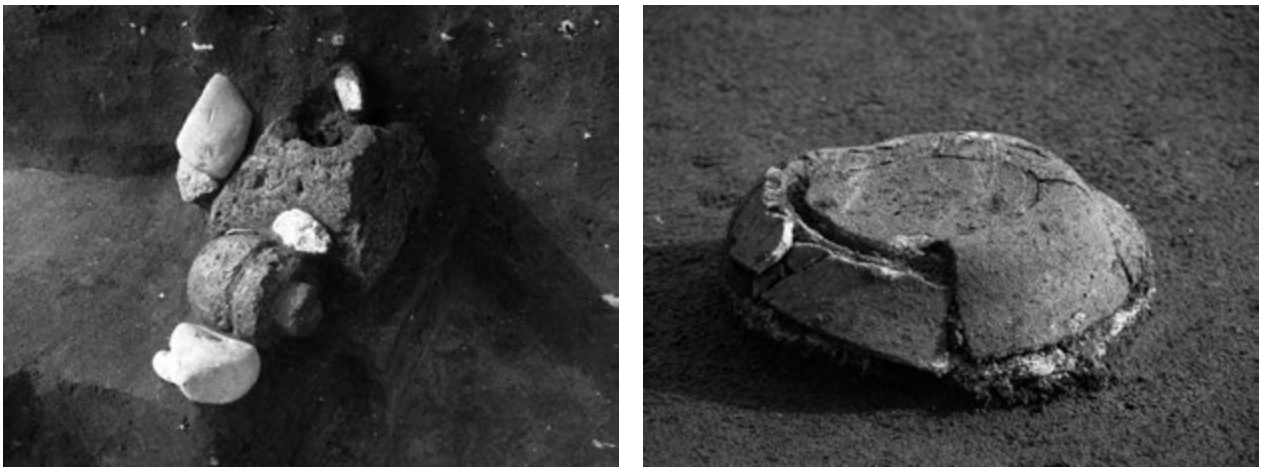
ア　石臼・石塔などの大型石製品（第198図）

１～10・14は石臼の一部である。その中で，１・２・６～10は茶臼の可能性の高いものである。11～13・15は，石臼の可能性もあるが，ここでは「鉢形石製品」としておきたい。

16は，五輪塔の最下部（地輪）の可能性があるが，完成前に破棄された可能性がある。庭石やなんらかの支えなどに転用された可能性も考えられる。



第194図　石塔集積・土器埋設遺構・遺物実測図



図版38　石塔集積・土器埋設遺構検出状況

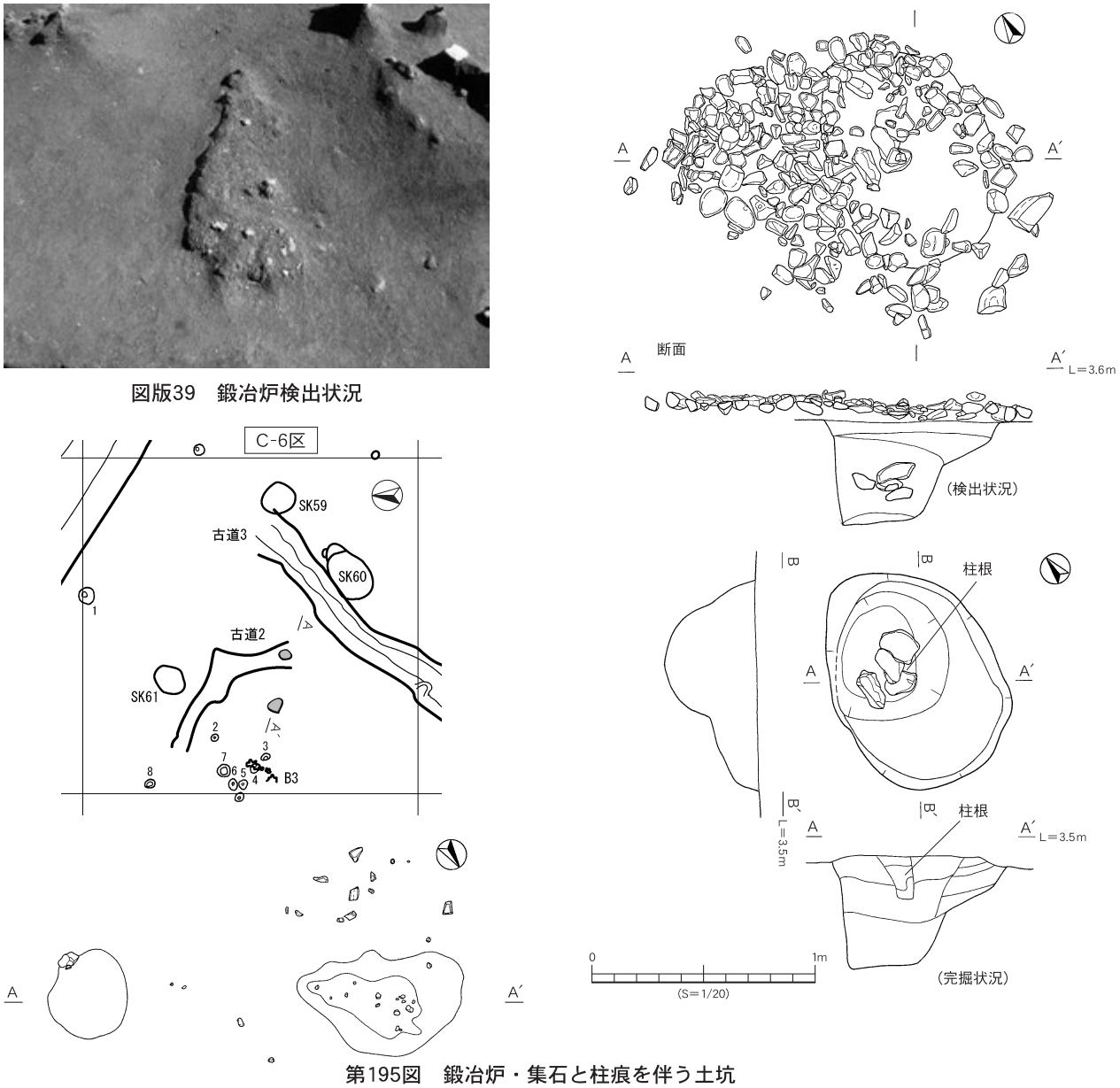
17・18は石塔の最上部（空風輪）である。風化が著しい。

イ　滑石製品（第199図）

本遺跡出土の滑石製品は，ほとんどが滑石製鍋を転用したものであると考えられる。１は，縦に耳がつくタイプの滑石製鍋である。滑石製鍋としては比較的古式の様相を持つ。２～７は羽釜形の滑石製鍋である。

８・９・10は，バレン形をした滑石製石鍋の転用品である。いずれのバレン形も調整は荒いため，製品として

図版39　鍛冶炉検出状況



第195図　鍛冶炉・集石と柱痕を伴う土坑

製品として流通したものではないと考えたい。

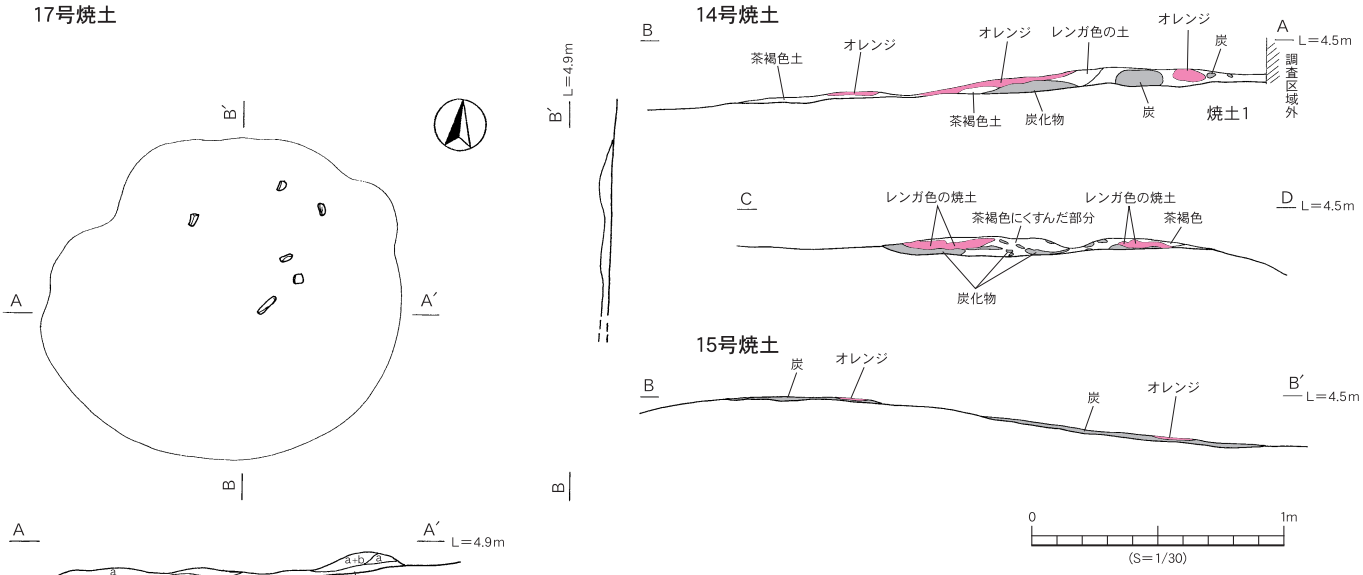
13は穿孔されている。温石か権（はかりのおもり）であろう。14～17は錘形を呈する。

ウ　動物骨

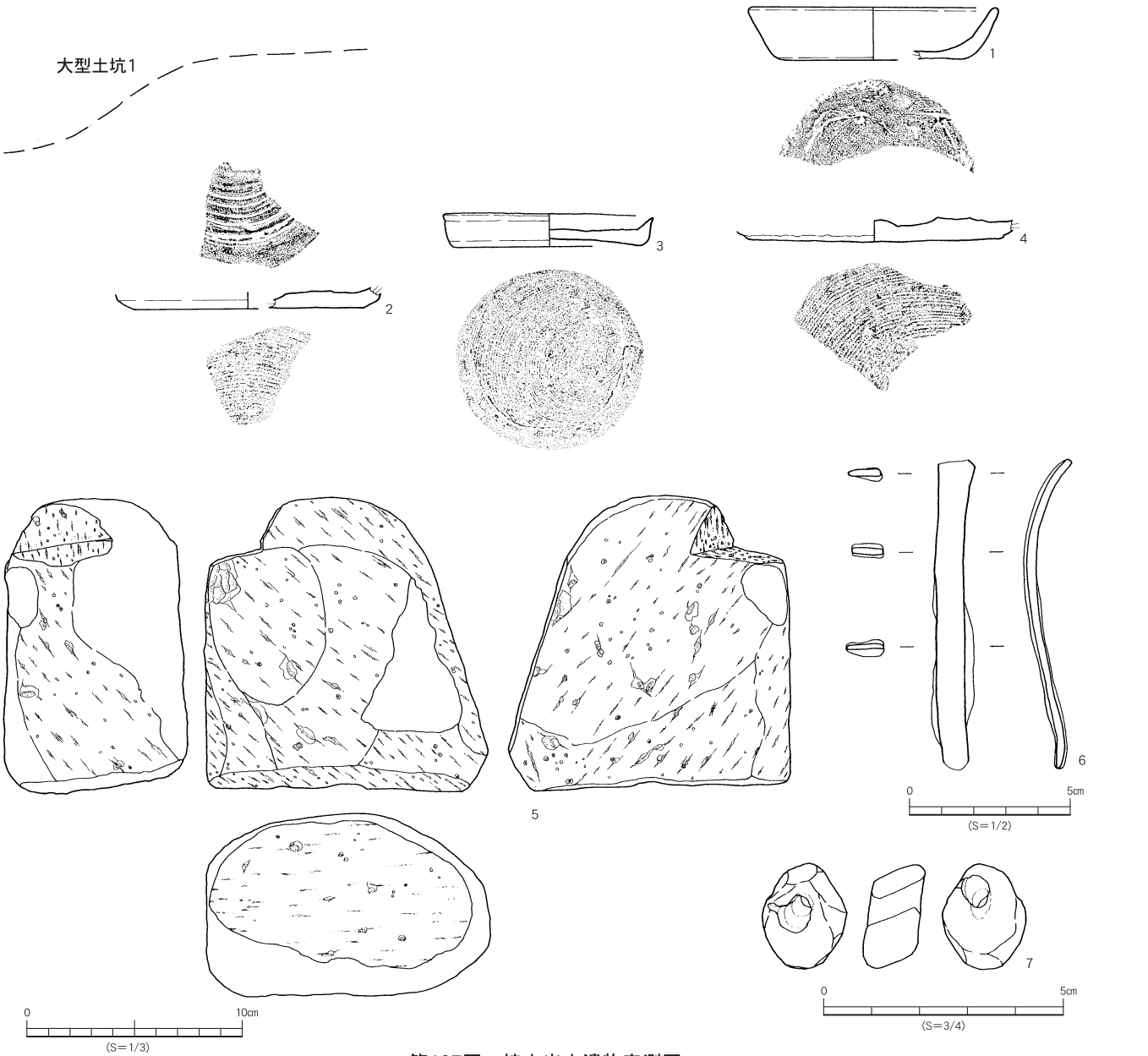
上水流遺跡では，骨片が１箇所から出土している。この骨片は直接火を受けたとみられ，もろくなったうえに粉々になっている。そのため，何の骨であるかは一見して判別しがたい。ただし，本遺跡で発見された人骨は火葬されたものは皆無であるので，この骨片が人骨である可能性は薄い。樋泉岳二氏（早稲田大学比較考古学研究所）によれば，ほ乳類であるいう。

エ　貝殻

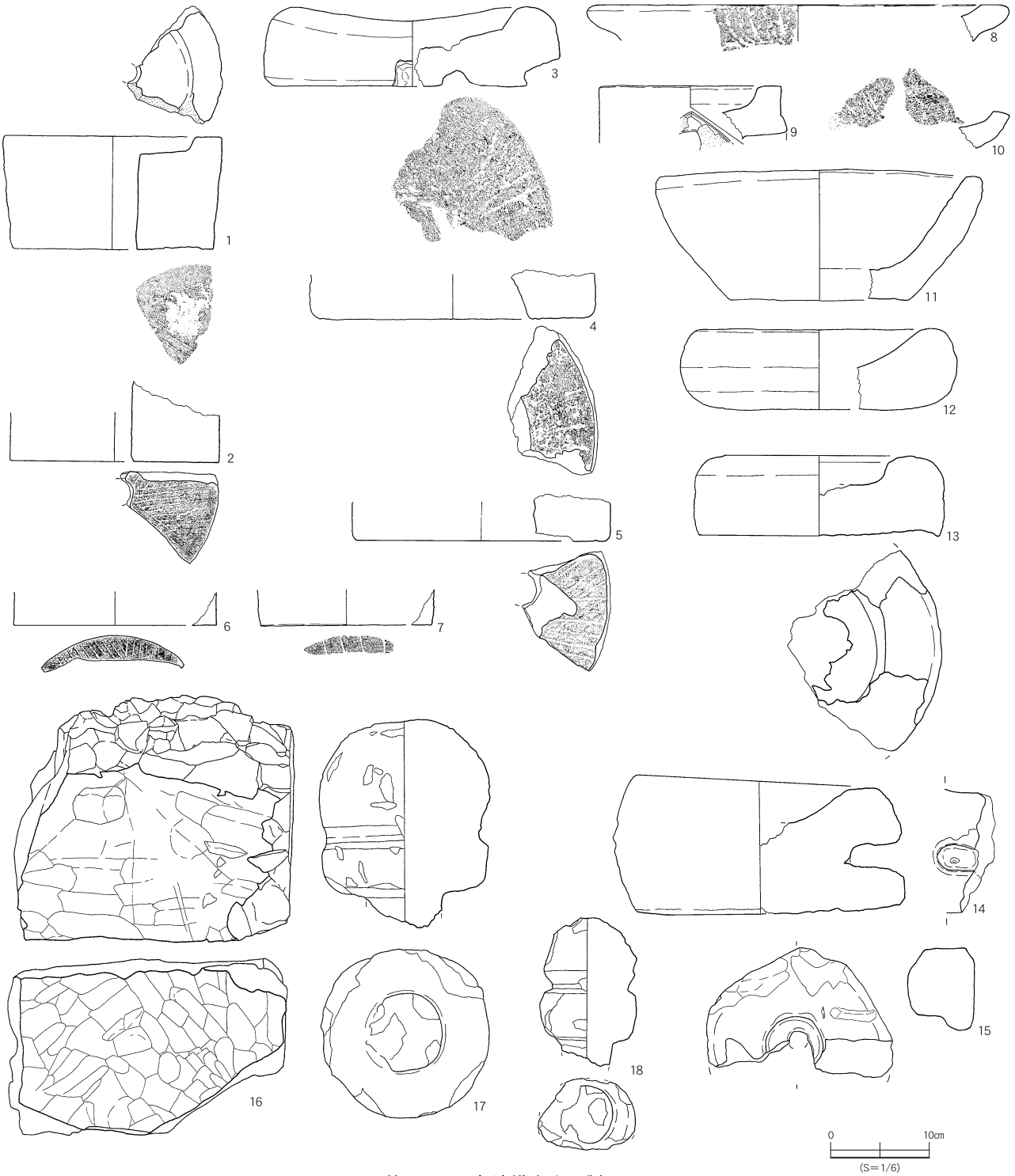
中・近世のピット（Ｕ８-24・第208図）内埋土中からは，少なくとも８枚の２枚貝の貝殻が発見されている。表面は風化しており，粉々になったものがほとんどである。黒住耐二氏（千葉県立中央博物館）によれば，このうち１枚についてヤマトシジミであることが確認できるので，残りについても同様のものであろうとのことであった。また，３㎝ほどのものが含まれているが，この時期のものとしては比較的大きなものである。　ヤマトシジミは現在でも大量にとれるものであるので，商品としてのものではなく一般の食卓にあがっていたものであろう。



第196図　焼土



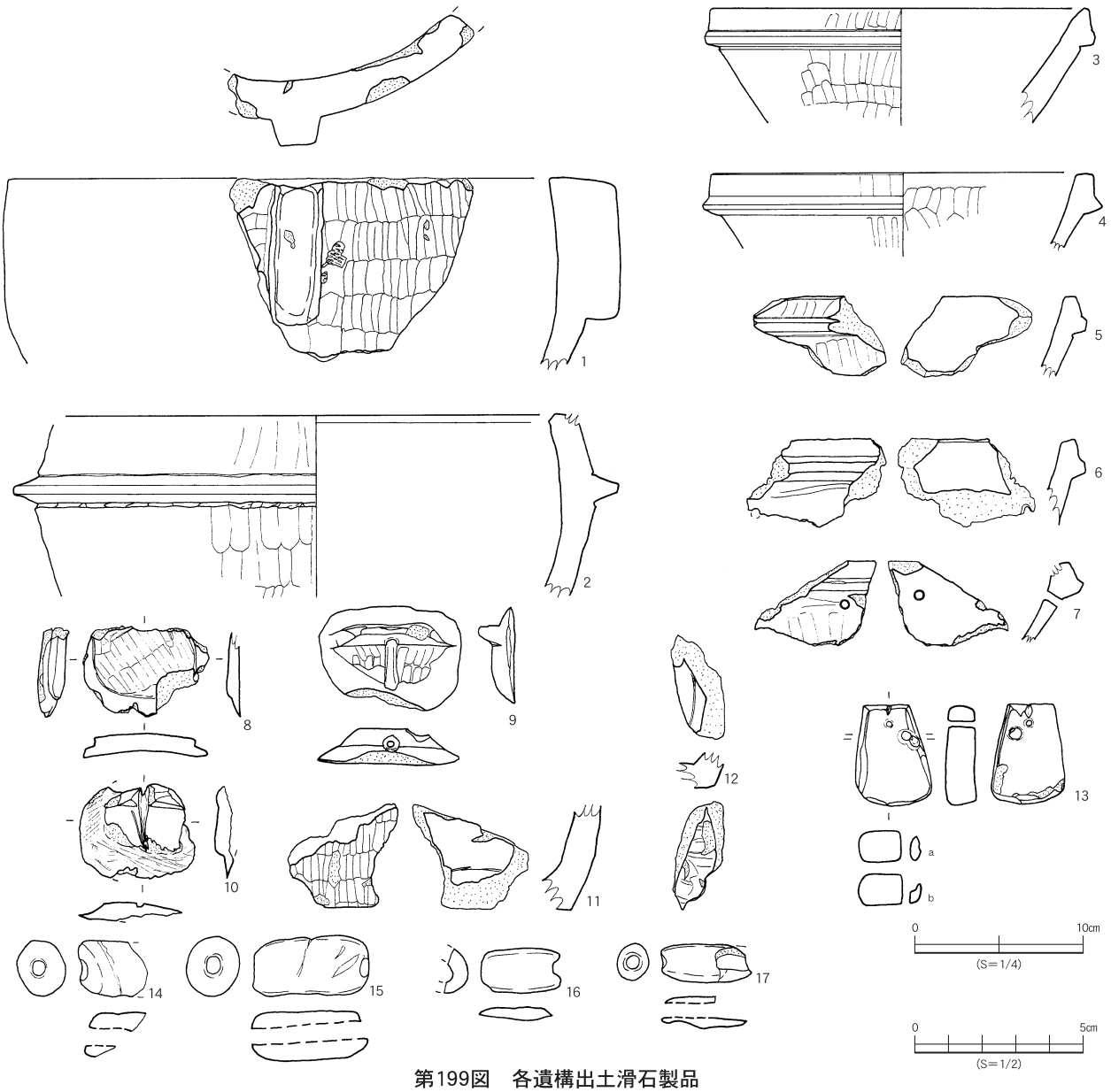
第197図　焼土出土遺物実測図



第198図　各遺構出土石製品

ウ　炭化種子

モモ核が４点出土した。県内で，一遺跡でこれだけ出土する例は犬ヶ原遺跡（いちき串木野市）以外にはないので注目される。



第199図　各遺構出土滑石製品



図版40　ピットU8－24出土のヤマトシジミ

表16　上水流遺跡出土古銭一覧

NO	区	遺構名	名称	備考
1	O－7	17号土坑墓	？	布痕（7枚）
2	O－9	18号土坑墓	洪武通寶	（5枚）
3	M－9	15号土坑墓	寛永通寶	（3＋5枚）
4	F－3	6号土坑墓	？（破片）	
5	M－9	14号土坑墓	洪武通寶	（5枚）
6	M－9	13号土坑墓	洪武通寶	（2～30枚）
7	N－8	大型土坑③	永楽通寶	
8	N－7・8		？（破片）	
9	N－7		？（破片）	金属製品として扱う
10	K－9	ピットK9－110	無文銭	
11	F－6	ピットF6－20	祥符元寶	
12	N－7	ピットN7－22	皇〇〇〇	
13	M－8	ピットM8－11	洪武通寶	（4枚）
14	M－8	ピットM8－11	洪武通寶	紹聖元寶と共伴（4枚）
15	M－8	ピットM8－11	紹聖元寶（篆書）	洪武通寶と共伴（1枚）
16	J－5	大溝	朝鮮通寶	
17	I－6	大溝	？	
18	－	大溝	？（破片）	
19	M・N－9	構13	開〇通〇	開元通宝か
20	C－6	溝28	寛永通寶	
21	D－7	溝28	洪武通寶か？	鉄銭
22	－	溝12	洪武通寶	
23	－	溝14	？	

第6章　科学分析

第１節　科学分析の概要

科学分析は，平成12年度から平成18年度にかけて10回に分けて依頼した。平成20年度以降も継続して依頼を計画している。なお，遺跡環境復元関連と縄文時代中期後半から弥生時代までを対象とした科学分析については，前回の報告書において既に報告済みである。今回は，古墳時代から近世に関する科学分析を対象とした。このため，納品された各報告書を基に時代・分野などの領域別に再編を行い掲載している。また，当センターで行った顔料分析の結果もここに掲載した。

第２節　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

本報告では，発掘調査で確認された遺物や遺構を対象として自然科学分析を行うことにより，これらの性格や年代に関わる資料の作成を目的とする。

具体的には，11号住居跡より出土した完形の坩形土器内に充填している土壌を対象として，洗い出しによる種実同定，リン・カルシウム分析および植物珪酸体分析を行うことにより，土器内の動植物の痕跡の有無を検討し，土器の機能・用途に係わる情報を得るという課題の調査分析を行う。

２　試料

（試料番号３、４）の坩形土器内土壌については，それぞれ，土器口縁部付近，胴部中位，底部直上に分けて分析試料とした。なお，試料番号５の竪穴住居内埋土は，土器内土壌の分析における比較対照試料として用意されたものである。

３　分析方法

（１）種実同定

試料番号3-2は84.3g，3-3は67.7g，4-2は60.2g，4-3は40.7g，5-1は300.9g，5-2は301.4gの土壌試料を，0.5㎜目の篩を通して水洗し，残渣をシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し，同定可能な種実や2㎜角以上の炭化材などを抽出する。検出された植物遺体は，48時間80℃で乾燥後の重量を求め，種類毎にビンに入れて保管する。

（２）リン・カルシウム分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法，カルシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光光度法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会1981）。以下に操作工程を示す。

試料を風乾後，軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃，５時間）により測定する。風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し，はじめに硝酸（HNO_3）約5mℓを加えて加熱分解する。放冷後，過塩素酸（$HClO_4$）約10mℓを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後，水で100mℓに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し，リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し，干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5 mg/g）とカルシウム含量（CaO mg/g）を求める。

（３）植物珪酸体分析

湿重５ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理，沈定法，重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い，植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し，カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後，プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し，その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下，短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下，機動細胞珪酸体と呼ぶ），およびこれらを含む珪化組織片を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定し，計数する。

なお，11号住居内埋土試料については珪化組織片の有無に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は，珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は，ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となる。しかし，住居の構築材や敷物に稲藁や他のイネ科植物が利用されている場合には，組織構造が珪化組織片などの形で残されていることがある（例えば，パリノ・サーヴェイ株式会社1991）。そのため，珪化組織片の産状により当時の構築材などの種類が明らかになると考えられる。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から土器の内容物や住居の構築部材の有無について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。各種類の出現率は，短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に，それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

４　結果

（１）種実同定

各試料からは，0.1g以下の炭化材や部位・種類不明の炭化物の破片が検出されたものの，同定可能な種実は認められなかった。

（２）リン・カルシウム分析

結果を表４に示す。土器内土壌では，リン酸含量は0.7～0.8mg

表17.　試料一覧

番号	試料名称		試料数量	S	P･Ca	PO	備考
3-1	遺物内の土	11号住居－1	500g程度		○		口縁部付近
3-2				○	○		胴部中位
3-3				○	○	○	底部直上
4-1	遺物内の土	11号住居－2	500g程度		○		口縁部付近
4-2				○	○		胴部中位
4-3				○	○	○	底部直上
5-1	竪穴住居内埋土	11号住No.1	500g程度	○	○	○	
5-2		11号住No.2	500g程度	○	○	○	

S：種実同定　P･Ca：リン･カルシウム分析

表18.　リン・カルシウム分析結果

番号	試料名称		土性	土色	P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)	備考
3-1	遺物内の土	11号住居－1	CL	10YR4/4　褐	0.80	2.03	口縁部付近
3-2			CL	10YR4/4　褐	0.68	1.86	胴部中位
3-3			CL	10YR4/4　褐	0.78	2.08	底部直上
4-1	遺物内の土	11号住居－2	CL	10YR3/4　暗褐	0.78	1.97	口縁部付近
4-2			CL	10YR3/4　暗褐	0.70	2.07	胴部中位
4-3			CL	10YR3/4　暗褐	0.72	2.08	底部直上
5-1	竪穴住居内埋土	11号住No.1	CL	10YR3/3　暗褐	0.64	2.34	
5-2		11号住No.2	CL	10YR3/3　暗褐	0.47	1.94	

注.（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
CL…埴壌土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）

/gの範囲に収まり，カルシウム含量は2㎎/g前後であり，採取部位による顕著な差異は認められない。一方，住居内埋土と比べると，リン酸含量は土器内土壌の方がわずかに高い傾向が窺えるが，カルシウム含量には差が認められない。

(3)植物珪酸体分析

結果を表5，図1に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの，保存状態が悪く，表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

土器内土壌の試料番号3と4からは，イネ属などの栽培植物に由来する植物珪酸体が全く認められない。いずれの試料でも樹木起源珪酸体の第Ⅲグループ(近藤・ピアスン1981)の検出個数が多い。また，タケ亜科の産出が目立ち，ヨシ属やウシクサ族，イチゴツナギ亜科，樹木起源珪酸の第Ⅳグループ(近藤・ピアスン1981)などが検出される。

11号住居内埋土の試料番号5-1と5-2では，珪化組織片が全く認められない。土器内埋土試料と同様に，樹木起源珪酸体の第Ⅲグループの検出個数が多く，タケ亜科の産出が目立ち，ヨシ属やウシクサ族，イチゴツナギ亜科，樹木起源珪酸の第Ⅳグループなどが検出される。

5　考察 －坩形土器内土壌および住居内埋土について－

土壌中に普通に含まれるリン酸量，いわゆる天然賦存量については，いくつかの報告事例があるが(Bowen1983;Bolt･Bruggenwert1980;川崎ほか1991;天野ほか1991)，これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5㎎/g程度である。また，人為的な影響(化学肥料の施用など)を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5㎎/g(川崎ほか1991)という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5㎎/gを越える場合が多い。一方，カルシウムの天然賦存量は普通1～50CaOmg/g(藤貫1979)といわれ，含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。

今回分析した坩形土器内土壌のリン酸含量およびカルシウム含量は，天然賦存量の範囲内であり，また，部位による差異も認められなかったことから，今回の分析結果により土器内に動植物の痕跡を指摘することは難しい。さらに，種実遺体および栽培植物に由来する植物珪酸体も坩形土器内土壌には全く認められず，これらの分析結果からも土器内に栽培植物の痕跡を見ることはできない。ただし，内容物が持ち出された後に土器が埋積した場合には，土器内に痕跡は残らないことが考えられる。したがって，今回の分析のみにより，坩形土器内における動植物の貯蔵あるいは埋納を否定するものではなく，今後さらに同様な土器の内容物について調査例を蓄積し，検討する必要があると考える。

一方，11号住居内埋土からは珪化組織片が全く認められなかった。今回の結果を見る限り，イネ科の植物体を用いた敷き藁や壁材の有無は明確にならない。なお，敷き藁や壁材には稲作で収穫した後の稲藁や人里近くに生育するススキ属などが利用される場合が多い。11号住居が構築された頃の植物利用については，今後さらに調査例を蓄積して検討する必要がある。

なお，各試料での植物珪酸体の産状から，調査区の周辺には樹木，およびタケ亜科，ヨシ属，ウシクサ族，イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたことがうかがえる。九州・沖縄地方では樹木起源珪酸体の第Ⅲグループが表層あるいは埋没土壌中に特徴的に認められ，その供給源としてイスノキが想定されている（近藤1976）。また，九州南部の台地上では霧島御池軽石（約4200年前)以降の土層から，イスノキ属やクスノキ科などを含む照葉樹林に由来する植物珪酸体が認められている(杉山1999)。今回検出された樹木起源の植物珪酸体もこれらの照葉樹に由来する可能性が考えられる。

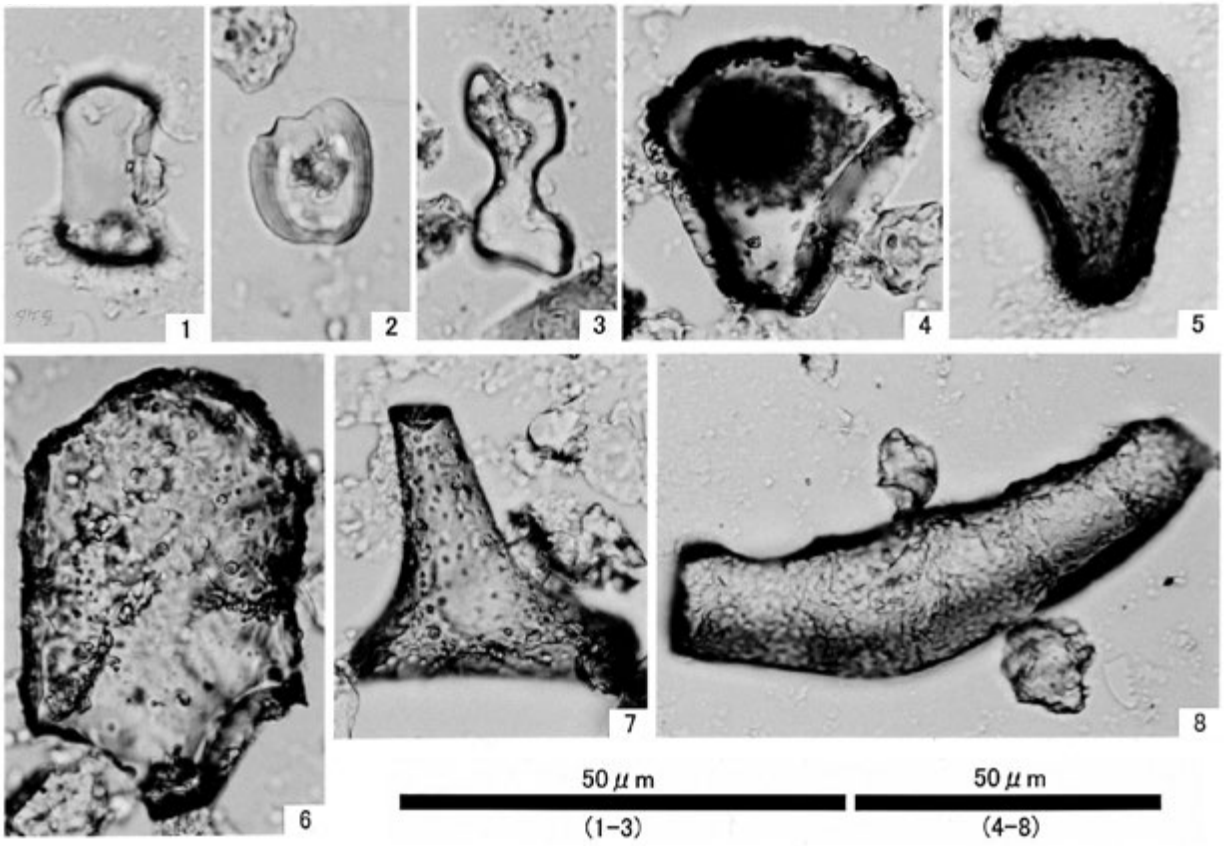
引用文献

天野洋司・太田健・草場敬・中井信1991「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』PP28－36
Bowen,H.J.M.1983『環境無機化学－元素の循環と生化学－』（浅見輝男・茅野充男訳）博友社,297p.
Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M1980『土壌の化学』（岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳）学会出版センター,309p.
土壌養分測定法委員会編1981『土壌養分分析法』養賢堂　440p.
藤野直樹・小林哲夫1997「開聞岳火山の噴火史」『火山』42 PP,195-211.

表19.　植物珪酸体分析結果

種類	坩型土器		住居内埋土	
	1	2		
試料番号	3-3	4-3	5-1	5-2
イネ科葉部短細胞珪酸体				
タケ亜科	46	66	42	47
ヨシ属	9	6	5	2
ウシクサ族ススキ属	2	2	2	-
イチゴツナギ亜科	3	2	1	2
不明キビ型	18	9	5	6
不明ヒゲシバ型	23	12	24	27
不明ダンチク型	31	25	32	33
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
タケ亜科	61	63	69	68
ヨシ属	4	3	3	4
ウシクサ族	27	12	16	14
不明	24	26	28	21
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	132	122	111	117
イネ科葉身機動細胞珪酸体	116	104	116	107
総　計	248	226	227	224
樹木起源珪酸体				
第Ⅲグループ	160	112	145	127
第Ⅳグループ	19	21	14	9

図版41　植物珪酸体・木材



藤貫正1979「カルシウム」『地質調査所化学分析法』52,PP57－61.
川崎弘・吉田澪・井上恒久1991「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』PP23－27.
近藤錬三1976「樹木起源の珪酸体について」『ペドロジスト』20, PP176-189.
近藤錬三・ピアスン友子1981「樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について」『帯広畜産大学研究報告』12, PP217－229.
近藤錬三・佐瀬隆1986「植物珪酸体分析,その特性と応用」『第四紀研究』25, PP31－64.
柔畑光博・東和幸1997「南九州の火山灰と考古遺物」『月刊地球』VoL.19－4　PP,208－214.
京都大学農学部農芸化学教室編1957『農芸化学実験書』 第1巻 産業図書　411p.
農林省農林水産技術会議事務局監修1967『新版標準土色帖』
奥野充2002「南九州に分布する最近約3万年間のテフラの年代」『第四紀研究』41, PP225－236.
パリノ・サーヴェイ株式会社1991「自然科学分析」『東京都新宿区戸山遺跡－厚生省戸山研究舎(仮称)建設に伴う緊急発掘調査報告書－』本文編　戸山遺跡調査会, PP133－168.

第３節　５号竪穴住居跡内出土の種実分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

今回の分析調査では，古墳時代の住居跡から出土した種実遺体の同定を行い，当該期の植物利用について考察する。

２　住居跡出土の種実遺体

（１）試料

種実同定試料は，古墳時代とされる５号住居内埋土中(試料番号14)より128個、５号住居(試料番号14)より１個，９号住居(試料番号15)より１個採取された。種実遺体３試料計130個について同定を実施する。

（２）分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか2000)等との比較対照から種類を同定し，個数を数えて表４に示す。分析後の種実遺体等は，種類毎に容器に入れて保管する。

３　結果

種実同定の結果を表４に示す。

・５号住居内埋土中(試料番号14)

126個がイシミカワ近似種(*Polygonum cf. perfoliatum L.*:タデ科タデ属)の果実に同定された。その他に，炭化材が2個確認された。イシミカワ近似種の果実は茶－黒褐色，広楕円体－球体で径3－3.5mm程度。頂部はわずかに尖り，頂部から基部に走る3本の筋に沿って割れた個体が９個確認される。基部には淡褐色の萼片が大きく残る。果皮は硬く表面は平滑で光沢がある。果皮断

面は柵状で厚さ2mm程度。完形個体117個のうち，食痕と思われる径1-2mm程度の円形の孔がみられる個体が89個確認される。

・５号住居(試料番号14)

種類，部位の特定に至らない不明物質であった。灰褐色，

栽培植物のモモ(*Prunus persica Batsch*: バラ科サクラ属)の核に同定された。炭化しており黒色，広楕円体。長さ1.6cm，幅1.3cm，厚さ1.2cm程度。頂部はやや尖り，基部は切形で中央部に湾入した臍がある。側面に1本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は厚く硬く，表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪み紡錘体で長さ7.5mm，径4mm程度。頂部と基部が尖り，孔が開いている。表面には微細な縦長の細胞が配列する。

・６号住居(試料番号15)

があり，全体として粗いしわ状に見える。

4　考察

落葉小高木のモモは，古くから栽培のために中国から持ち込まれた渡来種とされ，観賞用の他，果実や核の中にある仁(種子)などが食用，薬用等に広く利用される。

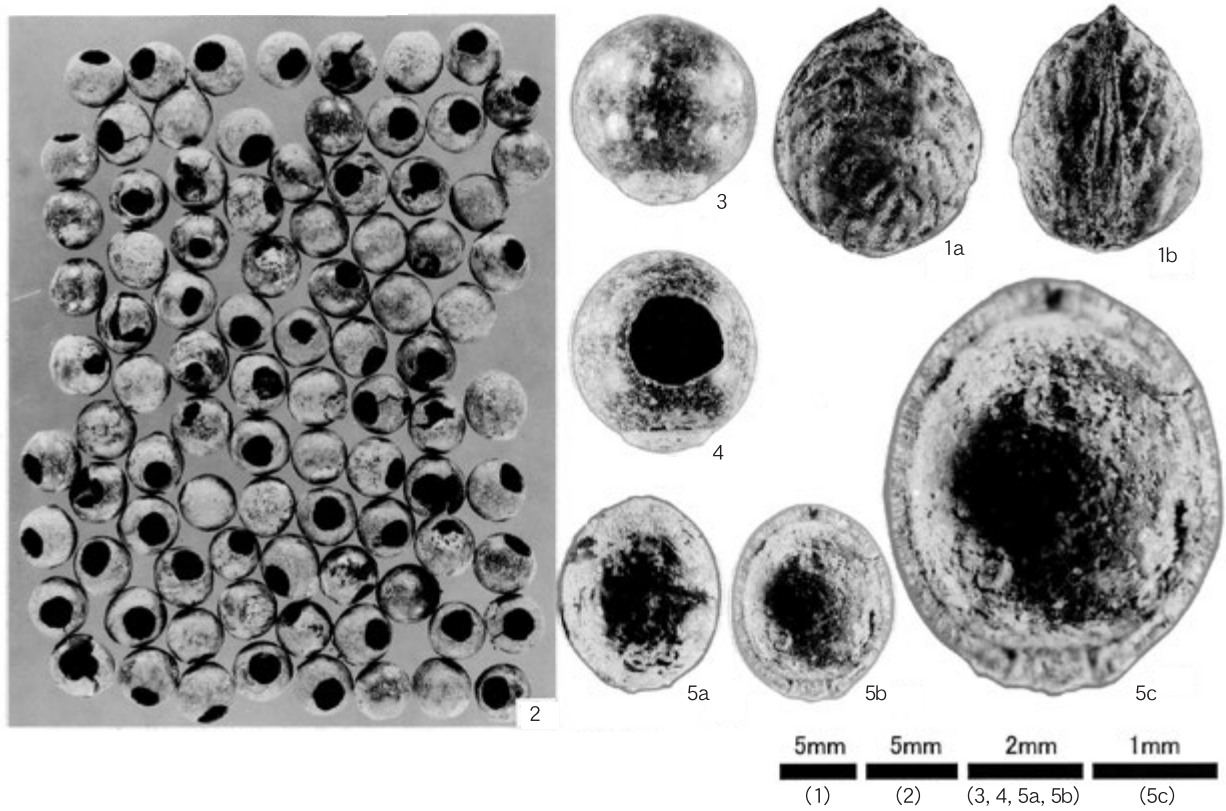
モモの最も古い遺跡出土例は，縄文時代前期(伊木力遺跡)で，弥生時代以降になると多数の遺跡出土報告例がある(南木1991;粉川1988など)。モモは，近世以前には多くの産地や品種があったとされるが，日本古来のモモは小型(20g～75g)で堅かったため，ほとんどが消滅している(柴田編1958)。現在栽培されているモモは，明治以降に渡来した品種であるため，遺跡出土のモモとの直接的な関連はないとされている。

また，モモの核の形態について，厚くて丸く小型の核は古い形質を表し，新しいものほど扁平になるとされている(堀田1980など)。遺跡出土のモモの核も，当初はこのような傾向があるとされていたが，弥生時代以前の遺跡からも大型で扁平な核が検出されるなど，出土報告例が増えるに従い，核の形態に関する時代変遷は混沌としている(南木1991)。金原ほか(1992)は，布留遺跡出土の弥生時代～中・近世のモモの核を形態別(A～E)

表20.　種実同定結果

試料番号	遺構		種類名	部位	状態	個数
14	5号住居内埋土中	イブツ	イシミカワ近似種	果実	完形	28
					完形(食痕)	89
					破片	9
			炭化材		炭化	2
14	5号住居		不明物質			1
15	6号住居	種核	モモ	核	炭化	1

図版42　植物珪酸体・種実遺体



1. モモ核(15;6号住居)
2. イシミカワ近似種 果実(14;5号住居内埋土中)
3. イシミカワ近似種 果実(14;5号住居内埋土中)
4. イシミカワ近似種 果実(食痕)(14;5号住居内埋土中)
5. イシミカワ近似種 果実(14;5号住居内埋土中)

に分類し，モモの渡来が1回ではなく時代を異にして複数回なされた可能性を指摘している。

今回検出されたモモの核は，先端が丸く小型で丸いことから，堀田(1980)の古い形質に該当し，金原(1992)の古墳時代～奈良時代で多く出土しているＡ類に近いことが言える。ただし，１個体のみの検出であるため，上述の形態に関する検討は難しく，今後の出土事例の蓄積を待ちたいと考える。

このように，栽培植物のモモの可食部である種実が，６号住居から検出されたことから，当該期の本遺跡周辺域における利用と，遺構内への持ち込み等の人為的行為が推定される。また，炭化していることから食用後に火を受けたことが推定される。なお，第５節で後述する分析結果では，本遺跡のかまどとされる遺構から、栽培植物のオオムギ(炉状遺構10号)，コムギ(炉状遺構４号)の炭化胚乳が確認されている。

一方，イシミカワは，林縁部などの比較的明るい林地を好んで生育する，つる性草本である。５号住居内埋土中(試料番号14)から検出されたイシミカワ近似種は，人里と林地の境界付近に生育していたものに由来する可能性がある。ただし，この遺構が比較的乾燥した微高地上に立地しているにもかかわらず，いずれも炭化していない「生」の状態であり，また遺存状態が極めて良好であることから，土壌生物などによる後代の種実が混入した可能性もある。

引用文献

藤原宏志1981「プラント・オパール分析法の基礎的研究(4)－熊本地方における縄文土器胎土に含まれるプラント・オパールの検出－」『考古学と自然科学』14，PP55－66.
堀田満1980「モモ」『植物の生活誌』平凡社　PP137－140.
石川茂雄1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.
金原正明・粉川昭平・太田三喜1992「モモ核を中心とする古代有用植物の変遷」『日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集』PP76－77.
粉川昭平1988「穀物以外の植物食　金関恕・佐原真編『弥生文化の研究』2　生業　PP,112－115.
桒畑光博・東和幸1997「南九州の火山灰と考古遺物」『月刊地球』VoL.19－4　PP208－214.
南木睦彦1991「栽培植物」石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編『古墳時代の研究』　4　生産と流通Ⅰ　雄山閣　PP,165－174.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会，642p.
奥野充2002「南九州に分布する最近約3万年間のテフラの年」『第四紀研究』，41，PP225－236.
柴田桂太編1958『資源植物事典』北隆館，904p.

第４節　竪穴建物２号中の炭化材分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

今回の分析調査では，竪穴建物２号の床面に集中する焼土中から採取した炭化材の放射性炭素年代測定と樹種同定を実施し，中世の遺構の年代に関する試料を得る。

２　試料

試料は，竪穴建物の床面中央に集中する焼土中より採取した１点である。これについて，放射性炭素年代測定と樹種同定を実施する。

３　分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は，核燃料サイクル開発機構　東濃地科学センターの協力を得た。

（２）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し，種類を同定する。

４　結果

（１）放射性炭素年代測定

約600年前である。なお，表中の同位体比は，標準値からのずれをパーミルで表した年代である。δ13Ｃの値は，試料炭素の13Ｃ／12Ｃ原子比を質量分析器で測定し，標準にPDBを用いて算出した値である。今回の試料の補正年代はこの値に基づいて補正をした年代である。

（２）樹種同定

同定された種類は，ブナ科の落葉広葉樹であった。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ブナ科（*Fagaceae*）

試料は細片で，保存状態も悪い。道管径の変化から環孔材と判断される。小道管は多数が集まって火炎状に配列する。以上の特徴から，ブナ科の中でも，コナラ属コナラ節，シイノキ属，クリのいずれかと考えられる。

表21　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

番号	採取位置	資料の質	樹種	測定年代 BP	δ13C（‰）	補正年代 BP	資料ＩＤ
1	竪穴建物２号内	炭化材	ブナ科	637±45	-27.06	626±41	2962

５　考察

（１）年代について

竪穴建物２号内出土炭化材の年代値は，約600年前であり14世紀中頃に相当する値である。炭化材は，床面中央に集中する焼土内より採取していることから，遺構と関連性の高い試料であると思われる。よって，試料とした炭化材の年代値はこの遺構の年代を示す可能性があり，時期は14世紀中頃と考えられる。

（２）炭化材について

竪穴建物内から出土した炭化材は，ブナ科の環孔材であることは確認できたが，種類の同定には至らなかった。ブナ科環孔材には，コナラ亜属、クリ，スダジイがあるが，基本的には硬い材質を有する。本州等で行われた調査では，縄文時代～古代の竪穴住居跡から出土した住居構築材に，コナラ亜属やクリ等のブナ科木材が多数利用されていたことが報告されている（千野1991・高橋・植木1994）。本遺跡においても，中世の住居構築材などに強度の高いブナ科木材を利用していたことが推定される。

引用文献

千野裕道1991「縄文時代に二次林はあったか　－遺跡出土の植物性遺物からの検討－」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』X，PP.215－249.
桒畑光博・東和幸1997「南九州の火山灰と考古遺物」『月刊地球』VoL.19-4，PP.208－214.
高橋敦・植木真吾1994「樹種同定からみた住居構築材の用材選択」『PALYNO』２，PP.5－18，パリノ・サーヴェイ株式会社.

第５節　炉状遺構中の炭化物分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　はじめに

本報告では、それらの遺構の中から選択された６基の遺構を対象とし，遺構中より検出された炉状遺構の埋土中に含まれる微細な炭化物の年代測定および種実遺体の抽出を行う。これらの分析結果から，遺構の年代および当該期の植物利用などについて考察する。

2　試料

試料は，上水流遺跡で検出された６号，10号，９号，８号，４号，５号の各遺構におけるカマド内の埋土から採取された土壌６点である。試料には，順に試料番号１～６が付されている。

なお，放射性炭素年代測定には，上記各試料から抽出した炭化材を試料とした。

3　分析方法

(1)放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て，AMS法により行った。なお，放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また，測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり，誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお，暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い，いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

(2)種実同定

土壌試料400g程度を30～40℃で三昼夜乾燥後，双眼実体顕微鏡下で観察し，目に付いた炭化物を拾い出す。水を満たした容器に試料を投入し，容器を傾斜させ，浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後，容器を傾斜させ，浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する作業を，炭化物が浮かなくなるまで繰り返す。さらに，容器内の残土を30～40℃で三昼夜乾燥後，水を満たした容器に投入し，容器を傾斜させ，浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後，容器を傾斜させ，浮いた炭化物を0.5㎜の篩に回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す。最後に，容器内の残土を0.5㎜の篩を通して水洗し，径0.5㎜未満の砂泥を破棄する。

回収した炭化物と篩内の残渣を，４㎜，２㎜，１㎜，0.5㎜の粒径別にシャーレに移して双眼実体顕微鏡下で観察し，ピンセットを用いて同定可能な種実を抽出する。種実の形態的特徴を，所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川1994)，日本植物種子図鑑(中山ほか2000)等と比較し，種類を同定し個数を求める。

分析後の種実遺体と残渣は，30～40℃で三昼夜乾燥後，ビンおよび袋に入れ，保管する。

4　結果

(1)放射性炭素年代測定

結果を表44に示す。試料の測定年代(補正年代)は，試料番号6を除き，400～500年前を示す。試料番号6は600年前である。また，各試料の暦年較正を行った年代を表45に示す。試料番号６以外の試料では，概ね15世紀頃の年代を示し，試料番号６は，それらよりやや古い14世紀頃の年代を示す。

なお，試料とした炭化材の樹種は，クスノキ科・コナラ属アカガシ亜属・マツ属複維管束亜属・アワブキ属等に同定された(表44)。

(2)種実同定

結果を表46に示す。試料番号２から栽培植物のオオムギが２個，試料番号５から栽培植物のコムギが５個，ムギ類が1個検出された。その他の試料からは，同定可能な種実は検出されなかった。

種実以外の炭化物は，各試料から炭化材が確認されたため、年代測定対象試料とした。また，試料番号２から１個検出された炭化物は，木材組織が確認されず，種類，部位共に不明であった。炭化物以外では，試料番号１から焼土が確認された。

検出された種実は，全て炭化しており，遺存状態は不良である。以下に，本分析によって得られた炭化種実の形態的特徴などを記述する。

・オオムギ(*Hordeum valgale L.*)　イネ科オオムギ属

試料番号２から胚乳が２個検出された。黒色，紡錘状長楕円体で頂部や基部がやや尖る。１個は焼き膨れている。長さ4～5㎜，径2～4㎜程度。腹面は一本のやや太く深い縦溝があり，背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ(*Triticum aestivum L.*)　イネ科コムギ属

試料番号５から胚乳が５個検出された。黒色，楕円体でオオムギよりも丸みを帯びている。長さ3～3.5㎜，径2.5～3㎜程度。腹面には１本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり，丸く窪む。表面はやや平滑。なお，試料番号５から１個検出された炭化種実は，同試料から確認されたコムギと同様の形態を呈すが，頂部を欠損しオオムギとの判別が難しいことから，ムギ類にとどめた。

5　考察

(1)遺構の年代について

炉状遺構埋土中に含まれていた炭化材が，使用時の燃料材等に由来するものであるとすれば，その放射性炭素年代は，使用時の年代に近い値を示しているといえる。今回の測定において，出土遺構がそれぞれ異なるにもかかわらず，試料番号１～５の年代がほぼ同時期を示すことは，その年代に何らかの意味があることを示唆する。おそらく，炉状遺構使用時の年代に係わる可能性がある。なお，試料番号６の年代については，単に古い炭化物の混在を示すのかあるいは，やや時期の異なる遺構の存在を示すのか，現時点では判断することはできない。今後，さらに測定例を得ることと発掘調査成果からの検討が必要である。

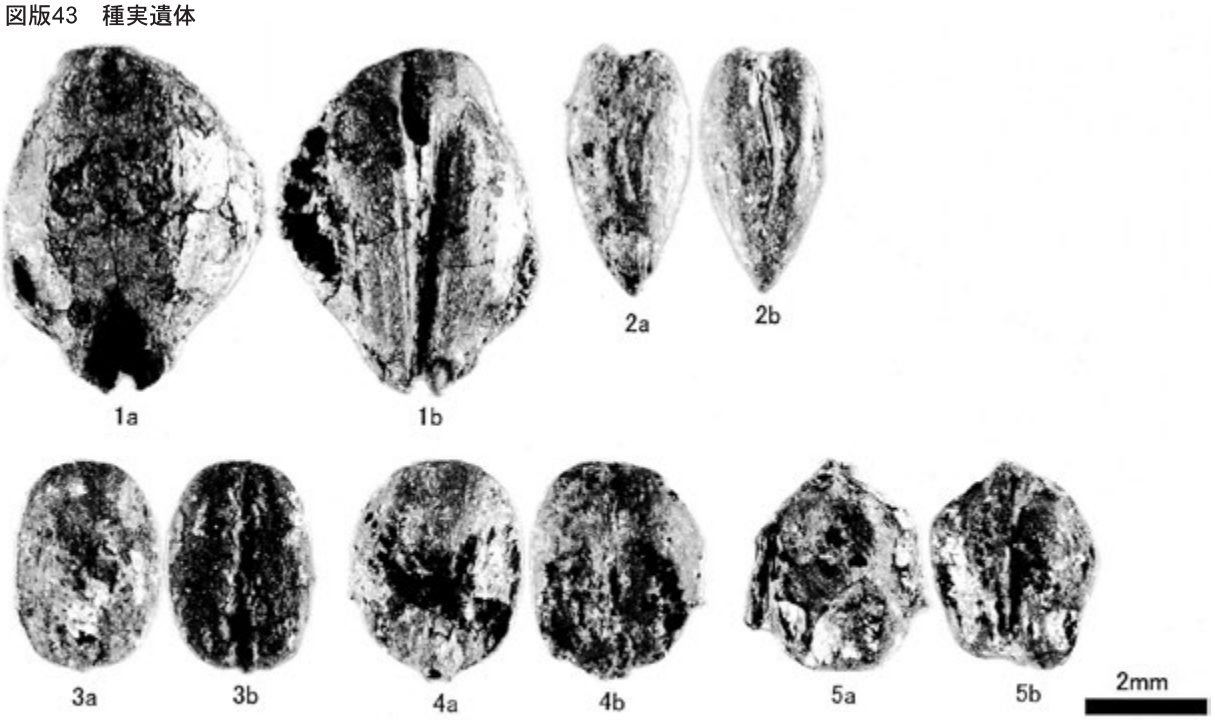
(2)植物利用について

９号(試料番号２)から確認されたオオムギ，４号(試料番号５)から確認されたコムギは，古くから栽培のために持ち込まれた渡来種で，胚乳が食用される。これらの栽培植物の可食部である胚乳が，炉状遺構から炭化した状態で検出された状況を考慮すると，当時の本遺跡において食用のために火を受けたことが推定される。

引用文献

石川茂雄1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会，642p.

図版43　種実遺体



1. オオムギ胚乳（2；10号炉状遺構内埋土中）
2. オオムギ胚乳（2；10号炉状遺構内埋土中）
3. コムギ胚乳（5；4号炉状遺構内埋土中）
4. コムギ胚乳（5；4号炉状遺構内埋土中）
5. コムギ胚乳（5；4号炉状遺構内埋土中）

表22　放射性炭素年代測定結果

試料番号	試料名称		試料の質	樹種	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
1	6号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	クスノキ科	470± 40	-24.52	460± 30	IAAA-42095
2	10号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	500± 40	-26.97	530± 30	IAAA-42096
3	9号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	マツ属複維管束亜属	410± 40	-26.63	440± 30	IAAA-42097
4	8号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	マツ属複維管束亜属	440± 40	-25.52	450± 30	IAAA-42098
5	4号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	アワブキ属	470± 40	-26.14	490± 30	IAAA-42099
6	5号炉状遺構	かまど内埋土	炭化材	広葉樹（散孔材）	600± 40	-27.64	640± 30	IAAA-42100

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

表23.　暦年較正結果

試料番号	試料名称		補正年代	暦年較正年代（cal）			相対比	Code.No.
1	6号炉状遺構	かまど内埋土	466± 37	cal AD 1,421 - cal AD 1,449	cal BP 529 - 501		1.000	IAAA-42095
2	10号炉状遺構	かまど内埋土	497± 40	cal AD 1,410 - cal AD 1,442	cal BP 540 - 508		1.000	IAAA-42096
3	9号炉状遺構	かまど内埋土	414± 36	cal AD 1,437 - cal AD 1,490	cal BP 513 - 460		0.929	IAAA-42097
				cal AD 1,603 - cal AD 1,610	cal BP 347 - 340		0.071	
4	8号炉状遺構	かまど内埋土	439± 39	cal AD 1,426 - cal AD 1,472	cal BP 524 - 478		1.000	IAAA-42098
5	4号炉状遺構	かまど内埋土	468± 39	cal AD 1,419 - cal AD 1,449	cal BP 531 - 501		1.000	IAAA-42099
6	5号炉状遺構	かまど内埋土	600± 38	cal AD 1,306 - cal AD 1,363	cal BP 644 - 587		0.802	IAAA-42100
				cal AD 1,385 - cal AD 1,400	cal BP 565 - 550		0.039	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986-2005M Stuiver and PJ Reimer）を使用
計算には表に示した丸める前の値を使用している。
付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

表24.　種実同定結果

試料番号	試料名称		分析量	分類群	部位	状態	個数	備考	種実以外の確認
1	6号炉状遺構	かまど内埋土	400g					種実検出されず	炭化材(年代測定対象),焼土
2	10号炉状遺構	かまど内埋土	400g	オオムギ	胚乳	炭化	2		炭化材(年代測定対象)
				不明炭化物		炭化	1		
3	9号炉状遺構	かまど内埋土	400g					種実検出されず	炭化材(年代測定対象)
4	8号炉状遺構	かまど内埋土	400g					種実検出されず	炭化材(年代測定対象)
5	4号炉状遺構	かまど内埋土	400g	コムギ	胚乳	炭化	5		炭化材(年代測定対象)
				ムギ類	胚乳	炭化	1		
6	5号炉状遺構	かまど内埋土	400g					種実検出されず	炭化材(年代測定対象)

第６節　鹿児島県内の窯跡および消費地遺跡出土須恵器，瓦の蛍光Ｘ線分析

鹿児島国際大学客員教授　三辻利一

１　はじめに

九州では須恵器窯跡は福岡県内に圧倒的に多い。次いで，熊本県，大分県内でも多数の窯跡が発見されている。これら３県に比べて，佐賀県，宮崎県，鹿児島県では窯跡数は格段に少ない。宮崎県には福岡県同様に古墳の数が多いにも関わらず，須恵器窯跡数は格段に少ない。しかし，須恵器生産では筑紫と日向で何故これほど大きな落差があるのかは説明されていない。長崎県に至っては須恵器窯跡は発見されていない。しかし，いずれの県でも消費地遺跡からは多数の須恵器が出土しており，何処から供給された須恵器であるのかという問題は解明されていない。

今回は鹿児島県内の消費地遺跡から出土した須恵器片を蛍光Ｘ線分析法で分析し，その生産地を探ることを試みた。その際，まずは県内の生産地の製品が何処へ供給されているのか探ることにした。県内の須恵器生産地として，岡野窯群と中岳山麓窯群を対照する母集団として選択した。県外の生産地も考えられるが，今回は対象から除外した。このように，生産地となる母集団を探っている状態なので，２群間判別分析法は適用しなかった。今後，母集団がある程度絞られた段階で判別分析にかけることにした。

２　試料処理法と分析法

土器類の素材は粘土である。粘土や岩石（鉱物の集合体）はアルミノケイ酸塩といわれ，化学薬品には難溶性である。そのため，化学的に非破壊分析法が有効である。しかも，多数の元素を含有しているため，同時多元素分析法が有効である。そうなると，有効な分析法としては蛍光Ｘ線分析法と放射化分析法しかない。近年，優れた性能をもつ完全自動式の装置が開発された蛍光Ｘ線分析法はとりわけ有効である。そのため，土器類の分析法として蛍光Ｘ線分析法が使用される場合が最も多い。

蛍光Ｘ線分析装置には波長分散型とエネルギー分散型の二種類がある。前者は分析能力に優れ，定量分析には広く利用されている。後者は持ち運びに便利であり，可搬型の装置として威力を発揮している。また，不定形の試料の分析にも有効である。もちろん定形試料の定量分析も可能である。波長分散型の装置では一定形状の試料しか分析できない場合が多い。そのため，試料は一旦粉砕し，一定形状の測定試料に加工する必要がある。

蛍光Ｘ線分析の特徴は表面分析であり，試料の重量を前もって天秤で測っておかなくても定量分析できることである。しかし，標準試料を含めすべての測定試料は同質であり,その形状は一定でなければならないという条件がつく。比較のための標準試料が必要である。言い換えれば，相対分析であることが蛍光Ｘ線分析の特徴である。

このようなことから，土器類の分析でも表面を研磨して付着汚物を除去したのち，タングステンカーバイド製乳鉢で100メッシュ以下に一旦粉砕し，粉末試料を塩化ビニル製リングを枠にして，10トンの圧力をかけてプレスし，内径20㎜，厚さ5㎜の錠剤試料を作成し，蛍光Ｘ線分析用の試料とした。

岩石学の研究では，岩石を構成する鉱物に関する情報を得るため岩石の化学組成が必要であり，主成分元素を全て測定する。他方，土器の産地問題の研究では素材粘土の化学組成はとくに必要としない。必要なのは地域差である。土器の化学組成を求めても地域差は求まらない。

筆者は土器の地域差を有効に示す元素をどのようにして抽出するかを思案した。そのために必要なのが，生産地が明確に分かっている土器試料を探し出すことであった。その際，窯跡出土須恵器が分析対象となった。須恵器窯跡は全国各地にあるため，全国各地の須恵器の地域差を共通に表示する元素を見つけ出すことが必要である。当然，有効元素は簡単には見つからない。そのためにまず，有効元素の候補となる元素を探し出すことが必要であった。どのようにして有効元素の候補を見つけ出したか以下に述べる。

アルミノケイ酸塩の蛍光Ｘ線スペクトルをみると，比較的大きなピークが何本かある。Al，Si，K，Ca，Ti，Fe，Rb，Sr，Y，Zrの10本のピークである。蛍光Ｘ線スペクトルの特徴は各元素のスペクトル線が原子番号の順に並んでいることである。そこで，近接して並んでいる２本のピークを取り出して対元素を作ってみた。Al／Si、K／Ca、Ti／Fe、Rb／Sr、Y／Zrの５対である。このうち，筆者が最初に使ったエネルギー分散型の装置では分解能が悪いため，AlのピークはSiの大きなピークの肩にのって有効に分離せず，ピーク面積を正確に測定することが困難であった。また，Ti／Feの比はFeのピークが大き過ぎるため，比の値が小さ過ぎて地域差があるかないかを判断することは困難であった。さらに，YとZrのKピークにはそれぞれ，RbのKとSrのKが重なっており，補正をしない限り，正確にYとZrのピーク面積を求めることは困難であることが分かった。残るK／CaとRb／Srの２対のピーク比について，各地の窯跡出土須恵器のスペクトルを比較した。その結果，Rb／Srにつては地域によってピーク比が逆転する場合があることが観測された。K／Caについてはピーク比が逆転することはなかったが，その値は大きく変動した。これらの観測データから，これら２対のピークが地域差を表す可能性があると判断された。そこで，対をはずしてK-Ca，Rb-Srの２枚の２次元分布図上に各地の窯跡出土須恵器の分析データをプロットし，地域差を有効に表すかどうか検討することにした。殆ど全地域の窯跡出土須恵器の分析データがでたところで，帰納法的にこれら２枚の分布図が地域差を有効にあらわす分布図であることが実証された。では，何故K-Ca，Rb-Srの両分布図が有効に地域差を表すのだろうか？この疑問に応えるため、日本列島の地質の土台を構成する花崗岩類試料を全国的に集めて分析することにした。この結果，KとCa，RbとSrの間にはそれぞれ、逆相関の関係あることが判明した。同時に，主成分元素Kと微量元素Rbの間には正の相関性があること，同様に，CaとSrの間にも正の相関性があることも実証された。花崗岩類を構成する主成分鉱物は石英，長石類，黒雲母，角閃石などである。とりわけ，長石類は造岩鉱物の60％を占めると報告されている。長石類のうち，カリ長石にはK(Rb)が，斜長石にはCa（Sr)が，正長石にはNaが含有されていることは周知の事実である。そうすると，土器(粘土）中のK(Rb)は母岩のカリ長石に，Ca(Sr）は斜長石に由来することが推察できる。したがって，K(Rb)に富む母岩の上にある窯跡出土須恵器には比較的K(Rb)が多く，斜長石に富む母岩上に分布する窯跡から出土する須恵器には比較的Ca(Sr)が多いというデータは地質学的にも理解されることになる。これらの母岩を背景に粘土化は狭い範囲内で進行したものと推察される。かくして，K-Ca、Rb-Srの両分布図上での地域差は母岩の長石類に由来することがわかった。そして，窯跡出土須恵器にみられる地域差は地質的なものであることが結論された。

こうしたデータの集積の上に，K-Ca，Rb-Srの両分布図が窯

跡出土須恵器の地域差を有効に表す分布図として定着することになった。そして，Fe，Naについても個別に分析データを集積し，地域差を表示するかどうか検討することにした。本報告ではK-Ca，Rb-Srの両分布図を使い，鹿児島県内の窯跡出土須恵器の化学的特徴を表すとともに，消費地遺跡出土須恵器の窯跡への対応も試みた。

蛍光Ｘ線分析には，理学電機製RIX2100を使用した。この装置にはTAP（Na用），Ge（K，Ca用），LiF（Fe，Rb，Sr用）の３枚の分光結晶が使用されている。また，蛍光Ｘ線強度の測定には，ガスフロー比例計数管（Na，K，Ca用），シンチレーションカウンター（Fe，Rb，Sr用）が使用された。X線管の使用条件は50kV，50mAであった。Ｘ線分析では通常，検量線法で分析値を求める。日本地質調査所から配布された岩石標準試料を使って検量線は作成される。この中には当然JG-1は含まれている。筆者もこの方法で検量線を作成した。しかし，土器の産地問題の研究では化学組成そのものは必要でない。地域差を有効に表示する分析値の表示法があればよいわけである。筆者はK，Ca，およびRb，Srを同時に定量する上に，最も有効な標準試料としてJG-1を採用した。そして，JG-1の各元素の蛍光Ｘ線強度を使って測定された実試料の蛍光Ｘ線強度を標準化する方法を考えた。換言すれば，JG-1による標準化法は検量線法の簡易法である。この方法のほうが分析値を求めるにははるかに便利であり，両分布図の作成や統計計算などにも便利である。また，分析値を％やppmに換算することも容易であるが，通常その必要がないのでJG-1による標準化値でデータ解析を行っている。

3　分析結果

今回分析した試料の全分析値は表25にまとめた。全分析値はJG-1による標準化値である。このデータを解読するにはまず，K-Ca，Rb-Srの両分布図を作成することである。以下に，両分布図を使ってデータ解析した結果を説明する。

図１には，岡野３号窯出土須恵器の両分布図を示す。多くの試料の分析データは数年前に奈良教育大学で理学電機製3270型の装置を使って分析したものである。今回は理学電機製RIX2100を使って，２点の試料を測定した。以前に測定したデータを使って描いた岡野領域内に今回分析した２点の試料も入っていることがわかる。このようにJG-1による標準化法を使えば，使用する装置に関係なくデータは不変であることがわかる。したがって，標準化法は長年にわたって基礎データを集積する研究にはきわめて適した方法であることがわかる。図２には中岳山麓窯跡群で新たに表面採取した須恵器の両分布図を示す。岡野領域とはずれたところに分布しており、両窯の製品の相互識別は容易であることがわかる。

次に，消費地遺跡から出土した須恵器の分析結果を説明する。図３には中岳山麓窯跡群の近くにある上水流遺跡出土須恵器の両分布図を示す。多くの試料は両分布図で中岳領域に分布しており，近くの生産地の製品が供給されていたことを示している。しかし，番号を付した８点の試料は中岳領域には対応せず，別産地の製品とみられる。No.4，5の２点の試料は両分布図で近接して分布しており，かつ全因子の分析値が類似していることが表25からわかる。同じ産地の製品であると推定される。また，No.31は型式より古墳時代の須恵器である可能性がある。その場合，地元には古墳時代の須恵器窯跡はなく，外部地域からの搬入品と考えられる。陶邑産須恵器か陶質土器かの判断をする必要があるが，陶邑領域と伽耶領域が重複する領域に分布したので判断を保留した。また，No.2とNo.19はCaが少ないという共通点を持つが，表25より他の因子でも類似しており，同じ産地の製品である可能性が高い。No.3，25，26については産地不明である。それぞれ別産地の製品と推察される。

図４には類須恵器の両分布図を示す。筆者は徳之島のカムィヤキ窯群出土陶片試料を400点以上分析したことがある。そのデータに基づいてカムィヤキ領域を描いてある。ただ，カムィヤキには石灰岩の汚染を受けてCa量の異常値を示すものがある。したがって，K-Ca分布図は参考程度にしか使用できない。図４でCaの異常値を示すNo.7，8，39，40，41，43の６点の試料はFe量が異常に多いというカムィヤキの特徴をもっており，いずれもカムィヤキと推定される。Caの異常値を示さないNo.6，42もFe量が多くカムィヤキと推定される。しかし，No.28にはFe量は多くなく，Rb-Sr分布図でもカムィヤキ領域を大きくずれる。カムィヤキではない。No.47は中世陶器であるが，産地は不明である。

図５には上水流遺跡出土中世陶器の両分布図を示す。九州の窯跡出土中世陶器は十分に研究されていない。分析データもほとんどない。したがって，現時点では産地推定することは困難である。

図６には渡畑遺跡と薩摩国分寺跡出土布目瓦の両分布図と持躰松遺跡出土須恵器と芝原遺跡出土瓦の両分布図を示す。渡畑遺跡の７点の瓦は両分布図でまとまって分布しており、同じ生産地であると判断される。これらを包含するようにして，渡畑領域を描いてある。他方，薩摩国分寺の瓦はK-Ca分布図ではまとまって分布するが，Rb-Sr分布図では分布がばらつくことが分かる。その理由はわからない。図７から渡畑遺跡のものと薩摩国分寺の布目瓦は全く別胎土であることが分かる。したがって，両者は別産地の製品であることは明白である。

須恵器はNo.93の須恵器とNo.96の芝原遺跡出土瓦は中岳山麓窯群の製品である可能性がある。また，６点の芝原遺跡出土瓦は渡畑領域に分布しており，渡畑遺跡の布目瓦と同じ生産地の製品の可能性がある。

今回は鹿児島県内の須恵器，瓦，類須恵器，中世陶器の産地を探るはじめての試みとして，両分布図での分布のデータを中心として，おおまかな産地推定を試みた。須恵器，瓦，中世陶器の窯跡の整理も十分ではなく，まだ詳細な産地推定ができる段階ではない。生産－供給のおおよその輪郭が把握できた段階で２群間判別分析法も適用し，より詳細な産地推定ができるはずである。今後の研究に期待したい。

岡野窯跡

図 1-1

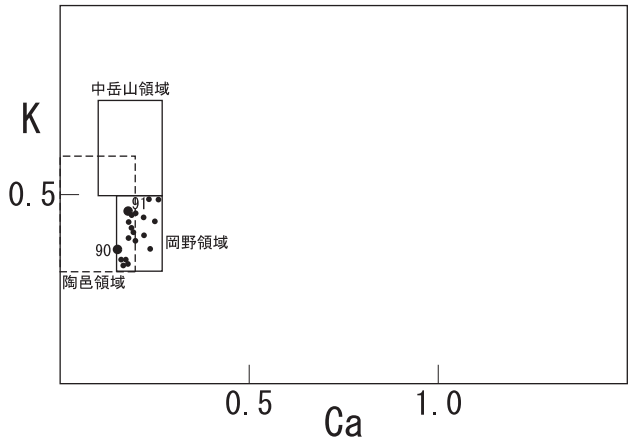
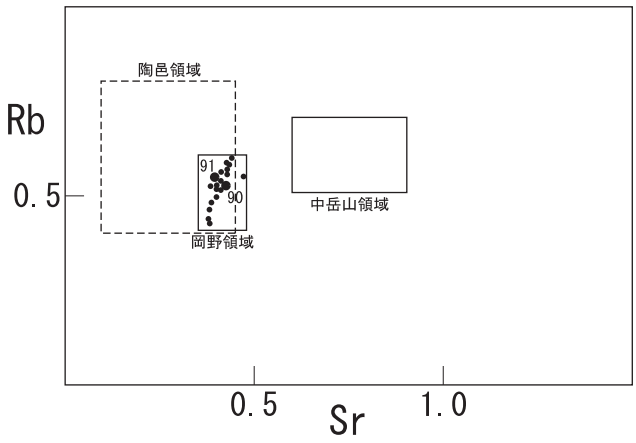


図 1-2



中岳山麓窯跡群

図 2-1

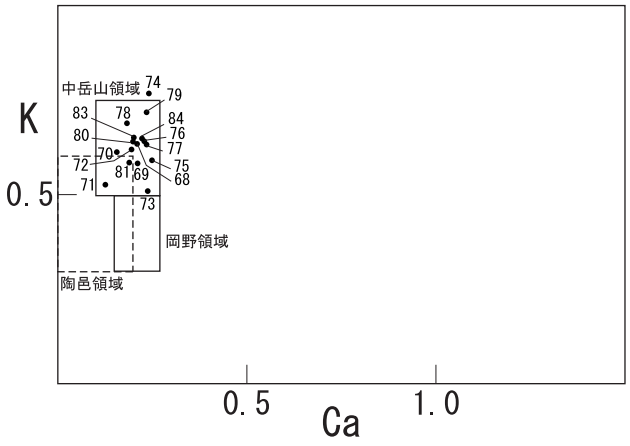
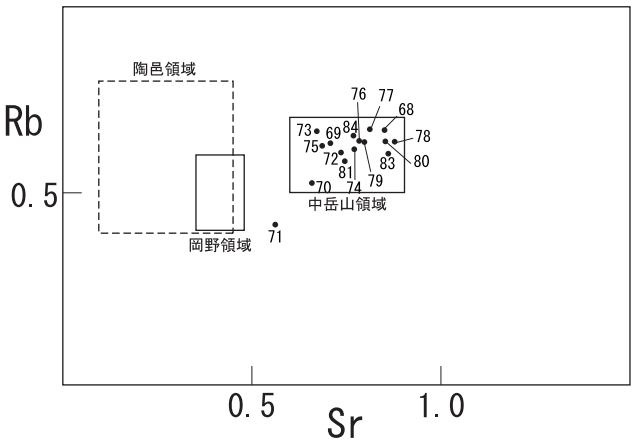


図 2-2



須恵器(古墳・古代)

図 3-1

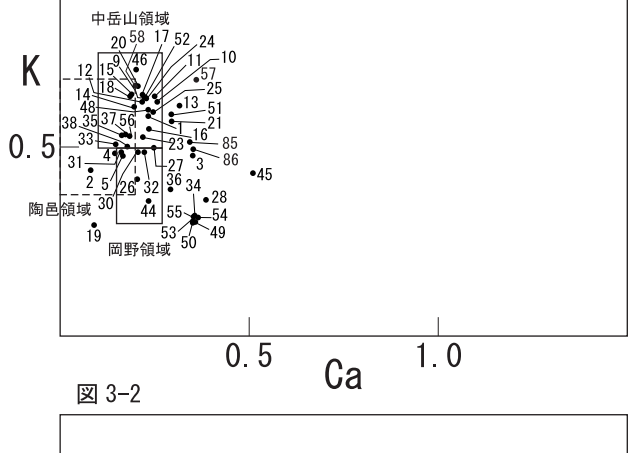
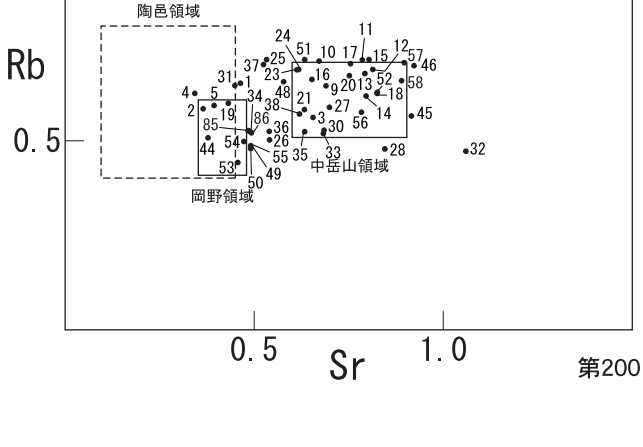


図 3-2



類須恵器

図 4-1

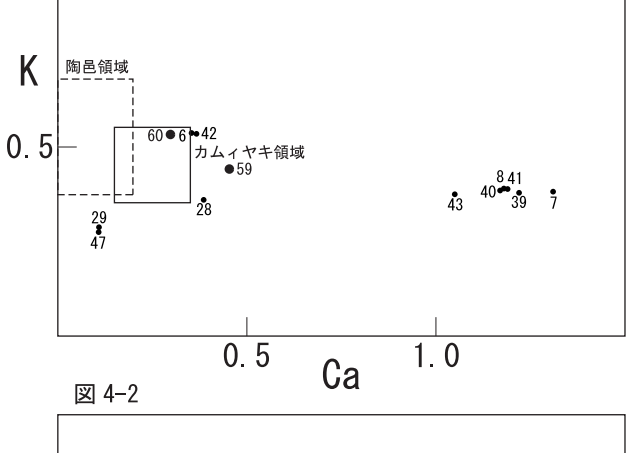
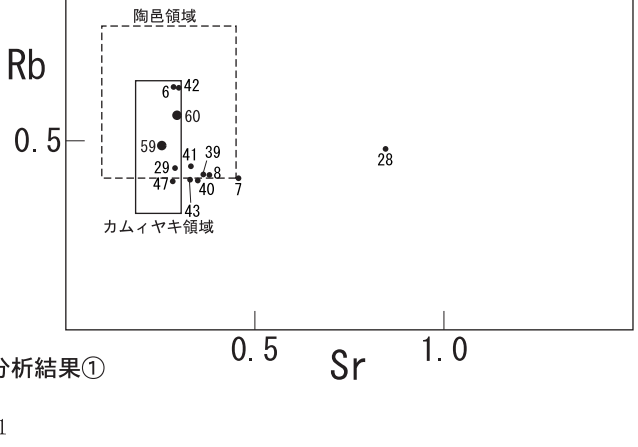


図 4-2



第200図　分析結果①

陶器

図 5-1

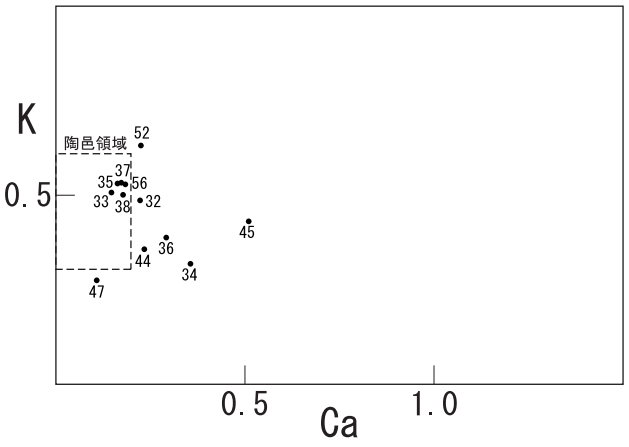
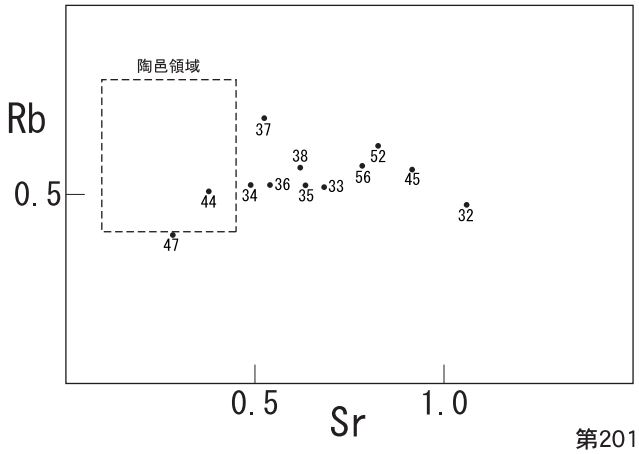


図 5-2



須恵器・瓦

図 6-1

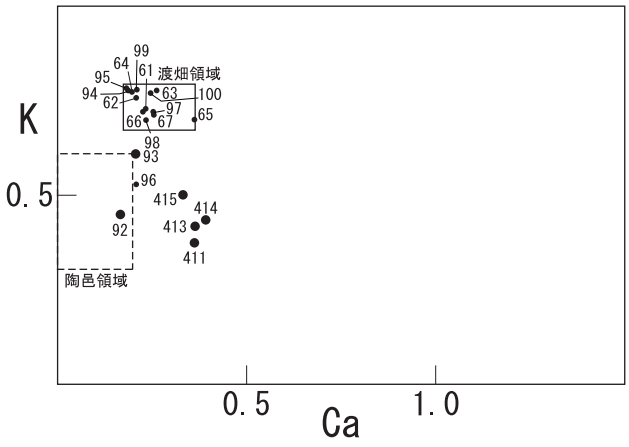
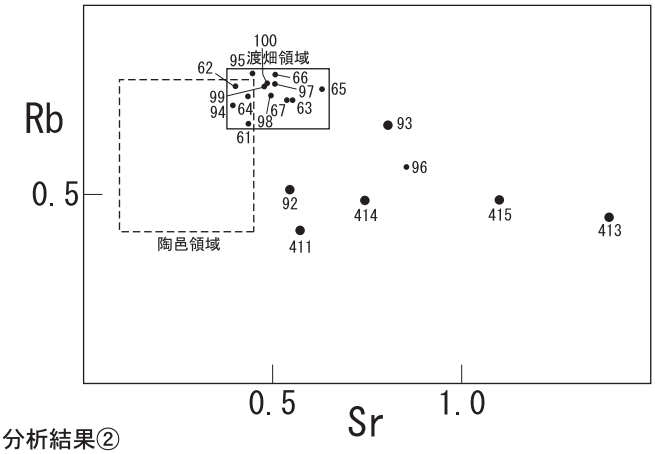


図 6-2



第201図　分析結果②

表25　鹿児島県遺跡出土土器の分析データ

遺跡名	番号	分析No	種類	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
上水流遺跡	1	10号住居41	須恵器　把手付鉢	0.582	0.233	2.65	0.653	0.464	0.259
	2	3号住居15	須恵器　器台	0.438	0.081	1.95	0.585	0.365	0.257
	3	159	須恵器　坏フタ	0.477	0.351	2.52	0.562	0.656	0.368
	4	157	須恵器　坏身	0.483	0.145	2.41	0.626	0.343	0.224
	5	3号住居16	須恵器　𤭯	0.476	0.166	2.60	0.594	0.394	0.270
	6	18-390	類須恵器　カメ	0.537	0.354	4.44	0.643	0.285	0.186
	7	18-391	類須恵器　カメ	0.381	1.31	5.28	0.400	0.457	0.372
	8	18-392	類須恵器　カメ	0.389	1.18	5.19	0.409	0.380	0.321
	9	18-393	須恵器　カメ(口縁)	0.632	0.223	1.55	0.646	0.690	0.353
	10	18-394	須恵器　フタ(高台付)	0.620	0.257	1.32	0.712	0.672	0.333
	11	18-395	須恵器　ツボ(底部)	0.635	0.250	1.43	0.715	0.786	0.369
	12	18-396	須恵器　カメ(口縁)	0.620	0.217	1.39	0.690	0.814	0.383
	13	18-397	須恵器　ツボ(口縁)	0.610	0.316	1.48	0.679	0.793	0.338
	14	18-398	須恵器　ツボ(頸部)	0.607	0.196	1.43	0.619	0.796	0.377
	15	18-399	須恵器　ツボ(頸部)	0.640	0.189	1.35	0.716	0.804	0.405
	16	18-400	須恵器　ツボ(胴部)	0.548	0.235	1.54	0.663	0.653	0.249
	17	18-401	須恵器　カメ(頸部)	0.639	0.218	1.33	0.705	0.755	0.364
	18	18-402	須恵器　カメ(胴部)	0.635	0.185	1.51	0.626	0.825	0.455
	19	18-403	須恵器　カメ(胴部)	0.292	0.090	1.86	0.600	0.432	0.131
	20	18-404	須恵器　カメ(胴部)	0.662	0.206	1.52	0.673	0.752	0.364
	21	18-405	須恵器　坏	0.568	0.295	2.13	0.583	0.633	0.356
	23	18-407	須恵器　カメ(胴部)	0.526	0.219	1.33	0.689	0.613	0.258
	24	18-408	須恵器　ツボ(口縁)	0.629	0.228	1.59	0.690	0.618	0.340
	25	18-409	須恵器　小壷	0.593	0.246	1.59	0.716	0.533	0.285
	26	18-410	須恵器	0.414	0.204	2.01	0.502	0.541	0.277
	27	18-411	須恵器　ツボ	0.498	0.248	1.98	0.589	0.699	0.340
	28	18-412	類須恵器	0.359	0.386	2.14	0.478	0.846	0.258
	29	18-413		0.286	0.109	2.50	0.427	0.289	0.102
	30	18-414	須恵器　カメ	0.486	0.206	2.07	0.528	0.685	0.291
	31	18-415	古墳　須恵器 𤭯	0.486	0.162	2.68	0.647	0.449	0.272
	32	18-416	中世　須恵器　カメ(胴部)	0.486	0.223	2.38	0.472	1.06	0.293
	33	18-417	中世　須恵器　カメ(胴部)	0.507	0.147	2.18	0.519	0.683	0.268
	34	18-418	中世　須恵器カメ(底部)	0.317	0.356	1.62	0.525	0.489	0.221
	35	18-419	中世　須恵器カメ(頸部)	0.531	0.163	2.02	0.524	0.634	0.299
	36	18-420	中世　須恵器カメ(胴部)	0.387	0.292	1.76	0.525	0.540	0.263
	37	18-421	中世　須恵器カメ(底部)	0.533	0.173	2.30	0.703	0.525	0.327
	38	18-422	中世　須恵器カメ(口縁)	0.501	0.178	2.38	0.571	0.620	0.254
	39	18-423	中世　類須恵器	0.378	1.22	5.25	0.410	0.364	0.271
	40	18-424	中世　類須恵器	0.384	1.17	5.28	0.394	0.349	0.285
	41	18-425	中世　類須恵器	0.388	1.19	5.20	0.432	0.331	0.278
	42	18-426	中世　類須恵器	0.535	0.367	4.48	0.641	0.299	0.189
	43	18-427	中世　類須恵器	0.374	1.05	5.22	0.396	0.329	0.283
	44	18-428	中世　須恵器	0.356	0.234	1.64	0.508	0.378	0.109
	45	18-429	中世　須恵器　片口鉢	0.430	0.510	2.90	0.566	0.916	0.267
	46	18-430	古代　須恵器　カメ(胴部)	0.706	0.201	1.26	0.700	0.923	0.536
	47	18-431	中世　類須恵器	0.273	0.108	2.45	0.392	0.283	0.103
	48	18-432	古代　須恵器　カメ(胴部)	0.599	0.233	2.15	0.657	0.578	0.309
	49	18-433	古代　須恵器　カメ(胴部)	0.300	0.358	1.63	0.481	0.491	0.204
	50	18-434	古代　須恵器　ツボ	0.302	0.351	1.68	0.479	0.491	0.194
	51	18-435	古代　須恵器　ツボ	0.587	0.294	1.36	0.716	0.634	0.310

遺跡名	番号	分析No	種類	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
上水流遺跡	52	18-436	中世　須恵器　碗	0.632	0.225	1.71	0.629	0.826	0.388
	53	18-437	古代　須恵器　カメ	0.298	0.351	1.83	0.442	0.457	0.175
	54	18-438	古代　須恵器　カメ	0.312	0.365	1.71	0.498	0.473	0.167
	55	18-439	古代　須恵器　ツボ	0.314	0.353	1.61	0.487	0.491	0.217
	56	18-440	中世　須恵器　瓦質	0.529	0.184	1.97	0.576	0.784	0.382
芝原遺跡	57	18-441	古代　須恵器　碗	0.679	0.371	1.33	0.716	0.897	0.437
	58	18-442	古代　須恵器　風字硯	0.663	0.210	1.17	0.668	0.890	0.449
	59	18-443	中世　類須恵器	0.441	0.454	5.17	0.495	0.254	0.157
	60	18-444	中世　類須恵器	0.533	0.298	5.06	0.576	0.294	0.170
渡畑遺跡	61	18-445	布目瓦	0.730	0.233	3.50	0.688	0.436	0.263
	62	18-446	布目瓦	0.759	0.208	3.30	0.788	0.402	0.243
	63	18-447	布目瓦	0.779	0.262	2.98	0.751	0.553	0.255
	64	18-448	布目瓦	0.775	0.197	4.26	0.761	0.435	0.200
	65	18-449	布目瓦	0.701	0.362	3.58	0.780	0.631	0.228
	66	18-450	布目瓦	0.722	0.226	3.10	0.819	0.507	0.244
	67	18-451	布目瓦	0.714	0.255	3.02	0.751	0.538	0.257
中岳山麓窯跡群	68	18-452	古代須恵器	0.635	0.210	1.52	0.675	0.851	0.414
	69	18-453	古代須恵器	0.583	0.211	1.43	0.640	0.708	0.313
	70	18-454	古代須恵器	0.613	0.156	2.40	0.534	0.659	0.278
	71	18-455	古代須恵器	0.526	0.126	2.01	0.423	0.562	0.294
	72	18-456	古代須恵器	0.620	0.195	1.21	0.615	0.736	0.318
	73	18-457	古代須恵器	0.509	0.238	1.49	0.672	0.672	0.267
	74	18-458	古代須恵器	0.769	0.241	1.40	0.624	0.771	0.405
	75	18-459	古代須恵器	0.591	0.249	1.60	0.633	0.686	0.314
	76	18-460	古代須恵器	0.642	0.229	1.50	0.646	0.784	0.392
	77	18-461	古代須恵器	0.633	0.235	1.05	0.677	0.812	0.314
	78	18-462	古代須恵器	0.690	0.183	1.07	0.644	0.878	0.408
	79	18-463	古代須恵器	0.719	0.235	1.40	0.643	0.798	0.386
	80	18-464	古代須恵器	0.641	0.199	1.37	0.645	0.853	0.390
	81	18-465	古代須恵器	0.585	0.189	1.65	0.592	0.746	0.276
	83	18-467	古代須恵器	0.652	0.201	1.50	0.612	0.861	0.438
	84	18-468	古代須恵器	0.649	0.223	1.48	0.660	0.769	0.349
持躰松遺跡	85		古代須恵器（車輪文）	0.513	0.343	3.29	0.527	0.484	0.271
	86		古代須恵器（車輪文）	0.494	0.352	3.22	0.521	0.493	0.282
岡野窯跡	90	18-469	古代須恵器	0.354	0.152	1.71	0.513	0.414	0.184
	91	18-470	古代須恵器	0.456	0.180	1.80	0.537	0.400	0.137
持躰松遺跡	92	18-471	古代須恵器	0.447	0.164	1.56	0.505	0.538	0.213
	93	18-472	古代須恵器	0.606	0.207	1.32	0.675	0.796	0.353
芝原遺跡	94		布目瓦	0.779	0.187	4.05	0.737	0.395	0.199
	95		布目瓦	0.785	0.182	3.54	0.822	0.447	0.220
	96		布目瓦	0.529	0.208	2.61	0.573	0.854	0.269
	97		布目瓦	0.722	0.253	3.35	0.794	0.506	0.250
	98		布目瓦	0.700	0.234	3.68	0.763	0.496	0.262
	99		布目瓦	0.781	0.210	3.39	0.787	0.478	0.224
	100		布目瓦	0.772	0.246	3.13	0.796	0.486	0.242
薩摩国分寺	411	18-547	布目瓦	0.373	0.362	3.10	0.404	0.573	0.286
	413	18-549	布目瓦	0.417	0.364	1.94	0.439	1.39	0.307
	414	18-550	布目瓦	0.434	0.392	2.58	0.484	0.744	0.370
	415	18-551	布目瓦	0.501	0.332	2.67	0.485	1.10	0.383

第７節　ガラスの成分分析

森　雄二

１　はじめに

ガラスとは，珪素とアルカリを一定の割合で混ぜ合わせ，高温で加熱することで原料の結晶構造の無くなった物質で，人類が最初に創り出した素材である。化学的に非常に安定していることから現代においても様々な製品に加工され，生活に必要不可欠な素材である。また，天然素材では得られない澄んだ美しさと多様な色彩によって古くから工芸品として使われている。

ガラスの起源は釉薬に見られ，今から約6,500年前のメソポタミアにあると考えられている。凍石（ステアタイト）・石英（クオーツ）・水晶（クリスタル）・長石（フェルスパー）などに釉薬をかけて焼成させた「施釉石」や，粉末にした石英の核にアルカリの釉薬をかけて焼成した「ファイアンス」がそれである。初期のファイアンスは，色彩が青・青緑・緑のような色だけで珠や護符，印章などの小物の製作に用いられ，後に紫・白・黄色・黒・赤などの色彩が加わり各種容器，坏，建築装飾品などの様々な用途に使用されたようである。また，ファイアンスはエジプトに伝播したと考えられ，広範囲にわたって使用されている。そして、約4,000～5,000年前には，西アジアやエジプト，エーゲ海域で珠のような小さな装飾品がガラスで作られるようになったと考えられている。

日本においては，青森県の亀ヶ岡遺跡から縄文時代晩期（約2,300年前）の青色ガラス小玉が出土し，弥生時代に入ると佐賀県の吉野ヶ里遺跡からガラス製管玉，古墳時代に入ると福岡から関東の範囲で多孔土盤が出土し，鋳造鋳型によるビーズ製作が行われたと考えられている。鹿児島県においては，最近の調査で古墳時代以降のガラス製小玉の出土例が増加しているが，調査事例が少なく研究はこれからである。

２　分析結果

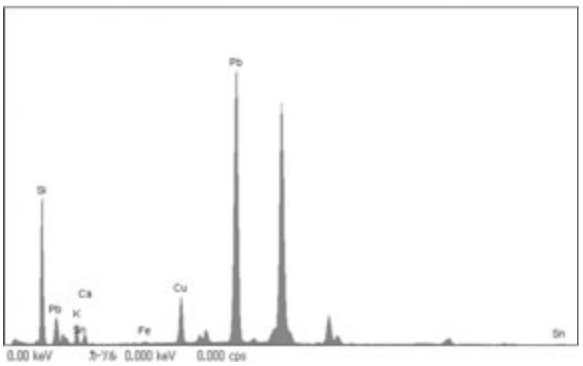
今回上水流遺跡で出土したガラス玉については，当センター所有の堀場製作所製の蛍光Ｘ線分析装置XGT－１０００を用いて成分分析を行い，標準試料を用いないＦＲＭで定量分析を試みた。ここではその結果を報告する。

（1）大溝内出土ガラス玉（大溝261）

①　測定条件

Ｘ線照射範囲：直径100㎛　　測定時間：100s
X線管電圧：50kV　　電流：400μA
パルス処理時間：P3　　X線フィルタ：なし
試料セル：なし

②　スペクトル



③　定量結果

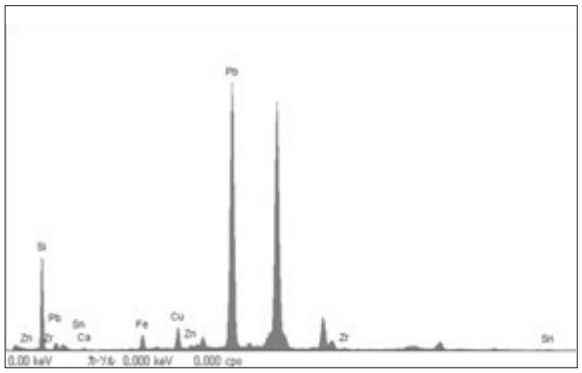
元　素			ライン	質量濃度[%]	3σ[%]	強度[cps/mA]
14	Si	けい素	K	52.84	0.54	684.97
19	K	カリウム	K	5.11	0.23	108.42
20	Ca	カルシウム	K	1.91	0.13	52.25
26	Fe	鉄	K	0.09	0.03	10.58
29	Cu	銅	K	1.7	0.05	304.1
50	Su	すず	K	0.23	0.15	3.26
82	Pb	鉛	L	38.13	0.48	2024.91

（２）9号炉状遺構内（劣化により破損したため実測図は未載）

①　測定条件

Ｘ線照射範囲：直径100㎛　　測定時間：200s
X線管電圧：15/50kV　　電流：1000/ 360μA
パルス処理時間：P3　　X線フィルタ：なし
試料セル：なし

②　スペクトル



③　定量結果

元　素			ライン	質量濃度[%]	3σ[%]	強度[cps/mA]
14	Si	けい素	K	48.46	0.54	311.65
20	Ca	カルシウム	K	0.59	0.09	6.26
26	Fe	鉄	K	0.94	0.06	100.17
29	Cu	銅	K	0.98	0.05	158.63
30	Zn	ジルコニウム	K	0.1	0.03	18
40	Zr	亜鉛	K	0.11	0.05	9.74
50	Sn	すず	K	0.54	0.26	6.15
82	Pb	鉛	L	48.28	0.52	2251.79

３ 考察

今回分析した２つのガラス製玉は，成分分析から鉛を多く含むことが確認できた。このことから鉛ガラスを用いて玉が作られたのではないかと考えたい。通常純粋な結晶シリカの融点は1723℃と高温で，このような高い温度を得るのは容易なことではないため，融剤として酸化鉛を加えたのであろう。その結果，ガラスの融解温度は740℃～760℃になり，加工が容易であったことが想像できる。

参考文献

臼井洋輔2007『謎を秘めた古代ビーズ再現　ビーズの孔からのぞいた日本とアフリカ』吉備人出版
黒川高明2005『ガラスの技術史』アグネ技術センター
中山公男監修2000『カラー版　世界ガラス工芸史』美術出版社

第８節　上水流遺跡出土の赤色土器の分析結果について

内山伸晃

上水流遺跡検出の，古墳時代の竪穴住居内の埋土中に，集中して点在する赤色顔料の粒があった。また，古代の土器の中に赤色の土器があった。これらについて，赤色顔料の成分や塗布の有無を明らかにするために分析を行った。

分析にあたっては，当センターの蛍光Ｘ線分析装置と走査型電子顕微鏡を用いた。詳細は次項に記した。

分析の結果は以下のとおりである。

資料１（４号竪穴住居）については，電子顕微鏡観察の結果，これまでに報告されているパイプ状粒子とは異なる形状の粒子が認められた。

直径は100㎚から200㎚程度で，繊維状に広がっており，螺旋状にねじれているようにも見える。部分的にこぶ状のつくりも見られるが，焼成によるものかどうかは不明である。色調は鮮やかな赤色で，明らかなFe（鉄）のピークが見られることや，その形状から，パイプ状粒子のベンガラと同様，鉄バクテリア由来のベンガラではないかと考えられる。しかし，不明な部分が多いため，結論を得るにはさらに詳しく分析する必要がある。

資料２（古代10）は，やや赤い表面をしており，蛍光Ｘ線分析結果でもFeのピークが見られたが，胎土との極端な差が認められない。このことから，ベンガラなどの鉄を主成分とする赤色顔料を塗布した可能性は低いと考えられる。

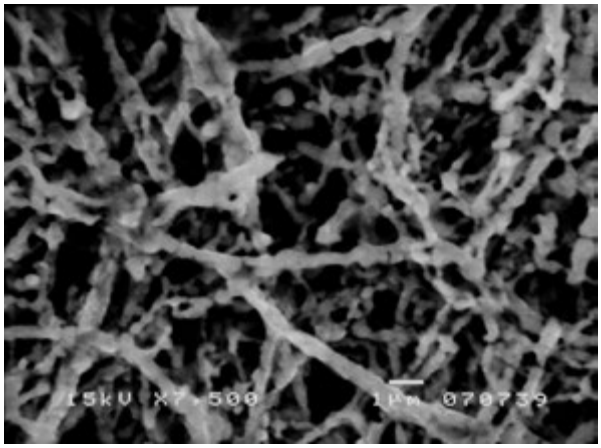
資料３（古代７）と資料４（古代１）は，明らかなFeのピークが見られた。電子顕微鏡観察の結果から，非パイプ状のベンガラを塗布したものと思われる。

上水流遺跡出土の赤色顔料については，これまでに縄文時代晩期の黒川式土器などに付着した例が報告されている。多くはパイプ状のベンガラであるが，非パイプのベンガラのみを塗布したものや，内面に水銀朱，外面に非パイプ状のベンガラを塗布されたものも見られた。このほかに，縄文時代前期の深浦式土器からもパイプ状ベンガラを検出しており，縄文時代には，さまざまな原料から得られた赤色顔料を使用していたことがわかる。

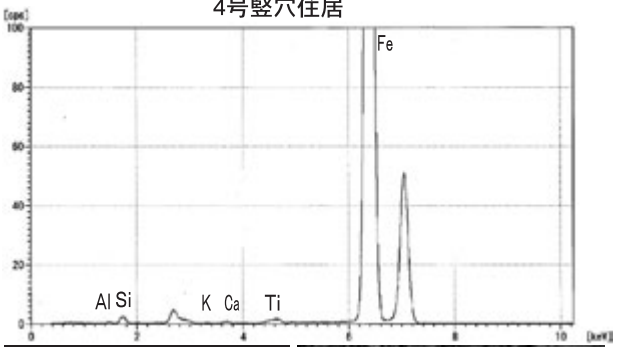
これに対し，今回報告した古代の土器からは，非パイプ状のベンガラしか検出していない。また，資料２のように赤色ではあっても分析結果は胎土と大差ないものや，資料１のように原料や使途の不明なベンガラも存在する。周辺の遺跡からの出土遺物との対比も含めて，今後の検討課題としたい。

引用・参考文献

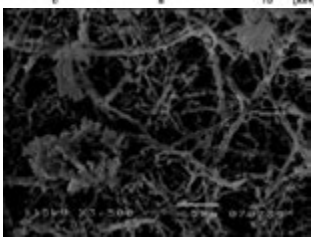
鹿児島県立埋蔵文化財センター2007『上水流遺跡１』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（113）
鹿児島県立埋蔵文化財センター2007『持躰松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（120）



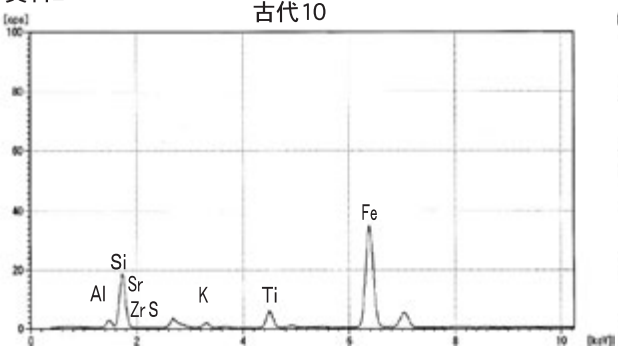
資料1



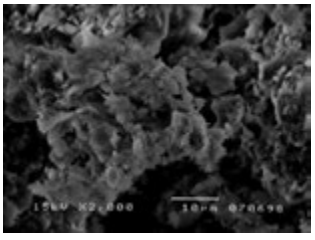
元素	質量濃度[%]	強度[cps/mA]
Al アルミニウム	3.70	7.31
Si ケイ素	8.72	43.95
K カリウム	0.20	6.06
Ca カルシウム	0.31	14.33
Ti チタン	0.18	15.20
Fe 鉄	86.72	8770.95
As ひ素	0.18	11.20

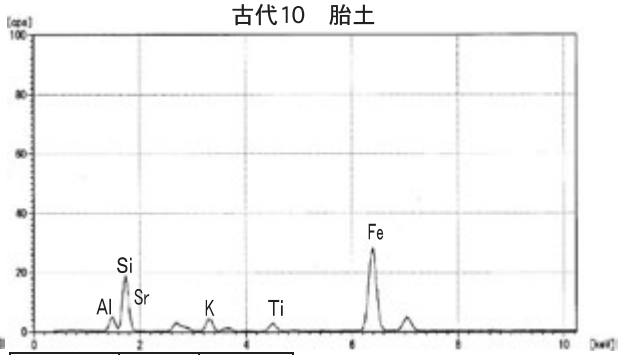


資料2



元素	質量濃度[%]	強度[cps/mA]
Al アルミニウム	16.18	42.82
Si ケイ素	63.23	268.24
S 硫黄	0.27	2.74
K カリウム	3.14	35.98
Ti チタン	4.43	125.37
Fe 鉄	12.50	810.51
Rb ルビジウム	0.04	5.21
Sr ストロンチウム	0.05	6.79
Zr ジルコニウム	0.17	27.98

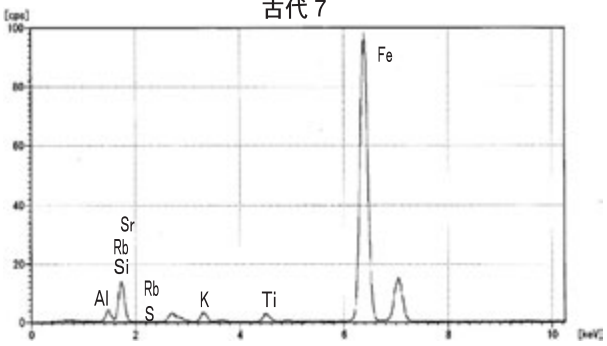




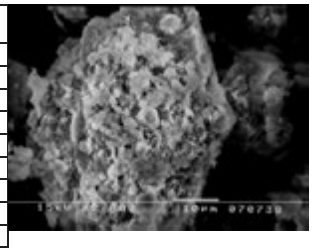
元素	質量濃度[%]	強度[cps/mA]
Al アルミニウム	18.99	67.43
Si ケイ素	64.61	332.33
K カリウム	6.68	89.99
Ti チタン	1.66	52.75
Fe 鉄	8.02	652.28
Sr ストロンチウム	0.05	9.47

資料 3

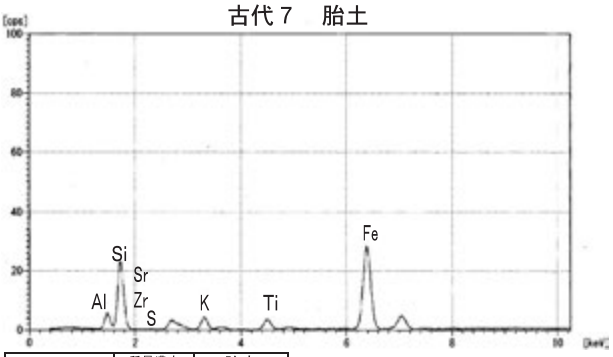
古代 7



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al アルミニウム	22.99	63.61
Si ケイ素	43.90	197.51
S 硫黄	0.17	2.44
K カリウム	4.22	69.26
Ti チタン	1.38	56.27
Fe 鉄	26.98	2308.42
Rb ルビジウム	0.06	7.08
Sr ストロンチウム	0.07	9.32
Pb 鉛	0.23	7.44



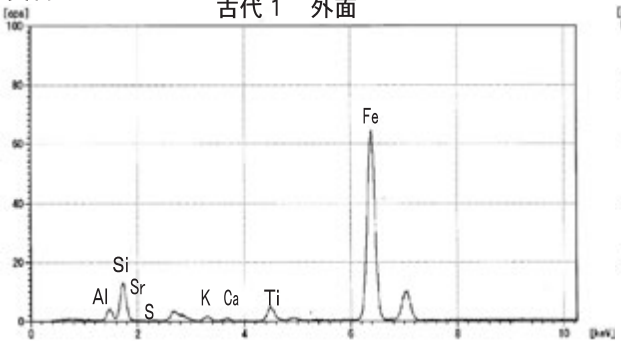
古代 7　胎土



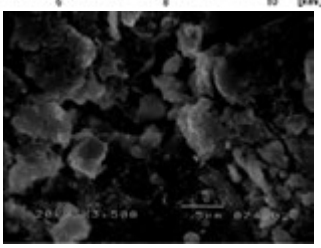
元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al アルミニウム	18.92	81.70
Si ケイ素	66.93	411.37
K カリウム	5.40	84.61
Ti チタン	1.87	70.77
Fe 鉄	6.76	657.92
Sr ストロンチウム	0.05	12.35
Zr ジルコニウム	0.08	22.84

資料 4

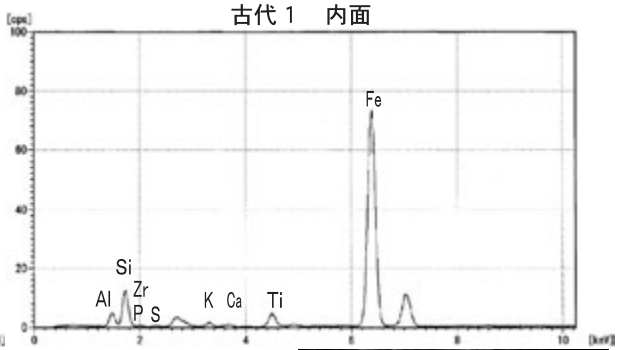
古代 1　外面



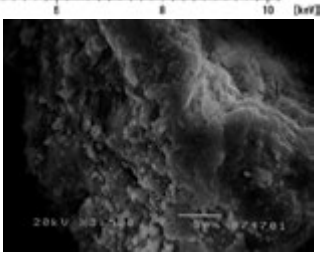
元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al アルミニウム	21.74	59.44
Si ケイ素	52.36	224.38
S 硫黄	0.17	2.15
K カリウム	2.10	29.55
Ca カルシウム	0.71	14.30
Ti チタン	2.72	95.84
Fe 鉄	20.15	1555.52
Sr ストロンチウム	0.07	9.37



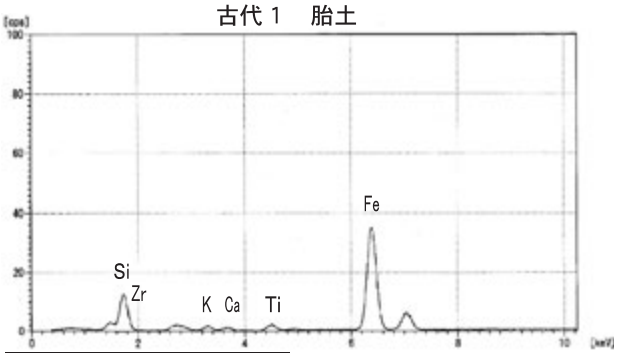
古代 1　内面



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al アルミニウム	24.97	75.35
Si けい素	47.75	216.22
P リン	1.27	7.65
S 硫黄	0.57	7.88
K カリウム	2.03	31.51
Ca カルシウム	0.78	17.39
Ti チタン	2.33	91.12
Fe 鉄	20.21	1738.73
Zr ジルコニウム	0.09	17.47



古代 1　胎土



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Si ケイ素	63.16	127.73
K カリウム	5.29	26.54
Ca カルシウム	2.66	18.02
Ti チタン	2.31	26.47
Fe 鉄	26.20	638.40
Zr ジルコニウム	0.38	18.67

分析方法

1　蛍光Ｘ線分析

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置(堀場製作所製XGT-1000, Ｘ線管球ターゲット：ロジウム，Ｘ線照射径100μｍ）を使用した。

分析条件は，次のとおりである。

照射径　　：100μｍ　　測定時間：100s

Ｘ線管電圧：50kV　　電流　　：700μA

定量補正法：ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾚｽ

2　電子顕微鏡観察

走査型電子顕微鏡（日本電子製ＪＳＭ-5300LV）を使用した。観察にあたっては，遺物表面の顔料の一部を削り取り，観察用の試料を作成した。

第7章　調査のまとめ

第１節　古墳時代～近世の上水流遺跡について

上水流遺跡は縄文時代前期から近世の複合遺跡である。今回は，その中で古墳時代から近世という本遺跡では比較的新しい時期について報告する。ここでは，上水流遺跡の当該時期について遺跡の概略を述べ総括に変えたい。

ここでは古墳時代としたが，厳密には弥生時代終末期にもかかる中津野式土器の頃から活動の痕跡が見え始める。前回報告分にかかる弥生時代には明確な遺構のなかった本遺跡であるが，中津野式土器の時期には土坑などがみられるようになる

布留式土器を模倣した土器，丸底甕なども出土しており注目される。

また，東原式土器の時期には１基のみ竪穴住居がつくられているが，この時点では長期的な生活は感じられない。

しかし，笹貫式土器の時期には，少なくとも10軒の竪穴住居跡が発見されており，全てが同時期ではないにしても，いわゆる「集落」の様相を呈することになる。この住居跡からは，初期須恵器の「把手付鉢」「甕」，古式須恵器の「器台」が発見されており，おおむね５世紀中頃の時期が想定される。通常の集落では，把手付鉢はまだしも，器台が発見されることは少なく，注目すべき事例である。

また，この集落では竪穴住居内で簡易な鍛冶を行っていた可能性がある。そのことは，竪穴住居の床面および住居周辺から集中して発見された棒状礫に，敲打と被熱の痕跡がみられることから推察されるものである。

この成果は，今後の竪穴住居跡の調査にも参考となるものとなった。

古代には，隣接するといっても過言でない近距離に位置する須恵器窯「中岳古窯址群」産の須恵器が多く出土している。当該時期の明確な遺構は発見されていないが，後述する中近世のピット群と掘立柱建物跡の中には，古代に属するものが含まれている可能性がある。特に，柱筋が整っており，ほぼ東西南北軸に沿っている掘立柱建物跡2などは古代的な建物であるので注意する必要がある。ただし，古代の遺物はＡ～Ｃ－5～7区とＭ～Ｔ－5～8区に集中する傾向があるのでここでは可能性に留めておく。

遺物は中岳産須恵器以外に，土師器，緑釉陶器などが発見されている。この他に，中近世の遺構内も含めると，筑後国府周辺でしか生産されない「削り出し高台」を持つ土師器椀や，東海系の灰釉陶器なども発見されていることから，幅広い交易・交流が行われた可能性がある。

中近世は，その時期を代表して出土する遺物の様相からおおむね６時期にわけられる。

①　11世紀後半～12世紀中頃の時期の玉縁「白磁椀」（碗Ⅳ類）と口禿皿（皿Ⅳ類）

②　持躰松遺跡とほぼ同時期の，12世紀後半～13世紀初頭の中国竜泉窯系の劃花文「青磁椀」

③　13世紀中頃以降の竜泉窯系の蓮弁文「青磁椀」，東播磨系須恵器

④　14・15世紀頃の元・明の「青磁」「白磁」

⑤　15・16世紀頃の景徳鎮産および漳州窯産の「青花」

⑥　16世紀末～18世紀初頭の「肥前系陶器」，「初期薩摩焼」（および朝鮮系陶器など）

これらを概観すると，一見中世から近世にかけて連綿と遺物が出土しているようにみえるが，実は断続的である。特に，④の「元・明」の時期は「元寇」などの影響もあって公的な貿易が途絶えている時期であるので注目されよう。

②・③の時期は樺万丈（樺万城）産とみられる須恵器（美濃口1997）がみられる(註１)。樺万丈は13世紀前半が下限とされている。また同時期か少し遅れた頃とみられる山形タタキのみられる産地不明須恵器もみられる。

⑤の時代は，眼前に存在した阿多城に島津運久が入城した時期とも重なる。また，島津忠良が加世田を攻略する際に本遺跡付近から出ているので，関連する可能性もある。

また，時期は明らかではないが，遺構は，大型溝状遺構をはじめとして，31棟の掘立柱建物跡，２基の竪穴建物跡，23基の炉状遺構，大型土坑，18基の土坑墓，集石状遺構，34条の溝状遺構など多くの遺構が検出された。特に，掘立柱建物を構成していたと考えられる柱穴状遺構（ピット）が数千個発見されており，何度も建て替えがあったことが想定される。

この中で，大型土坑に類似した土坑は上加世田遺跡でも発見されている。「大型円形掘り込み」と呼ばれている略円形の遺構で，規模は平面が7.5m×6.7m，深さ4.8mである。遺構内からは，13世紀頃とみられる蓮弁文の青磁椀が出土している（加世田市1987）。大型土坑は５基発見されたが，そのうち２基は溝状遺構につながるものである。このような状況を呈する遺跡の類例を求めたところ，宮崎県の樺山・郡元地区遺跡（三股町）で類似した状況がみられた。平野部の河川沿いに立地する12～17世紀の遺跡で，その中で「暗渠状遺構」とされるものが類似する。区画溝の可能性のある溝状遺構がいくつもみられるのもよく似た状況である。また，近くには島

津初代忠久が２年間住んだとされる祝吉御所跡がある。この遺跡は平野部の交易にもかかわる居館か拠点集落であた可能性がある。本遺跡についても同様な性格を考慮すべきであろう。

そのほかに，鍛冶に関係するとみられる遺構（炉状遺構の一部を含む）が発見されている。これらは，上水流遺跡は単なる生活の場としてだけでなく，ある程度の生産の場でもあったことが想定される。簡易な鍛冶や銅製品の加工なども行われていたことが，大量に出土する鉄滓や緑青の付着した「とりべ」の存在からも窺われる。さらに，河川の交通の利便性を背景とした交易も行われた可能性も考えられる。

古銭も，土坑墓を中心として出土している。他の遺跡と比較して（池畑2006）加治木銭の証である背面に「治」の字のある洪武通宝が多く出土しており，遺跡の性格を考えさせる資料である。

さらに最も注目すべきは⑥の時期である。この時期の終わり頃の享保10（1725）年には，阿多新田川がつくられる。阿多新田川は，地元では御新田川用水路と呼ばれる用水路で，南九州市川辺町田部田から引いて南さつま市白川で川を横断して南さつま市宮崎まで引き，堀川に落とす灌漑用水路である。現在の総延長は，10.819㎞で灌漑面積は200haに及ぶ。実は，この阿多御新田川のつくられた時期と，本遺跡出土遺物の下限の年代がほぼ一致する。特に，万之瀬川に対してほぼ直角に流れ込む「大溝」内から出土した遺物にその傾向が強い。これらの遺物は，17世紀後半頃の堂平窯産の初期薩摩焼（註２）・17世紀後半～18世紀初頭の肥前系陶磁器（註３）などである。また，18世紀後半以降の遺物は遺跡全体をみてもほとんど存在しない。この「大溝」は直接万之瀬川に注ぐことから，水害時には逆流した可能性が高い。それでも，上水流遺跡に住み続ける必要性があったのであろう。その後，河川に並行した自然堤防上に位置する上水流遺跡に住んでいた人々は，用水路が完成したことで花瀬の台地上へと移り住んだのではないかと考えられる。つまり，用水路が完成したことで，遺跡周辺に存在していた湿地への水のコントロールが可能となり，周辺を耕地化することが可能となったことで，耕作の適地である上水流遺跡についても耕地化の波が押し寄せてきたのではなかろうか。そのことは，渡畑遺跡において，「御新田開発によって住民が強制移住をさせられた」という伝承が残っている（金峰町1987・1989）ことからも，上水流遺跡で同様のことが行われた可能性は高いと考えられる。

以上のことから，上水流遺跡の人々は，阿多御新田川の完成を期に，水害の危険性の高い「大溝」を埋めて耕地化し，花瀬台地に移住したと考えたい。

また，この時期は「享保の唐物崩れ」と呼ばれる密貿易の取りしまりがあった時期で，その後山川港に港が集約されていく。これらの様々な状況が遺跡衰退の要因となったのであろう。

ところで，３号炉状遺構は，大溝の底面から20㎝程度上面で検出されたことから，大溝が本来の目的で使用されなくなり，若干埋まった頃に構築された可能性が考えられる。この遺構を埋めた埋土中から，近世の遺物が出土していることから，本遺跡に住んでいた人々が花瀬の台地に移る直前に構築した可能性がある。

その後は，氏神でもあり，小字名ともなっている「森山」（通称モイドン）が残るだけとなった。ちなみに，このモイドンを祀っている一族は，実際に現在も花瀬台地に住んでいる。

ちなみに，モイドン周辺には土坑墓がみられる。これらは基本的に木棺墓で，六道銭は大きく「洪武通宝」と「寛永通宝」にわかれる。埋葬方法をみると，膝を強く腹部につけた屈葬で，形質的にはたくましい体つきのものを含む。これらは，中世的な様相であるが，寛永通宝も含むので，おおむね中世末～江戸時代はじめ頃の墓であろう。また，掘立柱建物も近くにあることから，いわゆる「屋敷墓」であるといえる。また，遺跡内にはやや後続する様相を持つ「桶墓」が発見されているが，これらは建物群とは分布を異にしており，屋敷墓とは考えにくい。なお桶墓からは４号土坑墓で古銭の小破片が出土しているほかは六道銭らしきものは出土していない。

これらのことから，モイドンは屋敷墓と関係する可能性があり，また後続する「桶墓」は屋敷墓とは対照的なものの可能性が考えられる。このことから，年代が確実ではないが，「木棺墓」から「桶墓」への流れが18世紀初めまでの間でとらえることが可能な遺跡である。

本遺跡は，昭和13（1935）年の万之瀬川の改修工事と，平成の「中小河川改修」工事まではほぼ手つかずとなったことになる。

【註】

１　一般には樺万丈とされていることが多いが，字名は「樺番城」が正しいという。ただし，ここでは通例の名称を踏襲することとした。

２　おおよそ堂平の２期を主とする。ただし，朝鮮陶器の可能性のあるものと，串木野窯産の可能性のあるものも含むので，さらに古い時期（16世紀代）のものも含まれる可能性がある。

３　この時期の肥前系陶磁器は広域流通していないとされてきたが，近年当該時期の大生産地が発見され見直され始めている。なお，本遺跡では多種多様なものが出土した。

【参考文献】

池畑耕一2006「南九州における中世出土銭の特質」『平成18年度鹿児島考古学会研究発表会』レジュメ

金峰町郷土史編さん委員会1987・1989『金峰町郷土史』上・下巻

加世田市教育委員会1987『上加世田遺跡－２』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

美濃口雅朗1997「樺番城窯跡の中世須恵器(1)」『肥後考古』第10号　肥後考古学会

（上床　真）

第2節　古墳時代のまとめ

（１）遺構・遺物について

弥生時代終末から古墳時代の遺構としては，まず11軒の竪穴住居跡（以下，号住と略す）を挙げることが出来る。検出は，まず土器の小破片が多量に広がり，これらを取り上げつつ掘り下げると遺構のプランを確認することが出来た。形態的には，方形プランで床面積には16㎡級と30㎡級とがある。床面は硬化しているものが大半で，中央部分の硬化が著しいものも見られた。また，南壁中央部分に土坑を伴うものも見られる。柱穴にも，底面に粘土を伴うものとそうでないものの２種類があるが，前者は５号住と６号住の主柱穴にしか見られない。９号住では，上下２枚の硬化面が確認出来たが，上下間で遺物が接合するために時間差はさほど存在していなかった可能性がある。

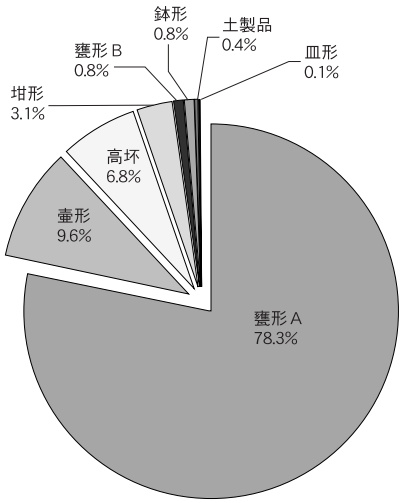
住居跡内遺物として特筆すべきは，まず須恵器があろう。３号住と10号住とで見られ，成川式土器様式では口縁部の特徴などから辻堂原段階から笹貫段階が伴っている。近年，吹上小中原遺跡や尾ケ原遺跡などで竪穴住居跡内一括資料として須恵器と在地土器とが出土している事例があり，これらもあわせて成川式土器の広域的な位置付けが可能となって来るであろう。第６章６節において，三辻利一氏によって産地同定を行っていただいたが，明確な産地を同定することはできていない。陶邑編年で述べると，把手付鉢が器台よりやや古く，器台についてはＴＫ208が想定される。いずれにせよ，出土状況も含めて詳細な時期については今後の検討課題である。

次に，床面あるいは土坑内から出土した生粘土を挙げておきたい。遺構内埋土は砂質土を主体としているために，この検出は比較的容易に行えた。床面から出土する例が多いが，埋土中にも若干浮遊していた。硬化面ブロックも浮遊してみられたが，両者の区別も容易である。用途に関しては分析等は行っておらず不明であるが，都城市馬渡遺跡では，出土土器の胎土と比較し，両者は異なる成分結果が提示され，その結果土器作り以外の用途を指摘している（柔畑2004）。当遺跡においては，事例の増加と分析手法等の検討が課題として残され，今後機会を見て取り組むべき内容である。

次に，棒状礫の集中が６号住と８号住とで見られた。包含層中においても１基が確認されているが，これについては後述する。

次に，２基のピット内一括資料がある。在地系の土器は，口縁部が外反し工具痕を明瞭に残す特徴から，中津野式土器に該当する。これと共に，器壁が薄くケズリを多用する甕が出土している。外面にはハケメが短く丁寧に施され，底部は丸底を呈するものと思われる。ただし，胎土等は在地の土器と類似しており，外来土器の模倣である可能性が考えられる。しかし，両者が時期的に近い可能性を示す貴重な一括資料である点は注意しておきたい。

次に，包含層出土遺物についてみていきたい。下の図



第202図　包含層出土遺物内訳

は，包含層中の各形式別の出土割合である。これで見ると，甕形と壺形とで８割を占めているが，大型品のため欠損すると自ずと点数が増加することに由来することも考慮して考えなければならない。

甕に関しては，内外面に使用痕を顕著に残している資料がある。甕形本来の用途は煮炊具と考えられることは疑う余地もない。ここでは，土器に残された煮炊きの痕跡，すなわちスス・オコゲ・赤化現象・使用による摩滅などの視点から成川式土器を見てみたい。なお，ここで用いる成川式土器は，中津野段階から笹貫段階までを包括している総称と理解していただきたい。成川式土器に関して，使用痕の視点から論究している事例は少ないが，報告書を中心として観察に基づいた重要な指摘がなされている。長野眞一氏は，保養院遺跡出土の土器について，「煤は胴部下部から口縁部にかけて付着し，それ以下は付着は見られない。また，付着の見られない下半部は鮮やかな赤褐色で著しく亀裂が見られ，加熱したことを伺わせる」として煤の範囲をスクリーントーンを用いて示している（長野1994）。次に，成川式土器を幅広く論究している中村直子氏は，甕形土器内面の摩滅状態から「外面突帯付近」まで内容物を入れていた可能性を指摘したうえで，「外面が火によって赤変している部分の内面は，黒く焦げ付いているものが多い」ことを指摘している。さらに，台付き鉢や壺形土器に見られるススの付着が底部からサイズに関係なく同じ高さであることを述べている（中村2005）。西園勝彦氏は，「ススの着く（ススの着くことが予想される）箇所を薄く仕上げ，ススの着かない（着くことがなかったであろう）箇所は一様に器壁が厚い傾向」を指摘し，さらに，「これらは甕形土器の使い方・火のかけ方を反映」している可能性を述べている（西園2005）。これは，使用するために土器を製

作するという視点に立ったものである。

当遺跡の資料について見ていきたい。スス等の痕跡に関しては，図面上に一点鎖線で示した。遺構内・包含層資料含めて口縁部から底部までほぼ残存している資料が12点あり，外面にススなどの痕跡がある資料が４点，内面のみが１点，内外面共にある資料が６点，無し１点が確認された。この内，内外面共に痕跡のある資料で両者の境界線が近接している資料として，第67図12・13等は特に顕著で，底部から12～15㎝上位にススとの境界線が見られるという共通点がある。

次に特筆すべきは，大枠で手捏ね土器に分類した匙形土製品であろう。当遺跡からは，竪穴住居跡内や遺物包含層中から匙形土製品が出土している。これらは広義の手捏ね土器に含んで報告を行ってきた。この匙形土製品についての全国的な研究史は，大野薫氏によってまとめられている（大野1989）。氏が指摘するように，これらの事例に関する論考は極めて少ない。しかし，古くから注目されてきた遺物の1つでもあった。本県における研究及び報告事例について紹介していきたい。本県で匙形・杓子形土製品が出土したのは金峰町高橋貝塚が初出である。報告を行った河口貞徳氏によると，パイプ形土器と呼ばれ報告がなされている（河口1963）。周辺から出土している土器などから，弥生時代前期に位置付けされた。出口浩氏は，姶良町萩原遺跡報告書の中でミニチュア土器を考察し，匙形・杓子形土製品についても言及している（出口1978）。出口氏によると，「杓（スプーン形土製品）」は模造品であり，これらも含めて祭具として位置付け，「全国的に見ても画一化された共通的なもの」とまとめている。加えて，「出土状況は第Ⅲ層出土のものが大半を占め（中略）どのような場所において祭具として使用したか不明」と指摘している。東和幸氏は，遺構の性格を考察する中で，「木ノ実の利用にかかわる短期間使用の施設」とする根拠の１つとして杓子形土器の存在を挙げている。つまり，祭祀などの精神文化的使用ではなく，実生活に必要な道具としての位置付けを想定しているようである。また，杓子形土器そのものに関しても言及しており，「杓子形土器は金峰町高橋貝塚ですでに弥生時代前期に存在しており，辻堂原遺跡では確認されていないので，東原遺跡出土土器の段階が転換期であると予想」している（東1992）。ここで，「転換期」と表現されているが，これが土製品から木製品への転換なのか，あるいは土製品の製作が行われなくなったという意味なのかはっきりとしていない。なお，匙形土製品は，沖縄の貝塚時代後期でも認められている。新里貴之氏によると，「大当原式段階以降，土製品のバリエーションは若干増加するが，ヤコウガイ貝匙を模倣した土製品」を挙げ，「ヤコウガイ貝匙の製作にあたってのコピーかモデル，あるいは祭祀具の可能性」を指摘している。しかし，本土との関連性は低く，新里氏も「系統的に製作された土製品の存在は認められず，（中略）土製品は伝統的な道具ではない」としている（新里2004）。このように，本県においても細かく論究されているとは言い難く，ひとえにこれは出土事例の少なさによるものであると思われる。その一方で，宮崎県地方では弥生時代後期の資料が多い傾向がうかがえる。

出土事例としては，表26に示したが，現段階では薩摩半島に比較的多く出土している傾向にあるようである。また，外川江遺跡や上水流遺跡などの河川に隣接する遺跡の竪穴住居跡埋土中からまとまって出土するという事例が認められる。竪穴住居に関連するものであるならば，普遍的に出土しても良いはずであるが，一部の遺跡で埋土中に破片の状態でしか出土していない。このことは，遺物廃棄場として竪穴住居跡が選択されたに過ぎないことを意味しているのでは無かろうか。現に，西船子遺跡では，溝状遺構内から出土しておりその可能性を補強する。いずれにせよ，遺物としての特殊性は認められつつも，出土状況などからは祭具としての可能性を指摘するには至らない現実がある。今後に検討の余地が残る。だが，分布については薩摩半島に集中しているようであり，宮崎地方と異なり，時期的には古墳時代後半期まで出土している点も確認することが出来た。今回紹介した匙形土製品は，広義の手捏ね土器であり，今後はこれらとの関係についても検討を重ね，より詳細な実態を解明していく必要があろう。

石器に関しては，弥生時代との区別が出来ず，昨年度刊行分に掲載している可能性もある。だが，遺構内からはほとんど石器は出土しておらず，今後に検討課題として残さざるを得ない。この中でも，被熱を受けわずかに敲打痕などが観察される棒状礫は注目すべき資料である。これらについては次で述べたい。

表26　匙形土製品出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地
1	宮之前遺跡	指宿市西方宮之前
2	西船子遺跡	鹿児島市喜入瀬々串
3	中原田遺跡	枕崎市東鹿籠
4	上水流遺跡	南さつま市金峰町
5	辻堂原遺跡	日置市吹上町中原
6	大龍遺跡	鹿児島市大竜町
7	松尾平遺跡	いちき串木野市大里
8	成岡遺跡	薩摩川内市中福良町
9	外川江遺跡	薩摩川内市五代町西外川江
10	麦之浦貝塚	薩摩川内市陽成町
11	萩原遺跡	姶良郡姶良町平松
12	春花遺跡	姶良郡姶良町船津
13	本御内（舞鶴城跡）遺跡	霧島市国分
14	四方高迫遺跡	吾平町上名
15	鳥ノ巣遺跡	肝属郡錦江町

【引用・参考文献】
大野薫　1989「匙形土製品小考」『大阪文化財論集』（財）大阪文化財センター
河口貞徳　1963「鹿児島県高橋貝塚発掘概報」『九州考古学』第18号　九州考古学会
小林康男　1981「縄文・弥生の匙形土製品」『信濃』第33巻第７号　信濃史学会
佐原真　1996『食の考古学』東京大学出版会
新里貴之　2004「沖縄諸島の土器」『考古資料大観』第12巻　小学館
角南聡一郎　2001「四国の匙・杓子形土製品」『旧練兵場遺跡』善通寺市・(財)元興寺文化財研究所
出口浩　1978「（７）小結」『萩原遺跡』姶良町埋蔵文化財発掘調査報告書
中尾佐助　1972『料理の起源』日本放送出版協会
長野眞一　1994「第３章　調査の概要」『保養院遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（11）鹿児島県立埋蔵文化財センター
中村直子　2005「古墳時代の遺物について」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
西園勝彦　2005「第Ⅵ章　発掘調査のまとめ」『山下堀頭遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（92）　鹿児島県立埋蔵文化財センター
東和幸　1992「第Ⅳ章２．掘り込み」『鳥ノ巣遺跡（他６遺跡）』大根占町埋蔵文化財発掘調査報告書（５）大根占町教育委員会

（黒川忠広）

（２）古墳時代の棒状礫について

当遺跡からは，Ⅲa′層中及び竪穴住居跡内から棒状礫が集中して検出されている。このような遺構あるいは状態に関して，南九州においてわずかではあるが確認されており，ここでまとめてみたい。

鹿児島県下で確認されている遺跡を表27に示した。古くは，辻堂原遺跡の48号住居で，「河原石として６点余りがまとまっている」と記述され写真が掲載されている柔当遺跡の上流に位置する川辺町古市遺跡では，３号竪穴住居跡の埋土中から20点余り棒状礫が出土している。また，宮崎県においても都城市坂元Ｂ遺跡や延岡市吉野第２遺跡などにおいても出土している。都城市坂元Ｂ遺跡を報告した柔畑光博氏は，「特別な加工痕の認められない自然礫が10点ほど出土」し，「これらはすべて重さ1.4～２kgの中に収まる」とデータ分析を実施している（畑2006）。吉野第２遺跡を報告した日高広人氏は，「10～15㎝規模の棒状の砂岩礫が10数点認められる。そのうちの１点については，敲打痕が認められるが，他のものには使用痕や加工痕等は認められなかった」と述べている（日高2007）。また，中村直子氏は「住居跡床面に，ほぼ同じ大きさの河原石を複数個まとめて置いている遺構も確認されている」と注意を払っている（中村2006）。

表27　棒状礫出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構名称等
1	上水流遺跡	南さつま市金峰町花瀬	６号住
			８号住
			包含層集積
2	古市遺跡	南九州市川辺町	３号住
3	堂園遺跡Ｂ地点	南九州市川辺町神殿	住居内
4	辻堂原遺跡	日置市吹上町花熟里	48号住
5	鹿大構内遺跡	鹿児島市郡元町	
6	永野原遺跡	肝付町(高山町)後田永野原	１号住
			２号住
7	保養院遺跡	姶良郡姶良町平松	５号住
			包含層集積２基
8	軍宮下遺跡	鹿屋市吾平町上名	13Ｔ包含層集積

はじめに，当遺跡の棒状礫の概要を述べておきたい。上水流遺跡出土の棒状礫は，周辺で比較的容易に獲得できる頁岩系の石材が大半を占め，その名称の通り棒状を呈する。その長さと重量は，表１・２の通りである。これで見ると，長さは13～15㎝，重さは400～500ｇに分布が集中する。また，感覚的に握り易く両端に敲打痕が認められる資料もある。だが，その数は総出土点数に対して25％と決して多くはない。このことから，厳密に全てが敲打具であるとは言い切れない部分もある。このような状況であるが，敲打を有する資料について，敲打の角度は，敲打痕を有する部分が比較的平面を形成しているため，振り下ろす敲打と言うよりは，むしろ，上から潰すような敲きが多かったという可能性も考えられる。また，敲打面がわずかながら赤化しており，高温の状態のものを対象物としていた可能性もある。

ここで，川辺町古市遺跡資料を参照したい。表28は，長さと重さについて示したものである。この表から当遺跡の傾向と近似していることがわかる。残念ながら他の遺跡資料についてデータを作成するには至らなかったが，棒状礫の集中には目的があった点を指摘することが出来よう。加えて，これらの棒状礫は全体的にトロッとして光沢を持つものが多い。これは，直接手で握ると言うよりは，むしろ手袋や革などを介して握り敲打を行っていたとは考えられないだろうか。

さて，棒状礫の用途について述べるにあたり，先述した敲打面の赤化現象に注目したい。礫素材のもので赤化現象が見られるのは，他に，７号住出土の台石があり，その中央部分には赤化現象が看取される。このような事例としては，高山町永野原遺跡が挙げられよう。ここでは，鉄砧石としての台石や鉄滓あるいは高坏転用羽口などが出土し，「鍛造による小規模な鉄器生産」が指摘され，「敲石・台石などを鍛冶具として使用する弥生時代的鉄器生産形態」であるとしている（角南2000）。当遺跡では，肝心の鉄滓などの資料は出土していない。これは，調査段階での視点の欠如であり，竪穴住居跡内埋土のふるいがけは実施しているが，磁石等によるサンプ

表28　古市遺跡２号住居内出土礫

番号	重量 (kg)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	備考
1	0.22	13.1	5.7	2.9	
2	0.46	13.1	7.0	4.5	
3	0.27	14.5	4.2	3.6	
4	0.56	16.8	6.7	5.2	
5	0.42	14.2	6.0	3.9	
6	0.44	15.2	5.8	4.2	
7	0.34	13.2	6.2	3.3	
8	0.30	13.6	5.0	3.4	
9	0.38	14.2	5.5	3.9	
10	0.44	13.7	6.8	4.3	
11	0.48	13.0	7.0	4.0	
12	0.40	13.3	5.6	3.6	
13	0.64	15.8	5.8	5.2	
14	0.22	13.2	3.4	3.3	
15	0.40	13.7	4.0	2.9	
16	0.42	14.7	4.7	2.5	
17	0.20	10.3	4.5	2.4	
18	0.56	13.9	6.5	6.1	
19	0.30	16.5	5.1	2.2	
20	0.70	19.5	6.1	3.4	

リングを実施していないという点に尽きる。今後，調査の視点として留意して行かなくてはならない。事実，５号住からは摘鎌も出土しており，古墳時代における鉄器生産の視点も視野に入れながら棒状礫を捉えて行かなくてはならないであろう。また，各住居跡には焼土が検出されている。屋内炉の可能性を想定しながら調査・報告を行ってきたが，２号では２箇所に，４号では著しい赤化現象が確認できている。これらの現象についても，１つの可能性に限定せずに幅広く捉える必要があるのかも知れない。

鹿児島県内における古墳時代の製鉄遺跡というと，先に挙げた高山町永野原遺跡や指宿市尾長谷迫遺跡が著名であるが，検出例は極めて少ない。さらに，尾長谷迫遺跡は笹貫段階に属し６世紀代が想定されている。当遺跡の資料は，笹貫段階を含んではいるものの笹貫段階でも比較的古い様相が残っている。幸いなことに須恵器が伴っており，これらの資料から見ると５世紀後半代であると思われ，製鉄や鉄器などを中心に考察を行う上では極めて重要な資料になると思われる。これらの点に関しては，川辺町堂園遺跡でも類似する事例が確認されており，類例の増加が期待出来る。

さて，ここで注目したい遺物がある。８号住出土の砥石である。横軸断面観が台形状を呈し，各面に長軸方向への擦痕が認められ，素材中央部分に向かって薄くなる点は，鉄を対象とした砥石である可能性が考えられる。この石材は，いわゆる天草砥石であり，近隣では吹上町辻堂原遺跡で出土例がある。報告の中で池畑耕一氏は，「砥石は荒砥，中砥，仕上げ砥と三種みられ鋼鉄の可能性や原産地との交流関係にも注目」が必要と指摘している（池畑1977）。時期は下るが，金峰町小中原遺跡で

表29　天草砥石出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時代			
			古墳	古代	中世	近世
1	上水流遺跡	南さつま市金峰町	●			
2	持躰松遺跡	南さつま市金峰町			●	
3	小中原遺跡	南さつま市金峰町		●		
4	辻堂原遺跡	日置市吹上町	●			
5	下永迫Ａ遺跡	日置市伊集院町		●		
6	城下遺跡	薩摩川内市百次町城下				●
7	上野城跡	薩摩川内市百次町上野				
8	計志加里遺跡	薩摩川内市中郷町		●		
9	大島遺跡	薩摩川内市東大小路町		●		
10	成岡遺跡	薩摩川内市中福良町	●			
11	大坪遺跡	出水市黄金町・美原町		●		
12	小山遺跡	鹿児島市吉田町			●	

は古代の出土例があり，薩摩川内市周辺では，計志加里遺跡や大島遺跡など古代から中世にかけての遺跡で出土している。このように，天草砥石及びその可能性のある資料は，薩摩半島に多い傾向がうかがえ，時期的な問題も含めて今後検討して行かなくてはならない資料と考えられる。

以上，当遺跡資料を基に類例を検討し，極小規模な製鉄に関連する遺物の可能性を指摘することが出来た。このような棒状礫は，意外にも該期の竪穴住居跡内から出土しているようである。明確な使用痕などの確認が困難であるなどの理由からその位置付けについては不明の状態が続いていた。今回，１つの可能性を指摘することが出来たが，これを検証するためにも，小鉄片の採取法など調査中に取り組むべき課題も示すことが出来た。今後，その他の可能性も視野に入れながら検討を重ねていきたい。

最後に，村上恭通氏には遺跡の性格付けを左右する重要な御教示を得ることが出来た。末筆ながら感謝したい。

【引用・参考文献】

池畑耕一　1977「第５章遺物」『辻堂原遺跡』吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

柔畑光博　2006『坂元Ａ遺跡ほか』都城市文化財調査報告書第71集

角南聡一郎　2000「Ⅳ小結」『永野原遺跡』高山町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）

日高広人　2007「第３節古墳時代」『吉野第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書（155）

中村直子　2005「古墳時代の遺物について」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

中村直子　2006「第４章　古墳時代」『先史・古代の鹿児島遺跡解説（通史編）』鹿児島県教育委員会

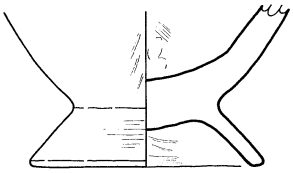
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2005『古市遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（89）

（黒川忠広）

第３節　上水流遺跡における種子圧痕

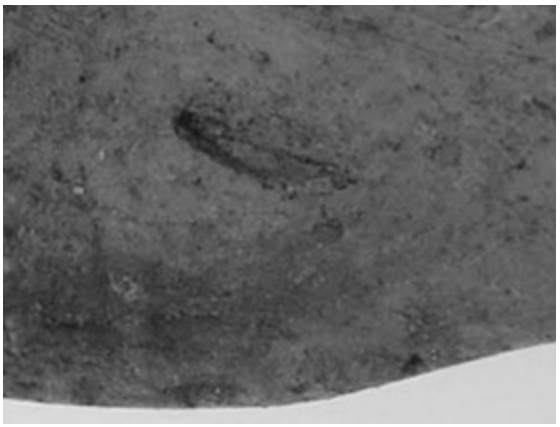
今回の整理作業において，籾や種子の圧痕を有する土器が５点確認された。そのうち２点は第３章で紹介している住居内遺物である。その他の３点は本報告書では図化していない。ここで写真とともに紹介したい。写真は圧痕のレプリカを作成し，電子顕微鏡で撮影した。レプリカ作成，顕微鏡写真撮影には永濵功治氏の協力を得た。

１　10号住居内遺物（第51図 14）

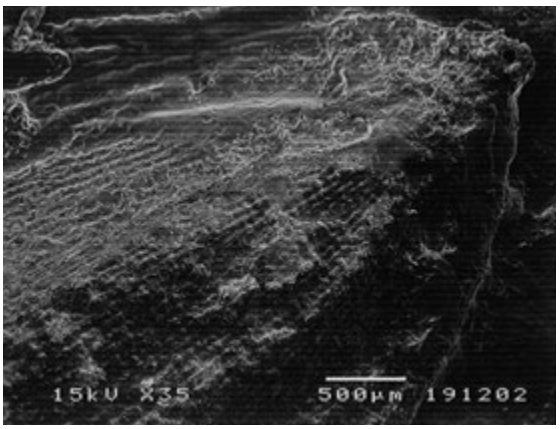


第203図　14の土器実測図

甕形土器の脚部内面に長さ約８㎜の籾痕を有する。顕微鏡写真では籾特有の顆粒状の粒が観察できる。

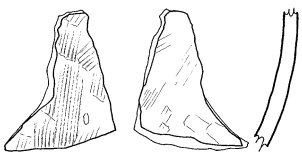


図版44　14の圧痕部分拡大写真



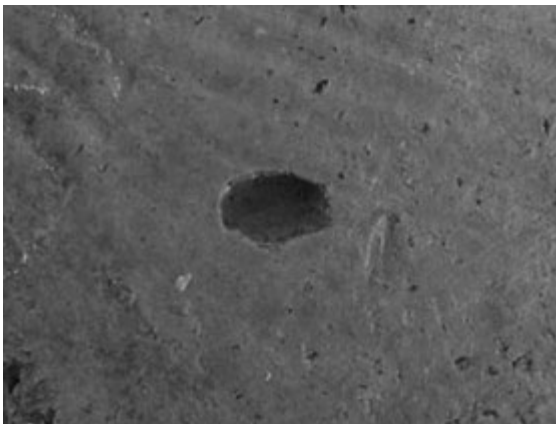
図版45　14のレプリカ電子顕微鏡写真

２　2号住居内遺物（第13図 4）

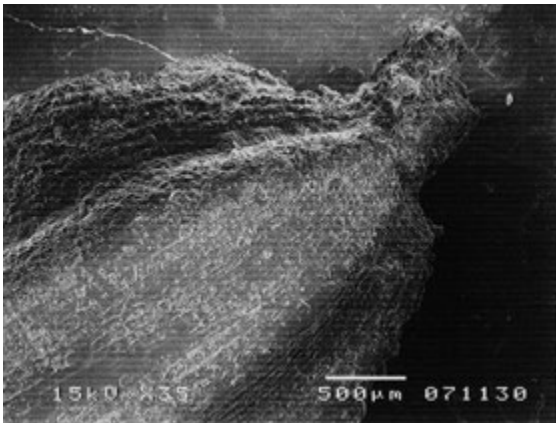


第204図　4の土器実測図

甕形土器の胴部外面に長さ５㎜程度の籾痕を有する。顆粒状の粒と、先端部分がよく観察できる。写真は先端部を拡大したものである。



図版46　4の圧痕部分拡大写真

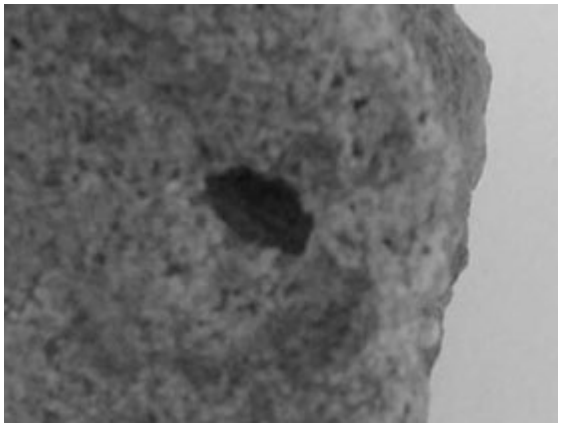


図版47　4のレプリカ電子顕微鏡写真

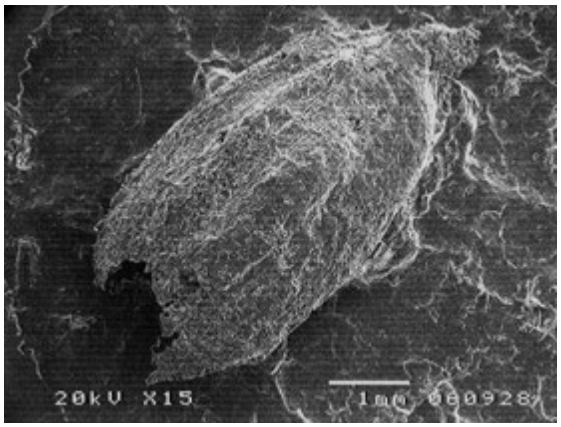
３　その他の資料

（１）圧痕資料１

Ⅱ層出土の成川式土器である。脚を有する甕形土器の底部であると考えられる。内面に長さ６㎜程度の圧痕が認められる。レプリカの顕微鏡写真による全体的な形状や表面の起伏の状況からみて籾痕であると考えられる。



図版48　圧痕資料１の圧痕部分拡大写真

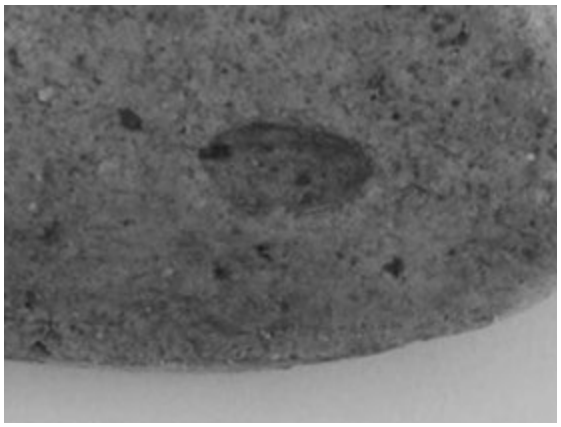


図版49　圧痕資料１のレプリカ電子顕微鏡写真

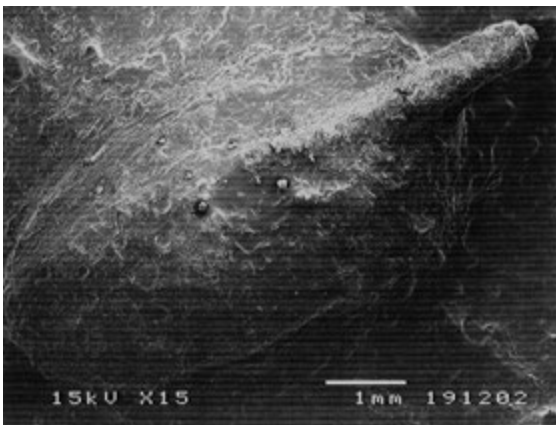
（２）圧痕資料２

一括取り上げ資料である。全体的に摩耗している。古墳時代の高坏の脚部であると考えられる。外面は赤色顔料が塗布されており，胎土には赤茶色の粒が含まれている。

圧痕の先端には棒状の突起が観察されるがこれが何かは明らかではない。



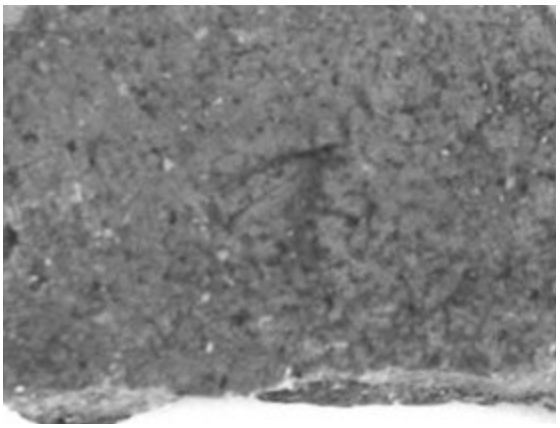
図版50　圧痕資料２の圧痕部分拡大写真



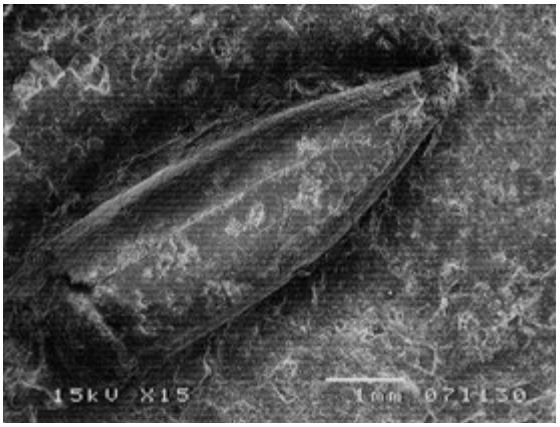
図版51　圧痕資料２のレプリカ電子顕微鏡写真

（３）圧痕資料３

Ⅳ層出土の成川式土器である。外面に長さ約７㎜の種子圧痕が確認できる。先端部が尖り，表面の起伏は乏しい。具体的に特定することができなかったが，何かの種子痕であろう。



図版52　圧痕資料３の圧痕部分拡大写真



図版53　圧痕資料３のレプリカ電子顕微鏡写真

第４節　籾圧痕から見た南九州における初期農耕の様相

（１）はじめに

本遺跡において古墳時代の遺物中に籾圧痕を有すると考えられる土器が３点認められた。万之瀬川流域においては本遺跡下流にある持躰松遺跡において弥生時代後期～終末期にかけての甕型土器に籾圧痕と思われる圧痕が２点確認された。本節では籾痕を有する土器の出土状況から南九州の初期農耕の様相を考察したい。

（２）籾痕を有する土器について

土器の製作過程で何らかの原因で焼成前に籾が付着し，その圧痕が残ったものと思われる。籾痕は口縁部，胴部，底部など土器のあらゆる部位に付着している。戦前からその存在は知られており，弥生時代農耕開始論を補強する資料として取り上げられてきた。しかし発掘調査の増加に伴い，籾痕を有する縄文時代の遺物も見られるよう

になった。イネは本来から日本にあった訳ではなく，このような籾痕が土器に存在するということは，その土器が製作される以前までにイネが伝播しているということがいえる。このような圧痕資料はイネの伝播ルート，農耕の開始時期，農耕の伝播の様相などを解明するうえでの格好の資料となりうる。

（3）南九州における籾痕資料

籾痕の資料は全国的に存在するが，南九州における籾痕の出土報告を調査した（表30）。調査は南九州地域の発掘調査報告書に基づいて行った。実測図，拓影，図版，観察表等の記述から，籾痕と報告されているものを取り上げた（註１）。報告書には籾痕の記述がなくとも拓影，図版等から籾痕を有する可能性がある遺物も見られたが，遺物を実見できなかったため今回は取り上げなかった。表示した遺物以外にも籾痕の資料が存在する可能性を指摘するにとどめたい（註２）。

籾痕は圧倒的に古墳時代に多い。今後縄文時代晩期から弥生時代にかけての資料が増加することによって南九州における初期農耕の様相を解明することが期待できる。現在までの資料からいえることの傾向について若干の所見を述べる。

都城市の遺跡を除いていずれの遺跡も標高60～130mの台地状に立地する。また，水田遺構等は確認されていないことなどから，これらの遺跡では陸稲農耕が行われていたと推測する。南九州内の水田遺構が発見された遺跡としては鹿児島市の鹿児島大学構内遺跡や薩摩川内市の京田遺跡などがあるが，いずれも標高が低く湿地である。このような一部の水田に適した場所以外は陸稲農耕が営まれていたのではなかろうか。水田を営むには水路や畦
が十分に確保できることなどの条件が整っていることがの設営などの大規模な共同作業が必要であることと用水必要である。しかしながら，南九州ではこれらの条件は整えにくかったのであろう。そしておそらくは水の確保がもっとも難しかったのではなかろうか。本遺跡においても10軒以上の住居跡が存在する集落遺跡にもかかわらず当時の水田耕作をうかがわせる遺構が検出されなかったことは，労働力不足以上に水の確保が難しかったことが推測できる。

また籾痕の分布状況を図１に示した。この図を見る限りでは地域的な極端な偏りは見られない。古墳時代までには南九州全域で営まれていたことが伺える。しかし弥生時代の籾痕となると薩摩半島と都城盆地周辺に限られている。資料数が少ないため現時点での即断は避けるが，今後の資料の増加にともない弥生時代の稲作の様相，稲作の伝播ルートが解明できることを期待したい。

分布状況に関してもう１点あげると，南九州本土においてはほぼ全域に分布すると考えられるが，南西諸島の遺跡からは籾痕が確認されなかった。しかし，報告書の図版等に種子痕らしきものが数点見られる。現時点では南西諸島における初期稲作農耕を伺わせる資料は確認できなかったが，これらの資料を精査することにより南西諸島の農耕の様相あるいはイネの伝播ルートについて重要な手がかりが得られる可能性もあることを指摘しておきたい。

（4）　圧痕の観察について

土器を観察し籾圧痕の有無を確認することは，ウォー

表30　籾痕出土報告書一覧

番号	遺跡名	市町村名(現)	時代	文献
1	坂本 A・B	都城市	弥　生	註3
2	黒　　土	都城市	縄文晩期	註4
3	上 中 段	曽於市	縄文晩期	註5
4	麦之浦貝塚	薩摩川内市	古　墳	註6
5	市 ノ 原	日置市	縄文晩期～古墳	註7
6	高 橋 貝 塚	南さつま市	弥生前期	註8
7	下　　原	南さつま市	縄文晩期	註9
8	持 躰 松	南さつま市	弥生後期	註9
9	上 水 流	南さつま市	古　墳	註10
10	上 加 世 田	南さつま市	弥生・古墳	註11
11	山 下 堀 頭	鹿児島市	弥生終末	註12
12	鹿 大 構 内	鹿児島市	弥　生	註13
13	中　　原	鹿屋市	古　墳	註14



図203　南九州籾痕分布状況

ターフローテーション法による遺存体の検出や植物珪酸体分析によるイネのプラントオパール検出より容易にイネの存在を確認できる手法であると考える。ただ筆者は籾痕を判断する際は肉眼だけに頼らず，レプリカを電子顕微鏡で観察した。かつて肉眼で籾痕と判断していたが実は籾痕どころか種子の圧痕でもなかったという経験があったからである。籾痕あるいは種子痕らしい資料については，今後レプリカを顕微鏡で観察した結果をふまえて報告することが望ましいと考える。これらの資料の蓄積から当時の生活環境や文化の伝播について多くの情報を得ることができると期待したい。

【註】

1　旧東郷町（現薩摩川内市）坂ノ下遺跡の報告書では籾痕を有する古代遺物が掲載されている。また旧下甑村（現薩摩川内市）大原・宮薗遺跡の報告書では時代不明であるが籾痕の図版が掲載されている。今回は　縄文時代～古墳時代の遺物を対象とし，古代あるいは時代不明のこれらの遺跡は取り上げなかった。また，計志加里遺跡（薩摩川内市）や上水流遺跡（南さつま市）では縄文時代晩期の土器片に種子圧痕が確認されたが籾痕と判断できなかった。

2　大口市大牟田遺跡報告書で縄文時代後期土器（西平式土器）の口縁部に種子圧痕らしきものを図版で確認した。

3　宮崎県都城市教育委員会2006『坂元Ａ遺跡　坂元Ｂ遺跡』都城市文化財調査報告書第71集

4　宮崎県都城市教育委員会1994『黒土遺跡』都城市文化財調査報告書第28集

5　末吉町教育委員会1985『上中段遺跡』末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（４）

6　川内市土地開発公社1997『麦之浦貝塚』

7　鹿児島県立埋蔵文化財センター2006『市ノ原遺跡（第５地点）』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(105)

8　河口貞徳1963「鹿児島県高橋貝塚発掘概報」『九州考古学』18　九州考古学会（後に『河口貞徳先生古希記念著作集』上巻　1981に再録）

9　鹿児島県立埋蔵文化財センター2007『持躰松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（120）

10　本報告書

11　加世田市教育委員会1985『上加世田遺跡１』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（３）　加世田市教育委員会1987『上加世田遺跡２』加世田市埋蔵　文化財発掘調査報告書（４）

12　鹿児島県立埋蔵文化財センター2005『山下堀頭遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（92）

13　第一次花熟里遺跡調査報告（『鹿児島考古』第５号）に「かつて鹿児島大学法文学部構内から発見された弥生式後期の土器に印るされた圧痕は籾痕である」という記述がある。

14　鹿児島県肝属郡吾平町教育委員会1985『大牟礼遺跡ほか３遺跡』吾平 町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）

【参考・引用文献】

1　鹿児島県大口市教育委員会2005『大牟田遺跡』大口市埋蔵文化財発掘調査報告書（24）

2　鹿児島県薩摩郡東郷町教育委員会2002『坂ノ下遺跡』東郷町埋蔵文化財発掘調査報告書（６）

3　金関恕＋大阪府立弥生文化博物館編1995『弥生文化の成立』角川選書

4　鹿児島県立埋蔵文化財センター2002『計志加里遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（38）

5　川口雅之2004「南九州における稲作文化と木製品」『月刊文化財』11月号

6　桒畑光博2004「照葉樹林地帯・シラス地帯の水田－南部九州－」『考古学ジャーナル』518号　ニュー・サイエンス社

7　下甑村教育委員会1974『大原・宮薗遺跡』1974下甑村教育委員会発掘調査報告書（1）

8　中沢道彦・丑野毅2003「レプリカ法による鹿児島県末吉町上中段遺跡出土籾痕土器の観察」『鹿児島考古』第37号　鹿児島県考古学会

9　広瀬和雄編2007『弥生時代はどう変わるか』学生社

10　河口貞徳・出口浩1972「第一次花塾里遺跡発掘調査報告」『鹿児島考古』第５号　鹿児島県考古学会

（富山孝一）

第５節　上水流遺跡の中世・近世の出土遺物について

上水流遺跡から出土した中世・近世の遺物は種類が多く特徴的な遺物が多い。ここでは，それらの全てについて述べることは不可能であるが，特徴的な資料について取りあげ，遺跡の特徴を浮き彫りとしたい。

本遺跡からは多くの輸入陶磁器が出土している。ここでは，おおまかな流れを示したい。

万之瀬川の中世遺跡として著名な持躰松遺跡はＤ期（13世紀前半）が主力であるが（第214図・第216図），本遺跡はＣ期・Ｄ期が少数でＥ期（13世紀中頃）以降が主力となり，特に陶磁器の量ではＥ・Ｆ期がメインとなる。Ｆ期の龍泉窯系青磁は，地方においては多い方である。Ｇ期（註１）も比較的多く，福建産の（泉州窯タイプ）粗製青磁椀・森田Ｃ類白磁・粗製白磁椀（無釉高台のもの）などのセット関係もみられる（註２）。

以下に時期ごとの様相をまとめる。

Ｃ期：白磁Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ類（少数）

Ｄ期：白磁椀Ⅶ類・ⅢⅢ－１類，青磁同安窯・龍泉窯系椀Ｉ類（少数）

Ｅ期：青磁龍泉窯系椀Ⅱｂ・Ⅱａ，陶器Ｉ・Ⅲ類，鉢Ⅵ・Ｉ－２類（施釉）

Ｆ期：青磁龍泉窯系椀Ⅲ類・坏Ｉ－１ａ，白磁Ⅸ－１・２類椀・皿

Ｇ期：白磁森田Ｃ類，青磁泉州タイプ・Ⅳ類大椀・小椀・皿

Ｈ期（15世紀）：白磁森田Ｄ類，青磁上田Ⅱ類・ＢⅡ・ＣⅡ・ＤⅡ・ＥⅡ（倣龍泉系青磁【土龍泉】）・倣建窯天目茶碗

16世紀：青磁上田Ⅲ・Ⅳ類，白磁森田Ｅ類，青花景徳鎮及び漳州窯椀・皿（，朝鮮産陶器？）

※　他に白磁壺Ⅲ類がＣ～Ｆ期のいずれかの時期のものである。

17世紀（16世紀末～18世紀初頭含む）：徳化窯系白磁

次に，国産のものをみてみたい。それらは，在地土器・東播磨系須恵器片口鉢（以下，東播系鉢）・備前の擂鉢（15・16世紀）・備前の大甕・備前を模した在地の瓦質土器擂鉢・瓦質土器羽釜・フライパン形土器（焙烙・炒り具）・初期薩摩焼（主は堂平窯産）・肥前系陶磁器（染付・陶器など）などがあり，多種多様である。

東播系鉢については，兵庫県の神出（神戸市）および魚住（明石市）の窯跡出土資料と実際に比較したところ，形態は13世紀代のものとほぼ同じであるが，粘土と釉薬

のかかり具合が全く異なるもので，神出・魚住のどちらのものでもないことが明らかになった。また，同様に甕についても同様にタタキとナデが全く異なることが明らかになった。この事実によって，本遺跡出土の東播系とされるものは産地不明であり，広義の「東播系」であるものの厳密な「東播磨産」ではないことがほぼ明らかとなった。今後，県内各地のものや西播磨・北播磨のものなどについても実見を行って再検討する必要があろう。

仏飯器も出土している。上田耕氏によれば，仏飯器は1999年の時点で県内では少なくとも９箇所以上の遺跡から出土しており，それのいずれもが寺院・城館もしくは墓地からのものであるという（上田1999）。上田氏による集成後にも寿国寺（鹿児島市）などでの出土例がみられる。この事実から，仏飯器が出土するというのは，遺跡が寺院に関連する可能性が高いことを示すということになろう。

ベトナム産の焼締長銅壺（瓶）も出土した。ベトナム中部「ミースエン・フックティク産」のものである。もともとは，何らかの容器として輸入されたものであるが，その後茶道具の一つとして国内で再利用されたものである（註３）。

金属製品の出土も目立った。刃物のほかに，穿孔を有する短冊形鉄製品も出土した。この短冊形製品は，刃物などの明確な利器とは考えにくいものである。可能性のひとつとしては，原料鉄があげられるが（註４），今後成分分析などの科学分析等を行い明らかにしていく必要があろう。

茶臼・臼をはじめとして，石鉢，石塔（五輪塔か）の空風輪，石製紡錘車，石製硯，滑石製品（石鍋および石鍋転用品・纔耳と鍔耳の両方あり）などの石製品が出土した。この中で石臼については表31にまとめた。県内では現在のところ25遺跡で出土していることが確認された。多くは城跡であるが，中世後半には一般集落の調査例が少ないので注意が必要である。

遺構内出土遺物の割合については第207図に示した。中世と近世の遺物の他に弥生・古墳時代の遺物が以外に多いことが理解される。

中世については，青磁・白磁・輸入陶器などの輸入陶磁器の割合が三分の一を占める。次に土師器の割合が四分の一程度である。青花は中世後半から近世初頭のものであるが，ここでは便宜上中世に含んだ。中世の中での割合は多くはないが，数は250点と多く出土している。

青磁はＤ期（12世紀後半～）からみられる。最も多いのはＨ期（15世紀）以降のもので四分の一を占める。

白磁は各時期のものが少量ずつ出土している。強いていうならば，器種としては皿が多い。

輸入陶器は華南産とみられる中世後半の時期のものが多い。ただし，華南産といわれるものは中世前半のものと区別がつきにくいものもあるので，混同してしまった可能性もある。

国産陶器については須恵器としたものが最も多い。特徴がないため，産地も不明であるが，樺万丈や未詳須恵器などとしたものも含まれる可能性がある。

他は備前焼・東播磨系須恵器なども割合としては多い。

近世は半分が薩摩焼であるが，肥前焼も多い。その中で染付は最も多い。

【註】

1　G期に属するこれらは沖縄・東南アジアに多いものである。H期まで下る可能性も若干含む。
2　山本信夫氏（早稲田大客員准教授）の御教示による。アルファベットのついた時期区分も彼による太宰府分類のものである。なお，泉州窯タイプについては亀井明徳氏と手塚直樹氏が指摘するものという。
3　森村健一氏（大阪府堺市教育委員会）の御教示による。
4　桃崎佑輔氏（福岡大学准教授）の御教示による。

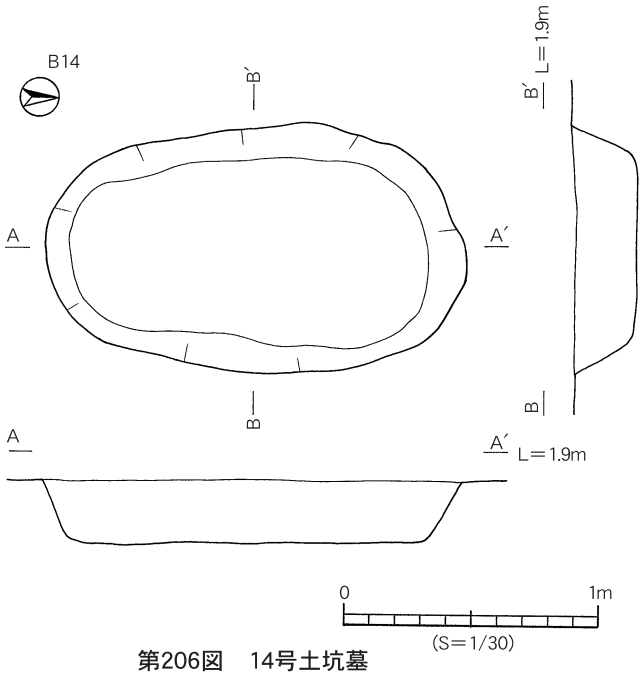
参考文献

新田栄治1997「知覧・豊玉姫神社所蔵のクリスと薩摩の東南アジア貿易」『ミュージアム知覧紀要』第３号
上田耕1999「各県の出土仏具　鹿児島県」『考古学論究』第５号〈特集　出土仏具の世界〉　立正大学考古学会

（上床　真）

表31　鹿児島県内出土の石臼

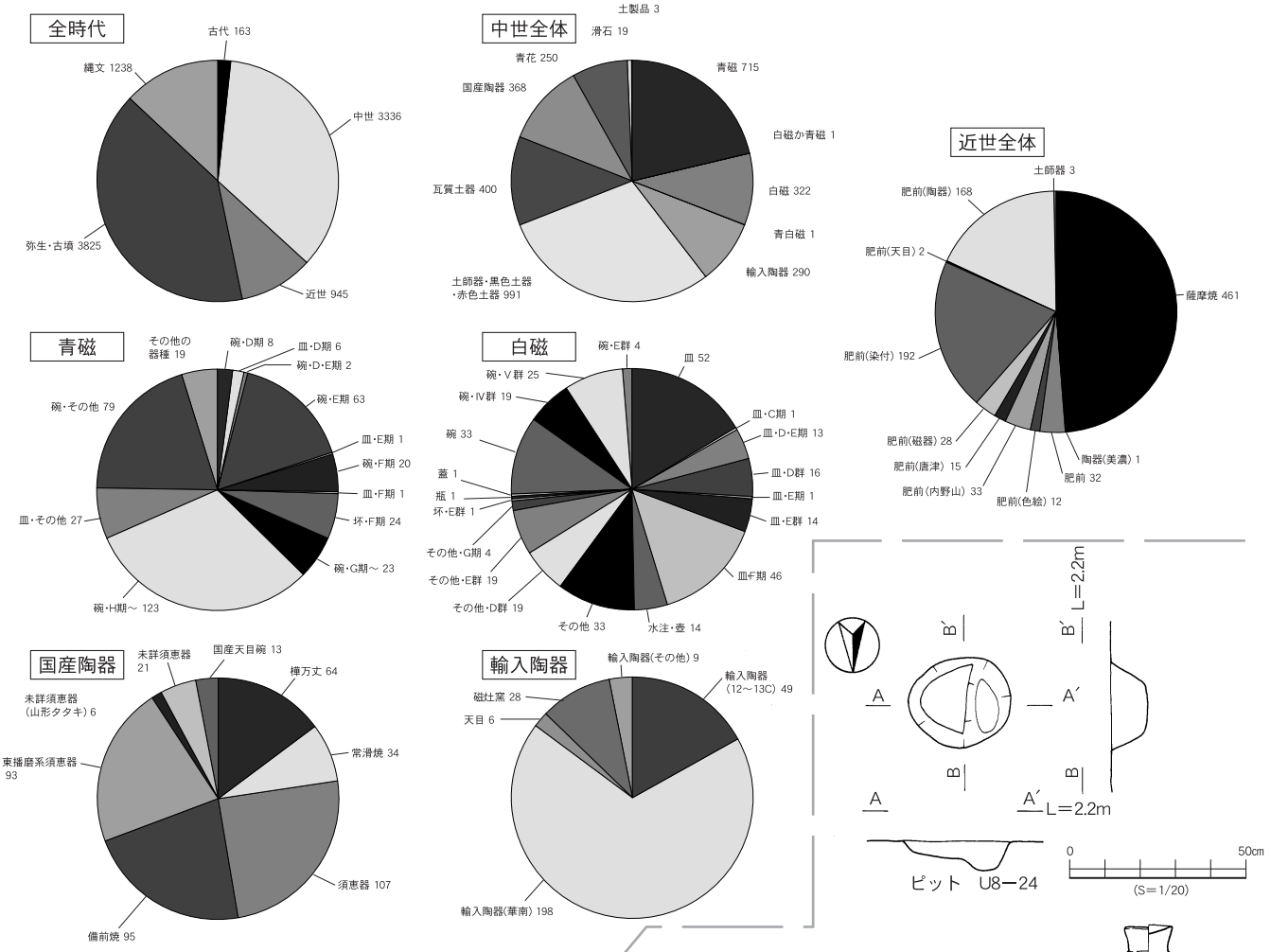
No.	遺跡名	所在地	備考
1	加栗山	鹿児島市川上町	カマド遺構・羽釜出土
2	馬場Ａ	大口市平出水馬場	カマド遺構・羽釜出土
3	下伊倉城跡	東串良町新川西下伊倉	
4	森	姶良町宮島森	凝灰岩製
5	日輪城（恒吉城）跡	曽於市大隅町恒吉字麓	表面採集・庄内の乱の頃か
6	大龍遺跡	鹿児島市大竜町ほか	
7	谷山弓場城跡	鹿児島市上福元町本城	包含層・集積　９から出土
8	川上城跡	鹿児島市川上町字弓場	
9	琉球館跡	鹿児島市小川町	
10	平山城跡（川辺城跡）	南九州市川辺町平山	
11	知覧城跡	南九州市知覧町永里字城内	
12	別府城跡	南さつま市加世田武田字城ノ山	石臼(凝灰岩製)・石鉢
13	掛ノ上	南さつま市加世田益山字掛ノ上	石臼・火鉢様石製品
14	牟礼ヶ城跡	南さつま市金峰町池辺向江	二階堂氏居城・応永13（1406）年落城
15	一宇治城跡	日置市伊集院町大田	石臼（花崗岩製）
16	平之城跡	いちき串木野市長里字平之城	小型の石臼（茶臼か？）直径20
17	鶴ヶ岡城跡	薩摩川内市東郷町斧渕三ヶ郷	砂岩製石鉢・ピット内から発見
18	松尾城及び宗功寺跡	さつま町虎居字松尾	
19	平泉城跡	大口市山野平出水字城	
20	馬場Ａ	大口市平出水字馬場	
21	城山山頂遺跡	霧島市国分上小川字新城	
22	横川城跡	霧島市横川町中ノ字城山	石鉢か？安山岩製・口縁部のみ
23	建昌城跡	姶良町西餅田字建昌城	８個実測
24	高山城跡周辺地	肝付町高山字新富	茶臼の下部の受け部分
25	上水流	（本報告）	



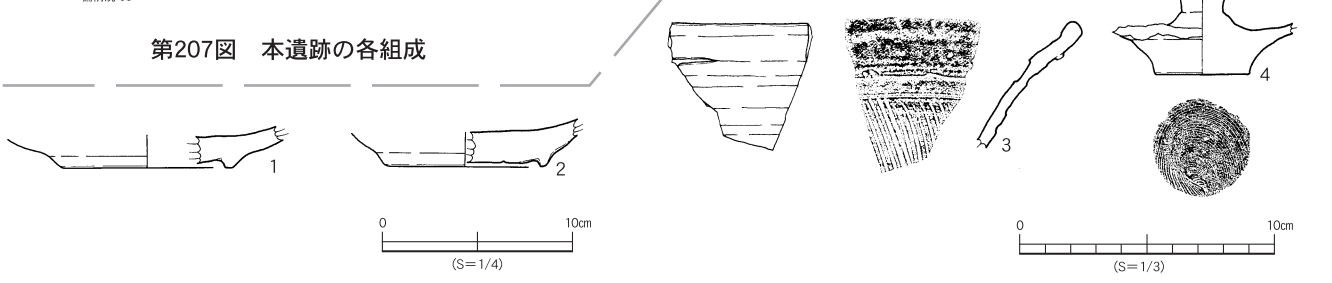
第206図　14号土坑墓

表32　土坑墓一覧

No.	グリッド	遺構番号	計測値(cm)			備考
			長径	短径	深さ	
B1	A－5	394	64	50	22	
B2	B－4	65	176	84	14	
B3	C－6	ー	90	10	ー	
B4	D－5	土坑墓5号	90	80	190	桶墓か
B5	E－2	土坑墓1号	187	104	30	
B6	F－3	桶墓	130	100	199	桶墓か
B7	F－3	桶墓1号	98	90	72	桶墓か
B8	G－7	268	100	94	160	桶墓か
B9	H－3	土坑墓（桶墓）4号	95	83	104	桶墓か
B10	H－6	616	118	86	16	
B11	K－8	2108	154	94	44	
B12	K－9	2883	214	138	10	
B13	M－9	2895	56	44	ー	底部のみ残存
B14	M－9	2893	168	96	25	
B15①	M－9	3110-1	160	84	42	B15②と切合
B15②	M－9	3110-2	168	ー	32	B15①と切合
B16	N－8	1197	84	80	60	桶墓か
B17	O－7	1038	162	90	40	
B18	O－9	1323	160	88	40	



第207図　本遺跡の各組成



第208図　各遺構出土の重要遺構・遺物

第6節　炉状遺構に関する若干の考察

（1） 本遺跡の炉状遺構の特徴

調査で検出された炉状遺構は23基であった。本節では現在までに鹿児島県内で報告されている主な類例と比較・検討しながら炉状遺構の用途や調査法について考察を行っていきたい。

本遺跡の炉状遺構で挙げられる特徴は以下の通りである。

① 使用年代がはっきり限定できない。検出層位と遺構内遺物より考えると，概ね中世～近世前半の可能性が高い。

② 建物内に配置された痕跡がない

③ 連続で並んでいるものがない

④ 数基が比較的集中しているグリッドがある。（O・P-6区，I～L-7・8区）

⑤ 燃焼部に付随するとみられる煙道については，はっきり確認できるもの，それと思われる形状を呈しているもの，確認できないものとがある。

⑥ 削平または崩落により燃焼部の上部が残っているものがなく，上部構造をうかがうことができない。

⑦ 炉壁構成は粘土のみで作られてあるもの，礫で形作られ粘土で目地されているもの，焚き口に袖石を使っているものなどが見られる。

炉壁に使用する礫は特定の種類のものが使われるのではなく，適当な大きさで耐熱性のあるものを周辺から探してきて利用しているようである。軽石などを多用している類例も他の遺跡では見られる。

炉壁の形状は12・18・19号炉状遺構を除き，その形状はC字(あるいはU字)形の燃焼部とそれに続く掻き出し部の掘り込みが一連の構造となっており鍵穴形を呈するものである。

燃焼部の床面は被熱により赤色硬化しているものが見られたが，粘土等を貼ったのもはなかった。また燃焼部の上部構造は，トンネル状の部分が崩落したり，削平されて消失した状態で検出されるものが殆どであるため，形状を知ることは困難であるが，比較的残存状況のよい一部の遺構の断面図で明らかなように，炉壁はわずかに内湾しながらたちあがっている。さらにその上部の形状については，上加世田遺跡のカマド跡2号と同じような形状をしていると考えられる。鍛冶炉の可能性が考えられる12・19号炉状遺構のような円形を呈する遺構の類例は数は多くないが金丸城跡の焼土を伴う土坑19号と類似しているといえよう。また同じ場所で切り合う形で検出されたものとして3-1・3-2号，7-1・7-2号，16-1・16-2・16-3号が挙げられる。これは炉状遺構を設置するのに都合のよい場所であるからと考えられる。このなかで3-1号と3-2号炉状遺構は近世の大溝遺構の底面に作られいる。炉壁は礫をC字状に並べて組んでおり，なおかつ隙間を粘土で目地を充填しており，検出した23基の中で一番ていねいな作りである。これは長期の使用を考えてのものであり，一過性の短期廃絶型の施設ではないことを窺わせる。同様に一カ所に切り合うかたちで検出された類例としては，金丸城跡（大崎町）の焼土を伴う土坑4号や上ノ城遺跡（南さつま市）の7号炉8号炉等がある。

全国的にこのような礫を組んで燃焼部を作ったものは16世紀以降の城郭や都市部によくみられるという（合田2002）。本遺跡では，この溝状遺構内から18世紀のある時期（おそらくは前半代）以降の陶磁器は出土していない。つまり，利用されなくなり埋まり始めたのではないかと考えられる。このことが3－1号炉状遺構と3－2号炉状遺構の使用時期を考えるうえでおおきな手がかりになるといえよう。

（2） 県内の炉状遺構の出土例

鹿児島県内で検出された炉状遺構の立地傾向を見ると，中世山城の郭内からのものが目立つようである。ただし，これはこれまでの鹿児島県の中世（特に中世後半期）の調査が城郭に集中する傾向をそのまま反映している可能性がある。

鍛冶炉・炉状遺構として報告されているものとしては主なものに日輪城跡5基（曽於市），松尾城・宋功寺跡8基（さつま町），上加世田遺跡5基（南さつま市），持躰松遺跡1基（南さつま市），下山田Ⅲ遺跡2基（笠利町）等がある。このほかに，明確な機能を表す遺物等が出土せず，漠然と竈や炉として報告されているものに主なものに西ノ平遺跡3基（薩摩川内市），上ノ城遺跡8基（南さつま市），馬場A・辻町遺跡3基（大口市），横川城3基（霧島市），谷山弓場城跡4基（鹿児島市），一宇治城跡1基（日置市），松尾城跡1基（出水市），加栗山遺跡・川上城跡4基（鹿児島市），平泉城跡11基（大口市），苦辛城跡1基（鹿児島市），金丸城跡19基（大崎町），雪山遺跡（日置市）などがある。

この他にも未報告であるが，向栫城跡（日置市）で33基程度，栫城跡（いちき串木野市）で27基程度の炉状遺構が検出されている。これらは，中世の山城に付随する遺構である可能性が考えられる。このような中で，本遺跡のように河川沿いの遺跡で23基の炉状遺構が確認されたことはこれまでにないことである。このことはこれまでの城郭での立地を中心に据えた研究から一歩さらに広げて，中世～近世の平野部や集落での使用も併せて考えていかなければならないことを意味する。同じく未報告であるが，本遺跡より約１㎞下流に位置する芝原遺跡でも20基以上の炉状遺構が出土している。この中には中世の製鉄・鍛冶工房の中の施設と考えられる遺構も確認されている。また，本遺跡の東側に隣接する針原遺跡でも

苦辛城跡

針原遺跡

金丸城跡4号

上ノ城遺跡

金丸城跡19号

加栗山遺跡

上加世田遺跡

芋　穴

馬場A遺跡

第209図　各遺跡の炉状遺構

2トレンチ内で17世紀代とされる炉状遺構1基が報告されている。形状はC字(あるいはU字)形の燃焼部とそれに続く掻き出し部の掘り込みが一連の構造となっており上面観が鍵穴形を呈するもので本遺跡で一番多いタイプとほぼ同じである。

（3）中世絵巻物資料に見られる竈の使用目的と設置場所

本遺跡の炉状遺構の使用目的について考察していきたい。中世の絵巻物資料(註１)の中に見られる民衆が日常生活で使用する竈は五徳も含めては殆どが上に釜や羽釜が据えられているようである(註２)。その使用目的は，

Ⅰ　煮る，炊く
Ⅱ　煎る，蒸す
Ⅲ　生活に使う湯の供給
Ⅳ　蒸風呂への湯気供給
Ⅴ　風呂への湯の供給

等が主なものであり，その設置場所は

ａ　土間
ｂ　釜屋（母屋の周囲にある竈が置かれている簡素な建物）
ｃ　竈部屋（母屋にある板敷きの部屋）
ｄ　湯殿の外側簡素な屋根付きの場所

等で殆どが建物内である。

これより見ると竈は民衆の生活空間に密着しており，なおかつ雨に濡れて熱効率が下がる場所を避けて設置されているようである。

本遺跡は，溝状遺構・大型土坑・不定形土坑など，様々な礫や鉄滓・鞴の羽口を伴う遺構が存在するが，これらの中に鉄滓は陶磁器片と同じ様に投棄されたようであり，製鉄炉や鍛冶炉あるいは工房とはっきり想定される遺構は確認されていない。しかし，平成7年に金峰町（現南さつま市）が行った本遺跡の埋蔵文化財確認調査では7トレンチから17世紀から18世紀初頭にかけて操業していたと考えられる溶解炉が確認されている(註３)。また，製鉄操業に伴う廃棄物が投棄されたと考えられる集石遺構も隣接して検出されている。このことから，本遺跡の炉状遺構の性格は，

Ａ　製鉄や鍛冶に伴う施設
Ｂ　上記の絵巻物の中に見られるような目的で作られた施設
Ｃ　その他の目的で作られた施設

の三つが考えられる。特徴として全て建物の中でなく屋外に作られていることが挙げられよう（ただし，炉状遺構周辺の建物跡が調査中に認識できなかった可能性は排除できない）。建物との距離は2～3mと近いもの（16-1，16-2号炉状遺構）から，周囲に建物のない場所に設置されているもの（4号炉状遺構，7-2号炉状遺構）がある。ただし，これらの炉状遺構と建物が同時代のものであったかは不明である。

このほか短期間の使用で廃絶した印象を持つ炉状遺構もあれば，前述したように3-1，3-2号炉状遺構のように大溝の底面に長期の使用を考えてていねいに作られていると考えられるものもある。しかし溝の底は一般的には水分や湿気が溜まりやすいところである。このような場所で使うと，燃焼部内の温度が上がり，水蒸気爆発等がおこる危険性もある。このような条件の悪いところになぜ長期使用を考えた竈を作る必要があったのかという疑問も残る。これらのことについては，同様の出土状況にある類例の増加を待ちたいところである。

（4）炉状遺構の調査手順の再確認

最後に本遺跡の調査方法で反省点とすべきことを挙げていきたい。いずれの炉状遺構も周辺に鉄滓等が出土しなかったため，製鉄や鍛冶に関する遺構を調査する際に行う，磁気探査や鍛造剥片・粒状滓の存在の確認を磁石等を使わずに肉眼のみで確認したことである。これらのことをふまえて，炉状遺構の調査で必要な事項を今一度確認して，今後の調査の参考としたい。

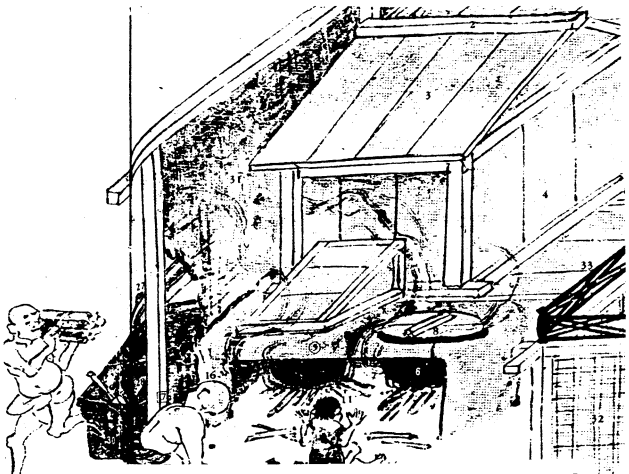
ア　検出時における周囲の地形の確認。
イ　燃焼部や掻き出し部内より出土した炭化物のサンプリング→年代測定
ウ　鍛造剥片・粒状滓の確認　肉眼分類→ふるい・磁石・特殊金属探知器等の使用
エ　メッシュを切っての周辺土壌の取り上げ→水洗い・選別等
オ　焼土域の遺構周辺への拡がりの確認
カ　遺構内遺物の出土状況の確認
キ　周辺に建物跡等の遺構があるかの確認
ク　調査区周辺に集落又は製鉄や鍛冶に伴う施設があったかの検討

【註】

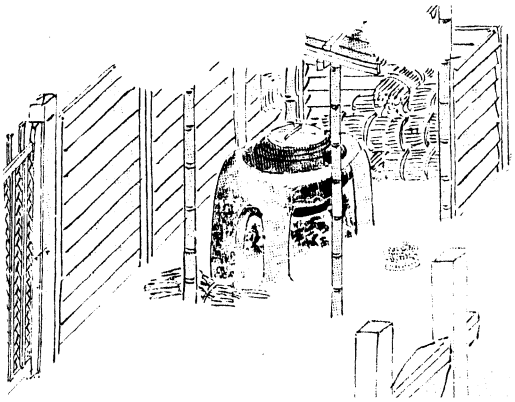
1　本稿で使用する『慕帰絵詞』は1351年成立，『一遍絵詞』は1331年頃成立，『信貴山縁起』は1180年頃成立，『春日権現験記』は1309年頃成立した史料である。
2　加栗山遺跡の炉址Ⅱは炉内より湯釜が出土している。
3　遺構内遺物として焼礫，鉄滓，羽口，スサまじりの粘土塊，カーボン等がある。

【引用・参考文献】

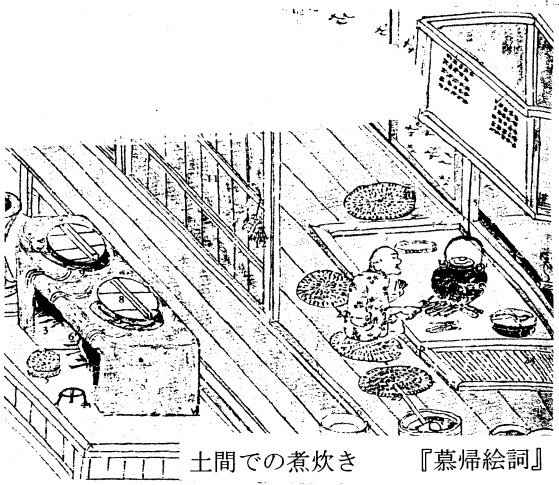
稲田孝司1978「忌の竈と王権」『考古学研究』25－１　考古学研究会
大崎町教育委員会2005『金丸城跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）
大隅町教育委員会・(財）元興寺文化財研究所2000『日輪城（恒吉城）跡』大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書（20）
鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『雪山遺跡・猿引遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（53）
加世田市教育委員会1985『上加世田遺跡-1（第Ⅰ地点・第Ⅱ地点）』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）
金峰町教育委員会　1998『上水流遺跡(第1次調査)』金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（9）
金峰町教育委員会　2003『鮎受遺跡・弥十山遺跡・針原遺跡・



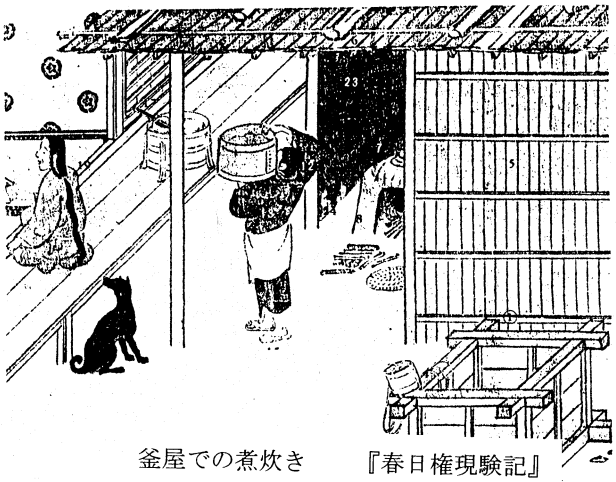
湯殿の外より湯殿へ湯気の供給　『慕帰絵詞』



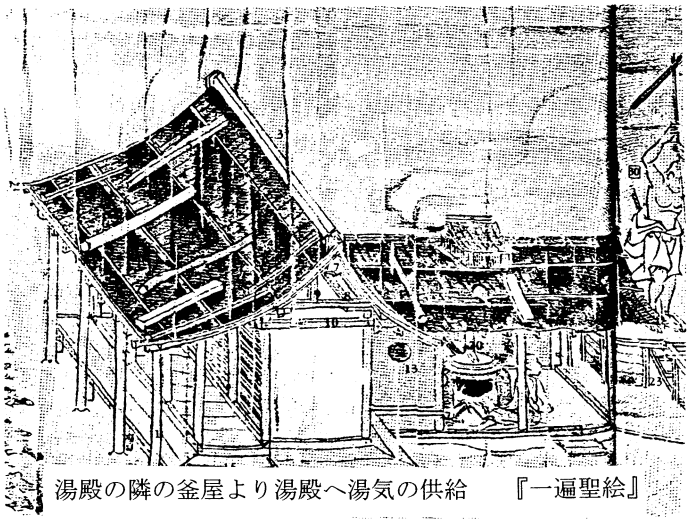
釜屋で荏胡麻を蒸す　『信貴山縁起』



土間での煮炊き　『慕帰絵詞』



釜屋での煮炊き　『春日権現験記』



湯殿の隣の釜屋より湯殿へ湯気の供給　『一遍聖絵』



板敷き竈部屋での煮炊き　『春日権現験記』

（上記は澁澤敬三ほか編1984より引用）

第210図　絵巻にみる炉状遺構

上水流C・D遺跡・大迫田遺跡』　金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（14）
合田幸美2002「大阪城跡の竈跡について」『大阪城跡発掘調査報告Ⅰ』（財）大阪府文化財センター発掘調査報告　第78集
澁澤敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編198
名古屋市博物館2003『台所の考古学　食をめぐる知恵の歴史』名古屋市博物館特別展示図録

（拔水茂樹）

第７節　上水流遺跡出土の薩摩焼について

（１）はじめに

薩摩焼は，のちに「焼物戦争・茶碗戦争」とも呼ばれた豊臣秀吉による朝鮮出兵（文禄・慶長の役：1592～1598年）の際，島津義弘が連れ帰った朝鮮人陶工により始まる。鹿児島に上陸した朝鮮人陶工は，串木野に串木野窯（いちき串木野市下名），帖佐に宇都窯（姶良町帖佐鍋倉字宇都），加治木に御里窯（加治木町仮屋町）などを開窯し，薩摩藩の庇護を受けるなどしながら陶器を生産した。朝鮮人陶工等により伝えられた製陶技術は，現在でも苗代川地域（現日置市東市来町美山）や龍門地域(加治木町小山田）などで受け継がれている。

上水流遺跡出土の薩摩焼には，その製陶技術，灰褐色系や赤褐色系の色調で緻密な胎土，褐色系に発色する鉄釉や緑褐色系に発色する灰釉を掛けている釉の特徴から，堂平窯で生産されたと考えられるものが含まれる。これらは，本文中において器種ごとにその特徴の説明を行ったが，ここでは出土した薩摩焼について，堂平窯跡報告書（埋文センター2006）を基に，時期や器種等について再度検討を加えていきたい。時期については，堂平窯跡報告書に基づき下記の通りとする。

Ⅰ期（17世紀前半）

Ⅰa期（1620～1630年代）

Ⅰb期（1630～1650年代）

Ⅱ期（17世紀後半）

（２）各器種について

甕

大溝31・32は，Ⅰa期のものである。口縁部は，先端を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ，「T」字状の形状をつくる。口唇部は，内側を高くし外側を溝縁状にするものである。器壁は極めて薄い。朝鮮の製陶技術が色濃いものである。

大溝33～38は，ⅠbからⅡ期への過渡期のものであると考えられる。口縁部は，先端を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ，「T」字状の形状をつくる。口唇部は，内側を高くし外側を溝縁状にするものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。器壁はⅠa期のものよりやや厚い。

壺

大溝64は，Ⅰa期のものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残り，器壁は極めて薄い。釉をはじいているところがある。

大溝62・63・66・67は，Ⅱ期のものである。口縁部を外側に折りさらに内側に折り返して肥厚させたのち端部を丸くおさめるものと，口縁部を内側に折り返して丸くおさめ口唇部に蓋受け部を有するものがある。内面には，タタキ成形による同心円状のあて具痕がのこる。口唇部に貝目が残るものがある。器壁はⅠ期より厚くなる。

大溝61・68は，Ⅱ期のものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残り，器壁はⅠ期より厚くなる。

底部

甕あるいは壺と思われるもので，大溝49～57・大溝59・大型土坑17・81・溝12・47はⅡ期のものである。内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，外底面に貝目が残るものが多い。器壁はⅠ期より厚くなっている。

片口

大溝70・71・73・74・大型土坑18は，Ⅱ期のものである。タタキ成形でつくられており，内面に同心円状のあて具痕が残る。口縁部は端部で外側に折り，さらに内側に折り返して丸くおさめる。

水注

大溝69は，Ⅱ期のものである。注口は巻口で，注口に向かって左側の端が上になるように巻かれている。

擂鉢

大溝85～91・溝48は，Ⅱ期のものである。器形として「逆八」の字にひらき，口縁部は外側に折り返して肥厚させ，２・３条の突帯をつくる。口唇部が幅広く平坦なものと，口縁部が外反するものがある。

蓋

大溝75～78・大型土坑70・土坑８・溝９は，Ⅱ期のものである。器形は浅鉢形のもの，平坦な円盤状のもの，円盤状の体部の下面に輪状の粘土紐を貼り付け身受け部をつくるものがある。浅鉢形のものは，口縁部を外反させ，さらに内側に折り返して肥厚させ，内側を丸くおさめている。平坦な円盤状のもの・円盤状で見受け部をもつものは，端部をヘラ状工具でケズリ調整した痕が残る。

徳利

大溝79～81・大型土坑83～85は，Ⅱ期のものである。タタキ成形しており，内面には同心円状のあて具痕が残る。「舟徳利」型と呼ばれる胴部下半部に最大径を有する形状を呈するものと，「鶴首」型と呼ばれる頸部が細長く肩部がなで肩の形のものがある。頸部内面あるいは外面に，胴部と接合した痕が残る。

サヤ鉢

大溝82は，Ⅱ期のものである。内底面に砂目と胎土が残り，外底面には貝目が残っている。また，口唇部に粘土と思われる目土が残り，外底面には貝目が残っている。

器種について

上水流遺跡の包含層や大溝などの遺構から出土した堂平窯製の土器（器種が分かるもの）は，表33のとおりである。甕・壺・擂鉢などの日用品が多い。特筆されることとして，数は極めて少ないが，Ⅱ期と考えられる薩摩で「白薩摩」と呼ばれる一般的に上手の碗・徳利が出土

している。また，Ⅰ期としているが器壁が極めて薄く口縁部の作りがシャープなものの中には，串木野窯あるいは朝鮮製の可能性のあるものもあり，今後検討の余地がある。

器種の用途別に見てみると，甕・壺・徳利などの貯蔵・運搬具が多く，次いで，擂鉢のような調理具，片口・水注・碗の食膳具となっている。また，皿や碗などを中に入れて焼くときに使うサヤ鉢も１点出土している。これらのことから，17世紀から堂平窯との交易・交流があり，堂平窯製の薩摩焼が上水流遺跡のある南薩方面に流通していたことを示している。17世紀は「鹿児島県地域にとって特に在地の製品といえる薩摩焼が増加していくという，九州島内における，より限定した範囲（薩摩藩内とその規模の視点で見た場合）での，出土陶磁の在地産化が進み始める時期でもあるとも言える。」（橋口2002）としていることとも一致している。

（３）まとめ

堂平窯のあった日置市東市来町美山は，上水流遺跡のある南さつま市金峰町花瀬のほぼ真北に位置し，陸路での直線距離にして約25㎞である。江戸時代には美山から南薩への街道として，美山から宮田・海辺の神之川を経由して，海岸沿いに日置・吉利・金峰と陸路があった。また，美山の近くを流れる神之川の河口から上水流遺跡の前を流れる万之瀬川の河口までは，海路での直線距離にして約20㎞である。神之川の河口にある神之川港は，島津義弘が朝鮮出兵した文禄の役・慶長の役のとき，食料・武器などを運び出した港でもある。このように，堂平窯のあった美山と上水流遺跡のある南さつま市金峰町花瀬とは，近距離であり，ともに海・河川の交通の利便性がよいことが，両者の交易・交流（堂平窯製薩摩焼の流通）に影響しているのではないかと考えられる。また，両遺跡が近距離であることや海・河川の交通の利便性を背景とした交易を想定すると，上水流遺跡をはじめとする万之瀬川流域や近隣の地域には，堂平窯製薩摩焼が多く流通しているのではないかと考えられ，今後検討していく余地がある。

このように上水流遺跡には，17世紀代に美山の堂平窯の製品を用いるなどして，人々が生活を営んでいたことが分かる。

表33　本遺跡出土の薩摩焼の出土傾向

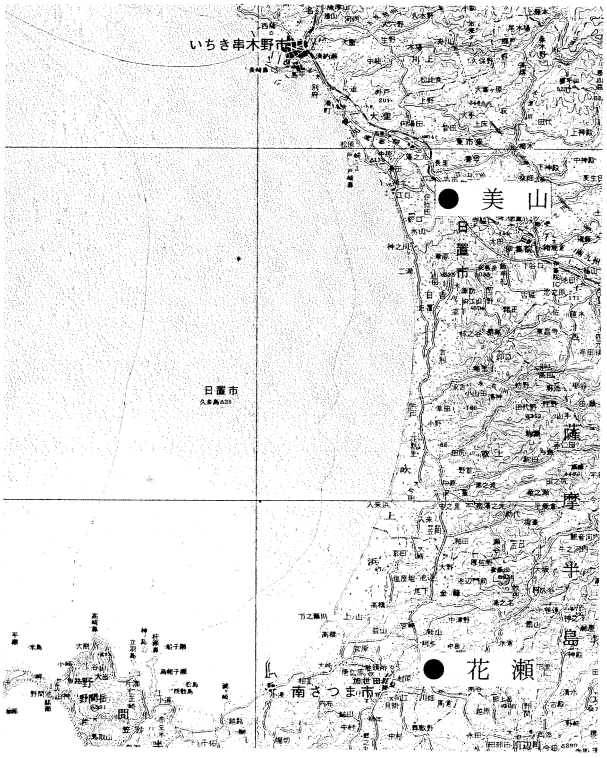
器種	大溝	大型土坑	土坑	集石	溝	計	割合(%)
甕	51	2	―	4	49	106	23.3
壺	11	―	―	―	―	11	2.4
甕壺底部	12	1	―	―	―	13	2.9
徳利	35	3	―	―	―	38	8.4
擂鉢	13	1	―	―	1	15	3.3
片口	8	1	1	―	―	10	2.2
水注	1	―	―	―	―	1	0.2
碗	―	1	―	―	3	4	0.9
蓋	12	1	1	―	1	15	3.3
土瓶	1	―	―	―	―	1	0.2
サヤ鉢	1	―	―	―	―	1	0.2
その他	55	61	11	11	101	239	52.7
						454	100

※ 器種が分かるもの(接合したもの・陶器片)を，
一つとして数えてある。

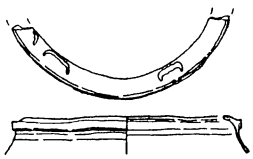
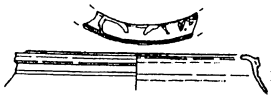
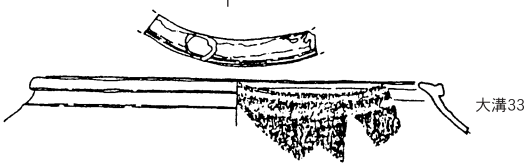
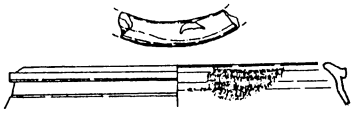
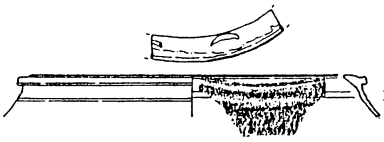
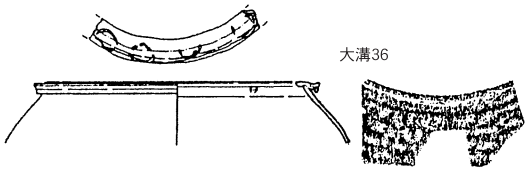
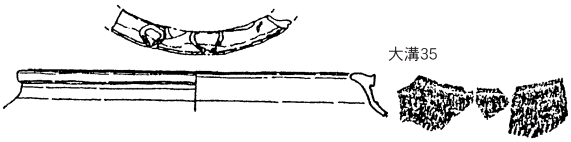
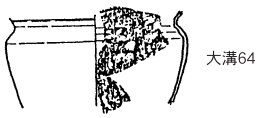
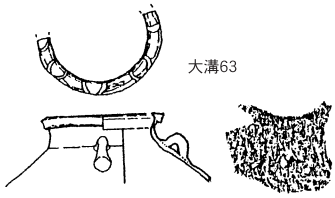
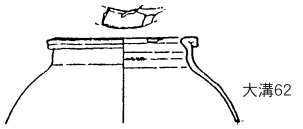
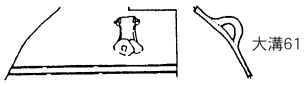
【引用・参考文献】

東市来町誌編纂委員会2005『東市来町誌』
鹿児島県立埋蔵文化財センター2006『堂平窯跡』
鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『雪山遺跡・猿引遺跡』
加治木町教育委員会1995『山元古窯跡』
姶良町町教育委員会1995『元立院窯跡』
加治木町教育委員会2003『御里窯跡』
鹿児島県教育委員会1978『竪野（冷水）窯跡』
橋口　亘2006「再録　鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器の出土様相－鹿児島県地域の近世陶磁器流通－」『南日本文化財研究』№2　南日本文化財研究刊行会

（溝口学）

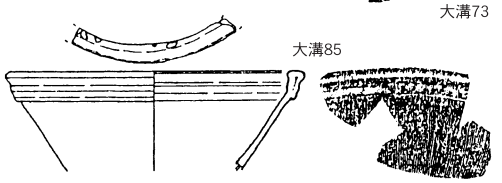
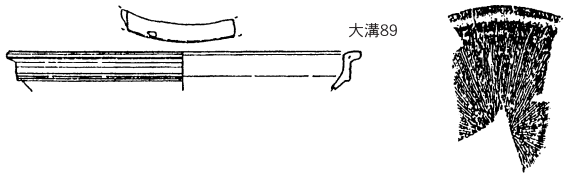
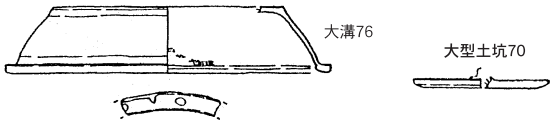
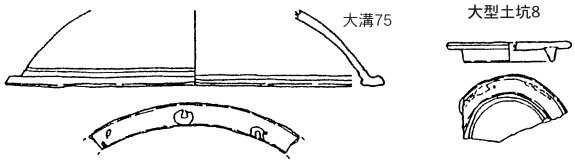
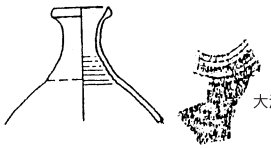
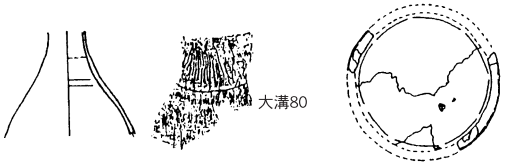
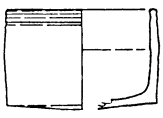
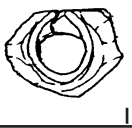


第211図　花瀬･美山の位置図
（1/200,000の地図を50％に縮小したもの）

時期 / 期種	Ⅰ期（17世紀前半）		Ⅱ期（17世紀後半）
	Ⅰa期（1620～1630年代）	Ⅰb期（1630～1650年代）	
甕	 大溝31  大溝32	 大溝33  大溝34  大溝37  大溝36  大溝35	
壺	 大溝64		 大溝63  大溝62  大溝61  大溝67

※スケールは不統一につき
本文中挿図参照のこと

第212図　本遺跡出土の薩摩焼の分類①

時期 / 期種	Ⅰ期（17世紀前半）	Ⅱ期（17世紀後半）
片　口		 
繙　鉢		 
蓋		 
徳　利		 
サヤ鉢		 
水　注	※スケールは不統一につき 本文中挿図参照のこと	 

第213図　本遺跡出土の薩摩焼の分類②

第8節　上水流遺跡出土のモモを中心とする種子炭化物

（1）はじめに

上水流遺跡では，古墳時代の竪穴住居跡や，中近世の炉状遺構・土坑墓から，モモの果実の中にある堅い核が出土している。これは，一般には「モモのタネ」と呼ばれる。ただし，この堅い部分は，種子を包んでいる果実の最も内側の皮にあたるところで，これを内果皮という。厳密な意味での「種子」である「胚乳」は内果皮の中にあり，アーモンド形をしている。これを「仁（じん）」と呼ぶ。モモの「仁」は，乾燥させて解熱・婦人病薬として煎服し，杏仁の代用品ともなる漢方薬である。ここでは，遺跡から発見されるモモの核のことを「桃核」として論を進める。

太田三喜氏によれば，現在の日本人が食べているモモは，その大部分が明治８（1875）年に中国から移入された上海水蜜桃・天津水蜜桃などの系統のものであるという（太田1986）。つまり，遺跡で発見されるモモとは異なる系統のものである。

モモは，弥生時代以降に日本に広まったものとされているが，長崎県の伊木力遺跡では，日本最古である縄文時代前期の小柄なモモが見つかっている。古墳時代から古代については，祭祀が行われた場所で木簡や人形とともに出土する例，井戸の中から出土する例などがあるというが，これも地鎮など祭祀に関係する。モモは人の魂が宿るとか，魔除けになるなどと考えられ，古くから様々な伝承がある。モモの持つ力について述べられたものとしては，古事記や桃太郎の話が著名であろう。

和銅５（712）年に成立した「古事記」には，黄泉の国（冥界・あの世）へ妻の伊耶那美命（イザナミノミコト）に会いに行った伊耶那岐命（イザナギノミコト）が，黄泉の軍勢に追われて逃げ帰ってくる場面で，黄泉比良坂の麓に生えていたモモが登場する。そして，伊耶那岐命がモモの実を３つ採って投げつけるとモモの力によって追っ手はことごとく退散する。

桃太郎は，流れてきたモモを割ると中に桃太郎が入っているというものが有名であるが，オリジナルは，流れてきた桃を食べた老夫婦が若返って桃太郎を生んだというものである。

桃の原産国・中国では，古くから桃には不老長寿や魔よけの力があると信じられ，「仙果」「仙桃」の別名を持つ。「桃源郷」の伝説もモモに関するものである。

いずれも，モモが超常的な力（強い呪力・霊力）を持つと考えられていたという証拠となろう。また，この思想は日本独自のものではなく，中国からの借り物である。

⑵　遺跡でのありかた

県内では，筆者が確認した範囲では，13遺跡20箇所で発見されていることが確認された。詳細は表34に示した。基本的には，東和幸氏の集成（東2000）を参考としたが，これに中原一成氏の集成（中原2003）と，近年の新出資料を加えて作成した。

概説などでは，桃核は竪穴住居跡から出土する例が多いとされている（小清水1963など）。本県では4遺跡5箇所の竪穴住居内から出土している。他には，竪穴遺構１・井戸２・炉状遺構２・土坑墓１となっているので確かに割合としては竪穴住居内からの出土例が多いことになろう。ただし，井戸と土坑墓については祭祀的な側面が強いので，竪穴住居・炉状遺構からの出土についても，遺構の廃棄などに際する祭祀などの可能性も考慮すべきであろう。

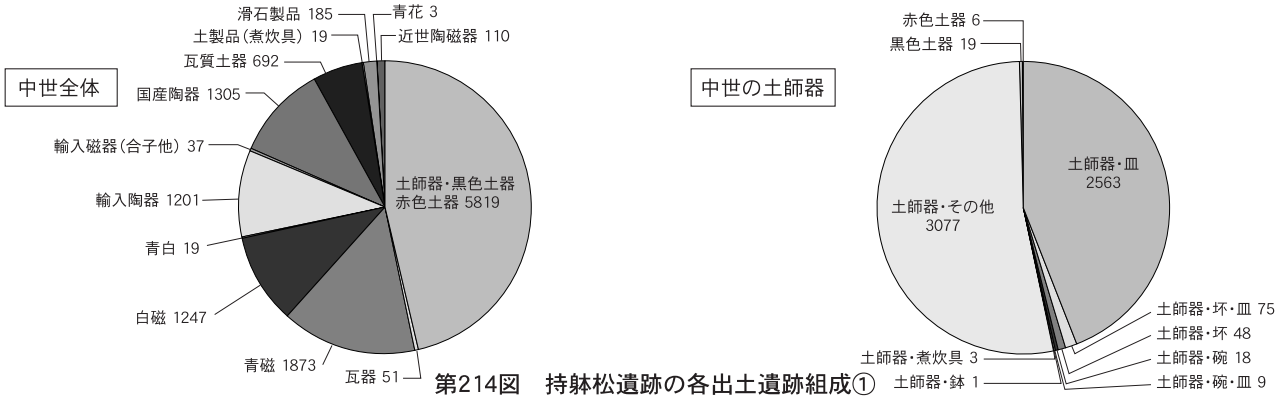
なお，10号炉状遺構中のものが，2.5×1.6㎝で厚さ1.2㎝，17号土坑墓中のものが2×1.3㎝で厚さ1㎝である。10号炉状遺構モモ核は通常サイズであるが，それ以外のものは17号土坑墓中のものとほぼ同サイズでありやや小ぶりである。これは本遺跡の特徴である可能性がある。

また，本遺跡では炉状遺構内から桃核のほかにオオムギ・コムギの炭化物が発見されている。これらは食用の可能性が高いが，桃核については食料と祭祀の両面から検討が必要であろう。ところで，古代以降の遺跡からは，栽培植物とともに食用可能な他の植物遺体も出土することから，食料資源が「栽培」という方法でのみ成立するものでないことが明らかにされている（山田1995）。本県のモモの出土状況についても栽培か否かそれとも他の要因かについて検討すべきであろう。

【参考文献】

小清水卓二1963「古代日本の住居跡から出土する桃核について」『近畿古文化論巧』　橿原考古学研究所
寺沢薫・寺沢知子1981「弥生時代植物質食料の基礎的研究」『橿原考古学研究所紀要　考古学論巧』第５冊　奈良県立橿原考古学研究所
大田三喜1986「古代遺跡出土の桃核について」『考古学と自然科学』第19号　日本文化財科学会
米田文孝1991「副葬品の種類と編年　その他自然遺物」『古墳時代の研究』８　雄山閣
山田昌久1995「日本における13～19世紀の気候変化と野生植物利用の関係」『植生史研究』3-1　植生史研究会
金原正明1996「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』№409　ニューサイエンス社
東和幸2000「東アジア先史時代植物遺存体集成：鹿児島」甲元眞之編『環東中国海沿岸地域の先史文化』　第３編　考古学研究成果報告書11
中原一成2003「鹿児島県における植物遺体の研究の現状」『九州・極東地域における植物種子の現状と課題』発表要旨集　熊本大学文学部考古学研究室・熊本大学埋蔵文化財調査室
大山真充1994「桃」　森浩一編　同志社大学考古学シリーズⅥ『考古学と信仰』　同志社大学考古学シリーズ刊行会
奈良国立文化財研究所1995『平城京左京二条二坊・三条二坊（長屋王・藤原麻呂邸）発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第54冊

（上床　真）



第214図　持躰松遺跡の各出土遺跡組成①

表34　発掘されたウメ・モモ等の核一覧

	遺跡名	所在地	時代	帰属遺構・包含層	遺構	種類	数	備考	報告書・文献
1	柊原貝塚	垂水市柊原柊原下	縄文後期か？	—	—	モモ	1		市埋文報（4）1999
2	一湊松山	熊毛郡上屋久町一湊	縄文後期中葉	—	—	ヤマモモ			町埋文報（1）1981
3	市ノ原３・４地点	日置市東市来町字上市ノ原・瀬戸ノ口・堀内	弥生中期	—	—	モモ			未報告
4	上野原２～７地点	霧島市国分上野原縄文の森	弥生中期前半	住居跡	１号住居	モモ核	1	一ノ宮式・北麓式	県埋セ（52）
5	上野原２～７地点	霧島市国分上野原縄文の森	弥生中期中頃	住居跡	２号住居	モモ核	1	山ノ口・黒髪・須玖式	県埋セ（52）
6	橋牟礼川	指宿市十二町下里	古墳（笹貫か）	住居跡床面	—	モモ核	2	笹貫か・※	市埋文報（12）1993
7	大島	薩摩川内市中郷町東大小路町	晩期～中世（～近代？）	—	—	モモ核	2	完形と半分	県埋セ（80）2005
8	小瀬戸	姶良郡姶良町西餅田	平安	井戸跡	井戸１	ウメ種実	1	須恵器・木器	県埋文報（19）
9	小瀬戸	姶良郡姶良町西餅田	平安	井戸跡	井戸１	モモ種実	3	須恵器・木器	県埋文報（19）
10	犬ヶ原	いちき串木野市市来町伊崎田犬ヶ原	平安	土坑（竪穴遺構）	土坑１（竪穴遺構）	モモ核	9		県埋セ（50）
11	筆付	南さつま市金峰町尾下字筆付	古代～中世	—	—	モモ核	2		町埋文報（17）2004
12	仁田尾中B	鹿児島市石谷町仁田尾中	平安	配石炉	2号配石炉	モモ核	2	甑形土器・土師器	県埋セ（110）2007
13	上水流	南さつま市金峰町花瀬	古墳（笹貫）	住居跡	６号住居	モモ核	1		**本報告**
14	上水流	南さつま市金峰町花瀬	中世後半～近世初頭	炉状遺構	10号炉状遺構	モモ核	1		**本報告**
15	上水流	南さつま市金峰町花瀬	中世後半～近世初頭	土坑墓	17号土坑墓	モモ核	1	古銭	**本報告**
16	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古代か	溝状遺構	イコウ1391	モモ核	1		未報告
17	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古墳～古代		イコウ7401	モモ核	1		未報告
18	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古墳～古代		イコウ9874	モモ核	1		未報告
19	堂園Ｂ	南九州市川辺町神殿	弥生末～古墳初頭（中津野）	住居跡	2号住居	モモ核	数個	床着ではない	今年度報告
20	下ノ原B	大口市下殿	古墳	住居跡		モモ核	数個	床着ではない	未報告
21	狩俣	曽於郡大隅町岩川	古代か	—	—	モモ核	数個		未報告
22	南下	南さつま土金峰町尾下	古墳～古代	—	—	モモ核	数個	包含層	未報告

東和幸2000「東アジア先史時代植物遺存体集成：鹿児島」甲元眞之編『環東中国海沿岸地域の先史文化』第３編　考古学研究成果報告書１１
中原一成2003「鹿児島県における植物遺体の研究の現状」　『九州・極東地域における植物種子の現状と課題』発表要旨集
※　初島住彦氏の鑑定・教示によると，観賞用の花木であるハナモモの可能性も考えられるという（指宿市教委）。

表35　発掘されたモイドン一覧

遺跡名	通称	所在地	備考	文献
松原遺跡	お田の森	南種子町茎永（堤ノ小田）	宝満神社御新田（赤米栽培地）の隣接地・小野重朗氏が御新田を「モイドン」とした	小野重朗1970
津曲遺跡	津曲の森神社	肝属郡肝付町野崎字津曲	平成16・17年鹿児島大・琉球大発掘	小野重朗1966
山外森遺跡	山外森のモイヤマ	鹿屋市上祓川町字山外森	掘ったとの伝承あり	小野重朗1966
北麓遺跡	森山	鹿児島市上福元町北麓	かつて「森山」と呼ばれた伝承あり	出口2003『からから』No.15・市埋文報（21）
森遺跡	森	姶良町西餅田森	地名から類推した	埋セ埋文報（55）
上水流遺跡	内野門のモイヤマドン	南さつま市花瀬字森山・上水流	上水流遺跡・「森河神」として祀っている。	指宿高校1957
芝原・渡畑遺跡	森山	南さつま市宮崎字芝原・渡畑	「森山」と呼ばれるところが「渡（わたり）」の近く（渡畑付近）にあったという。	「阿多地区伝承文化」（金峰町阿多地区公民館　編2000）
鳴神	鳴神	曽於市大隅町岩川旭ヶ丘	直接は発掘せず。周辺を鳴神遺跡として調査	町教委埋文概報（1）・(2)・(4)

表36発掘された「塚」

遺跡名	所在地	備考	文献
放光寺	出水市高尾野町下高尾野字放光寺	礫積塚１基・集石墓６基・土坑13基	県教委埋文報（２）
山崎Ｂ	湧水町山崎	塚状遺構	県教委埋文報（１８）
東馬場	曽於市大隅町岩川東馬場	塚状遺構	大隅町埋文報（３２）
小薗	南さつま市金峰町浦之名	石積みの塚	金峰町埋文報（１１）
川ノ上	鹿屋市大浦町字川ノ上	塚状遺構（供養塚）・頂上に石碑（墨書）	県教委埋文報（４８）
南別府城跡	知覧町南別府字城山・穴口	塚の下に方形土坑１・長方形土坑２・墓石・寛永通宝	知覧町埋文報（4）・上田1995『ミュージアム知覧紀要』第１号
北方遺跡	さつま町中津川北方町	塚状遺構	薩摩町埋文報（４）
下伊倉城跡	東串良町新川西下伊倉	唐仁古墳群139号墳指定外７号墳の標注。中近世の塚の可能性あり	県教委埋文報（５０）
岡崎遺跡	鹿屋市串良町有里・岡崎	鹿児島大橋本助教授調査。岡崎２１号墳のとなり	
鎌石遺跡	志布志市志布志町帖鎌石	円形２基・寛永通寶・塚状を呈する	

第9節　モイドンに関する考察

（1）はじめに

日本全国で「森山」とよばれるものがある。多くは，大樹が少し茂る林状の森が小山のようになったものであるが，既に森ではなくなっていることも少なくない。また，そこでは「森神」を祀っていることが多い。

この「森神」についてはこれまでの研究を要約すると，一叢の森のなかで祭る神。その森のなかの1本の樹を神木とすることが多い。モイドンとかモリサンと呼称されるのは森に敬称の殿や様をつけたからである。森神は森の木を切られたり，森を汚されたりすると強く祟る神として恐れられることが特徴で，森荒神という名もしばしば聞かれる。祖霊の祭場であるのが森で，祖神を祭るのが森神とされてきたし，また農耕神であるとも説かれてきたという。しかし近年になってそれらの通説に対する批判的な研究もでてきている。

ところで，上記の中の「モイドン」とよばれるものは鹿児島に存在する。県内各地において，「モイドンさあ」「モイサマ」「森山」「森神社」などと呼ばれているものは，そのほとんどがいわゆる「モイドン」である。この「モイドン」については，これまで小野重朗氏と下野敏見氏らが研究している。次節では両氏の研究成果について整理したい。

（2）小野重郎氏と下野敏見氏の研究について

両者とも多くの論考があるが，ここではおおまかな問題だけあげる。まず，小野氏の研究からみていく。

小野氏は，モイドンを祖霊祭祀の場であったとして（小野1957ほか），精力的に鹿児島県内各地のモイドンの資料を収集し，研究を進めていた。

指宿地方の調査成果によれば，「社もなく神体も見当らないものが多」く，「神体らしい石や祠が見当らない」もの，「近くにある木が神体ではないかと思われる」ものなども存在するという（小野1955）。また，神体または神体らしき自然石を地上に置くもの，石の祠・石祠に似た石碑，木造の社をもつもの，五輪塔の頭部を神体するものなども存在することが明らかになっている。

しかしながら，1982年になって「森神自体が祖霊祭祀の場ではない」という趣旨の批判的研究に影響されたのか，自説を撤回してしまう（小野1982）。この問題について整理した下野氏によれば，「モイドンの問題は振り出しに戻った」（下野2004）ということになる。

次に，下野氏の研究についてみていくことにする。下野氏は「モイドンには石塔や五輪塔片をしばしば伴うが，それは森の精霊をはじめ山野にみちている精霊を寄せ集めて祭り込めてあることを裏書きするものであろう」（下野1984・2004）としている。具体的には，①「開拓に伴う開拓地の諸霊供養の場」②「開拓によって追われた樹霊の鎮まる依り代であり，また供養の標識である樹木の存在する場」③「霜月の収穫後の門の講中の新嘗儀礼の場」という３要素によって成立した聖地とする（下野1984・2004）。また，モイドンを含めた「森山」の成立については，その地の開拓を行った「本家の創設時代であって，大方は近世に属し，古くても中世の中～末頃のことであろう（下野1999・2004）」とした。

このように，現在のところ小野氏の調査成果については，先駆的なものがあることは間違いないが，こと研究の面では小野氏が自説を撤回したこともあるので，下野氏の方がまとまっているということになろう。上記の理由から，ここでは下野氏の説を支持することにしたい。

（3）花瀬の森河神について

かつて，上水流遺跡内には「モイドン」があったとされている（指宿高校1957）。それは，「内野門のモイヤマドン」で別名「花瀬の森河神」（こちらで刻銘あり）であるが，現在までに２度遷座（移設）されている。

「モイドン新事例集」（指宿高校1957）によれば，「万之瀬川の土手のすぐ内側の田の中にあり，15坪ほどの砂地に，槙の木や蘇鉄などを植えて，その中央に木製トタン屋根の高さ60㎝ほどの家を作り，中には人頭大の砂岩が地上におかれ，白紙を被せて緒でくくってある。このほか，この傍には，黒い祠型の60㎝ほどの高さの石碑があって『森河神』ときざんである。又このあたりに木の根などには小五輪塔がばらばらになって少くとも６基分が散らばっている。」とある。確かに，筆者が平成12年度に上水流遺跡の調査に携わっていた頃には，上記の状況が残っていた。しかし，実はこの状況は過去に河川改修のために一度遷座された後のことらしい。

続けて引用すると，「大正の頃にはもっと川の上流の方によった所にあり，この森山にはおそろしい位に大きい木が」存在しているとあるが，筆者が地元の方々に聞き取りを行った結果によれば「上流」という部分は誤りで，実際はこの時点の場所よりも下流にあったことがわかっている。その場所は，まさに本遺跡であり，遺跡範囲の北側の字が「森山」であることからも，もともとの「モイドン」は今回の調査範囲の中に存在していた可能性が強い。

ところで，Ｎ－９・10区では，周溝とみられる溝状遺構を伴う「塚」状の遺構が発見されている。この塚状遺構の頂上付近には，Ｔ－１とＴ－２の２基の土坑があるが，性格不明である。実はこの「塚」状遺構が，かつて「モイドン」が存在したといわれる場所に近いことから，筆者はこの「塚」状遺構こそかつて「モイドン」だったものではないかと考える。これまで，「モイドン」についての発掘調査はあまり行われてこなかった。それは，

モイドンが「祟る」といわれていることによるものが大であろう。また，たまたま調査される場合が少ないのかもしれない。表35に掲げたが，「モイドン」の調査を主目的とした発掘調査はこれまでないようである。ただし，結果として「森山」「森」などの地名のつく遺跡や，「モイドン」とされる場所を調査していたことは若干みられる。

また，表36には，塚状遺構の発掘例についても掲げた。上水流遺跡の「塚」状遺構と「モイドン」との関係について類例をみるためである。類例を探すと，肝付町野崎の津曲の森神社などは，塚状の様相を呈している。また，「モイドン」とは若干異なるが，南種子町中之下真所の「森山（ガロー山）」も，一見すると古墳のようにもみえるものである。これをもって，上水流遺跡の「塚」状遺構が「モイドン」であるとは言い切れない部分もあるが，可能性は十分にあるのではないだろうか。

再び遷座について話を移すが，２度目の遷座は，河川改修によるもので，平成12年度の上水流遺跡の調査後の平成14年頃に行われた。筆者が平成16年の４月末に調査した時点では，既に現在の場所に遷座した後だった。現在は，祠と３基の五輪塔の一部（空風輪）が，セメントに半分埋められた状態で固定され祀られている。

ところで，五輪塔からは寺院や墓地との関係が想起される。周辺の寺院についても関係がありそうである。『金峰町郷土史』によれば，花瀬には曹洞宗の「大年寺（花瀬字内田迫・上之馬場）」と「皇徳寺（花瀬字今城原）」さらに，「今城」があったという（金峰町1987・1989）。

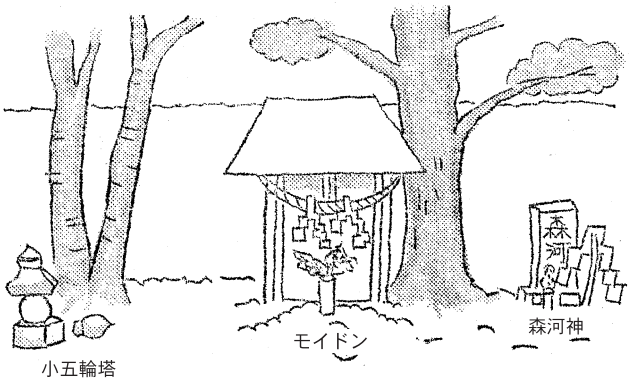
大年寺跡には，相州島津家三代（友久・運久・忠良）の石塔１基ずつと，代々住僧の無縫塔が22基残っている。なお，余談であるが，大年寺墓地のすぐ眼前には阿多用水路が流れている。

皇徳寺跡には，完全な形の逆修五輪塔１基と残欠数個がある。この寺は，南北朝の頃に後醍醐天皇の皇子懐良親王が５年間滞在されたと伝えられ，城館ではないが「今城」と呼ばれている。また，この場所には「男塚」「女塚」「諏訪神社（天和元年【1684年】再興の棟札あり）」も存在する。

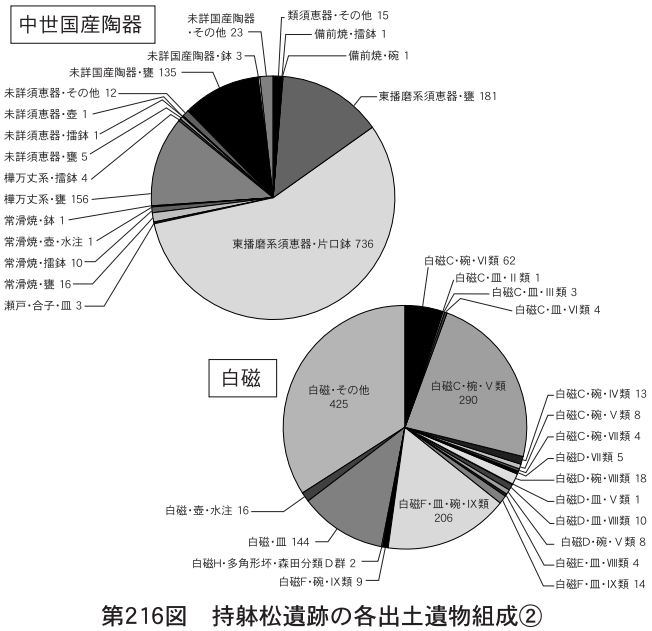
この２つの寺院は，明らかでないがおそらくは中世中頃～近世初頭に開基されたと考えられるので，下野氏がモイドンの創設期とした時期とも合致する。今後，寺院や集落などとの関係も加味しながら上水流遺跡のモイドンについても検討する必要がある。

引用・参考文献

下野敏見1984「森山信仰の研究　－モイドンとガローヤマの成立について－」『鹿児島大学人文学科論集』第19号
下野敏見1999「日本の森山信仰の研究」『鹿児島純心女子大学国際言語文化研究』第５号
下野敏見2004『隼人の国の民俗誌Ⅰ　田の神と森山の神』岩田書院
徳丸亞木1999『森の信仰　－森や樹木にやどる神々－』　尚古集成館講座・講演集№40　尚古集成館
徳丸亞木2002『「森神信仰」の歴史民俗学的研究』東京堂出版
指宿高校郷土研究部1956「指宿地方のモイドンの調査」　『薩南民俗』８号　指宿高校郷土研究部
指宿高校郷土研究部1957「モイドン新事例集」『薩南民俗』10号　指宿高校郷土研究部
小野重朗1955「モイドン雑記」『鹿児島民俗』８号　鹿児島民俗学会
小野重朗1957「モイドン概説」『薩南民俗』10号　指宿高校郷土研究部
小野重朗1958「指宿神社の母胎　－モイドンをめぐって」『鹿児島民俗』19号
小野重朗1963「ガローとモリの二元性」『種子島民俗』16号　中種子高校地歴研究部
小野重朗1966「大隅のモイドン」『民俗研究』３号　鹿児島民俗学会
小野重朗1968「鹿児島のモイドン」『鹿児島県文化財調査報告書』13　鹿児島県教育委員会
小野重朗1970「森山の分布構造」『民俗研究』５号　鹿児島民俗学会
小野重朗1972『南九州の民俗神』南日本出版文化協会
小野重朗1982『奄美民俗文化の研究』法政大学出版局
小野重朗1992『南日本の民俗文化』第２巻神々と信仰　小野重朗著作集　第一書房
谷川健一編1995日本民俗文化資料集成第21巻『森の神の民俗誌』三一書房
福原敏男1996「森神信仰としての里神」『国立歴史民俗博物館研究報告』第69集　国立歴史民俗博物館
北園博1985「肝属東南部における祠堂」『大隅』第27号　大隅史談会
野田千尋1959「大隅半島高山町森神社のツナマキ祭り」『日本民俗学』第9号　日本民俗学会
金峰町郷土史編さん委員会1987・1989『金峰町郷土史』上・下巻



第215図　遷座前の内野門のモイドン　（指宿高校1957より引用）



第216図　持躰松遺跡の各出土遺物組成②

第10節　上水流遺跡とその周辺について

（1）　はじめに

阿多新田川は，地元では御新田川用水路と呼ばれる用水路で，川辺町田部田の轟堰から万之瀬川の水を引くものである（現在は，その途中である南さつま市金峰町白川からも引いている）。そこからは，万之瀬川右岸沿いに南さつま市金峰町宮崎まで引き，堀川に落とす灌漑用水路である。現在の総延長は，10,819㎞で灌漑面積が200haに及ぶ。

この用水路は，島津伊織久近が領有していた阿多の一部の半月ヶ原の荒地（中岳の西麓，宮崎のシラス台地）を開拓して禄不足を補うために開削させたといわれる。『鹿児島県維新前土木史』（県土木部1933）には明治年間に（江戸期の石碑が劣化したため）作り直された新田川工事記念碑の内容が掲載されている。それによれば，「川辺町大字田部田字越ヶ原に於いて万之瀬川に堰堤を築く。その位置は，轟瀑の上にして，右岸に取入口を設け幅十四尺，水深五尺の水路を穿ち，川に沿うて北行十町にして右折し，渓澗に入ること五町，左折隧道を穿って阿多村大字白川に入り西北に向い，又北流し字樋渡の下に達し，白川の渓流を横断し大迂回して西南に転行し，丘阜の麓に沿うて蜿蜒環流阿多の平野に出て堀川に注ぐ。水路亘長二里十二町，此間隧道三十箇所在り。灌漑面積二百七拾町歩，落成は享保十二年なり，起工の年は確かならざれども左に記する所に拠り享保九年ならむかと思われる。（中略）新田川開鑿に伴うて原野を開墾し或は畑地を七百石に増加せしめたり」とある。

（2）　島津久近について

島津久近は，『金峰町史』などによれば今和泉島津家とされている。ただし，これには疑問が残る。阿多御新田川が完成したのは，享保10（1725）年とされており，今和泉家の再興された延享２（1745）年よりもさかのぼることとなってしまう。

そこで，島津久近について調べてみることとした。まず，今和泉家を調べてみると，島津久近という人物はどこにも出てこなかった。どうやら，今和泉とは関係ないようである。『薩陽武鑑』（尚古集成館1990）によれば，薩州家の島津用久を元祖とする「薩州家准次男家」の，藤原忠榮（薩州家六代義虎の四男）を祖とした５代目に「久近（伊織　織部　権太夫　常山）」がある。

しかし，これだけでは年代が明らかではないので，『鹿児島県史料　旧記雑録拾遺　諸氏系譜三』も併せて参照した。それによれば，「『久近』菊千代　彌市郎　伊織」とあった。①誕生は延宝３（1675）年で，母は島津久守の娘　②元禄９（1696）年に薩州中郷の地頭に補任される　③正徳元年（1711）年太守吉貴公から，次男以下に「岩越」の姓を賜う　⑤同年，太守吉貴公から，嫡子は代々「久」の字を使ってよいことが許され，次男以下には「用」の字を賜る。　ということが明らかとなった。

また，『鹿児島県史』第２巻（鹿児島県1940）には，日置家島津久健・宮之城家島津久方・都城家島津久龍と並んで島津久近が大身分とされたとある。

いずれにしても，島津一族である薩州家とはいえ准次男家としては格別の扱いを受けていることが上記の資料から窺える。しかしながら，「今和泉」との関係は明らかではない。今後，この問題については詳細な検討が必要であろう。

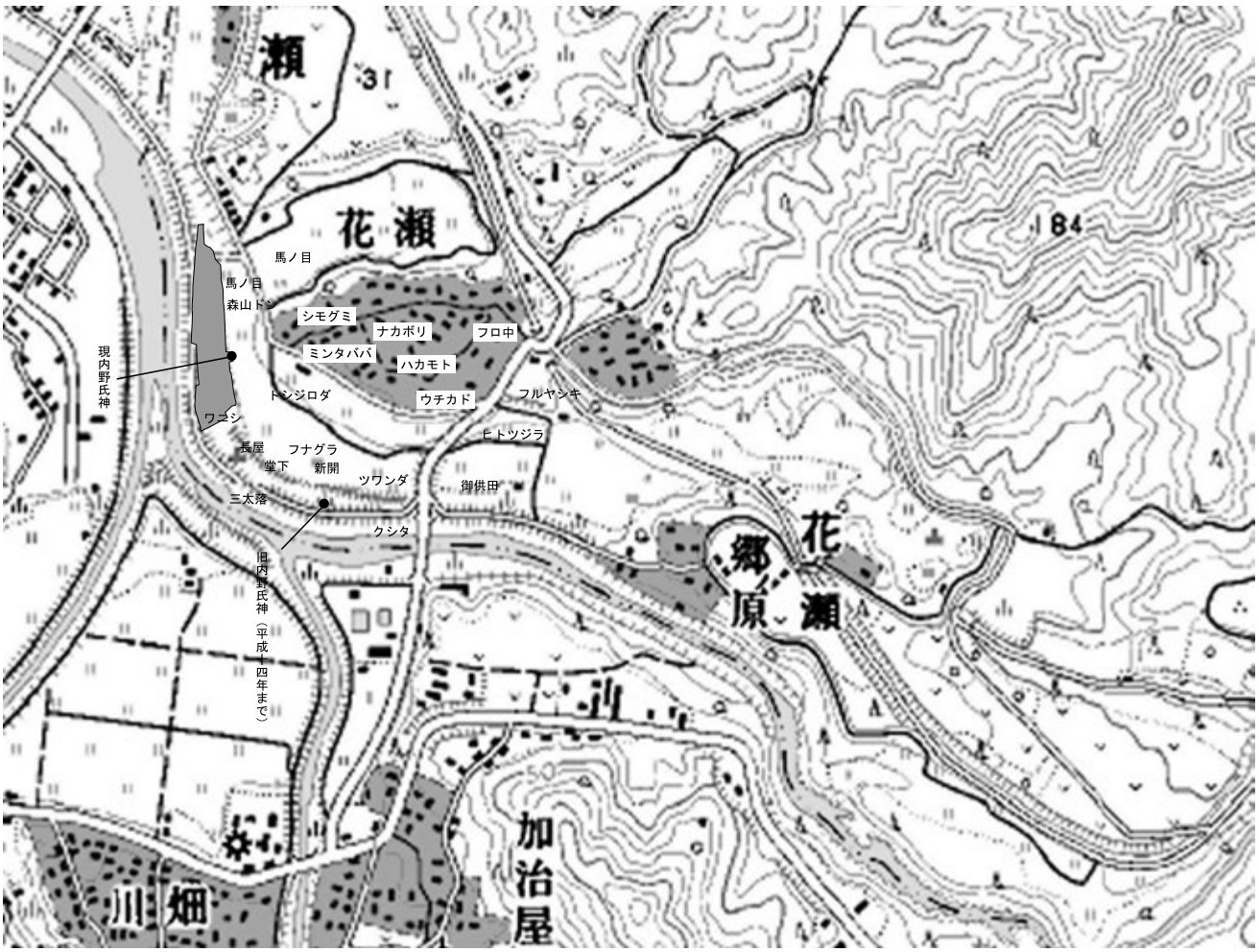
（3）　阿多郷と花瀬村

花瀬村は，『鹿児島県の地名　日本歴史地名大系第47巻』（芳即正・五味克夫編1998）によれば，「当村の北西部は阿多郷とよばれ，中世の山城鶴之城（別名阿多城・花瀬城）跡付近に地頭仮屋が置かれ，阿多郷の行政の中心であった。」とある。

阿多についての絵図としては，『阿多郡郷図』（天保８【1837】年作成・東京大学史料編纂所所蔵）がある。この中には，上水流遺跡付近とみられる場所に「享保13【1728】年より御新田開　御新田　鮎受原」とある（柳原2005）。また，直前の川の中には「山中渕立神高さ十八尋（約27～33m程度）」および「岩瀬戸中須」の記述がある。

まず，前者（御新田）についてだが，通常この地域で「御新田」といえば，持躰松・渡畑・芝原遺跡が存在する宮崎の水田を指す。これと対照的に，上水流遺跡周辺は現在「御新田」とは呼ばれていない。ただし，「鮎受原」という地名は小字に残っており，少なくとも享保年間に開発された「新田」という意味で「御新田」と記述されたのであろう。近世以前の集落が現在水田である東側にも広がっていたことが上水流Ｃ・Ｄ遺跡の調査で明らかである（金峰町2003）。また，調査区域の北東側（Ｔ・Ｕ－６区）や中央部（Ｊ・Ｋ・Ｌ－７・８区）が人為的に造成された可能性が高いということも考慮すると，遺跡廃絶後に「新田」となったことが想定されよう。

後者については，上水流遺跡から上流約１㎞の「古勢（こせ）の滝」の河岸の崖に「立神」が存在することを知り（下野1994を参考とした），実際にその場所に男根状に屹立する巨岩を確認した。この事実から，「山中淵立神」と「岩瀬戸中須」については本来よりも下流にずれて書かれた可能性があることが判明した。ただし，万之瀬川の流路については非常に正確に書かれているのでこの「ずれ」については検討を要するといえよう。
なお，前者の「鮎受原」については上水流遺跡の隣接地であるので，ずれなどの間違いはないようである。



第217図　本遺跡周辺の孫字

参考文献

柳原敏昭2005「中世万之瀬川下流地域の様相について　－近世絵図を手がかりとして－」羽下徳彦編『中世の地域と宗教』吉川弘文館

芳　即正・五味克夫編1998『鹿児島県の地名　日本歴史地名大系第47巻』平凡社

鹿児島県歴史資料センター黎明館1992　『鹿児島県史料　旧記雑録拾遺　諸氏系譜三』　鹿児島県

尚古集成館1990『薩陽武鑑』

鹿児島県土木部1933 『鹿児島県維新前土木史』

下野敏見1991「南薩心象風景スケッチ」『加世田市の民俗』鹿児島大学基層文化研究室・加世田市教育委員会

榮喜久元1994『かごしま・川紀行』かごしま文庫⑮　春苑堂

（上床　真）

第11節　上水流遺跡出土の鉄関係遺物について

⑴　はじめに

上水流遺跡で出土した鉄関係遺物には，明らかな利器のほか，本来の形状や用途がわからない棒状や板状，短冊状の不定形の破片がある。今回，それらについて桃崎祐輔氏（福岡大学准教授）に御教示を得ることができた。以下にその時の御教示内容を含めた本遺跡の鉄関連遺物の概要を述べる。

⑵　鉄関連の遺構・遺物について

本遺跡出土の鉄関連遺物については，理化学的分析を行っていないので，それらが銑鉄・鋼塊のいずれか判然としないが，曲面をなすものは鉄鍋のような鋳鉄（銑鉄）片ではないかと考えられる。また棒状や板状，短冊状の鋼質のものが10点以上あり，長いものは10㎝以上あるが，釘・杭・馬鍬などではない。本遺跡では，多量の鉄滓（椀形鉄滓・流状滓），金床石や槌の可能性のある敲打痕の

ある河原石，炉跡の可能性のある土坑（土坑Ａ－２・３・４）などがある。このような状況を総合すると，鉄鍋もしくは板状・短冊状の銑鉄素材を搬入し，大鍛冶で鉄素材を生産し，小鍛冶で鉄製品を制作するような環境が考えられる。これらの鉄関係遺物については，今後は理化学的分析を踏まえた検討が必要であろう。

新田栄治氏の研究によれば，中国では宋代のエネルギー革命により鉄生産量が急増し，大量の鉄が輸出商品として東南アジアに輸出された。鉄鍋や鉄鼎の形で輸出されたものもかなりの量に上ったことは宮崎市定氏により指摘されている（宮崎1957）。また，『島夷誌略』（註１）に紹介された鉄及び鉄製品は，このような事情を反映している。東南アジア諸国が大量生産による良質安価な中国鉄を大量に輸入するようになっていたことが窺われる。生産量と品質で東南アジア鉄が中国鉄に劣っていたか，あるいは東南アジア鉄の安定的供給が困難であったことが要因であろう。クメール時代の全盛期が終わる頃（13～14世紀頃），東南アジアへ中国で大量生産された安価良質な鉄の大量輸入があった。輸入鉄は様々な鉄製品に加工されたが，製塩用鉄釜は従来製塩が行われていなかった地方にまで普及した。その結果，燃料と塩水がある限り容易に製塩が可能になった。そのことが東北タイに代表される内陸部の在来製塩の市場を壊滅させることになった（新田栄治2006・2007）。

こうした東南アジアの状況を踏まえれば，九州地方でも古代に数多くあった砂鉄原料の製鉄遺跡が中世になって消滅し，また製塩遺跡の消長についても未解明の部分があり，さらに多くの中世遺跡から鉄滓が出土するにもかかわらず，その量は非常に少なく，多くてもせいぜい大鍛冶に伴うもので，製鉄規模のものが見当たらない。という状況を説明できる可能性がある。つまり，宋からの安価な輸入鉄が在来鉄を駆逐し，地域社会は中国からの輸入銑鉄素材を棒状鋼に加工し，流通させる体制へと移行していったことを推測させる。

これまでにも，国産の鉄材料のみで鉄生産がなされていないであろうことは指摘されてきた(廣井1996)が，東アジアを視界においた指摘は近年になってのものである。

⑶　むすびにかえて

本遺跡と類似する資料が金丸城跡（大崎町）にある。長さ20㎝の釘状製品がそれである。

桃崎氏は「銑鉄は4％程度の炭素を含むのに対し，釘状品は0.2％の低炭素鋼で，類例との比較から，棒状鉄素材とみられ、半製品の素材鋼として流通したと考えられる。ひとつの遺跡から銑鉄・鋼の半製品があわせて確認され，一貫工程が推定できることは極めて稀である」（桃崎2007）と述べている。

本遺跡で出土した短冊状の鉄製品には穿孔がみられる（５・７）。これは流通単位や流通形態を示す可能性がある。

また，金丸城跡では，炉状遺構が19基発見され，遺物も16・17世紀を中心として古くは13・14世紀からみられるので，本遺跡と共通する部分が多い。今後，本遺跡についてさらに掘り下げる場合に参考となるであろう。

本稿は，桃崎氏の御教示がなければあり得なかった。桃崎祐輔氏に深く感謝してこの稿を閉じたい。

註

1　1350年に元の汪大淵が東南アジアで実際に見聞したことについて編纂した史書。14世紀中頃の東南アジア各地の地理や特産物，支配者，人々の風俗習慣，中国との関係などを国や島ごとに紹介している。

参考文献

新田栄治2006「南海貿易史料にみる南宋一元の東南アジアと塩鉄」小野正敏編『前近代の東アジア海域における唐物と南蛮物の交易とその意義』（科研報告書）国立歴史民族博物館

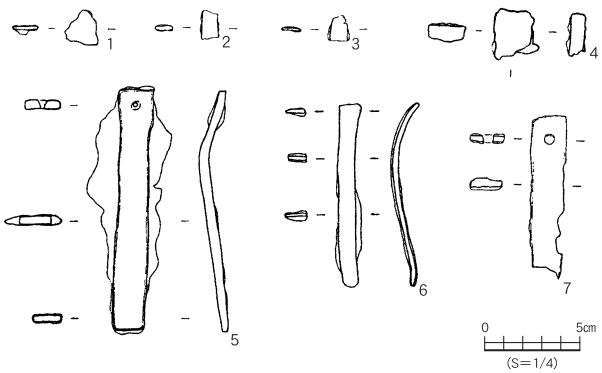
新田栄治2007「6.東南アジアの鉄文化-タイを中心として-」『第1回　東アジア鉄文化研究会　東アジアにおける鉄文化の起源と伝播に関する国際シンポジウム』（資料集）　東アジアにおける鉄文化の起源と伝播に関する国際シンポジウム実行委員会　北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）　pp.119-140.

宮崎市定1957「シナの鉄について」『史林』40－６

桃崎祐輔2007「中世遺跡出土資料からみた鉄精錬工程とその意義－福岡県二丈町森田遺跡・鹿児島県大崎町金丸城資料を中心に－」『福岡大学金属遺物談話会　第23回例会レジュメ』

廣井雄一1996「中世における刀鍛冶の居住地」『季刊　考古学』第57号　雄山閣

（上床　真）



第218図　上水流遺跡出土の鉄関連遺物

付編１　東アジア世界を見た龍顔・薩摩における茶の湯文化
－上水流遺跡を定点として－

１　上水流遺跡の性格

（１）立地と遺構から見て

当遺跡は，龍門すなわち河津(港)である。そのすぐ下流には12・13世紀代の中国陶磁器を多量に出土した持躰松遺跡が存在する。これらの港は，河口から約5㎞の内陸部に位置することを考えると私貿易港と推定出来る。

（２）出土陶磁器に見る画期と茶の湯関係品

出土した陶磁器を質・量から判断して，4期の画期を設定した。そこからは，断続的な隆盛が想定出来る。

第Ⅰ期：12世紀第４四半期～13世紀第１四半期

第Ⅱ期：14世紀第3･4四半期

第Ⅲ期：15世紀第3･4四半期

第Ⅳ期：16世紀第４四半期後半～17世紀初頭

特に，茶の湯関係品に注目したい。第Ⅲで倣建窯系天目茶碗，瀬戸美濃窯系天目茶碗，Ⅳ期で志野唐津茶碗，黄天目唐津茶碗，15世紀後半代の在地系瓦質茶釜３個体，16世紀前半代の在地系土師質茶釜1個体，15～17世紀の8個体で3種の地元産石材で製作された茶臼が人為的に欠損され，建物群付近の8遺構に廃棄されて出土した。

２　禅林・禅僧・茶人の動向

（１）国際情報蒐集基地の禅寺

禅寺は，港に隣接して建立されていることが多い。それは，禅寺が東アジア貿易に深く関与していた証明である。そこはいうまでもなく誰もが出入り自由な国際情報基地であり，下克上を許さない禅院茶礼の発進地である。

（２）外交官としての禅僧

彼等は中国と日本の貿易商人を仲介し，茶の湯文化の発進者である。博多の聖福寺を建立した臨済宗栄西禅師は、黒之瀬戸で防御された出水市野田町に1194年島津忠久が創建した感応禅寺を開山し米ノ津を管理した。元臨済宗南禅寺の法嗣で1450年に渡海して琉球国王尚泰久の茶頭となった芥隠承琥禅師は，本遺跡の上流である南九州市川辺町清水の宝福寺から渡海した。川辺町には、福建・広東の民間信仰である石敢当が4ヶ所残る。1467年遣明船大内船で雪舟と渡明した臨済宗禅師桂庵玄樹は，1473年帰国するものの応仁の乱を避けて島津忠昌の招聘を受けて1478年日置市東市来町竜雲寺に入り，後に島津忠昌が開山した桂樹院(島陰寺)に移った人物である。伊藤幸司氏は，桂庵玄樹とその孫の文之玄昌は，島津氏の外交文書起草や外交政策に深く関与していたと論じている。金峰町には、禅寺である島津友久の菩提寺の太平山常珠寺正春庵や報恩寺、永泉庵，南源庵，梅春庵，太俊庵，1535年移築して来た金蔵寺，吸江和尚開山の（曹洞宗）大年寺が存在した。なお，多夫施神社は，養老年間に唐僧道慈師が建立したとされる。鹿児島市曹洞宗福昌寺を1394年島津元久が建立したように県下には，44の禅寺が現存する。尚，本遺跡に隣接する阿多と白川地域が薩摩における12世紀からの茶業発祥地という一説は，茶都・福建省安渓と同じく茶の栽培に適した霧によるのだろうか。

（３）堺茶人閔氏喜安入道蕃元が琉球国へ

千利休の系統を継承し島津義久の許可を得て慶長五年(1600)琉球国尚寧王の茶頭となるが，慶長14年(1609)島津氏の琉球国侵攻により尚寧王と共に捕虜となり薩摩に戻ると『喜安日記』(筑波大学附属図書館蔵)は伝える。15世紀後半代以降の禅林関係から茶の湯が島津氏に定着していたからこそ彼は受け入られと考えられる。

３　歴史資料に見る港

（１）『海東諸国紀』(朝鮮成宗２・1471年編)の情報力「三隅浦津」には2本の河川が記されており，「川内川」と「万之瀬川」の存在を意図的に描写している。『同上』に「薩摩州　硫黄を産出す」とあることから明，朝鮮王朝，琉球王国への軍事物資港として注目されていた。1591～1598年描写年代の『河盛家所蔵日本地図屏風』も同じく河川を記す。上水流遺跡の主たる輸出物は硫黄であり，硫黄を輸出するためにつくられたと考える。その硫黄は、上流や近辺の温泉地帯から採集されたのだろうか。

（２）堺の『河盛家所蔵世界地図屏風』がもつ歴史性

この屏風は，文禄元年(1592)豊臣秀吉が長崎・京都・堺の貿易商に対する朱印船貿易の許可を権威付ける屏風である。秀吉が堺から移行しようとした外港は，その屏風に見る出発港の長崎である。交趾からは，「黒砂糖・蜜・胡椒・金」を輸入している。本遺跡からは，16世紀末葉～17世紀初頭の中部ベトナム・ミースエン・フックティク窯系長胴壺片が2個体分出土した。この長胴壺は交趾からの上記の輸入容器であり，茶の湯の切溜花入に再利用されたものである。また，同時代出土の福建省漳州窯系青花碗・皿は、この屏風に「漳州　…白砂糖黒砂糖皿茶碗手之悪物出」との記載から頷ける。万之瀬川河口の南さつま市加世田寺園家には，福建海商の海神・媽祖像と共に奉納された16世紀第3四半期の華南三彩クンディーと果実型水注がある。出土した福建省閩南沿海窯系白磁Ⅳ類碗や同安窯系青磁碗(13世紀第1四半期)、漳州窯系青花と媽祖像の存在は、福建海商との深い関係を意味している。

４　島津氏と堺商人との連携

特に，遣明船貿易に関与していた堺市臨済宗海会禅寺

に帰依していた堺貿易商達は1469年遣明船堺初入港を機に東中国海太平洋貿易路を再構築した。文明3年(1471)「右衛門尉行頼奉書」(島津文書)は，島津氏に幕府印判のない船が堺から琉球国へ向う船を拒否するように依頼している。文明6年(1474)「室町幕府奉行人連署奉書」(島津文書)は，幕府が琉球国への渡海船と遣明船の中国渡海で島津氏に取り計らいを命令した。それは，1476年堺貿易商湯川宣阿らが請負った遣明船を出帆するための根回しをした文書である。両資料は，島津氏を幕府の東アジア貿易や外交政策の代理人としての位置付けを意味する。さらに，天文22年(1551)「陶晴賢書状案」(大願寺蔵)は，堺の濱より薩摩への頻繁な商業目的の往来を物語る。そして，禅の精神を堅持した大茶人であり堺の政商山上宗二は，屋号が薩摩屋とその茶会記に記するように本店を薩摩に置きながら堺に進出して貿易システムを構築していた。他に，島津氏との関係を補強するものがある。島津氏の家紋である「丸に十文字」と同じ紋が堺市臨済宗大徳寺派南宗禅寺本源院の紋である。その寺には，中国禅僧が伝えたとされる位牌の風習に従い高さ約60㎝の二柱の島津氏の黒漆製位牌が安置されている。幼年に京都・臨済宗相国寺に入った冷泉為純の子で近世朱子学の祖とされ，朝鮮朱子学者姜沆の弟子，藤原惺窩(1561～1619)の日記では，1596年内之浦に来ていた明船の船主呉我洲が泉州人と記す。また，肝付町波見（志布志湾）の役人である山下宗安の居館で「…十器一陶之茶具盤飣…」と茶道具を見たとある。島津氏と堺とは，貿易や茶の湯禅林において極めて密接な関係にあった。

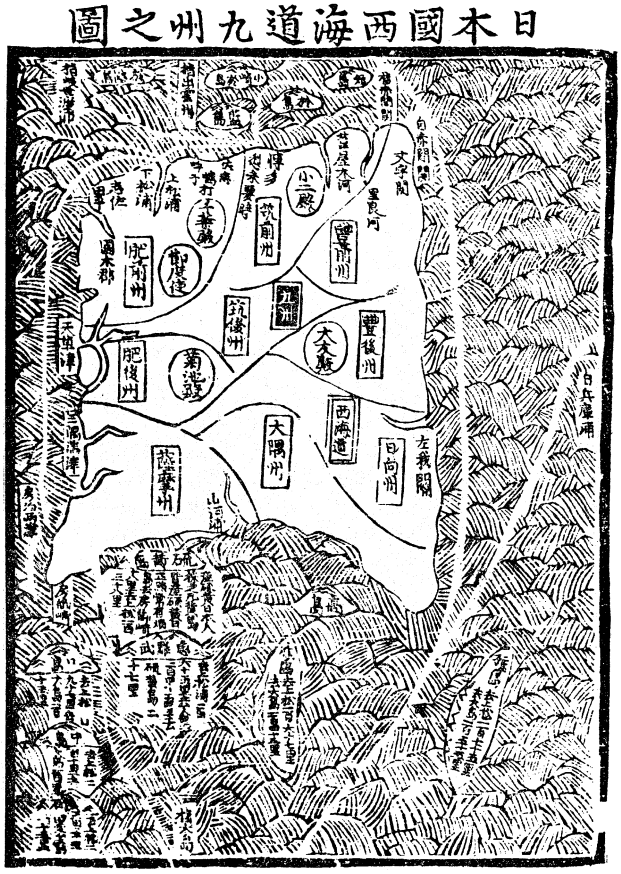
5　まとめ

本遺跡出土の陶磁器や茶の湯関係品は，混乱と安定が交錯する日本歴史や島津氏の歴史と無関係ではない。第Ⅰ期には，平安末葉～鎌倉幕府成立過程における混乱期の1186年摂関家近衛家の惟宗忠久が島津荘の惣地頭に任命された。薩摩・大隅・日向の守護となるのが1197年のことである。第Ⅱ期は，南北朝動乱期の1333・1363年島津貞久とその子が薩摩・大隅・日向の守護職となる安定期である。第Ⅲ期は応仁の乱前後で，島津氏分家の自立と一族の連合が見られる中で禅僧芥隠承琥・桂庵玄樹が島津氏の外交政策に重要な役割を果たした。第Ⅳ期は1574年大隅を支配したが，近世萌芽期の1587年島津義久が博多や堺商人の後方支援を受けた豊臣秀吉に降伏した。以上から，日本の東アジア・東南アジア貿易の要であった薩摩における禅僧の動向，京都や堺茶の湯文化の伝播を示す本遺跡は，島津氏の東アジア外交を支えた歴史的に重要な貿易港である。そして，一片の陶磁器の光には歴史的な意味がある。本文作成にあたり，新東晃一，池畑耕一，中村耕治，上床真氏をはじめとする鹿児島県立埋蔵文化財センターの方々の御教授を賜った。

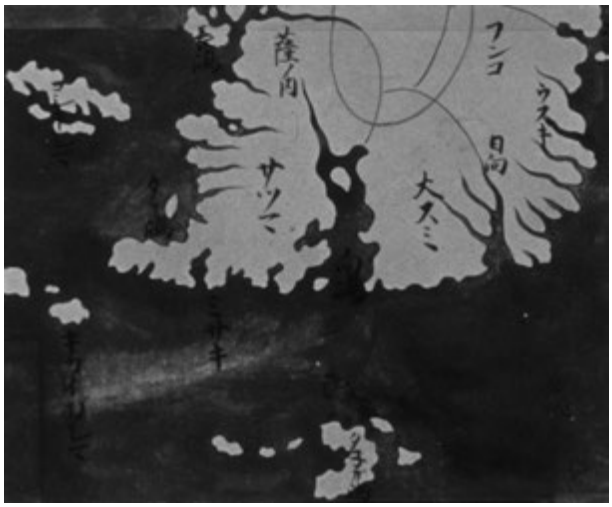
引用・参考文献

谷川健一編1981「海東諸国紀」「喜安日記」『日本庶民生活史料集成 第27巻 三国交流誌』三一書房
伊藤幸司2002「島津氏の外交文書起草と禅僧」『中世日本の外交と禅宗』吉川弘文館
上東克彦2004「鹿児島県薩摩半島に伝世された華南三彩　ークンディと果実形水注ー」『貿易陶磁研究』№.24　日本貿易陶磁研究会
森村健一2007「福建・琉球・堺における禅林と海商　15世紀後半における東中国海太平洋禅林ネットワーク」『南島考古』第26号 多和田真淳先生生誕百年記念特集号　沖縄考古学会
高柳光壽1930「藤原惺窩傳補遺」『国史学』第3号　国史学会

（森村健一）



第219図　『海東諸国紀』（日本庶民生活資料集より抜粋）



第220図　『河盛家所蔵日本地図屏風』堺文概報第82冊より抜粋

付編２　鹿児島県南さつま市上水流遺跡出土人骨

１　はじめに

上水流遺跡からは，中世後半以降の土坑墓が数基発見されている。その中には人骨が残っているものもあった。以下にその特徴をあげる。

２　各人骨について

・18号土坑墓出土人骨

右の側頭部（右頭頂骨・右側頭骨）が遺存する。性別は不明である。観察できる頭蓋縫合は内板外板とも癒合していない。年齢もはっきりしないが、少なくとも12歳よりも若いことはない。

・17号土坑墓出土人骨

右上下顎の小臼歯以降の歯冠が、すべて遊離歯の状態で遺存しているだけである。歯式は以下の通りである。

⑧７６　４｜
⑧７６５４｜

上下顎の第三大臼歯は咬耗していないことから未萌出の状態であったことがわかる。他の遺存している歯の咬耗はMartinの１度であり、年齢は12～14歳の若年と推測される。性別は不明である。遺存する上顎の大臼歯3本にカラベリ結節は認められない。下顎右第二大臼歯は5咬頭である。

・10号土坑墓出土人骨

右側頭骨から後頭骨にかけての部分が遺存する。外後頭隆起が大きいことから男性と考えられる。観察できるラムダ縫合は内板外板とも癒合していない。年齢は成人に達していた可能性が高い。

・6号土坑墓（桶墓）出土人骨

四肢骨と考えられる、長さ5mm未満の小骨片が十数片遺存しているだけである。年齢も、性別も不明である。

・11号土坑墓出土人骨

脳頭蓋の右半分と下顎が遺存している。右の側頭骨の乳様突起は小さく、女性である。歯は下顎の歯が遺存している。歯式は以下の通りである。咬耗は主にMartinの2度であり、壮年と判断される。

７６５４３２〇｜１〇〇

脳頭蓋は左半分が遺存していないが、前後径は長く、長頭であったはずである。

・15号土坑墓出土人骨

全身の骨が遺存しているが、保存状態はよくない。寛永通宝が副葬されていた。頭蓋は脳頭蓋の右半分が遺存している。右の側頭骨の乳様突起は大きく、男性である。年齢は頭蓋縫合の外板が癒合していないことから、壮年の可能性が高い。脳頭蓋は左半分が遺存していないが、前後径は長く、長頭であったはずである。

四肢骨は左右の大腿骨に柱状形成が認められ、激しい運動をしていたことがわかる。

３　おわりに

南九州から出土した中世～近世人の脳頭蓋は長頭を示す個体が多いが、南九州の現代人は短頭で、日本列島の中でも短頭傾向が著しいことで知られている。鹿児島県南さつま市上水流遺跡から出土した人骨も中世～近世人骨は長頭であった可能性が考えられる。南九州の近世人には長頭が一般的であり、短頭化は明治以降、短期間に進展した可能性がより強くなったという説を補強する資料となった。今後、中世から近代にかけての古人骨資料の出土が増加し、南九州における近代までの頭蓋形質の時代変化の実態が一層明らかになることを期待したい。

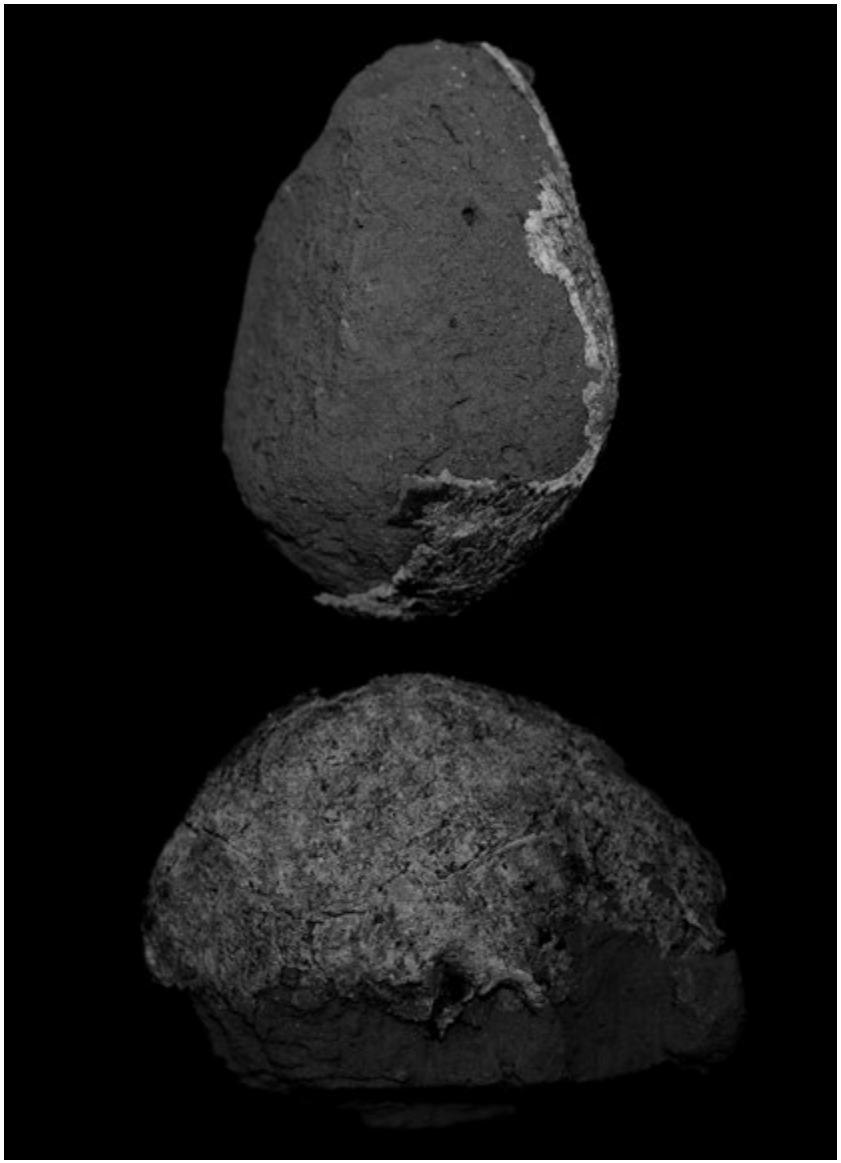
【参考文献】

Martin, R. & Knussmann, R（1988）*Anthropologie*. G. Fischer, Stuttgart

（竹中正巳）



図版55　15号土坑墓出土男性壮年人骨
（上：上面観　下：右側面観）



図版54　11号土坑墓出土女性壮年人骨
（上：上面観　下：右側面観）

観　察　表

表37　古墳時代住居内出土遺物観察表(1)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
10		1	ー括	甕	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		2	240 242 244 245 206-4	甕	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	19 196 198 199 200 201 202 206 235	甕	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	6	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		5	184 185	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	ー括	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		7	66	甕	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		8	ー括	壷	茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		9	241 246 206-2 206-3 206-4 206-5 24-8	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		10	90 179	壷	茶褐色	黄茶褐色	不明	不明	○	○					
11		11	76 87 106	壷	茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		12	207	鉢	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ミガキ	○	○					
		13	ー括	鉢	黄茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		14	ー括	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ミガキ	○	○					
		15	ー括	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		16	3	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		17	81	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		18	16	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		19	ー括	高坏	白茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		20	7	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		21	ー括	高坏	赤茶褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		22	234	高坏	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		23	233	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		24	ー括	高坏	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	ミガキ	不明	○	○					
		25	78	高坏	赤茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		26	74	坩	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ後ミガキ	○	○					
		27	ー括	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		28	ー括	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		29	60	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		30	190 209 215 230 240 242	坩	赤褐色	赤黄褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		31	24	手捏	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		32	ー括	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		33	ー括	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
13	2	1	52	甕	暗茶褐色	褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		2	6	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		3	4	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		4	15	甕					○	○					
		5	41 42	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	46	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		7	ー括	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		8	23	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		9	ー括	鉢	黄茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		10	11	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		11	44	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		12	30	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
16	3	1	14	甕	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		2	ー括	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	29 44	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		4	ー括	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	27	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	67	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	10	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	6 24 26 30 46	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		9	ー括	高坏	茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○		○	○		
		10	3	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		11	15 16 21	坩	赤褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○					
		12	2 17 34 70	坩	赤褐色	赤茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		13	19	坩	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		14	45	手捏	赤茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		15	31 36 37 38 40 41 50 52 53 54 55	須恵器	灰褐色	灰褐色	ー	ー							
		16	62	須恵器	灰褐色	灰褐色	ー	ー	○	○					
19	4	1	27	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		2	36	甕	暗灰褐色	暗灰褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	57	甕	黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	ー括	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	52	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ケズリ	○	○					
		6	39	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	30	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		8	38 51	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		9	42 45 46 47	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		10	50	坩	赤茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		11	34	小型	淡黄茶褐色	淡灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		12	23	手捏	赤褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		13	6	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
23	5	1	923 1065 1142 1479 1728 1759 1760 1968 1980 2324 2329 2357 2376 2380 2567	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		2	935 969 1731 1762 2198 2322 2323 2629 2712	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		3	670	甕	黄茶褐色	淡黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		4	703 1426	甕	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○	○	
		5	1192 1438 2127	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					

表38　古墳時代住居内出土遺物観察表(2)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
24	5	6	2034 2079 2203 2204 2266 2494 2509 2518 2519	甕	黒褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	1063 1656 2342	甕	黒褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	401 1873	甕	暗茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
		9	663 1442 1485 1592 1593 1594 1824 1834	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		10	857	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	700	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		12	1001 1816	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	768	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		14	793	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		15	1824	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		16	1697	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		17	658	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		18	210 1584 1805 1883	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		19	1458 1530	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		20	2008	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
25		21	21 159 181 579 1262 1280 1346 1560 1561 1567 1571 1841 1842 1861 1991 2109 2111 2114 2128 2184 2190 2684	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		22	2676 2920	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○				○	
		23	1865 1869	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		24	789 988 2432	壷	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		25	2756	壷	茶褐色	灰茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		26	417	壷	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		27	1080 1130 2368 2370 2453 2525	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		28	784 984 1136 1295 1392 2321 2704 2720	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		29	152 668 669 1020 1029	鉢	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
26		30	267 924 929 1123 1267 1296 1602 1876 2015 2020 2088 2096 2097 2156 2178 2655 2700	鉢	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		31	772 773 1047 1086 1290 1291 1443 1544 1545 1815	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		32	2170 2171 2181 2335	鉢	黒褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		33	800 868	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ後ナデ	○	○		○			
		34	1408	鉢	赤茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		35	1558 1827 1829 2382	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		36	711	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		37	138 141 406 440 570 589 657 1044 1349	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					火受
		38	1200	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		39	767 1167 1767 1771 1786 1794 1794 2200 2207 2374 2377 2416 2417 2419 2741	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		40	272 2708	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		41	2514 2520 2709	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		42	一括	高坏	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		43	1209	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		44	2085 2093 2224 2331	高坏	灰茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		45	875	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○	○		
		46	990	高坏	暗褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		47	1505 2117	高坏	赤褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○			
		48	2236 2315	高坏	にぶい赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		49	2732	高坏	暗茶褐色	茶褐色	ケズリ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○			○		
		50	2568	高坏	赤褐色	明黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
27		51	419 464 590 601 651 786 792 1045 2045 2570 2624 2628	坩	明茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		52	59 771 780 1081 1101 1281 1284 1286 1544 1589 1591 1604 1605 2172	坩	淡桃色	淡桃色	ミガキ	ナデ	○	○					
		53	184 720 721 972 973 974 975 976 977 978 979 1672 2227 2546 2548 2549	坩	明茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		54	710	坩	灰褐色	灰褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		55	1433 1436 1437 2172 2187 2231 2243 2503	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○		○			
		56	1043 1587	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○			○		
		57	948 951	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		58	246 1916	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
31	6	1	141 320 404 485 1047 1054 1144 1189 1195	甕	明茶褐色	明茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	463 477	甕	黒褐色	暗黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		3	1156	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		4	335 489 1059 1156	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		5	408 1051 1156	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		6	19 260 363 1072	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		7	1045	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					

表39　古墳時代住居内出土遺物観察表(3)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
31		8	416	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○				○	
		9	125	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
32		10	427	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	107 128	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		12	195 260 261 263 284 1009	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		13	260 374	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		14	233 247 1032	甕	暗茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		15	31 24	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		16	272 433 1003 1005 1008	甕	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		17	383 1001 1002	甕	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		18	1057	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
33		19	163 165	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		20	1007	甕	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		21	49	甕	暗茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		22	130	甕	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		23	379	甕	茶褐色	淡茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		24	74	甕	茶褐色	茶褐色	ナデ	ハケメ	○	○					
		25	1181 1198	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		26	116 173 294 295 1027 1085 1102 1104 1193	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		27	37 176 447	甕	茶褐色	暗褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		28	305	甕	赤茶褐色	茶褐色	ケズリ後ナデ	ミガキ	○	○					
		29	402	甕	赤茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		30	194 410 1050 1060 1071 1134 1140	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
34		31	290 293 300 322 325	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		32	1046 1145	甕	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		33	81	甕	赤茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		34	384	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		35	259	甕	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		36	1073	甕	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○		
		37	234 1033	甕	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		38	307 329	甕	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		39	406 1136	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		40	1116 1117 1118 1119 1120 1179 1197	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		41	97 98 120	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		42	1214	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		43	153	壷	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	6	44	一括	壷	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		45	182	壷	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		46	1019 1091 1133 1178	壷	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		47	1095 1104 1111	壷	黄茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		48	339 375 418 1132 1185	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		49	393	壺	茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		50	1180	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
35		51	210	鉢	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
		52	286 287	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		53	48 121	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		54	336 340	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		55	2 3	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		56	395 1109 1201	鉢	黒褐色	灰茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		57	1012 1130	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		58	一括	鉢	黒褐色	灰茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		59	1121 1183	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		60	54	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	不明	不明	○	○					
		61	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	不明	不明	○	○					
		62	1155 1191	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		63	314 1190 1565	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○			○		
		64	1081	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		65	1010 1020	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		66	240 312 453 1148 1898	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		67	431	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		68	1068	高坏	赤褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		69	238 245 321	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
36		70	1182	高坏	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		71	1211	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		72	1146	高坏	赤茶褐色	淡桃色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○			○		
		73	1084	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		74	1042 1206	坩	にぶい赤茶褐色	にぶい赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		75	1083 1102 1133	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		76	一括	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		77	47 102	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ミガキ	ナデ	○	○			○	○	
		78	1093 1112 1138	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○					
		79	1082	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		80	1212	手捏	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		81		手捏	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		82	315	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		83	1215	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		84		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		85		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
38	7	1	4 9	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	1	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		3	3	甕	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		4	一括	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		5		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
42	8	1	一括	甕	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		

表40　古墳時代住居内出土遺物観察表(4)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
42	8	2	一括	甕	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		3	4　26	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	9	甕	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		5	一括	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	35	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		7	一括	甕	黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○			
		8	31	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		9	16	甕	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		10	一括	甕	暗茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ナデ	○	○					
43		11	16	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		12	18	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	31　39	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		14	3	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		15	31	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		16	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		17	7	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		18	20	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		19	一括	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		20	一括	高坏	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○	○		
		21	一括	高坏	黄茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		22	20	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		23	6	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ・ナデ	ナデ	○	○					
44		24		高坏	灰茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		25	1　12	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ後ミガキ	○	○					
		26	14	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		27	30　50　52　53	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		28	31	手捏	赤茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		29	32	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		30	5	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
46	9	1	71　91	甕	赤茶褐色	暗褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		2	7　19　25　33 40　44　49　67 89　102　106	甕	にぶい茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
47		3	48	壷	黄茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○	○	
		4	36　37　38　42 54	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		6	41　46　56　57 58　59　60　61 62　63　66　68 69　70　73　76 77　85　93　100 101　102	高坏	赤褐色	明黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		7	16　52　53　64 78　79　81　86 95　103　104　105 106	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		8	72　74　80　82 84　88　92　97 98	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		9	94	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		10	34	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	42	高坏	にぶい赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		12	一括	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		13	5	手捏	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		14	51	手捏	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
50	10	1	36	甕	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		2	一括	甕	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	一括	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	一括	甕	黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		5	一括	甕	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		6	一括	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○	○	
		7	34	甕	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	一括	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
		9	一括	甕	黒褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		10	39	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○		○	○	○	
		11	一括	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
		12	9	甕	黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	54	甕	黄茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
51		14	21	甕					○	○					
		15	一括	壷	赤茶褐色	赤黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		16	11　13	壷	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
		17	一括	壷	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
52		18	一括	壷	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
		19	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		20	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		21	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		22	一括	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		23	52	鉢	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○				○	
		24	一括	鉢	暗茶褐色	黒褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○		○			
		25	22	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		26	13	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		27	ベルト	高坏	暗茶褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		28	一括	高坏	桃褐色	黄桃褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○	○	○	○		
		29	37	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		30	25	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
		31	一括	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○		○	○		
		32	一括	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		33	65	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ・ナデ	○	○					
		34	一括	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ・ナデ	○	○					
		35	一括	坩	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		36	一括	坩	茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○	○		
		37	一括	坩	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					

表41　古墳時代住居内出土遺物観察表(5)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
52	10	38	一括	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		39	一括	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		40	5	紡錘車	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		41	1　4　10　15　20	須恵器	暗灰紫褐色	暗灰紫褐色	ナデ	ナデ	○						
54	11	1	12	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		2	23	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		3	24	高坏	赤褐色	暗赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
55		4	4　6　7	甕	黒褐色	赤褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
		5	2	甕	黒褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		6	13　14	甕	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	17	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
		8	22	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		9	1	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
		10	8	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		

表42　古墳時代遺構内出土遺物観察表

挿図	遺構名称	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
56	土坑	1	一括	甕	暗褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	一括	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
57	ピット１	1	一括	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		2	一括	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ・ケズリ	○	○					
		3	一括	甕	明黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		4	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		5	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		6	一括	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		7	一括	壷	黒褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○	○	○	
		8	一括	壷？	明黄茶褐色	明黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○	○	○	
58	ピット２	1	一括	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		2	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○		
		3	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○		○	○		

表43　古墳時代遺構内出土石器観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材
11	34	１号住居	石皿	11.5	7.0	5.4	540.0	砂岩
27	59	５号住居	敲石	7.6	5.7	3.8	160.0	砂岩
36	86	６号住居	敲石	16.8	5.3	4.6	520.0	頁岩
	87		敲石	14.2	6.4	4.4	460.0	頁岩
	88		敲石	15.7	4.4	3.1	350.0	頁岩
	89		砥石	15.5	11.7	3.2	870.0	砂岩
	90		砥石	30.9	8.1	8.3	3050.0	砂岩
39	6	７号住居	台石	18.3	15.3	10.0	3220.0	ホルンフェルス
	7		台石	22.6	14.8	8.6	4020.0	ホルンフェルス
44	31	８号住居	砥石	7.4	3.3	3.4	110.0	天草石
	32		砥石	13.8	4.7	3.5	380.0	ホルンフェルス
	33		敲石	11.8	6.8	5.7	630.0	ホルンフェルス
	34		敲石	13.1	6.4	5.0	480.0	ホルンフェルス
47	15	９号住居	敲石？	6.7	4.4	2.0	8.0	ホルンフェルス
53	42	10号住居	台石	21.3	9.6	6.4	2540.0	ホルンフェルス
55	11	11号住居	磨製石鏃未製品	4.6	2.5	0.6	9.6	頁岩
58	1	礫集積	敲石	11.2	7.7	5.3	700.0	ホルンフェルス
	2		敲石	11.9	4.0	3.4	270.0	ホルンフェルス

表44　遺構内出土石製品観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材
27	60	５号住居	管玉	2.1	0.5	0.5	0.7	不明
	61	５号住居	管玉	2.0	0.5	0.5	0.6	緑泥片岩

表45　遺構内出土鉄製品観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	備考
27	62	５号住居	摘鎌	4.0	0.8	0.1	9.7	
44	35	８号住居	不明	2.8	1.6	0.4		
	36		不明	2.2	0.4	0.3		

表46　古墳時代包含層出土遺物観察表(1)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
65	1	甕	H	8	3	−	−	−	−	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	2	甕	S	8	3a	76.334	53.975	2.634	119306	灰黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	3	甕	B	4	3	241.745	90.480	1.565	105318	灰黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	4	甕	U	7	3a'	60.300	69.405	4.766	31652	赤茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	5	甕	P	8	3a'	106.270	50.996	3.230	116549	黒褐色	灰黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
			P	8	3a'	106.393	51.979	3.110	116553											
	6	甕	U	7	3a'	59.929	69.975	4.877	24620	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○	○	
			U	7	3a'	60.669	68.960	5.002	24638											
			U	7	3a'	59.876	69.313	4.992	24721											
			U	7	3a'	59.922	69.386	4.842	24722											
			U	7	3a'	60.046	69.560	4.857	24723											
			U	7	3a'	60.204	69.616	4.857	24724											
			U	7	3a'	60.215	69.480	4.715	26901											
			U	6	−	60.035	70.048	4.750	27005											
			U	6	3a	59.894	70.016	4.829	31589											
			U	6	3a	59.832	70.024	4.775	31590											
			U	7	3a'	60.576	69.426	4.773	31623											
			U	7	3a'	60.541	68.964	4.751	31627											
			U	7	3a'	60.448	68.937	4.795	31628											
			U	7	3a'	60.300	69.405	4.766	31652											
			U	7	3a'	60.325	69.560	4.768	31653											
			U	7	3a'	60.041	69.787	4.728	31655											
			U	7	3a'	60.098	69.510	4.823	31656											
			U	7	3a'	60.151	69.797	4.713	31703											
			U	7	3a'	59.848	69.711	4.750	31705											
			U	7	3a'	59.918	68.872	4.700	31708											
			U	7	3a'	60.017	69.774	4.713	31722											
			U	7	3a'	60.017	69.774	4.713	31722											
66	7	甕	H	6	3	190.238	77.647	0.795	103467	赤茶褐色	赤茶褐色	ヘラナデ後ナデ	ヘラナデ後ナデ	○	○			○		
	8	甕	B	5	3	245.741	89.658	0.560	105950	赤茶褐色	赤茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○					

表47　古墳時代包含層出土遺物観察表(2)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
66	9	甕	U	7	3a'	60.235	68.915	4.665	26906	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			U	7	3a'	60.046	68.884	4.650	26933											
			U	7	3a'	60.102	69.135	4.728	31649											
			U	7	3a'	60.538	69.177	4.751	31700											
	10	甕	K	4	–	–	–	–	–	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	○	○			○		
67	11	甕	S	9	2	75.804	47.434	2.926	115055	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
			S	9	2	76.512	50.742	2.961	115113											
			S	9	3a'	76.466	50.776	2.951	115446											
			S	9	3a	–	–	–	–											
	12	甕	B	5	3	245.677	88.732	0.265	105970	暗茶褐色	暗黄茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○			○		
			B	5	3	245.500	88.834	0.195	106130											
	13	甕	B	5	3	–	–	–	–	黄茶褐色	黄茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○			○		
	14	甕	V	9	3b	47.465	40.416	2.389	129783	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	15	甕	U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○		
			N	8	2	–	–	2.837	111218											
68	16	甕	U	7	3a	54.006	58.842	4.810	66935	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130											
	17	甕	W	9	3a'	32.183	49.887	3.520	124859	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			W	9	2	–	–	–	–											
	18	甕	U	9	3a	50.580	43.279	3.090	125839	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	19	甕	R	9	3a	85.392	48.485	2.513	120847	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	20	甕	R	6	3b	80.527	69.084	4.772	30589	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	21	甕	C	6	3	234.408	72.773	1.590	103754	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			B	5	3	240.198	83.710	1.560	104087											
69	22	甕	U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	23	甕	U	7	3a'	61.571	69.194	2.542	24644	暗茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	7	3a'	61.635	69.579	2.562	24647											
	24	甕	V	7	3a	54.786	59.798	4.955	66930	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			V	7	3a	54.907	59.782	4.970	66955											
	25	甕	U	6	3a'	63.531	74.599	2.402	24854	赤茶褐色	茶褐色	ヘラナデ	ハケメ後ミガキ	○	○					
			U	6	3a'	63.052	74.171	1.790	27032											
	26	甕	S	9	3a	73.158	45.419	2.650	126001	暗灰茶褐色	暗黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	27	甕	R	9	3a'	83.853	47.851	2.880	117770	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			R	9	3a'	83.925	48.637	2.875	117775											
	28	甕	B	4	3	246.259	93.816	0.510	105982	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			B	4	3	246.299	94.021	-0.520	106068											
			B	4	3	246.418	94.012	-0.580	106090											
	29	甕	R	7	3a	89.774	64.983	4.953	30742	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			R	7	3a	104.458	88.123	1.480	50412											
	30	甕	T	8	2	60.747	50.728	3.047	114575	暗茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			T	8	2	60.957	50.732	3.039	114576											
	31	甕	U	8	3a'	55.257	58.032	2.480	107126	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	32	甕	S	9	3a	71.790	44.171	2.563	126116	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
			S	9	3b	72.251	43.899	2.433	126210											
	33	甕	R	9	3b	82.746	45.925	1.883	126450	黄茶褐色	暗褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	34	甕	V	9	3a'	46.328	48.093	3.970	125029	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
70	35	甕	U	7	3a'	60.126	68.932	4.665	26905	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			U	7	3a'	59.435	67.686	4.783	31638											
			U	7	3a'	58.604	69.166	4.646	31699											
			U	7	3a'	63.162	68.686	2.267	31710											
	36	甕	R	7	3a	87.101	64.875	5.280	25605	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			R	7	3a	91.311	62.978	5.384	28017											
	37	甕	R	5	3a'	88.020	80.392	4.668	31208	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	38	甕	Q	7	3a'	96.562	60.229	2.805	106613	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	39	甕	P	8	3b	101.141	50.657	2.068	119548	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	40	甕	V	8	3a'	40.091	51.641	3.057	125240	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	41	甕	Q	8	3a	99.330	56.495	2.890	118665	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	42	甕	S	8	3a	76.434	53.207	2.680	119307	黄茶褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	43	甕	–	–	–	–	–	–	–	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	44	甕	W	8	3a'	44.529	54.173	3.230	125349	黄茶褐色	暗赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			V	8	3a'	44.429	54.150	3.224	125350											
	45	甕	U	7	3a'	57.865	69.362	4.947	24699	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	7	3a'	57.903	69.470	4.972	24701											
	46	甕	Q	9	2	99.301	41.315	1.462	128641	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		接合
	47	甕	Q	9	2	–	–	–	–	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	48	甕	N	8	3a'	100.367	53.041	2.492	119420	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○	○				
	49	甕	Q	9	3a'	92.079	49.594	3.020	116739	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	50	甕B	Q	8	–	94.023	52.331	2.780	116951	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ	○	○					
			Q	8	3a	93.272	50.790	2.915	116956											
			Q	8	–	94.056	52.242	2.420	118813											
	51	甕B	Q	8	3a	110.565	50.853	3.080	116770	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
	52	甕B	H	3	3b	185.700	102.545	0.158	22042	赤茶褐色	灰褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	53	壺	S	9	3a'	76.742	47.706	2.823	120853	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○			
			S	9	3a	76.879	47.760	2.950	125813											
	54	壺	P	8	3a	103.663	56.896	2.980	116980	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
	55	壺	Q	8	3a	–	–	–	–	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
71	56	壺	O	8	3a'	108.996	51.703	3.160	116579	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			O	8	3a'	109.706	51.777	3.075	116747											
			O	8	3a'	110.415	50.898	3.085	116767											
			O	8	3a'	110.629	50.669	3.130	116773											
			O	8	3a'	110.260	50.419	3.190	116774											
			O	8	3a'	110.440	50.519	2.630	116775											
			O	8	3a'	110.669	50.619	3.245	116777											
			O	8	3a'	110.819	50.654	3.105	116778											
			O	8	3a'	110.889	51.168	3.170	116783											
			O	8	3a	109.492	51.909	2.835	118731											
			O	8	3a	110.338	50.450	2.740	118753											
			O	8	3a'	110.382	50.438	2.740	118822											
			O	8	3a'	–	–	–	–											
	57	壺	O	8	3a	111.132	55.667	2.545	119424	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	58	壺	U	7	3a'	57.191	68.761	5.012	24618	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	59	壺	R	8	3a'	86.317	54.552	2.818	115521	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					

表48　古墳時代包含層出土遺物観察表(3)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
71	60	壺	P	8	3a	109.933	51.211	3.170	116600	黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			P	8	3a	109.859	51.131	3.155	116670											
			O	8	3a	109.991	51.128	3.185	116763											
			P	8	3a	99.642	53.160	2.970	116873											
	61	壺	V	9	3a'	49.340	46.505	3.223	125112	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	62	壺	S	6	3a	74.925	75.288	2.627	25291	白黄茶褐色 マーブル状	白黄茶褐色 マーブル状	ナデ	ナデ	○	○					
			T	7	3a'	74.440	69.237	2.842	27763											
			S	7	3a'	75.626	68.822	2.434	30205											
			U	6	3a	-	-	-	-											
	63	壺	T	7	3a'	73.518	65.177	2.715	28038	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
			S	8	2	71.310	51.963	2.993	114866											
			S	8	2	73.018	51.329	3.080	114879											
			S	8	2	73.160	52.484	3.079	114893											
	64	壺	B	4	3	242.591	92.808	1.605	105316	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○	○				
			B	4	3	243.556	92.402	1.140	105640											
	65	壺	R	7	3a	91.311	62.978	5.384	28017	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
	66	壺	U	6	3b	58.069	70.999	4.250	27057	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
72	67	壺	O	6	3a'	116.452	71.598	5.110	41551	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	68	壺	P	9	3a'	62.735	55.794	1.416	116220	黄茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○	○				
	69	壺	Q	8	3a'	91.855	52.655	2.940	116713	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○	○				
	70	壺	Q	8	3a	93.993	52.188	2.935	116952	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラナデ	ヘラナデ	○	○					
			Q	8	3a	91.218	54.132	2.810	116965											
	71	壺	O	9	2	119.743	42.348	2.539	128625	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
	72	壺	P	8	3a'	106.398	55.214	3.035	116757	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
	73	壺	R	7	3b	93.804	67.924	4.859	30482	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	74	壺	U	9	3a'	58.359	47.953	3.018	120699	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
			U	9	3a'	58.437	47.992	2.962	125729											
	75	壺	S	8	3a'	74.412	57.883	3.456	106171	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
			S	8	3a'	74.626	58.488	3.386	106174											
			S	8	3a'	74.725	58.972	2.665	106638											
	76	鉢	V	8	3a	74.694	58.784	2.510	107037	赤茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
			V	8	3a	74.118	59.312	2.615	107041											
	77	鉢	T	8	3a'	62.040	53.945	3.249	119310	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	78	鉢	S	8	3a'	74.671	56.417	3.486	106156	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	79	鉢	U	8	3b	50.746	53.870	2.951	130396	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	80	鉢	B	5	3	245.348	89.763	0.975	105693	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
	81	鉢	T	9	3a'	60.861	43.053	3.857	125727	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	82	鉢	-	-	3a	84.812	47.616	2.820	118601	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	83	鉢	U	9	3a'	59.056	47.392	2.988	120697	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	84	鉢	S	9	2	76.634	42.215	1.703	127740	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	85	鉢	T	7	3a	69.538	61.097	2.627	24913	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			T	7	3a	69.427	60.993	2.554	24914											
	86	鉢	V	9	4	43.407	55.135	2.173	130684	黒褐色	茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	87	鉢	Q	8	3a'	92.021	52.266	2.910	116711	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
73	88	鉢	N	8	3a	119.943	52.042	2.942	119601	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	89	鉢	V	8	3a'	41.241	51.601	2.961	125260	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	90	鉢	M	4	1	-	-	-	-	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	91	鉢	N	7	2	128.735	61.551	2.804	111169	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
	92	鉢	Q	8	3a'	99.487	53.220	2.980	116872	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○	○		○		
	93	鉢	X	8	3a'	53.861	58.780	2.590	106983	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○			
			X	8	3a'	54.136	58.746	2.610	106984											
	94	鉢	P	9	2	-	-	-	-	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	95	鉢	U	7	3a'	60.032	67.008	4.833	31636	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	96	鉢	R	7	3a'	89.075	69.160	5.346	27808	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	97	鉢	U	8	3a'	51.425	52.306	3.905	125437	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	98	高坏	T	8	3a	67.925	58.203	2.445	106858	黄茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
	99	高坏	W	8	3a'	66.579	58.454	2.457	106131	赤	暗褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					転用の痕跡アリ
			W	8	3a	67.925	58.203	2.445	106858											
			W	8	3a	67.169	58.065	2.480	106860											
	100	高坏	M	5	2	139.984	81.106	8.950	70540	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	101	高坏	V	9	3a'	48.610	47.761	3.192	125086	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
	102	高坏	O	9	2	118.363	42.834	2.529	128626	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
	103	高坏	U	6	3a	58.371	70.936	4.650	25541	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	6	3a'	58.345	70.972	4.852	28082											
			T	9	3a'	60.836	42.751	3.837	125726											
	104	鉢	S	8	3a	72.243	58.433	2.767	106149	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
			S	8	3a	72.276	58.449	2.747	106150											
			S	8	3a	72.125	58.015	3.446	106151											
	105	鉢	S	9	2	78.640	48.773	2.884	115067	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	106	高坏	P	7	3a	100.983	60.208	0.450	106826	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ミガキ	○	○		○			
	107	高坏	X	8	3a'	54.579	59.313	2.630	106973	赤	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ケズリ	○	○					
			X	8	3a'	53.826	58.213	2.655	106999											
	108	高坏	T	8	3a	68.759	54.473	2.789	119263	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	109	高坏	U	8	3a'	81.058	56.309	2.970	106217	暗茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	110	高坏	U	9	3a'	51.995	46.745	4.077	125527	赤	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	111	高坏	T	8	3a	105.765	64.403	-0.965	110263	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	112	高坏	S	9	2	73.395	48.970	2.949	114932	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○					
	113	高坏	S	9	2	70.873	49.170	2.863	115170	赤	赤黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	114	高坏	V	9	3a'	46.024	43.092	3.885	124999	赤	暗黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
			V	9	2	43.093	41.757	2.998	125632											
	115	高坏	O	8	3a'	112.514	56.969	3.046	119880	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	116	高坏	T	9	2	66.223	46.634	2.977	114836	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
73	117	坩	Q	8	3a	99.104	53.238	2.950	116910	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
	118	坩	U	9	3a'	56.850	46.042	3.053	120685	赤茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	119	坩	B	5	3	241.765	81.572	0.150	105980	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	120	坩	Y	9	3a'	20.158	47.827	2.802	127201	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	121	坩	U	7	3a'	58.219	69.264	4.967	24712	赤茶褐色	暗褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	122	坩	U	6	3a'	58.151	70.766	4.360	27008	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○			
			U	6	3b	58.126	70.917	4.255	27058											
	123	坩	V	9	3a'	44.248	47.734	4.070	125022	赤	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
			V	9	3a'	45.004	48.983	3.903	125601											
	124	坩	U	7	3a'	57.997	69.119	5.012	24709	赤	灰褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	125	坩	V	9	3a'	48.329	48.313	3.227	125074	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					

表49　古墳時代包含層出土遺物観察表(4)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
74	126	坩	M		−	139.197	51.202	2.911	119433	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
	127	坩	T		3a′	69.527	67.840	2.780	25009	赤	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	128	坩	T		2	63.223	46.541	3.003	114755	淡茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	129	坩	Y		3a′	15.734	47.239	2.571	132393	淡茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	130	坩	S		3a	76.434	53.207	2.680	119307	暗黄茶褐色	暗褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	131	坩	S		3a′	71.933	59.003	2.772	106144	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○					
			S		3a′	71.998	58.514	2.767	106147											
			S		3a′	71.891	58.366	2.772	106148											
			S		3a′	72.125	58.015	3.446	106151											
			S		3a	72.480	57.629	3.491	106152											
			S		3a′	72.805	57.743	3.466	106153											
			S		3a′	73.643	58.298	3.471	106177											
			S		3a′	73.501	58.391	3.446	106178											
			S		3a′	73.501	58.391	3.446	106178											
			S		3a′	73.410	58.523	2.765	106641											
	132	坩	S		3a	74.154	44.761	2.590	126129	赤	白黄茶褐色	ミガキ	ハケメ	○	○					
	133	坩	U		3a	53.788	57.127	2.381	114436	赤	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○			
	134	皿形	S		3a′	74.750	56.725	2.735	106643	白黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ミガキ	○	○		○			
	135	皿形	U		3a′	88.537	59.787	2.935	106271	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	136	皿形	V		3a′	48.890	44.485	3.239	125139	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	137	皿形	S		3a′	74.118	59.312	2.615	107041	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
			S		3a	74.043	59.365	2.530	107193											
	138	皿形	X		3a′	53.846	58.382	2.590	106997	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ	ナデ	○	○					
			U		3a′	53.690	57.635	2.545	107102											
	139	手捏	U		2	56.445	46.757	2.984	114681	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ	ナデ	○	○					
	140	手捏	C′-C		2	−	−	−	−	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	141	手捏	S		3a′	77.214	72.342	2.722	25263	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	142	手捏	B		2	−	−	−	−	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	143	手捏	R		3a	85.351	48.584	2.492	120846	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	144	手捏	V		3a′	47.183	46.860	4.070	125039	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	145	手捏	S		3a	71.784	63.958	−0.831	127396	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	146	手捏	R		3a	90.739	65.898	5.227	25863	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	147	手捏	X		2	−	−	−	−	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	148	手捏	R		3a′	82.546	48.528	2.800	117764	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○		○			
	149	手捏	P		3a′	104.118	50.011	3.030	116524	暗褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	150	手捏	U		3a′	55.561	45.233	3.159	120681	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	151	手捏	S		2	75.186	48.126	2.937	114952	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	152	手捏	U		3a′	50.317	45.335	0.105	124824	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	153	手捏	R		3b	80.487	50.279	2.729	119532	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	154	手捏	X		−	237.800	91.531	1.775	102674	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
75	155	須恵器	−		−	−	−	−	−	灰褐色	灰褐色									
	156	須恵器	−		−	−	−	−	−	白灰褐色	灰茶褐色									
	157	須恵器	−		−	−	−	−	−	灰褐色	灰紫褐色									
	158	須恵器	−		−	−	−	−	−	灰褐色	灰褐色									
	159	須恵器	−		−	−	−	−	−	灰褐色	灰褐色									

表50　古墳時代包含層出土石製品観察表

挿図	番号	種類	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
27	60	勾玉	2.5	0.9	0.5	2.74	頁岩	
	61	勾玉	0.9	0.4	0.4	0.37	緑泥片岩	

表51　古代包含層出土遺物観察表

挿図	No.	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
76	1	B-5	－	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部～底部	－	－	－	明赤褐	明赤褐	ミガキ	ナデ	赤色土器か。7～8Cか？
	2	B-5	－	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部～底部	－	－	－	黒褐	浅黄	強い横ナデ	－	外面にスス付着
	3	B-6	106738	Ⅱ	土師器	坏	口縁部～底部	6.2	－	－	淡黄	淡黄	－	－	104029, 106739, 106740と接合
	4	S-7	25314	Ⅲa'	土師器	坏	口縁部～底部	－	8	－	淡黄	浅黄	－	－	内面見込みにヘラ書きあり。
	5	H-5	105212	Ⅲ	土師器	坏	底部	－	6.2	－	にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	－
	6	V-8	125346	Ⅱ	黒色土器A類	坏	底部	－	7	－	浅黄橙	浅黄	－	ミガキ	－
	7	A-4	－	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	16	－	7.8	橙	橙	－	－	－
	8	A-3	－	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	－	8.4	－	にぶい橙	にぶい橙	－	－	茶粒混入。土がマーブル状。
	9	B-4	－	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	－	7.2	－	にぶい黄橙	黄橙	－	－	－
	10	A-3	－	Ⅱ	土師器	椀	口縁部	20.4	－	－	浅黄橙	橙	ナデ	ナデ	－
	11	A-6	－	Ⅱ	土師器	坏	口縁部	14.2	－	－	黄灰	にぶい黄橙	－	－	－
	12	K-8	120374	Ⅱ	土師器	坏	口縁部	－	－	－	にぶい黄橙	浅黄	－	－	120375と接合
	13	Q-7	106325	Ⅲa	黒色土器A類	椀	口縁部	18	－	－	灰白	黒	－	－	使用痕で摩滅
	14	B-5	－	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部	17.8	－	－	褐灰	橙	－	－	－
	15	B-6	106731	Ⅱ	黒色土器A類	椀	口縁部	－	－	－	にぶい黄橙	黒	強い横ナデ	ミガキ, ナデ	106758, 106734, 106733と接合
	16	V-9	125153	Ⅲa'	土師器	坏	底部	－	7.6	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	－
	17	Q-7	106349	Ⅲa'	黒色土器A類	椀	底部	－	8.2	－	にぶい黄橙	褐灰	－	ミガキ	－
	18	S-8	106496	Ⅱ	黒色土器A類	椀	底部	－	8.4	－	暗灰黄	黒	強い横ナデ	ミガキ	11C頃か
	19	A-6	－	Ⅱ	土師器	椀	底部	－	9	－	にぶい橙	にぶい黄橙	－	－	－
	20	C-7	－	Ⅴ	土師器	椀	底部	－	8.2	－	浅黄橙	橙	－	－	やや赤い
	21	P-9	－	Ⅱ	黒色土器A類	椀	底部	－	7.8	－	灰黄	黒	－	ミガキ	11C頃か
79	22	B-6	－	Ⅱ	赤色土器	椀	底部	－	－	－	浅黄橙	橙	－	－	内赤
	23	P-8	106492	Ⅱ	土師器	椀	底部	－	－	－	橙	橙	－	－	－
	24	P-8	116533	Ⅲa'	黒色土器A類	椀	底部	－	－	－	浅黄橙	黒	－	ミガキ	－
	25	T-7	106331	Ⅲa'	黒色土器A類	椀	底部	－	6	－	浅黄橙	黄灰	－	ミガキ	ヘラ切り痕
	26	T-6	31052	Ⅲa'	土師器	椀？鉢？	口縁部	19.6	－	－	浅黄橙	浅黄橙	－	－	－
	27	T-7	25018	Ⅲa	土師器	甕(鉢)	口縁部～胴部	19.8	－	－	明黄褐	橙	ハケメ	ケズリ, ナデ	唯一の甕(鉢)
	28	－	－	表	須恵器	甕	口縁部	48.4	－	－	にぶい赤褐	にぶい褐	櫛目文	－	すずり？
	29	G-8	ﾄﾚﾝﾁ2	Ⅲ	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	浅黄	にぶい褐	－	－	転用硯か
	30	A-4	－	Ⅱ	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	灰褐, にぶい褐	にぶい褐	－	－	－
	31	N-5	60338	Ⅱ	須恵器	甕・壺	胴部(肩部)	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	32	S-7	25312	Ⅲa'	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	黄灰	灰黄褐	－	－	－
	33	S-9	127404	Ⅱ	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	灰	灰黄褐	－	－	－
	34	N-7	111236	Ⅱ	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	にぶい褐	灰黄褐	格子目タタキ	同心円タタキ	焼きひずみ。111239と接合
	35	A-7	－	Ⅱ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰黄	ハケメ	同心円当て具	－
	36	B-4	－	Ⅱ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	同心円タタキ	－
	37	N-9	－	Ⅲb	須恵器	甕	胴部	－	－	－	暗灰黄	灰黄褐	平行タタキ	同心円当て具	－
	38	S-8	115421	Ⅲa'	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰褐	黄灰	－	－	－
	39	S-7	25319	Ⅲa'	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰	灰黄褐	下部は横方向のタタキ, 上部は放射状のタタキ	同心円当て具	25322と接合
	40	T-9	－	Ⅲa'	須恵器	甕	胴部	－	－	－	浅黄	にぶい黄橙	格子目タタキ	ケズリ, ナデ	－
	41	V-9	114655	Ⅱ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	－	暗灰黄	平行タタキ	同心円当て具	14684と接合
	42	K-4	－	Ⅱa	須恵器		胴部	－	－	－	灰	褐灰	－	－	－
	43	E-5	103959	Ⅲ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	にぶい褐	灰黄	平行タタキ	同心円タタキ, ケズリ, ハケメ	－
	44	B-4	104237	Ⅲ	須恵器	甕		－	－	－	にぶい橙	にぶい黄橙	格子目タタキ	ケズリ, 同心円当て具	－
80	45	T-5	－	表	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰喝	にぶい黄橙	長格子目タタキ	ハケメ？	－
	46	S-7	127856	Ⅱ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰白	にぶい褐	－	－	－
	47	N-7	111241	Ⅱ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄	－	－	－
	48	C-6	104122	Ⅲ	須恵器	甕	胴部	－	－	－	暗灰黄	灰	平行タタキ	－	－
	49	A-4	105724	Ⅲ	須恵器	甕・壺	胴部	－	－	－	浅黄橙	浅黄橙	－	－	－
	50	O-9	128633	Ⅱ	須恵器	椀	底部	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	見込みにヘラケズリ	－	－
	51	C-5	－	Ⅲ	灰釉陶器	小型高台付皿	底部	－	5.4	－	灰	灰	－	－	東海系。10C以降か
	52	IJ-4•5	－	表	須恵器	甕		－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	車輪文タタキ	－
	53	J-4	－	表	須恵器	甕	胴部	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	車輪文タタキ	－
	54	B-4	105314	Ⅲ	須恵器	壺・瓶		12.3	－	28	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	－
	55	B-5	－	Ⅱ	須恵器	壺		－	－	－	灰	灰	－	－	中世の可能性あり
	56	O-8	116779	Ⅲa'	須恵器	壺・瓶	底部	－	8.6	－	にぶい橙	灰オリーブ	－	－	－
	57	J-8	－	表	須恵器	壺・瓶	胴部	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	58	N-7	115549	Ⅱ	須恵器	壺・瓶	底部	－	10.9	－	灰白	にぶい黄橙	ナデ, 上部はタタキ	－	－

表52　中・近世遺構出土遺物観察表(1)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
105	1	P2716	瓦質土器	擂鉢	16.6	－	－	－	浅黄橙	にぶい赤褐	－	－	－
	2	P1316	瓦質土器	擂鉢	－	14.4	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	－	－	－
	3	P1534	肥前(陶器)	皿	15.4	6.8	4.95	－	－	－	－	－	志野唐津。17C初。茶器
	4	P2437	土師器	皿	8	6.8	2.3	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	5	P2729	土師器	皿	－	5.8	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	6	P1100	陶器	大皿	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄褐	－	－	唐津か
109	1	竪穴建物②	土師器	皿	8.2	－	－	－	灰白, にぶい橙	灰白, にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	2		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰, 黄灰	黄灰	－	－	神出・魚住でない
	3		青磁	甕	－	－	－	－	灰	黄灰	－	同心円当て具	古墳時代
	4		須恵器	甕	－	6.2	－	－	ｵﾘｰﾌﾞ黄	黄灰	－	－	古墳時代
112	2	7-1号炉状遺構	青花	椀	－	－	－	－	灰白	－	－	－	小野分類C群
	3		瓦質土器	捏鉢	－	－	－	－	灰	灰	ナデ	ハケメ	－
113	4	9号炉状遺構	青花	椀	12.2	－	－	－	－	－	－	－	小野分類C群
	5	11号炉状遺構	白磁	皿	－	5.2	－	－	－	－	－	－	高台露胎
	6	10号炉状遺構	輸入陶器	盤か鉢	－	9.4	－	－	浅黄	橙	－	－	釉薬は黄褐色
114	7	16-2号炉状遺構	白磁	耳壺	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	8	17号炉状遺構	土師器	坏	－	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	－
119	1	4号土坑墓	土師器	皿	－	9.4	－	－	にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－
	2		土師器	小皿	8.2	4.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	3	12号土坑墓	青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	龍泉窯系・蓮弁文
123	1	t2	備前	擂鉢	－	－	－	－	暗灰黄	暗灰黄	－	－	－
	2		東播磨系須恵器	鉢	－	－	－	－	黄灰	灰	－	－	－
	3	t3	土師器	皿	－	7.2	－	－	浅黄橙	浅黄橙, にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り
126	1	大型土坑①	青花	大皿	－	－	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	2		青磁	椀	－	4	－	－	－	－	－	－	「冬至」か？国産
	3		青花	皿	－	5.6	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	4		白磁	椀	－	4.6	－	－	灰黄	灰白	－	－	－
	5		土師器	坏	－	9.4	－	－	にぶい黄橙	灰白	ナデ	ナデ	削り出し高台。筑後タイプ。8～9C初
	6		青花	大皿	－	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯。16～17C

表53　中・近世遺構出土遺物観察表(2)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
126	7	大型土坑①	白磁	皿	9.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	8		青磁	皿	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	9		青磁	皿	9.4	3.6	2	－	－	－	－	－	－
	10		青磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	－
	11		青磁	皿	12	－	－	－	－	－	－	－	14C。連弁か
	12		青磁	皿	－	6.4	－	－	－	－	－	－	－
	13		輸入陶器	壺か	－	7.6	－	－	にぶい黄褐	にぶい橙	－	－	華南
	14		肥前(陶器)	皿	－	4.8	－	－	－	－	－	－	－
	15		瓦質土器	羽釜	－	－	－	20.6	灰	黄灰	－	－	－
	16		瓦質土器	羽釜	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	－
	17		薩摩	甕	－	－	－	－	灰黄褐	灰黄褐	－	－	貝目。堂平Ⅱ
	18		薩摩	片口	－	－	－	－	灰黄褐	黒褐	－	－	堂平Ⅱ
	19		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰,灰白	灰	－	－	－
	20		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰白	灰白	－	－	－
	21		東播磨系須恵器	片口鉢	23.2	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	22		須恵器	壺・瓶	－	13.4	－	－	にぶい橙	灰黄	タタキ	－	車輪文。古代
	23		輸入陶器	盤・鉢	24.6	－	－	－	浅黄,にぶい赤褐	浅黄	－	－	福建・広東
127	26	大型土坑②	薩摩	擂鉢	24	－	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	27		瓦質土器	擂鉢	12.2	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	－
	28		瓦質土器	擂鉢	29.7	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	－
	29		東播磨系須恵器	片口鉢	31	－	－	－	黒,灰	灰黄	－	－	神出・魚住でない。マーブル胎土
	30		輸入陶器	壺	－	9.4	－	－	淡黄	浅黄	－	－	福建・広東。13C頃（D末～E期）
	31		染付	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	32		青花	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	33		瓦質土器	坏か？	10	－	－	－	黄灰	黄灰	－	－	－
	34		瓦質土器	羽釜	－	－	－	－	灰白	黒	－	－	ススト付着
	35		土師器	三足皿	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	36		土師器	皿	8.4	－	2.1	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	37		青磁	盤	25	－	－	－	－	－	－	－	－
	38		青磁	椀	16	－	4.5	－	－	－	－	－	－
	39		青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	雷文。内面文様
	40		青磁	皿	10.4	－	2	－	－	－	－	－	－
	41		青磁	坏	9	－	3.1	－	－	－	－	－	－
	42		青磁	皿	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－
	43		青磁	鉢・盤	－	7.6	－	－	－	－	－	－	碁笥底
128	45	大型土坑③	炉壁	－	－	－	－	－	橙	にぶい橙	－	－	－
	46		土師器	皿	12	7.6	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	47		土師器	皿	8.2	－	－	－	にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	48		土師器	皿	7.6	5.4	－	－	浅黄橙	灰白	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	49		土師器	皿	8	6.2	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	ススト付着。糸切り。中世
	50		青磁	椀	－	6.4	－	－	－	－	－	－	－
	51		青花	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	52		青磁	皿	12	－	－	－	－	－	－	－	釉
	53		磁灶窯	盤	－	24.6	－	－	にぶい黄橙	－	－	－	福建・広東
	55	大型土坑④	瓦質土器	擂鉢	－	12	－	－	明黄褐	にぶい黄橙	－	－	－
	56		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰黄	灰黄	－	－	－
	57		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	58		須恵器	壺	－	－	－	－	黄灰	黄灰	タタキ	布巻小石	－
	59		備前	擂鉢	34.4	－	－	－	橙	橙	－	－	－
	60		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	黒,灰	灰	－	－	C3・D類(兵庫津分類)　神出・魚住でない。14C前半。マーブル胎土
	61		フイゴ	羽口	－	－	－	－	灰白,灰黄	にぶい黄橙	－	－	鉄滓付着
	62		フイゴ	羽口	－	－	－	－	にぶい黄橙,灰黄	橙	－	－	鉄滓付着
	63		フイゴ	羽口	－	－	－	－	橙,褐灰	橙	－	－	鉄滓付着
	64		青磁	盤	25.6	－	－	－	－	－	－	－	内面型押し。釉薬：灰オリーブ色
	65		磁灶窯	鉢・盤	－	－	－	－	にぶい褐	灰オリーブ,灰	－	－	口唇部に砂目
	69	大型土坑⑤	土師器	坏	－	－	－	－	にぶい黄橙	灰黄	－	－	－
	70		薩摩	蓋	10.8	9	－	－	－	－	－	－	ツマミあり
	71		薩摩	椀	－	4	－	－	－	－	－	－	龍門司焼。18C以降
	72		肥前(陶器)	椀	12	3.8	4	－	－	－	－	－	高台以外全面施釉。
	73		青花	椀？皿？	－	5.4	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	74		肥前(陶器)	鉢	15.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	75		肥前(陶器)	鉢か椀	－	6	－	－	－	－	－	－	－
	76		白磁	坏	11	6.6	－	－	－	－	－	－	－
	77		青花	皿	10.4	5.2	2.7	－	－	－	－	－	漳州窯。16後～17初
	78		青磁	椀	13.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	79		輸入陶器	壺？鉢？	－	6.4	－	－	にぶい橙	暗灰黄,にぶい褐	－	－	福建・広東
130	80	大型土坑⑤	薩摩	甕	3.2	－	－	－	－	－	－	－	18C以降
	81		薩摩	壺・甕	－	13.8	－	－	灰黄褐	灰白	－	－	堂平Ⅱ。底部貝目
	82		肥前系	天目	11	－	5.8	－	にぶい褐	黒褐	－	－	17C初,焼成不良
	83		薩摩	徳利	6.8	－	－	－	灰オリーブ	灰	－	－	堂平Ⅱ期
	84		薩摩	徳利	－	－	－	12	オリーブ灰	灰	－	－	堂平Ⅱ期
	85		薩摩	徳利	－	8.6	－	－	灰オリーブ	灰オリーブ	－	－	堂平Ⅱ期
	86		瓦質土器	羽釜	13.8	－	－	－	黄灰,	褐灰,黄灰	－	指ナデ	－
	87		瓦質土器	羽釜	15	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	88		瓦質土器	羽釜	－	－	－	22	灰	黒	－	－	イブシ,ススト付着。スタンプ
	89		瓦質土器	羽釜	－	－	－	28	橙	にぶい黄橙	－	指押さえ	－
	90		土師器	ホウロク	－	－	3.4	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・ユビオサエ	ナデ	フライパン形
	91		中世須恵器	甕	－	－	－	40	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	樺万丈か
	92		中世須恵器	甕	－	27.4	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	樺万丈か
	93		備前	擂鉢	26.2	－	－	－	灰赤,明赤褐	明赤褐	－	－	－
	94		備前	擂鉢	30	－	－	－	灰白,明黄褐	橙	－	－	－
	95		須恵器	壺	14.2	－	－	－	にぶい橙	暗灰黄	平行タタキ	同心円当て具	中岳か。古代
131	96	大型土坑⑤	土師器	皿	15.6	10.6	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	97		土師器	皿	13.6	7.4	2.6	－	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	98		須恵器	瓶・壺	－	10.6	－	－	灰白	灰黄	平行タタキ	ナデ	－
	99		肥前(染付)	椀	11.6	4.2	5.7	－	－	－	－	－	伊万里
	100		肥前(染付)	椀	11.7	－	－	－	－	－	－	－	伊万里
	101		肥前(染付)	椀	12	4.6	6	－	－	－	－	－	－
	102		白磁か青磁		－	7.4	－	－	灰	灰	－	－	南宋後半～元
	103		青花	皿	－	4.2	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	104		肥前(陶器)	鉢	16	－	－	－	－	－	－	－	－
	105		フイゴ	羽口	－	－	－	5.8	灰白	にぶい黄橙	－	－	鉄滓付着

表54　中・近世遺構出土遺物観察表（3）

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
132	109	大型土坑⑥	青磁	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	做龍泉・稜花皿。15C後半
	110		青磁	椀	13.2	－	－	－	－	－	－	－	蓮弁文
	111		青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	同安窯
	112		白磁	小壺の蓋	5.2	8	－	－	－	－	－	－	上部のみ施釉
	113		白磁	小皿	－	3.8	－	－	－	－	－	－	森田-D類
	114		青磁	稜花皿	12	8.2	－	－	－	－	－	－	施釉
	115		輸入陶器	把手付き壺	－	－	－	－	黒	灰	－	－	華南か（タイの可能性もあり）
	116		磁灶窯	盤	44.8	－	－	－	オリーブ黄	灰オリーブ	－	－	晋江磁灶窯
	117		輸入陶器	壺	－	4.6	－	－	褐灰	褐灰	－	－	福建・広東
133	118	大型土坑⑥	備前	大甕	－	－	－	－	暗赤灰,にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	119と同一か
	119		備前	大甕	－	33	－	－	暗赤灰,にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	118と同一か
135	120	大型土坑⑦	青磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	無文
	121		青磁	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	施釉
	122		土師器	皿	11.4	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	スス付着。糸切り,中世
	123		土師器	皿	10.6	6.4	2.6	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り,中世
	124		土師器	蓋	12.4	9	1.2	－	にぶい黄橙	にぶい褐	ナデ	ナデ	近世・落とし蓋か
	125		青磁	椀	－	6	－	－	－	－	－	－	見込みにスタンプ
	126		肥前(染付)	皿	－	5.6	－	－	－	－	－	－	－
	127		土師器	坏	－	5.6	－	－	浅黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	ヘラ切り。古代
	128		備前	擂鉢	24.6	－	－	－	灰,暗灰黄	暗灰黄	－	－	粘土の継ぎ目あり
	129		瓦質土器	擂鉢	32.2	14.6	11.6	－	灰,灰黄	灰黄	－	－	－
	130		中世須恵器	甕	－	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ナデ・ケズリ	樽万丈か
	131		備前	甕	－	－	－	－	灰褐	褐灰	－	－	－
	132		瓦質土器	擂鉢	－	13.4	－	－	黄灰	灰	－	－	－
	133		中世須恵器	甕か？	－	－	－	－	灰	灰	－	－	ジグザグタタキ
139	1	土坑A-1	肥前(染付)	椀	14.2	－	－	－	－	－	－	－	－
	2		肥前	皿	14	3.8	－	－	－	－	－	－	－
	3		青磁	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	龍泉窯系
	4		青花	椀	11.1	4.65	3	－	－	－	回転ケズリ	ロクロナデ	漳州窯
	5		肥前(染付)	椀	－	5.1	－	－	－	－	－	－	－
	6		輸入陶器	四耳壺か	－	13.2	－	－	赤灰,橙	赤灰,赤褐	－	－	広東。鉄炉B,鉄溝6と接合。12C（C期）か
	7	土坑A-2	肥前		－	4.2	－	－	－	－	－	－	－
	8		薩摩	蓋	10	7	1.4	－	－	－	－	－	－
	9		青花	椀	－	4.1	－	－	－	－	－	－	漳州窯。「福」
	10	土坑A-3	輸入陶器	天目	12.1	3.85	5.9	－	－	－	－	－	－
	11		肥前	皿	－	4.8	－	－	－	－	－	－	蛇の目釉剥ぎ
	12		肥前	皿	－	5	3.05	－	－	－	－	－	砂目。陶器溝縁皿。1600～1640年代
	13		肥前	皿	－	4.7	3.15	－	－	－	－	－	口禿・蛇の目釉剥ぎ
	14		肥前	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	赤絵
	15		青磁	皿	－	6	－	－	－	－	－	－	碁笥底
	16		青磁	皿	－	7	－	－	－	－	－	－	－
	17		白磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	－
	18		青磁	椀	17.2	－	－	－	－	－	－	－	口縁に凹み。蓮弁文
	19		青花	皿	－	6.3	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	20		土師器	皿	9.2	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	21		肥前	小椀	－	3	－	－	－	－	－	－	1690～1780年代。宣徳年製
	22		青花	椀	－	4.7	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	23		肥前(染付)	椀	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	24	土坑A-4	肥前(染付)	椀	14.4	－	－	－	－	－	－	－	－
141	25	土坑98	肥前(染付)	皿	－	4.8	－	－	－	－	－	－	畳付以外施釉。透明釉
	26		肥前(染付)	椀	－	5	－	－	－	－	－	－	波佐見。全面施釉。1630～1650年か
	27		陶器	片口か？	13.6	－	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	堂平と類似。土が細かいので朝鮮の可能性もあり
	28		肥前(陶器)	小椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	29		肥前(陶器)	椀	10.8	－	－	－	－	－	－	－	外面が二次焼成で赤化
	30		青花	皿	－	7.7	－	－	－	－	－	－	景徳鎮（1620年）
	31		肥前(染付)	大皿	－	9.4	－	－	－	－	－	－	畳付以外施釉。18C・伊万里
	32		肥前(染付)	大皿	－	12.2	－	－	－	－	－	－	施釉。透明釉
	33		青花	皿	16	9.2	3.2	－	－	－	－	－	景徳鎮。畳付以外施釉。透明釉。16C中頃
	34		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰オリーブ	灰	すりめ	－	－
148	36	土坑31	青磁	椀	16.35	5.2	6.5	－	－	－	－	－	Ⅲ'類。蓮弁文。13C 3/4。做竜泉
	37	土坑99	肥前(染付)	椀	13	－	－	－	－	－	－	－	見込圏線
	38	土坑112	白磁	皿か椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	39	土坑56	青花	椀	－	5.6	－	－	－	－	－	－	景徳鎮。「長命富貴」。16C中頃
	40	土坑122	白磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	白磁椀Ⅳ類
	41	土坑99	白磁	皿	－	－	－	－	－	－	－	－	全面施釉
	42	土坑53	土師器	皿	－	8.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	43	土坑35	土師器	皿	－	7.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	44	土坑37	土師器	皿	－	7.6	－	－	にぶい赤褐,褐灰	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	45	土坑37	土師器	皿	9.2	8.8	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	46	P158	輸入陶器	鉢か？	－	－	－	－	灰オリーブ	灰オリーブ,灰褐	－	－	福建・広東
151	1	中世ピット内	肥前(磁器)	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	赤絵
	3	ピット内	青磁	椀	－	5.8	－	－	－	－	－	－	－
	4		肥前(陶器)	鉢	－	－	－	19	－	－	－	－	内径18cm
	5		肥前(陶器)	椀	－	4.9	－	－	－	－	－	－	－
	6	ピット	土師器	坏・皿	13	9.5	3.5	－	橙	橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
152	7	H4-46	土師器	小皿	9.4	7.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	8	M9-74	土師器	小皿	9.2	6.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	ヘラ切り。古代
	9	K9-43	土師器	小皿	8	6.2	1.9	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	10	K9-14	土師器	小皿	－	6.5	1.9	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	11	Q8-52	黒色土器A類	椀	－	8.6	－	－	にぶい黄橙	褐灰	ナデ	ミガキ	古代
	12	M8-43	肥前	皿	13.9	－	－	－	－	－	－	－	全面施釉
	13	J9-19	瓦質土器	擂鉢	－	11.1	－	－	にぶい黄	にぶい黄	－	－	－
	14	M8-11	瓦質土器	羽釜	－	－	－	24.6	にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	－
	15	K9-53	青磁	椀	15.6	－	－	－	－	－	－	－	蓮弁文
	16	K9-110	青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	15C前半・雷文
	17	K9-75	青磁・做龍泉	椀	12.6	－	－	－	－	－	－	－	線蓮弁
	18	M8-43	肥前(磁器)	皿	－	4	－	－	－	－	－	－	赤絵
	19	D3-2	肥前	椀	10	－	－	－	－	－	－	－	初期伊万里
	20	Q9-25	白磁	椀	15.6	－	－	－	－	－	－	－	12～13C。128652と接合。華南地方。白磁椀Ⅳ類

表55　中・近世遺構出土遺物観察表(4)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
152	21	Q9-25	白磁	椀	17	－	－	－	－	－	－	－	白磁椀Ⅳ類
	22	H4-37	輸入陶器	盤	－	－	－	－	－	－	－	－	晋江磁_窯
	23	K9-14	白磁	皿	－	4	－	－	－	－	－	－	割高台。森田-D類・15C
	24	B6-6	青磁	椀	－	9.6	－	－	－	－	－	－	14C前半。内面文様
	25	K9-15	青磁		15.2	－	－	－	－	－	－	－	－
153	1		土師器	坏	15.4	6.4	－	－	浅黄橙	橙	ナデ	ナデ	内面赤色顔料。7～8Cか
	2		土師器	坏	－	8.6	－	－	灰白	灰白	ナデ	ナデ	－
	3		黒色土器A類	椀	－	5.4	－	－	灰黄	黒褐	ナデ	ミガキ	－
	4		土師器	椀	－	8.4	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－
	5		土師器	椀	－	10.2	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－
	6		土師器	皿	－	8.2	－	－	にぶい黄橙	橙	ナデ	ナデ	－
	7		土師器	皿	10.6	7	－	－	灰白	灰黄	ナデ	ナデ	－
	8		土師器	皿	8	6	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	9		土師器	皿	11.4	7	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	10		土師器	皿	－	7	－	－	黒褐	灰褐	ナデ	ナデ	金属が溶けたあと付着。糸切り
	11		土師器	皿	－	8	－	－	暗灰黄	暗灰黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	12		土師器	皿	－	5.8	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	13		土師器	皿	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	14		土師器	皿	16	10.2	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	15		土師器	鉢か	－	7.4	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	中世か近世。糸切り
	16		土師器	坏	－	14	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	－
	17		土師器	坏・鉢	－	13.4	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	－
	18		土師器	蓋	15	17.3	－	－	明黄褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	近世
	19		土師器	蓋	－	－	－	9.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	近世
	20		瓦質土器	脚付鉢	－	11.8	－	－	黄灰	にぶい黄橙	－	－	火舎か
	21		土師器	脚付皿	12	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
154	22		瓦質土器	羽釜	14	－	－	－	灰	灰,灰黄褐	ナデ	ケズリ	33ｃｍ
	23		瓦質土器	羽釜	－	－	－	25	にぶい黄褐	にぶい橙	ナデ	ケズリ	－
	24		瓦質土器	羽釜	－	－	－	27.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・指痕	ケズリ	－
	25		瓦質土器	羽釜	－	－	－	23.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ケズリ	－
	26		土師器	坏	22.4	17.6	－	－	灰黄	浅黄	ナデ	ナデ	糸切り
	27		土師器	こしきか	－	－	－	－	にぶい橙	灰黄	ナデ	ナデ	－
	28		土師器	ホウロク	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	29		土師器	ホウロク	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	30		土師器	ホウロク	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	スス付着
155	31		薩摩	甕	24.6	－	－	－	褐	にぶい赤褐	－	－	堂平Ⅰか朝鮮
	32		薩摩	甕	26	－	－	－	褐	にぶい赤褐	－	－	堂平Ⅰか朝鮮
	33		薩摩	甕	43.8	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	34		薩摩	甕	35	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	35		薩摩	甕	38	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	36		薩摩	甕	30	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	37		薩摩	甕	37	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	38		薩摩	甕	34	－	－	－	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	－	－	堂平Ⅰb～Ⅱ期
	39		薩摩	甕	35	－	－	－	暗灰黄	灰	－	－	18C
	40		薩摩	甕	35	－	－	－	黒褐	灰オリーブ	－	－	18C
156	41		薩摩	甕	31	－	－	－	灰褐	黄灰	－	－	18C
	42		薩摩	甕	34	－	－	－	－	－	－	－	18C
	43		薩摩	甕	31	－	－	－	－	－	－	－	18C以降
	44	大溝	薩摩	甕	35	－	－	－	－	－	－	－	18C以降
	45		薩摩	甕	43	－	－	－	灰	灰褐	－	－	18C
	46		薩摩	甕	27.6	－	－	－	－	－	－	－	18C
	47		薩摩	甕	25	－	－	－	－	－	－	－	18C
	48		薩摩	甕	28.6	－	－	－	－	－	－	－	18C
157	49		薩摩	甕・壺	－	18.5	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	50		薩摩	甕・壺	－	18.4	－	－	－	褐灰	－	－	堂平Ⅱ
	51		薩摩	甕・壺	－	14.2	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	52		薩摩	甕・壺	－	9.2	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	53		薩摩	甕・壺	－	10	－	－	暗灰黄	暗灰黄	－	－	堂平Ⅱ
	54		薩摩	甕・壺	－	23	－	－	－	－	－	－	18C
	55		薩摩	甕・壺	－	17.4	－	－	灰黄褐	灰黄	－	－	堂平Ⅱ
	56		薩摩	甕・壺	－	22.6	－	－	灰	灰	－	－	堂平Ⅱ
	57		薩摩	甕・壺	－	18.8	－	－	灰褐	灰黄褐	－	－	堂平Ⅱ
	58		薩摩	甕・壺	－	21	－	－	黄灰	暗灰黄	－	－	18C以降
	59		薩摩	甕・壺	－	13	－	－	にぶい黄	灰黄	－	－	堂平Ⅱ
	60		薩摩	甕・壺	－	20	－	－	オリーブ黒,浅黄	にぶい褐	－	－	18C以降
	61		薩摩	壺	－	－	－	25.8	灰オリーブ	灰オリーブ	－	－	堂平Ⅱ
	62		薩摩	壺	16	－	－	－	照り返し	照り返し	－	－	堂平Ⅱ
	63		薩摩	壺	13	－	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	64		薩摩	壺	－	－	－	19	にぶい黄	灰黄	－	－	堂平Ⅰa・朝鮮か？
	65		薩摩	壺	19	－	－	－	灰黄褐	照り返し	－	－	堂平Ⅱ
	66		薩摩	壺	16	－	－	－	灰	灰オリーブ	－	－	堂平Ⅱ
	67		薩摩	壺	9.6	8.4	15	－	灰オリーブ	灰	－	－	堂平Ⅱ
	68		薩摩	壺	－	17	－	－	灰	灰黄褐	－	－	堂平Ⅱ
	69		薩摩	水注	－	－	－	－	灰	灰	－	－	堂平Ⅰ～Ⅱ
	70		薩摩	片口	25	16	11.2	－	灰褐	黄灰	－	－	堂平Ⅱ
158	71		薩摩	片口	24	－	－	－	灰	灰	－	－	堂平Ⅰaか
	72		薩摩	片口	21	－	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅰaか
	73		薩摩	片口	22	－	－	－	暗灰黄	黄灰	－	－	堂平Ⅱ
	74		薩摩	片口	22	－	－	－	灰オリーブ	黄灰	－	－	堂平Ⅱ
	75		薩摩	蓋	40	－	－	－	灰黄褐	－	－	－	堂平Ⅱ
	76		薩摩	蓋	34	24.4	7	－	灰	黄灰	－	－	堂平Ⅱ
	77		薩摩	蓋	20	17	3.4	－	灰褐	褐灰	－	－	堂平Ⅱ
	78		薩摩	蓋	21	11.4	4.6	－	暗灰黄	暗灰黄	－	－	堂平Ⅱ
	79		薩摩	徳利	6	－	－	－	オリーブ黒	オリーブ黒	－	－	堂平Ⅱ
	80		薩摩	徳利	－	－	－	13	灰白	灰白	－	－	堂平Ⅱ
	81		薩摩	徳利	－	－	－	15	灰オリーブ	灰黄	－	－	堂平Ⅱ
	82		薩摩	サヤ鉢	16	16	－	－	黒褐	にぶい黒褐	－	－	堂平Ⅱ
	83		薩摩	瓶	－	5.4	－	－	褐	暗褐	－	－	18C以降
	84		薩摩	瓶	9	－	－	－	－	－	－	－	18C以降
159	85		薩摩	擂鉢	31.4	－	－	－	にぶい褐	－	－	－	堂平Ⅱ
	86		薩摩	擂鉢	30	－	－	－	にぶい褐	褐灰	－	－	堂平Ⅱ
	87		薩摩	擂鉢	22.8	9	8	－	黒褐	黒褐	－	－	堂平Ⅱ
	88		薩摩	擂鉢	38	－	－	－	にぶい褐,灰黄	灰黄	－	－	堂平Ⅱ

表56　中・近世遺構出土遺物観察表(5)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	備考
159	89	大溝	薩摩	擂鉢	37.4	－	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	90		薩摩	擂鉢	－	14	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	堂平Ⅱ
	91		薩摩	擂鉢	－	15	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	92		薩摩	擂鉢	－	－	－	－	－	－	－	－	18C以降
160	93		須恵器	壺	17	－	－	－	にぶい黄褐	にぶい黄褐	－	－	古代
	94		須恵器	壺	－	－	－	18	褐灰	にぶい黄橙	－	－	古代
	95		須恵器	壺	18.2	－	－	－	黒褐	灰黄褐	－	－	古代
	96		須恵器	壺	15.6	－	－	－	にぶい褐	にぶい黄橙	－	－	古代
	97		須恵器	壺	－	－	－	11	灰黄褐	灰黄褐	－	－	古代
	98		須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい赤褐	褐	－	－	古代
	99		須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい赤褐	灰	－	－	古代
	100		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	褐灰,黄灰	灰黄	－	－	古代
	101		須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	－	－	古代
	102		須恵器	甕	－	－	－	－	灰	黄灰	－	－	古代
	103		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	緑灰	褐灰	－	－	古代
	104		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	105		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	暗灰	褐灰	ヘラケズリ,ナデ	同心円状の当て具痕	古墳時代の可能性あり
	106		須恵器	壺	－	6	－	－	にぶい赤褐	灰	－	－	古代・水滴か
	107		須恵器	壺	－	5.8	－	－	灰	灰オリーブ	－	－	古代・水滴か
	108		灰釉陶器	壺	6.2	－	－	－	－	－	－	－	東海系。古代
	109		須恵器	壺	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	－	－	古代
	110		須恵器	蓋	5.6	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	111		須恵器	皿	11	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	112		緑釉陶器	水注の把手か	－	－	－	－	灰白	－	－	－	京都か防長産。10C頃
	113		中世須恵器	甕	42	－	－	－	灰黄	黄灰	ハケメ	ハケメ	中世
	114		中世須恵器	甕	17.8	－	－	－	灰白	黄灰	格子目タタキ	ナデ	中世・樺万丈か
	115		中世須恵器	甕	31.8	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	中世・樺万丈か
	116		中世須恵器	甕	－	－	－	14	灰	灰	格子状タタキ,ナデ	平行タタキ後ナデ	中世・樺万丈か
161	117		中世須恵器	甕	33	－	－	－	灰	灰	矢羽状タタキ	－	溝21と接合。中世
	118		中世須恵器	甕	18.8	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	－	中世
	119		中世須恵器	甕	－	－	－	－	黒	灰	格子状タタキ	－	中世
	120		東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい橙	格子目タタキ	ナデ	神出・魚住でない。14Cか
	121		東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	格子状タタキ,綾杉状の矢羽	マメツ,ハケメ	神出・魚住でない。14Cか
	122		中世須恵器	甕	－	－	－	－	灰	黄灰	格子目タタキ	－	中世・樺万丈か
	123		須恵器	甕か壺	－	－	－	－	黄灰	灰白	底部近くに格子目タタキ	ナデ	中世
	124		須恵器	甕	－	35.8	－	－	灰	灰	正格子状タタキ	ハケメ	礫集と接合。中世
	125		須恵器	甕	－	25.8	－	－	灰	灰	－	－	溝22と接合
	126		東播磨系須恵器	片口鉢	27.2	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない。14Cか
	127		東播磨系須恵器	片口鉢	－	11.5	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない。14Cか
	128		東播磨系須恵器	片口鉢	－	8.8	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない。14Cか
	129		瓦質土器	擂鉢	25.4	－	－	－	黄灰	灰	－	－	－
	130		瓦質土器	擂鉢	－	11.2	－	－	灰黄	灰黄褐	－	－	－
	131		瓦質土器	擂鉢	17	－	－	－	灰白	灰	－	－	－
162	132		瓦質土器	擂鉢	33	17	13.4	－	灰	灰	－	－	－
	133		瓦質土器	擂鉢	－	11	－	－	灰黄	灰黄	－	－	－
	134		瓦質土器	擂鉢	29.6	13.7	－	－	灰黄	にぶい黄橙	－	－	－
	135		瓦質土器	擂鉢	15.4	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	136		瓦質土器	擂鉢	30	13.8	11.6	－	灰白	灰白	－	－	－
	137		瓦質土器	擂鉢	－	11.8	－	－	灰白	灰白	－	－	－
	138		瓦質土器	擂鉢	29.8	13.2	12	－	浅黄	浅黄	－	－	15C中頃か
	139		備前	擂鉢	23	14	11.3	－	にぶい橙	にぶい橙,褐灰	－	－	15C中頃か
163	140		備前	擂鉢	24.4	－	－	－	褐灰,にぶい黄橙	褐灰	－	－	15C中頃か
	141		備前	擂鉢	29	14.6	10	－	にぶい赤褐,暗灰黄	灰	－	－	溝22と接合
	142		備前	擂鉢	23	14	11.3	－	褐灰	褐灰	－	－	15C中頃か
	143		備前	擂鉢	26.2	－	－	－	灰黄褐,暗灰黄	暗灰黄	－	－	15C中頃か
	144		備前	擂鉢	26.8	－	－	－	褐灰,にぶい橙	褐灰	－	－	15C中頃か
	145		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰	－	－	被熱
	146		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰白	－	－	被熱
	147		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰褐	－	－	－	緑青付着。取瓶か
164	148		瓦質土器	火鉢	45	－	－	－	灰白	灰白	－	－	149と同一か
	149		瓦質土器	火鉢	－	－	－	30	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	148と同一か
	150		瓦質土器	火鉢	40	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	－	－	－
	151		瓦質土器	火鉢	37.6	－	－	－	褐灰	褐灰	－	－	－
	152		瓦質土器	火鉢	－	31.6	－	－	灰,にぶい黄褐	灰	横ナデ	－	大溝,SD-1他接合
	153		瓦質土器	火鉢	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい橙	強いナデ,ハケメ	－	－
	154		瓦質土器	火鉢	－	－	－	－	灰	灰黄褐	－	－	－
	155		肥前(陶器)	椀	－	4.9	－	－	－	－	釉	コマメ	砂目皿
	156		肥前	皿	－	4.7	－	－	－	－	釉	コマメ	砂目皿
	157		陶器	椀	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－
	158		肥前	椀	10.6	5.6	7.6	－	－	－	－	－	京焼風（上質品）。18C
	159		肥前	椀	12	－	－	－	－	－	－	－	－
	160		肥前(唐津)	天目	11.2	－	－	－	－	－	釉	釉	唐津天目
	161		肥前	天目	12.2	3.8	－	－	にぶい褐,黒	黒	－	－	－
	162		肥前	天目	－	4	－	－	－	－	釉	釉	－
	163		肥前	天目	－	4.6	－	－	灰黄褐,灰褐	灰褐	－	－	17C初頭
	164		肥前(唐津)	椀	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	165		肥前(唐津)	小徳利	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－
	166		肥前(唐津)	鉢	－	8.2	－	－	灰褐	黄褐	コマメ	コマメ	1920年代
	167		肥前(陶器)	蓋	8.3	10.2	－	－	－	灰白	釉	－	－
	168		肥前(陶器)	仏飯器	－	4.4	－	－	－	－	釉	釉	－
	169		肥前(陶器)	仏飯器	－	4.4	－	－	灰白	灰白	釉	釉	－
165	170		肥前(染付)	椀	18.2	7.1	8.5	－	－	－	－	－	111029,111030と接合。荒磯文
	171		青花	椀	－	5.9	－	－	－	－	－	－	明末～清初
	172		肥前	椀	13.8	－	－	－	－	－	－	－	くらわんか。17C後半
	173		三島唐津	火入れ	14.4	6.4	6.85	－	－	－	ケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	レンガ色の粘土。18C前半
	174		二彩唐津	大皿？	－	8.9	－	－	－	－	ケズリ、ロクロナデ	ハケメ	土坑A-1と接合。17C後半
	175		陶器(鉄絵)	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	18,19Cか
	176		肥前(染付)	瓶	－	－	－	－	－	－	－	ロクロナデ	－
	177		肥前	皿	－	6.9	－	－	－	－	－	－	－
166	178		肥前	大皿	30	9.5	7.2	－	－	－	－	－	1630～50年代,大平鉢
	179		肥前	皿	13.8	4.6	－	－	褐	褐	－	－	－
	180		肥前	皿	13	4.6	－	－	褐	褐	－	－	－
	181		肥前	皿	11.2	4.2	－	－	－	－	－	－	－

表57　中・近世遺構出土遺物観察表(6)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
167	182		常滑焼	甕	－	－	－	－	－	黄灰	－	－	－
	183		備前	甕	－	－	－	－	－	灰黄褐	－	－	－
	184		常滑焼	大甕	－	－	－	－	褐	灰	－	－	－
	185		肥前(磁器)	小椀	7.2	3	3.9	－	－	－	－	－	－
	186		肥前(染付)	小椀	6	2.4	4.2	－	－	－	－	－	－
	187		肥前(染付)	小椀	5.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	188		肥前(色絵)	椀	－	4.3	－	－	－	－	－	－	色絵。17C
	189		肥前	椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	190		肥前(染付)	皿	13.5	5	3.3	－	－	－	－	－	芙蓉手？肥前。1650∽1670年代
	191		肥前(染付)	椀	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	192		肥前(唐津)	皿	13.8	5	3.1	－	－	－ －	－	－	志野唐津。17C初頭。底に目跡2、高台底面に目跡1
	193		肥前(染付)	椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	194		肥前(染付)	椀	－	5	－	－	－	－	－	－	－
	195		肥前(伊万里)か？	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	初期伊万里？
	196		肥前(染付)	大皿	－	15.4	－	－	－	－	－	－	明末∽清初
	197		青花	皿	15	7.7	3.4	－	－	－	－	－	景徳鎮
	198		青花	皿	－	16	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
168	199		青花	皿	－	6.2	－	－	－	－	－	－	－
	200		青磁	稜花皿	11.8	－	2.4	－	－	－	－	－	施釉
	201		青磁	坏	－	－	－	7	－	－	－	－	稀少品（上物）。F期,坏Ⅲ-1類
	202		青磁	皿	－	5.2	－	－	－	－	－	－	－
	203		青磁	小壺	－	4.6	－	－	－	－	－	－	G期以降
	204		青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	205		青磁	壺	6.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	206		青磁	小皿	8.2	4.2	－	－	－	－	－	－	－
	207		青磁	壺	11.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	208		青磁	壺	7.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	209		青磁	盤	22.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	210		白磁	皿	－	8.2	－	－	－	－	－	－	－
	211		白磁	椀	14.4	－	－	－	－	－	－	－	白磁椀Ⅳ類
	212		陶器	壺	13.6	－	－	－	淡黄	淡黄	－	－	－
	213		青白磁	皿	11.8	－	－	－	－	－	－	－	(C∽)D期
	214		白磁	皿	16	－	－	－	－	－	－	－	福建か？とされる（手塚,亀井氏)。G期
	215		白磁	水注か壺	11.4	－	－	－	－	－	－	－	C∽F期。壺Ⅲ類
	216		白磁	瓶	6	－	－	－	－	－	－	－	－
	217		白磁	皿	11.2	－	3.15	－	－	－	－	－	1120247,111077と接合
	218		白磁	皿	－	10.4	－	－	－	－	－	－	－
	219		白磁	椀	－	6	－	－	－	－	－	－	－
	220		白磁	椀	－	5.2	－	－	－	－	－	－	－
	221		白磁	皿Ⅳ類	－	3	－	－	－	－	－	－	11C後半∽12C前半（C期）
	222		白磁	皿	13.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	223			椀	－	6.2	－	－	－	－	－	－	－
	224		白磁	椀	－	6.8	－	－	－	－	－	－	－
	225	大溝	白磁	椀	－	3.8	－	－	－	－	－	－	森田-D類。森村氏の関江上流域。割高台
	226		白磁	皿	－	5.2	3.05	－	－	－	－	－	14C
	227		白磁	皿	－	4.3	－	－	－	－	－	－	型作り
	228		青磁	稜花皿	－	5.2	－	－	－	－	－	－	16C
169	229		青磁	椀	13.8	5.1	7.75	－	－	－	－	－	線蓮弁
	230		青磁	椀	－	4.6	6.05	－	－	－	－	－	16C初頭。見込みスタンプ
	231		青磁	椀	12	5.8	5.8	－	－	－	－	－	雷文
	232		青磁	椀	－	5.8	－	－	－	－	－	－	重ね焼き痕・見込みスタンプ
	233		青磁	椀	15.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	234		青磁	椀	14.2	5.2	－	－	－	－	－	－	－
	235		青磁	椀	14.4	－	－	－	－	－	－	－	線蓮弁と流雲文
	236		青磁	椀	－	5.8	－	－	－	－	－	－	施釉。
	237		青磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	雷文・画花文
	238		同安窯	椀	－	5.2	－	－	－	－	－	－	12C後半
	239		青磁	椀	－	5.3	－	－	－	－	－	－	外面に蓮弁文、内面に花文
	240		青磁	椀	－	5.5	－	－	－	－	－	－	－
	241		青磁	皿	－	7.2	－	－	－	－	－	－	施釉
170	242		青磁	椀	－	4.8	－	－	－	－	－	－	寿文
	243		青花	皿	12.8	5.2	3.6	－	－	－	回転ケズリ	ロクロナデ	漳州窯(陶胎)
	244		青花	皿	9.8	4.8	2.5	－	－	－	ケズリ(底面)	ロクロナデ	くらわんか。17C後半
	245		青花	皿	9.4	2.3	2.75	－	－	－	－	－	景徳鎮
	246		青花	椀	13	5	4.75	－	－	－	－	－	－
	247		青花	皿	－	4.7	－	－	－	－	－	－	碁笥底高台
	248		青花	椀	11.6	4.2	5.8	－	－	－	－	－	輸入（明末∽清初）
	249		青花	皿	－	3.1	－	－	－	－	回転ケズリ	－	碁笥底高台
	250		青花	椀	－	4.15	－	－	－	－	－	－	景徳鎮(陶胎)
	351		染付	皿	12.5	7	2.9	－	－	－	回転ケズリ	－	－
	252		青花	椀	13.4	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯(陶胎)
	253		青花		－	5	－	－	－	－	－	－	漳州窯
171	263		磁灶窯	壺	7	－	－	－	褐灰,暗灰黄	暗灰黄	－	－	晋江磁_窯
	264		輸入陶器	鉢	34	－	－	－	暗灰黄,にぶい赤褐	灰褐,にぶい黄	－	－	福建・広東製。大型陶器
	265		青磁	壺	25.8	－	－	－	灰オリーブ	にぶい黄橙,にぶい褐	－	－	三耳壺か四耳壺
	266		陶器	壺	－	7.2	－	－	にぶい橙,灰	灰褐	－	－	貝目跡。イモガシラ
	267		輸入陶器	盤・鉢	24	－	－	－	灰,灰褐	灰白,浅黄	－	－	－
	268		磁灶窯	鉢	－	14	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	晋江磁灶窯
	269		輸入陶器	鉢・甕	－	17	－	－	にぶい褐	にぶい褐	－	－	福建・広東
	270		輸入陶器	天目	10.8	3.8	6.1	－	褐,黒褐,灰黄	褐,青黒	－	－	釉を二重がけ。15Cか。禾目天目(倣建窯)
	271		輸入陶器	天目	11.4	－	－	－	赤黒,浅黄	赤黒	－	－	釉を二重がけ。15Cか。禾目天目(倣建窯)
	272		輸入陶器	壺	－	7.4	－	－	灰,浅黄	灰	－	－	福建・広東
	273		輸入陶器	壺	－	7	－	－	－	－	－	－	福建・広東
	274		輸入陶器	壺	－	9.4	－	－	黄褐	にぶい黄	－	－	福建・広東
	275		輸入陶器	甕	52.1	－	－	－	灰褐,暗灰黄	暗灰黄	－	工具によるタタキ痕,同心円のタタキ痕	福建・広東製か
	276		輸入陶器	甕	52	25	－	－	灰黄,灰褐	浅黄	－	－	－
	277		輸入陶器	甕	52	25	－	－	灰黄,灰褐	浅黄	－	－	－

表58　中・近世遺構出土遺物観察表(7)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
171	278	大溝	輸入陶器	甕	－	35	－	－	灰黄	浅黄	－	同心円タタキ痕	福建・広東
	279		輸入陶器	壺(大型)	－	26	－	－	浅黄	淡黄	ケズリ	－	福建・広東
	280												
	281		輸入陶器	壺(大型)	34.2	－	－	－	浅黄	浅黄,灰褐	－	－	福建・広東（タイか？）
	282		輸入陶器	壺	13	－	－	－	黒褐	黒褐	－	同心円タタキ後ナデ	口唇部貝目？薩摩焼の可能性もあり
	283		輸入陶器	壺	13	－	－	－	褐灰	赤灰,にぶい橙	－	－	溝22集石Aと接合
	284		輸入陶器	壺	23.6	－	－	－	褐灰	にぶい赤褐,にぶい橙	－	－	福建・広東
	285		輸入陶器	壺？	54	－	－	－	灰白	灰白	－	－	福建・広東か？
	286		輸入陶器	長胴壺	55	－	－	－	－	－	－	－	ベトナム
	287		輸入陶器	長胴壺	－	－	－	19	－	－	－	－	ベトナム
	288		肥前	大皿	19.3	5.7	5.1	－	－	－	－	－	17C中～後半。二彩手
172	289	大溝石列	肥前	徳利	－	－	－	－	－	－	－	－	17C後半・刷毛目徳利（小志田）
	290		瓦質土器	蓋	－	7	－	－	－	－	－	ハケメ	－
	291		染付	瓶	－	－	－	－	－	－	－	ロクロナデ	－
	292		瓦質土器	擂鉢	25.2	－	－	－	灰黄	黄灰	－	－	－
	293		瓦質土器	擂鉢	28.8	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	294		瓦質土器	甕	29	－	－	－	灰黄	黄灰	－	－	－
	295		瓦質土器	火鉢	32	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	296		瓦質土器	火鉢	31.6	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	－
	297		瓦質土器	火鉢か	31	－	－	－	褐灰	褐灰	－	－	－
	298		瓦質土器	火鉢か	－	24	－	－	褐灰	にぶい橙	－	－	－
173	299		肥前か	椀	16	－	－	－	－	－	－	－	－
	300		青磁	椀	－	2.9	－	－	－	－	－	－	－
	301		青花	椀	－	6.6	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	302		青花	椀	11.5	4.6	5.35	－	－	－	－	－	景徳鎮
	303		白磁	椀	－	6.8	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	304		青花	皿	12.5	7.1	2.7	－	－	－	－	－	景徳鎮
	305		青花	皿	11.2	5.2	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	306		青磁	皿	－	5.8	－	－	－	－	－	－	中国,15C
	307		土師器	ホウロク	6	－	－	－	灰白	灰白	ナデ・ユビオサエ	ナデ・ユビオサエ	フライパン形
	308		瓦質土器	壺？	－	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	309		瓦質土器	壺？	28	－	－	－	灰	灰	－	－	－
175	1	溝内集石1	中世須恵器	甕	33	－	－	－	灰黄	黄灰	ハケメ	－	産地不明
	2		中世須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	－	－	東播磨系か
	3		中世須恵器	甕	－	－	－	－	褐灰	にぶい褐	－	－	－
	4		陶器	擂鉢	－	12	－	－	灰褐	灰黄褐	－	－	備前か？
	5		陶器(常滑)	甕	43	－	－	－	－	－	－	－	－
	6		瓦質土器	擂鉢	30	－	－	－	灰	灰	ハケメ	－	－
	7		中世須恵器	甕	－	－	－	－	黄灰	灰白	－	－	産地不明
	8		土師器	大皿	－	18	－	－	褐灰	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	9		瓦質土器	擂鉢	－	9.6	－	－	灰黄	黄灰	－	－	－
	10		輸入陶器	壺	－	11.4	－	－	黄灰,にぶい橙	にぶい橙,暗灰黄	－	－	華南か？
	11		中世須恵器	甕・壺	－	12	－	－	－	－	ハケメ	－	－
	12		輸入陶器	鉢	－	－	－	－	浅黄	灰褐,浅黄	－	－	－
	14		青磁	椀	－	6	－	－	－	－	－	－	「王福」か
177	1	溝9	染付	椀	10.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	2		肥前(陶器)	大皿	－	13	－	－	－	－	－	－	白木原窯。スタンプ文様。17C中頃
	3		肥前(唐津)	大皿	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	4		白磁	蓋	9	－	－	－	－	－	－	－	国産
	5		白磁	猪口	－	3	－	－	－	－	－	－	国産
	6		青花	皿か	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	7		瓦質土器	火鉢	39.2	－	－	－	灰白	灰白	－	－	－
	8		フイゴ	羽口	－	－	－	－	灰白,褐灰	にぶい橙	－	－	－
	9		薩摩	蓋	－	－	－	－	灰褐	灰黄褐	－	－	貝目,堂平Ⅱ
	10		陶器(常滑)	甕	－	17.4	－	－	にぶい赤褐	ｵﾘｰﾌﾞ黄	－	－	－
	11		土師器	ホウロク	－	－	－	－	浅黄橙	浅黄橙	－	－	－
	12	溝10	薩摩	壺	－	12.8	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	13		須恵器	瓶	－	9.6	－	－	灰黄褐	灰黄	－	－	－
	14		陶器(美濃)	天目	12	－	－	－	にぶい赤褐,黒褐	黒褐,にぶい赤褐	－	－	16C中頃
	15		肥前(赤絵)	椀	－	4.8	－	－	－	－	－	－	色絵(赤絵)
	16		青磁	小椀	9.2	－	－	－	－	－	－	－	－
	17		青磁	皿	－	6.8	－	－	－	－	－	－	－
	18		青花	皿	－	6.4	－	－	－	－	－	－	景徳鎮,玉取獅子。16C中
	19		白磁	椀・皿	－	5	－	－	浅黄橙	浅黄橙	－	－	森田-E類。16C
	20	溝12	土師器	坏	16.4	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	21	溝10	土師器	鉢	－	16.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・横ケズリ	ナデ	やや赤み
	22	構12	青花	椀	12.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	23		青花	椀	13.6	－	－	－	－	－	－	－	－
179	25	溝13	須恵器	甕	－	－	－	－	黄灰	暗灰黄	平行タタキ	同心円当て具	古代
	26		青花	皿	－	2.7	－	－	－	－	－	－	碁笥底。底部釉剥ぎ
	28	溝15	肥前(染付)	椀	11.2	－	－	－	－	－	－	－	大溝北側と接合。「福寿」
	29		肥前(陶器)	皿	－	4.4	－	－	－	－	－	－	内野山
	30		肥前	大皿	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	31		中世須恵器	鉢か？	－	－	－	－	褐灰	にぶい褐	－	－	－
	32		陶器(備前)	擂鉢	－	－	－	－	灰褐,にぶい橙	灰褐	－	－	－
	33		瓦質土器	擂鉢	32	－	－	－	灰白,にぶい橙	灰白	－	－	－
	34		白磁	小皿	－	4.3	1.6	－	－	－	－	－	森田-D類。割高台。森村氏の閩江流域窯
	35		肥前(染付)	椀	－	4.55	－	－	－	－	－	－	「年製」
	36		須恵器	壺？	－	－	－	4.2	にぶい赤褐	灰赤	－	－	長頸の壺？。Ｔ字のヘラ書き
	37		須恵器	甕	－	－	－	－	灰	灰白	格子目タタキ	車輪文	－
	38		東播磨系須恵器	片口鉢	－	7.2	－	－	灰	－	－	－	見込みにガラス質釉付着
	39		青磁	皿	－	6.2	－	－	灰白	－	－	－	中国？花火スタンプ
	40		輸入陶器	壺・甕	－	12	－	－	にぶい赤褐,黒褐	褐灰	－	－	福建・広東
	42		陶器(備前)	壺	16.2	－	－	－	黄灰	黄灰	－	－	－
	43		中世須恵器	甕	33	－	－	－	－	－	－	－	－
	44		中世須恵器	甕	33.2	－	－	－	－	－	－	－	大溝,溝21小集石と接合
180	45	鉄溝16	薩摩	甕	34	－	－	－	黄灰	黄灰	－	－	18C以降。貝目
	46		薩摩	甕	34	－	－	－	黄灰	黄灰	－	－	18C以降。貝目
	47		薩摩	壺・甕	－	18	－	－	黄灰	灰黄	－	－	堂平Ⅱ期
	48		薩摩	擂鉢	－	12	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ期
	49		陶器(備前)	擂鉢	－	－	－	－	灰	黄灰	－	－	－
	50		瓦質土器	羽釜	－	－	－	－	灰黄褐	黄灰	－	－	－

表59　中・近世遺構出土遺物観察表(8)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
180	51	溝16	肥前(磁器)	皿	14	－	－	－	－	－	－	－	－
	52		肥前(陶器)	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	53		肥前(染付)	碗	－	4.35	－	－	－	－	－	－	－
	54		肥前(陶器)	皿	14.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	55		肥前(陶器)	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	－
	56		肥前(陶器)	鉢	11.8	－	－	－	－	－	－	－	－
181	58		青花	皿	13	6.4	－	－	－	－	－	－	見込蛇ノ目釉剥ぎ。16C。漳州窯
	59		青花	皿	10	2.4	2.85	－	－	－	－	－	碁笥底高台・漳州窯
	60		青花	碗	13.2	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	61	溝20	青花	碗	13.3	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	62	溝16	青花	皿	9.2	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	63		白磁	皿	－	4.5	－	－	－	－	－	－	中国製か
	64	溝20	陶器	壺・甕	－	28.4	－	－	浅黄	浅黄	－	－	大型,産地不明
	65	溝16	青磁	壺	－	－	－	－	黒褐	黒褐	－	－	13C頃(D末～E期)
182	66	溝17	青花	皿	12.6	6.4	2.45	－	－	－	－	－	景徳鎮
	67		肥前	鉢	18.9	－	－	－	褐灰	灰黄	－	－	－
	68		青磁	皿	10.2	5.5	2.9	－	－	－	－	－	－
	69		土師器	こしき	－	－	－	－	にぶい橙	－	－	－	－
	70		須恵器	甕	－	－	－	－	ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	－	－	口縁部
	71	溝19	青花	碗	12.8	4.6	4.3	－	－	－	回転ケズリ	－	漳州窯
	72	溝21	土師器	小皿	－	5.4	－	－	浅黄	にぶい黄橙	－	－	糸切り。中世
	74		肥前(陶器)	皿	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	75		陶器(備前)	擂鉢	24.4	13	－	－	灰黄,にぶい褐	暗灰黄	－	－	－
	76		陶器(備前)	鉢	26	－	－	－	灰,灰黄	灰	－	－	－
	77		瓦質土器		21	－	－	－	黄灰	褐灰	－	－	－
	78		瓦質土器	鉢	28.2	－	－	－	灰白	灰白	－	－	筑後国府に同類あり。14C後半
	79		瓦質土器	羽釜	17.4	－	－	－	灰白	灰黄	－	－	－
	80		陶器(常滑)	甕	－	－	－	－	褐	褐灰	－	－	－
	81		中世須恵器	甕	－	－	－	－	黄灰	灰黄	格子目タタキ	ハケメ	－
	82		陶器	鉢	－	17	－	－	黒褐	暗赤褐	－	－	産地不明
183	84	溝22集石A	土師器	小皿	8.4	－	－	－	橙	橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	85		土師器	小皿	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	86		肥前(陶器)	皿	－	4.6	－	－	－	－	－	－	初期伊万里
	87	溝22集石C	肥前(染付)	碗	11.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	88	溝22集石C	青磁	皿	13.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	89		青磁	皿	－	12.6	－	－	－	－	－	－	－
	90		青磁	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	－
	91		青磁	碗	－	5.5	－	－	－	－	－	－	－
	92	溝22集石B	青磁	小碗	12.8	－	－	－	－	－	－	－	14C
	93	溝22集石A	青磁	坏	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	94		輸入陶器	天目	－	－	－	－	－	－	－	－	做建窯
	95		白磁	皿	12.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	96		青磁	花瓶・瓶	－	5	－	－	－	淡黄	－	－	－
	97		青磁	不遊環瓶	－	－	－	－	－	－	－	－	外面のみ全面施釉
	98		磁灶窯	盤	－	22	－	－	にぶい橙	－	－	－	晋江磁灶窯
	99		東播磨系須恵器	片口鉢	27.8	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
	100		中世須恵器	甕	33.8	－	－	－	灰白	灰白	－	－	樽万丈か
	101		瓦質土器	羽釜	16.4	－	－	－	灰	灰白	－	－	指痕あり
	102		須恵器	壺	－	14.4	－	－	灰	灰	－	－	－
	103		陶器(常滑)	甕	－	－	－	－	－	灰褐	－	－	－
	104		瓦質土器	擂鉢	－	10.2	－	－	灰	灰	－	ハケメ	スリ目はない
	105		東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ハケメ	大溝と接合。中世
	106		土師器	ホウロク	－	－	－	－	にぶい黄橙	浅黄橙	－	－	フライパン形
	107		東播磨系須恵器	片口鉢	23.2	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
	108	溝22	白磁	碗	－	5.6	－	－	－	－	－	－	森田-E類・16C
	109	溝22集石A	中世須恵器	甕	－	－	－	－	灰	灰	山形タタキ	－	山形タタキ
184	110	溝23	青磁	碗	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	111		青磁	碗	－	7.2	－	－	－	－	－	－	施釉
	112		青磁	皿	－	8	－	－	－	－	－	－	－
	113	溝24	肥前(唐津)	皿	13.2	4.85	3.8	－	灰白	灰白	－	－	唐津・皮鯨。17C初
	114		青花	皿	13.8	4.7	3.6	－	－	－	－	－	景徳鎮。碁笥底高台
	115		青花	皿	－	4.9	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	116		肥前	猪口	7.6	3	－	－	－	－	－	－	－
	117		肥前	猪口	7.6	3.05	－	－	－	－	－	－	－
	118		白磁	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	119		青花	碗	11.9	－	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	120	溝24集石A	土師器	大皿	26	－	－	－	黒	にぶい橙	ナデ	ナデ	スス付着。糸切り。中世
	121			炉壁	－	－	－	－	にぶい橙	－	－	－	－
	122		須恵器	碗	16.4	6.8	－	－	黄灰	黄灰	－	－	古代か？東播磨系ではない
	123	溝24集石B	東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	黒	灰	－	－	神出・魚住でない
	124		瓦質土器	羽釜	－	－	－	－	浅黄	浅黄	－	－	－
	125		瓦質土器	擂鉢	－	14.8	－	－	灰	灰	－	－	－
	126	溝24	陶器(備前)	擂鉢	34.8	－	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	－	－	－
	127		輸入陶器か	壺	11.8	－	－	－	褐灰	にぶい赤褐	－	－	福建・広東沿岸
	128	溝24集石C	陶器	鉢か	－	9	－	－	にぶい赤褐	灰黄褐	－	－	産地不明
	129		陶器	壺か	－	4.5	－	－	灰黄	褐灰	－	－	産地不明
185	132	溝25	白磁	壺	－	－	－	－	－	－	－	－	D～F期
	133	溝26	肥前(染付)	碗	13.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	134		肥前(染付)	盤	14.2	－	－	－	－	－	－	－	焼成やや不良（還元不良）
	135		肥前	蓋	－	－	－	－	－	－	－	－	16C末～17C前半
	136		肥前(染付)	皿	－	5.3	－	－	－	－	－	－	－
	137		青花	碗	－	3.9	－	－	－	－	－	－	漳州窯(陶胎？)
	138		肥前(染付)	皿	13.2	5.3	3.2	－	－	－	－	－	－
	139		青花	碗？	－	5.4	－	－	－	－	－	－	漳州窯
	140		輸入陶器	壺	11	－	－	－	にぶい褐	にぶい橙	－	－	福建・広東
	141		瓦質土器	羽釜	－	－	－	22	黄灰	暗灰黄	－	－	－
	142		青磁	碗	16	－	－	－	－	－	－	－	－
	143		陶器	擂鉢	－	9.8	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	近世
186	144	溝28	土師器	皿・坏	16.2	－	－	－	灰白	灰白	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	145		土師器	皿・坏	－	9.2	－	－	にぶい黄	にぶい黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	146		土師器	皿・坏	－	7.6	－	－	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	147		土師器	小皿	－	5.4	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	148		肥前(陶器)	大皿	－	7.8	－	－	－	－	－	－	初期伊万里

表60　中・近世遺構出土遺物観察表(9)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
186	149	溝28	肥前	碗	－	5	－	－	－	－	－	－	1690～1780年代
	150		肥前(染付)	碗	－	5.2	－	－	－	－	－	－	－
	151		肥前か		－	5	－	－	－	－	－	－	－
	152		青花	碗	－	5.15	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	153		肥前	天目	－	6	－	－	にぶい赤褐	暗褐	－	－	－
	154		陶器	鉢	－	－	－	－	黒褐	黒褐	－	－	産地不明
	155		青花	皿	9.4	5	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	156		青花	皿	－	2.6	－	－	－	－	－	－	景徳鎮
	157		青磁	盤	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	159		陶器(常滑)	甕	－	－	－	－	－	－	－	－	－
187	162	溝34	土師器	皿	－	11.6	－	－	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	163		土師器	大皿	－	22.6	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	164		土師器	皿	－	4.5	－	－	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	165		土師器	小皿	－	6.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	166		土師器	小皿	6.2	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	167		土師器	皿か	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	168		薩摩	碗	13.4	－	－	－	－	－	－	－	加治木・姶良系。18C以降
	169		薩摩	蓋	5	－	－	－	黒	にぶい橙	－	－	－
	170		肥前	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	171		肥前	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	172		肥前(唐津)	大皿	32	－	－	－	－	－	－	－	三島唐津。18C前半
	173		肥前	皿	14	4.4	3.9	－	－	－	－	－	17C前半
	174		肥前(唐津)	碗	－	5.8	－	－	－	－	－	－	17C初頭
	175		肥前(色絵)	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	色絵(赤絵)
	176		肥前(染付)	碗	－	4.8	－	－	－	－	－	－	－
	177		青磁	碗	17.2	－	－	－	－	－	－	－	外面に雷文
	178		青磁	皿	－	8	－	－	－	－	－	－	碁笥底
	179		輸入陶器	鉢	－	－	－	－	灰白	浅黄	－	－	－
	180		肥前(染付)	皿	13	6	3.1	－	－	－	－	－	－
	181		青花	皿	20.9	－	－	－	－	－	－	－	景徳鎮？
188	182		陶器	擂鉢	－	5.5	－	－	にぶい黄褐	にぶい褐	－	－	近世
	183		輸入陶器	甕	－	－	－	－	にぶい黄	にぶい黄	－	－	産地不明
	184		輸入陶器	四耳壺	－	－	－	－	にぶい黄褐	灰	－	－	晋江磁灶窯。四耳壺
	185		輸入陶器	盤	20.6	－	－	－	黒褐	灰	－	－	福建・広東
	186		中世須恵器	甕	－	24	－	－	灰,灰白	灰	－	－	産地不明
190	1	礫積遺構	土師器	坏	－	－	－	－	にぶい橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	古代・完形
	2		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
192	1	集石③	肥前(伊万里)	皿	22.2	9.1	7	－	－	－	－	－	染付
	2	集石⑥	薩摩	甕	20	－	－	－	－	－	－	－	－
	3		薩摩	甕	15.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	4		薩摩か	甕か	－	19	－	－	黄灰	褐灰	－	－	－
	5		薩摩	甕・壺	－	12	－	－	－	－	－	－	－
	6	集石②	肥前(染付)	碗	11.4	4.9	6.8	－	－	－	－	－	波佐見か？
	7	集石⑥	肥前	碗	11	－	－	－	明褐	明褐	－	－	－
	8	集石⑤	肥前	碗	－	4.2	－	－	灰黄褐	にぶい黄褐	－	－	－
	9		白磁	碗	－	4.8	－	－	－	－	－	－	森田-E類 皿E-2(16C)
	10	溝内集石1	陶器(備前)	擂鉢	29.8	－	－	－	灰	暗灰黄	－	－	粘土紐痕跡
	11	集石②	陶器(備前)	擂鉢	－	－	－	－	灰褐	暗褐	－	－	－
	12	集石④	中世須恵器	甕	30	－	－	－	灰白	灰白	－	－	産地不明
	13	集石②	陶器	甕か	－	－	－	－	褐灰	灰黄褐	－	－	産地不明
193	15	溝内集石1	青花	皿	10.8	5	2.75	－	－	－	回転ケズリ	－	碁笥底高台。漳州窯
	16		肥前	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	17		青磁	皿	－	5.6	－	－	－	－	－	－	花文(スタンプ)
	18		肥前(陶器)	碗	－	4.2	－	－	－	－	－	－	－
	19		磁灶窯	盤	－	－	－	－	灰,暗灰黄	灰オリーブ	－	－	晋江磁灶窯
	20		土師器	皿	－	9.6	－	－	灰	灰	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	21		瓦質土器	甕	18	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	22		瓦質土器	甕・壺？	－	－	－	－	灰,にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	－
194	1	土器埋設遺構	土師器	坏	12	8	3.4	－	淡黄	淡黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	2		土師器	坏	12	－	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
197	1	焼土9	土師器	皿	11.6	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	2	焼土1	土師器	皿	－	10.6	－	－	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	3		土師器	皿	9.7	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	4		土師器	皿	－	11.8	－	－	にぶい黄橙	灰褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
207	1	大溝	青磁	大碗	－	9.0	－	－	－	－	－	－	－
	2		青磁	大碗	－	8.6	－	－	－	－	－	－	－
	3	大型土坑5	肥前(陶器)	擂鉢	－	－	－	－	－	－	ナデ	ナデ	スリメ
	4		肥前(陶器)	蓋	－	3.8	3.6	－	－	－	ナデ	ナデ	糸切り

表61　中・近世遺構出土石製品観察表(1)

挿図	No.	出土区	層位	遺構	種別	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	直径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	重量(g)	備考
198	1	I-7	－	大溝	石製品	茶臼	－	－	－	－	21.8	12	－	1,280	直径21.8cm。上部のみ器高11.3cm。
	2	－	－	溝21西側集石	石製品	茶臼	－	－	－	－	21	－	－	950	直径21cm
	3	M-5	－	溝9	石製品	石臼	－	－	－	－	29.6	7	－	2,050	直径29.6cm
	4	－	－	溝24	石製品	石臼	－	－	－	－	28.6	－	－	720	直径28.6cm
	5	－	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	26	－	－	670	直径26cm
	6	－	－	大型土坑⑤	石製品	茶臼	－	－	－	－	20.4	－	－	100	直径20.4cm
	7	N-8	－	大型土坑③	石製品	茶臼	－	－	－	－	17	－	－	65	直径17cm
	8	OP-4	－	大型土坑⑤	石製品	茶臼	－	－	－	－	42.2	－	－	140	直径42.2cm
	9	－	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	18.2	－	－	490	直径18.2cm
	10	OP-5	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	－	－	－	95	－
	11	I-7	－	大溝	石製品	石鉢	－	－	－	－	32.8	13.5	－	1,440	直径32.8cm
	12	PQ-5	－	大型土坑①	石製品	石鉢	－	－	－	－	27.6	8	－	1,440	直径27.6cm
	13	D-2	－	ピット内	石塔	石臼か？	－	－	－	－	－	8	－	1,800	－
	14	IJ-4・5	－	溝22	石塔	石臼か？	－	－	－	－	－	－	－	5,500	－
	15	I-8	－	大溝	穿孔石製品	－	－	－	－	－	－	－	－	1,200	石塔の可能性あり
	16	－	－	溝24	石塔	五輪塔	－	25	28	17	－	－	－	8,900	地輪の未製品利用か
	17	M-4	－	大型土坑⑥	石塔	五輪塔	－	21	17.5	17	－	－	－	5,100	空風輪

表62　中・近世遺構出土石製品観察表(2)

挿図	No.	出土区	層位	遺構	種別	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	直径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	重量(g)	備考
199	1	－	－	溝24集石A	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	35	－	－	700	タテ耳
	2	T-6	Ⅲa'	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	31.4	580	羽釜
	3	Q-5	－	大型土坑①	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	22.6	－	－	233	羽釜
	4	C-7	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	23	－	－	110	羽釜
	5	Q-5	－	大型土坑①	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	80	羽釜
	6	K-4	Ⅲa	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	80	スス付着,羽釜
	7	A-6	Ⅲ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	65	羽釜
	8	－	－	大型土坑①	滑石製品	バレン状石製品	滑石	5	7.5	1	－	－	－	60	滑石二次加工
	9	A-6	Ⅱ	－	滑石製品	バレン状石製品	滑石	6	8.4	2	－	－	－	100	滑石二次加工
	10	B-4	Ⅰ	－	滑石製品	バレン状石製品	滑石	5.5	7	1	－	－	－	45	滑石二次加工
	11	D-6	－	溝28	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	110	－
	12	A-5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	45	－
	13	Q-9	Ⅲa'	－	滑石製品	重りの錘	滑石	6	4.6	1.95	－	－	－	102	滑石製石鍋転用品・穿孔
	14	FG-3	－	7号土坑墓	滑石製品	石錘	滑石	2.1	1.65	1.35	－	－	－	5	－
	15	B-5	Ⅱ	－	滑石製品	石錘	滑石	3.5	1.8	1.5	－	－	－	15	－
	16	A-6	Ⅰ	－	滑石製品	石錘	滑石	2.4	1.3	0.6	－	－	－	4	－
	17	D-2	Ⅲb	－	滑石製品	石錘	滑石	2.75	1.15	1.15	－	－	－	4	穿孔径0.3～0.4

表63　中・近世遺構出土土製品・石器・ガラス製品観察表

挿図	No.	遺構	種別	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考2
111	1	2号炉状遺構	土製品	土錘	－	4.1	－	－	－	－
123	4	t2	軽石製品	－	軽石	11.9	11	9.6	236.1	石塔か
	5	t1	軽石製品	－	軽石	4.7	3.4	3	9.5	縄文石器
127	54	大型土坑③	石器	打製石斧	頁岩Ⅱ	－	－	－	－	－
128	66		軽石製品	－	軽石	7.40	6.10	1.20	19.90	板状に整形
131	105	大型土坑⑤	土製品	土製品	－	6.4	2	2	－	レンガの可能性あり
136	134	大型土坑①	石器	磨製石斧	頁岩	－	－	－	－	縄文石器
	135		石器	磨製石斧	安山岩	12.30	5.50	3.10	281.40	縄文石器
	136	大型土坑⑥	石器	打製石斧	頁岩Ⅲ	15.20	6.60	2.60	284.00	縄文石器
	137		石器	磨製石斧	頁岩	(12.10)	4.75	3.15	286.00	縄文石器
	138		石器	砥石	砂岩	15	9.5	2.7	520	－
	139		軽石製品	－	軽石	11.1	8.45	6	113.5	植木鉢？
	140		石器	磨製石斧	頁岩Ⅲ	(15.05)	(2.90)	(1.70)	107.10	縄文石器
	141	大型土坑⑦	石器	磨製石斧	頁岩Ⅲ	10.60	4.60	3.00	246.80	縄文石器
	142		石器	磨製石斧	頁岩	14.50	5.35	2.20	180.20	縄文石器
	143	大型土坑④	軽石製品	－	軽石	4.9	4	2	7.4	－
141	35	土坑98	軽石製品	－	軽石	29	21	6	16.2	－
148	47	土坑63	石器	敲石	砂岩	4.2	2.6	2.2	42	縄文石器
152	26	A'5-9	土製品	土錘	－	4.45	1.05	1	4.3	－
170	254	大溝	土製品	土錘	－	4.3	2.2	2.3	－	－
	255		土製品	土錘	－	4.6	1.25	1.15	4.9	指痕明瞭
	258		石製品	紡錘車		－	－	0.5	22	表面研磨
	261		ガラス製品	ガラス玉		－	－	－	－	－
173	309	大溝石列	石製品	硯	－	－	－	－	－	－
175	13	溝内集石1	石器	打製石斧	頁岩Ⅳ	12.1	5.6	1.3	106.2	縄文石器
	15		石器	礫器	頁岩Ⅱ	3.7	10.2	1.5	85.5	縄文石器
179	41	溝15	石器	砥石	頁岩Ⅴ	(6.40)	3.70	1.05	30.90	－
	44		石器	打製石斧	頁岩Ⅰ	(12.00)	6.55	1.50	132.00	縄文石器
180	57	溝16	軽石製品	－	軽石	3.6	5	1.7	14.6	－
182	73	溝21	石器	磨製石斧	頁岩Ⅱ	9.2	4	2	－	縄文石器
184	130	溝24	石器	砥石	砂岩	10.9	8.6	3.1	420	－
	131		土製品	土錘	－	3.2	1.9	1.9	8.1	－
186	158	溝28	軽石製品	－	軽石	11.7	6.1	4	101.2	－
188	187	溝34	石器	磨石	砂岩	4.8	4.3	2.2	71.2	縄文石器
	188		軽石製品	－	軽石	6.8	3.7	1.4	－	－
192	14	集石2	軽石製品	－	軽石	102	7.8	4.6	109.4	－
193	23	構内集石1	石器	打製石斧	頁岩Ⅲ	10.10	6.05	1.65	84.30	縄文石器
197	5	焼土1	軽石製品	－	軽石	13.70	12.80	8.40	289.00	－
	7		石製品	石錘	滑石	2.20	1.75	1.30	6.00	－

表64　中・近世遺構出土金属製品観察表

挿図	No.	遺構	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
119	4	13号土坑墓	鉄製品	1.9	1.1	0.6	1.1	－
	5			2	0.8	0.6	0.9	－
	6			4	0.9	0.5	1.19	－
	7			4.1	0.9	0.8	2	－
	8			3.5	0.9	0.5	0.93	－
	9			3.7	0.8	0.4	0.86	－
	10			2.9	0.7	0.5	0.89	－
	11			3.2	0.7	0.3	0.91	－
	12			3.1	0.7	0.7	1.1	－
	13			2.7	1	0.6	0.93	－
	14			2.7	0.7	0.6	0.82	－
	15			3.1	0.75	0.9	1.89	－
	16			1.6	0.75	0.5	0.52	－
	17			1.5	1.2	0.35	0.69	－
	18			1.8	1.7	0.5	1.5	－
	19			1.6	1.1	0.4	1.35	－
	20	14号土坑墓		4.3	0.75	0.6	1.65	－
	21			3.7	0.8	0.9	1.75	－
	22			2.4	0.7	0.8	1.09	－
	23			2.4	0.8	0.6	1.18	－
	24	1号土坑墓		12.5	2.3	0.5	19.92	ヘラ,刀部はない
	25	14号土坑墓		2.8	0.8	13	1.57	－
	26			4.1	0.1	0.6	1.55	－

挿図	No.	遺構	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
119	27	18号土坑墓	鉄製品	2.6	2.2	1	13.92	－
126	24	大型土坑①		6.5	1.4	0.7	6.84	－
	25		銅製品	7.3	1	0.65	21.83	銅
127	44	大型土坑②	鉄製品	4.4	3	0.5	6.7	ノミ口式腰刀（短刀）
128	67	大型土坑③		2.1	1.9	0.7	2.27	古銭に通す
131	107	大型土坑⑤		6.8	3.8	0.9	22.58	狩股
	108			8.2	1.4	0.5	10.43	－
148	48	土坑内		3.1	0.8	0.5	－	釘
	2	ピット		12.6	2	0.65	74.73	穿孔
152	27	K8-5		4.3	2.8	0.8	8.38	狩股鏃
	28	M7-29		7.3	1.3	0.6	5.62	刀子
	29	M8-15		2.2	1.9	0.4	1.32	小札
	30	K9-51		2.3	0.5	0.4	2.45	－
	31	M7-36	銅製品	2.3	0.5	0.4	0.51	－
170	256	大溝	鉄製品	3.2	0.3	0.3	0.53	針？
	257		銅製品	6.9	0.35	0.4	2.45	針？
	259		鉄製品	4.3	1.3	0.2	3.33	釘か？
	260		銅製品	－	－	－	－	金箔・飾金具
182	83	溝21	鉄製品	7.3	1.4	0.8	8.8	－
186	160	溝28		2.8	1.2	0.4	7.18	－
	161			9.1	2	0.6	－	穿孔
197	6	焼土1		9.6	1.3	0.6	14.31	－

写真図版


1号住3


1号住9


1号住30


3号住15


4号住9


4号住11

古墳時代住居跡出土土器①


5号住1


5号住21


5号住27


5号住29


5号住38


5号住57

古墳時代住居跡出土土器②


6号住5


6号住26


6号住18


6号住73


6号住89

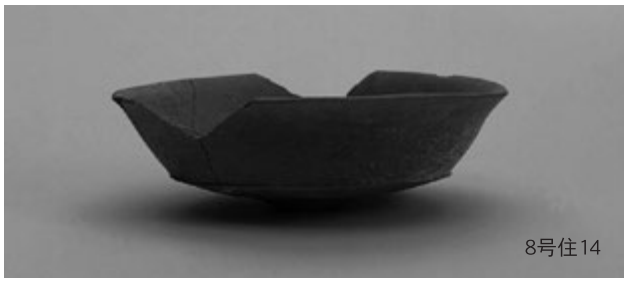

8号住3

古墳時代住居跡出土土器③


8号住6


8号住11


8号住13


8号住14


8号住18


8号住25


8号住30

8号住31

古墳時代住居跡出土土器④


9号住1


9号住2


9号住4


10号住18


10号住23


10号住41

古墳時代住居跡出土土器⑤


11号住1


11号住2


11号住3


P1-2


6


7

古墳時代住居跡出土土器⑥及びその他の土器①

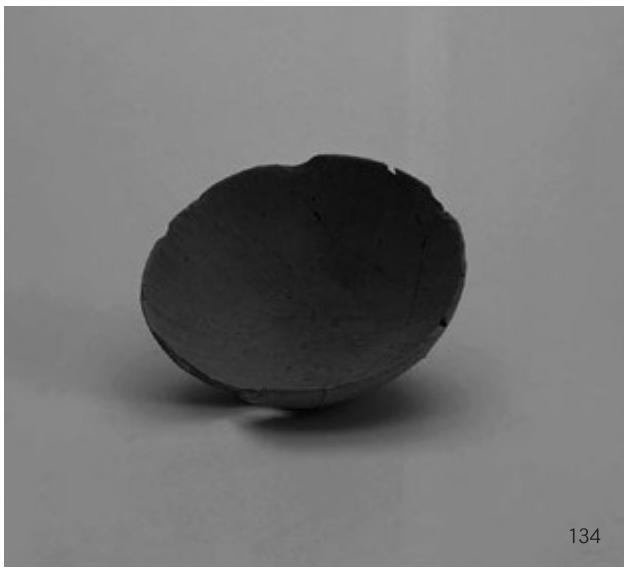

8


12


13

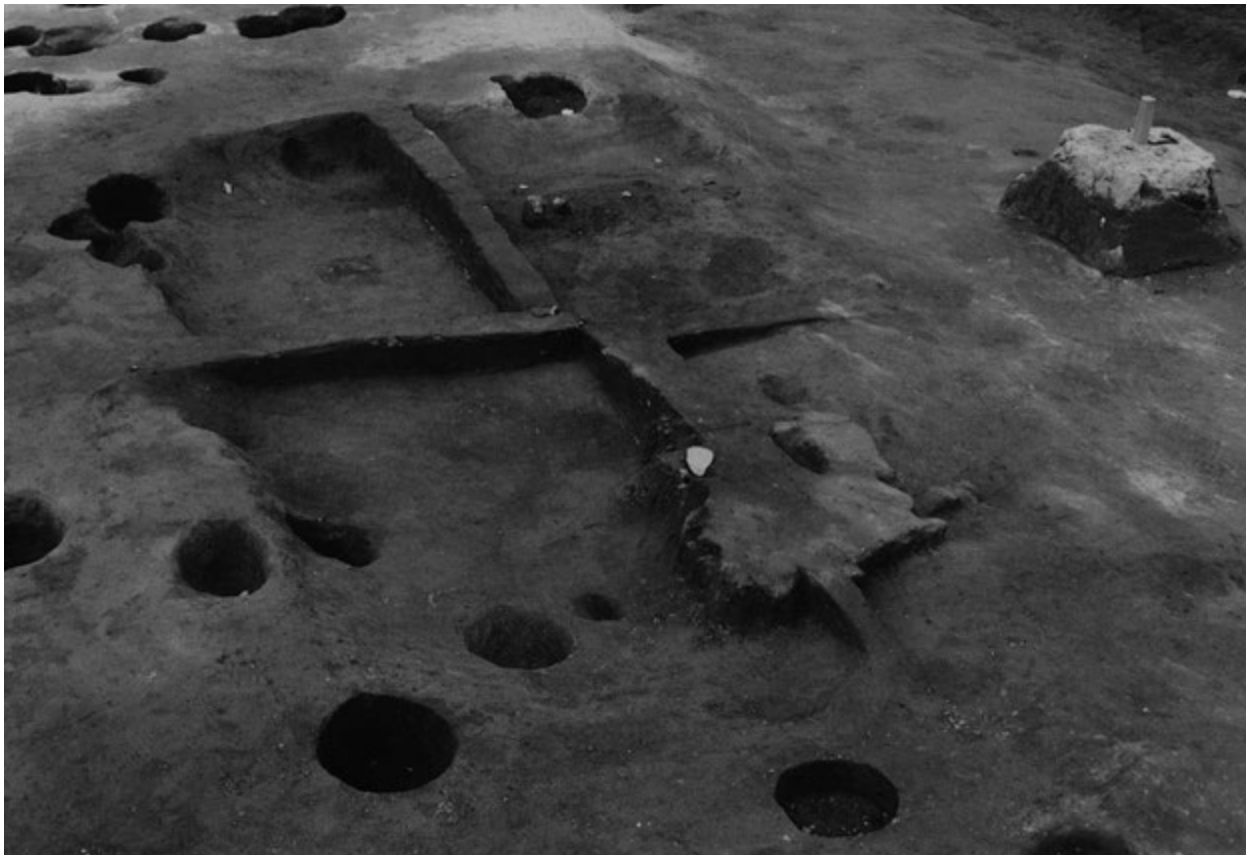

56


76


134

古墳時代のその他の土器②



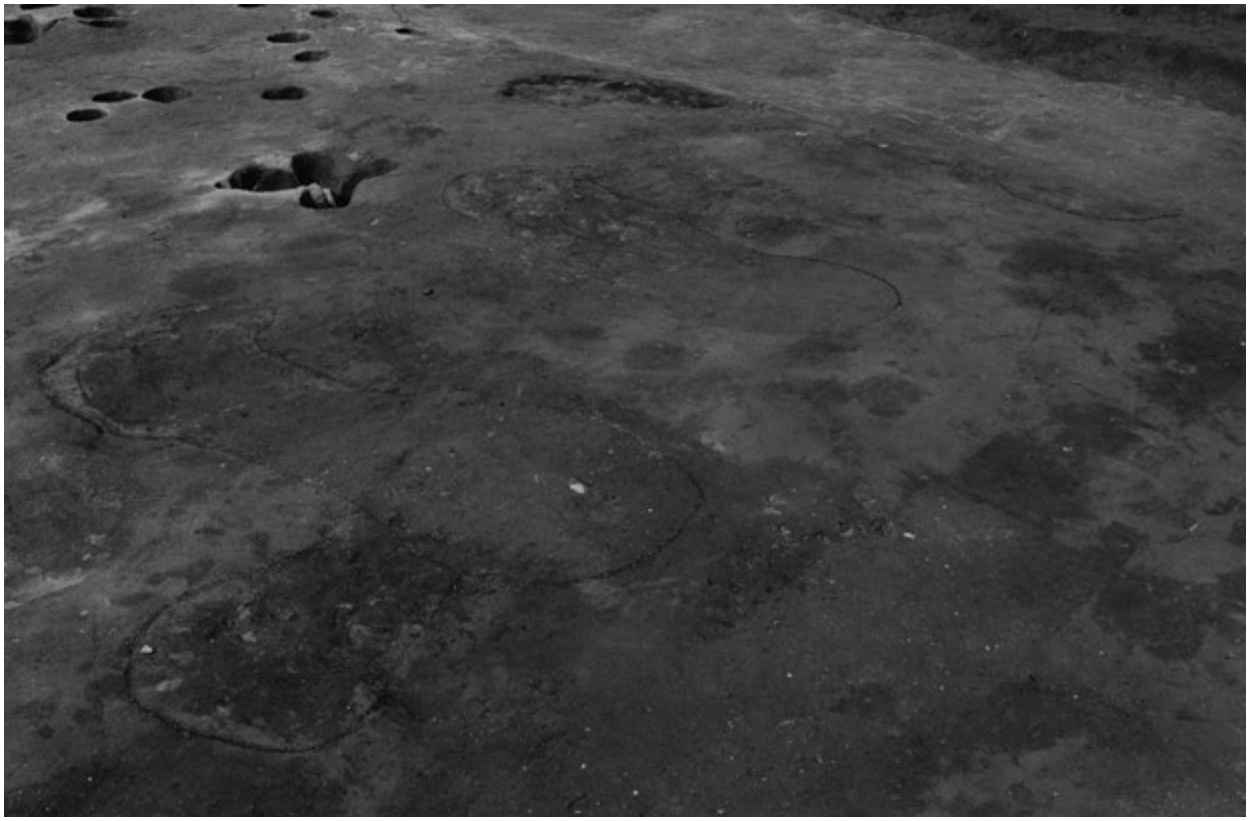


竪穴建物1号検出状況





竪穴建物2号検出状況



左から炉状遺構16号・15号・14号・13号・古道1（南西側からみる）



大型土坑1



大型土坑2

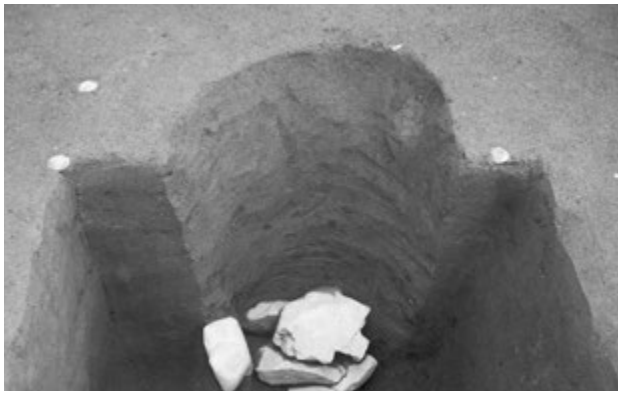


大型土坑3



大型土坑3の階段状部分

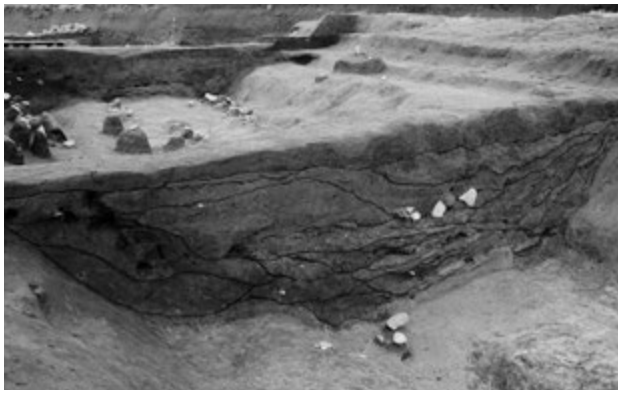
炉状遺構・大型土坑検出状況



ピットM8-2



ピットM8-24



大溝の断面



11号土坑墓



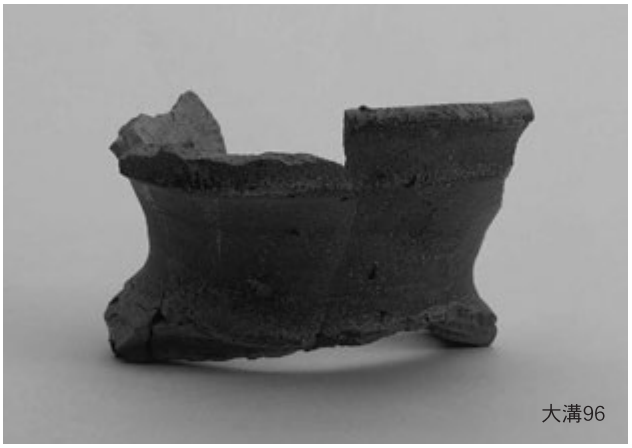
15号土坑墓

ピット・大溝・土坑墓 検出状況

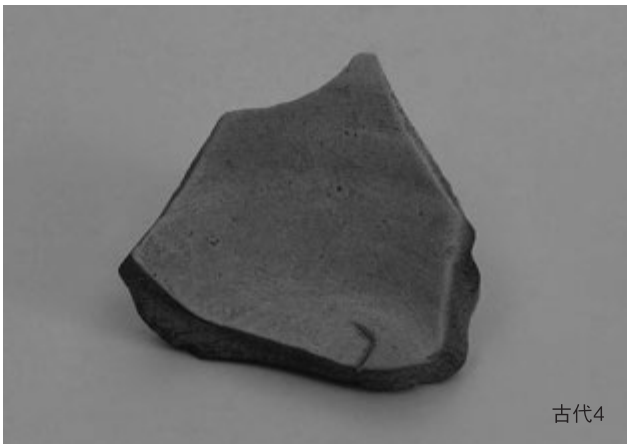

古代2


溝122

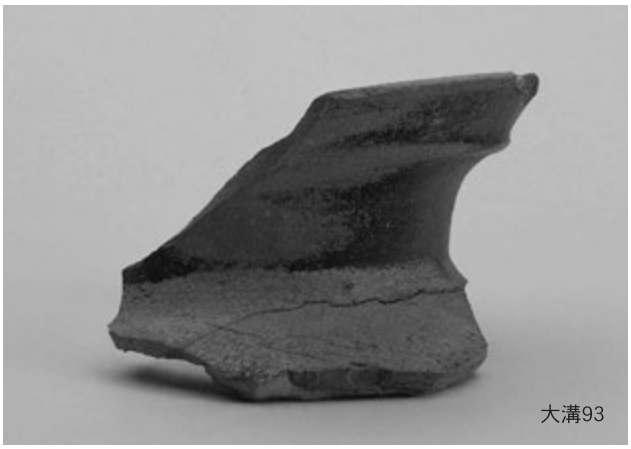

礫積1


大溝96


古代3


古代4

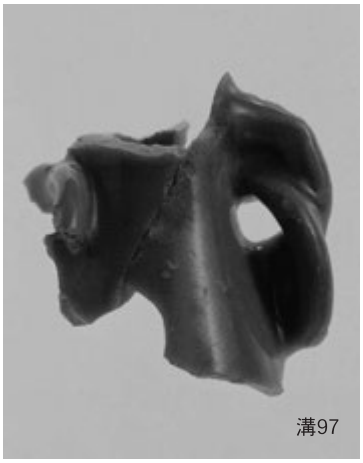

古代9

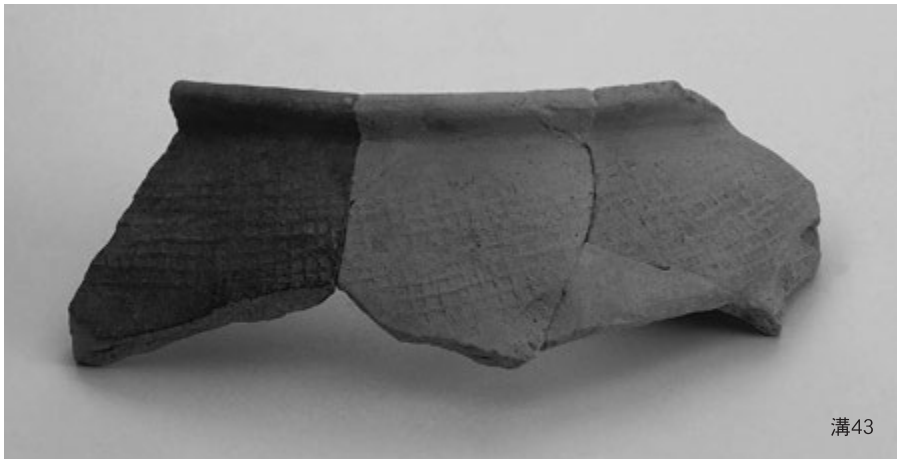

大溝93

古代包含層遺物・中近世遺構内出土遺物①


土師器埋設


大溝229

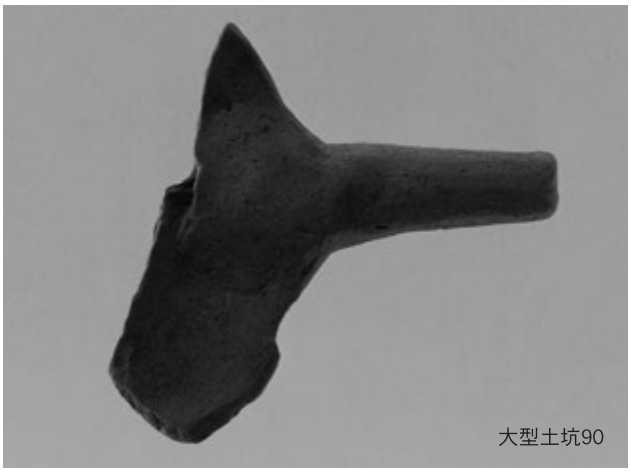

溝97


溝43


溝103


大溝117


大型土坑86


大型土坑90

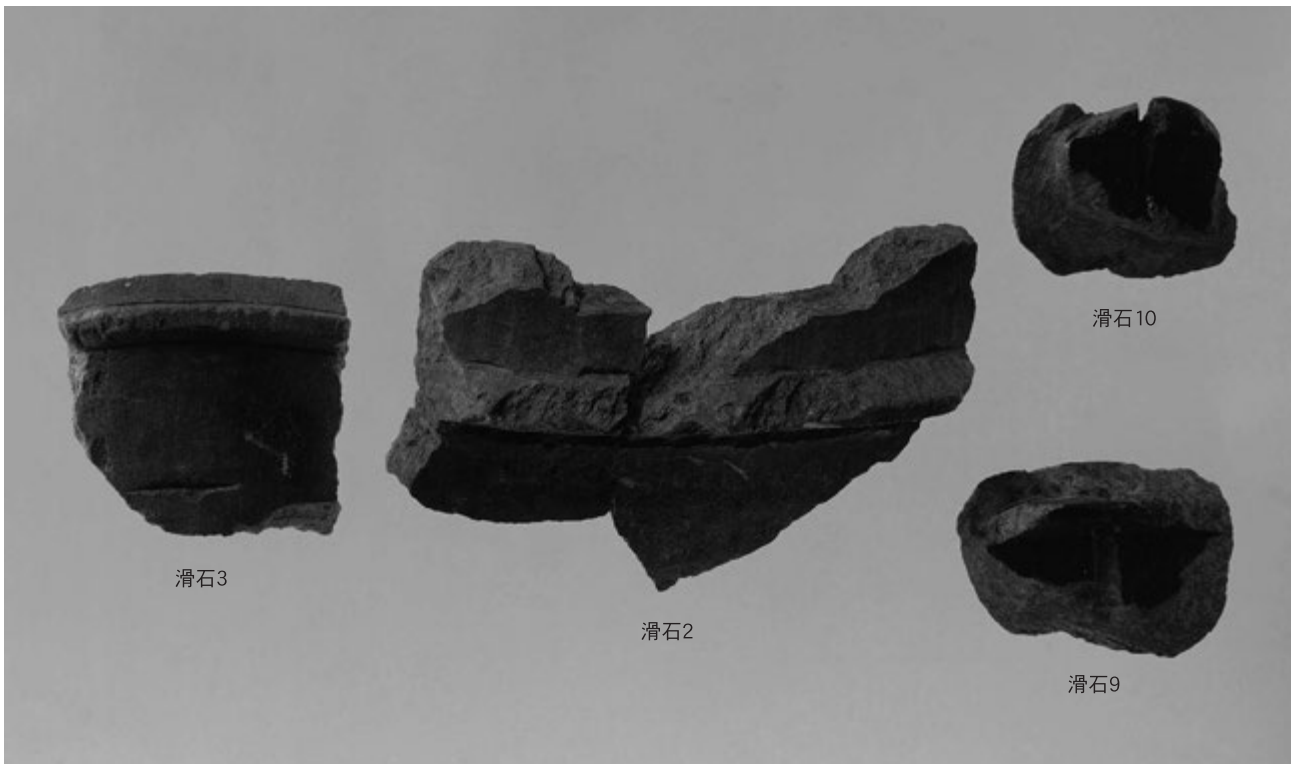
中・近世遺構内出土遺物②


大溝132


大溝141


大溝138


滑石13
滑石1


滑石10
滑石3
滑石2
滑石9

中・近世遺構内出土遺物③


大型土坑119


大溝148


大溝149


大溝308

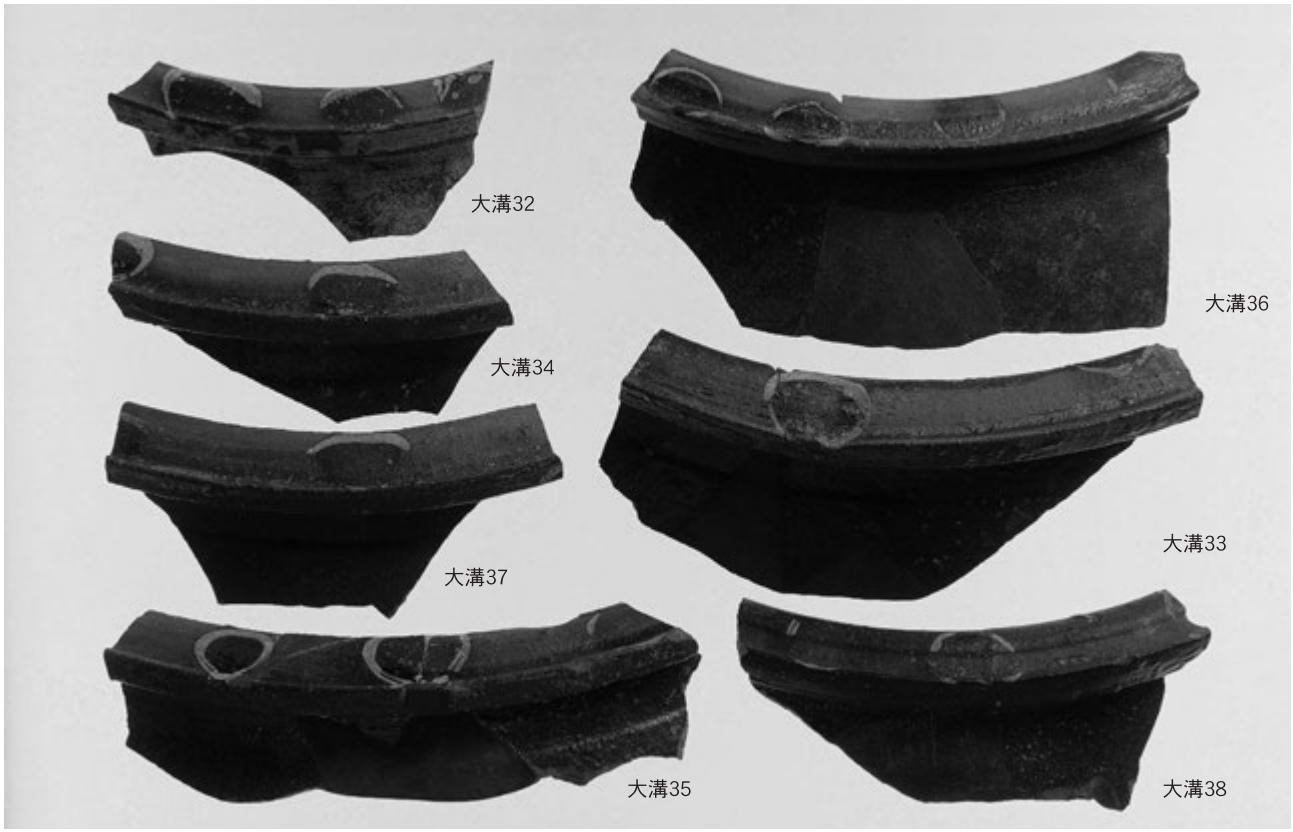

大溝152


土坑6

中・近世遺構内出土遺物④


大溝127


大溝282




大溝63


大溝78


大溝77

中・近世遺構内出土遺物⑤


大溝79


大型土坑85


大溝67


大溝70


大溝82


大溝83


大溝289

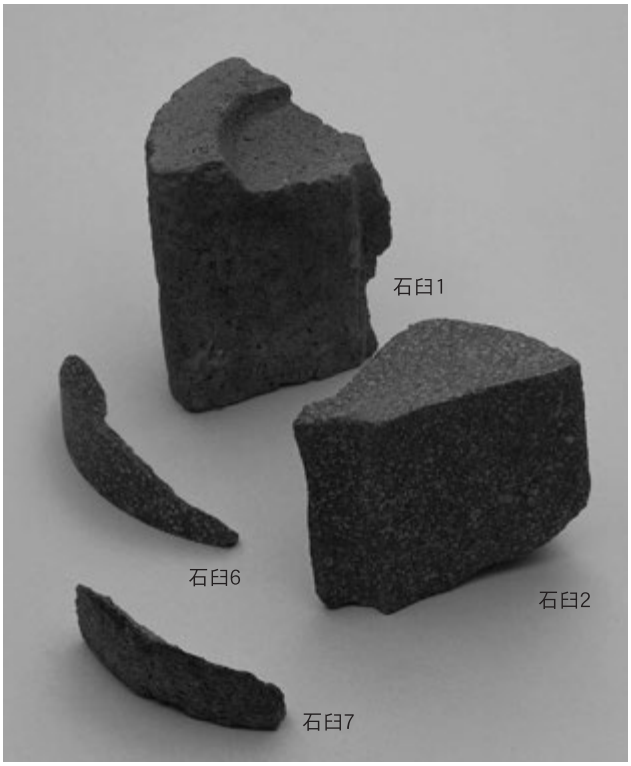

集石6

中・近世遺構内出土遺物⑥


大溝87


土坑墓24


大溝174




大溝288



中・近世遺構内出土遺物⑦・上水流遺跡の整理作業員と担当職員

あとがき

本報告書は古墳時代から近世編についてのものであるが，編集を終えてみて改めてその内容の豊富さに圧倒された。古墳時代と中近世ではともに集落があり，かつ重要な遺構・遺物が確認されている。調査中から「これはすごい」という声が内外から何度も聞こえてはいたが，まさかこのような河川沿いにこれだけの遺構・遺物が存在し，また重要なものがこれほど多く含まれていることなど予想だにしえなかった。

これらの遺構・遺物の中には，適切な評価を与えることができたとは言い難いものもある。この反省は，他の万之瀬川関連遺跡へ生かしていくこととしたい。また，今後も継続的に本遺跡について深めていきたい。　（U）

調査に関わった方々

発掘作業員

阿久根睦美　阿久根香子　鰺坂他賀子　有薗千代子　有村末彦
有元キミエ　安藤つゆ子　池畑眞理子　石原達義　石間伏広志
今村孝蔵　今村延良　今村孝　今村道子　井料満弥　井料信子
井出ヶ原洋子　今門譲　上大田五月子　上薗建蔵　上薗光子
上埜操　内田ノブ子 大山健一 大坪満雄 尾辻ちひろ 栫マリ子
加治屋ミヤ子　片平サクラ　上久保エミ子　神野アキ子
神野勝徳　神野智子 狩集まゆみ 川崎和美 川治国治 川井健次
川村義博　川原テミ 川路ハナ子 川原嘉一 柿園ヨリ子 勝里美
木落よし子　久保田敏子　久保次男　古城政美　古城信雄
小牧繁臣 小森利文 小峯成 五反スミ子 坂上良光　坂下ヨシ子
坂元愛子　坂口スミ子　坂野タヅ子　鮫島文夫　鮫島マリ子
鮫島カツエ　鮫島キミエ　下大薗サキ　下大薗ヒサエ　下薗操
芝原弘光　十田國子　城倉正勝　白間謙章　新徳三郎
清木場ミチ子 下野利男 諏訪薗茂夫 諏訪薗トミエ 諏訪薗幸夫
園田貞子　立石みずき　田添洋子　橘薗隆雄　鶴東イツエ
津原勝久　寺内桃代　寺師マユミ　堂薗アサエ　堂薗萬厘子
年永敦子　年永輝雄　鳥越のり子　田中ヒサエ　中禮アヤ子
中禮四夫　中江イツ子　中島豊文　中山みほ子　中野明浩
中間正信　西前和子　二宮久志　二宮ふみ子　西田ユミ子
野入高美　長谷川すみ子　畠中茂孝　畠中良節　八田久二
原口久治　原口磯子　原口シヅ子　原口マサ子　原口撩子
原園ヒロ子 花牟禮イツ子 花立晃 東福子 日吉昭男 平田和哉
東小薗ヨシ子 平山美恵子 久永マリ子 福島リウ子 福永キヨ子
福永健一　古市昭子　藤田政久　藤田正美　前田トシ子
前田裕見子　前原タマ子　前野政治　松下武見　前田みえ子
牧勝雄　松山影行　前野ヨシ子　南道子　南良子　宮下麻貴子
宮脇イチ子　宮内敏郎　南ヨシ子　南ヨツエ　宮里サツ子
森川伸子　森勉　森田幸子　森田裕一　宿利哲夫　山口正人
山口順子　矢崎則夫　横田利男　吉留美紀子　吉留ミチ子

整理作業員

浅山順子 有川ひとみ 有村貴子 池田真弓 石井涼子 石坂きくえ
市薗厚子　石坂啓子　井出上福代　今村智子　稲留文子
今西ゆかり　植山ひろみ　海老原弘子　大田雅子　大保裕子
大村彌紀　小倉ひろ子　小田原美保　落合由美子　乙幡佳子
柏木節子 柏木和子 柏原千鶴 加藤明子 川野高子 上赤世津子
北道成子　郷田千秋　古賀野美智子　小薗久美子　後藤ひろみ
木島恵美　小中由美子　細田保子　榮素子　迫間洋子　佐土原恵
鮫嶋みどり　重久ひとみ　下入佐正子　新德より子　末川章吾
末川七々恵　末原智子　杉本夏美　瀬戸口俊子　竹ノ内礼子
田中美佐枝　田ノ上輝美　田實美穂　田代留美　立山佳代子
田淵一子 垂門加世 鶴みつ子 寺田美幸 土井明子 中川ヒロミ
中川原聡子　永井絹子　長澤みどり　永田和子　永田ひとみ
長友みゆき　中村敏江　西清子　西浩司　西川明美　西川貴浩
西園礼子　西田のり子　野辺由美子　原田ゆかり　橋口まゆみ
橋口晶子　東国原ゆかり　福園とし子　福留良映　藤田みどり
古里智恵子　別府祐子　松平ひとみ　松下奈津美　松村郁美
真野さゆり　丸山みゆき　宮坂多美子　宮原紀代　毛井恵子
持田好子 森山優子 八ケ代祐子 山下貴子 山元順子 吉岡美喜

なお，上記のほか発掘調査から報告書作成に至るまで以下の多くの方々の御指導・御教示・御協力をいただいた。

赤塚志保　網田龍生　石田和哉　泉拓良　板倉佳代子　岩永勇亮
池田榮史　上田耕　上東克彦　大野薫　岡田章一　甲斐康大
加藤武司　川上岩男　川口雅之　河瀬正利　切通雅子　久保智康
久保弘幸　栗林文夫 黒住耐二 桑波田武志 倉元良文 黒田恭正
児玉健一郎　阪口英毅　相美伊久雄　佐藤亜聖　佐藤真人
新里貴之　新留美香　住田雅和　関一之　高倉洋彰　竹下国光
立神勇志　丹治康明　土橋陽子　鶴田靜彦　樋泉岳二　堂込秀人
徳田有希乃　永濱功治　永山修一　中村直子　西田茂
西園勝彦　新田栄治　野間口勇　橋口拓也　橋口亘
橋本達也　林匡　韓盛旭　東和幸　日高勝博　日高奉文
日高正人　廣栄次　福永修一　福永裕暁　福島吾意子　藤井大祐
藤尾慎一郎 本田道輝 前迫亮一 馬籠亮道 松田朝由 真邊彩
宮下貴浩　宮地聡一郎　村上恭通　桃崎佑輔　森内秀造
八木澤一郎　柳原敏昭　山中一郎　山元宏子　横手浩二郎
吉岡康弘　羅善華　渡辺芳郎　和田るみ子

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（121）
中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅲ）

上水流遺跡２

古墳時代から近世編

発行年月　平成20年3月
発　　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
☎（0995）48-5811
印 刷 所　（株）プリンティング三州
〒892-0871
鹿児島市吉野町5501-4
☎（099）244-3334


鹿児島県